

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第475集

おお し みず かわ
大清水上遺跡発掘調査報告書

胆沢ダム建設事業関連遺跡発掘調査

第1分冊（本文・遺構図版編）

2006

国土交通省東北地方整備局胆沢ダム工事事務所
(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

大清水上遺跡発掘調査報告書

胆沢ダム建設事業関連遺跡発掘調査

第1分冊（本文・遺構図版編）

序

本県には、旧石器時代をはじめとする1万箇所を越す遺跡や貴重な埋蔵文化財が数多く残されています。それらは、地域の風土と歴史が生み出した遺産であり、本県の歴史や文化、伝統を正しく理解するのに欠くことのできない歴史資料です。同時に、それらは県民のみならず国民的財産であり、将来にわたって大切に保存し、活用を図らなければなりません。

一方、豊かな県上づくりには公共事業や社会資本整備が必要ですが、それらの開発にあたっては、環境との調和はもちろんのこと、地中に埋もれ、その土地とともにある埋蔵文化財保護との調和も求められるところ です。

当事業団埋蔵文化財センターは、設立以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、その調査の記録を保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、胆沢ダム建設工事に関連して平成12年度から平成16年度にかけてに発掘調査された胆沢町大清水上遺跡の調査成果をまとめたものです。今回の調査では、縄文時代の大形住居跡をはじめとする各種の遺構が検出され、集落の姿が明らかになるとともに、土器、石器などたくさんの遺物も出土いたしました。当地域における歴史を解明する上で貴重な資料を提供することができたと考えております。本書が広く活用され、埋蔵文化財についての関心や理解につながると同時に、その保護や活用、学術研究、教育活動などに役立てられれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書の作成にあたり、ご理解とご協力をいただきました国土交通省東北地方整備局胆沢ダム工事事務所、胆沢町教育委員会をはじめとする関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

平成18年2月

財団法人 岩手県文化振興事業団
理事長 合 田 武

例 言

- 1 本書は、岩手県胆沢郡胆沢町若柳字慶存ほかに所在する大清水上遺跡の発掘調査成果を収録したものである。
- 2 大清水上遺跡の岩手県遺跡台帳登録番号はNE22-2286、調査略号はOSK-00・OSK-01・OSK-02・OSK-03・OSK-04である。
- 3 本遺跡の発掘調査は、胆沢ダム建設工事に伴い、国土交通省東北地方整備局胆沢ダム工事事務所の委託を受け、財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施した緊急発掘調査である。
- 4 野外調査期間、調査面積、担当者は以下のとおりである。

平成12年7月3日～11月22日	10,630㎡	佐藤淳一・鈴木 聡・工藤 徹・斎藤麻紀子
平成13年8月1日～11月16日	3,000㎡	佐藤淳一・阿部 徹
平成14年4月11日～11月19日	5,000㎡	佐藤淳一・立花 裕
平成15年4月10日～7月31日	11,200㎡	佐藤淳一・水上明博
平成16年9月15日～11月5日	3,000㎡	中村絵美・古田 充

[平成12年度調査面積について]

調査面積について当初予定は4,960㎡であり、隣接する大清水遺跡分14,500㎡とあわせて予定通り野外調査を進めた。ところが、大清水遺跡を東西に横断している町道の下にも遺構が確認されたため、道路分も調査を行うことになり、結局14,790㎡が調査面積となった。野外における実質的な調査期間については、大清水14,790㎡分が4月18日～10月17日、大清水上が9月13日～11月17日までとなり、精査・実測を終了したのち大清水遺跡分の剥ぎ取った町道の復元を行い、野外調査の一切を終了したのが11月22日である。その後、室内に戻り整理作業を開始したところで岩手県教育委員会事務局文化課から遺跡範囲の変更文書が入り（平成12年12月26日付 教文1145号）、隣接する大清水遺跡と本遺跡の遺跡範囲が変更となった。その結果、大清水上遺跡の調査面積は野外調査時における4,960㎡から10,630㎡へと変更になり、大清水遺跡は14,790㎡から9,120㎡へと変更になった。結局、変更となった10,630㎡分の実質的な調査期間（掘掘り・精査・実測等の期間）は7月3日～11月17日までである。

遺構・遺物に関しては、室内に戻ってから整理作業過程において該当遺跡名の変更を行った。

- 5 室内整理期間、担当者は以下のとおりである。

平成12年11月1日～平成13年3月30日	佐藤淳一
平成13年8月1日～平成14年3月31日	佐藤淳一
平成14年11月1日～平成15年3月31日	佐藤淳一・立花 裕
平成15年8月1日～平成16年3月31日	佐藤淳一
平成16年11月1日～平成17年1月31日	中村絵美

[平成16年度遺構・遺物掲載について]

当初、平成15年度以前と平成16年度分を分けて報告書を発行することとしていた。その後、平成16年にこれを一括して報告することに変更となったが、過年度分はすでに本文・図版組が完了した状態であった。そのため、本文・遺構図版など修正可能な部分は過年度分に挿入したが、遺物図版、遺構・遺物写真図版は平成16年度分として別添えとした。

- 6 野外での遺構写真撮影は調査員、遺物写真撮影は当センター村田憲鴻・福土昭夫・岩間和幸が担当した。
- 7 本書の執筆は佐藤淳一が担当した（平成16年度分に関しては中村）。編集・校正は佐藤・中村が担当し

た。

- 8 野外調査にあたり国土交通省東北地方整備局胆沢ダム工事事務所、胆沢町教育委員会の御協力をいただいた。
- 9 委託業務は以下の方々、機関に依頼した（敬称略）。
 - 石器の石質鑑定：花崗岩研究会
 - 炭化材樹種同定：早坂松次郎（岩手県木炭協会）、阿部利吉（前岩手県木炭協会）、
バリノ・サーヴェイ株式会社
 - 航空写真：東邦航空株式会社
 - 基準点測量：株式会社協進測量設計、株式会社南部測量設計
- 10 発掘調査、報告書作成にあたり、次の方々のお指導、御協力をいただいた（順不同、敬称略）。
稲野裕介（北上市埋蔵文化財センター）、稲野彰子（いろは写房）、小岩直人（弘前大学）、松本秀明（東北大学）、小田野哲憲（岩手県教育委員会）、熊谷常正（盛岡大学）、瀬川司男（東和町ふるさと資料館）、藤沼邦彦（弘前大学）、宮廻泰時（秋田県立博物館）、宮本長二郎（東北芸術工科大学）、佐々木いく子（胆沢町教育委員会）、佐藤憲幸（宮城県教育委員会）
- 11 本遺跡の出土遺物、記録類は岩手県立埋蔵文化財センターに保管している。

凡 例 (遺構)

1 遺構図の用例は下記による。

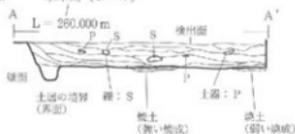
- (1) 遺構実測図の縮尺は基本的には住居跡が1/60、土坑、陥し穴が1/50、一部の焼土が1/40、住居跡の柱穴断面図、柵と焼土が1/30である。その他遺構に応じて適宜縮尺を設定してある。
- (2) 遺構上端、下端等の推定線は破線で表し、遺構同士の重複にかかわる推定線は破線で表した。
- (3) 層名は基本土層にローマ数字、各遺構覆土にアラビア数字を使用した。
- (4) 土層の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖』を使用した。
- (5) 断面図中の隙を「S」の略号で示した。同様に土器を「P」で示した。
- (6) 図中() 番号で取り上げた遺物は、基本的に床面ないしは床面直上の出土である。
- (7) 焼土の強弱は熱変色の程度で区分し、スクリーントーンを使い分けた。
- (8) 遺構図に使用したスクリーントーン等の用例は下図に示した。

〈住居跡〉

(平面図)

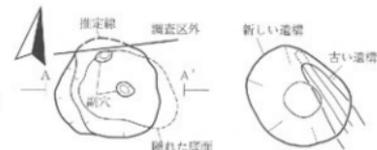


(断面図)

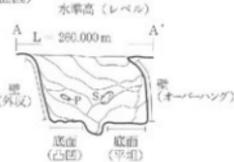


〈土坑〉

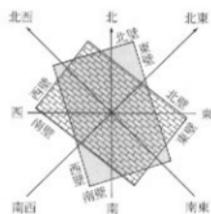
(平面図)



(断面図)



②壁の呼称



目 次

I 調査に至る経過	1	(2) 石 錘	301
II 遺跡の立地と環境		(3) 尖頭器	301
1 位置・立地	1	(4) 尖頭器様石器	301
2 地形・地質	3	(5) 石 匙	301
3 基本層序と検出・出土状況	4	(6) 石 鏃	301
4 周辺の遺跡	6	(7) 削器・搔器	301
5 これまでの調査	6	(8) 打製石斧	302
III 調査・整理の方法と経過		(9) 石 核	302
1 野外調査		(10) 加工痕を持つ剥片 (Rフレ)	302
(1) 調査区の設定	20	(11) 剥 片	302
(2) 粗掘、検出、精査	20	4 石製品	
(3) 実測、写真撮影	22	(1) 磨製石斧	302
(4) 遺構名	22	(2) 有孔石製品	303
2 調査経過	23	(3) 石棒状石製品	303
3 室内整理と報告書の作成		(4) 石 劍	303
(1) 遺構図面	24	(5) 塊状耳飾	303
(2) 遺 物	24	(6) 燕尾形石製品	303
(3) 用語について	24	(7) 短冊形石製品	303
(4) 文章表現について	25	(8) 不明石製品	303
IV 検出された遺構		5 礫石器	
1 住 居 跡	27	(1) 凹み石類	304
2 土 坑	132	(2) スリ石類	304
3 陥し穴状遺構	222	(3) 敲石類	305
4 埋設土器	279	(4) 石 錘	305
5 焼土遺構	282	(5) 台 石	305
6 石器集中部	289	(6) 石 皿	306
7 溝 跡	289	(7) 石 棒	306
8 捨て場	289	(8) 不 明	306
9 道路跡	293	VI 考 察	
V 遺 物		1 遺 構	
1 縄文土器		(1) 住 居 跡	307
(1) 遺構内出土の土器	296	(2) 土 坑	313
(2) 遺構外出土の土器	298	(3) 陥し穴状遺構	320
2 土製品		(4) 埋設土器	323
(1) 土 偶	298	(5) 焼土遺構	323
(2) 土 玉	299	(6) 石器集中部	323
(3) 耳 栓	299	(7) 溝 跡	324
(4) イチジク形土製品	299	(8) 捨て場	324
(5) ミニチュア土器	299	(9) 道路跡	324
(6) 不明土製品	300	2 遺 物	
3 剥片石器		(1) 出土土器について	324
(1) 石 鏃	300	(2) 出土石器について	325

3 年代測定値について	326
Ⅶ ま と め	
1 胆沢ダム大清水上遺跡調査委員会	329
2 集落の全体像	329

3 おわりに	331
附 編 1 ～ 3	334～350
報告書抄録	351

表 目 次

第 1 表 周辺の遺跡一覧表	10	第 7 表 器種別石材構成一覧表	327
第 2 表 環状集落の集成	308	第 8 表 宮城県周辺の遺跡から得られた 14C年代測定値との比較	328
第 3 表 住居跡一覧表	311	第 9 表 胆沢ダム大清水上指導委員会委員名簿	329
第 4 表 土坑一覧表	316	第 10 表 おもな環状集落遺跡	330
第 5 表 陥し穴状遺構一覧表	321		
第 6 表 土器分類表	326		

図 版 目 次

第 1 図 遺跡位置図	2	第 30 図 302号住 (1)	60
第 2 図 周辺の地形分類図	3	第 31 図 302号住 (2)	61
第 3 図 基本層序模式図 (1)	4	第 32 図 303号住 (1)	63
第 4 図 基本層序模式図 (2)	5	第 33 図 303号住 (2)	64
第 5 図 周辺の遺跡 (胆江地区)	7	第 34 図 304号住 (1)	65
第 6 図 周辺の遺跡 (東北)	9	第 35 図 304号住 (2)	67
第 7 図 調査区全体図	21	第 36 図 305号住 (1)	69
第 8 図 グリッド配置図	21	第 37 図 305号住 (2)	71
第 9 図 101号住 (1)	29	第 38 図 305号住 (3)	72
第 10 図 101号住 (2)	31	第 39 図 306号住	73
第 11 図 102号住 (1)	32	第 40 図 307号住	76
第 12 図 102号住 (2)	33	第 41 図 308号住	77
第 13 図 201号住 (1)	35	第 42 図 401号住 (1)	79
第 14 図 201号住 (2)	37	第 43 図 401号住 (2)	80
第 15 図 202号住 (1)	39	第 44 図 402・403号住 (1)	81
第 16 図 202号住 (2)	41	第 45 図 402・403号住 (2)	83
第 17 図 202号住 (3)	42	第 46 図 404・408・412号住	85
第 18 図 203号住 (1)	43	第 47 図 404号住	87
第 19 図 203号住 (2)	44	第 48 図 408号住 (1)	89
第 20 図 205号住 (1)	45	第 49 図 408号住 (2)	90
第 21 図 205号住 (2)	47	第 50 図 408号住 (3)	91
第 22 図 206号住	48	第 51 図 409・411号住	92
第 23 図 207号住 (1)	49	第 52 図 412号住 (1)	94
第 24 図 207号住 (2)	51	第 53 図 412号住 (2)	95
第 25 図 208号住	53	第 54 図 413号住	97
第 26 図 209号住	55	第 55 図 414号住 (1)	98
第 27 図 210号住	56	第 56 図 414号住 (2)	99
第 28 図 301号住 (1)	58	第 57 図 414号住 (3)	100
第 29 図 301号住 (2)	59	第 58 図 416・417号住 (1)	101

第59图	416·417号住(2)	102
第60图	416·417号住(3)	103
第61图	418·433号住(1)	105
第62图	418·433号住(2)	107
第63图	421·422号住(1)	109
第64图	421·422号住(2)	111
第65图	421·422号住(3)	112
第66图	423·432号住	113
第67图	424·425号住	115
第68图	426·427号住(1)	117
第69图	426·427号住(2)	119
第70图	426·427号住(3)	120
第71图	426·427号住(4)	121
第72图	428·429号住(1)	122
第73图	428·429号住(2)	123
第74图	428·429号住(3)	124
第75图	431号住	126
第76图	501号住	128
第77图	503号住·311号施土	129
第78图	505号住	130
第79图	507号住	131
第80图	101~105号上坑	133
第81图	106~110号上坑	135
第82图	111·112·115~118号上坑	137
第83图	119~124·126号上坑	140
第84图	125·201~204号上坑	143
第85图	205~209·211·212号上坑	145
第86图	210·213·214·218~220号上坑	147
第87图	215~217·221号上坑	149
第88图	301~304·326号上坑	153
第89图	305~309号上坑	155
第90图	310~313·327号上坑	157
第91图	314~318号上坑	159
第92图	319~322号上坑	161
第93图	323~325·350·351号上坑	163
第94图	401~405号上坑	165
第95图	406·407·409~414号上坑	169
第96图	416~418·421~423号上坑	171
第97图	424~428号上坑	173
第98图	429~433号上坑	175
第99图	434~438号上坑	177
第100图	439~441号上坑	181
第101图	442·444·446~448号上坑	183
第102图	449~451号上坑	185
第103图	452~457号上坑	187

第104图	458~461·464·465号上坑	190
第105图	466~470号上坑	193
第106图	471~475号上坑	195
第107图	476~480号上坑	197
第108图	481~484号上坑	199
第109图	485·486号上坑	200
第110图	501~505号上坑	201
第111图	506~510号上坑	203
第112图	601~608号上坑	207
第113图	609~614号上坑	209
第114图	615~618号上坑	211
第115图	701~708号上坑	213
第116图	801~807号上坑	217
第117图	808~810号上坑	219
第118图	901~903号上坑	220
第119图	101~104号施土穴	223
第120图	201~204号施土穴	225
第121图	210号施土穴	226
第122图	306·307·309·312号施土穴	227
第123图	401~404号施土穴	229
第124图	405~409号施土穴	231
第125图	410~413号施土穴	233
第126图	414~416号施土穴	235
第127图	417~419号施土穴	237
第128图	420~424号施土穴	239
第129图	425号施土穴	240
第130图	601·602号施土穴	241
第131图	603~605号施土穴	243
第132图	606·607号施土穴	245
第133图	608~611号施土穴	246
第134图	612·613号施土穴	248
第135图	614~616号施土穴	249
第136图	617~619号施土穴	251
第137图	620~622号施土穴	253
第138图	623~625号施土穴	255
第139图	626~628号施土穴	257
第140图	701·702号施土穴	258
第141图	703·704号施土穴	259
第142图	705~707号施土穴	261
第143图	708~710号施土穴	263
第144图	711~713号施土穴	265
第145图	801~804号施土穴	267
第146图	805·806号施土穴	268
第147图	901·902号施土穴	269
第148图	903·904号施土穴	271

第149図	905・906号陥し穴	272
第150図	907・908号陥し穴	274
第151図	909・910号陥し穴	275
第152図	911・912号陥し穴	277
第153図	913・914号陥し穴	278
第154図	401～406号埋設土器	281
第155図	101・102・301号焼土	283
第156図	302～307号焼土	285
第157図	308～311・401号焼土	287
第158図	I、IIe4石器集中部石器出土状況	290
第159図	101号溝	290
第160図	捨て場	291

第161図	道路跡(1)	294
第162図	道路跡(2)	295
第163図	住居の平面図	307
第164図	大形住居の軸線	309
第165図	住居群の対峙関係	310
第166図	土坑の形態別分布	314
第167図	土坑の機能別分布(a:貯蔵穴)	314
第168図	土坑の機能別分布(b:陥し穴)	315
第169図	土坑の機能別分布(c:竈壇)	315
第170図	土坑の機能別分布(d:その他)	316
第171図	陥し穴の形態別分布	320

付 図

付図1 遺構全体図(東側) 本冊巻末

付図2 遺構全体図(西側) 本冊巻末

I 調査に至る経過

大清水上遺跡は「胆沢ダム建設事業」に伴って、その事業区域内（コア採取地）に位置することから発掘調査を実施することとなったものである。

胆沢ダムは、北上川右支川の胆沢川に建設される高さ132m、長さ723m、総貯水量1億4,300万^mの中央コア型ロックフィルダムであり、その目的は、洪水調節・河川環境保全等のための流水確保・灌漑用水・水道用水・水力発電を行う多目的ダムで、平成2年5月11日に「胆沢ダム建設に関する基本計画」が官報告示され今日に至っている。

埋蔵文化財の取扱いについては、事業に先立ち昭和58年10月に建設省（現国土交通省）新石淵ダム調査事務所（昭和63年4月胆沢ダム工事事務所と名称変更）から、ダム事業区域内における埋蔵文化財の有無の照会が岩手県教育委員会に出され、周知地区864,000^m、可能性有地区490,000^mが確認された。その後、水没面積（4,400^m）を含む事業地内における埋蔵文化財の包蔵地の取扱いについて、毎年度各工事等の実施に先立って、岩手県教育委員会と協議を行いながら計画的に調査を実施しているところである。

大清水上遺跡については、平成11年6月4日付建東阻工第73号により胆沢ダム工事事務所長から岩手県教育委員会に試掘調査の依頼がなされた。依頼を受けた岩手県教育委員会は平成11年9月30日～31日・10月4日の3日間にわたり試掘調査を実施し、その結果トレンチ2ヶ所から縄文土器等が検出され遺構等が存在する可能性が高いことが判明したため、平成11年10月21日付教文第745号で発掘調査が必要である旨胆沢ダム工事事務所に回答された。

これに基づき両者が協議を行い、消滅する遺跡について事前に発掘調査を実施することとし、発掘調査事業については財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターの受託事業とした。

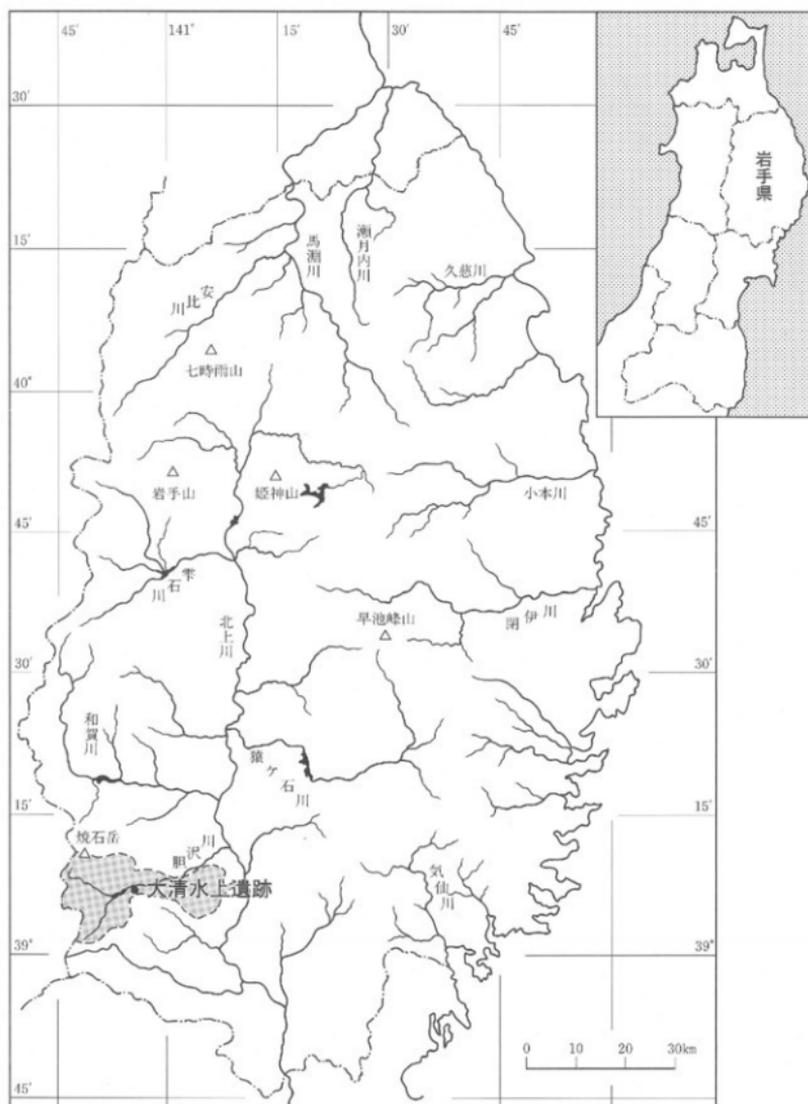
II 遺跡の立地と環境

1 位置・立地

大清水上遺跡は胆沢郡胆沢町若柳字慶存ほか、JR東北本線水沢駅から西へ約20km、馬留地区から市野々地区をかなめとして東方に広がる胆沢扇状地と呼称される扇状地地形のほぼ扇頂部に位置する。

遺跡のある胆沢町は岩手県の南西部に位置する。西方には奥羽山脈が広がり北西には焼石岳（1,547^m）、西から南西にかけては笹森山（1,085^m）、桑原山（1,126^m）、大鶴山（1,165^m）が望まれ、東方には胆沢川によって形成された胆沢扇状地と呼ばれる扇状地性の河成段丘が広がる。面積は297.7^{km}で、北は金ヶ崎町、東是水沢市、南は前沢町、衣川村、一関市、西は秋田県東成瀬村に接している。1955（昭和30）年に南都田・若柳・小山の3村が合併し1967（昭和42）年に町制が施行された。1617（元和3）年に遼東の寿庵堰や、茂井總堰などの灌漑事業によってはじめられた開拓は、1953（昭和28）年の石灘ダムの完成によりさらに進められ、治水機能の整備された現在では、エグネ（屋敷林）とキゾマ（木材を重ねてつくった垣根）を有する家屋に象徴される典型的な散村形態を示す集落景観のもと、県内有数の米作地帯となっている。

遺跡の標高は約280～285^mで西から東に向かってゆるやかに高度を減ずる。付近を流れる胆沢川との高度差は約80^mである。調査区は段丘崖に隣接した台地で、北東方向に向かいゆるやかな沢状地形が確認される。遺跡の位置は北緯39度6分、東経140度57分である。

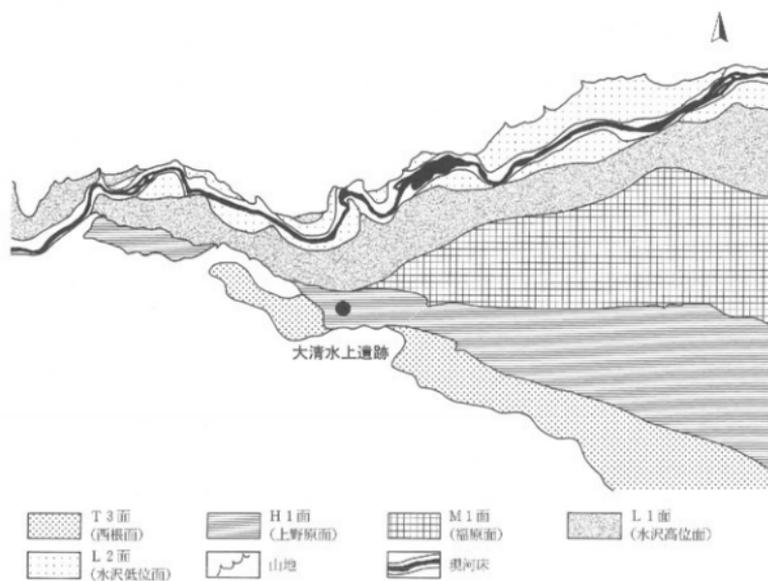


第1図 遺跡位置図

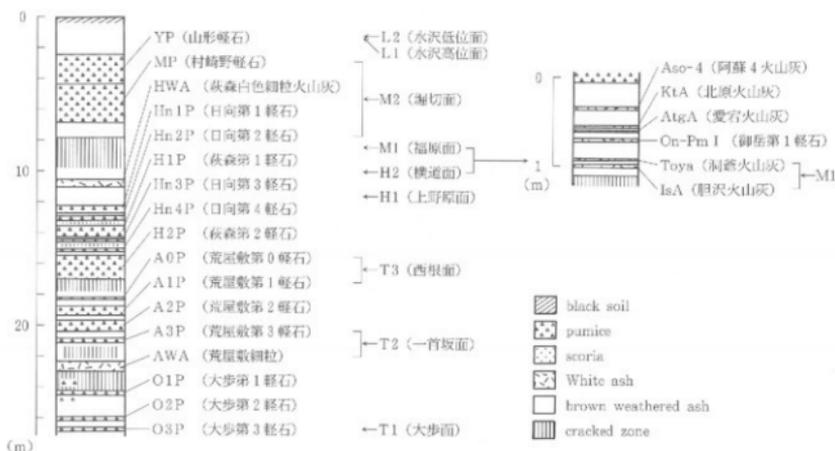
2 地形・地質 (第2・3図)

東北地方の脊梁をなす奥羽山脈は、中新世以降のグリーンタフ変動によって形成され、新第三系及び火山岩類を主体とする褶曲山脈で、現在でも活動している火山が多い。形成期が比較的新しいため、この山脈に源をもつ北上川の西側支流に多量の土砂を供給し、中流域西岸においては、胆沢扇状地をはじめとする大小の堆積地形が発達し、広い平野部を形成している。胆沢扇状地付近の第四系の基盤については、第三系よりなり、下位より中新統下嵐江層(砂岩・頁岩・凝灰岩)、瑞山層(石英安山岩溶岩・同質溶結凝灰岩)、鮮新統大平層(砂岩・礫岩・頁岩の互層)・国見山安山岩(両輝石安山岩・同質集塊岩)から構成される(北村1959)。これらの地層は $10\sim 20^\circ$ 程度の緩傾斜でゆるく波曲しながら北東上位で累重し、下嵐江層・瑞山層は南部の北股川・衣川沿いに分布し、上位の鮮新統大平層・国見山安山岩は北方の胆沢川沿いに分布している。第四系は下位より折居層(木野1963)、段丘堆積物および火山灰層から構成される。折居層は砂礫からなり、最大層厚20mで扇状地の末端部に線状に小分布するにすぎず、鮮新統を不整合に覆い段丘堆積物に不整合に覆われることから、大上ほか(1977)の古北上川堆積物に対比される可能性がある(大上・吉田1984)。

盛岡市周辺から前沢町北部に至る北上低地帯およびその周辺地域には、多数の扇状地性の河成段丘面が発達し、多くの指標テフラも認められている。この地域は南部ほど古い河成段丘面が分布しており、これらの河成段丘面は、面の連続性・保存度およびテフラとの関係から、T面群、H面群、M面群およびL面群に大別される(渡辺1991)。これによれば大清水上遺跡はこの北上低地帯南部に位置し、胆沢川によって形成さ



第2図 周辺の地形分類図



第3図 基本層序模式図(1)

れた高位段丘(H面群)である上野原段丘面に立地する。胆沢川の形成した河成段丘については、水河性海面変動ならびに各段丘面に堆積したテフラの分析を基軸とした形成年代(離水時期)の特定がある程度なされており、古い順に10万年～45万年前に形成された高位段丘(T面群、H面群)、5万年～9万年前に形成された中位段丘(M面群)、2万年～3000年前に形成された低位段丘(L面群)という分類がなされている。これらはさらに高位からT1(大歩面)、T2(一首坂面)、T3(西根面)、H1(上野原面)、H2(横道面)、M1(堀切面)、M2(福原面)、L1(水沢高位面)、L2(水沢低位面)の9面に細分される(大上・吉田1984)(渡辺1991)。なお、これらの分類については大上・吉田(1984)と渡辺(1991)との間で一部段丘面の離水時期に認識の違いが認められる。すなわち、大上・吉田(1984)では上野原段丘(H1)の上に乗るテフラは山形軽石(YP)、村崎野軽石(MP)などの黒沢尻火山灰が主体をなしており、それよりも古い前沢火山灰が乗ることがあってもその中の萩森白色細粒火山灰(HWA)は乗らないとしているのに対し、渡辺(1991)ではこの萩森白色細粒火山灰(HWA)まで乗るとしている。この部分に関して、本報告では大上・吉田(1984)にデータを追補して再検討した渡辺(1991)に従うこととした。本遺跡の位置する上野原段丘は形成年代の古い高位段丘の中にあつて大歩段丘、一首坂段丘、西根段丘に次いで古い段丘との見方がなされており、今から約10～20万年前に形成されたとされる。調査区に隣接する露頭の観察によると、表土から1.5～2m付近のところに黄白色をした山形軽石(YP)が確認され、7～8m程度のところで段丘礫層となる(第3図)。

3 基本層序と検出・出土状況(第4図)

基本層序は以下に示したように区分される。調査区は戦後の開墾によって果樹園や桑畑などの耕作地として使用された経緯があり、トラクターなどの農業用機械によって整地された痕跡が確認される。昭和36年12月1日～3日に胆沢村教育委員会の主催で行われた遺跡発掘調査にともなう報告(草間・伊藤1963)に



第4図 基本層序模式図(2)

よると、この地域は「最近雑木林を開墾して畑にしたところに発見されたものである。遺跡台帳作成のため、調査員一行がこの付近を踏査すると、地表面に土器片が散乱していた。もとの地表面は削り取られてローム層の草蓋まで露出させられている。」とくに標高の高い部分においては地山面としたIV層まで巻き込んだ削平・擾乱を受けており、地山面直上に擾乱層が乗っている状態であった。従って比較的層厚のある調査区北東部沢状地形の谷頭部を除き、ほとんどの区域において擾乱層直下の地山面で遺構を検出することになった。

I層 黒褐色土層（表土）。層厚5～20cm。

表土。腐葉土を主体とし、草木の根が繁茂する。

II層 黒褐色上層。層厚0～60cm。

尾根上などでは薄い堆積となり、I層との判別が難しい。縄文時代の遺物を含む層である。

III層 褐色土層。層厚0～20cm。II層とIV層の漸移層的な土層。

上部はII層と、下部はIV層との漸移層的な土層である。上部に縄文時代の遺物を含む。この層が遺構の最終検出面である。

IV層 黄褐色粘土質シルト層（地山）。

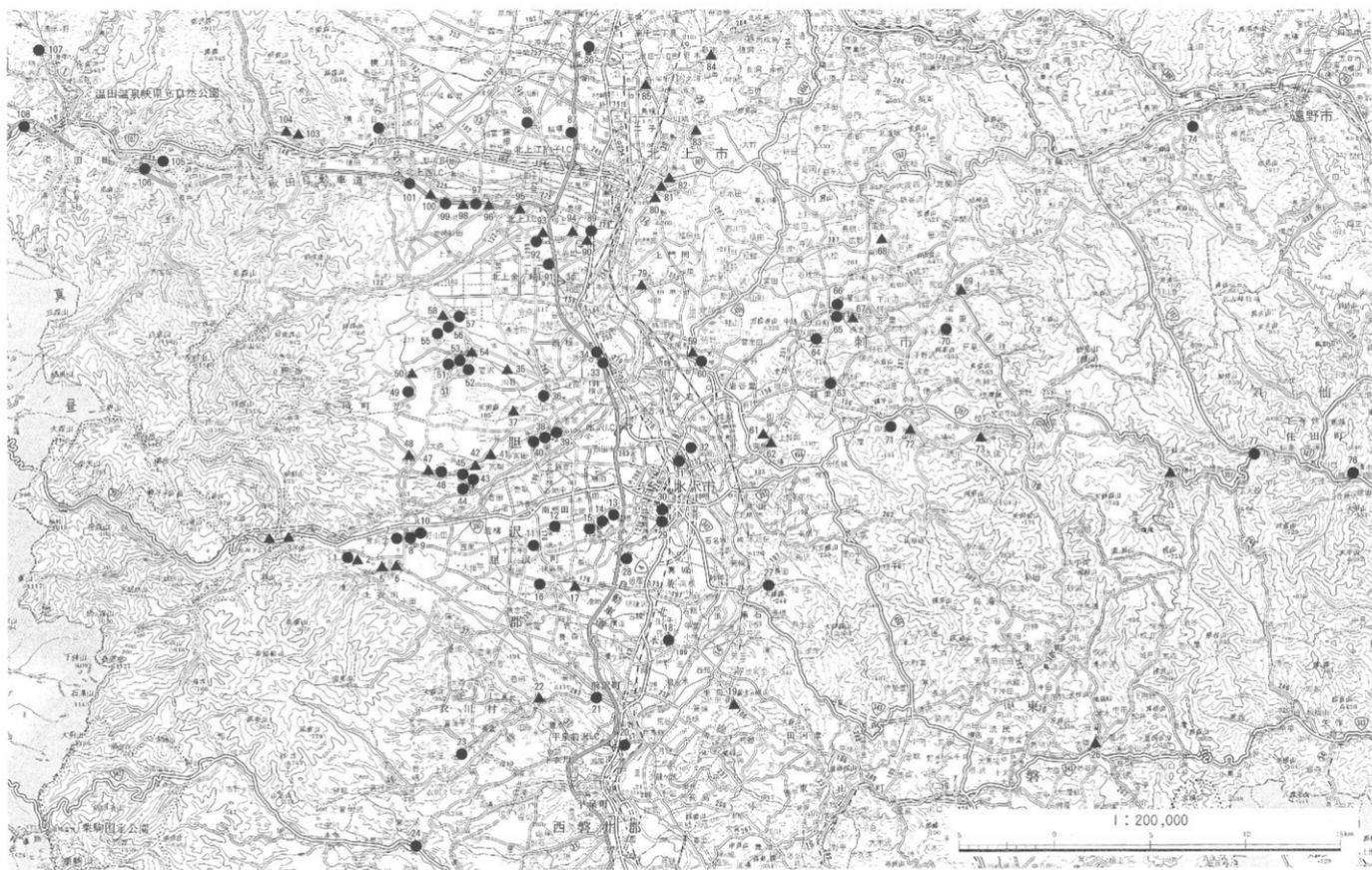
4 周辺の遺跡（第5・6図、第1表）

岩手県教育委員会生涯学習文化課による平成13年度遺跡登録台帳によると、胆沢町では現在171遺跡が確認されており、旧石器時代から中世・近世にいたるまで多数の遺跡が存在する。ここでは、縄文前期から中期にかけての遺跡について、胆沢地区（岩手県南部）、東北地方とにわけてそれぞれ図示するとともに、参考文献として提示した。第5図では、大木3～5式を含む遺跡を●、6式以降のみの遺跡を▲と、分けて示した。

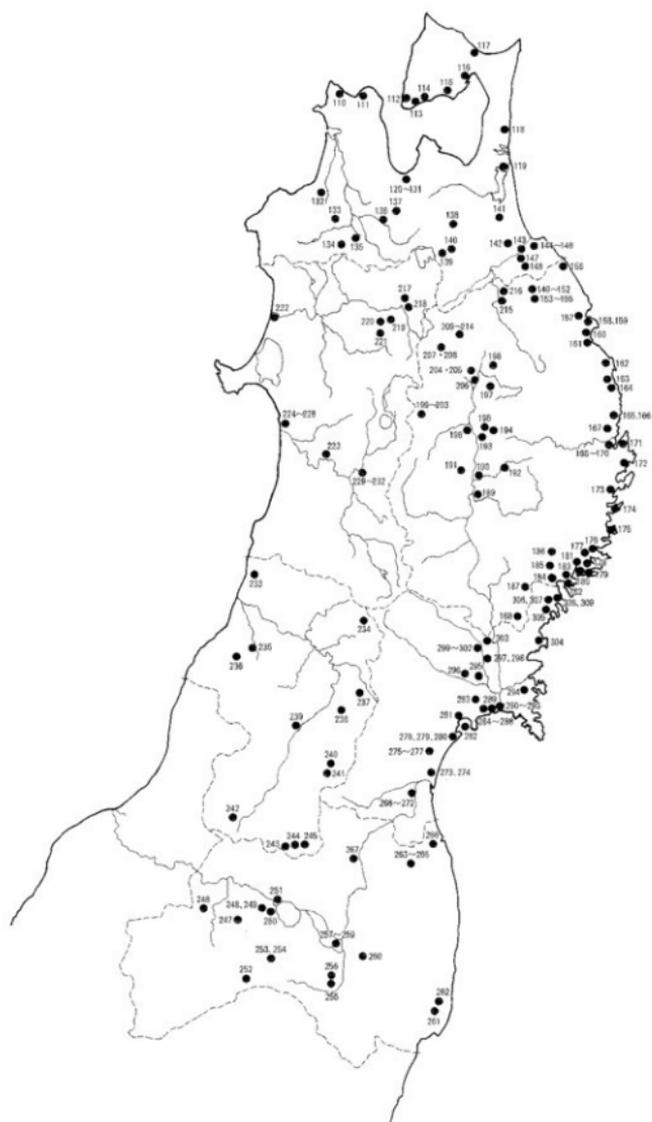
5 これまでの調査

昭和60年3月に胆沢町教育委員会から発行された報告書ならびに昭和38年4月に胆沢村教育委員会から発行された報告書によれば、大清水上遺跡はこれまでに二度にわたり調査が行われている。1回目は昭和36年12月（胆沢町教育委員会報告書によると昭和32年と表記されている）に、当該遺跡地に果樹園の造成が計画されたことに係り、草間俊一・伊藤鉄夫・伊藤陽夫らによって遺跡確認の調査が行われ、小竪穴住居址状の遺構の他、縄文早期～晩期の土器片を確認している。その後、昭和58年に個人営利を目的とする桑畑造成工事ならびに作業小屋建築工事が計画されたことに係り2回目の調査が行われた。このとき、既に造成にかかる整地施工は着手され、遺構ならびに遺物を含むと思われる地層はほとんど破壊されていたという。その後、地権者ならびに耕作者と教育委員会が協議を重ね、残存した部分について記録保存のための発掘調査を行うということになった。発掘調査は2ヵ年計画（昭和58年、59年）で行われ約25,000㎡を対象とし、その結果約7,600㎡に遺構が検出され、縄文時代前期末と推測される土器などが多数出土した。

以上のような調査経過ならびに成果との整合性をはかる意味から、今回の調査にかかわりできるだけ過去の調査区の範囲把握と遺構の照合に努めた。しかしながら、過去の調査報告書では調査区の絶対的位置を示す標高値等の数値が欠如していたため完全に照合することはできず、報告書内の写真ならびに遺構の図面等に加え今回調査時の検出状況から総合的に推測せざるを得なかった。推測の結果、今回の調査区の西端部は前回の胆沢町教育委員会による調査の東端部とほぼ重複しているという結論に至った。



第5図 周辺の遺構（担江地区）



第6図 周辺の遺跡（東北）

第1表 周辺の遺跡一覧表

() は出土地名で、遺跡名ではない

No.	遺跡名	所在地	遺跡の種類・遺構・発物	調査の自前	備考	文献
1	大宮水上	船場町	5~6世紀埴山遺跡・ロングハウス、土器・土俵、埴山遺跡、埴山遺跡 上・6式土器、イナシタの遺物	昭和55年(1980年)	セの調査範囲に含まれる	68
2	大宮水上	船場町	6式土器片	昭和12年(1937年)		4,69,70
3	下原遺跡	船場町	6式土器片	昭和48年(1980年)		67
4	新宮遺跡	船場町	6式土器片	昭和11年(1936年)		72
5	(1号倉庫遺跡)	船場町	6式土器片			1
6	(2号倉庫)	船場町	6式土器片			1
7	倉庫跡	船場町	5~6式土器片、埴山遺跡、石剣			1,64
8	(宮原遺跡)	船場町	6式土器片			64
9	(宮原遺跡)	船場町	4式土器片			1
10	宮原遺跡	船場町	4式土器片			1
11	石灯	船場町	4式土器片	昭和17年(1950年)		68
12	石灯	船場町	6式土器片	昭和15年(1938年)		65
13	石灯	船場町	6式土器片・5号・7号土器(少量)	昭和50年(1980年?)		1,2,64
14	舟子宮	船場町	7式土器片			64
15	船子宮	船場町	7式土器片			64
16	船子宮	船場町	7式土器片			64
17	(小宮遺跡)	船場町	6~7式土器片			2
18	船子宮	船場町	5号・7号土器(5式土器)、埴山遺跡、埴山遺跡	昭和48年(1980年?)		74
19	(大宮)	船場町	埴山遺跡、ワラス土器1式土器・6式土器、土俵	昭和11年(1936年)		75
20	舟子宮	船場町	6式土器片			1
21	舟子宮	船場町	5号、6式土器片			73
22	舟子宮	船場町	6式土器片			76
23	舟子宮	船場町	5号・6式土器片	昭和10年(1935年)		77
24	舟子宮	船場町	6式土器片(埴山遺跡?)・5号・6式土器	昭和24年		78
25	舟子宮	船場町	6式土器片			79
26	舟子宮	船場町	6~7号土器片	昭和10年(1935年)		80
27	舟子宮	船場町	6~7号土器片			1
28	舟子宮	船場町	6~7号土器片			1
29	舟子宮	船場町	6~7号土器片			62,73
30	舟子宮	船場町	6~7号土器片			2
31	舟子宮	船場町	6式土器片(埴山遺跡?)・5号・6式土器	昭和10年(1935年?)		61
32	舟子宮	船場町	5号、6式土器片	昭和10年(1935年?)		60
33	(舟子宮)	船場町	4号、6~7号土器片	昭和47年(1980年?)		59
34	(舟子宮)	船場町	6~7号土器片	昭和47年(1980年?)		59
35	(舟子宮)	船場町	6~7号土器片			1,2
36	舟子宮	船場町	5~7号土器片			1,2
37	舟子宮	船場町	6式土器片	昭和10年(1935年?)		58
38	(舟子宮)	船場町	1~3式土器片			1
39	(舟子宮)	船場町	1~3式土器片			1
40	舟子宮	船場町	3号・6式土器片			1
41	(舟子宮)	船場町	6式土器片			1
42	舟子宮	船場町	6~7号土器片			2
43	舟子宮	船場町	6~7号土器片			1
44	(舟子宮)	船場町	3号土器片			1
45	(舟子宮)	船場町	3号土器片			1
46	(舟子宮)	船場町	4~6式土器片			1
47	(舟子宮)	船場町	5号・7号土器片			1
48	(舟子宮)	船場町	6式土器片			1
49	(舟子宮)	船場町	1~3式土器片			1
50	(舟子宮)	船場町	6~7号土器片			1
51	(舟子宮)	船場町	3号、6式土器片			1
52	(舟子宮)	船場町	2号・3式土器片			1
53	(舟子宮)	船場町	2号・3式土器片			1
54	(舟子宮)	船場町	6式土器片	昭和59年(1980年?)		57,71
55	舟子宮	船場町	1, 4, 7号土器片、埴山遺跡	昭和48年(1980年)		66
56	舟子宮	船場町	6~7号土器片	昭和48年(1980年)		66
57	(舟子宮)	船場町	5号・6式土器片、土俵			1
58	舟子宮	船場町	6~8式土器片			1
59	舟子宮	船場町	6式土器片			2,3
60	舟子宮	船場町	5~7号土器片	昭和10、14年(1935年?)		5,217
61	(舟子宮)	船場町	6~7号土器片			2
62	(舟子宮)	船場町	5号・6式土器片			1
63	(舟子宮)	船場町	6式土器片			1
64	(舟子宮)	船場町	3, 6式土器片			1
65	舟子宮	船場町	3号・6式土器片			3
66	(舟子宮)	船場町	3, 6式土器片			1
67	(舟子宮)	船場町	6~8式土器片			1
68	(舟子宮)	船場町	6式土器片			1
69	舟子宮	船場町	6~7号土器片			1
70	(舟子宮)	船場町	6~7号土器片			1
71	舟子宮	船場町	5号・6式土器片、土俵	昭和10年(1935年?)		218
72	舟子宮	船場町	6~7号土器片、埴山遺跡	昭和14年(1939年?)		219
73	(舟子宮)	船場町	6~7号土器片			1
74	舟子宮	船場町	2~4式土器片、ロングハウス(埴山遺跡)、埴山遺跡、埴山遺跡	遺跡調査記録		3
75	舟子宮	船場町	6~8式土器(少量)	昭和12年(1937年?)		6
76	舟子宮	船場町	6~7号土器片			6
77	舟子宮	船場町	3~5号土器片、ロングハウス	全年度調査		6
78	舟子宮	船場町	6式土器片			1
79	舟子宮	船場町	6~8号土器(埴山遺跡)、土俵、埴山遺跡	昭和47年(1980年?)		33~38
80	舟子宮	船場町	6式土器片	昭和12年(1937年?)		32

第1表 周辺の遺跡一覧表

№	遺跡名	所在地	遺跡の種類・遺構・遺物	調査の有無	備考	文献
81	畑田	北上市	6式土器片	☆H1～3年(8,952㎡)		31
82	榑野	北上市	5～7c?式土器片、ロングハウス	畑田4～6年(34,000㎡)		29
83	榑野	北上市	上段?・6～7a式土器	☆畑田1(1,900㎡)		30
84	畑田	北上市	6～7a式土器(86年?)			24
85	高野	北上市	6～7a式土器片、土器、フラスコ?7a式土器、鉄製瓦葺、西側、西側	畑田4年(トレンチ)		28
86	畑田	北上市	6a?穴穴付土器片・6式土器、漆器片	☆畑田1(1,900㎡)		27
87	畑田	北上市	5～6c?式土器片、漆器片、西側	☆畑田2(5,941㎡)	畑田の遺跡の隣に新築別荘止し	24～28
88	畑田	北上市	6～8c?式土器片、ロングハウス、フラスコ状土器片多・3a式土器片、土器、漆器片	畑田4～6年(65年?)	約5,000㎡?	21
89	畑田	北上市	6式土器片	畑田5年(205㎡)	中野はとんど・園芸店に付	22
90	畑田	北上市	5a～6a式土器片、ロングハウス、フラスコ状土器片多・漆器片	☆H5.6年(1,900㎡)	畑田より古い時期止	23
91	畑田	北上市	6～7a式土器片多・フラスコ状土器片・7?～7a式土器、漆器片	☆畑田1(1,900㎡)	調査は後に541年時止	20,30
92	畑田	北上市	7a式土器片、7b土器片多?・漆器片多、土器、漆器片	畑田2～4年(400㎡?)	7,500㎡程度?・報告書未発表?	51～54
93	畑田	北上市	6式土器片	畑田3年(1,900㎡)	遺ノ遺跡?	49,50
94	畑田	北上市	3式?住居2?・7部小片	☆畑田4(1,000㎡)	上人谷地遺跡の北西	55
95	畑田	北上市	6式土器片		下段1と・土人谷ノ遺跡の間	2
96	畑田	北上市	6式土器片	☆畑田4(1,000㎡)	今調査中調査見	48
97	畑田	北上市	6式土器片、土器?	☆畑田3(1,900㎡)		36
98	畑田	北上市	6式土器片	S33～11年(6,507㎡)		47
99	畑田	北上市	6式土器片	☆畑田1(1,900㎡)	センター調査	45
100	畑田	北上市	5a～7a式土器片	☆畑田2(5,941㎡)		46
101	畑田	北上市	6式土器片	☆畑田1(1,900㎡)		43,44
102	畑田	北上市	6式土器片	☆畑田4(1,900㎡)		42
103	畑田	北上市	6～7a式土器片、漆器片、フラスコ・漆器片多、3a式土器片多、漆器片、漆器片、石製、男使石、漆器片2,000㎡	☆畑田3年(15,500㎡)		41
104	畑田	北上市	6～7a式土器片	☆畑田3年(9,900㎡)		40
105	畑田	北上市	5～7a式土器片(個別?)、漆器片500(漆器片不明)	☆畑田2年(1,900㎡)		39
106	畑田	北上市	3a?・6a?土器片、漆器片、ロングハウス、漆器片、土器?・石製、漆器片、カマゴブリ石、鉄製瓦葺、漆器片(31?)	☆畑田3～11年(?)	約5,000㎡?・調査中14年	17
107	畑田	北上市	6式土器片	☆畑田1(400㎡)		18
108	畑田	北上市	6式土器片			14
109	畑田	北上市	6式土器片	☆畑田1年(43,000㎡)		26
110	畑田	北上市	6式土器片	☆畑田4年(43,000㎡)		16
111	畑田	北上市	6式土器片	☆畑田4年(43,000㎡)		13,15
112	畑田	北上市	6式土器片	☆畑田4年(43,000㎡)		11,12
113	畑田	北上市	6式土器片	☆畑田1年(1,200㎡)		10
114	畑田	北上市	6式土器片	☆畑田1年(1,200㎡)		9
115	畑田	北上市	6式土器片	☆畑田1年(1,200㎡)		8
116	畑田	北上市	6式土器片	☆畑田1年(1,200㎡)		7
117	畑田	北上市	6式土器片	☆畑田1年(1,200㎡)		6
118	畑田	北上市	6式土器片	☆畑田1年(1,200㎡)		5
119	畑田	北上市	6式土器片	☆畑田1年(1,200㎡)		4
120	畑田	北上市	6式土器片	☆畑田1年(1,200㎡)		3
121	畑田	北上市	6式土器片	☆畑田1年(1,200㎡)		2
122	畑田	北上市	6式土器片	☆畑田1年(1,200㎡)		1
123	畑田	北上市	6式土器片	☆畑田1年(1,200㎡)		0
124	畑田	北上市	6式土器片	☆畑田1年(1,200㎡)		0
125	畑田	北上市	6式土器片	☆畑田1年(1,200㎡)		0
126	畑田	北上市	6式土器片	☆畑田1年(1,200㎡)		0
127	畑田	北上市	6式土器片	☆畑田1年(1,200㎡)		0
128	畑田	北上市	6式土器片	☆畑田1年(1,200㎡)		0
129	畑田	北上市	6式土器片	☆畑田1年(1,200㎡)		0
130	畑田	北上市	6式土器片	☆畑田1年(1,200㎡)		0
131	畑田	北上市	6式土器片	☆畑田1年(1,200㎡)		0
132	畑田	北上市	6式土器片	☆畑田1年(1,200㎡)		0
133	畑田	北上市	6式土器片	☆畑田1年(1,200㎡)		0
134	畑田	北上市	6式土器片	☆畑田1年(1,200㎡)		0
135	畑田	北上市	6式土器片	☆畑田1年(1,200㎡)		0
136	畑田	北上市	6式土器片	☆畑田1年(1,200㎡)		0
137	畑田	北上市	6式土器片	☆畑田1年(1,200㎡)		0
138	畑田	北上市	6式土器片	☆畑田1年(1,200㎡)		0
139	畑田	北上市	6式土器片	☆畑田1年(1,200㎡)		0
140	畑田	北上市	6式土器片	☆畑田1年(1,200㎡)		0
141	畑田	北上市	6式土器片	☆畑田1年(1,200㎡)		0
142	畑田	北上市	6式土器片	☆畑田1年(1,200㎡)		0
143	畑田	北上市	6式土器片	☆畑田1年(1,200㎡)		0
144	畑田	北上市	6式土器片	☆畑田1年(1,200㎡)		0
145	畑田	北上市	6式土器片	☆畑田1年(1,200㎡)		0
146	畑田	北上市	6式土器片	☆畑田1年(1,200㎡)		0
147	畑田	北上市	6式土器片	☆畑田1年(1,200㎡)		0

第1表 周辺の遺跡一覧表

No.	遺跡名	所在地	遺跡の名称・遺構・遺物	調査の有無	備考	文献
143	西ノ沢	東海町	河内下層c十土器片	考古学調査(1,380㎡)		142
149	長谷田-V	越前町	河内下層c十土器片	考古学調査(5,140㎡)		113
150	大島1	越前町	河内下層c土器片	考古学調査(5,612㎡)		113
151	大石向	越前町	4~6式土器片、河内下層a~d式土器片、大形伴具	考古学調査(2,385㎡)115年(3,671㎡)116年(244㎡)		114
152	丸屋敷	越前町	河内下層c土器片	考古学調査(12,740㎡)		115
153	長瀬寺1	八幡町	6式、河内下層c土器片	考古学調査(11,000㎡)		109
154	田中	八幡町	河内下層c土器片	考古学調査(200㎡)117年(316㎡)		110
155	上野原	八幡町	河内下層c土器片、6式土器片	考古学調査(2,000㎡)		111
156	小ノ内氏塚	福山市	縄文			194
157	御高1	久慈市	4式土器片	久慈郡1110年(94,1㎡)		117
158	大穴	久慈市	河内下層c、d式土器片、6式土器片	久慈郡2014年(350㎡)		116
159	一ノ森塚	久慈市	7期～後期			124
160	広平(貝塚)	羽田町	前期～中期			124
161	寺倉	羽田町	河内下層c土器片			124
162	御高1	羽野郷村	5~7式土器片、河内下層c、d式土器片	考古学調査(950㎡)		118
163	西畑氏塚	羽田町	早期～後期			121
164	松林(貝塚)	羽田町	河内下層c式			121
165	大竹(貝塚)	宮古市	早期～後期			124
166	駒山貝塚	宮古市	1~10式土器片			124
167	徳原	宮古市	5~7式土器片			121
168	小沢(貝塚)	六万町	前期～後期			124
169	尾野山塚(11塚)	六万町	前期～後期			124
170	高森山塚(11塚)	六万町	4~10式土器片			124
171	赤ながし沢(貝塚)	宮古市	前期～中期			124
172	千鶴	宮古市	前期～後期			124
173	森蔵(貝塚)	大畑町	前期後7から中期の上層片			124
174	シノ原(貝塚)	徳石町	前期～後期			124
175	大塚(貝塚)	徳石町	前期～後期			124
176	神田塚	一畑町	5式土器片			121
177	鹿野	大畑町	5式土器片			121
178	伊ノ浜(貝塚)	三陸町	6~9式土器片			124
179	宮野貝塚	三陸町	4式土器片			124
180	野の巻貝塚	大畑町	5,6式土器片	113年から(40,000㎡)		121
181	徳水貝塚	大畑町	4~7式土器片	考古学調査(2,500㎡)		121
182	大谷貝塚	徳島市	5式土器片	徳島県調査(12,626㎡)30,000㎡		122
183	大谷(貝塚)	徳島市	4, 5, 6式土器片			122
184	穴山貝塚	徳島市	1から7式土器片			124
185	徳島	徳島市	6式土器片			125
186	龜	津田町	3, 4~6式土器片			84
187	龍崎寺	大塚町	4~5式土器			119
188	藤川寺	千鶴町	3~5式土器片			124
189	大塚	花巻市	3~5式土器片	考古学調査(1,367㎡)		83
190	山崎	花巻市	6~7式土器片、大形伴具	考古学調査(4,800㎡)		85
191	小森林塚	小倉町	6式土器片	考古学調査(1,100㎡)		85
192	天沼+石	大畑町	6式土器片	大畑町846年		86
193	砂塚	盛岡市	河内下層c土器片	考古学調査(542㎡)563年88㎡		88
194	上八木山V	盛岡市	5式土器片	考古学調査(3,139㎡)3,380㎡(7,380㎡)		94
195	庄塚	滝沢村	6式土器片、河内下層c式	考古学調査(604㎡)37g(381g)		95
196	久保1	滝沢村	6式土器片、河内下層c式	考古学調査(3,300㎡)		94
197	石塚	盛岡市	河内下層c土器片	考古学調査(1,050㎡)		94
198	徳田1	江川町	河内下層c土器片	考古学調査(5,338㎡)		84
199	赤+赤	雫石町	6式土器片、大形伴具			89
200	下真谷塚	雫石町	6式土器片	考古学調査(700㎡)		90
201	庄塚	雫石町	河内下層c土器片	考古学調査(3,000㎡)		91
202	小口谷地1b	雫石町	6式土器片	考古学調査(110㎡)770㎡		92
203	二ノ原1	雫石町	6式土器片	考古学調査(110㎡)1,350㎡		93
204	新井	滝沢村	河内下層c~d式土器片、大形伴具	考古学調査(3,000㎡)		95
205	長尾山塚	鹿沢村	4~6式土器片	考古学調査(36,250㎡)		89
206	原田1	滝沢町	6式土器片	考古学調査(11,305㎡)		97
207	谷中1	代田町	3b, 4, 5, 6式土器片	考古学調査(3,590㎡)		99
208	水神	代田町	河内下層c土器片	考古学調査(22,360㎡)		100
209	鶴岡谷地	浄土寺町	6式土器片、河内下層d1式土器片	考古学調査(9,238㎡)17,500㎡		101
210	沼久保	浄土寺町	河内下層c土器片	考古学調査(1,804㎡)3,800㎡		102
211	五反内1	浄土寺町	河内下層c土器片	考古学調査(3,100㎡)		103
212	新谷内1+石	浄土寺町	河内下層c土器片	考古学調査(7,080㎡)		104
213	天塚1	浄土寺町	河内下層c土器片	考古学調査(16,114㎡)		105
214	藤ノ木平直	浄土寺町	河内下層c土器片	考古学調査(12,100㎡)		103
215	上田	一戸市	河内下層c土器片、大形伴具			89
216	中野塚	一戸市	河内下層c土器片	二戸市253年(27,000㎡)		106
217	大塚	小塚町	河内下層c土器片	考古学調査(574㎡)584(936㎡)		107
218	江ノ平塚	小塚町	河内下層c土器片、大形伴具	考古学調査(11,368㎡)		108
219	坂の寺	大塚町	4式土器片、大4, 5, 6式土器片	考古学調査(750㎡)		178
220	野田河	大塚町	6式、河内下層c土器片	考古学調査(464㎡)		97
221	石ノ山1(赤+赤)	大塚町	6式土器片c, d, dl	考古学調査(848㎡)		211
222	新井台	鹿沢町	河内下層c土器片、大形伴具	新井町555年(1,472㎡)		106
223	上ノ山1-2(3,4,5,6)	鶴岡町	5, 6式、河内下層c土器片、大形伴具、灰層、石製品	鶴岡町年(3,300㎡)		199
224	地内	旗本町	河内下層c土器片、大木式土器片、大形伴具	旗本町114年(1,455年3次)16年3次(17年4次)(38,200㎡)		170
225	下野1	旗本町	河内下層c土器片	旗本町114年(28,200㎡)		171
226	新井A	旗本町	河内下層c土器片	旗本町		176
227	下野F	旗本町	6式土器片	旗本町		176
228	藤ノ原	旗本町	河内下層c土器片	旗本町		177

第1表 周辺の遺跡一覧表

番号	遺跡名	所在地	遺跡の性格・遺構・遺物	調査の年数	備考	文庫
220	鏡子沢	塩田町	河川下層式土器片	昭和41年(7,000㎡)		165
221	塩田(1次)(2次)	塩田町	6式土器片、河川下層式土器片、高麗形石製品	昭和41年(1,000㎡)		169
230	柳山町	塩田町	河川下層式土器片	米山町12年(4,200㎡)		174
232	柳下川1・日・田	塩田町	河川下層式土器片	米山町12年(4,000㎡)		175, 178
233	穴塚	塩田町	5, 6, 7式土器片河川下層式土器片	昭和50年(2,300㎡)3年(2,300㎡)		184
234	津上	津上町	6式土器片	山形県55年(17,000㎡)		192
235	新橋町	山形市	6式土器片	山形県55年(6,000㎡)		191
236	藤の宮	山形市	6式土器片	山形県55年(800㎡)		190
237	いんかい	花塚町	5a, 5b, 6式土器片	山形県55年(2,000㎡)		189
238	台井	村山町	4式土器片	山形県55年(540㎡)		188
239	高崎山	宮内町	5, 6式土器片	山形県55年(200㎡)		194
240	むいへく寺	山形市	6式土器片、大塚作石	山形県59年(1,000㎡)		187
241	山田A	山形市	4, 5式土器片	山形県59年(500㎡)		185
242	石野野原	小塩町	4, 6式土器片	山形県59年(8,100㎡)		193
243	藤ノ原	米沢町	5a式土器片	米沢市12年(2,300㎡)		195
244	大塚山	米沢町	6式土器片	山形県59年(600㎡)59年(1,510㎡)		186
245	大清水	米沢町	3~6式土器片	山形県59年(4,500㎡)59年(1,000㎡)		196
246	塩味岩跡	西六津町	4, 5, 6式土器片	昭和61年(4年)(4,000㎡)		201
247	西津原	高田町	4, 5式土器片	昭和61年(4年)(5,000㎡)		203
248	五辻	坂下町	5式土器片	坂下町10年(398, 31㎡)		214
249	柳山	坂下町	5式土器片	坂下町10年(1,011㎡)		214
250	藤ノ原	米沢町	3~7式土器片	米沢市12年(1,400㎡)		213
251	津平沢	鶴岡町	6式土器片	新潟市12年(300㎡)		203
252	南谷沢	上郷町	3, 4式土器片	新潟県31年(3,100㎡)		207
253	丹沢	大沢町	4~5式土器片	新潟県34年(200㎡)		216
254	磯名部	大沢町	4~5式土器片	新潟県34年(6,220㎡)		204
255	上郷原	上郷町	3式土器片	新潟県		197
256	藤原	石川町	4式土器片	新潟県37年(4,000㎡)		199
257	藤原	石川町	4, 5式土器片	新潟県37年		199
258	山田中井原	郡山市	6式土器片	郡山市12年(200㎡)		211
259	大塚原	郡山市	6式土器片	郡山市12年(3,000㎡)		212
260	鶴ヶ原	小野町	6式土器片	新潟県34年(1,800㎡)		210
261	新ノ下	いわき市	5a式土器片	いわき市11年(3,550㎡)		202
262	横敷原	いわき市	2a~7a式土器片	いわき市59年(782㎡)		206
263	新ノ下	飯沼町	4, 5式土器片	新潟県37年(1,350㎡)		206
264	下ノ向A	飯沼町	5a式土器片	新潟県37年(300㎡)37年(7,300㎡)		207
265	向ノ口	飯沼町	5a式土器片	新潟県37年(3,600㎡)37年(200㎡)		206
266	新田、坂子	相馬市	4, 5式土器片	新潟県38年(5,800㎡)(1,810㎡)(1,700㎡)		200
267	地蔵原	旭川市	6式土器片	旭川市12年(4,450㎡)		208
268	金谷原	桑田町	河川下層式土器片			183
269	上川原	桑田町	1, 4, 7, 8, 10式土器片			183
270	中川原	桑田町	1, 3, 5, 8, 10式土器片			183
271	西川原	桑田町	1, 4, 6式土器片			183
272	原前山	桑田町	1~10式土器片			183
273	今熊野川	名取市	1~4式土器片			183
274	宇賀野川	名取市	4式土器片			183
275	北川原	仙台市	4~5b式土器片	仙台市12年(2,100㎡)		180
276	森原	仙台市	4式土器片、イナシク粘土製品、大塚作石	宮城県34年(1,000㎡)		181
277	浅野	仙台市	6式土器片	仙台市12年(1,720㎡)		182
278	井・高田	七ヶ浜町	6式土器片			183
279	藤・大田	七ヶ浜町	6~8式土器片			183
280	大田原	七ヶ浜町	1~10式土器片			183
281	蓮沼原	松島町	4, 5, 6式土器片			183
282	新入馬川	塩竈	5~7a式土器片			183
283	高妻川	塩竈町	3~6式土器片			183
284	高谷川	塩竈町	1~5式土器片			183
285	川・高田	塩竈町	10式土器片			183
286	高・高田	塩竈町	3, 4, 9式土器片			183
287	高田高田	塩竈町	1~10式土器片			183
288	高田高田	塩竈町	6式土器片			183
289	平田高田	塩竈町	1~6式土器片			183
290	七ヶ浜	石巻市	4, 6式土器片			183
291	高田高田	石巻市	3, 6式土器片			183
292	高田高田	石巻市	3, 6式土器片			183
293	高田高田	石巻市	3, 6式土器片			183
294	中川高田	河庄町	3b~5式土器片			183
295	高田高田	涌谷町	6式土器片			183
296	新山高田	小千川町	5式土器片			183
297	高田高田	南町	2~10式土器片			183
298	高田高田	南町	5~10式土器片			183
299	高田高田	南町	2~6式土器片			183
300	高田高田	遠町	4~10式土器片			183
301	高田高田	遠町	4~10式土器片			183
302	高田高田	遠町	4, 5, 8式土器片			183
303	高田高田	中田町	4~10式土器片			183
304	高田高田	敦津町	5~10式土器片			183
305	高田高田	気仙沼市	5~8a式土器片			183
306	高田高田	気仙沼市	5, 6, 7式土器片			183
307	高田高田	気仙沼市	1, 4~7式土器片			183
308	高田高田	柳井町	6式土器片			183
309	高田高田	柳井町	4式土器片			183

引用・参考文献 (II章)

参考文献 (括弧内の数字は第1表の文献番号も示す)

- (1) 法政大学文学部考古学研究室1990, 『法政大学所蔵 伊藤鉄夫・関大考古学資料目録 I - 伊藤陽夫収集資料編 -』
- (2) 法政大学文学部考古学研究室1996, 『法政大学所蔵 伊藤鉄夫・関大考古学資料目録 II - 伊藤鉄夫収集資料編 -』
- (3) 相原康二1981, 『江刺市史第五巻 資料編 考古資料』江刺市史編纂委員会
- (4) (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター2002, 『岩手県埋蔵文化遺産発掘調査報告 (平成13年度)』(第397集)
- (5) 佐藤浩彦1999, 『岩手県遠野市新田 II 遺跡』『考古学ジャーナル』451-ニューサイエンス社
- (6) 住田町史編纂委員会1997, 『住田町史第一巻 自然考古編』
- (7) (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター2002, 『小松 II 遺跡発掘調査報告書』(第392集)
- (8) (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1994, 『白木野 I・II・III 遺跡発掘調査報告書』(第200集)
- (9) (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1993, 『塚野 I・塚野 II 遺跡発掘調査報告書』(第199集)
- (10) (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター2001, 『清水ヶ野遺跡発掘調査報告書』(第351集)
- (11) (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1996, 『耳取 I 遺跡 A 地区発掘調査報告書』(第232集)
- (12) (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1996, 『耳取 I 遺跡 B 地区発掘調査報告書』(第232集)
- (13) (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1996, 『神山牧場 I 遺跡 B 地区範囲確認調査報告書』(第238集)
- (14) (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1999, 『神山牧場 I 遺跡 A 地区発掘調査報告書』(第291集)
- (15) (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター2000, 『神山牧場 I 遺跡 B 地区発掘調査報告書』(第320集)
- (16) 和賀町教育委員会1990, 『和賀町内遺跡分布調査報告書 II (山口・岩沢・仙人地区)』(第23集)
- (17) (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1993, 『人当 I 遺跡発掘調査報告書』(第193集)
- (18) 北上市教育委員会1993, 『蟹沢館遺跡発掘調査概報』(北上市埋蔵文化財調査報告第11集)
- (19) (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1985, 『新平遺跡発掘調査報告書』(第91集)
- (20) 草間俊一1971, 『岩手県江釣子村新平遺跡』『日本考古学年報19 (昭和41年度)』日本考古学協会編 誠文堂新光社
- (21) 岩手県教育委員会1982, 『東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書 XV』(第70集)
- (22) 江釣子村教育委員会1983, 『江釣子遺跡群 - 昭和57年度発掘調査報告 - (鳩岡崎上の台遺跡・蔵屋敷遺跡)』
- (23) (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1995, 『鳩岡崎上の台遺跡発掘調査報告書』(第240集)
- (24) 北上市史刊行会1968, 『北上市史第一巻 原始・古代(1)』
- (25) (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1998, 『唐戸崎 - 唐戸崎 II 遺跡発掘調査報告書』(第279集)
- (26) 北上市教育委員会1998, 『唐戸崎遺跡』(北上市埋蔵文化財調査報告第35集)
- (27) (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1990, 『物見崎遺跡 - 宝物館発掘調査報告書』(第137集)
- (28) 北上市教育委員会1985, 『高畑遺跡発掘調査報告』(北上市立博物館研究報告) 5
- (29) 北上市教育委員会1995, 『横町遺跡発掘調査概報』(北上市埋蔵文化財調査報告第21集)
- (30) (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1996, 『横町遺跡発掘調査報告書』(第236集)
- (31) (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1993, 『館 IV 遺跡発掘調査報告書』(第187集)
- (32) (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター2001, 『岩手県埋蔵文化財略報 (平成12年度)』(第370集)
- (33) 岩手県教育委員会1952, 『江刺郡稲瀬村標山遺跡調査予報』(第2集) <今回未見>
- (34) 岩手県教育委員会1954, 『江刺郡稲瀬村標山遺跡調査報告』(第3集)
- (35) 北上市教育委員会1968, 『北上市稲瀬町標山遺跡緊急発掘調査中間報告 (昭和42年度)』(北上市文化財調査報告第3集)
- (36) 北上市教育委員会1969, 『北上市稲瀬町標山遺跡緊急発掘調査報告 (昭和43年度)』(北上市文化財調査報告第7集)
- (37) 北上市教育委員会1990, 『標山遺跡 (1989年度)』(北上市文化財調査報告第59集)
- (38) 北上市教育委員会1996, 『標山遺跡 (1992・1998年度)』(北上市埋蔵文化財調査報告第25集)
- (39) (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1992, 『石宮遺跡発掘調査報告書』(第165集)
- (40) (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1993, 『法皇野 I 遺跡・中屋敷遺跡発掘調査報告書』(第182集)
- (41) (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1994, 『煤塚遺跡発掘調査報告書』(第196集)
- (42) (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1993, 『兵衛館跡・梅ノ木台地 II 遺跡発掘調査報告書』(第180集)
- (43) (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1991, 『梅ノ木台地 I 遺跡発掘調査報告書』(第162集)
- (44) 岩手県教育委員会1981, 『東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書 IX -』(第58集)
- (45) (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1990, 『岩崎城西遺跡発掘調査報告書』(第148集)

- (46) (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1992.『岩崎台遺跡群発掘調査報告書』(第176集)
- (47) (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1995.『岩崎台遺跡群発掘調査報告書』(第214集)
- (48) 北上市教育委員会1975.『鹿島館遺跡調査報告書Ⅰ』(北上市文化財調査報告第14集) <今回未見>
- (49) 北上市教育委員会1973.『北上市九子館遺跡調査報告書』(北上市文化財調査報告第12集)
- (50) 岩手県立博物館1982.『岩手の土器』
- (51) 北上市教育委員会1983.『滝ノ沢遺跡(1977~1982年度調査)』(北上市文化財調査報告第53集)
- (52) 北上市教育委員会1990.『滝ノ沢遺跡Ⅱ(1989年度調査)』(北上市文化財調査報告第60集)
- (53) 北上市教育委員会1991.『滝ノ沢遺跡Ⅲ(1984・86・87・88・90年度調査)』(北上市文化財調査報告第63集)
- (54) 北上市教育委員会1999.『滝ノ沢遺跡Ⅴ(1997年度調査)』(北上市埋蔵文化財調査報告第40集)
- (55) 北上市教育委員会1998.『成沢Ⅱ遺跡』(北上市埋蔵文化財調査報告第32集)
- (56) 金ヶ崎町教育委員会1973.『千貫石・長根前遺跡』
- (57) (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1987.『和光6区遺跡発掘調査報告書』(第114集)
- (58) 金ヶ崎町教育委員会1994.『上原遺跡』(第31集)
- (59) 岩手県教育委員会1981.『東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書-X(金ヶ崎地区)』(第59集)
- (60) (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1996.『沢田・仙人来遺跡発掘調査報告書』(第230集)
- (61) (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1998.『佐野原遺跡発掘調査報告書』(第327集)
- (62) 早間俊一1971.『第二編第三章 中島遺跡』『水沢の原始・古代遺跡』水沢市教育委員会
- (63) 胆沢町教育委員会1988.『浅野遺跡調査報告書』(第17集)
- (64) 小原正治1981.『第二章縄文文化時代』『第四章縄文文化時代の町内遺跡』『胆沢町史Ⅰ原始古代編』胆沢町史刊行会
- (65) 胆沢町教育委員会1994.『尼坂遺跡-第四次緊急発掘調査報告書-Ⅰ』(第25集)
- (66) 胆沢町教育委員会1996.『石行遺跡』(第27集)
- (67) (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター2001.『大清水遺跡発掘調査報告書』(第373集)
- (68) 胆沢町教育委員会1985.『大清水上遺跡調査報告書』(第15集)
- (69) 佐藤淳一2002.『大清水上遺跡-縄文時代前期後葉の環状集落-』『考古学ジャーナル』487ニューサイエンス社
- (70) (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター2001.『岩手県埋蔵文化財発掘調査略報(平成12年度)』(第370集)
- (71) (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1998.『下原IV遺跡発掘調査報告書』(第269集)
- (72) (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター2000.『灰谷Ⅰ遺跡B地区発掘調査報告書』(第343集)
- (73) 前沢町教育委員会1999.『町内遺跡詳細分布調査報告書Ⅱ 前沢地区』(第8集)
- (74) 前沢町教育委員会1997.『田高Ⅱ遺跡発掘調査報告書』(第4集)
- (75) 前沢町教育委員会2000.『町内遺跡詳細分布調査報告書Ⅲ 生島地区』(第10集)
- (76) 灰川村教育委員会1987.『上灰川地区遺跡詳細分布調査報告書』(第2集)
- (77) (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター2000.『上寺田遺跡・本巻遺跡発掘調査報告書』(第328集)
- (78) 一関市教育委員会1977.『庄町合遺跡発掘調査概要(第二次調査)』(第10集)
- (79) 遠藤輝夫1978.『第二章 原始時代』I-一関市史第1巻通史-。一関市史編纂委員会
- (80) 大東町教育委員会1989.『龍藏寺遺跡発掘調査報告書』(第22集)
- (81) (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1986.『考古遺物資料集』第6集
- (82) 佐々木彰1983.『遺跡にみる拡散化現象について』『法政考古学』8法政考古学会
- (83) 花巻市教育委員会1995.『花巻市内遺跡発掘調査報告書中野・遺跡久田野Ⅱ遺跡桜町遺跡』花巻市文化財報告書(第13集)
- (84) (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター2003.『岩手県埋蔵文化財発掘調査略報』(第423集)
- (85) (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1984.『小森林館発掘調査報告書』(第73集)
- (86) 大迫町教育委員会1974.『天神ヶ丘遺跡』大迫町文化財調査報告書
- (87) (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1991.『岩手県埋蔵文化財発掘調査略報』(159集)
- (88) 盛岡市教育委員会1989.『小山遺跡群(昭和63年度発掘調査報告)』
- (89) (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1985.『岩手の道跡』
- (90) (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1982.『御所ダム建設関連遺跡発掘調査報告書華石町下長谷地、元御所Ⅰ・Ⅱ遺跡』(28集)
- (91) (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1980.『御所ダム建設関連遺跡発掘調査報告書森岡市つなぎⅢ、つなぎⅣ、南の又、室ヶ沢Ⅰ・Ⅱ遺跡 宇右町広瀬Ⅱ遺跡』(13集)

- (92) 宇石町教育委員会2000、『小日谷地ⅠB遺跡発掘調査報告書』宇石町文化財報告書(第2集)
- (93) 宇石町教育委員会1999、『仁沢瀬Ⅰ遺跡発掘調査報告書』宇石町文化財報告書(第1集)
- (94) 滝沢村教育委員会1988、『外久保Ⅰ遺跡発掘調査報告書』滝沢村文化財報告書(第8集)
- (95) 滝沢村教育委員会1986、『耳取遺跡発掘調査報告書』滝沢村文化財報告書(第3集)
- (96) (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1998、『才津沢遺跡発掘調査報告書』(第278集)
- (97) (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1990、『岡原Ⅰ遺跡発掘調査報告書』(第156集)
- (98) (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1980、『東北縦貫自動車道開通遺跡発掘調査報告書松尾村野萩遺跡、寄木遺跡 西根町崩石遺跡』(第11集)
- (99) (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1979、『岩手県埋蔵文化財発掘調査略報』(第6集)
- (100) (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1986、『水神遺跡発掘調査報告書』(第96集)
- (101) (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1987、『飛鳥台Ⅰ遺跡発掘調査報告書』(第120集)
- (102) (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1986、『沼久保遺跡発掘調査報告書』(第109集)
- (103) (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1986、『安比内Ⅰ遺跡発掘調査報告書』(第106集)
- (104) (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1986、『田余内Ⅰ・Ⅱ遺跡発掘調査報告書』(第105集)
- (105) (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1985、『五塚Ⅰ遺跡発掘調査報告書』(第97集)
- (106) (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1985、『栢ノ木平Ⅲ遺跡発掘調査報告書』(第89集)
- (107) (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1999、『岩手県埋蔵文化財発掘調査略報』(第311集)
- (108) 三戸市教育委員会1981、『中竹根Ⅰ遺跡発掘調査報告書』
- (109) (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター2002、『長興寺Ⅰ遺跡発掘調査報告書』(第388集)
- (110) (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1998、『田代遺跡発掘調査報告書』(第262集)
- (111) (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1998、『江刺家Ⅳ遺跡発掘調査報告書』(第277集)
- (112) (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1996、『長倉Ⅴ遺跡発掘調査報告書』(第231集)
- (113) (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1999、『大鳥Ⅰ遺跡発掘調査報告書』(第290集)
- (114) (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1998、『大日向Ⅱ遺跡第6次～第8次発掘調査報告書』(第27集)
- (115) (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1983、『吠屋敷Ⅰb遺跡発掘調査報告書』(第63集)
- (116) 久慈市教育委員会1987、『大尻遺跡発掘調査報告書』久慈市文化財調査報告書(第7集)
- (117) 久慈市教育委員会1997、『田高Ⅰ遺跡発掘調査報告書』久慈市文化財調査報告書(第22集)
- (118) (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター2002、『岩手県埋蔵文化財発掘調査略報』(第397集)
- (119) 大東町教育委員会1999、『龍隔寺遺跡』大東町文化財調査報告書(第22集)
- (120) (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1992、『細野Ⅱ遺跡発掘調査報告書』(第170集)
- (121) 宮古市教育委員会1995、『花原市遺跡発掘調査報告書平成4年度発掘調査報告書』宮古市埋蔵文化財調査報告書(第46集)
- (122) 陸前高田市立博物館1981、『縄文時代の貝塚』
- (123) (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター2000、『岩手県埋蔵文化財発掘調査略報』(第340集)
- (124) (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1998、『岩手の貝塚』
- (125) (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1988、『打越・東角地遺跡・古館跡発掘調査報告書』(第131集)
- (126) 青森県埋蔵文化財センター1980、『大平遺跡発掘調査報告書東北縦貫自動車道建設予定地内埋蔵文化財発掘調査』青森県埋蔵文化財調査報告書(第52集)
- (127) 青森県埋蔵文化財センター1978、『熊沢遺跡発掘調査報告書東北縦貫自動車道建設埋蔵文化財発掘調査』青森県埋蔵文化財調査報告書(第38集)
- (128) 青森県埋蔵文化財センター1977、『水木沢遺跡発掘調査報告書一般国道279号線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査』青森県埋蔵文化財調査報告書(第34集)
- (129) 青森県埋蔵文化財センター1976、『白山堂遺跡・薬の神遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書(第30集)
- (130) 青森県埋蔵文化財センター1976、『五戸町中ノ沢西張遺跡・古舘道長坂遺跡発掘調査報告書一般国道4号線五戸バイパス関係発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書(第29集)
- (131) 青森県埋蔵文化財センター1975、『中ノ平遺跡発掘調査報告書青函トンネル資材運搬用道路建設工事関係発掘調査』青森県埋蔵文化財調査報告書(第29集)
- (132) 青森県埋蔵文化財センター1982、『山崎遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書(第68集)
- (133) 青森県埋蔵文化財センター1980、『飯留(2)遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書(第59集)

- (134) 青森県埋蔵文化財センター1989、『館野遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書(第119集)
- (135) 青森県埋蔵文化財センター1988、『上尾岐(1)遺跡C地区発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書(第113集)
- (136) 青森県埋蔵文化財センター1987、『山本遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書(第105集)
- (137) 青森県埋蔵文化財センター1987、『人添近辺遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書(第104集)
- (138) 青森県埋蔵文化財センター1994、『朝日山(3)遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書(第167集)
- (139) 青森県埋蔵文化財センター1995、『三内丸山(2)遺跡II発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書(第157集)
- (140) 青森県埋蔵文化財センター1994、『畑内遺跡I発掘調査報告書書世増ダム建設に係る埋蔵文化財発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書(第161集)
- (141) 青森県埋蔵文化財センター1992、『鳴沢遺跡・鶴岐(9)遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書(第142集)
- (142) 青森県埋蔵文化財センター1996、『四ツ後遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書(第188集)
- (143) 青森県埋蔵文化財センター1996、『戸沢川代遺跡・熊ヶ平遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書(第192集)
- (144) 青森県埋蔵文化財センター1995、『熊ヶ平遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書(第180集)
- (145) 青森県埋蔵文化財センター2000、『野木遺跡III青森中核工業団地整備事業に伴う遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書(第281集)
- (146) 青森県埋蔵文化財センター2000、『新町野遺跡II青森中核工業団地遊水地建設に伴う遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書(第276集)
- (147) 青森県埋蔵文化財センター1999、『下馬板遺跡国道38号道路改良事業に伴う遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書(第253集)
- (148) 青森市教育委員会2003、『稲山遺跡発掘調査報告書III』青森市埋蔵文化財調査報告書(第66集)
- (149) 青森市教育委員会2003、『近野遺跡発掘調査報告書』青森市埋蔵文化財調査報告書(第68集)
- (150) 青森市教育委員会2003、『澤沢(3)遺跡発掘調査報告書』青森市埋蔵文化財調査報告書(第67集)
- (151) 青森市教育委員会2000、『桜峠(1)・雲谷山吹(3)遺跡発掘調査報告書』青森市埋蔵文化財調査報告書(第51集)
- (152) 青森市教育委員会1996、『小牧野遺跡発掘調査報告書』青森市埋蔵文化財調査報告書(第30集)
- (153) 青森市教育委員会1995、『横内遺跡・横内遺跡(2)発掘調査報告書』青森市埋蔵文化財調査報告書(第24集)
- (154) 八戸市教育委員会1999、『八戸市内遺跡発掘調査報告書10新井田古館遺跡3~5地点・孤平遺跡第4次調査・重地遺跡蟹沢遺跡・根城跡下町第3地点・法雲林遺跡1~3地点・一王寺(1)遺跡5・6地点・毛合清水(2)遺跡・根城跡同前跡第10地点発掘調査報告書』八戸市埋蔵文化財調査報告書(第74集)
- (155) 八戸市教育委員会2002、『重地遺跡発掘調査報告書』八戸市埋蔵文化財調査報告書(第96集)
- (156) 弘前市教育委員会2001、『狼狐七面山遺跡発掘調査報告書弘前北部地区農林総合整備事業(農道松ヶ沢1号)に伴う発掘調査』
- (157) 八戸市教育委員会2001、『牛ヶ沢(4)遺跡II石灰石採掘表土堆積場設置事業に伴う第2~4次発掘調査平成9~11年度』八戸市埋蔵文化財調査報告書(第89集)
- (158) 十和田市教育委員会1984、『明戸遺跡発掘調査報告書』十和田市埋蔵文化財調査報告書(第3集)
- (159) 十和田湖町2001、『中里(2)遺跡発掘調査報告書』
- (160) 七戸町教育委員会2002、『矢倉遺跡発掘調査IV新規農道建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』七戸町埋蔵文化財調査報告書(第36集)
- (161) 上北町教育委員会1983、『上北町古賀敷貝塚I』上北町埋蔵文化財調査報告書(第1集)
- (162) 臨野沢村教育委員会1983、『潮野遺跡発掘調査報告書防災道路建設工事に伴う緊急発掘調査報告書』臨野沢村埋蔵文化財調査報告書(第2集)
- (163) 臨野沢村農林畜産課1998、『稲平遺跡発掘調査報告書県営臨野沢地区中山間地域総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』
- (164) 臨野沢村教育委員会1984、『貝崎遺跡発掘調査報告書』臨野沢村埋蔵文化財調査報告書(第3集)
- (165) 秋田県教育委員会1996、『蟹ヶ澤遺跡東北横断自動車道秋田線発掘調査報告書XX』秋田県埋蔵文化財調査報告書(第261集)
- (166) 秋田県教育委員会1988、『上ノ山I遺跡・館野遺跡・上ノ山II遺跡東北横断自動車道秋田線発掘調査報告書II』秋田県埋蔵文化財調査報告書(第166集)
- (167) 秋田県教育委員会1984、『館平線I遺跡・館平線II遺跡・白長根線I遺跡・白長根線II遺跡・丹巻遺跡・道合I遺跡・道合II遺跡・大谷II遺跡・大谷III遺跡・印川原遺跡・大谷IV遺跡東北縦貫自動車道発掘調査報告書XI(1)』(第120集)
- (168) 秋田県教育委員会1984、『はりま線遺跡・横橋遺跡・大谷I遺跡東北縦貫自動車道発掘調査報告書X』秋田県埋蔵文化財調査報告書(第166集)

- 金報告書(第109集)
- (169) 秋田県教育委員会1999, 『尚前遺跡(第1次) 県営オートキャンプ場建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ』秋田県埋蔵文化財調査報告書(第290集)
- (170) 秋田県教育委員会1999, 『池内遺跡国道103号道路改良事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅸ』秋田県埋蔵文化財調査報告書(第282集)
- (171) 秋田県教育委員会1996, 『I野遺跡秋田外環状道路建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅳ』秋田県埋蔵文化財調査報告書(第265集)
- (172) 秋田県教育委員会1993, 『萩の台Ⅱ遺跡国道103号道路改良工事に係る埋蔵文化財発掘調査報告書ⅤⅡ』秋田県埋蔵文化財調査報告書(第236集)
- (173) 秋田県教育委員会1991, 『上ノ山Ⅰ遺跡(第2次調査) 国道103号道路改良工事に係る埋蔵文化財調査報告書Ⅳ』秋田県埋蔵文化財調査報告書(第211集)
- (174) 秋田県教育委員会2003, 『和川Ⅲ遺跡養老道整備事業金岡西部地区に係る埋蔵文化財発掘調査報告書』秋田県埋蔵文化財調査報告書(第350集)
- (175) 秋田県教育委員会2001, 『根下Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡人蛇西道路建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ』秋田県埋蔵文化財調査報告書(第330集)
- (176) 秋田市教育委員会1985, 『曙崎A遺跡・下堤F遺跡秋田臨空港新都市開発関係埋蔵文化財発掘調査報告書』
- (177) 秋田市教育委員会1985, 『瀬ノ沢B遺跡秋田臨空港新都市開発関係埋蔵文化財発掘調査報告書』
- (178) 大館市教育委員会1972, 『大館市餅田根下戸造下子掘沢遺跡発掘調査報告書』
- (179) 秋田県教育委員会1981, 『杉沢台遺跡・竹生遺跡発掘調査報告書』秋田県埋蔵文化財調査報告書(第80集)
- (180) 仙台市教育委員会1991, 『北原街道B遺跡(仙台市宮城地区)』仙台市埋蔵文化財調査報告書(第181集)
- (181) 宮城県教育委員会2003, 『高倉口塚』宮城県埋蔵文化財調査報告書(第192集)
- (182) 仙台市教育委員会1982, 『北前遺跡発掘調査報告書』仙台市埋蔵文化財調査報告書(第36集)
- (183) 東北大学考古学研究会1995, 『縄文時代晩期貝塚の研究2中沢貝塚Ⅱ』
- (184) 山形県教育委員会1985, 『吹浦遺跡第2次緊急発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書(第93集)
- (185) 山形県教育委員会1987, 『新山A遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書(第109集)
- (186) 山形県教育委員会1986, 『大塚B・C遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書(第103集)
- (187) 山形県教育委員会1983, 『にひくろ遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書(第92集)
- (188) 山形県教育委員会1984, 『作野遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書(第83集)
- (189) 山形県教育委員会1983, 『いるかい遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書(第69集)
- (190) 山形県教育委員会1981, 『郷の森』遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書(第50集)
- (191) 山形県教育委員会1981, 『東奥野B遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書(第41集)
- (192) 山形県教育委員会1981, 『水上遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書(第41集)
- (193) 山形県埋蔵文化財センター2000, 『野向遺跡・市野野向原遺跡・千野遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター埋蔵文化財調査報告書(第71集)
- (194) 寒河江市教育委員会2003, 『高瀬山遺跡平成14年度市道鳥落衣改良事業』寒河江市埋蔵文化財調査報告書(第25集)
- (195) 米沢市教育委員会1994, 『碓ノ原遺跡発掘調査報告書』米沢市埋蔵文化財調査報告書(第43集)
- (196) 米沢市教育委員会1986, 『大清水遺跡米沢市方世明寺山開地造成地内』米沢市埋蔵文化財調査報告書(第17集)
- (197) 福島県教育委員会1996, 『連中久保遺跡・上森原遺跡・飯倉前D遺跡・佐平林(VI区)遺跡・水内古墳群岡宮総合農地開発事業丹波地区遺跡発掘調査報告書』福島県埋蔵文化財調査報告書(第328集)
- (198) 福島県教育委員会1983, 『栗所堂遺跡・蓬入遺跡栗木内遺跡岡宮総合農地開発事業栗木内地区遺跡発掘調査報告書』福島県埋蔵文化財調査報告書(第117集)
- (199) 福島県教育委員会1982, 『磨谷A遺跡・又兵衛田A遺跡・戸原塚岡宮総合農地開発事業母塚地区遺跡発掘調査報告書ⅤⅢ』福島県埋蔵文化財調査報告書(第106集)
- (200) 福島県教育委員会1990, 『師山遺跡・双子遺跡・山中遺跡・唐崎遺跡・南川尻A・南川尻B・今神遺跡・大森遺跡・古川尻B遺跡・明神前B遺跡・明神前C遺跡・藍塚遺跡相馬開発関連遺跡調査報告書Ⅱ』福島県埋蔵文化財調査報告書(第234集)
- (201) 福島県教育委員会1994, 『六部次遺跡・塩喰遺跡東北横断自動車道遺跡調査報告書25』福島県埋蔵文化財調査報告書(第234集)
- (202) 福島県教育委員会1993, 『小滝遺跡・滝遺跡・朝ヶ館遺跡(第1次調査) 東北横断自動車道遺跡調査報告書21』福島県埋蔵文化財調査報告書(第234集)

- 化財調査報告書（第292集）
- (203) 福島県教育委員会1991、『法正尺遺跡東北横断自動車道遺跡調査報告11』福島県埋蔵文化財調査報告書（第243集）
- (204) 福島県教育委員会1990、『桑名郡遺跡（第2次）国営総合農地開発事業茨吹地区遺跡調査報告6』福島県埋蔵文化財調査報告書（第226集）
- (205) 福島県教育委員会1990、『中宿遺跡・上野A遺跡・青宮西遺跡・三ノ刈遺跡・水上遺跡国営宮津農業水利事業関連遺跡調査報告VⅢ』福島県埋蔵文化財調査報告書（第227集）
- (206) 福島県教育委員会1988、『松ヶ平B遺跡・若下A遺跡・羽白D遺跡・宮内B遺跡真野ダム関連遺跡発掘調査報告X1』福島県埋蔵文化財調査報告書（第193集）
- (207) 福島県教育委員会2003、『南倉沢遺跡・稲上場遺跡一般国道289号南倉沢バイパス遺跡発掘調査報告1』福島県埋蔵文化財調査報告書（第409集）
- (208) 福島県教育委員会2001、『地蔵原遺跡平成12年度福島県消防学校改築整備事業関連埋蔵文化財発掘調査報告書』福島県埋蔵文化財調査報告書（第143集）
- (209) いわき市教育委員会1996、『網取貝塚（第1次・2次調査報告）』いわき市埋蔵文化財調査報告書第（第45冊）
- (210) いわき市教育委員会2001、『松ノ下遺跡一般県道旅人勿線内遺跡発掘調査報告2』（第75冊）
- (211) 郡山市教育委員会1989、『無蔵基地建設関連中山山照出遺跡第2次調査報告』
- (212) 郡山市教育委員会1989、『郡山市総合地方卸売市場建設事業関連大槻河原遺跡発掘調査報告』
- (213) 会津若松市教育委員会2002、『会津レクリエーション公園整備に係る発掘調査嵯山原遺跡発掘調査報告4』
- (214) 坂下町教育委員会2003、『山崎山遺跡（2次）・宇内古屋敷遺跡・五日遺跡・勝負沢遺跡・南山ノ下遺跡泉宮かんがい排水事業発掘調査報告書』坂下町埋蔵文化財調査報告書（第55集）
- (215) 坂下町教育委員会2000、『山崎山遺跡福島県泉宮かんがい排水事業発掘調査報告書』坂下町埋蔵文化財調査報告書（第52集）
- (216) 福島県教育委員会1978、『東北新幹線関連遺跡発掘調査報告書』福島県文化財調査報告書（第80集）
- (217) (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター2004、『宝性寺跡発掘調査報告書』（第441集）
- (218) (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター2002、『新田遺跡発掘調査報告書』（第405集）
- (219) (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター2004、『大中田遺跡発掘調査報告書』（第429集）

胆沢町 1971、『胆沢町史Ⅰ 原始古代編』

胆沢町教育委員会 1985、『大清水上遺跡発掘調査報告書』胆沢町埋蔵文化財発掘調査報告書第15集。

草間俊一・伊藤鉄夫 1963、『富沢原・大清水上遺跡』胆沢町教育委員会

岩手県教育委員会 1999、『岩手県文化財包蔵地一覧』

大上和良・遠藤真哉・村井貞允 1977、『ボーリング資料にもとづく北上低地帯の地下地質（その1）—盛岡市付近—』岩大工研報vol.1:21~29.

大上和良・吉田 光 1984、『北上川中流域、胆沢郡状地における火山灰層序。岩手大学工学部研究報告 37:69-80.

大上和良・町田瑞男・吉田 光 1986,『岩手県、胆沢郡状地地域に分布する火山灰のフィッシュ・トラック年代』第四紀研究 24(4):309-313.

小原眞一 2000,『原前Ⅱ遺跡B地区発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第343集。

木野義人 1963,『5万分の1表層地質図 水沢Ⅰ』経済企画庁 P42.

北村 信 1969,『岩手県南西部の地質構造発達史について』東北大学地古研邦報 47:1-20.

斎藤孝治 1983,『層状地の形態・構造の統計分析による岩質供給量と河床変化の時代変遷』地理学評論56-2:61-80.

酒井宗孝 1999,『原前Ⅱ遺跡A地区発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第288集。

杉沢昭太郎 1997,『下原岡Ⅱ発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第252集。

中川久夫⁴⁾ 1963b,『北上川中流域の第四系および地形』地質学雑誌96:811

渡辺清久 1991,『北上低地帯における河成段丘面の橋年および後期更新世における岩質供給』第四紀研究30-1:19-42.

III 調査・整理の方法と経過

1 野外調査

(1) 調査区の設定 (第7・8図)

調査範囲は胆沢川により形成された河岸段丘の段丘面上に位置する。岩手県教育委員会文化課による試掘調査および現況の地形判断等から、平成12年度当初は4,960㎡が調査区として設定された。その後、野外調査を終了し、室内整理に入ったところで、岩手県教育委員会文化課(現生涯学習文化課)から遺構の配置ならびにその連続性を考慮し、遺跡の範囲を変更するという文書が入った(平成12年12月26日教文第1145号)。その結果、面積も当初の4,960㎡から10,630㎡へと変更となった。

平成13年度は前年度調査区の南側で、遺構の続きが確認されている区域約3,000㎡が調査区として設定されたが、更に遺構が南側と東側へ続くことが明らかとなったことと、遺構・遺物が予想以上に出土したことから、予定期間内の調査終了が困難となり、次年度以降も調査を継続することとなった。

平成14年度は前年度未終了分1,000㎡に加えて遺跡南側のため池沿いの区域2,200㎡、さらに遺跡北側の水源涵養保安林区域8,800㎡の合計12,000㎡が調査区として設定された。調査の経過でも述べているが、このうち5,000㎡の調査を終了し、残りの7,000㎡については精査途中(断面まで)で調査を中断した。

平成15年度は前年度未終了分7,000㎡に新規調査区として3,000㎡を加えた合計10,000㎡の調査面積が設定された。ところが、調査の経過でも述べられているように調査区域に変更が生じることとなり、結果として平成15年度の発掘調査面積は11,200㎡となり、7月31日まで調査を行った。

平成16年度は過年度調査区内を東西に走る町道分、3,000㎡(長さ約470m、平均幅6.4m)が調査区として設定された。

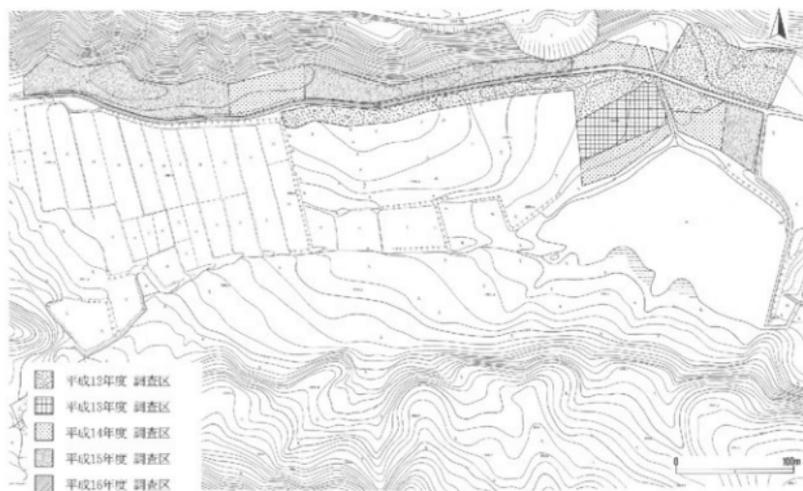
グリッドは公共座標第X系に基づき、西から東へA・B…、北から南へI・II…となる大グリッドを設定し、さらに大グリッド内を東から西へa～jに、北から南へ1～10にそれぞれ10分割して小グリッドとした。大グリッドは50×50mを単位とし、小グリッドは5×5mが単位である。

基準点の国土座標(日本測地系)は付図の一覧表に掲載した通りである。これにより、グリッドラインは東西南北の方向と合致する。

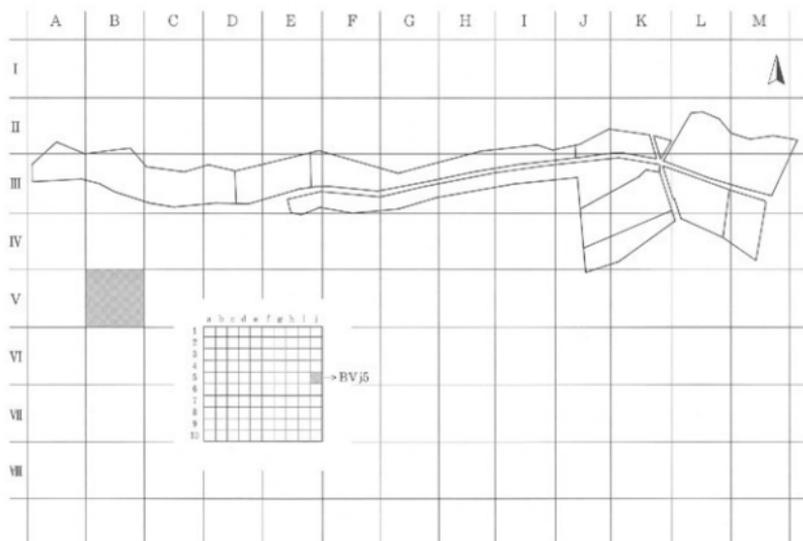
(2) 粗掘、検出、精査

平成12年度調査区は表採でかなりの量の土器片が確認されており、岩手県教育委員会生涯学習文化課による試掘調査結果では遺物包含層という判断であった。ところが調査を開始したところ、遺物を含んだ層は実は耕作を受けた攪乱層であることが判明した。そこで、遺構検出のため攪乱層を除去することから作業をはじめた。攪乱層の除去にあたっては、あらかじめ調査区を縦断するように数本設定した幅30cmの試掘トレンチにて土層を確認し、掘り下げる面を確認しながら行い、遺物が大量に確認された区域(LII～LIIIグリッドの境目付近)はすべて人力により掘り下げた。また、遺物のほとんど確認されなかった調査区東端と西半部に関しては重機(バックホー)により検出面まで一気に掘り下げた。その後、人力によりジョレンを掛けて遺構を検出し、検出されたものについて精査を行った。

平成13年度調査区については、前年度の反省と調査期間の制約からあらかじめ攪乱層の厚さを地点毎に確認し、一気に重機(バックホー)で取り除いた後、人力でジョレンを掛けて検出を行い、検出された遺構について精査を行った。



第7図 調査区全体図



第8図 グリッド配置図

平成14年度調査区についても前年度調査の方針を踏襲し、重機（バックホー）による検出面までの掘り下げと人力によるジョレンがけを行って遺構の検出を行った。遺跡北側の水源涵養保安林区域については、業者による立木伐採の後、雑物撤去→表土除去→検出の順で作業を行ったが、伐採後残された切り株と遺構が重複している場合も多く、より精度の高い検出結果を求めるためには地山面より上部の切り株の除去が必須となった。そこで、検出作業と並行して調査区内の切り株の除去も行った。

平成16年度は町道下の調査であったため表土が非常に固くしまり、人力で攪乱層の厚さを確認することは困難であった。そのため、隣接する過年度調査区の検出面にあわせて重機（バックホー）で掘り下げを行った。しかし長年道路を往来する車により填圧され、検出面下まで攪乱層である礫が食い込んでおり、これらを取り除く作業を必要とした。礫部分など厚く礫が入り込んでいる部分は重機での除去、残りは人力で行った。このため、過年度検出面よりも下位での検出となってしまった（Ⅲ～Ⅳ層）。

精査は遺構の性格に応じ断面を設定している。ただし、土坑の一部については手掘りにより断面を記録していないものがある。遺構内の遺物は林面、底面のものは平面位置を記録して取り上げ、覆土中の遺物はできるだけ層位毎に取り上げた。遺構外の遺物については基本的にグリッド単位で層位毎の取り上げとした。Ⅳ層以下については、フラスコ状土坑や陥し穴状遺構のように、Ⅳ層を深く掘り込んでいる遺構の底面や壁面において縄文時代以前（旧石器時代）の遺構や遺物は確認されなかった。しかしながら、取り上げた遺物の中には旧石器ではないかと疑うことのできるものが数点含まれていたため、縄文時代の遺構について精査を終了したのち、遺物の出土した付近約1,000㎡について、グリッドごとに2×2m、深さ約50cmの升目状のトレンチを設定し、検出を行った。検出作業の結果、旧石器期に該当すると思われる遺構・遺物は確認されなかった。

（3）実測、写真撮影

実測は簡易造り方、平板を併用し原則として1/20で行い、塹土・埋設土器等の平面・断面等については1/10で行った。写真撮影は中判カメラ1台（白黒）、35mmカメラ2台（白黒、カラーリバーサル）を使用した。航空写真は調査の最終段階で年度毎に委託業務として行った。

（4）遺構名

平成12年度の遺構名は101番から遺構種類別、検出区域別におもに検出順に登録した。調査区は東西に走る町道を境として大きく南北に区画され、さらに南側の区域は調査区に隣接するため池へ水を供給するための水路により東西に区画され、全部で3つの区画によって構成されている。したがって道路北側の遺構名は100番台、南東側は200番台、南西側は300番台の遺構名を使用した。

平成13年度の遺構名については、前年度の遺構の続きはそのままの遺構名を使用し、それ以外に新しく検出した遺構については401番から登録した。

平成14年度も同様に、前年度登録済みの遺構の続きはそのままの遺構名を使用した。新たに検出した遺構については区域毎に500番台（遺跡南側）と600番台（遺跡北側）とに分けて登録した。

平成15年度についても同様である。新たに検出した遺構は区域毎に700番台（遺跡西端部）、800番台（遺跡東端部）とに分けて登録した。

平成16年度についても同様に前年度登録済みの遺構（613・615・617・620・621・626・710号陥し穴）の続きはそのままの遺構名を使用した。新たに検出した遺構は900番台として登録した。

現地で登録した遺構名は変更せずそのまま使用しているため、一部に欠番が生じている。また、登録時に遺構の種類判断に迷う場面が生じたため（円形や楕円形のシミを陥し穴とするか土坑とするか）、基本的

に溝状の細長いものを陥し穴とし、それ以外はすべて上坑で一括して登録した。したがって、上坑として登録したものの中に、陥し穴の機能を有するとおもわれるものが含まれている。

2 調査経過

〔平成12年度〕

平成12年度当初、大清水上遺跡の調査区面積は4,960㎡、隣接する大清水遺跡の調査区面積が14,500㎡であった。以下調査経過について述べるが、基本的に遺跡の東から西に向かって遺跡跡にまたがる範囲を4月下旬から11月下旬までかけて調査を進めていった。その後、野外調査終了後に遺跡の範囲変更が行われたため、最終的な調査区の面積は大清水遺跡9,120㎡、大清水上遺跡10,630㎡となった。本文中の遺跡名については変更後のものを使用しているが、前述のように調査終了後の変更であったため、文中にて矛盾する部分若干生じている可能性があることをつけ加えておく。結果として見るならば、平成12年度における大清水上遺跡としての発掘調査期間は4月18日～11月22日までであったが、実質的な野外調査期間は7月3日～11月22日までであった。

〔平成13年度〕

平成13年度は前年度調査区に隣接した南側部分3,000㎡の範囲について、8月1日～11月16日まで調査を行ったが、限られた期間で検出した全ての遺構の調査を終えることはできず、結局2,000㎡の調査を終了し、残り1,000㎡は次年度以降に繰り越すこととなった。

〔平成14年度〕

平成14年度は前年度未終了分1,000㎡と新規調査区11,000㎡の合計12,000㎡について、4月11日～11月19日まで調査を行った。遺構・遺物等の出土状況もさることながら、水源涵養保安林区域の伐採許可が発掘調査開始後となったこと、遺跡を縦断する町道の削制手続きとその方法、あるいはこの年に発足した「胆沢ダム大清水上遺跡調査委員会」の助言に基づいた調査など、調査方法に関する種々の制約が多い年度であり、結局調査区全体の検出は終えたものの、精査・実測まで終了することができたのは5,000㎡で、残り7,000㎡は次年度繰り越しとなった。

〔平成15年度〕

平成15年度調査は、前年度未終了分7,000㎡に新規調査区として3,000㎡を加えた合計10,000㎡の調査面積が設定され、4月10日から調査を開始した。この年の調査計画としては、前年度検出済みで精査途中の段階であった遺構の完掘と新規追加分の調査を予定していた。ところが、5月6日に開かれた「大清水遺跡調査委員会」の結果、集落北側部分にあたる検出済み区域については今年度未着手とし、かわりに集落東側の検出区域をさらに広げ、遺跡全体の範囲を確認してはどうかとの意見が出され、委託者、県教委に埋蔵文化財センターが加わり協議した結果、調査面積の変更ならびに追加が生じることとなり、後に県教委よりその通知を受けた（5月29日付教生第312号）。この結果、平成15年度の発掘調査面積は11,200㎡に変更となり、7月31日まで調査を行った。

〔平成16年度〕

平成16年度調査は、過年度調査区内を東西に走る町道分3,000㎡（長さ470m、平均幅6.4m）を調査区とした。9月15日から調査を開始し11月5日で終了した。

3 室内整理と報告書の作成

(1) 遺構図面

室内整理においては、現場で記録した遺構の平面図、断面図を照合・合成し遺構図版原稿とした。また、必要に応じ、エレベーション図の作成も行った。遺構の計測値に関しては、基本的に以下の基準に基づいている。

- ①長径・短径：長径は長軸方向の上端間の最大距離、短径は長軸・長辺に直交する軸で、上端間の最大の距離を計測した。
- ②壁高：上端最高部と床面（底面）最低部の差を壁高とした。ただし、周溝・柱穴等は含めていない。
- ③壁の角度：基本的には断面図における底面と壁との角度をもって壁の角度とした。表現としては角度30度未満を「緩やか」、30～45度未満を「比較的緩やか」、45～60度未満を「比較的急」、60度以上を「急」として使用している。
- ④柱穴間距離：柱痕跡の明確なものはその中心、柱痕跡が不明なものは柱穴の中心の距離を計測した。
- ⑤柱穴の深さ：上端で最も高い部分と底面の高低差を計測した。
- ⑥計測値（規模：径・面積など）は、完全に把握できたものについては実数で表し、調査区域外や重複などにより部分的にした把握できなかったものについては残存値を（ ）内数値で表した。

(2) 遺物

遺物は水洗→注記→接合・復元→掲載遺物の選別→実測→トレース→写真撮影→図版原稿作成→収納といった手順で整理を行った。実測にあたっては、土器に関しては完形品の他、径を復元できる資料、立体的で採扱が困難な資料を選び実測を行ったが、一部文様等を拓影で表したのものもある。石器に関しては器種毎に使用面等を図化する方向で展開方法の選択を行った。計測値については、実測図（写真）の縦方向の最大値を長さ、横方向の最大値を幅として掲載している。また、土器の底面については、床面に接する部分の最大値を底径として計測した。

(3) 用語について

一般的に報告書中、特に遺構や遺物の事実記載において使用される用語（考古学用語もしくは発掘調査用語？）について考えた場合、報告書（執筆者、調査担当者）によって、用語の意味する具体的内容が、読み手の意図した意味と比較して、若干の（時に著しい）齟齬をきたしている場合が少なくないと考える。そこで、遺構あるいは遺物をより深く、正確に理解し、書き手と読み手の間に生じる誤解を極力少なくするため、少なくとも報告書内における用語の具体的内容を明確にしておくことが必要であると考え、遺構あるいは遺物の事実記載において使用されるおもな用語の、本報告書内における意味付けを以下に示した。

<大形住居>

本遺跡において確認された住居址の大部分は、長方形ないしは楕円形の平面形をなすいわゆる「大形住居（大形住居）」と呼ばれるものである。この「大形住居址」という用語については石井（2000）も述べているように、様々な方面からの規定が試みられているものの実際のところ明確な規定ならびに具体的根拠はなく、その使用については研究者や報告者の判断にまかされているのが現状である。同様に「大形」と「大型」の使い分けに関する問題についても「大形」は一連の遺構、遺物における内的な差を示すのに対し、「大型」はそれ自体が一つの独立した文化事象を区別する属性を示す」という小川（1985）の主張を念頭に

置くとすれば、安易に「大型住居」という表現を使用することは躊躇せざるを得ない。したがって、本報告書においては前述した点を考慮し、「大形住居」という表現で統一することとし、引用ならびに他の遺跡の報告書等において「大型」が用いられている場合にはそれに従って表記している。

<小形竪穴>

大形住居と重複あるいは隣接する区域に確認された遺構で、機能的には住居跡の機能も考えられるとしたものである。平面形は円形で掘り込みは大形住居より深い。また支柱穴を中央部に1本だけ有し、炉は持たないなどの特徴がある。

<重複・建替え・拡張・縮小>

遺構の重なりが確認された場合、それを重複とし、平面および断面観察によってできるかぎり新旧関係の把握に努めた。さらに住居跡の場合、支柱穴、周溝、炉の配置などから主軸（長軸）を想定し、軸線の角度（おおむね30度以内）がずれる場合、もしくは位置が平行にずれる場合、これを建替えと呼ぶことにした。また、軸線をほぼ同一にしつつ、床面の増減が考えられる場合、これを拡張・縮小と呼ぶことにした。これらの用語は後者ほど限定的な意味合いとして使用しており、「重複>建替え>拡張・縮小」という順で、より限定的となる。

<人為堆積・自然堆積>

観察している上層への混入物の種類（炭化物、焼土、地山ブロックなど）と割合、堆積の状況（分層線の歪み具合）から、混入物が多く不規則な分層線をなすものは人為堆積の要素が強いという基本的観点に立ち、総合的に判断した。

<床面直上>

遺構あるいは覆土の状況にもよるが、基本的にはいわゆる床面に堆積した覆土の1層目まで（床面からの高さ20cm以内）は床面直上扱いとした。従って遺物の出土状況などについての標記は、これに基づく。

<炉空間>

炉を中心として支柱穴に囲まれた空間を「炉空間」とした。この名称は菅谷（1987）によるもので、彼によれば住居内部の中核的な居住空間と認識されている。これは大形住居の居住者、「家族」制度、果たした機能などについて考察していく上で重要な概念であると考えられる。一基の炉+支柱穴によって構成される空間を炉空間の一単位とした。

<貼り床>

床面の平面的観察から、地山ブロックならびに黒色土などの混入する床面を検出し、断面観察によって人為的に貼ったものであると明確に確認できる場合に、これを貼り床と呼ぶことにした。また、断面に明確にあらわれず、床面を貼ったとは確認できないが、他の床面に比べて硬化の度合いが異なっているような場合には、踏みしめによる床面の硬化とした。

<時期>

本遺跡、特に集落とその周辺地域において出土している遺物のほとんどは、縄文時代前期末大木5式に相当するものと考えている。したがって、本文中における遺構・遺物の所属する時期については、大木5式期を大前提としているためその都度記述はしておらず、この時期から逸脱すると思われるものについてのみ記述することとした。

（4）文章表現について

本報告書を書きすすめるにあたっては、発掘調査ならびに考古学の専門家以外にも、一般の方の目に触れる可能性が十分あることを考慮しながら、以下に述べたような点に留意して執筆を行った。しかしながら、

場合によっては読みにくいと感じられる部分も存在する可能性はある。

報告書の文章については、極力平易な表現に終始できるよう努力した。とくに日常使用することがほとんどなく、考古学の報告書でしか日にする機会がないと思われる「…を測る」、「…を呈する」などという言い回しはできるだけ使用しないようにした。また、埴（1992）が述べているように「辞書にもないような普通人にはどうもいわからない、といては学術用語というにはおかしい穴掘屋の隠語」と考えられる不可解な用語や表現についても気を遣ったつもりである。個人的見解になるが、上記のような形式的な部分の言い回しや用語に終始している報告書ほど、読み手側から見た場合に必要事実記載やデータの内容に乏しい傾向がうかがわれると感じることが多いためである。

引用・参考文献（Ⅲ章）

- 石井 寛 2000. 「遺構研究 大形住居址と大形建物跡」『縄文時代』第10号。
小川 肇 1985. 「縄文時代の「大形住居」について（その1）—その定義と機能をめぐる若干の考察—」『東京大学文学部考古学研究室研究紀要』第4号。
小川 肇 1989. 「縄文時代の「大形住居」について（その1）—定義と機能に関する総論—」『東京大学文学部考古学研究室研究紀要』第7号。
沼澤 恭 1999. 「報告書の文章」『千葉県文化財センター『研究連絡誌』第55号』
埴 静夫 1992. 「何とも不可解な用語」『考古学ジャーナル』No.345
福島県文化センター遺跡調査課 1991. 『報告書作成の手引き』
盛岡市教育委員会文化財調査室 1990. 『発掘調査資料整理マニュアル』

IV 検出された遺構

1 住居跡

101号住居跡（第9・10図、写真図版3～5）

【位置・検出状況】 KⅢj1～j3、LⅢa1～a2、LⅢb1グリッドにかけて位置する。当初は道路北側部分において上部攪乱層を除去したところ円形を基調とする大形のシミを検出したため、101号住として登録し精査をすすめた。ところが、その後遺構が道路下にまで延びていることがわかり、道路を削りして調査を行うことになった。そうしたところ、既に道路南側に検出されていた住居跡（204号住として登録）と同一の大形住居跡になることが判明したため、204号住を101号住に繰り入れ登録変更した。

【重複】 126号土坑、216号土坑と重複する。126号土坑については断面記録を欠くが、精査時の状況から101号住の方が古いことを確認している。また、216号土坑についても断面・平面の観察から101号住の方が古いことを確認した。

【平面形・規模】 平面形は長楕円形で、規模は長径が16.6m（確認可能部分のみ、推定最大長径は20.6m）、短径が最大7.4mである。

【覆土・堆積状況】 自然堆積と思われる。覆上下部の床面に近いところでは褐色土主体で炭化物粒が混入している。その上部を黒色土が覆っている。

【壁・床面】 遺構を巡る周溝によって平面形を確認しており、明確な掘り込みは確認していない。周溝から床前中央部に向かってはスロープ状に緩やかな傾斜がついており、徐々に高度を減じていくが、柱穴が配置される付近を境として若下の段差が確認される。すなわち、床面中央部よりも周囲が若干高くなりテラス状をなしている。

【柱穴】 ピットを19基確認した。これらの配置、底面レベル等を総合的に判断し、Pit4・3・8・11・12・13・17・18・19をこの住居に伴う主柱穴と判断した。柱穴間の距離は梁行が3.5m～4.5m、桁行は2.5～3.1mの間におさまっている。

【炉】 6基確認している。いずれも地床である。炉3を除く他の炉は住居の長軸線上に配置されている。炉空間は確認できるもので3単位であるが、柱穴配置から推測すると4単位以上存在する可能性がある。

【出土遺物】 Na1～29の上器、Na1～3の土製品、Na1～17・54の刺片石器・石製品、Na1～6・23の礫石器が出土している。住居北東端のテラス状部分において覆土中からはNa18の有孔石製品が出土している。出土土器の大半は大木5式であるが、一部大木6式と思われるものも含まれている。（第1・2・46～48・177・186・187・236図、写真図版152・153・226・230・252）

102号住居跡（第11・12図、写真図版6・7）

【位置・検出状況】 MⅢc4～c6、MⅢd5～d6グリッドにかけて位置する。Ⅱ層下部まで掘り下げたところ、道路際にて地山とは若干色の異なる黒っぽいシミを検出したためベルトをかけて掘り進めた。すると当初地山と思っていた部分は、よく観察すると微妙に色が違っており移植ベラの感触もやや違うことに気がついた。そこでこれを頼りに掘りすすめることにした。その結果、長軸に沿ってほぼ等間隔に焼上が検出され、これが穴になることが判明し住居跡として登録した。遺構の北側部分に関しては、標高が低くなっているため明確な壁のラインを検出することはできなかった。

【重複】 125号土坑と重複する。断面の観察から125号土坑が102号住居跡を切って構築されており、102号

住居跡の方が古いことを確認した。

【平面形・規模】 平面形は長楕円形で、規模は長径が推定で12.4m、短径が最大5.9mである。

【覆土・堆積状況】 覆土は暗褐色土主体で、炭化物粒ならびに黄褐色土粒が混入する。自然堆積と思われるが、それ自体が非常に薄く、また木根による攪乱も激しいため、地山と覆土との判別が難しい状況であった。

【壁・床面】 わずかながら確認できた壁の傾斜は緩やかで、高さは10～20cm程度である。101号住と同様に柱穴の配置される部分を境として、床面中央付近よりも周囲のほうが若干高まってテラス状をなしている。

【柱穴】 ピットを16基確認した。これらの配置、底面レベル等を総合的に判断し、Pit 1・2・5・6・9・10・13・15・16が102-a住を、Pit 3・4・7・8・11・12・14が102-b住を構成するものとした。

【炉】 合計3基確認している。いずれも地床炉で住居の長軸線上に等間隔（約2.7～2.8m）で配置される。炉空間は102-a住において3単位確認される。

【出土遺物】 Na30～39の土器、Na19・20の剥片石器、Na 9の礫石器が出土している。（第2・49・187・237図、写真図版153・230・252）

201号住居跡（第13・14図、写真図版7・8）

【位置・検出状況】 LⅢ b4～b6、LⅢ c4～c7グリッドにかけて位置する。Ⅱ層下部にて黒色の細長いシミを検出した。長さにしてゆうに15mを越えるシミであったため、当初は住居跡という認識はなく、周囲の地形や傾斜等から見て沢状の地形に流れ込んだ土ではないかと判断した。ところが、道路を挟んだ北側で精査していた101号住が長楕円形の大形住居になりそうであることが判明したため、こちらもベルトをかけて掘り進めたところ、大量の遺物とともに炉と思われる焼土が検出されたため住居跡として登録した。

【重複】 206号住、208号住、203号上坑、204号上坑、206号上坑、201号埋設土器と重複する。206号住、208号住との新旧関係については不明である。203号上坑、204号上坑、206号上坑については断面観察等からいずれも当該住居より新しく構築されたものであると判断した。

【平面形・規模】 平面形は長楕円形で、規模は長径が17.4～14.5m、短径は最大で5.1mである。

【覆土・堆積状況】 覆土下部の床面付近では炭化物粒や黄褐色土粒を混入する褐色土主体で、その上を黒色土が覆っている。自然堆積と思われる。

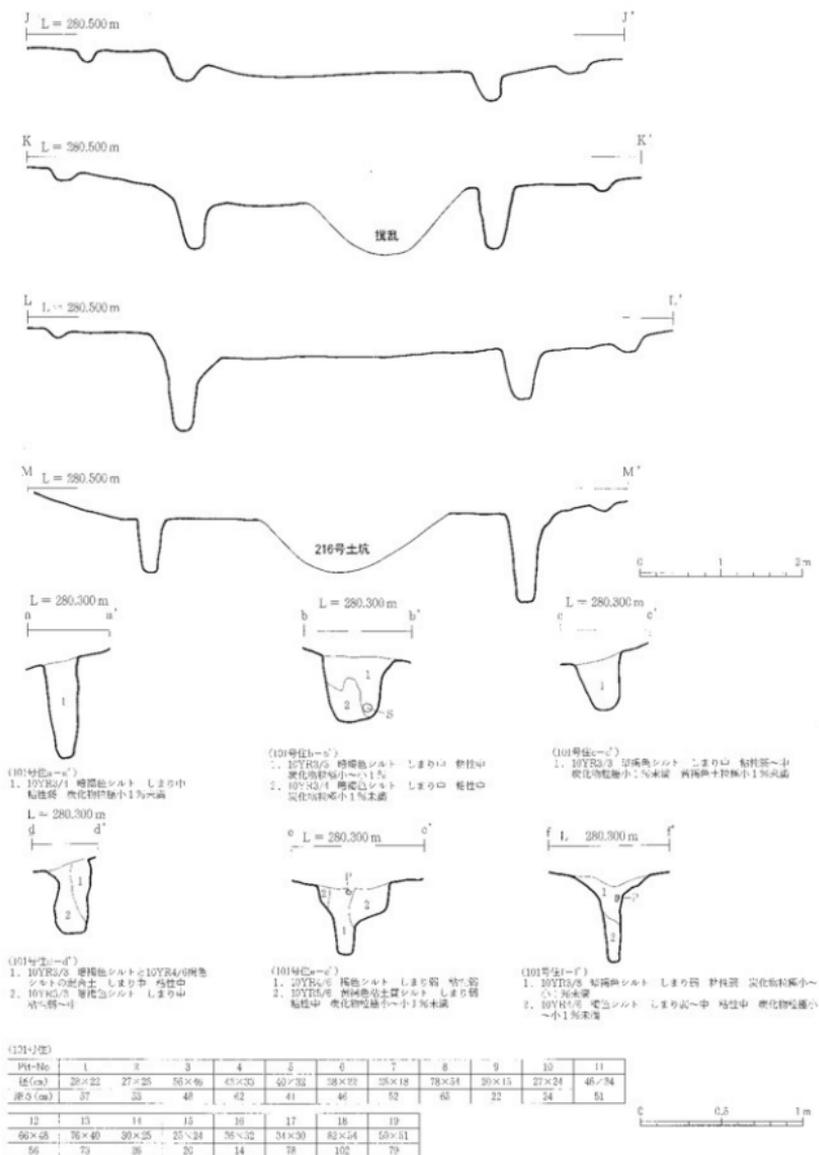
【壁・床面】 壁の傾斜は緩やかで高さは最大で20cm、平均すると5～10cm程度である。床の断面を見ると、外側から床面中央部に向かって緩やかに傾斜してテラス状をなし、柱穴の配置される部分で若干の段差があり、炉の配置される床面中央付近が一段低くなるような断面形態である。

【柱穴】 ピットを全部で64基確認した。これらの配置、底面レベル等を総合的に判断し、Pit 1・4・6・9・12・17・25・31・36・43・47・52・56・60・61・64が201-a住を、Pit 10・14・24・31・42・37・47・53・57・62が201-b住を構成するものとした。

【炉】 8基確認している。いずれも地床炉で住居の長軸上に配列される。炉の間隔は住居中央部の炉が確認されていない部分を除き、ほぼ均等（1.9～2.3m）である。

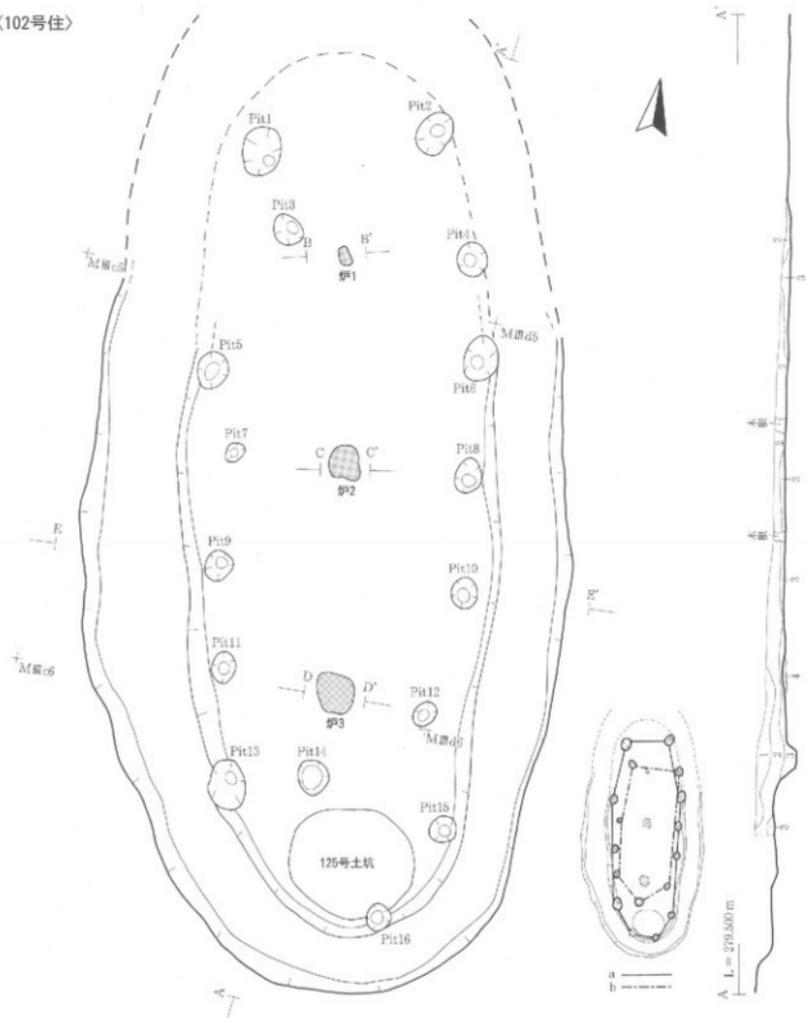
【その他】 住居北端部において埋設土器を検出した（201号埋設土器）。当初は切り株の根に挟まった攪乱を受けた土器片という認識であったが、切り株を取り除いたところ土器が正立した状態で埋設されていたことが判明した。したがって土器内部の覆土堆積状況については確認できなかった。

【出土遺物】 Na40～88の土器、Na 4・5の土製品、Na21～37の剥片石器・石製品、Na 7・8・10～17の礫石器が出土している。（第2～4・49～53・177・187～189・236・237・238図、写真図版153～155・226・230・231・252・253）



第10図 101号住(2)

<102号住>

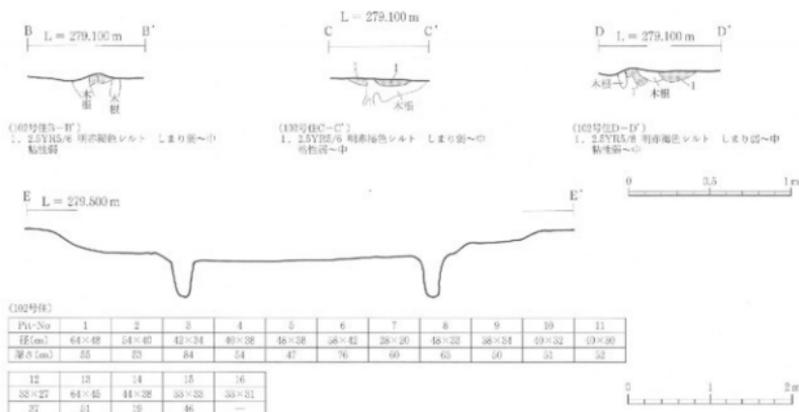


(C2号住A-A')

1. BEYR3/3 弱酸性シルト しまり中 粘粒ほとんど無 灰化物粒小1/5未満
2. BEYR3/4 弱酸性シルト しまり中 粘粒中 灰化物小1/5 黄褐色土粒小1/5
3. BEYR3/5 弱酸性粘上質シルト しまり中〜中 粘粒中〜多 灰化物粒小1/5未満 (土粒との微移動)
4. 2.5YR5/6 弱酸性シルト しまり中〜中 粘粒中〜中



第11図 102号住 (1)



第12図 102号住(2)

202号住居跡(第15～17図、写真図版9・10)

【位置・検出状況】 LⅢ d 7～8、LⅢ e 5～9、LⅢ f 4～6 グリッドにかけて位置する。Ⅱ層下部にて黒色の細長いシミを検出した。検出最中から遺物が大量に出土し、隣の201号住が大形住居になりそうであることから、こちらも大形の住居跡になるものと推測しベルトをかけて掘り進めた。最初はベルトに沿ってトレンチを設定し、床面と思われる面まで掘り下げ覆土の確認を行った。この段階で、床面付近と思われるレベルから焼土が検出され、軸方向との整合性なども考慮して住居跡であると判断し登録した。

【重複】 202号土坑、209号住、210号住、とそれぞれ重複する。新旧関係について、210号住と当該住居については覆土の状況が極めて似かよっており、断面観察から切り合い関係を把握することができなかったため不明である。その他、202号土坑は当該住居を切って掘り込んでいる。209号住については当該住居を切る掘り込みは見当たらなかった。しかしながら、調査時にはいくら注意深く見ても209号住を当該住居が切っているということについて確認することはできなかった。209号住の覆土上部は202号住と一連の覆土であり、覆土下部にあたる部分、すなわち202号住床面より若干低くなっている部分がおそらくこの住居の覆土と思われる。これらの情報を総合的に判断して、209号住は202号住に切られているものと考えた。したがって、不明なものを除き、遺構は209号住→202号住→202号土坑の順で構築されたといえる。

【平面形・規模】 平面形は長方形で、規模は長径が20.8m(推定)、短径が5.8mとなっている。

【覆土・堆積状況】 暗褐色土～褐色土主体の覆土で、そのさらに上部を黒色土が覆っている。自然堆積である。

【壁・床面】 壁の立ち上がりは比較的急で、確認できた部分の高さは10～25cm程度である。床面はほぼ平坦で、南側の床面はどかたく締まっている。

【柱穴】 ビットを全部で45基確認した。これらの配置、底面レベル等を総合的に判断しPit 1・2・8・18・27・30・33・37・43・44が202-a住を、Pit 5・10・22・24・31・35・39・41が202-b住を構成する主柱穴とした。またPit 3・6・7・8・15・16・17・21・23・25が202-c住を構成するものとした。

【炉】 202-a住に伴う炉4基、202-b住に伴う炉3基、202-c住に伴う炉2基と判断した。いずれも地床が住居の長軸線上に配列される。

【出土遺物】 Na89～117の土器、Na38～45の剥片石器・石製品、Na18～21の礫石器が出土している。(第4・5・53～55・189・239図、写真図版155・156・231・253)

203号住居跡(第18・19図、写真図版11)

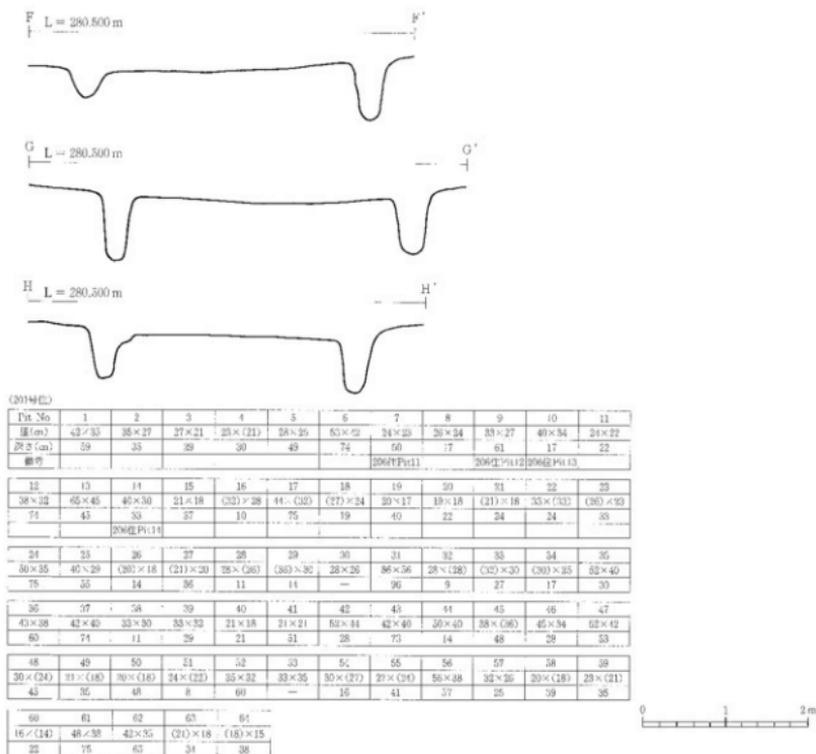
- 【位置・検出状況】 LⅢ d3～d5、LⅢ e4～e5 グリッドにかけて位置する。Ⅱ層下部にて検出した。
- 【重複】 213号土坑、219号土坑、220号土坑、221号土坑と重複する。これらの重複する土坑と住居の新旧関係については、断面観察からいずれの土坑よりも住居の方が新しいと判断した。
- 【平面形・規模】 平面形は不整な楕円形で、規模は長径が10.0m、短径が5.2mである。
- 【覆土・堆積状況】 覆土は褐色～暗褐色土主体で、北部の別遺構と重複している部分では炭化物粒や焼土粒が混入している。
- 【壁・床面】 遺構南側では壁は比較的急に立ち上がる。高さは25～30cm程度である。遺構の北側では壁の高さは低くなり、5～10cm程度の立ち上がりとなる。
- 【柱穴】 Pitを6基確認している。これらのうちPit1・2・4・6をこの住居に伴う柱穴と判断した。
- 【炉】 なし。
- 【出土遺物】 Na118～163の土器、Na6の土製品、Na46～53の剥片石器、Na22の礫石器が出土している。(第5・6・55～60・189・190・239図、写真図版156～159・226・231・253)

205号住居跡(第20・21図、写真図版12～15)

- 【位置・検出状況】 平成12年度にLⅢ a5～a6、LⅢ b5～b6 グリッドに位置する部分をⅡ層下部にて検出した。その後、平成13年度になって用水路を挟んだ西側のKⅢ i6～i7、KⅢ j6～j7 グリッドでも住居跡の一部を検出し、前年度に検出した205号住居の続きであることが判明した。
- 【重複】 用水路東側で検出された部分については、北東端で205号土坑と重複する。また西端部の調査区境付近で202号陥し穴と重複する。新旧関係については、断面観察から205号土坑→205号住居→202号陥し穴の順番で構築されたものと判断した。用水路西側で検出された部分については、北端壁際で412号陥し穴と、東端で411号土坑と、西側が付近で412号土坑と重複する。新旧関係については、断面観察等から411号土坑→205号住居→412号陥し穴・412号土坑の順番で構築されたものと判断した。また503号住居と重複しており新旧関係は503号住居→205号住居である。
- 【平面形・規模】 平面形は楕円形で、規模は長径が16.2m、短径が最大で5.9mである。
- 【覆土・堆積状況】 覆土は黒褐色土主体で、炭化物粒ならびに焼土粒が混入する。
- 【壁・床面】 壁はゆるやかに立ち上がる。高さは10～30cm程度である。
- 【柱穴】 ピットを全部で58基確認した。これらの配置、底面レベル等を総合的に判断し、Pit3・8・35・43・54・58が205-a住居を、Pit1・9・11・22・28・45・56が205-b住居を、Pit2・4・12・15・19・24・55・57が205-c住居を構成するものとした。
- 【炉】 住居全体では合計8基確認しているが205-a住居、205-b住居、205-c住居ともに4基ずつの炉を伴うと判断した。いずれも地床が住居の長軸線上に配列される。
- 【出土遺物】 Na164～189の土器、Na8の土製品、Na55～76の剥片石器・石製品、Na24～34の礫石器が出土している。(第7・8・60～62・177・190～192・240・241図、写真図版159・160・226・232・253・254)

206号住居跡(第22図、写真図版16)

【位置・検出状況】 LⅢ a4～a5、LⅢ b4～b5 グリッドに位置する。先に201号住居を検出し精査を進め



第14図 201号住(2)

ていたところ、西側の一部がいつまで掘り進んでも壁にあたらぬことに気がついた。201号住の検出状況ならびに遺構の推定プランからして、既に壁が出ていてもおかしくない状況であった。さらに掘り進めたところ、床面にて201号住の長軸とは異なる軸方向で炉と思われる焼土を検出したため住居跡として登録した。

【重複】 前述したように201号住と重複している。新旧関係については不明である。214号土坑、215号土坑と重複しており、検出状況ならびに断面観察から214号土坑→206号住→215号土坑の順で構築されたものと判断した。

【平面形・規模】 平面形は楕円形基調で、規模は長径が9.0m(推定)、短径が5.9mである。

【覆土・堆積状況】 別遺構になると予想せず掘り進めたため断面記録を欠くが、201号住と同様に褐色土主体の覆土である。

【壁・床面】 明確な壁の立ち上がりは確認できず、外側から床面中央部に向かって緩やかな傾斜が続く。床面は炉の周りを中心としてかたく締まっている。

【柱穴】ピットを全部で10基確認した。これらの配置、底面レベル等を総合的に判断し、Pit 1・4・8・10と13・14（201号住Pit10、14）が206-a住を、Pit 2・5・9と11・12（201号住Pit 7・19）が206-b住を構成する。

【炉】合計2基確認している。206-a住、206-b住ともに2基ずつの炉を伴うと判断した。いずれも地床炉である。

【出土遺物】 Na190～211の土器、Na97の剥片石器、Na35の礫石器が出土している。（第8・9・62～65・192・241図、写真図版160～162・232・254）

207号住居跡（第23・24図、写真図版17～19）

【位置・検出状況】 LⅢ a 3、LⅢ b 2～b 3、LⅢ c 2～c 3、LⅢ d 1～d 2 グリッドに位置する。101号住と202号住が道路下にまで広がる状況となったため、道路を剥き取ったところ101号住の東側に隣接して新たに検出された。

【重複】 212号土坑、204号陥し穴と重複している。新旧関係について、断面観察によると204号陥し穴の覆土最上部に207号住のがに伴う焼土が見られ、これを204号陥し穴が完全に埋まった後に形成されたものと判断した。このことから204号陥し穴→207号住という順で構築されたものと考えられる。212号土坑と207号住の新旧関係については、覆土の色や堆積状況がほぼ同様で切り合い関係を確認することができなかったため不明である。

【平面形・規模】 平面形をかるうじて確認できるのは西側部分のみで、遺構全体の約5分の4程度と思われる。平面形はほぼ長方形をなす。遺構西端部ならびに中央部付近において、途切れ途切れの周溝を確認している。規模は長径が（16.3）m、短径が5.7mである。

【覆土・堆積状況】 覆土はにぶい黄褐色土主体で上部にわずかに黒褐色上層が確認される。

【壁・床面】 明確な壁の立ち上がりを確認できたのは西側の一部で、高さは3～5cmである。床面は大変硬くしまっており、移植ベラの刃が折れ曲がるほどであった。しかし、このようなかたさは道路下に位置する他の遺構にも共通するもので、遺構自体の性格を示すものというよりは、道路として使用されていた間にかなりの転圧を受けた結果と考えられる。

【柱穴】 ピットを全部で83基確認した。これらの配置、底面レベル等を総合的に判断し、Pit 1・6・24・29・43・51・72・79が207-a住を、Pit 11・17・31・35・56・68・81・83が207-b住を、Pit 1・5・21・26・42・49・61・70が207-c住を構成する。

【炉】 全体で9基確認している。207-a住、207-b住、207-c住ともに3基ずつのがを伴うと判断した。いずれも地床炉で住居の長軸に沿って配置される。

【出土遺物】 Na212～247の土器、Na78～90の剥片石器・石製品、Na36～38の礫石器、Na 7・9～154の土製品が出土している。土製品のほとんどは貫通孔を有する十玉が占める。いずれも住居覆土ならびに床面直上のほぼ一箇所からまとまって出土した。土玉のほか棒状で貫通孔を有するものやミニチュア土器もあわせて出土している。これらの出土状況について、住居南壁際の平面的には約50cm×50cmの範囲から、垂直的にも10cm程度の範囲から出土している。一部塊状あるいは連なっているようにも見えたが、全体としてはバラバラといった印象が強い。掘り込み等についても注意深く確認したつもりであるがそれらしき痕跡は認められなかった。したがってこの場所に意図的に埋納された可能性は低いものと判断した。（第9～11・65～69・177～184・192・193・241・242図、写真図版162～164・226・227・232・233・254・255）



(202号住B B')

1. 10YR2/1 紫色シルト: しまり部~中 粘土層
2. 7.5YR4/3 褐色シルト: しまり中 粘砂層 黄褐色土粒層小~小1%未満 炭化物粒層小~小1%未満
3. 7.5YR3/3 暗褐色シルト: しまり中 粘砂層 黄褐色土粒層小~小1%未満 炭化物粒層小~小1%未満 焼土粒層小~小1%未満
4. 10YR5/6 黄褐色粘土質シルト: 主体に1.5YR3/2黄褐色シルトが混入 しまり中 粘砂層
5. 1.5YR6/6 暗褐色シルト: しまり中 粘砂層のみ



(202号住C C')

1. 10YR2/1 紫色シルト: しまり部~中 粘砂層
2. 7.5YR4/3 褐色シルト: しまり中 粘砂層 黄褐色土粒層小~小1%未満 炭化物粒層小~小1%未満
3. 7.5YR3/3 暗褐色シルト: しまり中 粘砂層 黄褐色土粒層小~小1%未満 炭化物粒層小~小1%未満 焼土層小~小1%未満
4. 10YR5/6 黄褐色粘土質シルト: 主体に1.5YR3/2黄褐色シルトが混入 しまり中 粘砂層
5. 10YR5/6 黄褐色粘土質シルト: 主体に10YR3/2黄褐色シルトが混入 しまり中 粘砂層 炭化物粒層小1%未満



(202号住D D')

1. 10YR2/1 紫色シルト: しまり部~中 粘砂層
2. 7.5YR4/3 褐色シルト: しまり中 粘砂層 黄褐色土粒層小~小1%未満 炭化物粒層小~小1%未満



(202号住E E')

1. 7.5YR4/3 褐色シルト: しまり中 粘砂層 黄褐色土粒層小~小1%未満 炭化物粒層小~小1%未満
2. 1.5YR6/6 暗褐色シルト: 1層より黄褐色

(202号住)

Flt No	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
深さ (cm)	23~28	33~36	33~20	27~33	33~28	21~(21)	(20)~18	17~13	23~21	30~22	23~(18)
深さ (cm) 備考	57	43	20	48	73	5	7	77	57	53	16

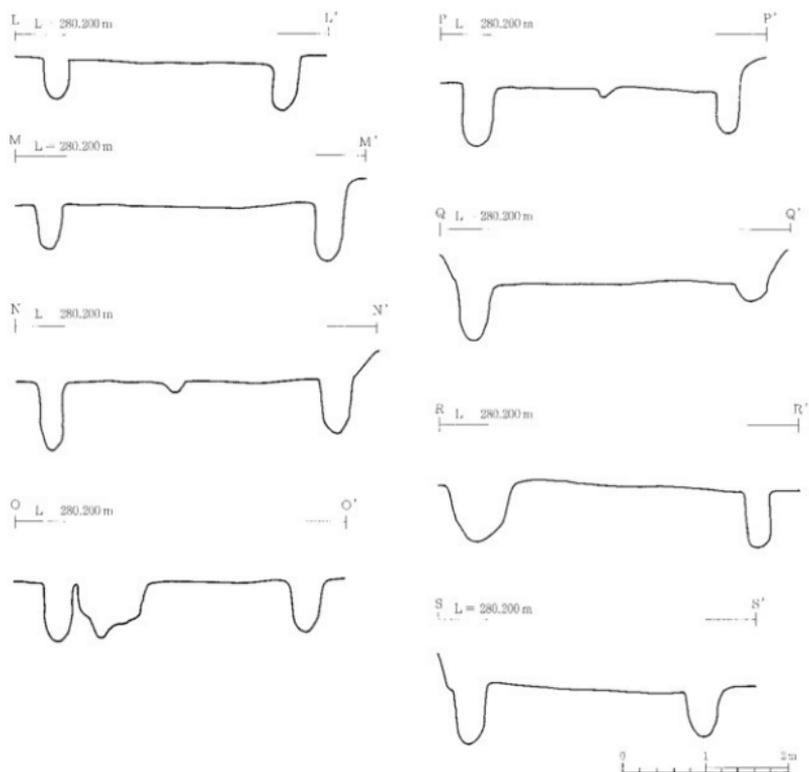
32	13	14	32	16	17	18	19	20	21	22	23
31~(21)	30~(20)	(20)~18	34~33	29~25	43~34	30~22	34~(21)	(23)~21	40~34	33~30	(22)~21
32	24	39	32	36	67	78	14	13	83	67	10

31	25	26	27	26	39	30	31	32	33	34	35
37~33	38~32	(20)~21	38~23	(20)~27	28~22	22~38	46~53	30~(30)	83~58	(34)~29	42~38
36	72	35	32	64	39	63		19	62	14	30

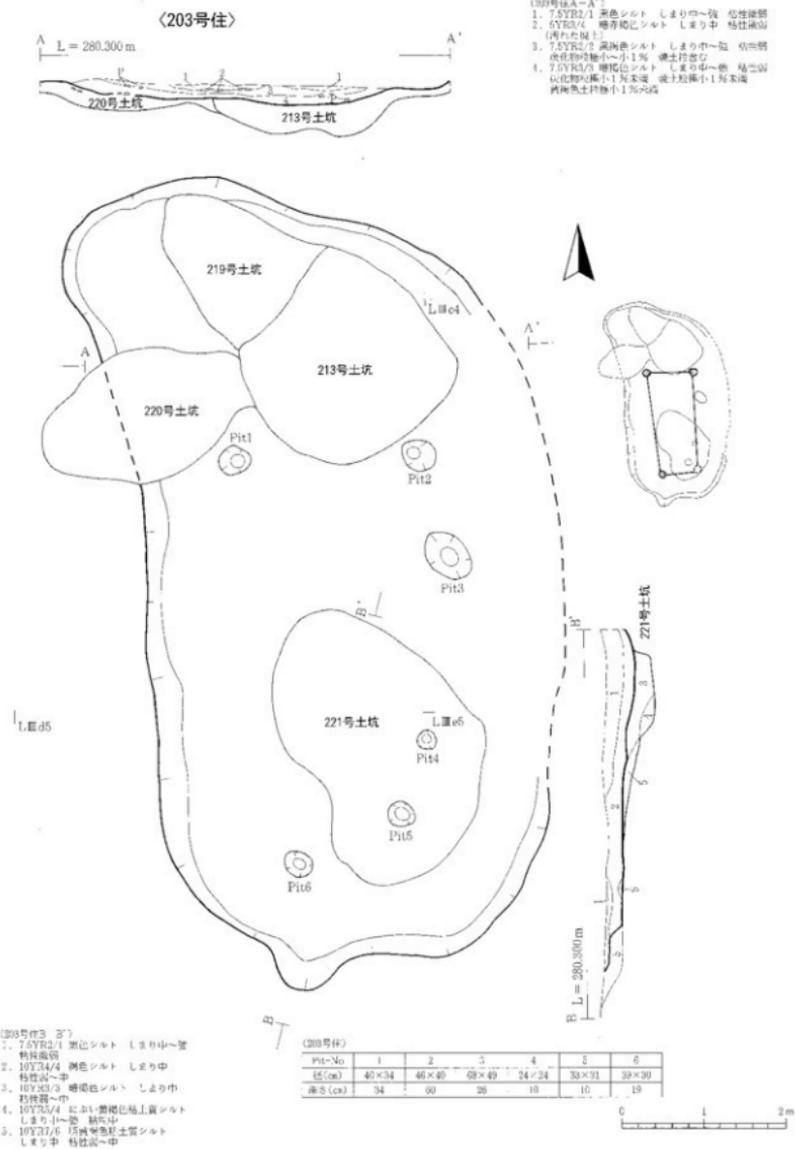
36	57	36	39	40	41	42	43	44	45
(25)~19	43~30	32~22	46~39	33~25	49~39	40~26	73~57	30~23	35~20
72	66	28	61	20	68	23	15	28	61

2106-75116 2104-7913





第17図 202号住(3)

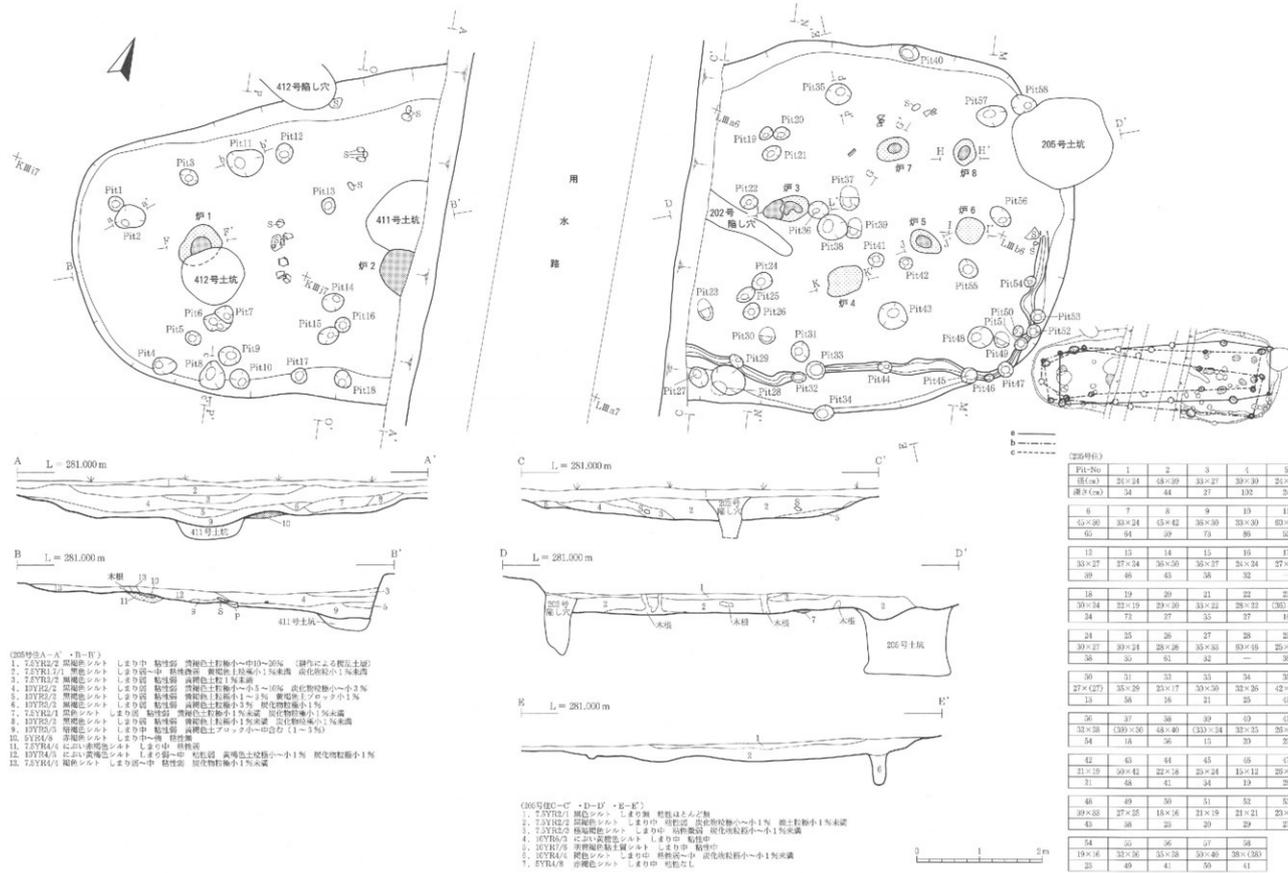


第18図 203号住(1)

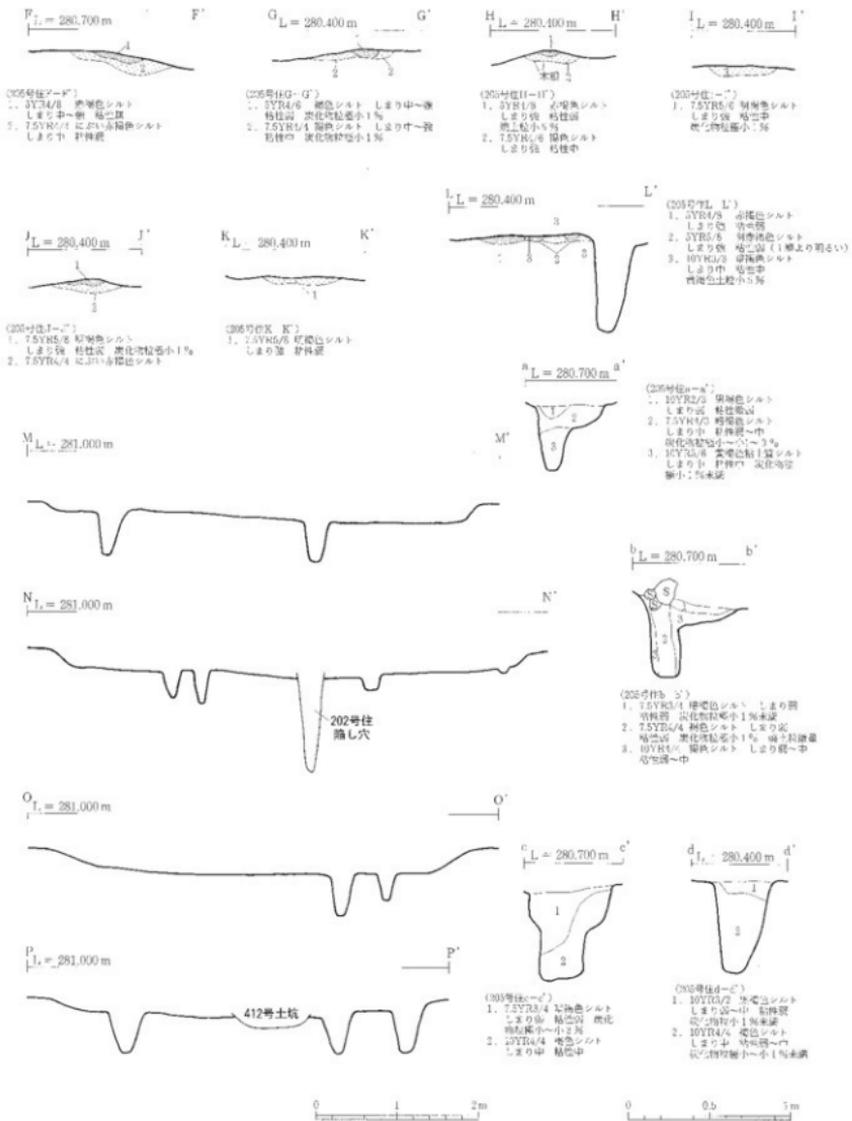


第19図 203号住(2)

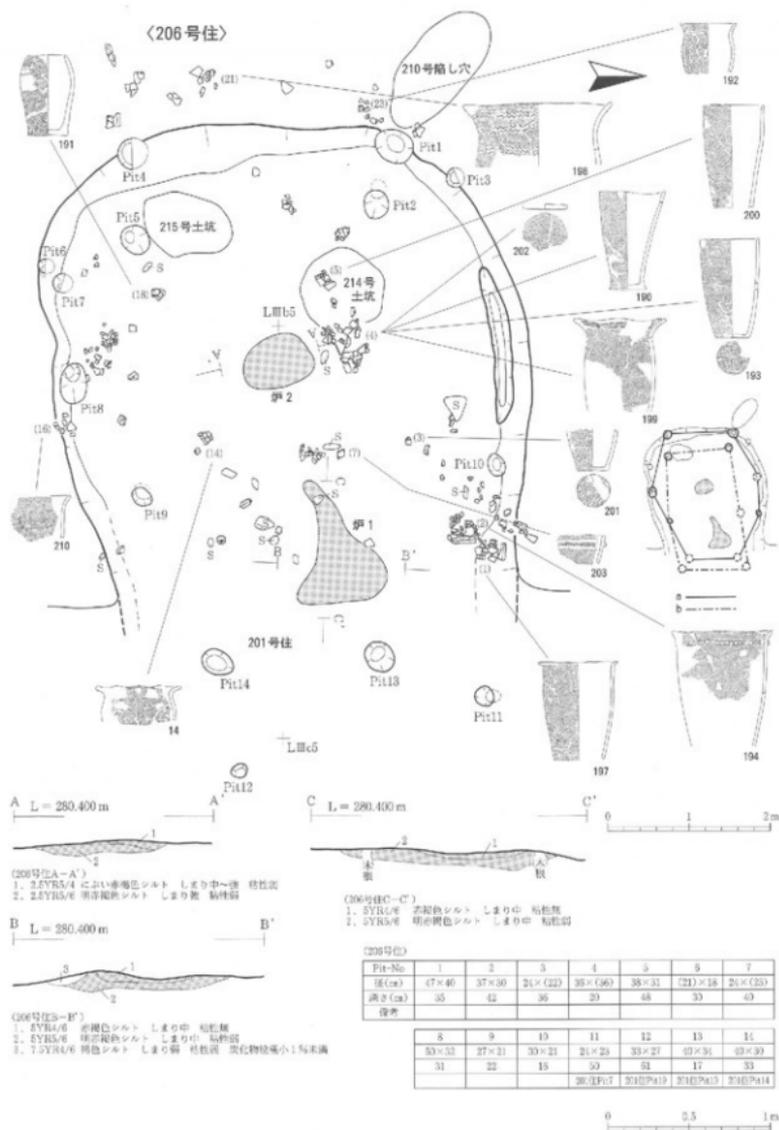
<205号住>



第20図 205号住(1)

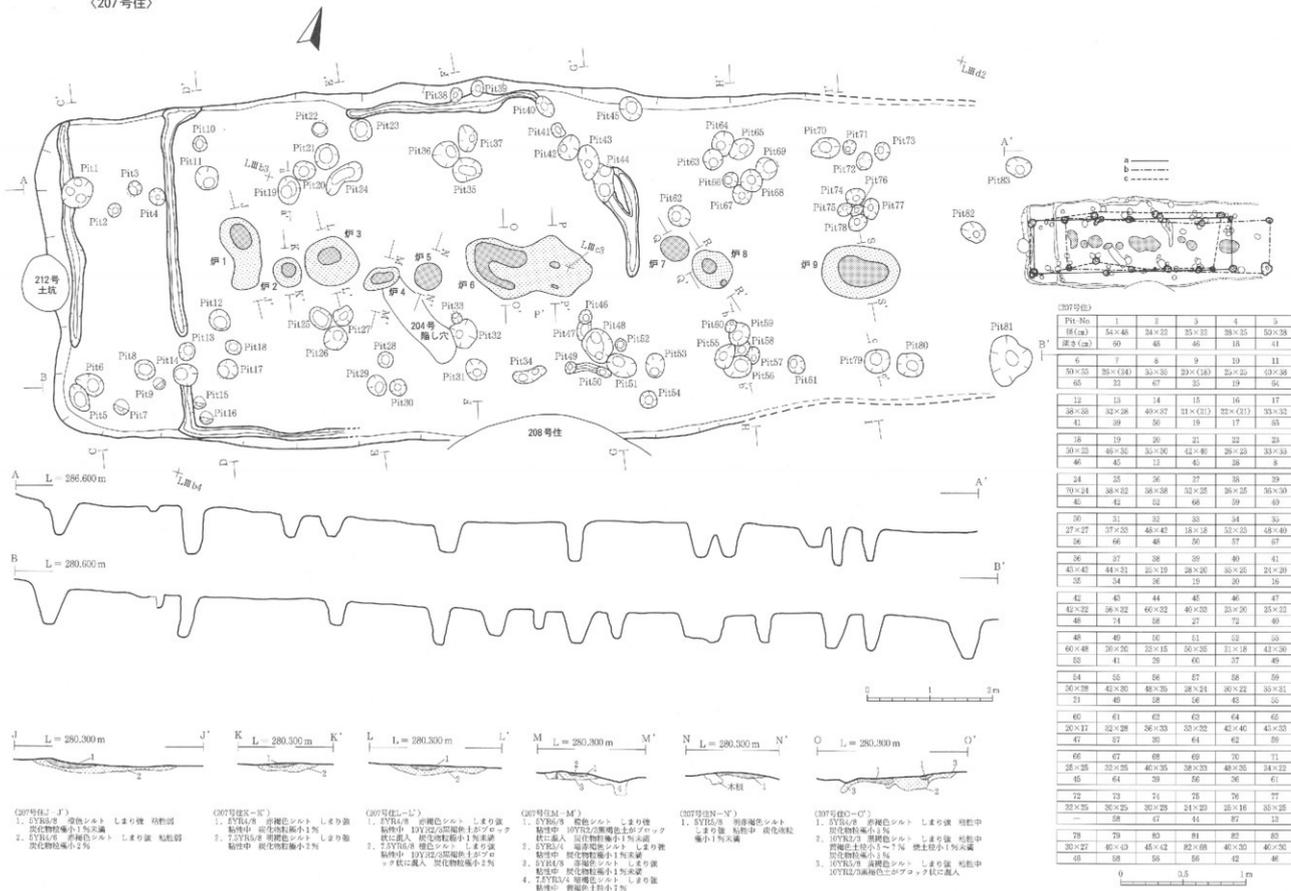


第21図 205号住(2)

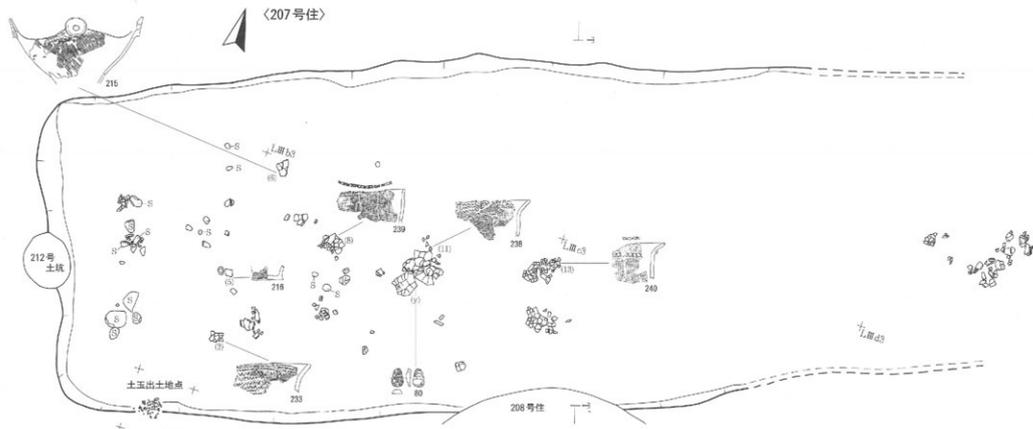


第22図 206号住

〈207号住〉



第23図 207号住(1)



- (207号住下 T-T')
1. IY22/1 黒褐色シルト しまり強 粘性弱 灰化物粘層小1%弱
 2. IY22/4 同上:黄褐色シルト、しまり強 粘性中 灰化物粘層小1%弱
 3. IY22/6 明黄褐色粘土シルト しまり強 粘性强

a L = 280.300m



b L = 280.300m



(207号住下-3)

1. IY22/3 黄褐色シルト しまり中 粘性中 灰化物粘層小1%未満
2. IY22/5 黄褐色シルト しまり中 粘性中 (1層よりやや明るい色)

c L = 280.300m



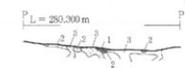
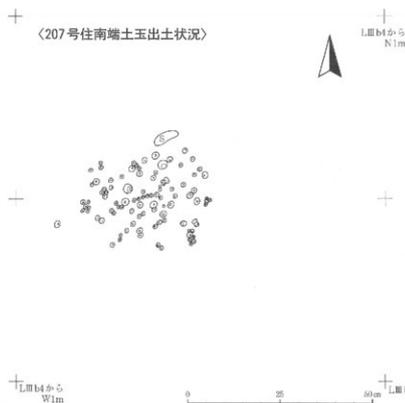
(207号住下-4)

1. IY22/4 黄褐色シルト しまり中 粘性强 黄褐色粘層粘層小1%~2% 灰化物粘層小1%未満
2. IY22/2 黄褐色シルト しまり中 粘性强 黄褐色粘層粘層小1%~2% 灰化物粘層小1%未満
3. IY22/4 黄褐色シルト しまり中 粘性强
4. IY22/5 黄褐色粘土シルト しまり中 粘性强 (粘層小1%や粘強い色)
5. IY22/6 黄褐色粘土シルト しまり中 粘性强 黄褐色粘層粘層小1%~2%

(207号住下-2)

1. IY22/2 黄褐色シルト しまり中 粘性强 黄褐色粘層粘層小1%~3% 灰化物粘層小1%未満
2. IY22/3 黄褐色シルト しまり中 黄褐色粘層粘層小1%~3%

<207号住南端土玉出土状況>



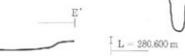
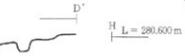
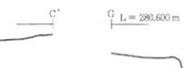
- (207号住P-P')
1. IY22/1 黒褐色シルト しまり強 粘性中
 2. IY22/4 黄褐色シルト しまり強 粘性强
 3. IY22/2 黄褐色シルト しまり強 粘性强 灰化物粘層小1%未満
 4. IY22/3 黄褐色シルト しまり強 粘性强 黄褐色粘層粘層小1%~3%



- (207号住Q-Q')
1. IY22/3 黄褐色シルト しまり強 粘性强
 2. IY22/5 黄褐色シルト しまり強 粘性强 灰化物粘層小1%~3%
 3. IY22/2 黄褐色シルト しまり強 粘性强
 4. IY22/4 黄褐色シルト しまり強 粘性强 灰化物粘層小1% 黄褐色粘層粘層小2%~3%
 5. IY22/3 黄褐色シルト しまり強 粘性强

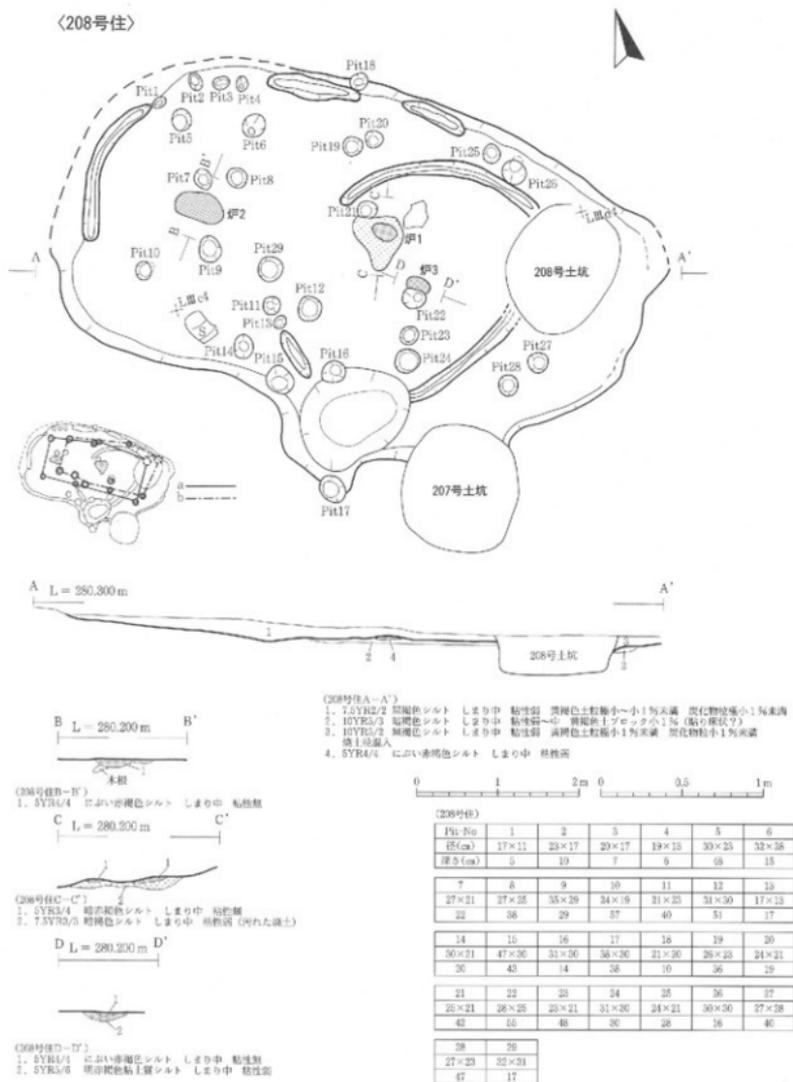


- (207号住R-R')
1. IY22/6 黄褐色シルト しまり強 粘性强 灰化物粘層小1%未満
 2. IY22/4 黄褐色シルト しまり強 粘性强 灰化物粘層小1%未満
 3. IY22/3 黄褐色シルト しまり強 粘性强 IY22/1黒褐色シルト1%弱
 4. IY22/5 黄褐色シルト しまり強 粘性强 黄褐色粘層粘層小1%~3%



- (207号住S-S')
1. IY22/6 黄褐色シルト しまり強 粘性强
 2. IY22/3 黄褐色シルト しまり強 粘性强 IY22/1黒褐色シルト1%弱

第24図 207号住 (2)



第25図 208号住

208号住居跡（第25図、写真図版19～21）

〔位置・検出状況〕 LⅢ b3、LⅢ c3～c4 グリッドに位置する。201号住の精査中、北側に掘り進んでいったところ、道路際に不規則なシミを新たに検出した。その後、道路を削がしたところ楕円形の黒いシミとなつてあらわれたため、住居として登録した。

〔重複〕 201号住、207号上坑、208号土坑と重複している。新旧関係について、201号住と当該住居の関係は不明である。207号土坑、208号上坑については断面によると208号住を切っていることが観察されたことから、208号住→207号土坑、208号土坑の順で構築されている。

〔平面形・規模〕 平面形は不整な楕円形で一部周溝が確認される。規模は長さ7.1m、短径4.2mである。

〔覆土・堆積状況〕 覆土は黒褐色土主体で、黄褐色土粒ならびに炭化物粒が混入する。その下の2層は暗褐色土で黄褐色土ブロックが混入し、自然堆積というよりは人為的な貼り床状をなしている。

〔壁・床面〕 壁は緩やかに傾斜し、高さは5～10cm程度である。床面はかたく締まっている。

〔柱穴〕 ピットを全部で29基確認した。これらの配置、底面レベル等を総合的に判断し、Pit 5・10・11・19・28が208-a住を、Pit 6・9・12・20・23・25・27が208-b住を構成する。

〔炉〕 全体で3基確認している。208-a住、208-b住ともに2基ずつの炉を併うと判断した。いずれも地床上で、住居の長軸線上に配置される。

〔その他〕 住居内部に存在する溝について、断面観察時に明確な切り合い関係を確認することはなかったが、周溝を平面形とする小形堅穴を構成している可能性が考えられる。

〔出土遺物〕 No.248～261の土器、No.91～94の剥片石器・石製品、No.39～41の礫石器が出土している。（第11・12・69～71・193・242・243図、写真図版164・165・233・255）

209号住居跡（第26図、写真図版20）

〔位置・検出状況〕 LⅢ e6～e7、LⅢ f6～f7に位置する。202号住を先に検出し、精査を進めていたところ、202号住よりも床面が一段低くなる部分があらわれ、周溝がめぐることが判明したため住居として登録した。

〔重複〕 前述したように202号住と重複する。断面観察による土層区分では明確な切り合いを確認することはなかったが、掘り上がった平面形と断面図を照合し、総合的に判断して202号住よりも当該住居の方が古い時期に構築されたものとした。

〔平面形・規模〕 平面形はほぼ円形で、規模は直径が4.8mである。周溝がめぐっているが、二重にめぐる部分もあり、住居の拡張の可能性も考えられる。

〔覆土・堆積状況〕 覆土上部はほぼ202号住の覆土である。当該住居の覆土として考えられるのは4～5層の黄褐色土と黒褐色土の混合土であり、炭化物粒が混入する。

〔壁・床面〕 住居南東側が重複の影響を受けていないと仮定するならば、壁の立ち上がりは緩やかで、高さは40～50cm程度となる。

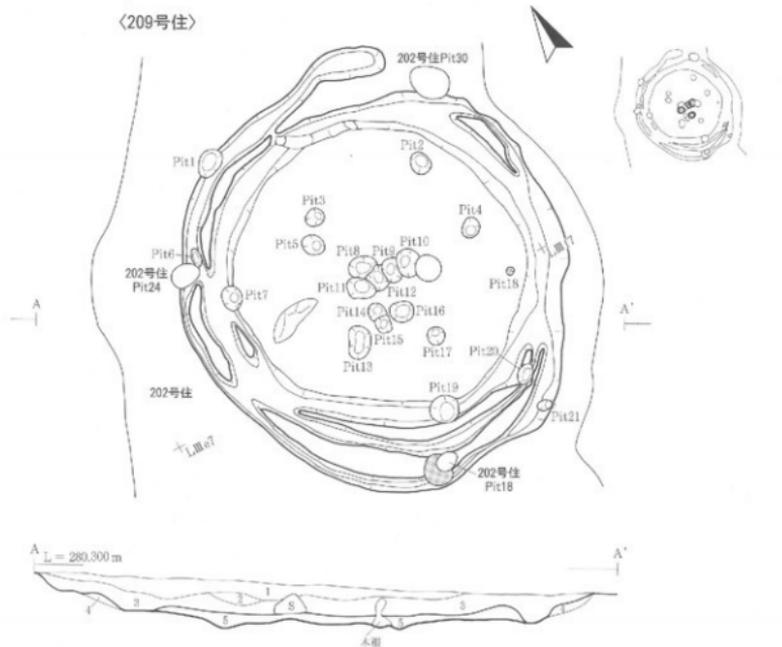
〔柱穴〕 ピットを全部で21基確認した。これらの配置、底面レベル、周溝等を総合的に判断し、Pit 9・10・11・16が、それぞれの住居の主柱穴を構成し、少なくとも4回の建替・拡張があるものと判断した。

〔炉〕 確認していない。

〔出土遺物〕 No.42・43の礫石器が出土している。（第12・243・244図、写真図版256）

210号住居跡（第27図、写真図版21）

〔位置・検出状況〕 LⅢ f4～f5、LⅢ g4～g5 グリッドに位置する。



(209号住A-A')

1. 10YR2/1 黒灰シロト しまり固〜中 粘性強
2. 7.5YR4/3 褐色シロト Lより中 粘性強 黄褐色土粒極小〜小 炭化物粒極小〜小 1%未満
3. 7.5YR2/3 暗褐色シロト Lより中 粘性強 黄褐色土粒極小〜小 炭化物粒極小〜小 極少量中〜小1%未満
4. 10YR3/6 赤褐色粘土質シロト 主体に10YR5/2暗褐色シロトが混入 しまり中 粘性中 炭化物粒極小1%未満
5. 10YR5/2 赤褐色粘土質シロト 主体に10YR3/6暗褐色シロトが混入 しまり中 粘性中 炭化物粒極小1%未満

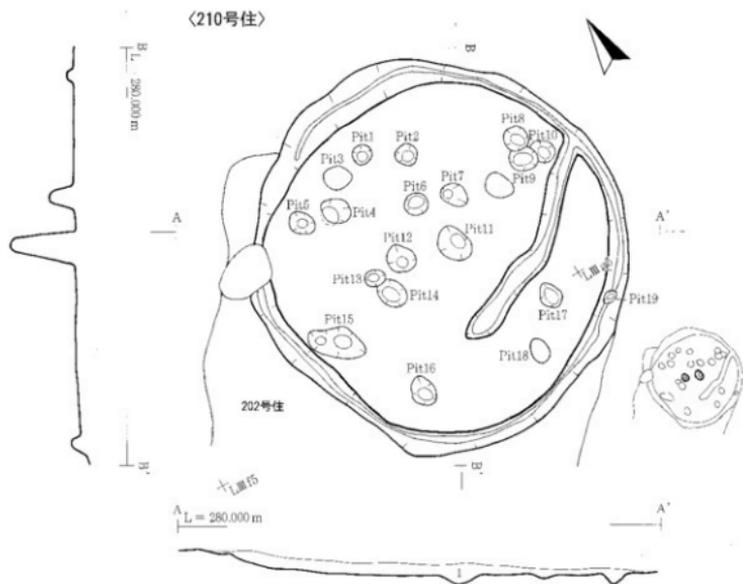
(209号住)

Pit No	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
径(cm)	38×38	39×23	23×21	28×20	31×25	15×19	33×23	35×28	33×39	35×33	38×25
深さ(cm)	19	41	14	47	14	7	43	55	64	55	69

12	15	14	15	16	17	18	19	20	21
32×22	43×28	21×20	21×18	30×27	25×31	19×9	35×33	28×19	18×14
19	16	50	56	64	18	—	31	37	49



第26図 209号住



(210号住A-A')

1. 7.5YR6/3 褐色シロト しまり中 粘泥 黄褐色土粒細小〜小1/4未満 炭化物粒細小〜小1/4未満

(210号住)

Pit No	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
H (cm)	24×33	30×28	35×30	39×31	33×22	30×28	53×26	31×30	33×50	53×26	46×33
底径 (cm)	21	26	31	47	32	21	31	18	74	18	71
備考	202号Pit44										

12	13	14	15	16	17	18	19
35×35	25×22	40×30	60×41	40×30	33×23	30×23	19×15
33	19	11	19	29	8	60	31
202号Pit44							



第27図 210号住

【重複】 202号住と重複する。新旧関係については不明である。

【平面形・規模】 平面形は円形であり、周溝がめぐる。規模は直径4.4mである。

【覆土・堆積状況】 確認した覆土は褐色土の単層で、黄褐色土粒ならびに炭化物粒が混入する。

【壁・床面】 明確な壁は確認することができなかつたため、周溝を住居の外縁とした。床面は比較のかたく締まっている。

【柱穴】 ピットを全部で19基確認した。これらの配置、底面レベル、周溝等を総合的に判断し、Pit11、12が、それぞれの住居の柱穴を構成し、少なくとも2回の建替・拡張があるものと判断した。

【炉】 なし。

【出土遺物】 No262の土器が出土している。(第12・71図、写真図版165)

301号住居跡 (第28・29図、写真図版22・23)

【位置・検出状況】 KⅢ f 2～f 4、KⅢ g 2～g 4グリッドに位置する。耕作による攪乱層(Ⅳ層上部まで達する)を除去したところで黒いシミを検出した。遺構は平成12年度に検出し、約3分の2を精査したが、残りの部分が調査区外となっていたため、平成13年度に残り部分の検出・精査を行った。

【重複】 311号土坑、404号土坑、305号竪土と重複している。断面観察から新旧関係については311号土坑→301号住の順番で構築されたものと判断した。404号土坑は、301号住にかかわる柱穴の可能性も考えたが、覆土の状況ならびに遺構の配置を総合的に判断して別遺構とした。検出状況ならびに断面観察から301号住→404号土坑の順で構築されたものと判断した。

【平面形・規模】 平面形は長方形である。壁を明確に確認することができなかつたため、周溝を住居の外縁とした。規模は長径が最大12.6m、短径が6.0mである。

【覆土・堆積状況】 覆土は黒褐色土主体で炭化物粒が混入する。

【壁・床面】 明確な壁の立ち上がりは確認できなかった。床面は中央部が若干くぼんでいる。

【柱穴】 Pitを39基確認している。これらの配置等を総合的に判断してPit13・14・17・21・23・27・32・37をこの住居に伴う柱穴とした。

【炉】 全体で4基確認している。いずれも地床が住居の長軸に沿った配列となっている。

【その他】 住居北側から西側にかけて、住居の外縁をめぐる周溝の内側にも溝が確認された。この溝内にPit5～11までの柱穴が配置されている。これらは当該住居の拡張と、拡張前の壁柱穴の可能性を示唆するものである。

【出土遺物】 No263～271の土器、No95～107の剥片石器・石製品、No44～49の礫石器が出土している。(第12・13・72・193・194・244・245図、写真図版165・166・233・256・257)

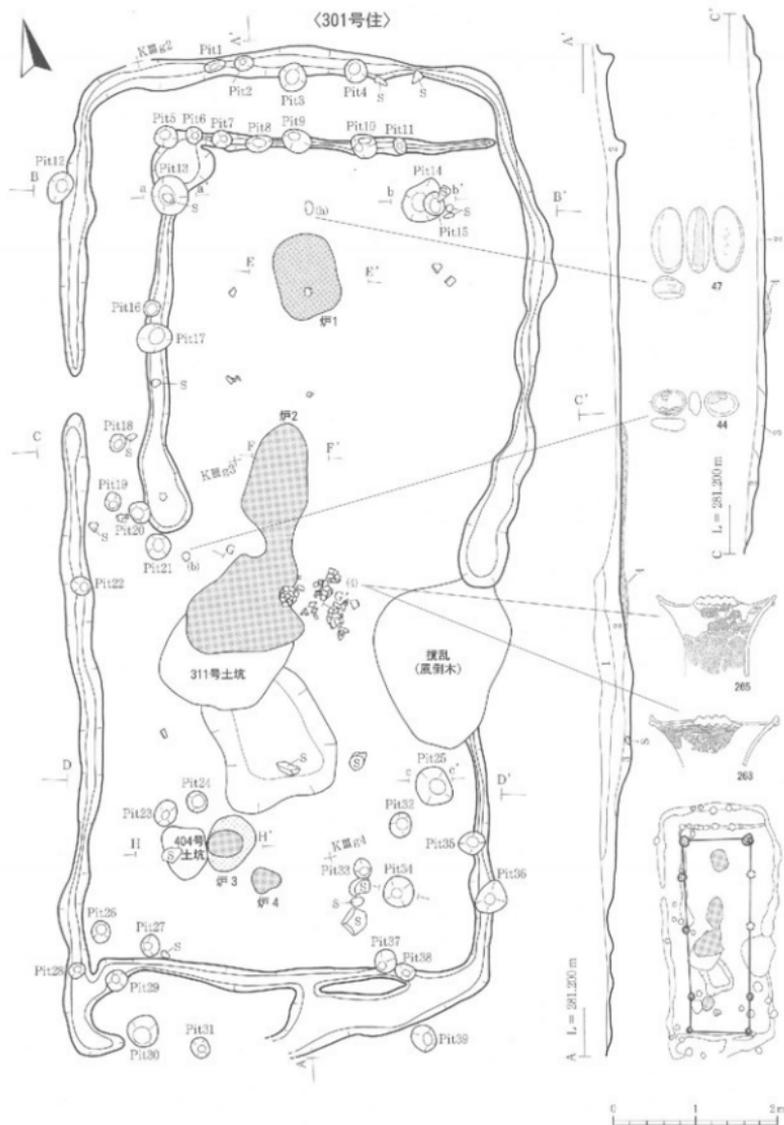
302号住居跡 (第30・31図、写真図版23～25)

【位置・検出状況】 KⅢ g 4、KⅢ h 2～h 4、KⅢ i 3～i 4グリッドに位置する。Ⅱ層下部にて検出した。検出当初は隣接する排水溝を挟んで北東側に位置する101号住と一連の住居になると推測したが、精査を進めるうちに、住居の軸線が異なることが判明し、別遺構になることがわかった。遺構は調査区外に続いている。

【重複】 310号土坑、405号土坑、406号土坑、407号土坑、410号土坑と重複している。検出状況ならびに断面観察等からいずれの土坑についても当該住居よりも古い時期もしくは同時期に構築されたものと判断した。

【平面形・規模】 平面形は長方形である。規模は最大部分で長径9.8m、短径5.2mである。

【覆土・堆積状況】 覆土は黒褐色土主体で黄褐色土粒ならびに炭化物粒が混入する。

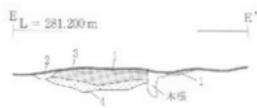


第28图 301号住 (1)



301号住A-A'・C-C'・D-D'

1. 5YR5/2 黒褐色シロト しまり中～弱 粘粒中 炭化物粒極小～小1～5%
黄褐色土粒極小～小1～3% 焼土粒含む
2. 7.5Y2/3 茶褐色シロト しまり中～弱 粘粒中 炭化物粒極小～小1～5%
黄褐色土粒極小～小1～3% 焼土粒含む
3. 7.5Y2/3 暗褐色シロト しまり中～弱 粘粒中 黄褐色土粒極小～小1%
炭化物粒極小～小1% 焼土粒含む
4. 5YR5/2 暗赤褐色シロト しまり弱 粘粒中 10YR2/3暗褐色シロトがプロック状に混入
5. 7.5YR4/3 褐色シロト しまり中 粘粒中 炭化物粒極小1% 黄褐色土粒極小1%
6. 7.5Y2/1 灰褐色シロト しまり弱～中 粘粒中 黄褐色土粒極小1%

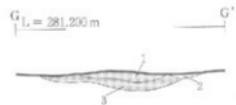


301号住E-E'

1. 5YR5/8 明赤褐色シロト しまり強 粘性弱
10YR2/3暗褐色シロトがプロック状に混入
炭化物粒極小1%未満
2. 10YR/8 褐色シロト しまり弱 粘性弱
炭化物粒極小1%未満
3. 5YR4/8 赤褐色シロト しまり強 粘性弱
炭化物粒極小1%未満
4. 7.5Y2/8 明褐色シロト しまり中 粘性中
炭化物粒極小1%未満

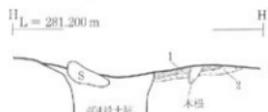
301号住F-F'

1. 5YR4/8 赤褐色シロト しまり強 粘性弱
10YR2/3暗褐色シロトがプロック状に2ヶ所
2. 5YR5/4 暗赤褐色シロト しまり強 粘粒中
炭化物粒極小1%未満
3. 10YR/8 褐色シロト しまり中 粘粒中
黄褐色土粒極小1%未満 炭化物粒小1%未満



301号住G-G'

1. 5YR5/8 明赤褐色シロト しまり強 粘性弱
10YR2/3暗褐色シロトがプロック状に混入
2. 10YR/8 褐色シロト しまり中 粘粒中
10YR2/3黄褐色シロトがプロック状に1ヶ所
炭化物粒極小1%未満
3. 5YR4/8 赤褐色シロト しまり強 粘粒中
炭化物粒極小1%未満



301号住H-H'

1. 5YR5/6 明赤褐色シロト しまり中 粘性強
2. 5YR5/6 明赤褐色シロト しまり中 粘性弱 (3層より明るい色)



301号住a-a'

1. 10YR3/2 黒褐色シロト しまり中 粘性弱 炭化物粒極小1%未満
2. 10YR/3 暗褐色シロト しまり中 粘粒弱 炭化物粒極小1%未満
3. 10YR1/4 暗褐色シロト しまり中 粘性強 炭化物粒極小1%未満



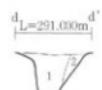
301号住b-b'

1. 10YR2/3 暗褐色シロト しまり中 粘性弱 炭化物粒極小1%未満
2. 10YR/2 黒褐色シロト しまり中 粘性強 炭化物粒極小1%未満 黄褐色土粒極小1%
3. 10YR4/3 におい黄褐色シロト しまり中 粘粒中 炭化物粒極小1%未満



301号住c-c'

1. 7.5YR2/2 暗褐色シロト しまり弱 黄褐色土粒極小～小1～3%
2. 7.5YR2/3 暗褐色シロト しまり中 本弱 黄褐色土粒極小～小1～5%



301号住d-d'

1. 10YR1/4 暗褐色シロト しまり中～弱 粘性弱 炭化物粒極小～小1～3%
2. 10YR1/6 褐色シロト しまり中 粘粒中 炭化物粒極小



301号住

Flt-No	1	2	3
厚(cm)	24×12	25×18	22×21
底φ(cm)	19	26	22

4	5	6	7
30×30	33×30	28×23	22×23
41	32	20	22

8	9	10	11
33×25	33×23	33×31	32×15
19	48	33	—

12	13	14	15
38×30	49×42	56×53	30×21
37	38	39	40

16	17	18	19
21×19	41×26	22×19	24×23
34	25	21	19

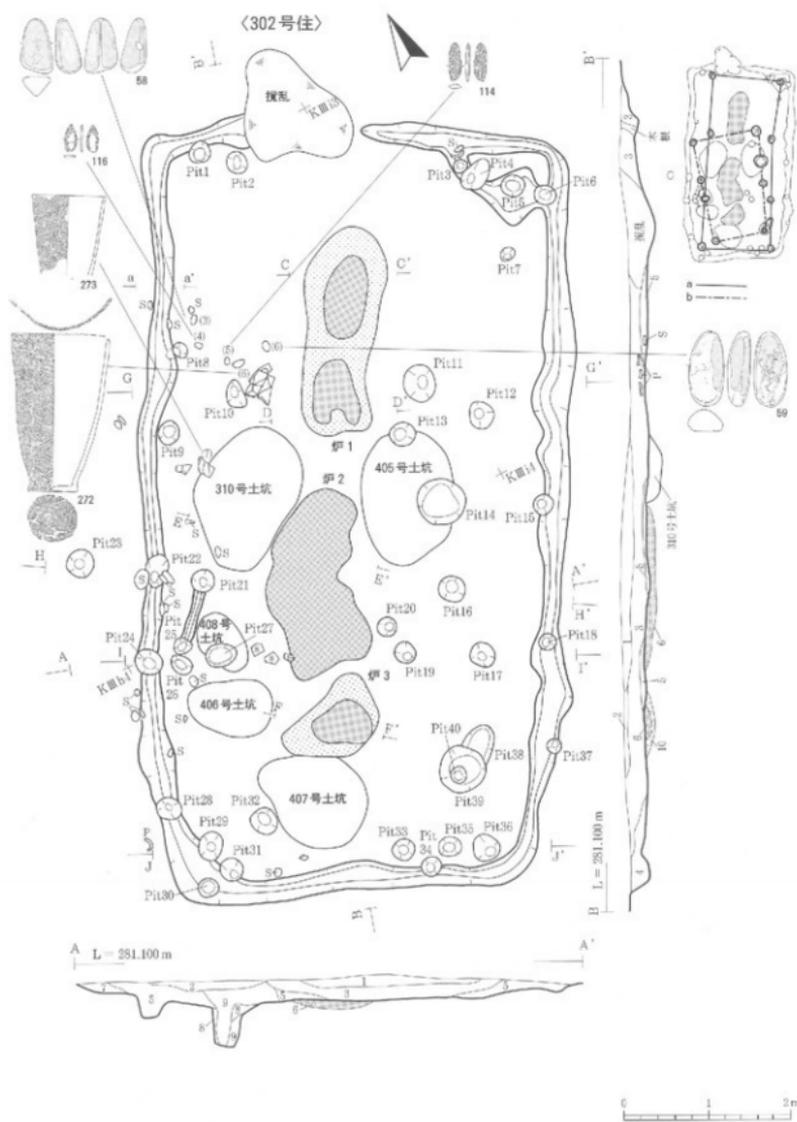
20	21	22	23
50×25	33×30	23×21	33×17
20	21	28	22

24	25	26	27
27×24	31×22	27×21	27×24
25	26	18	19

28	29	30	31
21×18	27×24	39×39	27×21
10	23	19	31

32	33	34	35
30×27	24×21	39×26	33×30
23	25	33	17

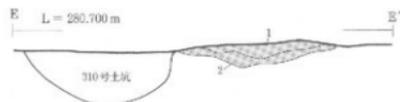
36	37	38	39
42×33	20×27	27×21	33×30
21	31	18	33



第30图 302号住 (1)

302号住A-A'-B-B'

1. 7.5YR5/2 黒褐色シロト しまり中～強 粘性中 炭化物粒極小～小1% 横土粒 黄褐色土粒極小～小1～2%
2. 7.5YR5/2 黒褐色シロト しまり中～強 粘性中 炭化物粒極小～小1% 横土粒 黄褐色土粒極小～小1～2% (1層と同等だが多少の隙あり)
3. 7.5YR2/2 黒褐色シロト しまり中 粘性弱～中 黄褐色土粒小～中1～5% 炭化物粒・横土粒含む
4. 7.5YR4/4 黒褐色シロト しまり中 粘性弱 炭化物粒極小1%未満 黄褐色土粒極小～小1%未満
5. 7.5YR2/2 黒褐色シロト しまり中 粘性弱～中 黄褐色土粒極小1%未満 炭化物粒・横土粒含む
6. 5YR5/6 赤褐色シロト しまり強 粘性強
7. 7.5YR5/3 黒褐色シロト しまり中 粘性強 黄褐色土粒極小～小1～2% 炭化物粒含む
8. 7.5YR4/4 黒褐色シロト しまり中 粘性弱 黄褐色土粒小1%未満
9. 10YR4/4 褐色シロト しまり中 粘性弱 炭化物粒含む
10. 5YR5/6 赤褐色シロト しまり中～強 粘性強



302号住C-C'

1. 5YR5/6 赤褐色シロト しまり強 粘性強 炭化物粒極小1%未満
2. 7.5YR4/6 褐色シロト しまり強 粘性強 炭化物粒極小1%未満
3. 10YR4/6 褐色シロト しまり強 粘性中 明赤褐色の粒土粒中1%未満
4. 10YR4/6 褐色シロト しまり強 粘性中 10YR4/3褐色シロトをブロック状に混入 炭化物粒極小1%未満
5. 7.5YR5/6 赤褐色シロト しまり強 粘性中



302号住E-E'

1. 5YR5/6 赤褐色シロト しまり強 粘性強
2. 5YR4/6 赤褐色シロト しまり中～強 粘性強



302号住F-F'

1. 5YR5/6 赤褐色シロト しまり強 粘性強 (強い塊状)
2. 5YR4/6 赤褐色シロト しまり中～強 粘性強 (横土)



302号住D-D'

1. 5YR4/4 赤褐色シロト しまり中 粘性中 10YR5/3黒褐色シロトをブロック状に含む 炭化物粒小1%未満
2. 5YR4/6 褐色シロト しまり強 粘性強 10YR2/2黒褐色シロトをブロック状に含む 炭化物粒極小1%未満
3. 7.5YR4/6 褐色シロト しまり強 粘性弱 10YR2/2黒褐色シロトをブロック状に含む



302号住a-a'

1. 10YR4/4 褐色シロト しまり強 粘性強 炭化物粒極小1%未満



302号住

Pit No	1	2	3
深 (cm)	25×26	27×24	17×16
溝き (cm)	21	132	49
4	5	6	7
43×38	33×27	32×24	18×16
37	10	15	33
8	9	10	11
21×17	25×20	35×21	58×35
39	25	33	41
12	15	14	15
35×31	33×26	33×27	27×24
66	38	35	18
16	17	18	19
33×33	33×30	31×31	27×24
56	50	14	49
20	21	22	23
24×14	30×30	42×27	36×38
53	42	39	33
24	25	26	27
36×30	33×30	25×21	39×27
26	11	23	60
28	29	30	31
33×27	36×36	27×24	27×27
24	39	48	58
32	33	34	35
33×33	27×27	24×24	27×24
31	49	35	30
56	57	58	59
33×33	18×18	48×39	37×27
65	—	22	40
40			
21×21			
18			

第31図 302号住(2)

【壁・床面】 明確な壁は確認することができなかった。床面はかたく締まっており、平坦である。

【柱穴】 Pitを40基確認した。これらの配置、底面レベル等を総合的に判断し、2棟分の建物配置が可能であると考えた。Pit 2・5・10・12・17・27・29・36が301-a住を、Pit 9・11・14・16・27・32・39が302-b住を構成する。

【炉】 全部で3基確認している。302-a住は3基、302-b住は2基の炉を伴うと判断した。すべて地床炉であり、住居の長軸線上に配置される。

【出土遺物】 №272～289の土器、№155の土製品、№108～121の剥片石器・石製品、№50～59の礫石器が出土している。(第13・14・73～75・183・194・195・245～247図、写真図版166・167・228・233・257・258)

303号住居跡 (第32・33図、写真図版26・27)

【位置・検出状況】 KⅢ c2、KⅢ d2～d4、KⅢ e3～e4 グリッドに位置する。耕作による攪乱層(Ⅳ層上部まで達する)を除去したところで黒いシミを検出した。

【重複】 310号焼土、313号土坑、485号土坑と重複する。新旧関係について、310号焼土は当該住居より新しいことを、313号土坑は同時期もしくは古いことを断面にて確認した。また検出状況ならびに断面観察から485号土坑→303号住居の順に構築されたものと判断した。

【平面形・規模】 303-a住の平面形は隅丸長方形ないしは長楕円形で、規模は最大で長径が12.1m、短径が6.0mである。遺構西側から南側にかけて周溝を検出した。303-b住については、303-a住の床面精査中にわずかではあるが黒っぽいシミと、周囲よりもやや硬く締まる範囲が広がることを確認したことなどにより、拡張もしくは縮小の可能性があると推測した。

【覆土・堆積状況】 覆土は褐色～暗褐色土主体で、炭化物粒ならびに黄褐色土粒が混入する。

【壁・床面】 両側の壁は比較的急であるが、東側の壁はゆるやかで周溝も確認できなかった。床面は炉の位置する中央部付近が若干窪んだ様相を示すものの、おおむね平坦である。

【柱穴】 Pitを27基確認した。これらの配置、底面レベル等を総合的に判断し、2棟分の建物配置が可能であると考えた。Pit 2・4・9・10・14・20・22・26・27が301-a住を、Pit 7・13・16・25が302-b住を構成する。

【炉】 全体で4基確認している。303-a住は4基、303-b住は2基の炉を伴うと判断した。いずれも地床炉で、住居の長軸線上に配置される。

【出土遺物】 №290～297の土器、№156の土製品、№122～126の剥片石器・石製品、№60～63の礫石器が出土している。(第14・75・76・183・195・247図、写真図版167・228・233・234・258)

304号住居跡 (第34・35図、写真図版27・28)

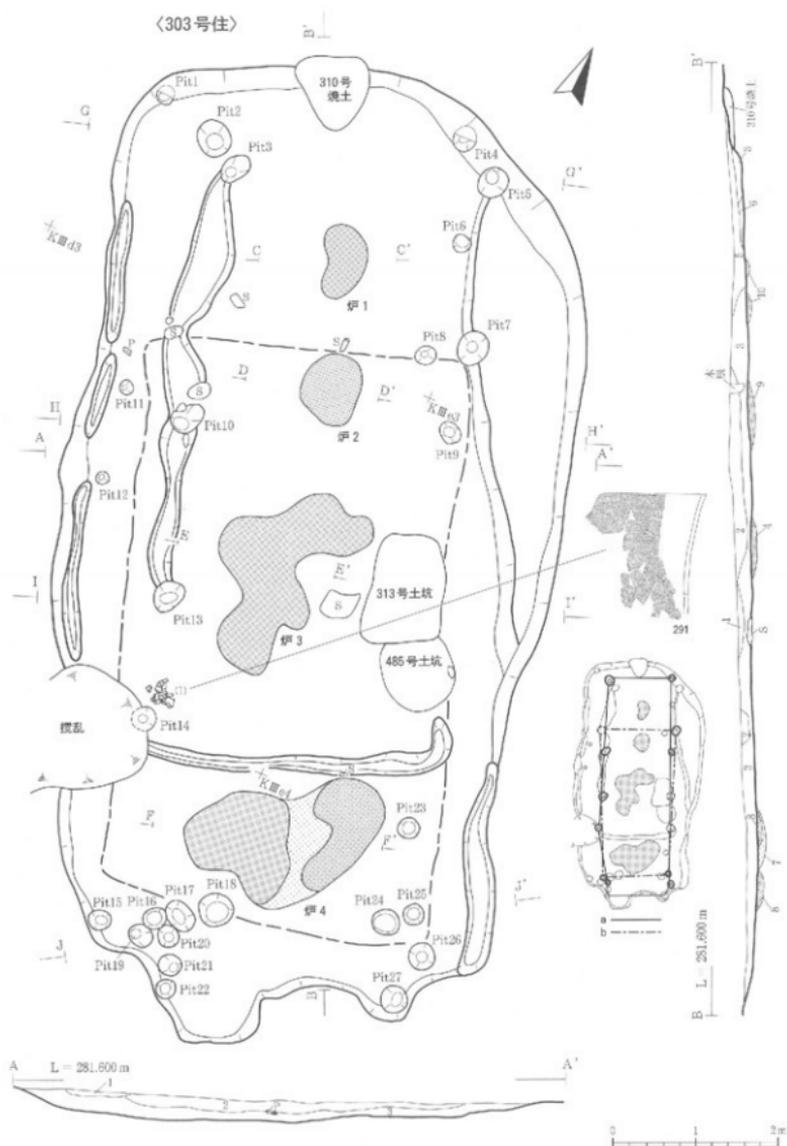
【位置・検出状況】 JⅢ j2～j3、KⅢ a2～a3、KⅢ b3～b4、KⅢ c3～c4 グリッドに位置する。Ⅱ層下部で楕円形の黒いシミを検出した。

【重複】 当初は重複のないものとして掘りすすめていったが、掘り上がりの周溝の状況や断面観察などから判断して、重複の可能性が考えられたため、大形住居の北西部分への拡張と判断した。

【平面形・規模】 平面形は不明であるが、長方形ないし楕円形と推測される。規模は確認された部分のみで、304-a住が長径(14.2)m、短径5.8m、304-b住が長径(8.2)m、短径5.1mである。

【覆土・堆積状況】 覆土は褐色～黒褐色土主体で、炭化物粒ならびに黄褐色土粒が混入する。

【壁・床面】 周溝のめぐる区域の壁は比較的急である。周溝のめぐらない区域の壁はゆるやかで、中軸線すなわち炉付近がもっとも低くなっている。



第32図 303号住 (1)

1 住居跡

(303号住A-A'・B-B')

1. 7.5YR2/1 褐色シロト しまり地 粘粒層
2. 10YR4/4 褐色シロト しまり地 粘粒層 炭化物(小)1%未満 黄褐色土層(小)1% 粘土層含む
3. 10YR5/6 赤褐色シロト しまり地 粘粒層 炭化物(小)1~1.5% 黄褐色土層(小)1%
4. 5YR4/6 赤褐色シロト しまり地 粘粒層
5. 10YR2/3 暗褐色シロト しまり地 粘粒層 黄褐色土ブロック(小)1%未満 炭化物(小)1%
6. 10YR2/3 暗褐色シロト しまり地 粘粒層
7. 10YR4/6 褐色シロト しまり地 粘粒層(中) 黄土ブロック(小)2%
8. 5YR4/4 赤褐色シロト しまり地 粘粒層(中)
9. 7.5YR4/6 褐色シロト しまり地 粘粒層
10. 5YR2/6 赤褐色シロト しまり地 粘粒層(中) 暗褐色土ブロック(小)2%



(303号住C-C')

1. 5YR2/6 暗褐色シロト しまり地 粘粒層(中) 暗褐色土ブロック(小)2%含む
2. 5YR4/6 赤褐色シロト しまり地 粘粒層(中) 1層より構成(中)

(303号住E-E')

1. 5YR4/6 赤褐色シロト しまり地 粘粒層 黄土ブロック(小)2%含む
2. 5YR4/6 赤褐色シロト しまり地 粘粒層(中)
3. 7.5YR4/6 暗褐色シロト しまり地 粘粒層(中) (非律儀的土層)



(303号住D-D')

1. 10YR 2/4 暗褐色シロト しまり地 粘粒層(中)
2. 7.5YR4/6 褐色シロト しまり地 粘粒層
3. 5YR2/6 暗褐色シロト しまり地 粘粒層(中)
4. 7.5YR4/6 褐色シロト しまり地 粘粒層(中) 層より構成が強い

(303号住F-F')

1. 5YR4/6 赤褐色シロト しまり地 粘粒層(中)
2. 5YR4/4 赤褐色シロト しまり地 粘粒層(中)
3. 7.5YR2/3 暗褐色シロト しまり地 粘粒層(中) 黄土ブロック(小)2%含む



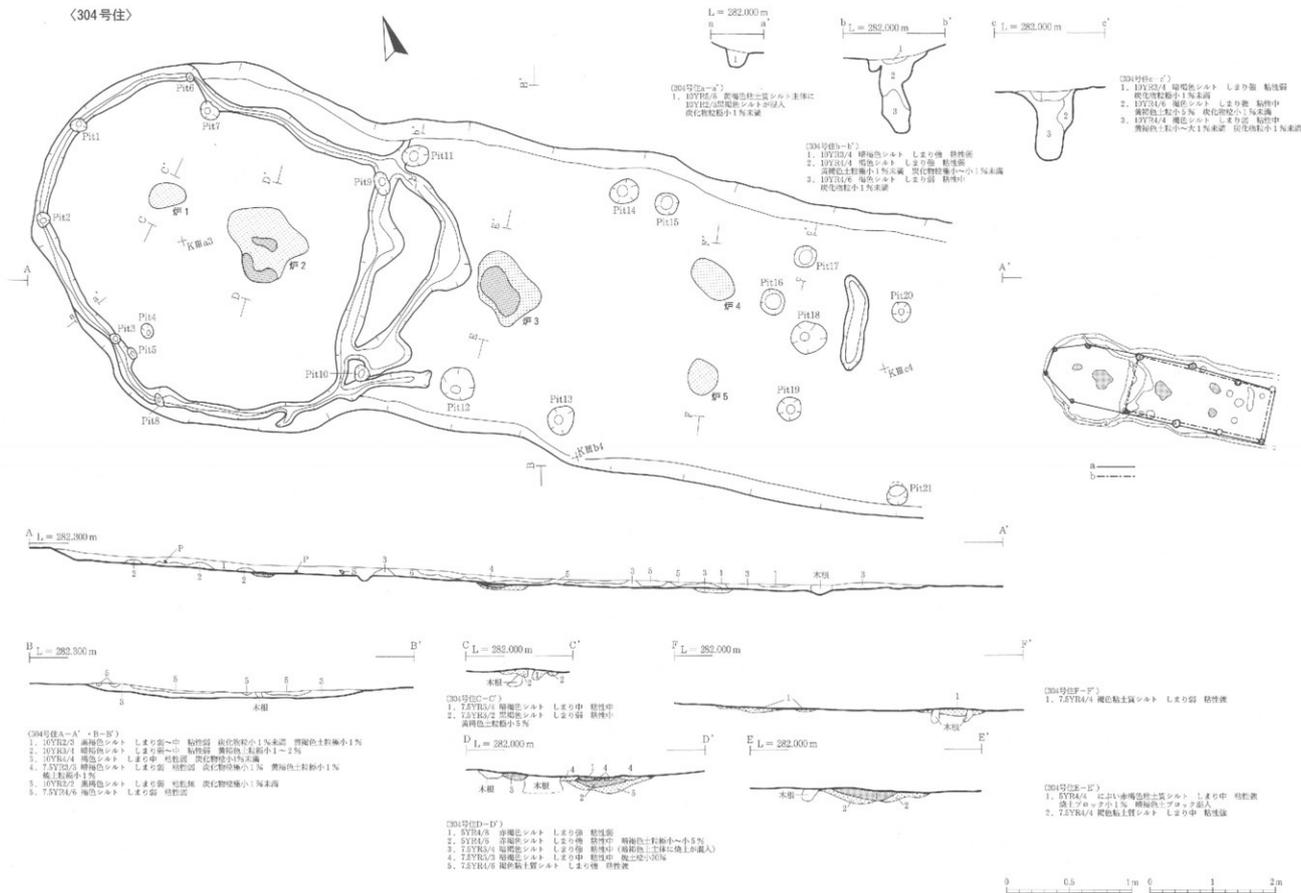
(303号住)

Flc-No	1	2	3
径(m)	(23)×21	46×42	42×26
深(m)	24	62	43
4	5	6	7
22×28	43×26	22×22	42×33
41	36	59	39
8	9	10	11
26×23	29×23	46×30	18×17
29	63	72	17
12	13	14	15
15×15	40×33	29×(29)	33×24
20	46	76	23
16	17	18	19
30×27	42×27	42×29	30×24
61	16	16	19
30	21	22	23
50×27	30×27	24×24	27×27
52	66	67	76
24	26	26	27
36×33	27×27	33×33	33×33
21	60	61	72



第33図 303号住(2)

〈304号住〉



第34図 304号住 (1)

〈304号住〉



〈304号住〉

Pit-No	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
径(cm)	20×22	21×22	19×19	20×20	20×13	14×12	34×25	22×12	38×22	26×24	43×33
深さ(cm)	50	50	57	58	57	16	61	34	43	63	72

	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
径(cm)	55×34	58×42	58×36	38×34	42×38	35×35	68×56	42×40	34×28	28×25
深さ(cm)	36	61	61	29	36	61	43	30	38	77



第35図 304号住(2)

【柱穴】 Pitを21基確認した。これらの配置、底面レベル等を総合的に判断し、2棟分の建物配置が可能であると考えた。Pit10・11・13・14・17・21が304-b住を、これらにPit1・2・4・7を加えて304-a住を構成する。

【炉】 全部で5基確認している。304-b住は東側3基の炉を伴うと判断した。いずれも地床炉である。

【出土遺物】 Na298～315の土器、Na127～148の剥片石器・石製品、Na64～74の礫石器が出土している。(第15・16・76～78・195～197・248・249図、写真図版167・168・234・258・259)

305号住居跡 (第36～38図、写真図版29～31)

【位置・検出状況】 JⅢi3～i4、JⅢj3～j5、KⅢa4～a5、KⅢb4～b5、KⅢc4～c5グリッドに位置する。平成12年度に耕作による攪乱層を除去したところで検出したが、精査をすすめるうちに遺構が調査区外にまで延びていることがわかり、遺構の南東側約4分の1は平成13年度になってから検出・精査を行った。

【重複】 調査の段階において、床面レベルがほぼ一定で段差等が確認されないことから、床面をめぐる周溝の状況をおもな判断材料とし1棟の大形住居の中心付近に小形の方形基調をなす住居が重複しているか、あるいは住居内の間仕切りという認識で精査をすすめた。その後、室内整理の段階で図面等を検討したところ少なくとも2棟の住居が重複しているという判断に至った。新旧関係については断面から東側の住居→西側の住居という順に構築されたものと判断した。また、316号土坑、317号土坑、402号土坑、403号土坑、486号土坑とそれぞれ重複している。構築順は次のとおりである。316号上坑317号土坑、403号土坑はいずれも重複する住居部分よりも古い。402号土坑、486号土坑は不明。隣接する302号上坑と重複している可能性が考えられるが、遺構を検出した時点ですでに判断できない状況であった。

【平面形・規模】 西側に位置する住居(305-b)の平面形は長方形で周溝がめぐる。規模は長径10.6m、短径5.5mである。東側に重複する住居(305-a)の平面形はやや不整な長方形で規模は長径16.7m、短径5.6mである。305-c住居と305-d住居の規模については壁もしくは周溝の範囲が特定できなかったため、柱穴を結ぶ線で計測した。その結果305-c住は長径9.2m、短径3.0m、で305-d住は長径10.5m、短径3.5mであった。

【覆土・堆積状況】 黒褐色土主体で炭化物粒が混入する。覆上のほとんどが攪乱を受けていたため、堆積状況を確認することができたのは、床面からわずかの高さにすぎない。

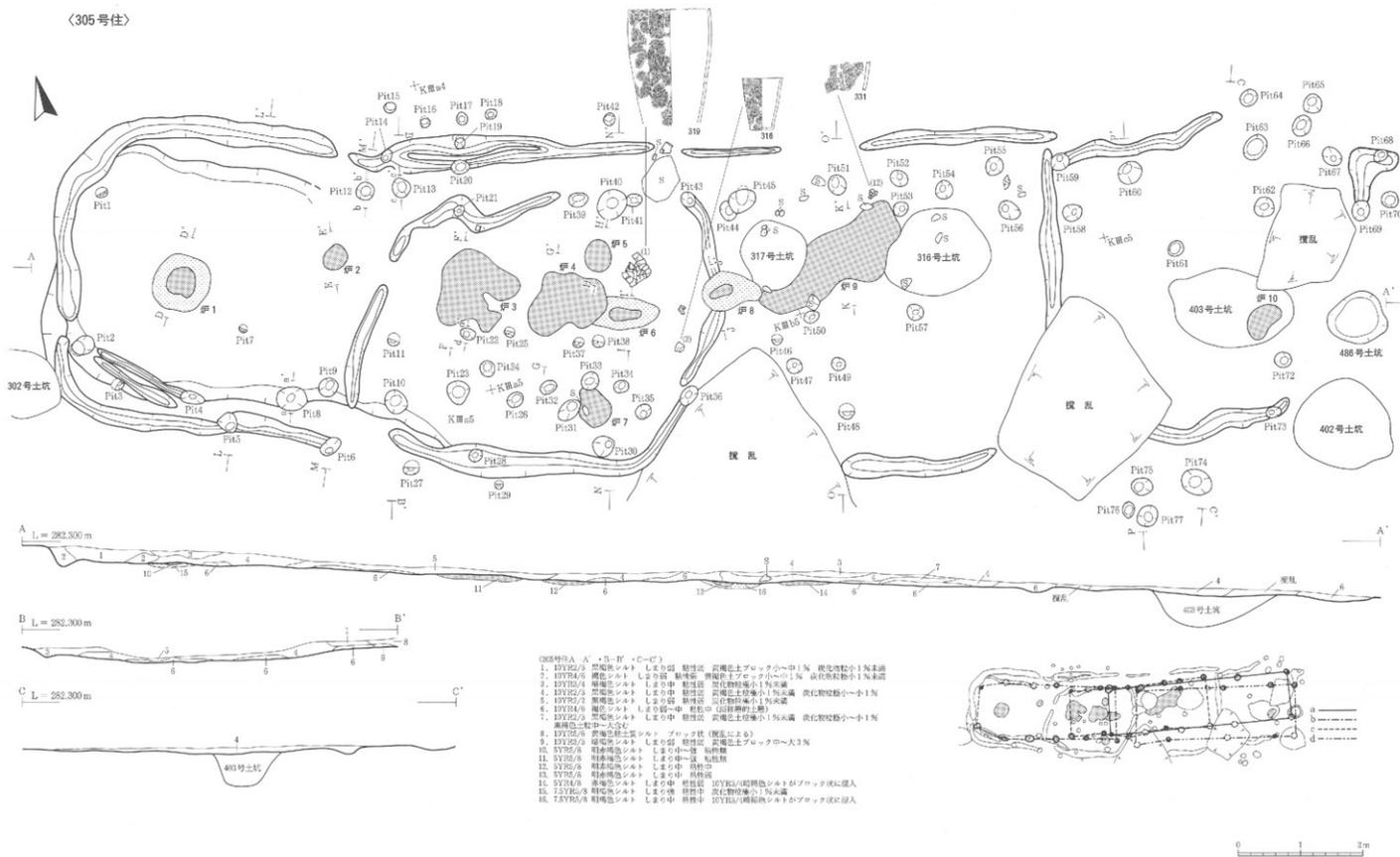
【壁・床面】 西側の住居では床面中央付近がもっとも低く、ゆるやかな高まりを示しながら周縁部へと向かい周溝の外縁がそのまま壁をなす壁自体の傾斜は急である。周溝は深いところで上端との高低差が25cm程度を示す。

【柱穴】 Pitを77基確認した。これらの配置、底面レベル等を総合的に判断し、4棟分の建物配置が可能であると考えた。Pit34・40・45・52・60・67・71が305-a住を、Pit1・2・4・8・10・13・26・35・41が305-b住を、Pit21・23・33・39・36・43・49・51・55が305-c住を、Pit44・48・53・58・62・69・73が305-d住をそれぞれ構成する。

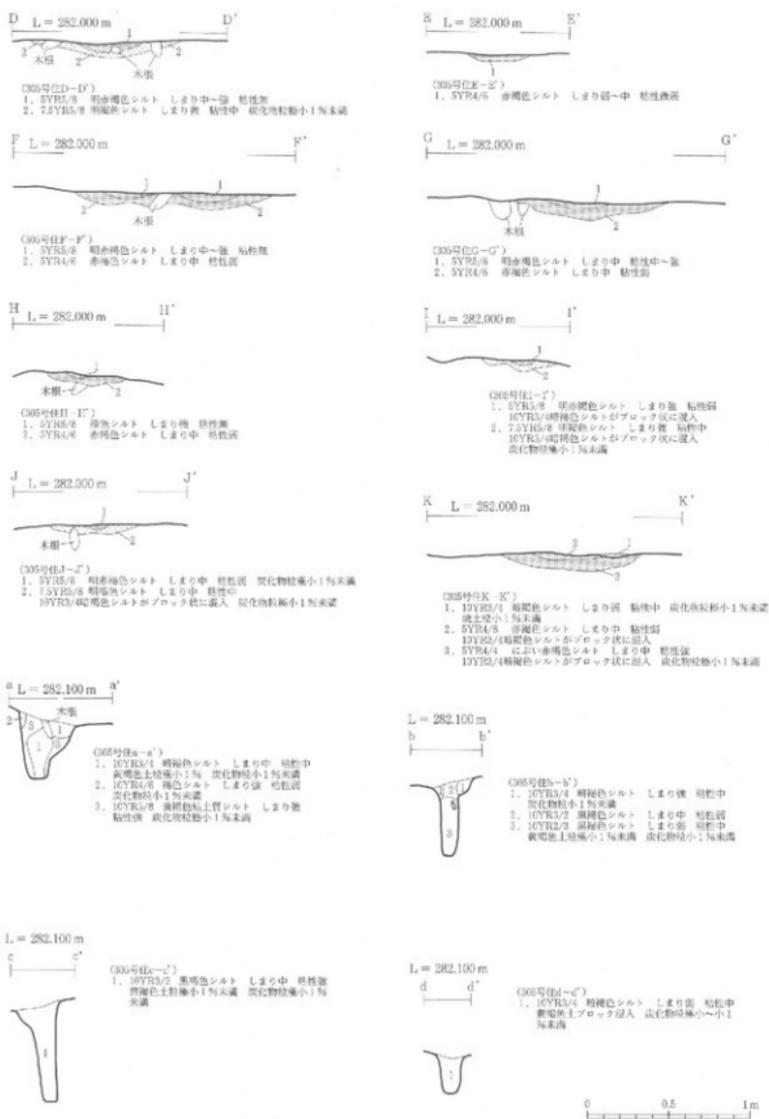
【炉】 この範囲において全部で8基の炉が確認された。一部共通して使用された炉も存在すると仮定し、305-a住は4基、305-b住が4基、305-c住が4基、305-d住が3基の炉を伴うと判断した。炉が検出された床面レベルに違いはほとんど無く、どのかがどの住居に該当するものなのかということについては判断が難しかった。

【出土遺物】 Na316～332の土器、Na149～159の剥片石器・石製品、Na75・76の礫石器が出土している。(第16・17・78・79・197・198・250図、写真図版168・169・234・235・259)

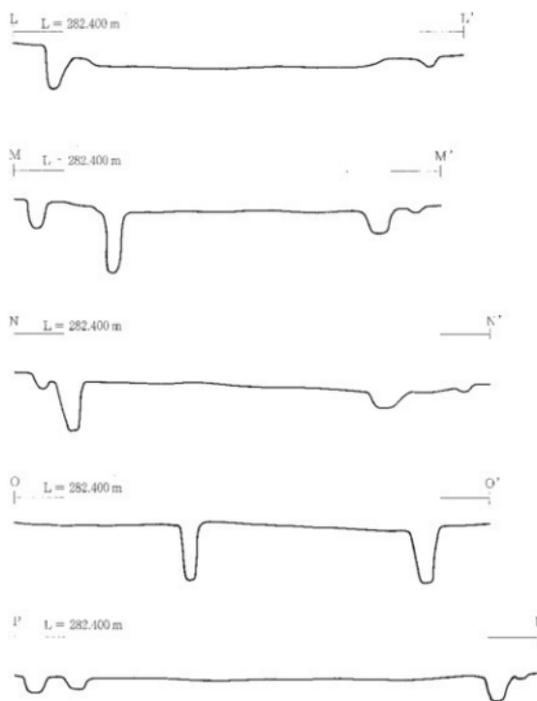
<305号住>



第36図 305号住 (1)



第37図 305号住(2)



(305号住)

Pl-No	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
R(m)	21×(14)	28×21	19×(14)	28×20	33×33	38×29	12×(13)	52×41	34×34	42×33	21×(19)
深B(m)	7	57	13	21	44	37	35	44	52	29	19
12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
33×31	34×31	25×17	19×18	15×13	20×18	20×15	18×18	31×25	18×15	25×20	42×42
51	67	53	16	20	19	24	21	34	29	27	20
24	28	28	27	28	29	30	31	32	33	34	35
30×23	16×(15)	29×25	25×(25)	20×18	15×(14)	40×38	42×32	30×25	30×29	25×24	30×28
19	14	18	23	43	12	46	17	23	29	102	
36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47
40×34	18×(16)	30×(20)	33×28	54×46	35×22	31×18	28×22	33×25	45×40	18×(18)	28×28
60	37	20	10	22	18	30	20	33	70	5	26
8	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59
25×(25)	34×24	25×20	25×28	28×28	28×28	33×30	22×20	28×32	27×26	33×24	30×30
25	64	19	20	34	37	35	30	47	25	65	30
60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71
54×36	27×27	35×30	45×33	27×27	33×30	36×30	26×27	27×21	36×55	30×27	次幕
32	20	25	23	18	18	43	24	36	28	20	-
72	73	74	75	76	77						
27×27	27×18	43×57	36×27	24×24	39×36						
15	23	29	18	16	23						

0 1 2m

第38図 305号住(3)

306号住居跡（第39図、写真図版32・33）

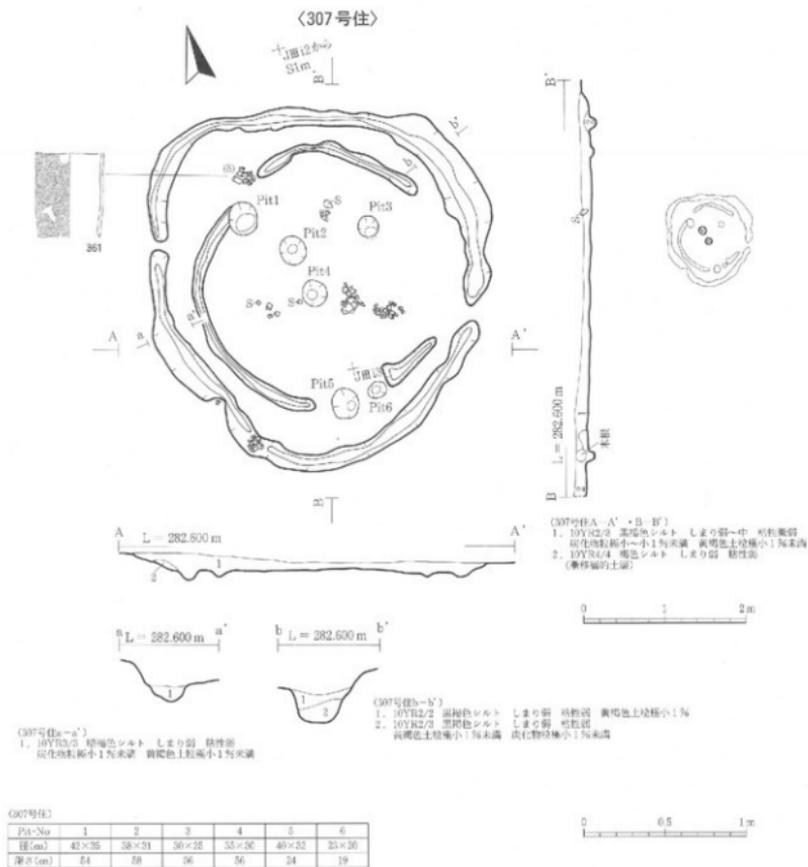
- 【位置・検出状況】 KⅢa1～a2、KⅢb1～b2グリッドに位置する。Ⅱ層下部で検出した。
- 【重複】 調査の段階において1棟の大形住居と認識し精査をすすめたところ、北側の林道下まで遺構が延びることが判明した（306-b住）。床面の段差は確認していないが、不規則な平面形と炉の配置から306-aと306-bの2棟の大形住居が重複しているものと判断した。
- 【平面形・規模】 平面形は長方形で、規模は確認できた部分のみで長径（11.0）m、短径（4.8）mである。
- 【覆土・堆積状況】 黒褐色土主体の覆土である。
- 【壁・床面】 306-aは住居西端部分に巡る周溝から壁が立ち上がるが、東端部分の壁がはっきりせず、長軸方向の規模が不明確である。南側の壁の傾斜はゆるやかである。北側は別住居（306-b住）と重複しているため、壁を確認できていない。
- 【柱穴】 Pitを10基確認した。これらの配置、底面レベル等を総合的に判断し、2棟分の建物配置が可能であると考えた。Pit1・2・9・10が306-a住を、Pit3・4・8・10が306-b住をそれぞれ構成する。
- 【炉】 全部で8基確認した。306-a住は6基、306-b住は2基の炉を伴うものと判断した。全て地床炉である。
- 【出土遺物】 Na333～359の上器、Na160～165の剥片石器、Na77～80の礫石器が出土している。（第17・80～81・198・250図、写真図版169・170・235・259・260）

307号住居跡（第40図、写真図版34・35）

- 【位置・検出状況】 JⅢh2～h3、JⅢi2～i3グリッドに位置する。Ⅱ層下部で検出した。
- 【重複】 検出段階では1棟の住居として精査をすすめたが、掘り進めるうちに周溝が二重にめぐることが判明した。したがって拡張ないしは建て替えが行われている可能性が高い。
- 【平面形・規模】 平面形は円形で規模は径4.4mである。内側の周溝は径約3.3mでめぐると推定される。
- 【覆土・堆積状況】 黒褐色土主体である。住居の拡張や建て替えを示す堆積状況は断面観察からは確認することができなかった。
- 【壁・床面】 北側の壁は周溝の外縁から立ち上がり、傾斜は緩やかである。南側の壁については明確な立ち上がりを確認することはできない。
- 【柱穴】 Pitを6基確認した。このうち中央部のPit2・4をこの住居にともなう主柱穴とし、2回の建替えないしは拡張が行われたものと判断した。
- 【炉】 なし。
- 【出土遺物】 Na360～364の土器、Na166・167の剥片石器が出土している。（第17・82・198図、写真図版170・171・235）

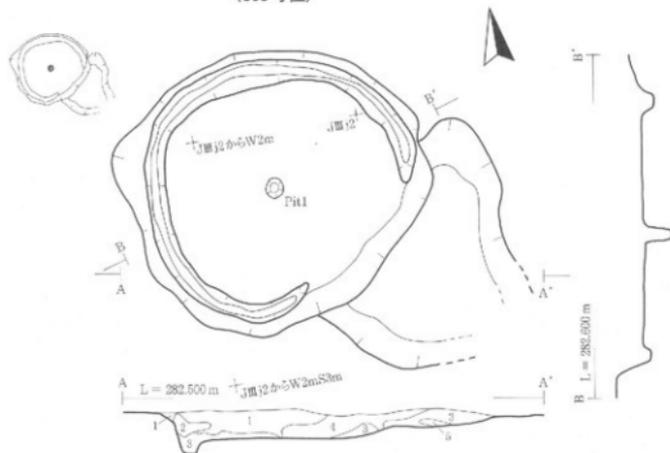
308号住居跡（第41図、写真図版35）

- 【位置・検出状況】 JⅢi1～i2、JⅢj1～j2グリッドに位置する。Ⅱ層下部で検出した。
- 【重複】 南西側で351号土坑と接する。
- 【平面形・規模】 平面形は円形で、南東側に不整な張り出しが見られる。張り出しを含めると不整なひょうたん形として認識できる。規模は張り出し部を除き径約3.3mである。
- 【覆土・堆積状況】 黒褐色土主体で炭化微粒ならびに黄褐色土粒が混入する。床面ないし壁際には前述の土層よりも薄い褐色土層が堆積していた。
- 【壁・床面】 西側の壁は周溝から急に立ちあがるが東側の傾斜は緩やかである。



第40図 307号住

〈308号住〉

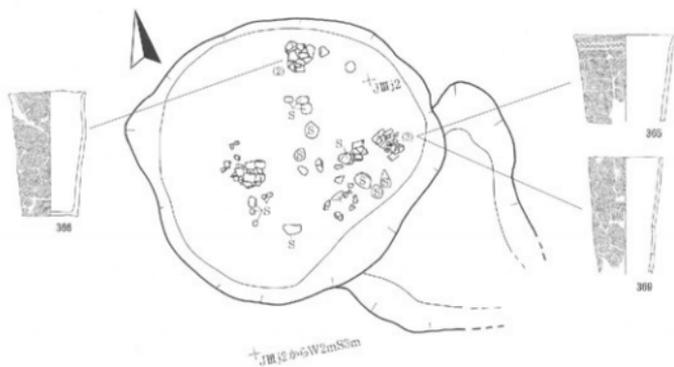


308号住A-A'

1. 10YR2/3 黄褐色シルト Lより厚 粘粒層弱 炭化物粒小1%未満 黄褐色土粒極小1%未満
2. 10YR2/2 黄褐色シルト Lより中 粘粒層弱 炭化物粒極小~1%未満 黄褐色土粒極小1%未満
3. 10YR4/1 粗砂シルト Lより中 粘粒層 炭化物粒極小1% 黄褐色土粒極小1%未満
4. 10YR2/3 黄褐色シルト Lより薄 粘粒層 炭化物粒極小1%未満 黄褐色土粒極小1%未満
(1%未満の厚く7層より明く云々)
5. 10YR2/3 黄褐色シルト Lより中 粘粒層 黄褐色土粒極小1%未満

308号住

Profile No.	1
厚 (cm)	25 ~ 21
深さ (cm)	35



第41図 308号住

【柱穴】 Pitを1基確認しており、この住居にともなう主柱穴とした。住居のほぼ中心に位置する。周溝や壁についても丹念に検出を行ったがその他のPitは確認していない。

【炉】 なし。

【出土遺物】 №365～374の土器、№81の礫石器が出土している。(第18・82～84・250図、写真図版171・172・260)

401号住居跡 (第42・43図、写真図版36)

【位置・検出状況】 KⅢi4～i6、KⅢj4～j5、LⅢa4～a5 グリッドに位置する。用水路西側で耕作による攪乱層を除去したところで検出した。用水路によって分断されている。

【重複】 確認していない。

【平面形・規模】 平面形は長方形で、規模は長径12.6m、短径5.5mである。

【覆土・堆積状況】 黒褐色土～褐色土主体で炭化物粒ならびに黄褐色土粒が混入する。

【壁・床面】 明確な壁の掘り込みを確認することはできなかったが、精査をすすめるうちに検出したプランの外縁に周溝がめぐることが判明したためこれを住居のプランとした。床面はほぼ平坦であるが、住居中央軸すなわち炉の付近が若干低まっている。

【柱穴】 Pitを30基確認している。これらの配置、底面レベル等を総合的に判断し、2棟分の建物配置が可能であると考えた。Pit1・4・6・10・15・16・23・28が401-a住を、Pit7・8・15・17・24・27が402-b住を構成する。

【炉】 2基確認している。いずれも地床炉である。

【出土遺物】 №375～393の土器、№168～176の剥片石器・石製品、№82～88・90の礫石器が出土している。(第18・19・84～86・198・199・250・251図、写真図版172・173・235・260)

402号住居跡 (第44・45図、写真図版37)

【位置・検出状況】 KⅢi7～i8、KⅢj7～j8 グリッドに位置する。用水路西側で耕作による攪乱層を除去したところで検出した。検出時、周囲の土と住居の覆土との違いがほとんどなく、遺構としての判断に迷ったが、精査をすすめるうちに炉と思われる壁を検出したため住居として登録した。

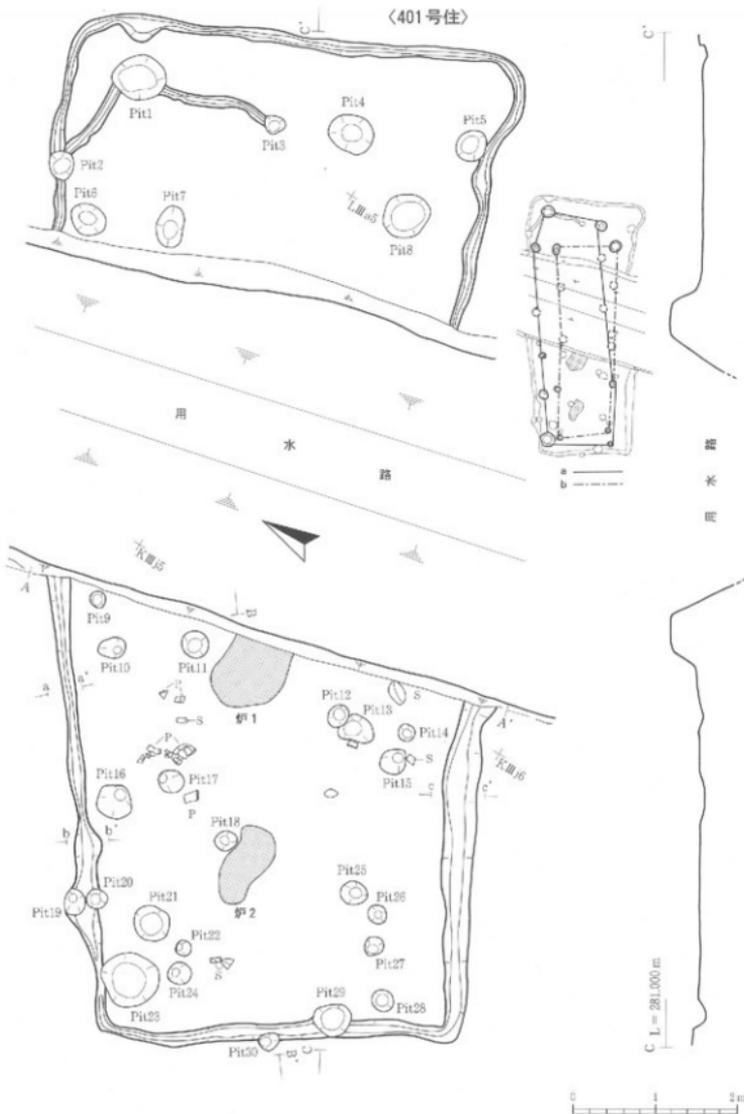
【重複】 403号住、416号土坑、401号陥し穴と重複する。新旧関係については断面観察等から402号住→401号陥し穴、402号住→403号住の順で構築されたものと判断した。401号陥し穴と403号住の新旧関係について、断面図によれば401号陥し穴→403号住という堆積の順番が読み取れ、この順番で遺構が構築されたものと解釈される。しかしながら401号陥し穴はいわゆる溝状の陥し穴であり、各住居の時期（大木5式期）と比較した場合、より新しい時代に構築されたものと解釈されるのが一般的である。したがってこの部分に関しては、土層断面の分層の仕方の問題があったものと考えている。416号土坑との新旧関係は不明である。

【平面形・規模】 平面形は楕円形と推測される。規模は推定部分を含め長径(8.0)m、短径(6.1)mである。

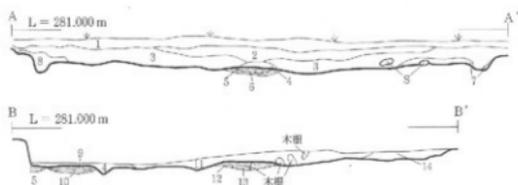
【覆土・堆積状況】 黒褐色土主体で、炭化物粒が混入する。

【壁・床面】 壁はほとんど確認することができなかった。遺構の北端部に周溝と思われる溝が一部確認されている。床面は平坦であるが、住居外縁までの間にある柱穴と思われるPit付近にわずかながら段差をとまっている。

【柱穴】 402号住と403号住あわせてPitを43基確認している。これらのうちPit2・15・32・34・36をこの住居にともなう主柱穴とした。



第42図 401号住 (1)



- (401号住A-A'・B-B')
1. 7.5YR2/2 黒褐色シルト しまり中 粘性弱 黄褐色土粒細小〜中(13〜20%) (耕作による埋没土層)
 2. 7.5YR2/3 暗褐色シルト しまり中〜強 粘性强 黄褐色土粒細小1%未満 炭化物粒極小1%未満
 3. 10YR2/2 黒褐色シルト しまり弱 粘性强 黄褐色土粒細小〜小5〜10% 炭化物粒極小〜小3%
 4. 7.5YR4/4 暗褐色シルト しまり弱 粘性强 黄褐色土粒細小〜小1%未満
 5. 5YR5/8 明赤褐色シルト しまり中〜強 粘性强
 6. 5YR4/5 赤褐色シルト しまり中 粘性强
 7. 10YR3/3 暗褐色シルト しまり中 粘性强 黄褐色土粒細小〜中(1〜3%)
 8. 10YR3/3 暗褐色シルト しまり中 粘性强 黄褐色土粒細小5〜10% 炭化物粒細小1%
 9. 5YR4/4 に近い赤褐色シルト しまり弱〜中 粘性强 黄土粒小〜中3%
 10. 5YR4/5 赤褐色シルト しまり中 粘性强 黄土粒小1%
 11. 7.5YR2/2 暗褐色シルト しまり弱 粘性强 炭化物粒極小1%未満 黄褐色土粒細小〜小1〜3%
 12. 7.5YR2/2 暗褐色シルト しまり弱 粘性强 炭化物粒極小1% 黄土粒細小1%
 13. 7.5YR4/6 暗褐色シルト しまり中 粘性强〜中
 14. 10YR3/3 暗褐色シルト しまり弱 粘性强 炭化物粒極小1%未満 黄褐色土粒細小1%未満



L = 280.800 m



(401号住a-a')

1. 7.5YR2/3 暗褐色シルト しまり中〜強 粘性强 黄褐色土粒細小1%未満 炭化物粒極小1%未満

L = 280.800 m



(401号住b-b')

1. 7.5YR2/2 暗褐色シルト しまり中〜強 粘性强 炭化物粒細小1%未満 黄褐色土粒細小1%未満
2. 10YR3/3 暗褐色シルト しまり中 粘性强

L = 280.800 m



(401号住c-c')

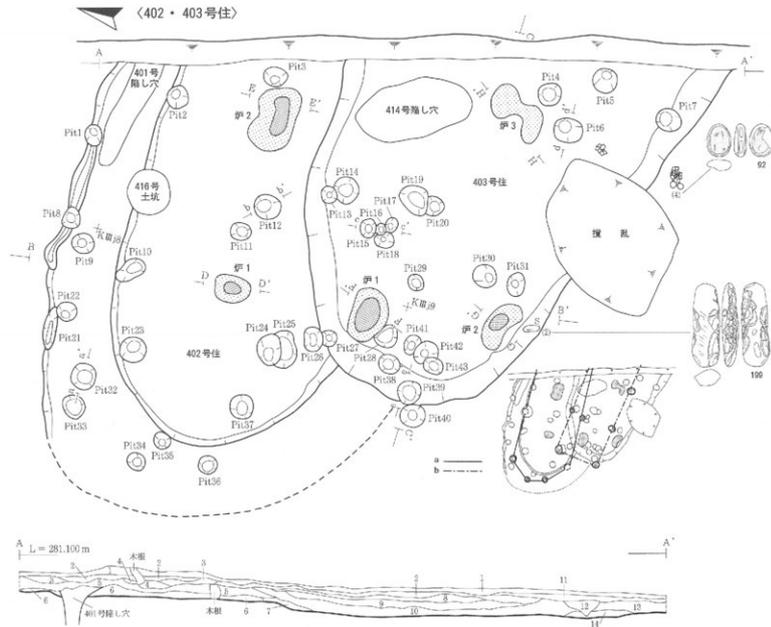
1. 7.5YR2/2 暗褐色シルト しまり弱 粘性强 炭化物粒極小1%未満
2. 10YR4/6 暗褐色シルト しまり中 粘性强



(401号住)

住名No	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
長(m)	66×54	26×33	27×34	54×48	41×36	45×39	51×33	60×51	21×18	36×27	33×33
幅(m)	—	—	—	—	—	—	—	—	35	33	18
12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
30×24	45×33	21×21	26×30	45×42	33×27	27×24	33×27	27×24	45×42	21×21	69×66
29	29	33	54	51	—	27	22	26	18	18	23
24	28	26	27	28	29	26	—	—	—	—	—
30×27	33×30	24×24	27×24	30×27	46×29	27×21	—	—	—	—	—
54	12	6	40	27	30	14	—	—	—	—	—

第43図 401号住(2)



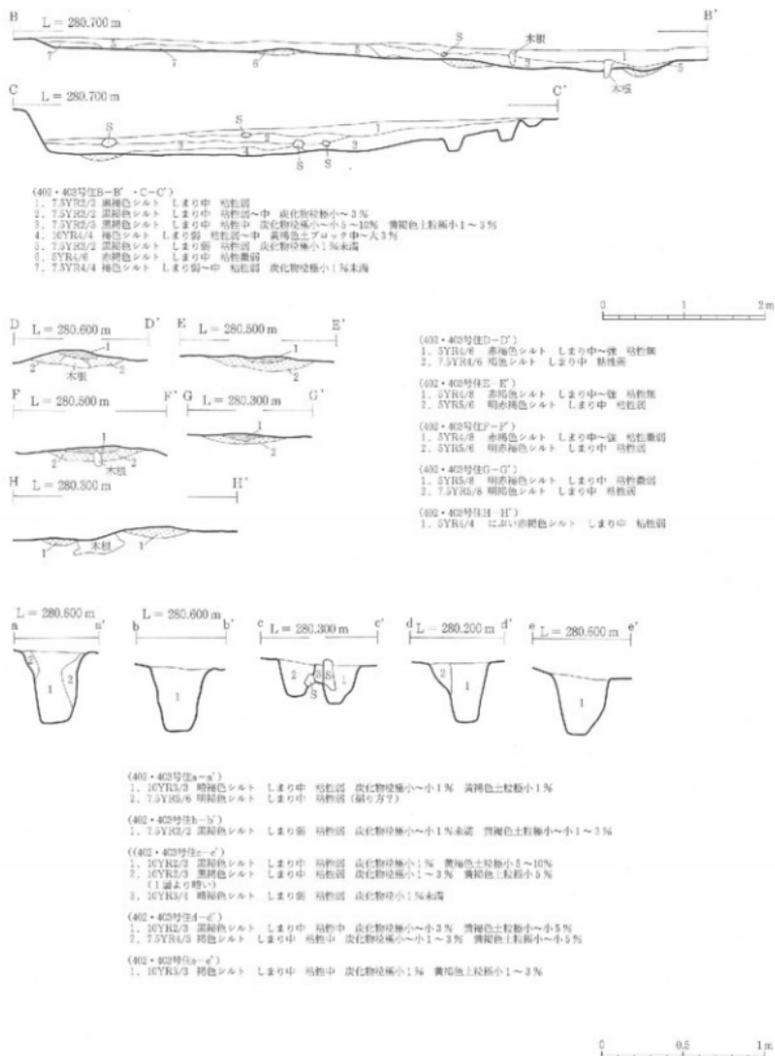
(402・403号住A-A')

1. 耕作による痕跡
 2. 土器片の散見
 3. 土器片の散見
 4. 土器片の散見
 5. 土器片の散見
 6. 土器片の散見
 7. 土器片の散見
 8. 土器片の散見
 9. 土器片の散見
 10. 土器片の散見
 11. 土器片の散見
 12. 土器片の散見
 13. 土器片の散見
 14. 土器片の散見
1. 土器片の散見
 2. 土器片の散見
 3. 土器片の散見
 4. 土器片の散見
 5. 土器片の散見
 6. 土器片の散見
 7. 土器片の散見
 8. 土器片の散見
 9. 土器片の散見
 10. 土器片の散見
 11. 土器片の散見
 12. 土器片の散見
 13. 土器片の散見
 14. 土器片の散見

(402・403号住)

Pit-No	1	2	3	4	5	6	7
埋(㎝)	33×27	35×36	38×30	59×56	42×39	45×39	42×36
深さ(㎝)	—	—	46	4	52	39	59
8	9	10	11	12	13	14	15
33×35	38×33	51×30	33×30	43×35	37×34	42×39	33×37
38	52	—	40	35	32	22	23
16	17	18	19	20	21	22	23
18×15	24×19	33×27	54×42	33×30	39×21	33×30	45×42
20	21	24	29	32	—	34	42
24	25	26	27	28	29	30	31
21×25	40×33	38×30	27×34	38×30	38×24	39×36	38×27
52	14	33	39	39	27	21	38
32	33	31	35	36	27	38	39
42×42	38×33	33×27	33×27	33×30	39×36	36×33	38×39
45	41	33	27	31	48	—	41
40	41	42	43	—	—	—	—
42×29	33×21	42×33	33×27	—	—	—	—
41	43	31	49	—	—	—	—

第44図 402・403号住 (1)



第45図 402・403号住(2)

【炉】 2基確認している。いずれも住居の中軸線上に配置される。

【出土遺物】 Na394・395の土器、Na177～183の剥片石器、Na89の礫石器が出土している。(第19・86・199・251・252図、写真図版173・235・261)

403号住居跡(第44・45図、写真図版38・39)

【位置・検出状況】 KⅢ i8～i9、KⅢ j8～j9 グリッドに位置する。調査開始時に設定した試掘トレンチにてあらかじめ遺構として確認していたものである。その後、耕作による攪乱層を除去しⅡ層下部まで掘り下げたところで全体像を把握した。

【重複】 402号住、414号陥し穴と重複している。新旧関係については検出状況ならびに断面観察から402号住→403号住→414号陥し穴の順番で構築されたものと判断した。

【平面形・規模】 平面形は楕円形をなすものと推定される。規模は推定を含め長径(7.2)m、短径(5.2)mである。

【覆土・堆積状況】 褐色から黒褐色土主体である。覆土最下層には炭化物粒5～10%を含み、他の層よりも炭化物の混入割合が高い。自然堆積である。

【壁・床面】 北側の壁は比較的緩やかに立ち上がっている。南側の壁については、地形の関係と一部風倒木による攪乱により遺構が切られているため、明確に把握することができない。床面については、住居の縁(壁際)に比較して中央部付近がやや低まってくぼんだ状態になっている。

【柱穴】 402号住と403号住あわせてPitを43基確認している。これらのうちPit6・13・24・30・40をこの住居にともなう主柱穴とした。Pit24と40については住居の上端から更に外側にはみ出して位置しており、当該住居の主柱穴と認定すべきか否か迷うところであったが、桁空間と主柱穴間の距離などを総合的に判断した結果、このようになった。住居の平面形を優先すれば、Pit24と40の代わりにPit27と38の可能性も考えられる。

【炉】 3基確認している。これらのうち2基は住居の長軸線上に位置するが、1基(G-G')については壁際に位置しており、やや不規則な位置取りといえる。

【出土遺物】 Na396～417・419の土器、Na184～201の剥片石器・石製品、Na91～99の礫石器が出土している。(第19・20・86～87・200・201・252～254図、写真図版173・236・261・262)

404号住居跡(第46・47図、写真図版40・41)

【位置・検出状況】 KⅢ g8～g9、KⅢ h8～h9 グリッドに位置する。耕作による攪乱層を除去しⅢ層まで掘り下げたところ、褐色のシミを確認した。地山との判別が難しく、検出状態でのプランもやや不整であったが、地山とはわずかながらも土色が異なり、炭化物粒が混入することなどから遺構の覆土であると判断した。

【重複】 遺構の南側で408号住、412号住、437号上坑、416号陥し穴と重複する。新旧関係については、437号土坑は不明であるが、これ以外では404号住が最も新しい。

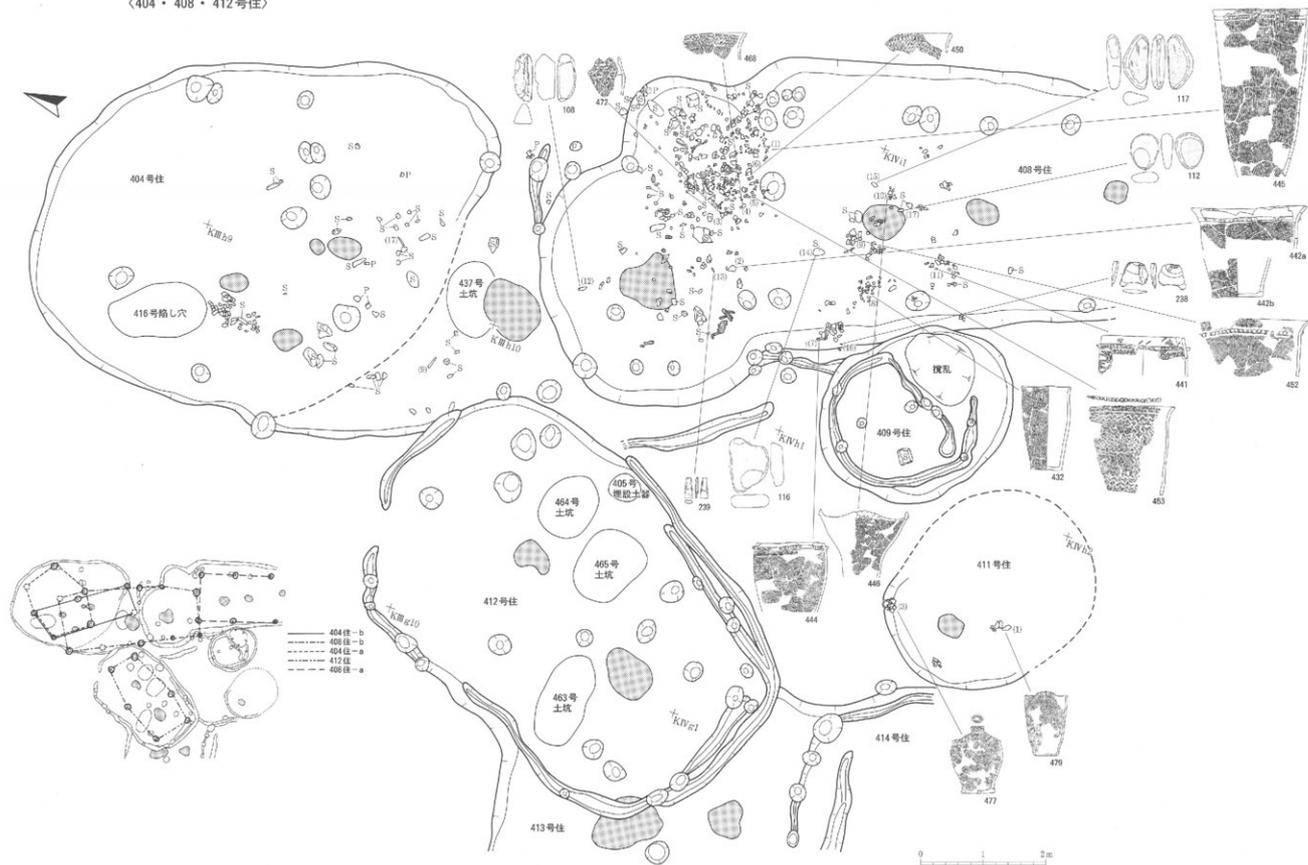
【平面形・規模】 平面形は不整な楕円形をなす。規模は長径8.2m、短径5.8mである。

【覆土・堆積状況】 暗褐色土による単層である。

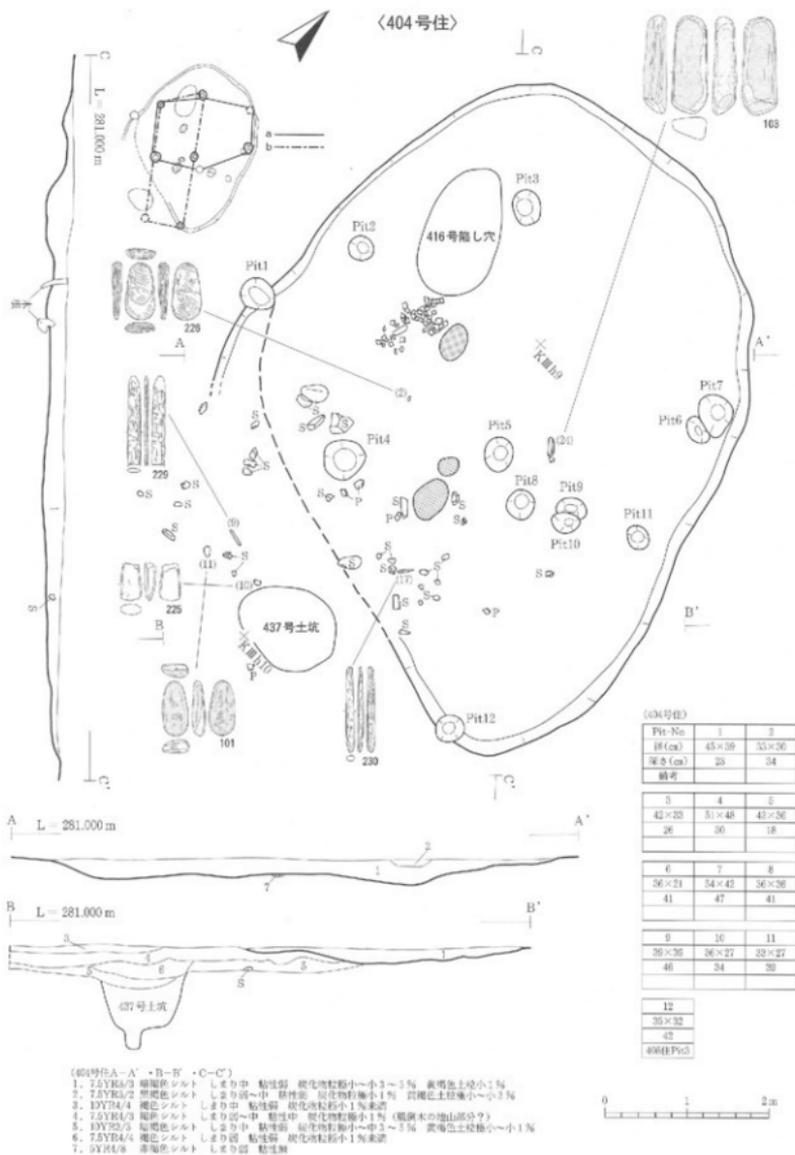
【壁・床面】 明確な壁の立ち上がりは確認することができない。住居中央部から外側に向かって緩やかに傾斜している。

【柱穴】 Pitを11基確認した。これらのうちPit2・3・4・5・8で404-a住を、Pit2・3・4・5・12で404-b住を構成するものとした。

<404・408・412号住>



第46図 404・408・412号住



第47図 404号住

【炉】 3基確認している。いずれも地床炉である。

【出土遺物】 Na118・420～428の土器、Na157の上製品、Na202～230の剥片石器・石製品、Na100～103の礫石器が出土している。(第20・21・87・88・183・201～203・254・255図、写真図版173・174・228・236・237・262・263)

408号住居跡 (第46・48～50図、写真図版42・43)

【位置・検出状況】 KⅢg10～h10、KIVh1～i1グリッドに位置する。Ⅱ層下部にて検出した。遺構の位置する区域は南側のため池に向かい緩やかに傾斜しており、他の遺構や捨て場の重複が激しい。このような状況であったため、検出時に住居のプラン全体を把握することは困難であったが、わずかに確認することのできた住居の東側の壁のラインを頼りに掘り進めていった。当初は1棟の大形住居という認識であったが、完掘後、炬を結ぶ線すなわち住居の長軸線のずれなどから、少なくとも2棟以上の住居が重複しているものと判断し、408-a住、408-b住とした。

【重複】 404号住、412号住、409号住、437号土坑と重複している。新旧関係について、404号住、409号住と412号住、は当該各住居よりも新しい。437号土坑は古い。

【平面形・規模】 平面形は長方形と推測される。規模は408-a住が推定で長径9.5m、短径5.0m、408-b住が長径9.0m、短径4.5mである。

【覆土・堆積状況】 北西から南東に向かって順番に堆積している。(9・7・6・5・2の順) 7層(別遺構もしくは408号住覆土)の上に6層(焼土粒を含む褐色土層)が被っており、さらにその上に5層(遺物包含層)が被る。そのさらに上層に2層(408号住南側の覆土)がある。9層は人為堆積、7層は自然堆積、6層は人為堆積、5層は人為堆積、2層は自然堆積と考えられる(7層は人為堆積の可能性もある)。

【壁・床面】 壁は明確な立ち上がりを見せず、床面中央部付近から緩やかに立ち上がっている。

【柱穴】 Pitを31基確認している。これらの配置、底面レベル等を総合的に判断し、Pit19・23・26・28・30・31で408-a住を、Pit2・5・9・12・17・20と404住Pit2・8で408-b住を構成するものとした。

【炉】 全部で6基確認している。408-a住は3基、408-b住も3基の炬を伴うものと判断した。いずれも地床炉で住居の長軸線上に配置される。

【出土遺物】 Na429～472の土器、Na158・159の上製品、Na231～240・244の剥片石器・石製品、Na104～117の礫石器が出土している。(第21～23・88～96・183・203・204・255～257図、写真図版174～178・228・237・238・263・264)

409号住居跡 (第51図、写真図版44・45)

【位置・検出状況】 KIVg1～h1グリッドに位置する。Ⅱ層下部にて検出した。遺構が密集している区域であったが、周囲の覆土と若干色合いが異なって(やや明るい色)おり、掘り進めたところ住居であると認定した。

【重複】 408号住と重複し、新旧関係は408号住→409号住である。また南側約3分の1程度は風倒木と思われる攪乱層によって破壊されていた。

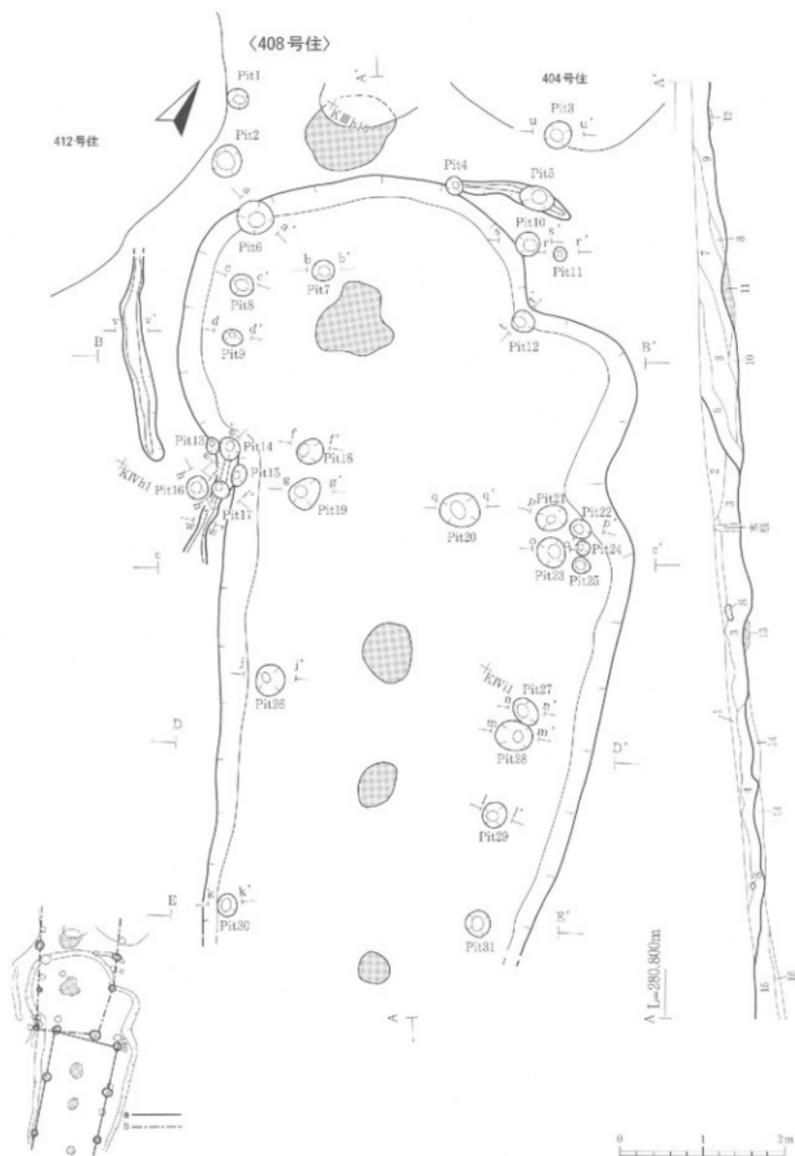
【平面形・規模】 平面形は正円形で規模は直径3.4～2.8mである。深さは60cmである。

【覆土・堆積状況】 暗褐色土→極暗褐色土が堆積する。自然堆積と判断した。

【壁・床面】 残存する壁の立ち上がりは急である。床面は平坦で比較的硬く締まっている。

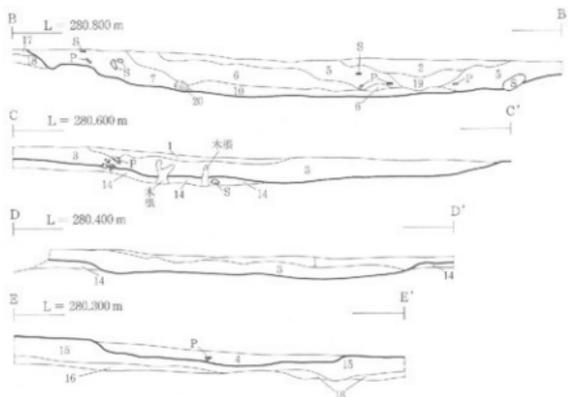
【柱穴】 Pitを7基確認した。このうちPit3をこの住居に伴う主柱穴と判断した。

【炉】 なし。



第48図 408号住(1)

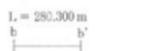
1 住居跡



- (408号住居A-a'・B-b'・C'・D-D'・E-E')
- 7.5YR2/2 黒褐色シルト しまり部 粘質腐 炭化物粒小〜中5%
 - 7.5YR2/4 暗褐色シルト しまり部〜溝 粘質腐 炭化物粒小〜中10%
 - 10YR3/4 暗褐色シルト しまり部〜溝 粘質腐 炭化物粒小〜小5〜10%
 - 7.5YR2/2 黒褐色シルト しまり部 粘質腐 炭化物粒小〜小5〜10%
 - 7.5YR2/2 暗褐色シルト しまり部〜中 粘質腐 炭化物粒小〜大45% 黄褐色土粒小〜中10〜20%
- 机上取点方
- 5YR4/6 褐色シルト しまり部 粘質腐 炭化物粒小〜中20% 焼土粒小2%
 - 7.5YR5/2 黒褐色シルト しまり部〜中 粘質腐 黄褐色土粒小〜中15% 炭化物粒小〜中5〜10%
 - 7.5YR5/2 黒褐色シルト しまり部 粘質腐 炭化物粒小5〜10%
 - 7.5YR4/4 褐色シルト しまり部 粘質腐 炭化物粒小〜中1%
 - 7.5YR5/2 黒褐色シルト しまり部 粘質腐 炭化物粒小〜中1%
 - 5YR4/8 赤褐色シルト しまり部 粘質腐 (溝埋めの焼土)
 - 5YR5/8 暗赤褐色シルト しまり部〜溝 粘質腐 (焼土)
 - 7.5YR4/4 褐色シルト しまり部 粘質腐 (溝埋めの焼土)
 - 10Y25/1 暗褐色シルト しまり部 粘質腐 炭化物粒小〜中5%
 - 7.5YR2/2 黒褐色シルト しまり部〜中 粘質腐ととどろし 黄褐色土粒極小〜小5% 炭化物粒小5%
 - 7.5YR2/2 暗褐色シルト しまり部 粘質腐
 - 10Y25/2 赤褐色シルト しまり部 粘質腐 炭化物粒小〜中2%
 - 10YR4/4 褐色シルト しまり部 粘質腐 炭化物粒小1%
 - 10YR3/2 暗褐色シルト しまり部 粘質腐 炭化物粒小〜中10〜20% 黄褐色土粒小〜中10%
 - 5YR3/6 暗赤褐色シルト しまり部 粘質腐 (焼土ブロック)

(408号住)

Pit-No	1	2	3
深さ(m)	27×21	39×23	33×30
深さ(m)	18	38	32
4	5	6	7
14×21	43×30	15×42	27×27
18	49	32	77
8	9	10	11
27×27	24×18	30×30	78×15
29	23	34	23
12	13	14	15
27×27	21×15	30×30	37×18
29	16	41	26
16	17	18	19
27×24	24×21	23×33	43×33
42	41	43	55
20	21	22	23
68×42	26×50	24×21	29×23
35	41	47	47
21	20	26	27
18×15	21×21	39×30	36×27
13	15	65	45
28	29	30	31
45×35	33×30	30×24	33×30
42	49	50	22



(408号住a-a')

- 7.5YR2/5 暗褐色シルト しまり部 粘質腐 黄褐色土粒小〜中20% 炭化物粒極小2%
- 7.5YR4/4 褐色シルト しまり部 粘質腐 黄褐色土粒大1%

(408号住b-b')

- 5YR3/3 暗赤褐色シルト しまり部 粘質腐 黄褐色土粒 粘質腐 炭化物粒小〜中40% 黄褐色土粒小1%
- 7.5YR2/1 暗褐色シルト しまり部 粘質腐 炭化物粒小〜中10%
- 7.5YR2/3 暗褐色粘質シルト しまり部 粘質腐 黄褐色土粒小10%

(408号住c-c')

- 7.5YR2/3 黒褐色シルト しまり部 粘質腐 炭化物粒小2%
- 7.5YR3/2 暗褐色粘質シルト しまり部 粘質腐 黄褐色土粒小〜中20%
- 7.5YR3/2 暗褐色粘質土質シルト しまり部 粘質腐 黄褐色土粒極小〜小15%

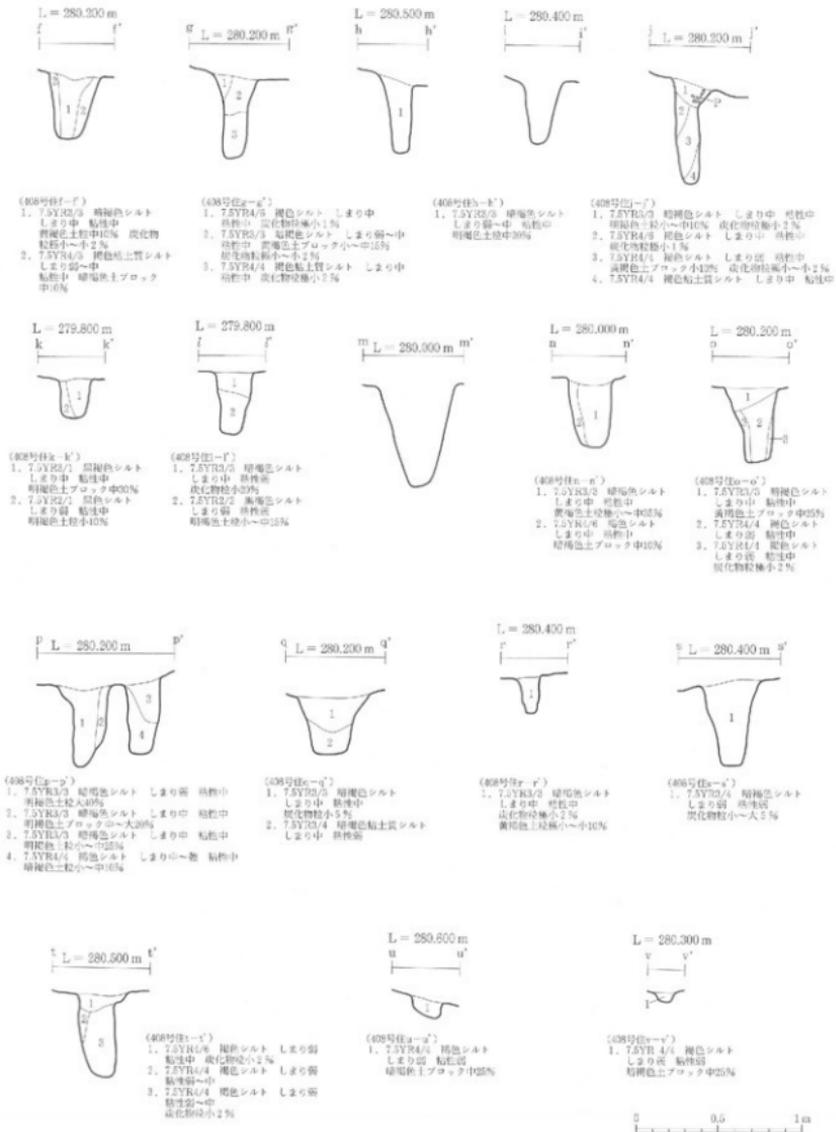
(408号住d-d')

- 7.5YR2/5 暗褐色粘質土質シルト しまり部 粘質腐 黄褐色土粒小〜中15%
- 7.5YR4/6 褐色粘質土質シルト しまり部 粘質腐

(408号住e-e')

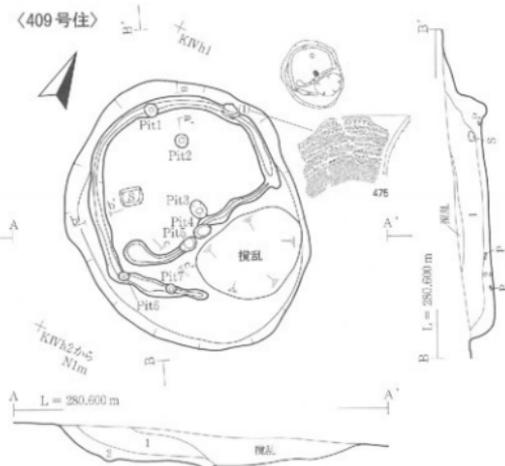
- 7.5YR2/4 暗褐色シルト しまり部 粘質腐 炭化物粒小〜中1%





第50図 408号住(3)

〈409号住〉



(409号住A-A'・B-B')

1. 7.5YR3/3 暗褐色シロト しまり中 粘性弱 炭化物粒極小〜中10% 黄褐色土ブロック小2%

2. 7.5YR2/3 暗褐色シロト しまり中 粘性弱 炭化物粒極小3% 黄褐色土ブロック小2%

L = 280.200 m

(409号住a-a')
1. 7.5YR3/6 暗褐色シロト
しまり中 粘性弱
黄褐色土ブロック小41%

L = 280.200 m

(409号住b-b')
1. 7.5YR3/2 暗褐色シロト
しまり中 粘性弱
黄褐色土ブロック小〜中14%

L = 280.200 m

(409号住c-c')
1. 7.5YR3/4 暗褐色シロト しまり弱〜中
粘性弱 炭化物粒中上ブロック中35%

(409号住)

Pit-No	1	2	3
径(m)	18×15	18×15	24×15
深S(cm)	10	36	60

	4	5	6	7
21×15	24×15	12×12	12×12	
深	26	13	17	

〈411号住〉



(411号住A-A'・B-B')

1. 7.5YR2/2 暗褐色シロト しまり中 粘性弱 炭化物粒極小〜中5〜10% 黄褐色土ブロック小〜小5%

2. 7.5YR2/1 暗褐色シロト しまり中 粘性弱 炭化物粒極小〜中5〜10% 黄褐色土ブロック小〜小5%

3. 7.5YR2/2 暗褐色シロト しまり中 粘性弱 黄褐色土ブロック小〜小10% 炭化物粒極小〜小10%

4. 7.5YR1/1 暗褐色シロト しまり中 粘性弱 炭化物粒極小〜小3〜5%

0 1 2m

第51図 409号住・411号住

【出土遺物】 Na473～476の土器、Na241の石製品、Na118～120の礫石器が出土している。(第24・96・204・257・258図、写真図版178～179・237・264)

411号住居跡(第51図、写真図版45)

【位置・検出状況】 周囲の覆土に比べて、色合いの若干明るい部分が円形ないし楕円形に広がることから遺構であることを予測し掘り進めたところ、壁の立ち上がりならびに炉を確認したため住居とした。

【重複】 414号住と遺構西側で重複する。断面観察から414号住に切られる住居であると判断した。したがって遺構の構築順は411住→414住の順となる。

【平面形・規模】 遺構南側部分のプランを明確に把握することができなかったため、平面形は正円形ないしは楕円形をなすものと推定される。

【覆土・堆積状況】 黒褐色土主体である。自然堆積と判断した。

【壁・床面】 遺構の北西側の壁がわずかに立ち上がる。この立ち上がりを手がかりとして掘り進めていったが、南側まで壁を確認することができなかった。したがって遺構のプランならびに規模を正確に把握していない。床面は平坦で周囲に比べやや硬くしまっている。

【柱穴】 注意深く探したが、確認することができなかった。

【炉】 1基確認している。地床炉である。

【出土遺物】 Na477～480の土器、Na242・243・245の剥片石器、Na121～123の礫石器が出土している。(第24・97・204・205・258図、写真図版179・238・264・265)

412号住居跡(第46・52・53図、写真図版46・47)

【位置・検出状況】 KⅢf10～KⅣf1、KⅢg9～KⅣg1グリッドに位置する。耕作による攪乱層を除去し、Ⅱ層下部まで掘り下げたところで、楕円形の黒色のシミとその周囲を取り囲む褐色のシミを検出した。

【重複】 404号住、408住、413号住、464号土坑、465号土坑、419号陥穴、405号埋設土器と重複しており、これらの中で本遺構が最も新しい。

【平面形・規模】 平面形は隅丸長方形をなしている。規模は長径7.4m、短径6.7mである。

【覆土・堆積状況】 上層は黒色土、下層は褐色土が堆積している。自然堆積である。

【壁・床面】 西側の壁は地山粘土層を掘り込んでおり、比較的急である。東側の壁については、他遺構の覆土もしくはそれに近い黒褐色～褐色土を掘り込んでいる。床面は平坦で、一部途切れるものの壁際全体に周溝が巡る。

【柱穴】 Pitを24基確認した。これらのうちPit1・3・9・12・18・22をこの住居に伴う主柱穴とした。

【炉】 2基確認している。いずれも地床炉で、住居の長軸線上に配置される。

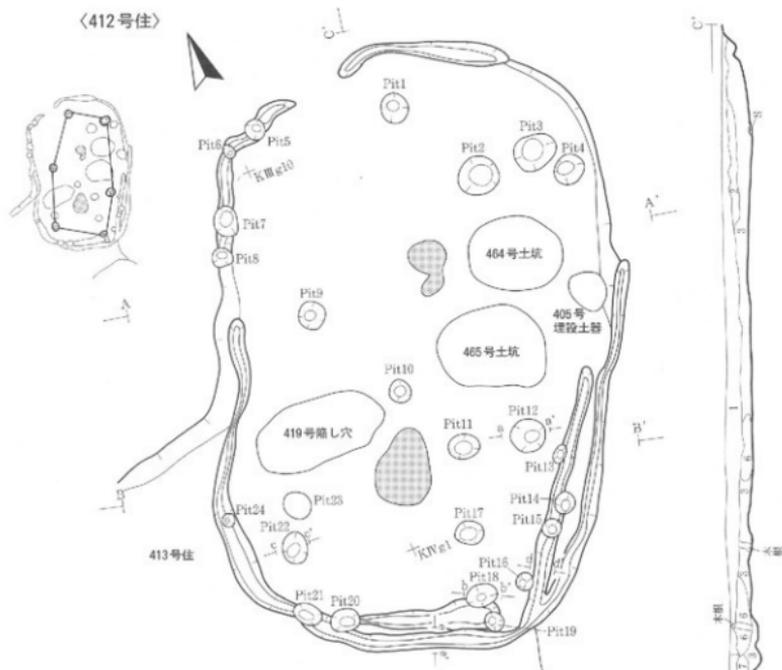
【出土遺物】 Na481～512の土器、Na246～267の剥片石器・石製品、Na124～131の礫石器が出土している。(第24～26・97～100・205～207・259・260図、写真図版179～181・238・239・265・266)

413号住居跡(第54図、写真図版48)

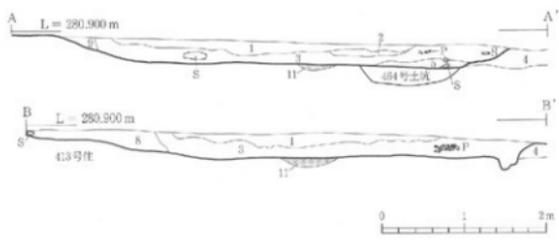
【位置・検出状況】 KⅢf10～g10、KⅣf1～g1グリッドに位置する。Ⅱ層下部にて検出した。

【重複】 412号住、414号住、416号住、480号土坑、406号埋設土器とそれぞれ重複する。検出状況ならびに断面観察から412号住、414号住、416号住に切られることが判明した。480号土坑、406号埋設土器との新旧は不明である。

【平面形・規模】 現存する部分から、平面形は長方形をなすものと推定される。規模は残存する部分で長



- (住居跡A A'・B・B'・C・C')
1. 7SYR1/1 黒色シタト しまり弱 粘性強弱 灰褐色土粒極小1% 炭土ブロック小〜大1%未調査
 2. 7SYR15/1 赤い黄褐色シタト しまり弱〜中 粘性弱 炭化物粒極小1%未調査 焼物粒〜粒中〜小3%
 3. 7SYR4/4 褐色シタト しまり弱〜中 粘性弱 炭化物粒極小〜小5%
 4. 7SYR4/4 褐色シタト しまり弱 粘性弱 炭化物粒極小1% 炭褐色土粒小3% (3粒より多い)
 5. 7SYR12/3 赤褐色シタト しまり弱 粘性弱 炭化物粒極小〜小1%未調査
 6. 7SYR4/4 赤い黄褐色シタト しまり弱〜中 粘性弱 炭化物粒極小〜小3% 炭土粒極小〜小3%
 7. 7SYR13/4 赤褐色シタト しまり弱 粘性弱 炭化物粒極小1% 炭土粒小1%未調査
 8. 7SYR4/3 赤い黄褐色シタト しまり弱 粘性弱 炭化物粒極小〜小1〜3% 炭褐色土粒極小〜小3% (住居跡土)
 9. 7SYR13/3 赤褐色シタト しまり弱 粘性弱 炭化物粒極小〜小3% (磨り粉?)
 10. 7SYR15/1 赤褐色シタト しまり弱〜中 粘性弱 炭化物粒極小1%未調査 炭褐色土粒極小〜小3% 炭土粒小1%未調査
 11. 7SYR15/8 赤褐色シタト しまり弱 粘性弱 (焼土)



第52図 412号住 (1)

径6.2m、短径4.4mである。

【覆土・堆積状況】 黒褐色土主体であり、黄褐色土の粒やブロックが不規則に混入する。また、炭化物粒、焼土粒などが5%程度混入する。これらから人為堆積と判断した。

【壁・床面】 残存する壁は比較的急で、床面は平坦である。

【柱穴】 Pitを10基確認している。このうちPit 2・11・12・13についてはこの住居にともなう柱穴となる可能性がある。

【炉】 2基確認した。いずれも地床炉である。最も北側にあるものは412号住の周溝により一部切られている。

【出土遺物】 Na513の土器、Na268～271の剥片石器、Na132の礫石器が出土している。(第26・100・207・260図、写真図版181・239・265)

414号住居跡 (第55～57図、写真図版49・50)

【位置・検出状況】 KIV f1～f3、KIV g2～g3 グリッドに位置する。耕作による攪乱層を除去しⅡ層下部まで掘り下げたところ、西側壁のラインを検出した。東側の壁については遺構の重複が激しく、平面的な検出では確認できなかったが、その後この部分には風倒木痕もかかわっていることが判明した。

【重複】 411号住、413号住、480号土坑、481号土坑と重複している。これらの中で本遺構が最も新しい。

【平面形・規模】 住居南側のプランを明確に捉えることができなかったが、確認できた状況からして楕円形ないしは楕円型をなすものと推定される。規模は長径13.1m、短径6.2mである。

【覆土・堆積状況】 暗褐色～極暗褐色土主体である。自然堆積と判断した。

【壁・床面】 北西側の壁の残存状況は良好であった。傾斜は比較的緩やかである。床面は平坦であるが、両側の壁が緩やかに立ち上がっているため中央部付近がややくぼんでいるようにも見受けられる。

【柱穴】 Pitを43基確認している。これらのうちPit10・19・25・30・31・34が414-a住を、Pit3・8・17・27・33・43が414-b住を、Pit14・28・32が414-c住をそれぞれ構成するものとした。

【炉】 全部で8基確認しており、床面レベルはほぼ同じである。これらのうち414-a住は4基、414-b住と414-c住はそれぞれ3基の炉を伴うと判断した。いずれも地床炉で住居の長軸線上に配置される。

【出土遺物】 Na514～548の土器、Na160～168の土製品、Na272～298の剥片石器・石製品、Na133～153の礫石器が出土している。(第26～28・100～104・183・207～209・260～263図、写真図版181～183・228・239・240・266～268)

416号住居跡 (第58～60図、写真図版51～53)

【位置・検出状況】 KIII c9～e10、f9～f10、KIV e1～f1 グリッドに位置する。耕作による攪乱層を除去したところで検出した。

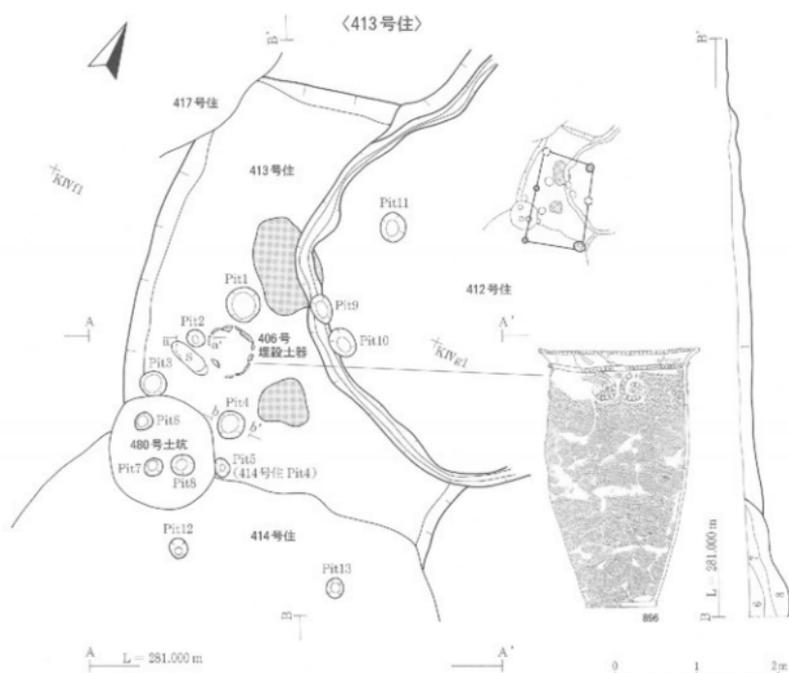
【重複】 413号住、417号住、421号土坑、422号土坑と重複している。住居は、413号住→416号住、417号住→416号住、土坑は422号土坑→416号住→421号土坑の順に構築されている。

【平面形・規模】 平面形は不整な隅丸長方形(コーナーを有すると判断した)で、規模は長径8.5m、短径5.2mである。

【覆土・堆積状況】 黒褐色～褐色土主体である。自然堆積と判断した。

【壁・床面】 西側の壁は比較的急で、深さは20cm程度である。東側の壁についてはわずかに立ち上がりがある程度確認できる程度の深さである。床面はほぼ平坦である。

【柱穴】 416号住と417号住でPitを41基確認した。これらのうち、Pit11・14・23・27・36で416-a住居を、



L = 280,700 m
a a'



- (413号住a-c')
- 7.5V16/3 埋設シメント しまり中 腐蝕中
埋設土器小〜中(15%)
 - 7.5V14/3 埋設シメント しまり中
腐蝕中 埋設土器小〜小2%

L = 280,700 m
b b'



- (413号住b-b')
- 7.5V14/3 埋設シメント しまり中 腐蝕中
埋設土器小〜中(5%)
 - 7.5V14/3 埋設シメント しまり中 腐蝕中
埋設土器小〜中1%

(413号住A-A'・B-B')

- 7.5V13/2 埋設シメント しまり中 腐蝕中 黄褐色土粒小〜中(25%) 炭化物粒小5%
- 7.5V12/2 埋設シメント しまり中 腐蝕中 黄褐色土粒小〜中(32%) 炭化物粒小2%
- 7.5V14/4 埋設シメント しまり中 腐蝕中 埋設土器小〜中(2%)
- 7.5V13/2 埋設シメント しまり中 腐蝕中 埋設土器小〜中(15%)
- 7.5V14/2 埋設シメント しまり中 腐蝕中 埋設土器小〜中(2%)
- 7.5V13/4 埋設シメント しまり中 腐蝕中 黄褐色土粒小〜中(20%) 炭化物粒小5%
- 7.5V13/4 埋設シメント しまり中 腐蝕中 黄褐色土粒小〜中(15%)
- 7.5V13/2 埋設シメント しまり中 腐蝕中 黄褐色土粒中〜大(15%) 炭化物粒大(10%)

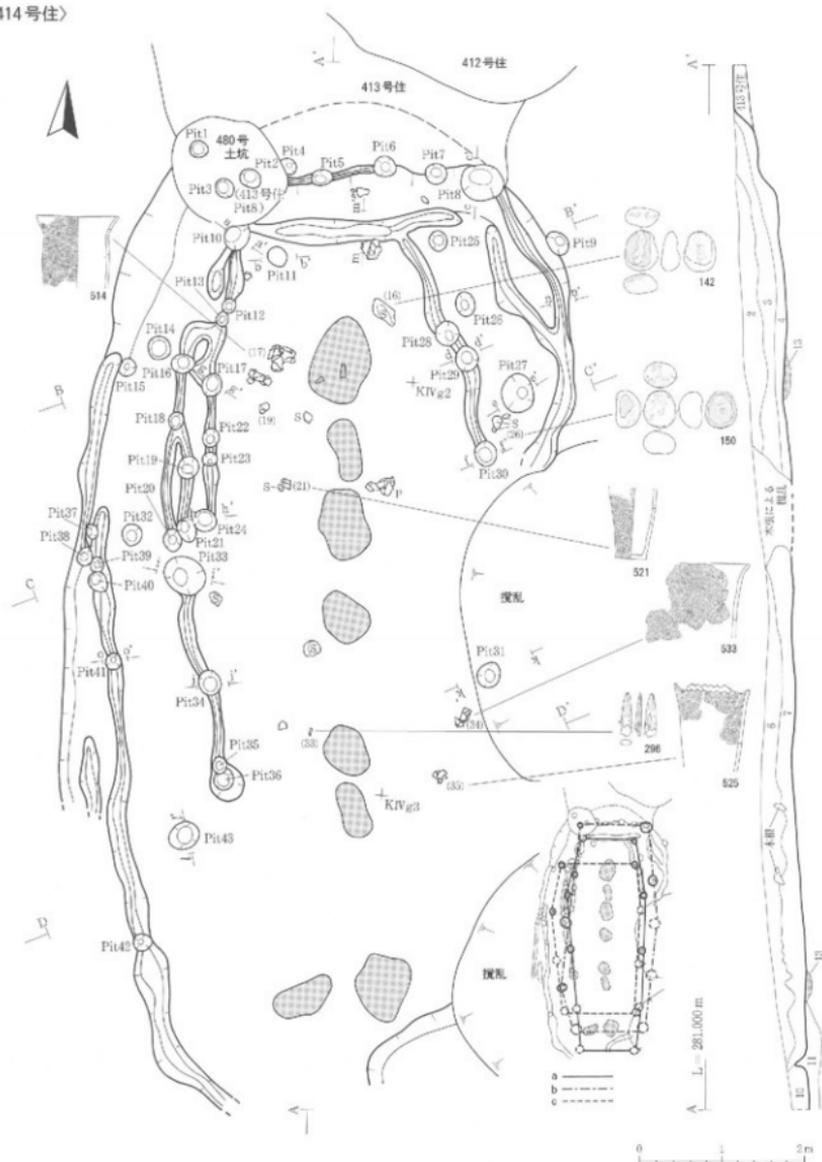
(413号住)

Pit No	1	2	3	4	5	6
径(cm)	42×39	21×21	33×30	32×33	21×19	21×21
深さ(cm)	22	36	17	39	30	21
備考					414住Pit4	414住Pit11
7	8	9	10	11	12	13
24×21	27×21	36×34	36×24	29×33	21×23	24×21
39	17	3	16	23	30	22

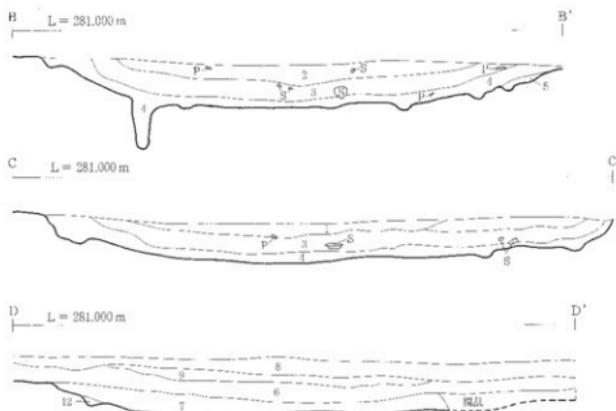
417住Pit3 414住Pit5 412住Pit11 413住Pit10 412住Pit12 414住Pit11 414住Pit15

0 0.5 1 m

<414号住>



第55図 414号住 (1)



(414号住A-A'・B-B'・C-C'・D-D')

1. 7.5YR3/3 赤褐色シルト しまり中 粘性强 炭化土ブロック状〜粒大35% 炭化土粒小7%
- 炭化物粒小〜小2%
2. 7.5YR3/4 暗褐色シルト しまり中 粘性强 炭化土粒小〜中12% 炭化物粒小5%
3. 7.5YR3/4 暗褐色シルト しまり中 粘性强 炭化土粒中〜大20% 炭化物粒小〜大15%
4. 7.5YR3/2 黄褐色シルト しまり中〜強 粘性强 炭化土粒小〜中10% 炭化物粒大10%
5. 7.5YR4/6 褐色シルト しまり中 粘性强 炭化土ブロック状〜中10% 炭化物粒大10%
6. 7.5YR2/3 暗褐色シルト しまり中 粘性强 炭化土粒中〜小3%
- 炭化物粒小〜小2%
7. 7.5YR3/2 黄褐色シルト しまり中 粘性强 炭化土粒小〜中5〜10% 炭化土粒小〜中3%
8. 7.5YR2/1 赤色シルト しまり強 粘性强
9. 7.5YR2/2 暗褐色シルト しまり強 粘性强
10. 7.5YR3/4 暗褐色シルト しまり中 粘性强 炭化物粒小5%
11. 7.5YR4/6 褐色シルト しまり強〜中 粘性强 炭化物粒小5%
12. 7.5YR3/2 暗褐色シルト しまり中 粘性强 炭化土粒小〜中3%
13. 5YR4/8 赤褐色シルト しまり中〜強 粘性强 (流上)

(414号住)

Pit-No	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
H(m)	21×21	27×24	35×21	21×18	24×18	27×24	27×27	51×45	35×24	36×20	24×21
深さ(m)	31	17	35	33	39	28	40	66	36	32	59
遺物	413P-F16	413P-F18	413P-F17	413P-F15							413P-F13
12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
18×15	18×15	30×30	24×18	30×24	30×24	21×18	27×24	27×21	30×21	21×21	24×18
15	15	17	18	79	66	21	37	21	37	14	21
24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35
30×27	27×21	30×24	28×29	33×30	30×27	33×27	30×27	28×28	(32)×30	(30)×25	52×40
26	25	26	72	39	66	73	(64)	33	85	63	56
		413P-F13									
36	37	38	39	40	41	42	43				
27×24	18×15	24×18	18×15	27×24	21×18	24×21	24×21				
60	31	37	39	46	26	51	76				



第56図 414号住(2)



(414号住a-c)
1. 7.5YR4/4 暗褐色シロト
しまり巾
粘性腐土粒小〜中10%
炭化物粒小〜中10%



(414号住b-b')
1. 10YR4/6 黄褐色シロト
しまり巾
粘土質 炭化物粒小〜中5%
山形軽石の粒を含む(埋め戻し?)



(414号住c-c')
1. 10YR4/4 暗褐色シロト
しまり巾 粘性腐土
高粘土質中10%
粘土質腐土粒小〜中5%
2. 10YR4/6 黄褐色シロト
しまり巾 粘性腐土
粘土質腐土粒小5%



(414号住d-d')
1. 10YR4/4 暗褐色シロト
しまり巾
粘性腐土質中10%
粘土質腐土粒小〜中5%
2. 7.5YR4/4 褐色シロト
しまり巾
粘土質腐土粒小〜中5%
炭化物粒大(埋め戻し?)



(414号住e-e')
1. 7.5YR4/3 褐色シロト
しまり巾
粘性腐土質中
炭化物粒小〜中5%



(414号住f-f')
1. 7.5YR4/3 褐色シロト
しまり巾
粘性腐土粒小〜中10%
2. 7.5YR2/1 黄褐色シロト
しまり巾
粘性腐土質中20%
粘性腐土質中20%
粘性腐土質中20%
粘性腐土質中20%



(414号住g-g')
1. 10YR4/4 暗褐色シロト
しまり巾 粘性腐土
粘性腐土粒小〜中20%
炭化物粒小〜中10%



(414号住h-h')
1. 7.5YR4/3 褐色シロト
しまり巾
粘性腐土質中10%
2. 7.5YR2/2 黄褐色シロト
しまり巾
粘土質 炭化物粒小〜中5%



(414号住i-i')
1. 7.5YR4/3 褐色シロト
しまり巾
粘性腐土質中10%
粘性腐土質中10%
炭化物粒小〜中10%
炭化物粒小〜中5%



(414号住j-j')
1. 10YR4/3 暗褐色シロト
しまり巾
粘性腐土質中10%
粘性腐土粒小〜中10%



(414号住k-k')
1. 10YR4/3 暗褐色シロト
しまり巾 粘性腐土
粘性腐土粒小〜中10%
炭化物粒小〜中10%
2. 10YR4/6 黄褐色シロト
しまり巾 粘性腐土
粘性腐土粒小〜中10%



(414号住l-l')
1. 2.5YR4/4 黄褐色シロト
しまり巾 粘性腐土 炭化物粒小〜中5%
粘性腐土粒小〜中10% (埋め戻し?)
2. 10YR4/3 暗褐色シロト
しまり巾 粘性腐土
粘性腐土粒小5%
3. 10YR4/4 暗褐色シロト
しまり巾 粘性腐土
粘性腐土粒小5%
4. 10YR4/5 暗褐色シロト
しまり巾 粘性腐土
粘性腐土粒小5%
5. 2.5YR4/3 黄褐色シロト
しまり巾 粘性腐土
粘性腐土粒小5%
6. 10YR4/3 暗褐色シロト
しまり巾 粘性腐土
粘性腐土粒小5%



(414号住m-m')
1. 10YR4/3 暗褐色シロト
しまり巾
粘性腐土 炭化物粒小〜中5%



(414号住n-n')
1. 10YR4/3 暗褐色シロト
しまり巾
粘性腐土質中10%
炭化物粒小〜中10%



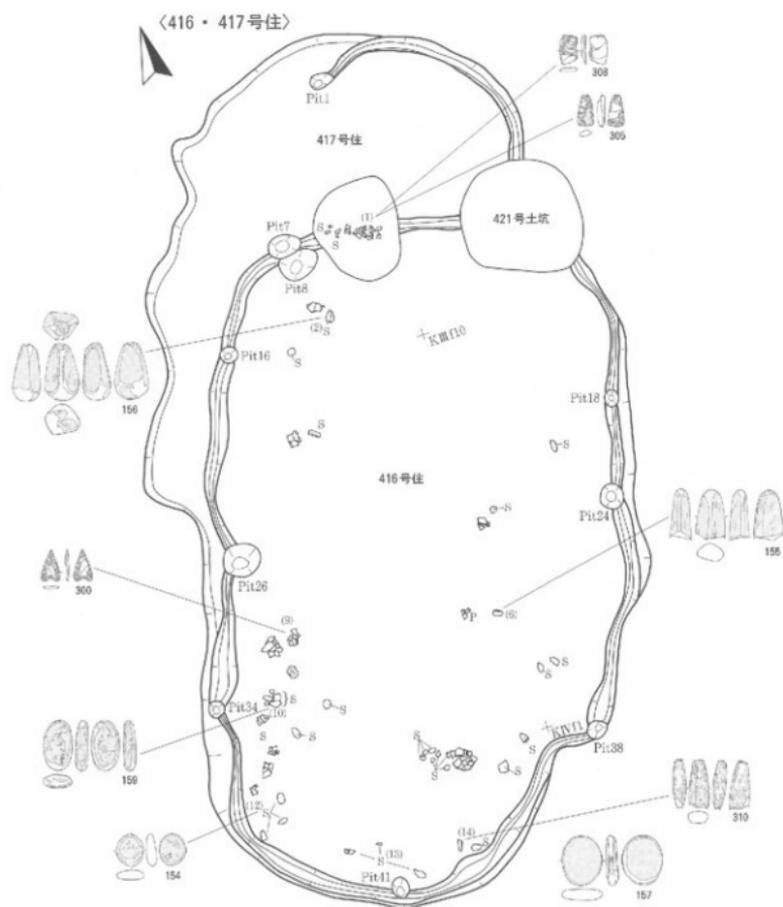
(414号住o-o')
1. 10YR4/3 暗褐色シロト
しまり巾
粘性腐土 炭化物粒小〜中5%



第57図 414号住(3)



第58図 416・417号住 (1)

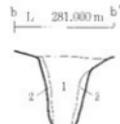
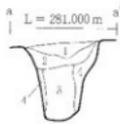
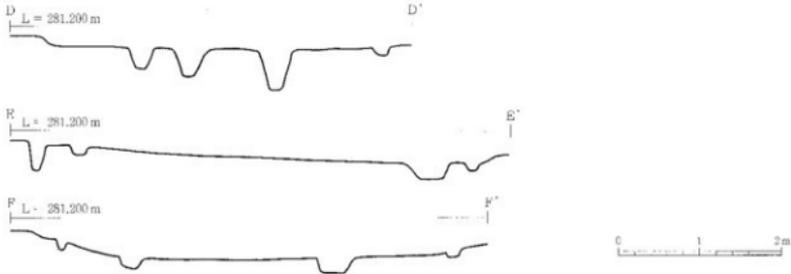


(416・417号住)

Pit-No	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
径(cm)	27×21	45×35	42×35	36×33	45×36	45×42	55×27	48×36	33×30	48×45	42×33
深S(cm)	21	29	22	31	34	53	54	33	18	49	35
12	13	14	15	16	17	18	19	23	21	22	23
30×27	42×33	33×30	25×27	21×18	54×46	21×18	24×24	42×43	39×33	30×30	38×42
17	28	26	31	28	19	—	27	49	19	28	29
34	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35
33×27	21×18	41×29	43×39	33×21	30×21	36×23	33×32	36×36	43×42	21×18	25×18
21	27	27	42	54	20	17	35	25	17	29	—
36	37	38	39	40	41	—	—	—	—	—	—
33×24	26×27	24×21	33×27	41×45	24×21	—	—	—	—	—	—
21	21	41	43	46	21	—	—	—	—	—	—

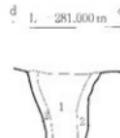
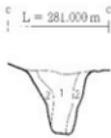
第59图 416・417号住(2)

- (416・417号住A-A'・B-B'・C-C')
- 7.5YR4/4 黄褐色シルト しまり中 粘性弱 炭化物粒小1%未満 炭化土粒極小1%未満
 - 7.5YR5/3 黄褐色シルト しまり弱 粘性弱 炭化物粒小1%未満 炭化土粒極小1%未満
 - 7.5YR4/3 黄褐色シルト しまり中 粘性弱 炭化土粒極小1%未満 炭化土粒極小1%未満
 - 7.5YR4/4 黄褐色シルト しまり中 粘性中 炭化物粒極小1%未満 炭化土粒極小1%未満
 - 7.5YR5/6 黄褐色シルト しまり中 粘性中 炭化物粒極小1%未満
 - 7.5YR4/3 黄褐色シルト しまり弱 粘性弱 炭化土粒極小1%未満 炭化土粒極小1%未満
 - 10YR5/3 黄褐色シルト しまり中 粘性弱 炭化物粒極小1%未満 炭化土粒極小1%未満
 - 10YR4/3 黄褐色シルト しまり弱 粘性弱 炭化土粒極小1%未満 炭化土粒極小1%未満
 - 10YR5/3 黄褐色シルト しまり弱 粘性弱 炭化土粒極小1%未満 炭化土粒極小1%未満
 - 10YR5/4 黄褐色シルト しまり中 粘性弱 炭化物粒極小1%未満 炭化土粒極小1%未満
 - 10YR5/2 黄褐色シルト しまり弱 粘性弱 炭化土粒極小1%未満 炭化土粒極小1%未満
 - 10YR4/1 黄褐色シルト しまり弱 粘性弱 炭化土粒極小1%未満 炭化土粒極小1%未満
 - 5YR5/5 黄褐色シルト しまり中 粘性弱
 - 5YR4/3 黄褐色シルト しまり中 粘性弱
 - 5YR4/6 黄褐色シルト しまり中 粘性弱
 - 5YR3/6 黄褐色シルト しまり弱 粘性弱



- (416・417号住a-a')
- 10YR4/6 黄褐色シルト しまり中 粘性弱 炭化物粒極小1%未満
 - 10YR5/6 黄褐色シルト しまり弱 粘性弱 炭化物粒極小1%未満
 - 10YR4/4 黄褐色シルト しまり中 粘性中 炭化物粒極小1%未満
 - 10YR4/6 黄褐色シルト しまり中 粘性中 (継り方?)

- (416・417号住b-b')
- 7.5YR5/3 黄褐色シルト しまり中 粘性弱 炭化物粒極小1%未満 炭化土粒極小1%未満
 - 7.5YR5/6 黄褐色シルト しまり中 粘性中 炭化物粒極小1%未満 炭化土粒極小1%未満
 - 7.5YR5/6 黄褐色シルト しまり中 粘性中 炭化物粒極小1%未満 炭化土粒極小1%未満



- (416・417号住c-c')
- 7.5YR3/4 黄褐色シルト しまり中 粘性弱 炭化物粒極小1%未満 炭化土粒極小1%未満
 - 7.5YR5/6 黄褐色シルト しまり中 粘性中 炭化物粒極小1%未満

- (416・417号住d-d')
- 7.5YR4/4 黄褐色シルト しまり中 粘性弱 炭化物粒極小1%未満 炭化土粒極小1%未満
 - 7.5YR5/6 黄褐色シルト しまり中 粘性中 炭化物粒極小1%未満 炭化土粒極小1%未満



Pit 3・17・20・31・33で416-b住居を、Pit 2・9・15・21・26・38・40で416-c住居をそれぞれ構成するものと判断した。

【炉】 5基確認した。いずれも地床炉である。416-a住居にともなうもの2基、416-b住居にともなうもの1基、416-c住居にともなうもの1基と判断した。

【出土遺物】 Na549～563の土器、Na169の土製品、Na299～314の剥片石器・石製品、Na154～160の礫石器が出土している。(第28・29・104・105・183・209・210・264・265図、写真図版183・184・228・240・268・269)

417号住居跡 (第58～60図、写真図版51～53)

【位置・検出状況】 KⅢ e9～f9 グリッドに位置する。耕作による攪乱層を除去したところで検出した。当初は416号住の一部と認識して掘り進めたが、床面の段差と掘り上がりのプランなどから重複住居であると判断するに至った。

【重複】 416号住、421号土坑、422号土坑と重複している。417号住→416号住、422号土坑→417号住→421号土坑の順で構築されている。

【平面形・規模】 平面形は不整な楕円形で、規模は長径6.7m、短径4.2mと推定される。

【覆土・堆積状況】 検出時において、覆土自体ほとんど残存していない状況であった。かろうじて残っていた覆土は明褐色土が主体でわずかに炭化物粒を含むため、これを手がかりとして掘り進めた。地山との判別が非常に難しかった。

【壁・床面】 壁は削られてほとんど残っていない。床面はほぼ平坦である。

【柱穴】 416号住と417号住でPitを41基確認した。このうちPit 2・6・15・25・29をこの住居にともなう主柱穴とした。

【炉】 1基確認している。地床炉である。

【出土遺物】 Na315の石製品が出土している。(第29・210図、写真図版・241)

418号住居跡 (第61・62図、写真図版53)

【位置・検出状況】 KⅣ d1～d2、e1～e2 グリッドに位置する。耕作による攪乱層を除去したところで炉を確認するとともに、わずかながら周囲と土の色調の異なる区域を検出したため、住居とした。この時点で断面を観察できるほど覆土の厚みはなかったため、断面による土層観察は行っていない。

【重複】 433号住、424号土坑、410号陥穴、411号陥穴、418号陥穴と重複している。いずれも新旧関係は不明である。

【平面形・規模】 平面形は不明である。規模については焼土列ならびに柱穴から判断しておよそ長径(9.8)m、短径(5.0)m程度になるものと推測される。

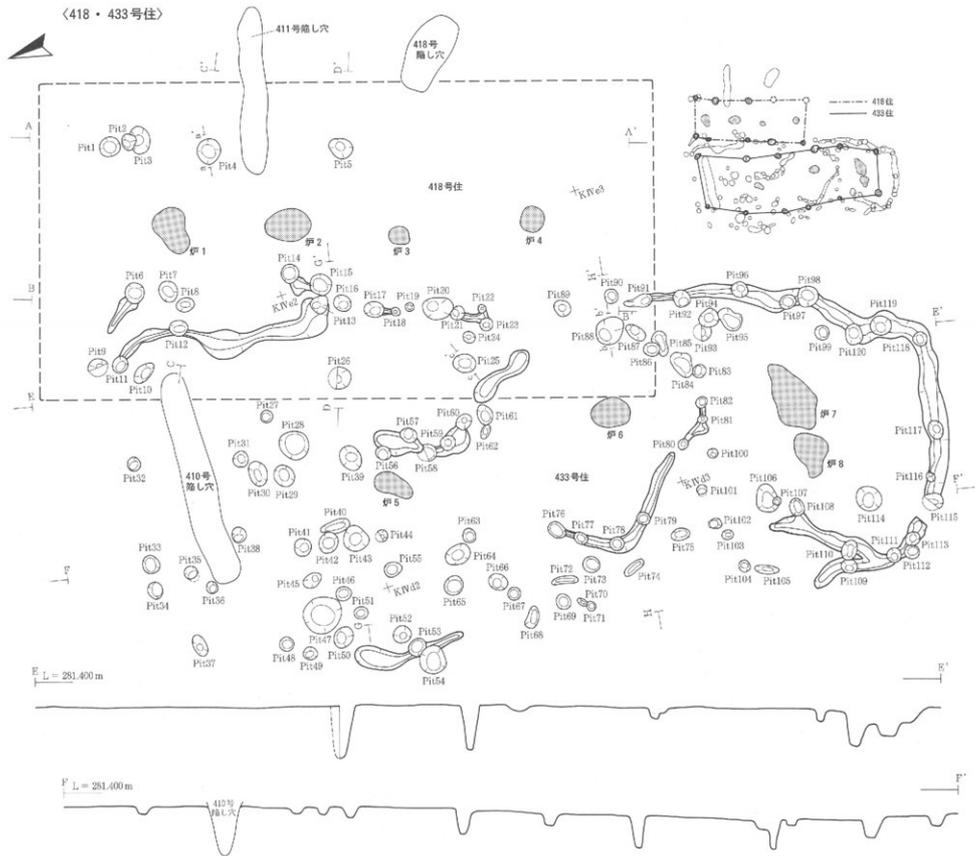
【覆土・堆積状況】 覆土はすべて攪乱層であったため確認できていない。

【壁・床面】 壁の立ち上がりについても確認できていない。床面は平坦であるが、場合によっては耕作時の削平により、本来の床面よりも下がっている可能性も考えられる。

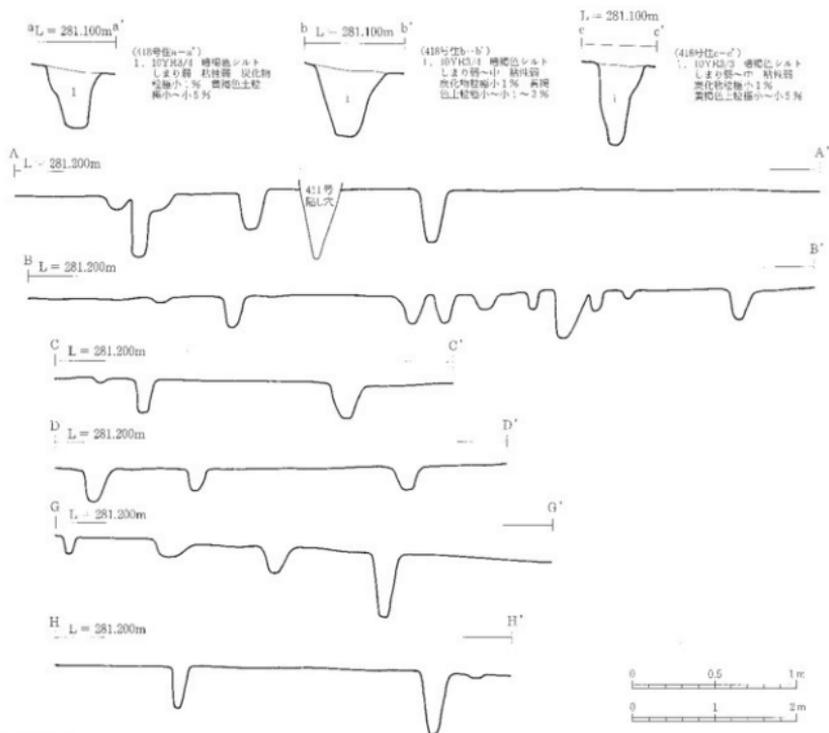
【柱穴】 418号住と433号住でPitを120基確認している。これらのうち、Pit 2・4・5・6・8・20・89をこの住居にともなう主柱穴とした。

【炉】 4基確認している。いずれも地床炉である。

【出土遺物】 Na566の土器、Na316～318の剥片石器・石製品が出土している。(第29・105・210図、写真図版184・241)



第61図 418・433号住 (1)



(418・433号位)

Pit-No	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
深(m)	33×30	27×24	45×30	43×39	39×33	33×31	33×30	47×34	33×30	42×23	27×25	30×28	30×28	30×30	26×36
底高(m)	15	77	22	44	49	26	36	46	35	21	16	17	39	29	15

16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
30×25	33×24	15×13	14×14	48×36	22×21	12×12	21×21	21×18	36×30	36×30	21×20	48×45	36×31	42×29	27×24
57	15	49	20	62	45	10	16	19	71	63	14	20	11	19	23

22	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47
30×21	30×27	27×24	21×20	30×18	36×21	31×23	42×33	48×21	30×33	46×42	19×20	33×21	33×23	66×60	66×60
19	14	21	41	22	39	20	41	9	29	29	13	20	35	23	35

48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63
33×23	24×21	36×30	22×20	30×27	30×25	45×40	30×22	25×21	27×24	300×27	24×23	27×24	33×25	34×14	31×21
33	34	30	21	25	31	25	27	22	21	21	16	34	22	22	42

64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79
42×31	32×30	32×35	21×21	36×19	25×23	18×18	15×15	43×12	38×35	39×15	36×30	33×28	33×18	33×22	22×20
24	30	45	13	51	19	15	13	9	35	11	21	19	23	22	53

80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95
18×16	16×12	19×17	21×21	45×33	42×25	27×24	36×21	42×32	27×24	21×25	47×21	27×25	33×30	33×30	42×31
6	8	25	34	27	29	16	39	91	41	56	27	41	25	44	12

96	97	98	99	100	101	102	103	104	105	106	107	108	109	110	111
27×25	28×22	36×33	24×23	16×15	17×15	30×16	18×16	30×18	39×14	46×36	15×15	27×23	26×21	33×26	24×23
41	26	40	19	13	41	56	14	10	10	35	31	17	40	14	26

112	113	114	115	116	117	118	119	120
24×21	34×21	45×29	33×27	16×14	30×23	34×22	33×30	31×27
16	30	37	47	19	39	31	31	51

第62図 418・433号位(2)

421号住居跡 (第63～65図、写真図版54～56)

【位置・検出状況】 KⅢ e8～e10、d8～d10、KⅣ d1 グリッドに位置する。耕作による攪乱層を除去したところで検出した。検出された遺構のシミには、5×5m程度の広さの範囲に格子状のベルト痕跡が残されており、以前に一部掘削を受けたことが確認された。

【重複】 422号住、459号土坑、460号土坑、461号土坑と重複している。また、住居西側に斜めに張り出すように別遺構が重複している。422号住を切っており422号住→421号住の順で構築されたものと判断した。上坑は459号土坑・460号土坑→421号住→461号土坑の順に構築された。

【平面形・規模】 平面形は長方形をなす。規模は長径15.2m、短径5.8mである。

【覆土・堆積状況】 上層部は攪乱層によって覆われていたが、下部の覆土は大部分生き残っていた。攪乱層以外は自然堆積と判断した。

【壁・床面】 壁の立ち上がりは、西側の壁は急であるが、東側の壁については緩やかでだらだらと上がっていく。床面について、中央部付近はほぼ平坦であるが、壁際にむかって若干傾斜がついてゆるやかに上っている。

【柱穴】 421号住と422号住でPitを62基確認した。このうちPit 8・9・14・15・21・30・47・51で421-a住居を、Pit 2・7・12・18・20・28で421-b住居を、Pit 19・25・39で421-c住居をそれぞれ構成するものと判断した。

【炉】 421号住と422号住で16基確認し、これらのうち421号住にかかわるものは7基と判断した。いずれも地床炉である。

【出土遺物】 Na564・565・567～603・605の土器、Na320～348の剥片石器・石製品、Na161～171・173の礫石器が出土している。(第29～31・105～108・210～213・265・266・267図、写真図版184～186・241・242・269・270)

422号住居跡 (第63～65図、写真図版57)

【位置・検出状況】 KⅢ b10～d10、KⅣ b1～b2、c1～c2 グリッドに位置する。耕作による攪乱層を除去したところ、楕円形の黒いシミと、その周辺にひろがる褐色のシミを検出した。なお、黒色のシミ部分には格子状にベルトがかげられたような痕跡が確認されており、以前の調査時に掘削を受けた場所であることが判明した。

【重複】 少なくとも421号住、423号住、432号住と重複している。新旧関係については422号住→421号住の順で構築されたことを確認したが、その他は不明である。

【平面形・規模】 残存する周溝等から長方形基調の平面形と推測される。

【覆土・堆積状況】 攪乱層を除去した時点で炉と思われる焼土が確認される状況であり、覆土は残存していなかった。よって堆積状況については不明である。

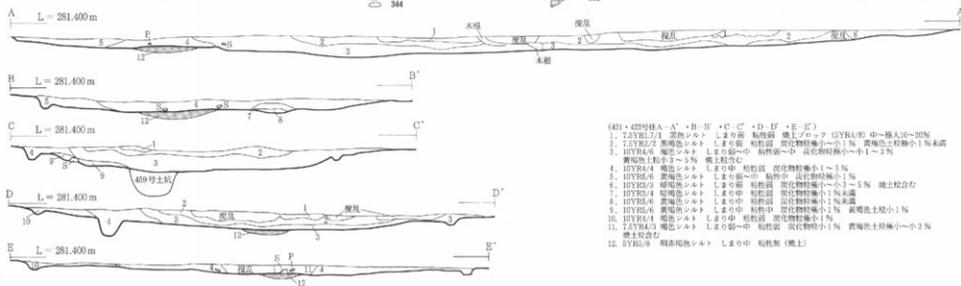
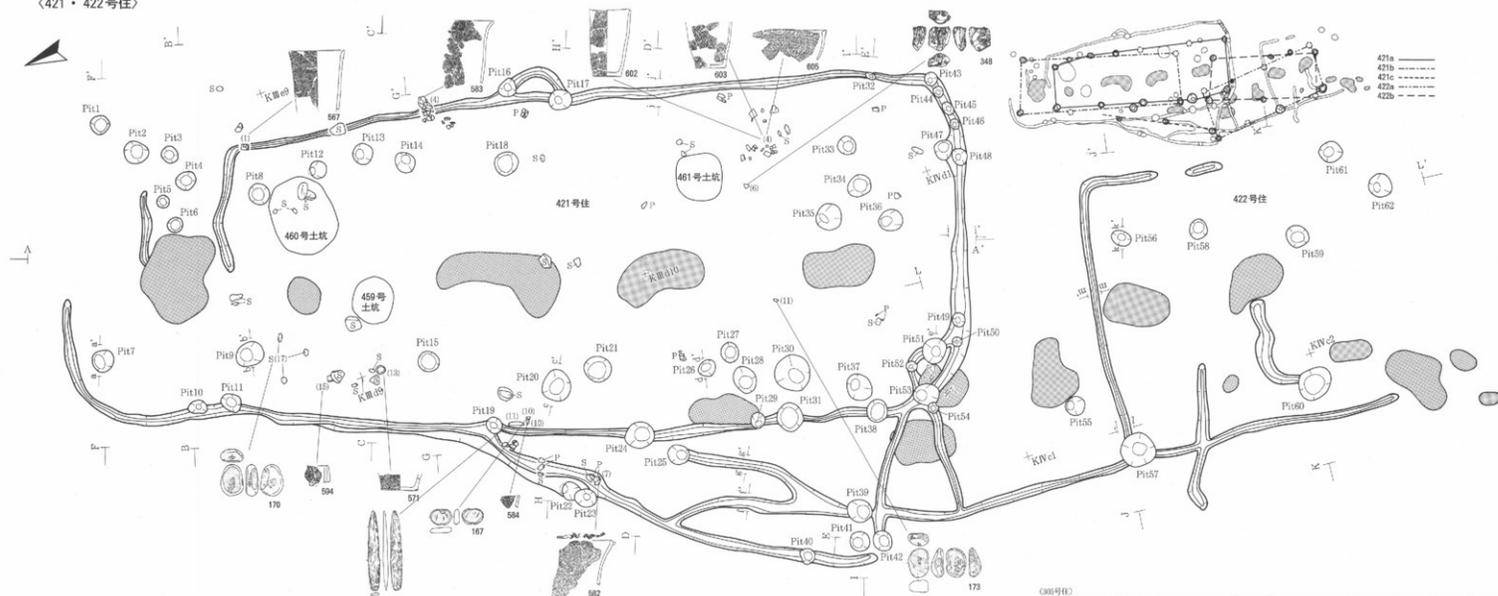
【壁・床面】 壁は確認できていない。床面は平坦であるが、削平を受けていることを考慮するならば、必ずしもそうとは言い切れない可能性もある。

【柱穴】 421号住と422号住でPitを62基確認した。このうちPit 42・49・57・58・60が422-a住を、Pit 36・37・55・56・59が422-b住をそれぞれ構成する主柱穴とした。

【炉】 全部で9基確認しており、いずれも地床炉である。一部配列が不規則で、焼成の状況が弱いものが含まれる。

【出土遺物】 Na172の礫石器が出土している。(第31・267図、写真図版270)

<421・422号住>

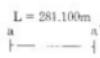


- (421・422号住 A-A'・B-B'・C-C'・D-D'・E-E')
 1. SYR17/1 黒色シロト Lより前 粘状物 燻土物層小1-3% 燻土粒含む
 2. SYR2/2 黒色シロト Lより前 粘状物 燻土物層小1-3% 燻土粒含む
 3. IYR19/4 燻色シロト Lより前 粘状物 燻土物層小1-3% 燻土粒含む
 4. IYR19/4 燻色シロト Lより前 粘状物 燻土物層小1-3% 燻土粒含む
 5. IYR22/2 燻色シロト Lより前 粘状物 燻土物層小1-3% 燻土粒含む
 6. IYR22/2 燻色シロト Lより前 粘状物 燻土物層小1-3% 燻土粒含む
 7. IYR22/2 燻色シロト Lより前 粘状物 燻土物層小1-3% 燻土粒含む
 8. IYR25/4 燻色シロト Lより前 粘状物 燻土物層小1%未満
 9. IYR25/4 燻色シロト Lより前 粘状物 燻土物層小1%未満
 10. IYR24/4 燻色シロト Lより前 粘状物 燻土物層小1%
 11. SYR74/4 燻色シロト Lより前 粘状物 燻土物層小1% 燻土粒含む
 12. SYR21/6 明色粘状物 Lより前 粘状物 (燻土)

(065号住)

Pit-No	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
幅(cm)	33×33	42×26	30×27	36×30	31×21	27×24	30×26	30×26	48×29	23×21	36×26
長さ(cm)	18	13	14	17	12	13	65	18	83	8	29
12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
20×27	26×30	36×33	36×36	33×27	39×33	42×39	27×24	54×18	48×42	30×30	39×30
3	51	41	17	32	73	29	69	71	93	89	33
24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35
36×30	36×30	37×37	33×30	48×36	37×31	63×60	48×45	18×12	33×30	42×33	45×45
28	26	15	17	27	49	68	11	12	17	22	55
36	27	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47
42×26	30×28	39×26	42×26	27×24	33×33	30×30	24×21	18×18	24×18	18×15	33×30
30	107	14	42	19	34	32	15	26	29	9	62
48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59
30×24	24×21	18×15	45×39	18×18	45×36	18×18	33×33	38×24	60×57	39×39	39×36
47	58	55	60	20	69	12	32	32	33	61	19
60	61	62									
60×43	39×26	42×39									
15	26										

第63図 421・422号住 (1)



- (421・422号住a-a')
1. 10YR4/6 褐色シルト
しまり部~中 粘性中
炭化物粒極小1%
黄褐色土粒小1%



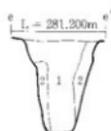
- (421・422号住b-b')
1. 10YR4/6 褐色シルト しまり中
粘性弱 炭化物粒極小~小1%
黄褐色土粒小1%未満



- (421・422号住c-c')
1. 7.5YR4/4 褐色シルト しまり中
粘性弱 炭化物粒極小~小3%
黄褐色土粒小1~3% (4粒)
 2. 10YR6/6 褐色シルト しまり中
粘性弱~中 炭化物粒極小1~3%
黄褐色土粒小1~3% (細の方?)



- (421・422号住d-d')
1. 7.5YR4/4 褐色シルト しまり中
粘性弱 炭化物粒極小1%
黄褐色土粒極小1%



- (421・422号住e-e')
1. 7.5YR4/4 褐色シルト しまり中
粘性弱~中 炭化物粒極小~小1%
未満 黄褐色土粒極小~小1%
未満
 2. 7.5YR5/6 明褐色粘土質シルト
しまり中 粘性中 炭化物粒極小
1%未満



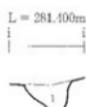
- (421・422号住f-f')
1. 10YR5/4 暗褐色シルト
しまり中 粘性弱~中
炭化物粒極小1%



- (421・422号住g-g')
1. 10YR5/4 暗褐色シルト
しまり中 粘性弱~中
炭化物粒極小1%



- (421・422号住h-h')
1. 7.5YR5/4 暗褐色シルト
しまり中 粘性弱 炭化物
粒極小1~3% 黄褐色土
粒極小~小1%
焼~粒極小1%未満
 2. 10YR4/4 褐色シルト
しまり中 粘性弱
炭化物粒極小1%未満
 3. 10YR5/6 黄褐色粘土質
シルト しまり中 粘性中
(埋山?)



- (421・422号住i-i')
1. 10YR5/4 暗褐色シルト しまり中
粘性弱~中 炭化物粒極小1%
黄褐色土ブロック小~中1%



- (421・422号住j-j')
1. 10YR5/4 暗褐色シルト しまり中
粘性弱 炭化物粒極小1~3%
黄褐色土粒極小3%



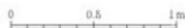
- (421・422号住k-k')
1. 10YR3/2 黄褐色シルト しまり弱~中
粘性弱 炭化物粒極小1~3%
黄褐色土粒極小~小10%

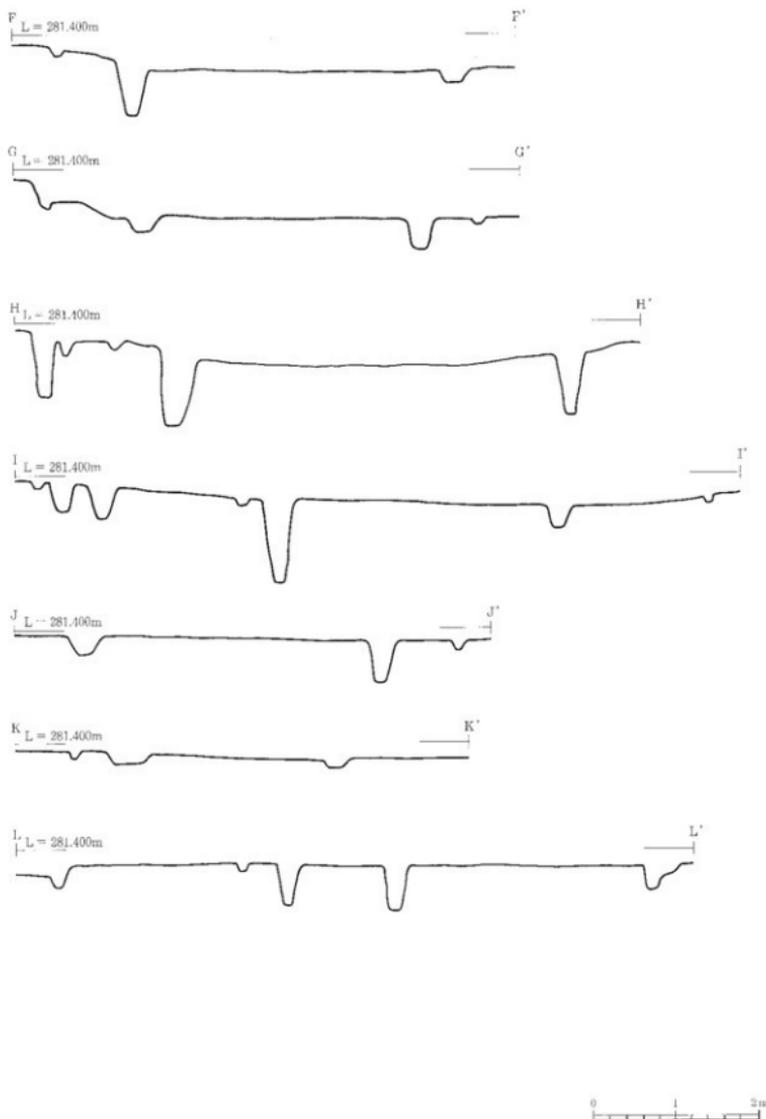


- (421・422号住l-l')
1. 7.5YR4/6 褐色シルト しまり弱
粘性弱 炭化物粒極小~小1%

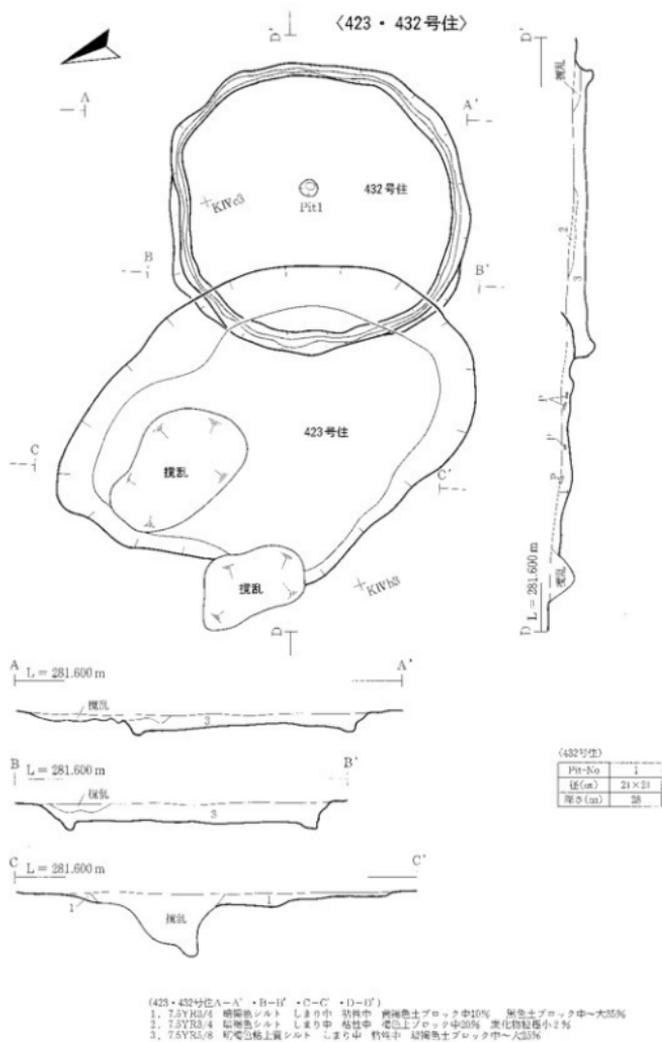


- (421・422号住m-m')
1. 7.5YR4/6 褐色シルト しまり中
粘性弱~中 炭化物粒極小1%





第65図 421・422号住 (3)



第66図 423・432号住

423号住居跡 (第66図、写真図版58)

【位置・検出状況】 KIV b2～b3 グリッドに位置する。耕作による攪乱層を除去したところで検出した。覆土とおもわれるシミには風倒木と思われる攪乱層も含まれていたため、不整形での検出となった。

【重複】 432号住、422号住?と重複している。断面観察から432号住→423号住と判断したが、422号住との新旧関係については不明である。

【平面形・規模】 平面形は不整形な円形である。規模は長径5.3m、短径3.7mである。

【覆土・堆積状況】 明褐色土主体でそのなかに暗褐色土のブロックが25%程度混入する。これらの状況から人為堆積と推測した。

【壁・床面】 明確な壁は確認していない。床面はほぼ平坦である。

【柱穴】 なし。

【炉】 なし。

【出土遺物】 Na604～606の土器、Na349～356の剥片石器・石製品が出土している。(第31・108・109・213図、写真図版186・242)

424号住居跡 (第67図、写真図版59)

【位置・検出状況】 JIV j2～j3 グリッドに位置する。耕作による攪乱層を除去したところで検出した。住居の平面プランの約4分の1程度を風倒木による攪乱層が切っている。

【重複】 479号土坑と重複している。断面観察から424号住→479号土坑の順に構築されたものと判断した。

【平面形・規模】 平面形は円形で、規模は径4.4m、深さ34cmである。

【覆土・堆積状況】 褐色土主体の覆土である。炭化物、黄褐色土粒が混入する。自然堆積と推測される。

【壁・床面】 壁の立ち上がりは急である。床面は平坦で硬くしまっている。

【柱穴】 Pitを7基礎認しており、Pit3をこの住居にともなう主柱穴とした。

【炉】 なし。

【出土遺物】 Na607～611の土器、Na170の土製品、Na357～359の剥片石器、Na174～176の礫石器が出土している。(第31・109・183・213・267図、写真図版186・228・242・270)

425号住居跡 (第67図、写真図版60)

【位置・検出状況】 JIV i3～i4、j3～j4 グリッドに位置する。耕作による攪乱層を除去したII層下部にて検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は円形で、規模は径3.9m、深さ37cmである。

【覆土・堆積状況】 褐色土主体の覆土である。炭化物ならびに黄褐色土粒が混入する。

【壁・床面】 壁の立ち上がりは急である。床面は平坦で硬くしまっている。

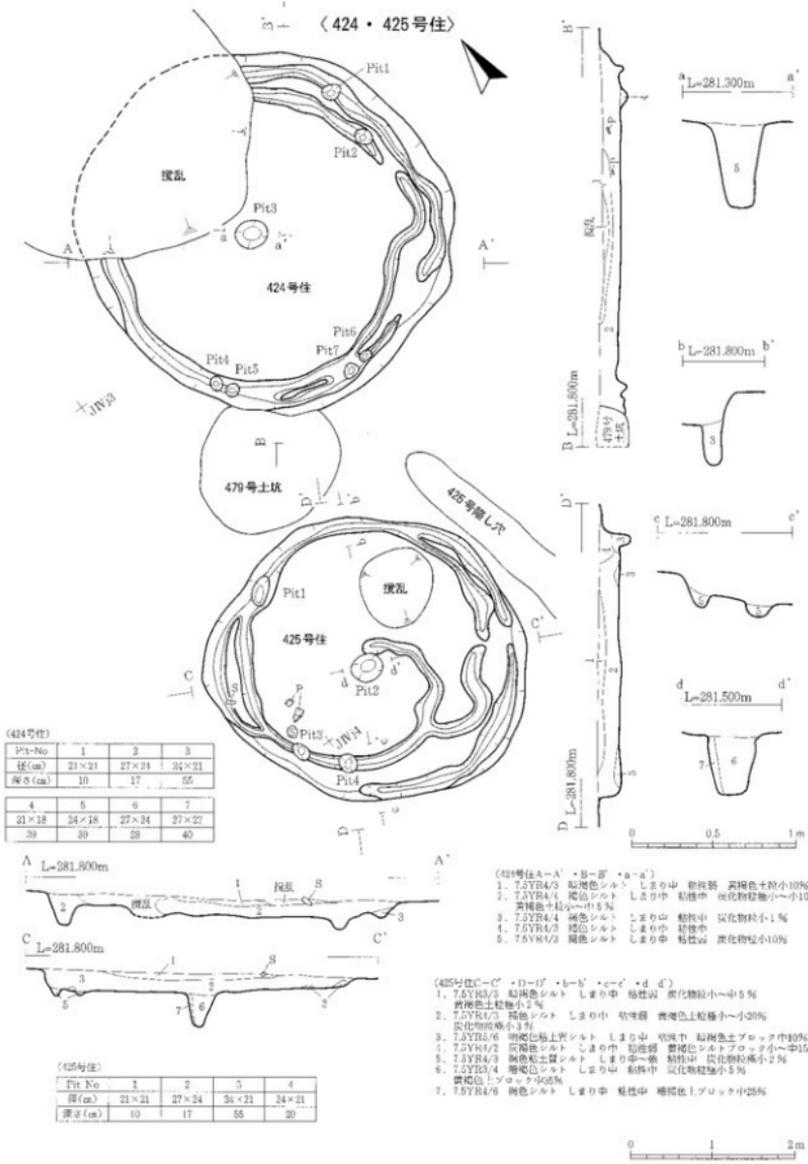
【柱穴】 Pitを4基礎認しており、Pit2をこの住居にともなう主柱穴とした。

【炉】 なし。

【出土遺物】 Na177の礫石器が出土している。(第31・267図、写真図版・270)

426号住居跡 (第68～71図、写真図版61)

【位置・検出状況】 KIII b8～b9 グリッドに位置する。攪乱層を除去したところIV層で検出した。検出時、写真のように十字形にベルトをかけて掘ったような痕跡が確認されたため、この区域が以前に発掘調査



第67図 424・425号住

を受けた場所である可能性が高いと推測した。

〔重複〕 427号住、403号陥し穴と重複する。断面観察から427号住→426号住→403号陥し穴の順に構築されたものと判断した。

〔平面形・規模〕 平面形は不整な円形で、規模は最大直径が3.3m、最小直径は3.0mである。壁際に周溝が巡る。

〔覆土・堆積状況〕 検出時十字形に残存していたベルト痕を使って行った断面観察によると、覆土は炭化物粒ならびに黄褐色土粒を含む褐色土を主体とする。

〔壁・床面〕 壁の立ち上がりは急である。床面は平坦で比較的硬く締まっている。

〔柱穴〕 床面中央付近にあるPit9をこの住居にともなう主柱穴とした。

〔炉〕 なし。

〔出土遺物〕 なし。

427号住居跡（第68～71図、写真図版61～64）

〔位置・検出状況〕 JⅢ h9～h10、i9～i10、j8～10、KⅢ a8～9、b7～8グリッドに位置する。耕作による攪乱層を除去したところで約25mの長さにおよぶ黒色～褐色のシミを検出した。検出時点でこれらのシミの一部にトレンチないしはベルトをかけたような十字形のプランを確認しており、以前に掘削を受けた区域であることが判明した。

〔重複〕 当初は超大形住居の可能性を考えたため1棟として登録したが、その後掘り進めるうちに複数棟（少なくとも3棟以上）が縦方向に重複しているという判断に至った。その他、426～429号土坑、456号土坑、457号土坑、403号陥し穴、404号陥し穴、403号埋設土器、404号埋設土器と重複する。426～428号土坑→427号住→429号土坑、403号陥し穴、404号陥し穴の順で構築されたものと判断した。456号土坑、457号土坑、403号埋設土器、404号埋設土器との新旧関係は不明である。また442号土坑と隣接する。

〔平面形・規模〕 部分的に残っている周溝などを手がかりとすれば、いずれの住居も平面形は長方形基調である。

〔覆土・堆積状況〕 覆土は褐色～黄褐色土を主体とする。検出時に残存していた覆土は非常に薄く、加えて過去に掘削を受けていたこともあり、自然堆積か人為堆積かの判別はできなかった。

〔壁・床面〕 いずれの住居も明確な壁の立ち上がりを確認することはできない。壁は削平を受けたものと考えられる。床面はいずれも平坦である。

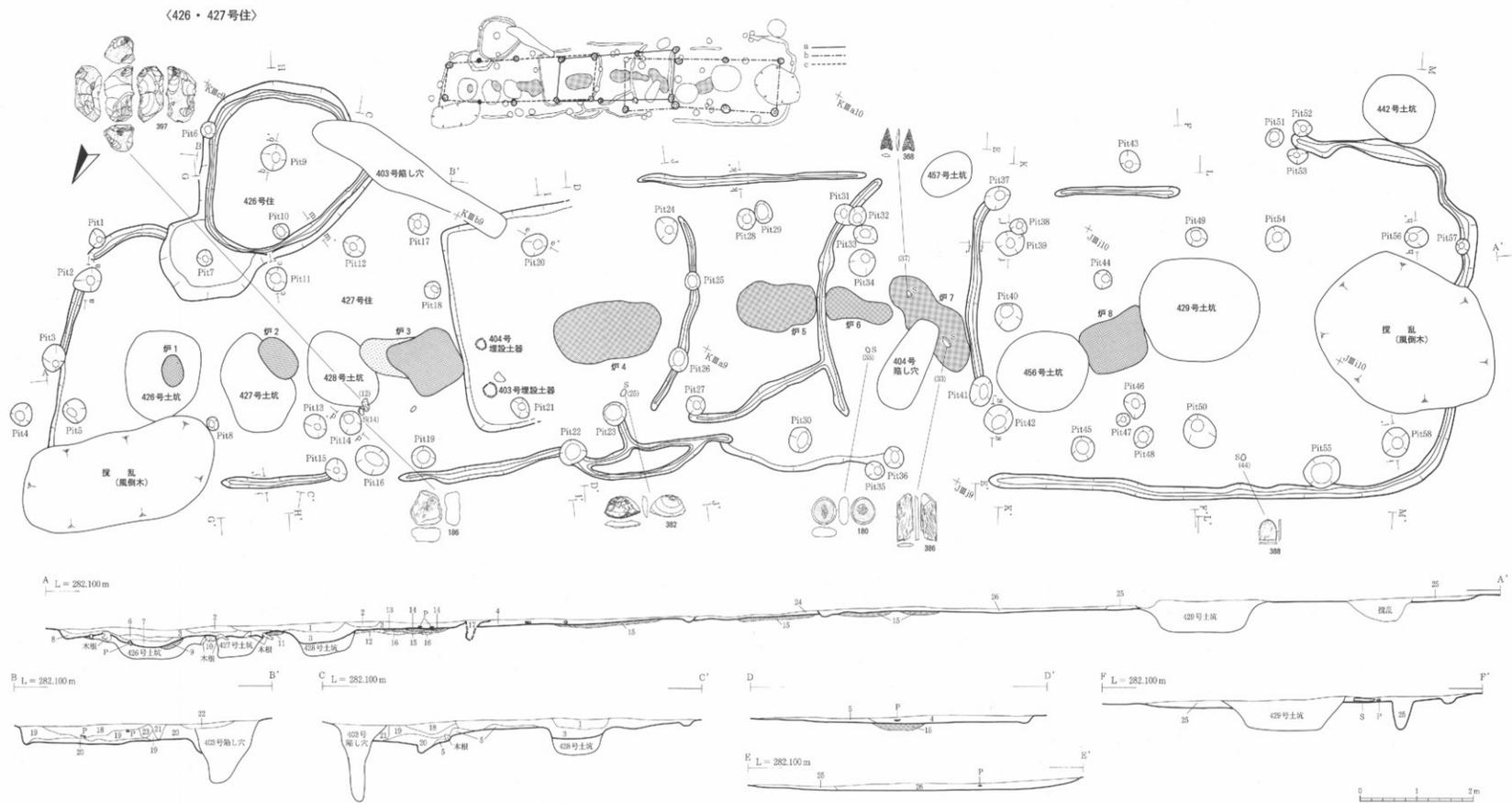
〔柱穴〕 Pitを58基検出した。これらのうちPit20・21・24・27・31・37・41で427-a住を、Pit30・39・42・49・50・56・58で427-b住を、Pit2・5・7・8・12・14・20・21・24で427-c住を構成するものと判断した。

〔炉〕 427-a住に伴うものとして3基、427-b住に伴うものとして2基、427-c住に伴うものとして4基確認している。いずれも地床炉である。

〔出土遺物〕 №612～657の土器、№360～392・397の剥片石器・石製品、№178～188の礫石器が出土している。（第31～34・109～113・214～217・268～270図、写真図版186～189・242～243・271～273）

428号住居跡（第72～74図、写真図版65～67）

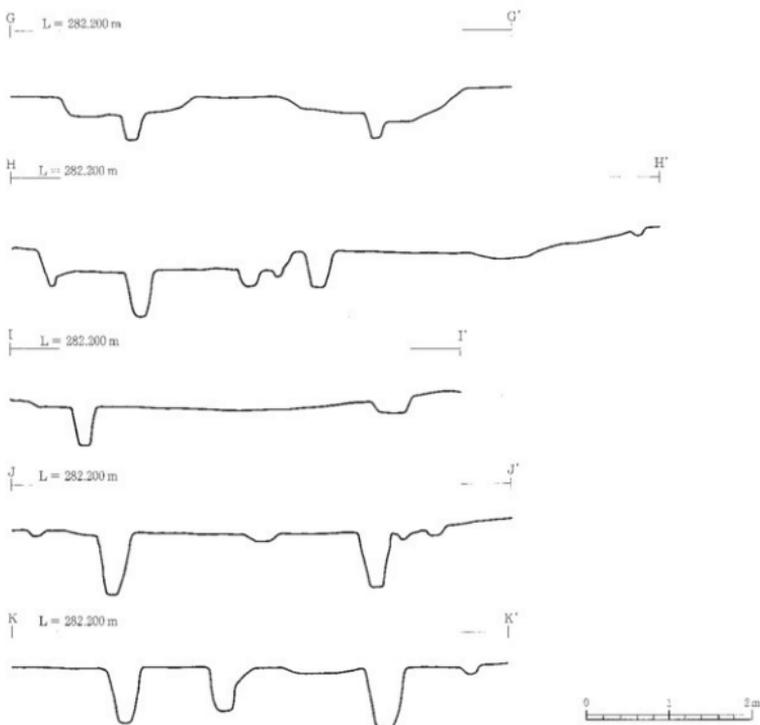
〔位置・検出状況〕 JⅢ j6～KⅢ b6グリッドに位置する。耕作による攪乱層を除去したところで検出した。検出当初から複数の遺構が重複していることを確認することができた。また、遺構中央部の黒色上に覆われた部分に、ベルトをかけて掘ったような十字形の痕跡も確認した。



第68図 426・427号住 (1)

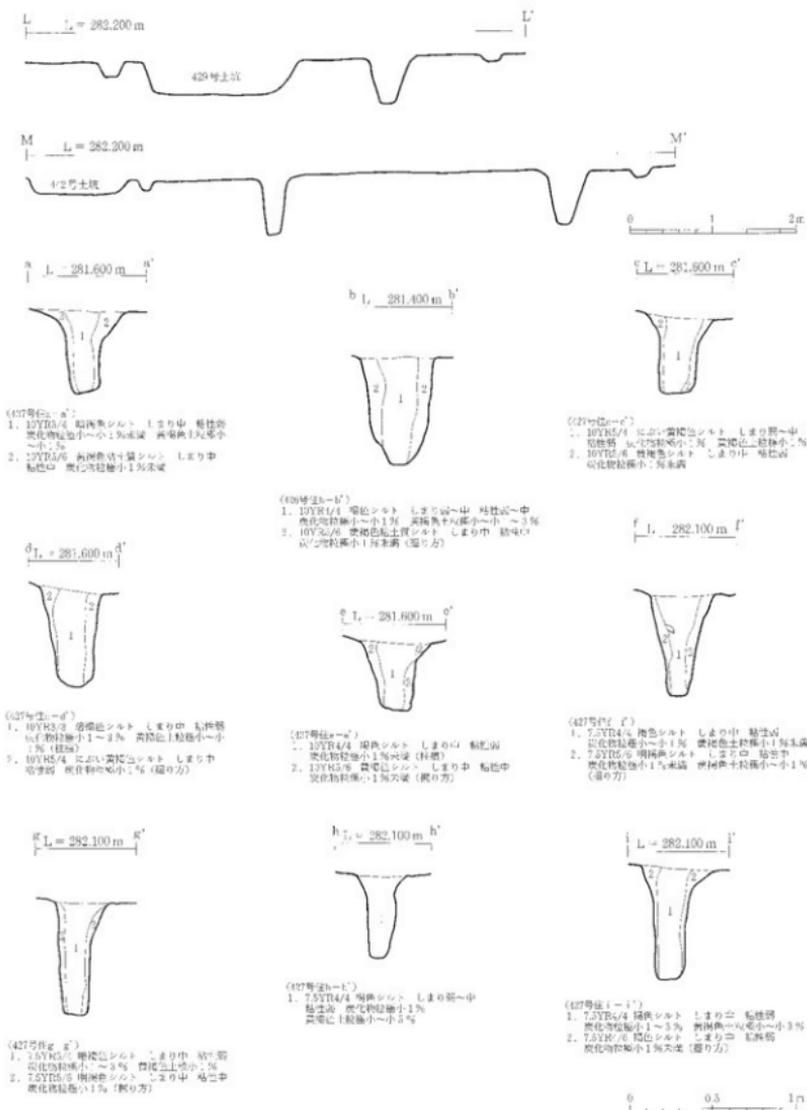
(427号住A-A'・B-B'・C-C'・D-D'・E-E'・F-F')

1. 10YR2/3 黄褐色シルト しまり部 粘粒含量 炭化物粒・黄褐色土粒・塊状石灰(段差・埋め戻し)
2. 10YR2/4 粘褐色シルト しまり部 粘粒含量 炭化物粒極小1% 黄褐色土粒極小2%
3. 7.5YR4/1 褐色シルト しまり部 粘粒含量 炭化物粒極小1%~3% 黄褐色土粒極小1%~5% 焼土粒含む
4. 7.5YR3/2 黄褐色シルト しまり部 粘粒含量 炭化物粒極小1%~3% 黄褐色土粒極小1%~5%
5. 10YR5/6 黄褐色シルト しまり部 粘粒含量 炭化物粒極小1%~3% 黄褐色土粒極小1%~5%
6. 10YR5/2 黄褐色シルト しまり部 粘粒含量 炭化物粒極小1%~3% 黄褐色土粒極小1%~5%
7. 7.5YR4/1 褐色シルト しまり部 粘粒含量 炭化物粒極小1%~3% 黄褐色土粒極小1%~5%
8. 10YR2/4 粘褐色シルト しまり部 粘粒含量 黄褐色土粒極小1%~3% 未測
9. 5YR4/6 黄褐色シルト しまり部 粘粒含量(未測)
10. 5YR1/5 赤褐色シルト しまり部 粘粒含量(汚れた焼土)
11. 5YR1/6 赤褐色シルト しまり部 粘粒含量(未測)
12. 5YR4/4 赤褐色シルト しまり部~中 粘粒含量(弱い埋戻)
13. 5YR4/6 赤褐色シルト しまり部 粘粒含量(焼土)
14. 2.5YR5/8 粘赤褐色シルト しまり部~中 粘粒含量(弱い埋戻)
15. 2.5YR4/8 粘赤褐色シルト しまり部 粘粒含量(焼土)
16. 5YR5/6 粘赤褐色シルト しまり部 粘粒含量(弱い埋戻)
17. 7.5YR3/4 黄褐色シルト しまり部 粘粒含量 炭化物粒極小3% 黄褐色土粒極小1%~3%
18. 7.5YR2/4 黄褐色シルト しまり部 粘粒含量 炭化物粒極小1%~3% 黄褐色土粒極小1%~5%
19. 10YR4/4 黄褐色シルト しまり部 粘粒含量 炭化物粒極小1%~3% 黄褐色土粒極小1%~5%
20. 10YR5/4 赤い黄褐色シルト しまり部 粘粒含量 炭化物粒極小1%
21. 7.5YR3/3 黄褐色シルト しまり部~中 粘粒含量(埋戻・埋め戻し?) 焼土ブロック・黄褐色土ブロック含む
22. 7.5YR1/7.1 黄褐色シルト しまり部 粘粒含量
23. 7.5YR4/4 褐色シルト しまり部 粘粒含量 炭化物粒極小1%~3%
24. 10YR5/3 赤い黄褐色シルト しまり部 粘粒含量 炭化物粒極小1%~3%
25. 10YR5/6 黄褐色土質シルト しまり部 粘粒含量 炭化物粒極小1%
26. 7.5YR5/2 黄褐色シルト しまり部~中 粘粒含量 炭化物粒極小1%~3% 黄褐色土粒極小1%~5%



第69図 426・427号住(2)

1 住居跡



第70図 426・427号住 (3)



(427号住)

Pit-No	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
長(m)	33×30	54×42	58×42	42×39	42×39	30×27	39×27	24×21	45×45	30×27	42×39
深さ(m)	53	56	41	54	33	37	36	35	-	53	59
12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
39×36	42×39	42×36	42×36	60×51	39×36	33×30	42×30	48×36	39×30	38×35	42×42
67	70	74	33	39	48	33	19	43	77	15	13
24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35
48×39	33×27	42×36	36×36	39×33	42×30	45×39	39×36	36×30	45×33	48×48	36×33
73	12	19	46	12	11	23	78	49	55	50	15
36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47
39×36	48×39	33×27	51×45	51×48	54×39	51×51	42×33	33×33	43×43	43×39	34×31
24	79	48	67	51	42	36	19	31	17	32	34
48	79	63	51	53	53	61	65	66	37	38	
39×33	39×33	63×54	33×33	33×39	36×27	45×45	66×57	42×36	27×24	51×48	
19	18	56	21	22	33	33	39	68	28		

0 0.5 1 m

第71図 426・427号住(4)

【重複】 429号住居、431号土坑、433号七坑、434号土坑と重複している。平面検出ならびに断面観察からいずれも428号住よりも古い時期に構築されている。

【平面形・規模】 住居の縁を巡る周溝から判断して平面形は長方形基調であるが、明確な長方形とはならない。周溝埋土の色合いは地山と非常によく似ており、精査中も何度となく周溝を見失ってしまうことがあった。したがって、実際には長方形をなしている可能性も考えられる。

【覆土・堆積状況】 覆土は褐色土で構成され、炭化物粒を含む。自然堆積と判断した。

【壁・床面】 壁の明確な立ち上がりを確認することはできない。床面中央部付近から外側にだらだらと立ち上がって行き、その末端に周溝が存在するという格好である。

【柱穴】 428号住と429号住でPitを31基確認した。このうちPit 1・5・7・9・15・19・22・29を、この住居に伴う主柱穴とした。

【炉】 この住居にともなうものとして2基確認している。いずれも地床炉である。

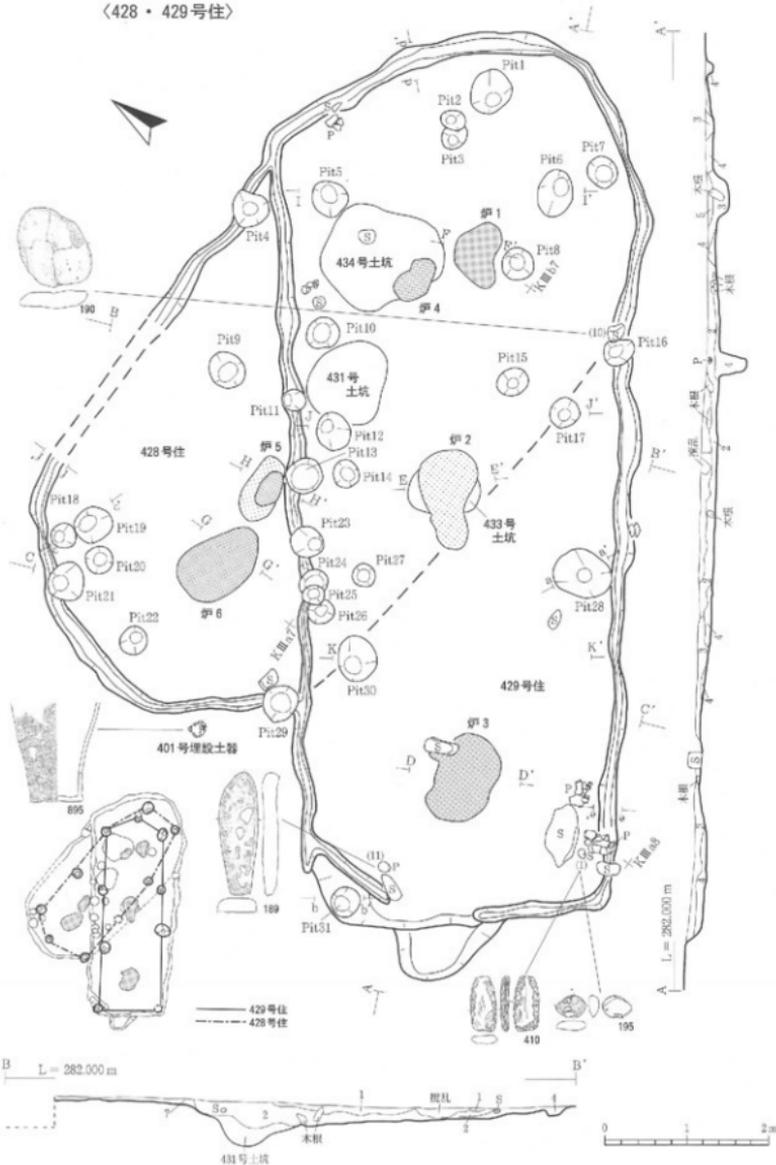
【出土遺物】 No658の土器、No393、394、396の剥片石器が出土している。(第34・113・216図、写真図版189・244)

429号住居跡(第72～74図、写真図版65～68)

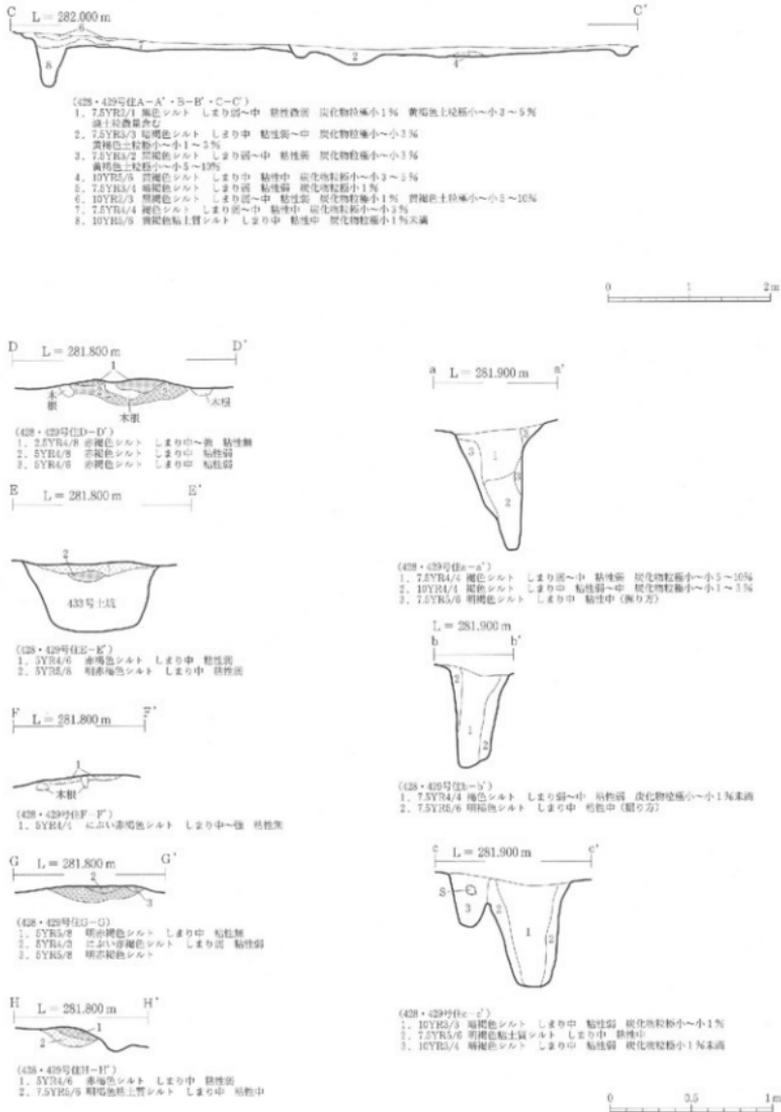
【位置・検出状況】 JⅢj7、KⅢa6～b6、a7～b7～KⅢb6グリッドに位置する。耕作による覆土層を除去したところで検出した。

【重複】 428号住、431号土坑、433号土坑、434号土坑と重複している。428号住よりも古いことを確認しているが、他の土坑との新旧関係は不明である。

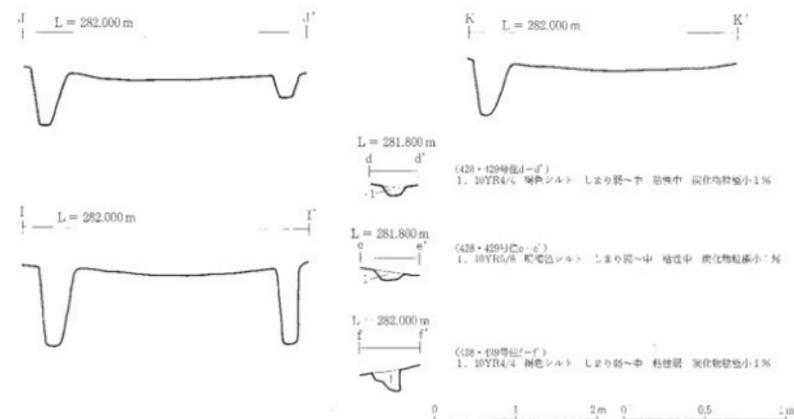
(428・429号住)



第72図 428・429号住 (1)



第73図 428・429号住(2)



(428・429号住)

Pit No	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
深さ(m)	57×48	30×24	36×27	48×45	45×42	40×42	38×36	39×36	46×42	42×39	30×27
長さ(m)	45	33	45	19	11	11	15	21	47	23	62
12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
	48×42	45×45	36×33	39×33	39×36	30×36	45×42	33×33	45×45	36×33	42×39
	63	16	20	27	28	23	46	76	24	63	19
24	25	26	27	28	29	30	31				
	36×30	27×24	33×27	27×27	72×62	45×42	37×36	36×36			
	17	35	46	46	38	35	66	67			

第74図 428・429号住(3)

〔平面形・規模〕 壁際を巡る周溝の形から、平面形は楕円形と判断した。規模は長径11.5m、短径4.5mである。

〔覆土・堆積状況〕 暗褐色土主体の覆土で、層厚は厚いところで20cm程度、薄いところでは1～2cm程度である。覆土最上部には、過去の発掘調査によるものと思われる人為的な埋戻しの痕跡が攪乱層として確認された。

〔壁・床面〕 壁はほとんど立ち上がらない。周溝と炉の存在によってかろうじて住居としてのプランが判断できる状況であった。

〔柱穴〕 428号住と429号住でPitを31基確認した。このうちPit 3・5・6・12・17・28・30・31をこの住居にともなう主柱穴とした。

〔炉〕 この住居にともなうものとして4基確認している。いずれも地床炉である。

〔出土遺物〕 Na659～664の土器、Na171の土製品、Na399～406、408～411の剥片石器・石製品、Na189～195の礫石器が出土している。(第34・113・114・183・217・218・270・271図、写真図版189・228・244・272・273)

431号住居跡(第75図、写真図版69)

〔位置・検出状況〕 JⅢj10、JⅣj1～j2、KⅣa1～a2グリッドに位置する。耕作による攪乱層を除去した時点で焼土の列を確認したため住居として登録した。

〔重複〕 417号上坑、405号陥し穴と重複する。新旧関係は不明である。

〔平面形・規模〕 周溝など平面形を推測する判断材料を確認することができなかったため不明である。規模は坩土列から長径(9.6)m、短径(5.1)m程度と推測される。

〔覆土・堆積状況〕 検出面がほぼ床面と考えられるため、覆土ならびにその堆積状況については確認できていない。

〔壁・床面〕 壁の立ち上がり等は確認していない。床面の硬化の程度などは周囲とほとんど変わらない。

〔柱穴〕 遺構と思われる区域からPitを17基確認している。このうちPit1・3・6・8・12・13・16をこの住居にともなう主柱穴とした。

〔炉〕 3基確認した。いずれも地床炉である。

〔出土遺物〕 Na412・413の剥片石器・石製品、Na196~198の礫石器が出土している。(第35・218・272図、写真図版244・274)

432号住居跡(第66図、写真図版70)

〔位置・検出状況〕 KIV b2~b3、c2~c3グリッドに位置する。耕作による攪乱層を除去した時点で検出した。

〔重複〕 422号住、423号住、423号陥し穴と重複している。いずれも新旧関係は不明である。

〔平面形・規模〕 平面形は円形で、規模は径3.5mである。

〔覆土・堆積状況〕 褐色土主体である。自然堆積と推定される。

〔壁・床面〕 壁際に周溝が巡る。床面は比較的硬い。

〔柱穴〕 中央部付近に主柱穴を1本確認している。

〔炉〕 なし。

〔出土遺物〕 Na665の土器、Na414の剥片石器、Na199の礫石器が出土している。(第35・114・218・272図、写真図版189・244・274)

433号住居跡(第61・62図、写真図版68)

〔位置・検出状況〕 KIV d1~d3、KIV e1~e3グリッドに位置する。耕作による攪乱層を除去した時点で炉を検出した。この時点ですでに壁は残存していなかった。その後周囲を再検出したところ、周溝の一部と思われる溝が検出されたことから住居跡とした。

〔重複〕 418号住、410号陥し穴と重複している。新旧関係については、覆土の断面観察ができなかったことに加え、平面的観察からも重複関係を示す情報が得られなかったため不明である。

〔平面形・規模〕 平面形は長方形で、規模は長径(13.2)m、短径5.1mである。

〔覆土・堆積状況〕 攪乱層を除去した時点で床面であったため、確認していない。

〔壁・床面〕 壁際と思われるところに一部周溝が巡る。床面は比較的硬い。

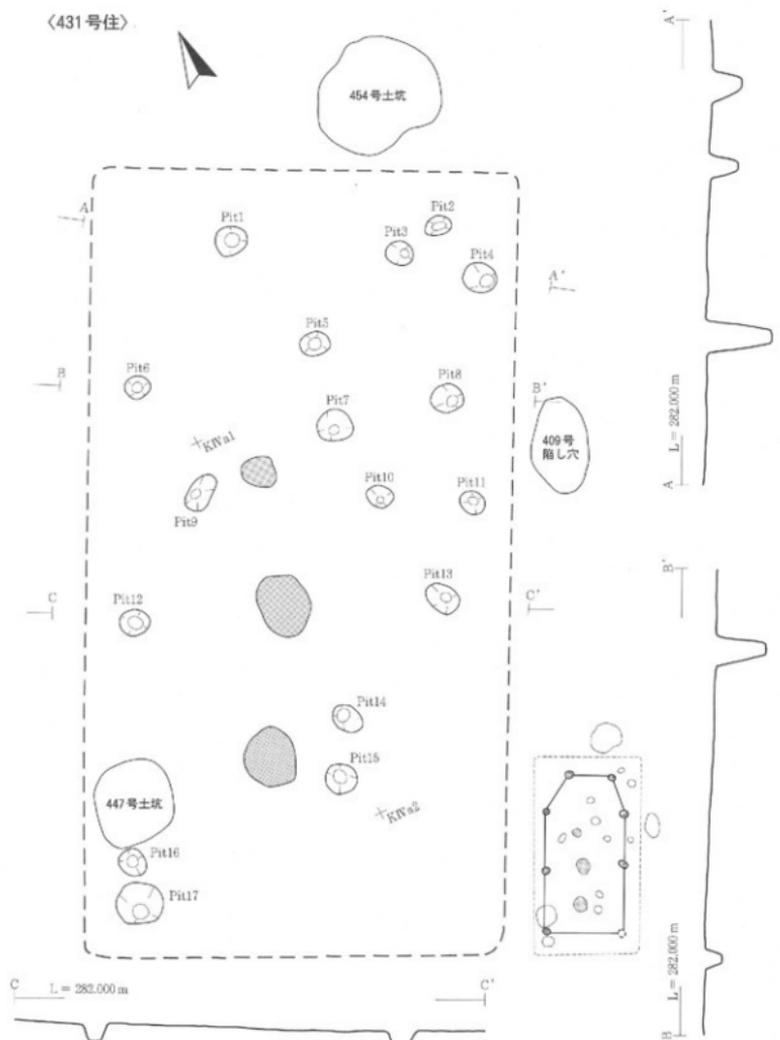
〔柱穴〕 418号住と433号住でPitを120基確認している。これらのうち、Pit10・25・26・35・46・66・73・88・94・102・114・120をこの住居にともなう主柱穴とした。

〔炉〕 全部で4基確認している。いずれも地床炉である。

〔出土遺物〕 出土していない。

501号住居跡(第76図、写真図版71)

〔位置・検出状況〕 LIII b9~b10グリッドに位置する。II層下部にて検出した。当初は大形住居の一部と



(431号住)

Pit No	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
径(cm)	39×35	33×34	33×30	42×38	36×30	26×26	45×28	29×26	48×27	33×27	33×27
埋込(cm)	75	23	34	37	56	17	44	63	35	25	19

	12	13	14	15	16	17
径(cm)	35×33	42×33	42×30	39×35	36×30	37×34
埋込(cm)	21	35	31	33	49	39

第75図 431号住

いう認識であったが、掘り進めるうちに円形の小形堅穴の重複であるらしいことが判明した。

【重複】 501-b 住と重複している。新旧関係は、501-b 住（北側）→501-a 住（南側）の順。

【平面形・規模】 約半分ほどが用水路によって切られているため、全体像は不明であるが、平面形は両住居とも円形と推測される。規模は501-a 住が径（3.6）mと推測される。

【覆土・堆積状況】 覆土は黒色～黒褐色土主体で黄褐色土粒ならびに炭化物粒を混入する。

【壁・床面】 壁の立ち上がりは急で、遺跡に周溝が巡る。床面とくに中央部付近は踏みしめによるものと思われる硬化が確認された。

【柱穴】 床面中央部付近からやや南側に主柱穴と思われるPit 2を確認した。

【炉】 なし。

【出土遺物】 No667～669の土器、No420の剥片石器、No200・201礫石器が出土している。（第35・114・115・218・272図、写真図版189・244・274）

503号住居跡（第77図、写真図版72）

【位置・検出状況】 LⅢ a6～b7グリッドに位置する。205号住の精査を終了したのち、周囲を丁寧にクリーニングしたところ、住居の端と思われる部分が検出されたため住居として登録した。

【重複】 205号住、311号焼土と重複している。新旧関係は503号住→205号住→311号焼土の順と判断した。

【平面形・規模】 平面形は長方形と推測され、規模は確認できた部分のみ長径（4.5）m、短径3.6mである。

【覆土・堆積状況】 覆土は黒褐色土であるが、地山と非常に近い色合いの覆土であり、層厚は数センチ程度と非常に薄い。

【壁・床面】 壁の立ち上がりはほとんど確認できなかった。かろうじて覆土の広がりから遺構のプランを確定したのみである。床面は平坦で、周囲に比べやや硬く締まっている。

【柱穴】 Pitを3基確認した。深さ等の情報から、少なくともPit 3は主柱穴と推測される。

【炉】 なし。311号焼土が当該住居の炉である可能性も疑ったが平面プランならびにレベルなどを総合的に検討した結果、この住居に伴う炉ではないという判断に至った。

【出土遺物】 No670・671の土器が出土している。（第35・115図、写真図版190）

505号住居跡（第78図、写真図版73）

【位置・検出状況】 JⅣ g7～i7グリッドに位置する。Ⅱ層下部にて検出した。

【重複】 無いと判断したが、住居東側の壁と周溝の関係から拡張ないしは建て替える可能性も考えられる。

【平面形・規模】 平面形は楕円形ないしは円形で、規模は長径6.1m、短径4.5mである。

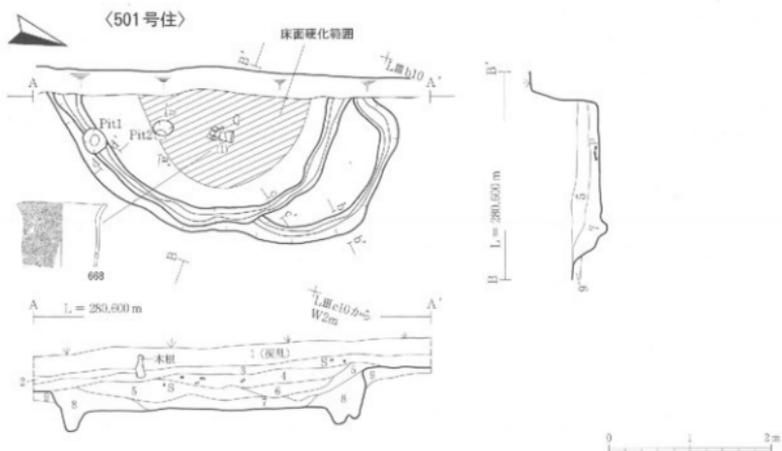
【覆土・堆積状況】 褐色～暗褐色土主体で炭化物が混入する。自然堆積である。

【壁・床面】 西側の壁は明確に立ち上がるが、東側の壁については不明瞭である。深さは40cm。床面は周囲の地山より若干硬い。

【柱穴】 周溝が巡るプランの中央部にPitを1基確認した。住居に伴う主柱穴と考えられる。

【炉】 なし。

【出土遺物】 No672～677の土器、No421・422の剥片石器・石製品、No202～205の礫石器が出土している。（第35・115・116・218・272・273図、写真図版190・244・274）



- (501号住居A'-A'・B-B')
1. 7.5YR2/2 褐色シルト しまり部 砂性ほとんど無し 黄褐色土粒小～中5% (溝槽による浸透層)
 2. 7.5YR2/2 褐色シルト しまり部～中 砂性ほとんど無し 炭化物粒極小～小3%
 3. 7.5YR2/2 黄褐色シルト しまり部 砂性弱 炭化物粒極小～小1%
 4. 7.5YR2/2 黄褐色シルト しまり部 砂性弱 炭化物粒極小～小1%
 5. 7.5YR2/2 黄褐色シルト しまり部 砂性弱 炭化物粒極小～小1%
 6. 7.5YR2/2 黄褐色シルト しまり部 砂性弱 炭化物粒極小～小1%
 7. 7.5YR2/2 黄褐色シルト しまり部 砂性弱 炭化物粒極小～小1%
 8. 7.5YR2/2 黄褐色シルト しまり部 砂性弱 炭化物粒極小～小1%
 9. 7.5YR2/2 黄褐色シルト しまり部 砂性弱 炭化物粒極小～小1%

(501号住)

Pit-No	1	2
径(cm)	30×27	34×18
深S(cm)	21	33



- (501号住(a-a'))
1. 7.5YR2/2 黄褐色シルト しまり部 砂性弱 炭化物粒極小～小3～5%
 2. 7.5YR2/2 黄褐色シルト しまり部 砂性弱 炭化物粒極小～小3～5%



- (501号住(b-b'))
1. 7.5YR2/2 黄褐色シルト しまり部 砂性弱 炭化物粒極小～小1～2%



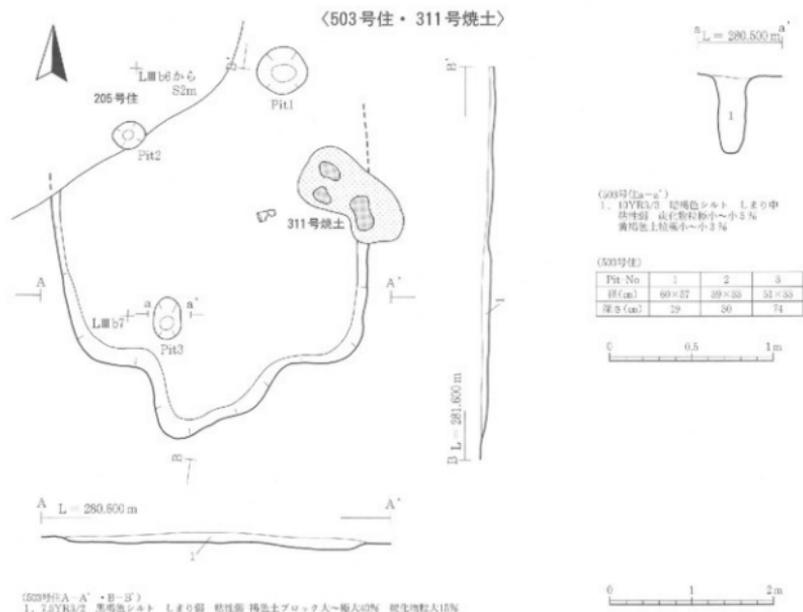
- (501号住(c-c'))
1. 7.5YR2/2 黄褐色シルト しまり部 砂性弱 炭化物粒極小～小5～10%



- (501号住(d-d'))
1. 7.5YR2/2 黄褐色シルト しまり部 砂性弱 炭化物粒極小～小5～10%



第76図 501号住



第77図 503号住・311号焼土

506号住居跡 (第161図)

【位置・検出状況】 KIV i 2 グリッドに位置する。捨て場として掘り進め、断面観察によって住居跡であることを確認した。

【重複】 捨て場と重複する。断面観察ならびに遺物の出土状況から、本遺構が使用されなくなって埋積される過程において覆土3層を構成する遺物廃棄層が形成されたものと判断した。

【平面形・規模】 平面形は円形で、規模は3.5m、短径3.1mである。

【覆土・堆積状況】 極暗褐色～黒色主体で炭化物が混入する。4・5層は自然堆積である。

【壁・床面】 断面観察によると壁は比較的急に立ち上がる。

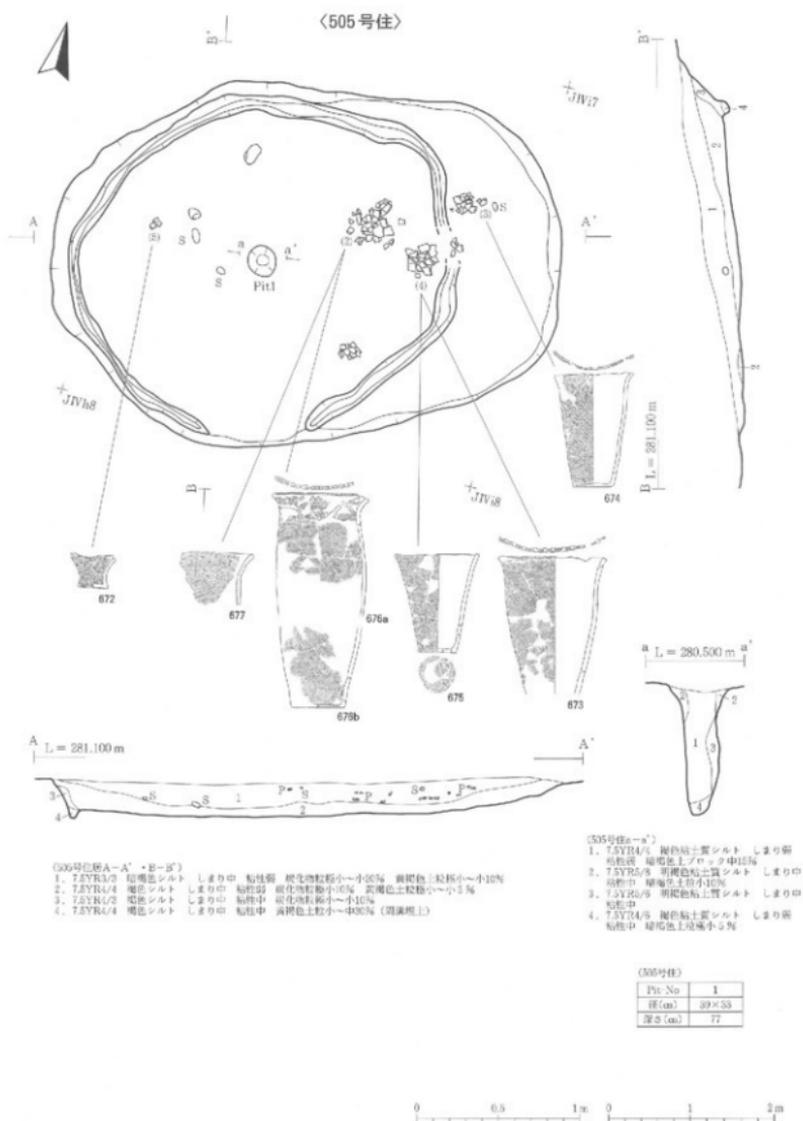
【柱穴】 なし。

【炉】 なし。

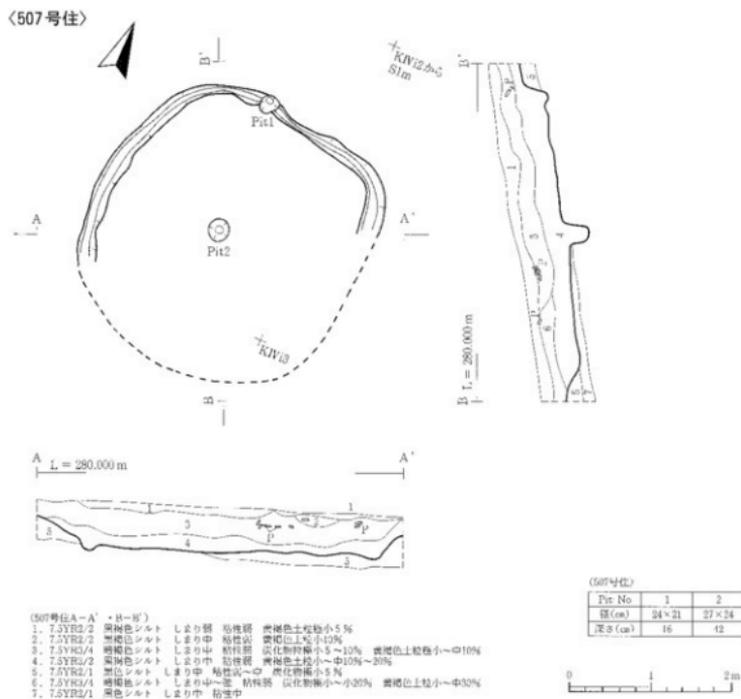
【出土遺物】 Na678・679の土器、Na423・424の剥片石器、Na206の礫石器が出土している。(第36・117・218・219・273図、写真図版190・244・245・274)

507号住居跡 (第79図、写真図版74)

【位置・検出状況】 KIV h 2～i 2 グリッドに位置する。同グリッド上層に存在した遺物包含層の精査を終えたところで住居の周溝と思われる部分を検出したため登録した。



第78図 505号住



第79図 507号住

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 平面形は円形をなすと推測される。規模は最大で直径3.9mである。

〔覆土・堆積状況〕 黒褐色土～暗褐色土が堆積する。3層の暗褐色土中に含まれる遺物が多い。

〔壁・床面〕 壁の立ち上がりは比較的急である。床面は傾斜に沿って南側ほど低まる。

〔柱穴〕 Pitを2基確認している。底面中央付近と推測される位置にあるPit2をこの住居にともなう主柱穴と判断した。

〔炉〕 なし。

〔出土遺物〕 出土していない。

2 土 坑

人為的な掘り込みの確認される穴で、他の遺構すなわち堅穴住居跡、陥し穴状遺構、溝跡、焼土、以外のものを一括して土坑とした。これらの中には貯蔵穴と思われるもの、その他(墓塚など)が含まれる。なお、一部土坑の断面図ならびに覆土の記録については割愛したものもある。遺構の事実記載については以下に示した表に項目ごとにまとめた。

101号土坑(第80図、写真図版75)

【位置・検出状況】 LⅢc1グリッドに位置する。耕作による攪乱層を除去したところで検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は楕円形をなす。規模は開口部が2.32×1.88m、底部が1.86×1.54mで深さは23cmである。

【覆土・堆積状況】 黒褐色土の単層で炭化物粒を含む。人為堆積と推測される。覆土に多量の遺物を含む。

【壁】 残存している壁は比較的ゆるやかな傾斜である。

【出土遺物】 Na680～686の土器、Na174の上製品が出土している。(第36・117・118・184図、写真図版191・228)

102号土坑(第80図、写真図版75)

【位置・検出状況】 LⅡd10グリッドほかに位置する。耕作による攪乱層を除去したところで検出した。

【重複】 覆土の断面観察から単独の土坑と判断したが、東側に棚状の一段高い掘り込みが確認され、別遺構(土坑)が重複している可能性も推測できる。また、103号土坑と重複している可能性も考えられるが検出ならびに断面観察からその事実を把握することは出来なかったため不明である。

【平面形・規模】 平面形は円形基調であるが不整である。規模は開口部が2.68×2.58m、底部が1.22×1.1mで深さは45cmである。

【覆土・堆積状況】 黒褐色土主体の覆土で炭化物粒ならびに黄褐色土粒を含む。人為堆積と推測される。覆土上部から下部まで遺物を含んでいる。

【壁】 北側の壁の傾斜は比較的急であるが、南側の壁は緩やかである。

【出土遺物】 Na687～694の土器、Na173の土製品、Na207の礫石器が出土している。(第36・118・119・184・273図、写真図版191～192・228・274)

103号土坑(第80図、写真図版75)

【位置・検出状況】 LⅡd10グリッドほかに位置する。耕作による攪乱層を除去したところで検出した。

【重複】 102、104号土坑と重複している可能性があるが検出状況ならびに断面観察からはわからなかったため不明である。

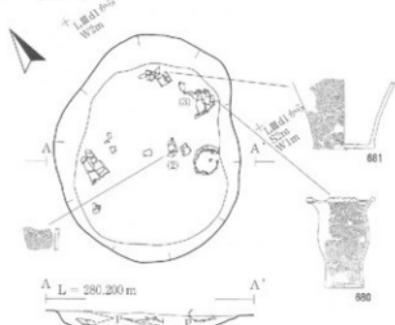
【平面形・規模】 平面形は楕円形、規模は開口部が2.42×1.9m、底部が1.92×1.3mで深さは31cmである。

【覆土・堆積状況】 黒褐色土主体の覆土で炭化物粒ならびに黄褐色土粒を含む。人為堆積と推測される。覆土上部から下部まで遺物を含んでいる。

【壁】 残存する壁の立ち上がりは比較的急である。

【出土遺物】 Na695～709の土器、Na425～429の剥片石器、Na208の礫石器が出土している。(第36・119・

<101号土坑>

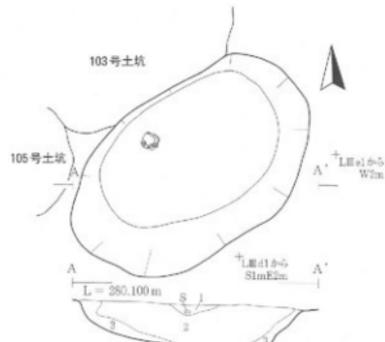


(101号土坑A-A')

1. 10YR2/2 黄褐色シルト しまり中 粘性强 炭化物粒小1%

黄褐色土粒小1%

<104号土坑>



(104号土坑A-A')

1. 7.5YR2/2 黄褐色シルト しまり中 粘性强
2. 10YR2/2 黄褐色シルト しまり中 粘性强 炭化物粒小1-3%
黄褐色土粒小1%
3. 10YR3/3 黄褐色シルト しまり弱 粘性强 炭化物粒小1%未満
黄褐色土粒小1-3%

<102・103・105号土坑>



(102・103・105号土坑A-A')

1. 10YR2/2 黄褐色シルト しまり弱 粘性强 炭化物粒小1%未満
2. 10YR3/3 黄褐色シルト しまり中 粘性强 炭化物粒小1%未満
黄褐色土粒小1-3%
3. 10YR2/2 黄褐色シルト しまり弱 粘性强 炭化物粒小1%未満
黄褐色土粒小1%
4. 10YR3/3 黄褐色シルト しまり中 粘性强 炭化物粒小1%未満
黄褐色土粒小1%
5. 10YR2/2 黄褐色シルト しまり弱 粘性强 炭化物粒小1%未満
黄褐色土粒小1-3%
6. 10YR1/3 黄褐色シルト しまり中 粘性强
7. 10YR2/2 黄褐色シルト しまり中 粘性强 炭化物粒小1%未満
L. 断面に10YR2/2黄褐色粘土質シルトが散在
8. 10YR2/2 黄褐色シルト しまり中 粘性强 炭化物粒小1% 黄褐色土粒小1%

B L = 280.400m



(102・103・105号土坑B-B')

1. 10YR2/2 黄褐色シルト しまり中 粘性强 炭化物粒小1%未満
黄褐色土粒小1-3%
2. 10YR3/3 黄褐色シルト しまり中 粘性强

第80図 101~105号土坑

120・219・273図、写真図版192・245・274)

104号土坑 (第80図、写真図版76)

[位置・検出状況] LII d10グリッドほかに位置する。耕作による攪乱層を除去したところで検出した。

[重複] 103号土坑と重複する可能性があるが、検出状況・断面観察からはわからなかったため不明である。

[平面形・規模] 平面形は楕円形をなす。規模は開口部が2.7×1.66m、底部が1.94×1.26mで深さは45cmである。

[覆土・堆積状況] 黒褐色土主体の覆土で、炭化物粒を若干含んでいる。人為堆積と推測される。

[壁] 残存する壁の立ち上がりは比較的急である。

[出土遺物] Na710～716の土器、Na430・431の剥片石器が出土している。(第37・120・219図、写真図版192・193・245)

105号土坑 (第80図、写真図版75)

[位置・検出状況] LII c10グリッドほかに位置する。耕作による攪乱層を除去したところで検出した。

[重複] 103号土坑と重複する可能性があるが、検出状況・断面観察からはわからなかったため不明である。

[平面形・規模] 平面形は円形、規模は開口部が1.68×1.48m、底部が1×0.86mで深さは36cmである。

[覆土・堆積状況] 黄褐色上ブロックを不規則に含む。人為堆積であるが、堆積の状況ならびに堆積層から判断して極めて新しい時代に形成された攪乱の可能性が高い。

[壁] 壁の立ち上がりは比較的緩やかである。

[出土遺物] Na717・718の土器が出土している。(第37・120図、写真図版193)

106号土坑 (第81図、写真図版76)

[位置・検出状況] LIII c1グリッドほかに位置する。耕作による攪乱層を除去したところで検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は楕円形基調であるが不整である。規模は開口部が1.68×0.92m、底部が0.98×0.36mで深さは56cmである。風倒木痕の可能性も考えられる。

[覆土・堆積状況] 覆土は黒褐色土主体である。自然堆積と判断した。

[壁] 壁の立ち上がりは比較的急である。

[出土遺物] 出土していない。

107号土坑 (第81図、写真図版76)

[位置・検出状況] LIII b1グリッドに位置する。耕作による攪乱層を除去したところで検出した。

[重複] なし。

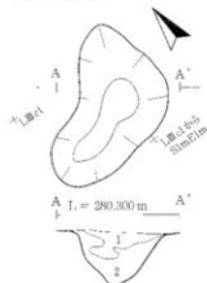
[平面形・規模] 平面形は楕円形をなす。規模は開口部が2.24×1.56m、底部が1.98×1.24mで深さは17cmである。

[覆土・堆積状況] 覆土は褐色土主体である。自然堆積と判断した。

[壁] 残存する壁の立ち上がりは比較的急である。

[出土遺物] 出土していない。

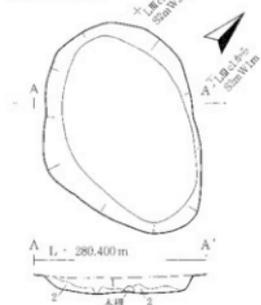
〈106号土坑〉



(106号土坑A-A')

- 7.5YR3/2 黄褐色シルト しまり中
粘柱石 炭化物粒小1列未満 黄褐色
土粒径小1列未満
- 10YR2/2 黄褐色シルト しまり弱
粘柱石 炭化物粒小1列 黄褐色
土粒径小1列未満

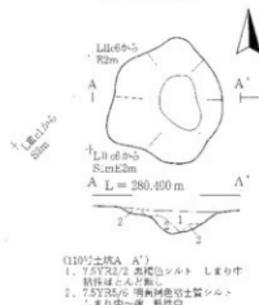
〈107号土坑〉



(107号土坑A-A')

- 10YR5/5 暗褐色シルト しまり中
粘柱石 炭化物粒径小1列未満 黄
褐色土粒径小1列未満
- 10YR4/6 暗褐色シルト しまり中
粘柱石 炭化物粒径小1列未満

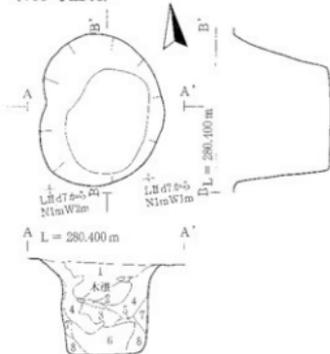
〈110号土坑〉



(110号土坑A-A')

- 7.5YR2/2 黄褐色シルト しまり中
粘柱石とんが無し
- 7.5YR3/6 黄褐色粘土質シルト
しまり中～弱 粘柱石

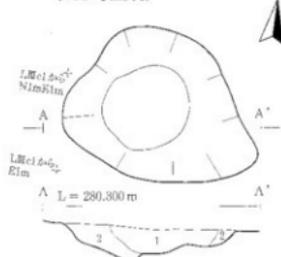
〈109号土坑〉



(109号土坑A-A')

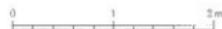
- 7.5YR2/2 黄褐色シルト しまり中～弱 粘柱石
- 10YR2/2 黄褐色シルト しまり弱 粘柱石 黄褐色土粒径小1列未満
- 10YR2/1 黄褐色シルト しまり弱 粘柱石 黄褐色土粒径小1列
- 10YR2/3 黄褐色シルト しまり中 粘柱石 黄褐色土粒径小1列
- 10YR4/4 暗褐色シルト しまり弱 粘柱石 (8層より厚さ1列)
- 10YR3/1 黄褐色シルト しまり中 粘柱石～中 黄褐色土粒径小1列未満
- 10YR4/6 黄褐色粘土質シルト しまり中 粘柱石
- 10YR4/4 黄褐色粘土質シルト しまり中～弱 粘柱石

〈108号土坑〉



(108号土坑A-A')

- 10YR5/3 暗褐色シルト しまり中 粘柱石 炭化物粒径小1列
黄褐色土粒径小1列未満
- 10YR5/6 黄褐色粘土質シルト しまり中 粘柱石 炭化物粒
径小1列



第81図 106～110号土坑

108号土坑 (第81図、写真図版76)

【位置・検出状況】 L II c10グリッドに位置する。耕作による攪乱層を除去したところで検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は円形基調であるが不整である。規模は開口部が $2 \times 1.54\text{m}$ 、底部が $0.91 \times 0.84\text{m}$ で深さは 39cm である。

【覆土・堆積状況】 覆土は暗褐色土主体である。自然堆積と判断した。

【壁】 壁の立ち上がりは比較的緩やかである。

【出土遺物】 出土していない。

109号土坑 (第81図、写真図版77)

【位置・検出状況】 L II c6グリッドに位置する。II層下部にて検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は円形、規模は開口部が $1.56 \times 1.24\text{m}$ 、底部が $1.08 \times 0.82\text{m}$ で深さは 94cm である。

【覆土・堆積状況】 壁の崩落によると推定される7～8層を除き、覆土は黒色～黒褐色土が主体である。自然堆積と判断した。

【壁】 壁の立ち上がりは急である。

【出土遺物】 出土していない。

110号土坑 (第81図、写真図版77)

【位置・検出状況】 L II c6グリッドほかに位置する。耕作による攪乱層を除去したところで検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は円形、規模は開口部が $1.29 \times 1.15\text{m}$ 、底部が $0.58 \times 0.38\text{m}$ で深さは 23cm である。

【覆土・堆積状況】 黒褐色土主体である。自然堆積と判断した。

【壁】 壁の立ち上がりは比較的緩やかである。

【出土遺物】 出土していない。

111号土坑 (第82図、写真図版77)

【位置・検出状況】 L II c4グリッドに位置する。耕作による攪乱層を除去したところで検出した。

【重複】 なし。遺構北西側が攪乱によって切られている（隣接する電柱の埋設に関連するものと思われる）。

【平面形・規模】 平面形は円形、規模は開口部が $3.08 \times 2.87\text{m}$ 、底部が $2.18 \times 2.14\text{m}$ で深さは 122cm である。

【覆土・堆積状況】 覆土は黒色～黒褐色土主体である。断面観察によると、覆土中位付近においてやや不規則な堆積の仕方が確認される。人為堆積の可能性が高い。

【壁】 壁の立ち上がりは急である。

【出土遺物】 No432の剥片石器が出土している。(第37・219図、写真図版・245)

112号土坑 (第82図、写真図版77)

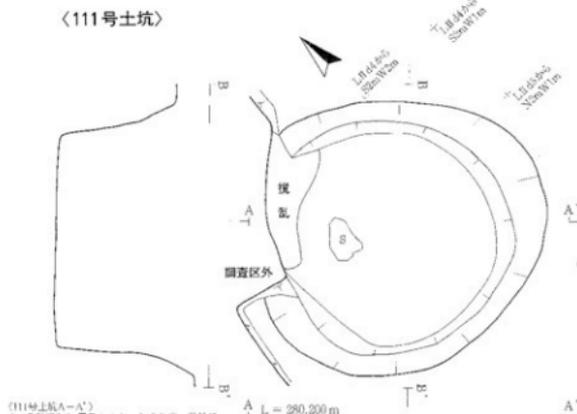
【位置・検出状況】 L II c5グリッドに位置する。耕作による攪乱層を除去したところで検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は円形、規模は開口部が $2.3 \times 2.23\text{m}$ 、底部が $1.68 \times 1.4\text{m}$ で深さは 101cm である。

【覆土・堆積状況】 覆土は黒褐色～暗褐色土主体である。人為堆積の可能性が高い。

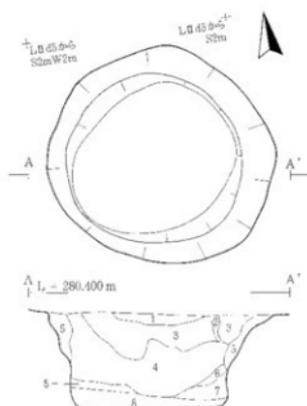
<111号土坑>



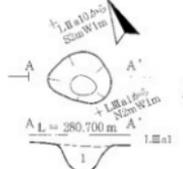
(111号土坑A-A')

- 7.5YR2/1 黒色シルト しまり弱 粘性ほとんど無 炭化物粒小1%未満 黄褐色土粒極小3%
- 7.5YR2/2 暗褐色シルト しまり中 粘性强弱 炭化物粒小1%未満 黄褐色土粒極小1%未満
- 7.5YR2/2 暗褐色シルト しまり弱 粘性强弱 炭化物粒小1%未満 黄褐色土粒極小1%未満
- 10YR4/4 暗褐色シルト しまり弱 粘性强弱 炭化物粒極小1%未満 黄褐色土粒極小1%未満
- 7.5YR2/6 明褐色シルト しまり弱~中 粘性强弱 炭化物粒極小1%未満
- 10YR4/3 赤い黄褐色粘上質シルト しまり中 粘性强 黄褐色土粒極小5%
- 7.5YR2/6 明褐色シルト しまり中 粘性强 (5層より弱る)

<112号土坑>

 $A L = 280.400 m$

<117号土坑>



(117号土坑A-A')

- 10YR2/2 赤褐色シルト しまり中 粘性强弱 炭化物粒極小1%未満 黄褐色土粒極小1%未満

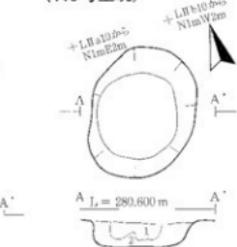
(118号土坑A-A')

- 10YR2/3 赤褐色シルト しまり弱 粘性强 炭化物粒極小1%未満
- 10YR2/4 暗褐色シルト しまり中 粘性强 炭化物粒極小1%未満 黄褐色土粒極小1%未満
- 10YR2/3 暗褐色シルト しまり中 粘性强 炭化物粒極小1%未満
- 10YR2/6 黄褐色粘上質シルト しまり中 粘性强 (湖沼より弱る)

(119号土坑A-A')

- 10YR2/3 赤褐色シルト しまり弱 粘性强 炭化物粒極小1%未満
- 10YR2/4 暗褐色シルト しまり中 粘性强 (本層?)
- 10YR2/2 暗褐色シルト しまり弱 粘性强 炭化物粒極小1%未満 黄褐色土粒極小1%未満
- 10YR2/3 暗褐色シルト しまり弱~中 粘性强~中 炭化物粒極小1%未満 黄褐色土粒極小1%未満
- 10YR4/6 明褐色シルト しまり弱 粘性强 (7層よりしまり弱)
- 10YR4/4 暗褐色粘上質シルト しまり中 粘性强 炭化物粒極小1%未満
- 10YR4/6 暗褐色粘上質シルト しまり弱~中 粘性强
- 10YR2/3 暗褐色シルト しまり中~弱 粘性强~中 黄褐色土粒小1%未満

<115号土坑>



(115号土坑A-A')

- 7.5YR2/1 黒色シルト しまり弱 粘性强 炭化物粒小1%未満 黄褐色土粒極小2~3%
- 10YR2/2 暗褐色シルト しまり中 粘性强 炭化物粒小1%未満 黄褐色土粒極小1%

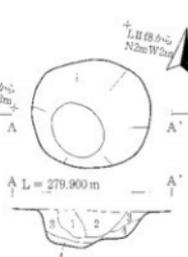
<116号土坑>



(116号土坑A-A')

- 7.5YR2/2 暗褐色シルト しまり中 粘性强弱 炭化物粒極小1%未満
- 10YR4/4 暗褐色シルト しまり中 粘性强

<118号土坑>

 $A L = 279.900 m$

0 1 2m

〔壁〕 壁の立ち上がりは急である。

〔出土遺物〕 No.209～212の礫石器が出土している。(第37・273図、写真図版・274・275)

115号土坑(第82図、写真図版78)

〔位置・検出状況〕 LII a 9 グリッドほかに位置する。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 平面形は楕円形、規模は開口部が1.38×1.09m、底部が0.92×0.86mで深さは25cmである。

〔覆土・堆積状況〕 覆土は黒褐色土主体で、炭化物粒を含む。自然堆積と判断した。

〔壁〕 壁の立ち上がりは比較的急である。

〔出土遺物〕 出土していない。

116号土坑(第82図、写真図版78)

〔位置・検出状況〕 K II j10グリッドに位置する。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 平面形はやや不整な円形をなす。規模は開口部が0.76×0.6m、底部が0.35×0.3mで深さは13cmである。

〔覆土・堆積状況〕 覆土は黒褐色土主体で、炭化物粒を含む。自然堆積と判断した。

〔壁〕 壁の立ち上がりは比較的緩やかである。

〔出土遺物〕 出土していない。

117号土坑(第82図、写真図版78)

〔位置・検出状況〕 K II j10グリッドに位置する。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 平面形はやや不整な円形をなす。規模は開口部が0.63×0.54m、底部が0.26×0.2mで深さは28cmである。

〔覆土・堆積状況〕 覆土は黒褐色土で、炭化物粒を含む。自然堆積と判断した。

〔壁〕 壁の立ち上がりは比較的急である。

〔出土遺物〕 出土していない。

118号土坑(第82図、写真図版78)

〔位置・検出状況〕 LII e 7 グリッドに位置する。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 平面形は円形、規模は開口部が1.24×1.17m、底部が0.59×0.48mで深さは39cmである。

〔覆土・堆積状況〕 底面付近は黄褐色の地山ブロックを含む層で埋め戻され、その上に暗褐色土主体の層が堆積している。

〔壁〕 壁の立ち上がりは急である。

〔出土遺物〕 出土していない。

119号土坑(第83図、写真図版79)

〔位置・検出状況〕 LII e 6 グリッドほかに位置する。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 平面形は上端が円形で、底面は長方形をなす。規模は開口部が1.2×1.12m、底部が0.94×0.78mで深さは85cmである。

〔覆土・堆積状況〕 覆土は黒褐色土主体で、底面ならびに壁際の一部に地山崩落土を含む。自然堆積であると判断した。

〔壁〕 壁の立ち上がりは急である。

〔出土遺物〕 出土していない。

120号土坑（第83図、写真図版79）

〔位置・検出状況〕 LⅡe6グリッドほかに位置する。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 平面形は楕円形、規模は開口部が1.14×0.84m、底部が0.64×0.5mで深さは33cmである。

〔覆土・堆積状況〕 黒褐色土に黄褐色土の地山ブロックを含む。人為的埋め戻しと判断した。

〔壁〕 壁の立ち上がりは比較的緩やかである。

〔出土遺物〕 出土していない。

121号土坑（第83図、写真図版79）

〔位置・検出状況〕 LⅡf8グリッドに位置する。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 平面形はやや不整な円形をなす。規模は開口部が1.86×1.82mで、底部が0.96×0.5m深さは47cmである。

〔覆土・堆積状況〕 地山ブロックを含む黒褐色土によって人為的に埋め戻されている。

〔壁〕 南側の立ち上がりは緩やかであるが、北側は比較的急である。

〔出土遺物〕 出土していない。

122号土坑（第83図、写真図版79）

〔位置・検出状況〕 LⅡh10グリッドに位置する。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 平面形は円形、規模は開口部が0.92×0.82m、底部が0.55×0.55mで深さは44cmである。

〔覆土・堆積状況〕 地山ブロックを含む黒褐色土によって埋め戻されている。

〔壁〕 壁の立ち上がりは比較的急である。

〔出土遺物〕 出土していない。

123号土坑（第83図、写真図版80）

〔位置・検出状況〕 LⅢg2グリッドほかに位置する。

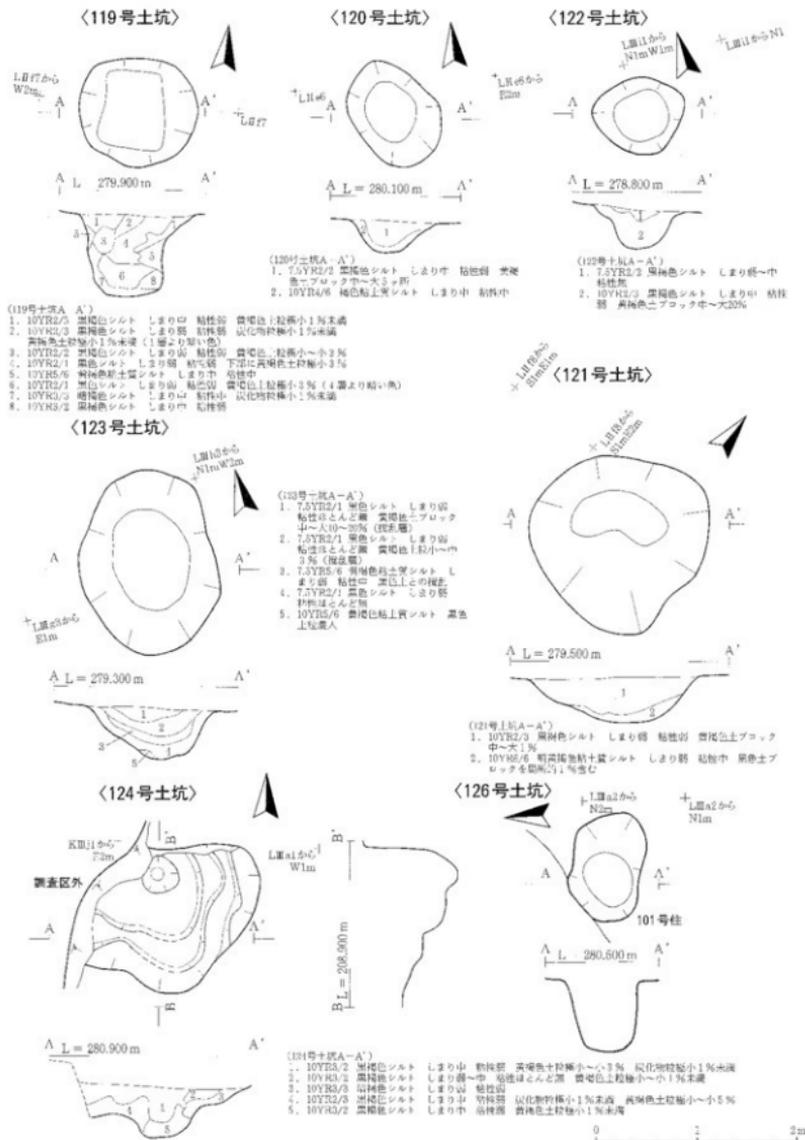
〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 平面形は楕円形、規模は開口部が1.9×1.36m、底部が1.06×0.8mで深さは53cmである。

〔覆土・堆積状況〕 地山ブロックによる層と黒色土層との互層になっており、埋め戻されている。

〔壁〕 西側は比較的緩やかであるが、東側は比較的急である。

〔出土遺物〕 出土していない。



第83図 119~124・126号土坑

124号土坑 (第83図、写真図版80)

【位置・検出状況】 KⅢ j 1 グリッドに位置する。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は円形基調であるが不整である。規模は開口部が(2.00)×(0.98)m、底部が(1.06)×(0.74)mで深さは51cmである。

【覆土・堆積状況】 黄褐色土粒(地山粒)を多く含む黒褐色土ないしは暗褐色土によって埋め戻されている。

【壁】 北側の壁はほぼ垂直に立ち上がるが、南側ならびに東側の立ち上がりは比較的緩やかである。

【出土遺物】 Na719~721の土器が出土している。(第37・121図、写真図版193)

125号土坑 (第84図、写真図版80)

【位置・検出状況】 MⅢ c 6 グリッドに位置する。

【重複】 102号住を切って重複しており、102号住→125号土坑の順で構築された。

【平面形・規模】 平面形はやや不整な円形をなす。規模は開口部が1.51×1.33m、底部が0.94×0.62mで深さは96cmである。

【覆土・堆積状況】 炭化物粒や黄褐色土粒を含む黒褐色土~暗褐色土が堆積している。自然堆積と判断した。

【壁】 壁の立ち上がりは急である。

【出土遺物】 出していない。

126号土坑 (第83図)

【位置・検出状況】 KⅢ j 1 グリッドほかに位置する。

【重複】 101号住と重複している。101号住→126号土坑の順で構築されたと判断した。

【平面形・規模】 平面形は楕円形、規模は開口部が1.14×0.71m、底部が0.56×0.48mで深さは72cmである。

【覆土・堆積状況】 断面を記録することができなかったため不明である。

【壁】 壁の立ち上がりは急である。

【出土遺物】 出していない。

201号土坑 (第84図、写真図版80)

【位置・検出状況】 LⅢ c 6 グリッドほかに位置する。Ⅱ層下部にて検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形はやや不整な楕円形をなす。規模は開口部が2.51×1.96m、底部が1.8×1.43mで深さは50cmである。

【覆土・堆積状況】 炭化物粒を含む黒褐色土ならびに黄褐色土粒を含む灰黄褐色土が堆積している。とくに1層には埋土上位から下位にかけて多量の遺物が含まれている。

【壁】 西側の立ち上がりは比較的急であるが、東側は階段状になっており比較的緩やかである。

【出土遺物】 Na722~746の土器、Na433~435の剥片石器・石製品が出土している。(第37・121~123・219図、写真図版193・194・245)

202号土坑 (第84図、写真図版81)

【位置・検出状況】 LⅢ c 5 グリッドに位置する。Ⅱ層下部にて検出した。

【重複】 202号住を切って重複しており、202号住→202号土坑の順で構築されている。

【平面形・規模】 平面形は円形、規模は開口部が1.42×1.22m、底部が0.98×0.86mで深さは61cmである。

【覆土・堆積状況】 黄褐色土粒（地山粒）を多く含む暗褐色土によって埋め戻されている。

【壁】 壁の立ち上がりは急である。

【出土遺物】 出土していない。

203号土坑（第84図、写真図版81）

【位置・検出状況】 LIII c7 グリッドに位置する。II層下部にて検出した。

【重複】 201号住を切って重複しており、201号住→203号土坑の順で構築されている。

【平面形・規模】 平面形は円形、規模は開口部が1.74×1.52m、底部が1.32×1.13mで深さは53cmである。

【覆土・堆積状況】 黄褐色土粒（地山粒）を含む暗褐色土である2層で埋め戻され、その上に1層が堆積した。

【壁】 壁の立ち上がりは急である。

【出土遺物】 出土していない。

204号土坑（第84図、写真図版81）

【位置・検出状況】 LIII c5 グリッドに位置する。II層下部にて検出した。

【重複】 201号住を切って重複しており、201号住→204号土坑の順で構築された。

【平面形・規模】 平面形は円形、規模は開口部が1.53×1.16m、底部が0.88×0.75mで深さは51cmである。

【覆土・堆積状況】 下層は炭化物粒ならびに黄褐色土粒を含んだ暗褐色土によって埋め戻されている。

【壁】 壁の立ち上がりは急である。

【出土遺物】 出土していない。

205号土坑（第85図、写真図版81）

【位置・検出状況】 LIII b5 グリッドほかに位置する。205号住床面付近にて検出した。

【重複】 205号住と重複している。検出状況ならびに土層断面観察から、205号土坑→205号住の順に構築されたものと判断した。

【平面形・規模】 平面形は楕円形をなす。規模は開口部が1.6×1.52m、底部が1.42×0.62mで深さは1.08cmである。底面中央付近に小穴を持つ。深さは20cmである。

【覆土・堆積状況】 最下層に黒褐色土が薄く堆積しその上に極暗褐色～褐色土が堆積している。4層は黄褐色土粒（地山粒）の混入具合から人為的に埋め戻されている可能性がある。

【壁】 壁の立ち上がりは急で、底面付近ではややオーバーハンクしている。

【出土遺物】 No747の土器が出土している。（第37・123図、写真図版194）

206号土坑（第85図、写真図版82）

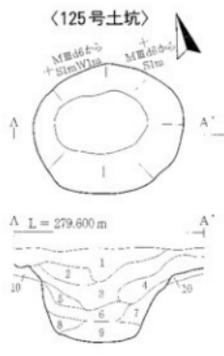
【位置・検出状況】 LIII c4 グリッドに位置する。201号住床面付近にて検出した。

【重複】 201号住と重複している。土層断面の状況から201号住→206号土坑の順に構築されたものと判断した。

【平面形・規模】 平面形は楕円形基調であるが不整である。規模は開口部が1.02×0.72m、底部が0.71×(0.34)mで深さは23cmである。東西の壁際に小穴を確認することができ、201号住の柱穴痕跡の可能性も考えられる。

【覆土・堆積状況】 黄褐色土層の上に黒色～黒褐色土が堆積している。自然堆積である。

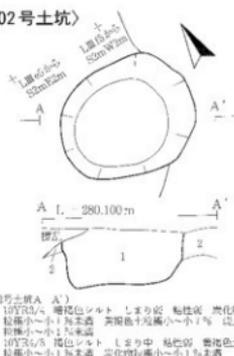
<125号土坑>



(205号土坑A-A')

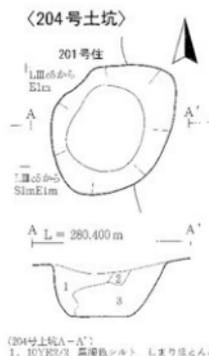
1. 10YR3/3 暗褐色シルト L.まのり中 粘土はとんの層 炭化物粒極小・毎本層 炭化土上粒極小〜小1%未満
2. 10YR2/2 褐色シルト L.まのり中 粘土質 炭化土上粒極小1%未満
3. 10YR3/4 暗褐色シルト L.まのり中 粘土質 炭化物粒極小〜小1%未満
4. 10YR2/1 暗褐色シルト L.まのり中 粘土質 炭化土上粒極小1% (3層より中層に色)
5. 10YR3/2 暗褐色シルト L.まのり中 粘土質 炭化物粒極小1%未満 炭化土上粒極小1%未満
6. 10YR3/3 暗褐色シルト L.まのり中 粘土質 炭化物粒極小5% 炭化物粒小2%
7. 10YR3/4 暗褐色シルト L.まのり中 粘土質 炭化物粒極小〜小1%未満
8. 10YR3/2 暗褐色シルト L.まのり中 粘土質 (粘土よりやや明るい色)
9. 10YR3/2 暗褐色シルト L.まのり中 粘土質 炭化物粒小1%未満 炭化物粒小1%未満
10. 10YR3/2 暗褐色シルト L.まのり中 粘土質 上面に炭化物粒小1% 炭化土上粒小1%未満を含む

<202号土坑>



- (202号土坑A-A')
1. 10YR3/4 暗褐色シルト L.まのり中 粘土質 炭化物粒極小〜小1%未満 炭化土上粒極小〜小1%未満
 2. 10YR3/4 暗褐色シルト L.まのり中 粘土質 炭化物粒極小〜小1%未満

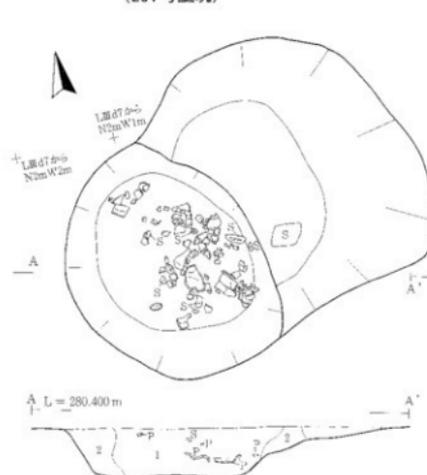
<204号土坑>



(204号土坑A-A')

1. 10YR3/3 暗褐色シルト L.まのり中と粘土質はとんの層 炭化物粒極小〜小1% 炭化土上粒極小〜小1% (厚層に粘土)
2. 7.5YR3/4 暗褐色シルト L.まのり中 粘土質 炭化物粒極小〜小1% 炭化土上粒極小〜小1%
3. 7.5YR3/3 暗褐色シルト L.まのり中 粘土質 炭化物粒極小〜小1% 炭化土上粒極小〜小1%

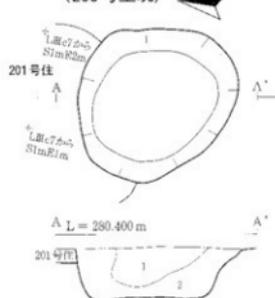
<201号土坑>



(201号土坑A-A')

1. 10YR3/1 炭褐色シルト L.まのり中 粘土質 炭化物粒極小〜小3%
2. 10YR3/2 炭褐色シルト L.まのり中 粘土質 炭化物粒極小〜小5%

<203号土坑>



(203号土坑A-A')

1. 10YR3/2 暗褐色シルト L.まのり中 粘土質はとんの層 炭化物粒極小〜小3% 炭化土上粒極小〜小3%
2. 10YR3/4 暗褐色シルト L.まのり中 粘土質 炭化物粒極小〜小1〜3% 炭化土上粒極小5%



【壁】 壁の立ち上がりは急である。

【出土遺物】 出土していない。

207号土坑（第85図、写真図版82）

【位置・検出状況】 LⅢ c4 グリッドに位置する。調査区を横断していた町道を剥ぎ取ったところ（Ⅱ層下部）で検出した。

【重複】 208号住を切って重複している。従って208号住→207号土坑の順で構築された。

【平面形・規模】 平面形は円形、規模は開口部が1.6×1.52m、底部が1.44×1.26mで深さは72cmである。

【覆土・堆積状況】 最上層の1層以外は黄褐色土（地山）の粒やブロックを含んだ土によって人為的に埋め戻されている。

【壁】 壁の立ち上がりは急で、ほぼ垂直である。

【出土遺物】 No748の土器が出土している。（第37・123図、写真図版194）

208号土坑（第85図、写真図版82）

【位置・検出状況】 LⅢ c4 グリッドほかに位置する。調査区を横断していた町道を剥ぎ取ったところ（Ⅱ層下部）で検出した。

【重複】 208号住を切って重複している。従って208号住→208号土坑の順で構築された。

【平面形・規模】 平面形は円形、規模は開口部が1.6×1.32m、底部が1.45×1.13mで深さは51cmである。

【覆土・堆積状況】 黄褐色土（地山）粒ないしはブロックを含む土により人為的に埋め戻されている。

【壁】 壁の立ち上がりは急である。

【出土遺物】 No749の土器、No436の剥片石器が出土している。（第37・123・219図、写真図版194・245）

209号土坑（第85図、写真図版82）

【位置・検出状況】 LⅢ d3 グリッドほかに位置する。調査区を横断していた町道を剥ぎ取ったところ（Ⅱ層下部）で検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形はやや不整な円形をなす。規模は開口部が1.66×1.46m、底部が1.32×1.1mで深さは18cmである。

【覆土・堆積状況】 確認することのできた覆土は、炭化物ならびに黄褐色土粒を含んだ単層である。自然堆積と判断した。

【壁】 壁の立ち上がりは緩やかである。

【出土遺物】 No750～754の土器が出土している。（第37・38・123図、写真図版194・195）

210号土坑（第86図、写真図版83）

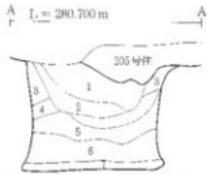
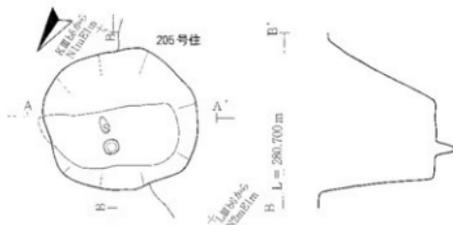
【位置・検出状況】 LⅢ d3 グリッドに位置する。調査区を横断していた町道を剥ぎ取ったところ（Ⅱ層下部）で検出した。

【重複】 218号土坑を切って重複しており、218号土坑→210号土坑の順に構築された。

【平面形・規模】 平面形は楕円形基調であるが不整である。規模は開口部が2.48×1.64m、底部が1.98×1.29mで深さは19cmである。

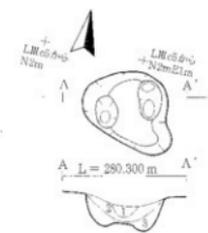
【覆土・堆積状況】 覆土は炭化物ならびに黄褐色土粒を含んでいる。自然堆積と判断した。

〈205号土坑〉



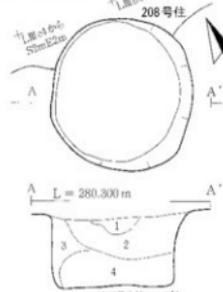
- (205号土坑A-A')
- 7.5YR2/1 黄褐色シルト しまり弱 粘粒中 炭酸土粒極小1%未満
 - 7.5YR2/3 黄褐色シルト しまり弱 粘粒中 炭酸土粒極小1%未満
 - 10YR2/3 黄褐色シルト しまり弱 粘粒中
 - 10YR2/2 黄褐色シルト しまり弱 粘粒中 炭酸土粒極小1%未満
 - 7.5YR2/3 黄褐色シルト しまり弱 粘粒中
 - 7.5YR4/4 灰色シルト しまり弱 粘粒中
 - 10YR2/1 黄褐色シルト しまり弱 粘粒中

〈206号土坑〉



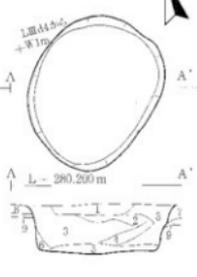
- (206号土坑A-A')
- 10YR2/1 黄褐色シルト しまり弱 粘粒中とんど質
 - 10YR2/2 黄褐色シルト しまり弱 粘粒中 炭酸土粒極小1%
 - 10YR2/3 黄褐色粘土質シルト しまり弱 粘粒中 (粘土より多し)

〈207号土坑〉

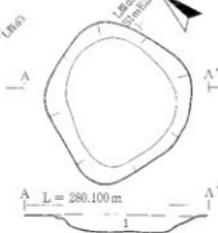


- (207号土坑A-A')
- 7.5YR2/1 黄褐色シルト しまり弱とんど質 粘粒中 炭酸土粒極小3%
 - 7.5YR2/2 黄褐色シルト しまり弱とんど質 粘粒中 炭酸土粒極小1%未満
 - 10YR2/3 黄褐色シルト しまり弱 粘粒中 炭酸土粒極小1%未満
 - 10YR2/2 黄褐色シルト しまり弱 粘粒中 炭酸土粒極小1%未満

〈208号土坑〉



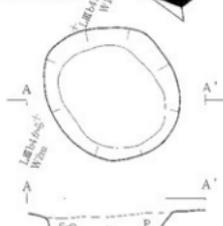
〈209号土坑〉



- (209号土坑A-A')
- 7.5YR2/2 黄褐色シルト しまり弱 粘粒中-中 炭酸土粒極小1%
 - 黄褐色粘土質シルト 炭酸土粒極小3%

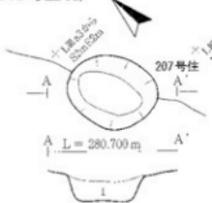
- (209号土坑A-A')
- 7.5YR2/1 黄褐色シルト しまり弱 粘粒中 炭酸土粒極小1%未満 黄褐色粘土質シルト 炭酸土粒極小1%未満
 - 7.5YR2/2 黄褐色シルト しまり弱-中 粘粒中 炭酸土粒極小1%未満 炭酸土粒極小1%未満 炭酸土粒極小1%未満
 - 7.5YR2/3 黄褐色シルト しまり弱-中 粘粒中 炭酸土粒極小1%未満
 - 7.5YR2/4 黄褐色シルト しまり弱 粘粒中 炭酸土粒極小1%未満
 - 10YR2/3 黄褐色シルト しまり弱 粘粒中 炭酸土粒極小1%未満
 - 10YR2/2 黄褐色シルト しまり弱-中 粘粒中 炭酸土粒極小1%未満
 - 10YR2/1 黄褐色シルト しまり弱 粘粒中 炭酸土粒極小1%未満
 - 10YR2/2 黄褐色シルト しまり弱 粘粒中 炭酸土粒極小1%未満
 - 10YR2/3 黄褐色シルト しまり弱 粘粒中 炭酸土粒極小1%未満

〈211号土坑〉



- (211号土坑A-A')
- 10YR2/1 黄褐色シルト しまり弱 粘粒中 炭酸土粒極小1%未満

〈212号土坑〉



- (212号土坑A-A')
- 10YR2/3 黄褐色シルト しまり弱 粘粒中 炭酸土粒極小1%未満

第85図 205～209・211・212号土坑

【壁】 壁の立ち上がりは緩やかである。

【出土遺物】 210・218号土坑一括としてNo.437の剥片石器が出土している。(第38・219図、写真版245)

211号土坑 (第85図、写真版83)

【位置・検出状況】 LⅢ a4 グリッドほかに位置する。Ⅱ層下部にて検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は円形、規模は開口部が1.48×1.32m、底部が1.17×0.95mで深さは33cmである。

【覆土・堆積状況】 炭化物粒を含んだ暗褐色土が堆積している。自然堆積と判断した。

【壁】 壁の立ち上がりは急である。

【出土遺物】 出土していない。

212号土坑 (第85図、写真版83)

【位置・検出状況】 LⅢ a3 グリッドに位置する。Ⅱ層下部にて検出した。

【重複】 207号住と重複している。新旧関係については把握することができなかった。

【平面形・規模】 平面形は楕円形、規模は開口部が0.92×0.75m、底部が0.68×0.37mで深さは27cmである。

【覆土・堆積状況】 炭化物粒ならびに黄褐色土粒を含む黒褐色土が堆積している。

【壁】 壁の立ち上がりは急である。

【出土遺物】 土器が出土するが小片のため掲載していない。

213号土坑 (第86図、写真版83)

【位置・検出状況】 LⅢ d3 グリッドに位置する。203号住床面にて検出した。住居のみという判断で掘り進めたところ、その下に土坑が存在することが判明し、さらに土坑は複数存在するという結果となった。

【重複】 203号住ならびに219・220号土坑と重複している。検出状況等から、219・220号土坑ならびに213号土坑よりも203号住が新しい。断面観察から220号土坑→213号土坑の順に構築されたものと判断したが、219号土坑との新旧関係については、平面ならびに断面等を慎重に観察したつもりであるが、確認できなかった。

【平面形・規模】 平面形はやや不整な円形をなすものと推定される。規模は開口部が2.72×2.50m、底部が1.71×1.65mで深さは38cmである。

【覆土・堆積状況】 黒褐色土を主体として堆積している。

【壁】 壁の立ち上がりは緩やかである。

【出土遺物】 No.175～178の土製品が出土している。213・219・220号土坑一括としてNo.755～772の土器、No.438～441の剥片石器・石製品、No.213の礫石器が出土している。(第38・124・125・184・219・220・274図、写真版195・196・228・245・275)

214号土坑 (第86図、写真版84)

【位置・検出状況】 LⅢ a4 グリッドに位置する。206号住床面付近にて検出した。

【重複】 206号住と重複している。検出状況ならびに断面観察から214号土坑→206号住の順で構築されたものと判断した。

【平面形・規模】 平面形は円形、規模は開口部が1.04×1.04m、底部が0.74×0.56mで深さは18cmである。

【覆土・堆積状況】 2層は炭化物粒ならびに粘土粒が混入する明褐色土で、人為的に埋め戻されている。

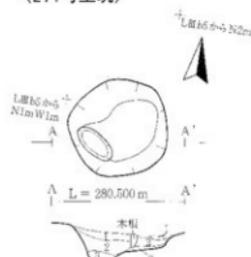
〈210・218号土坑〉



〈210・218号土坑A-A'〉

1. 10YR2/2 黒褐色シルト しまり部~中 粘粒質 炭化物粒極小1%未満 黄褐色土粒極小1%
2. 10YR4/6 褐色粘土質シルト しまり部 粘粒中

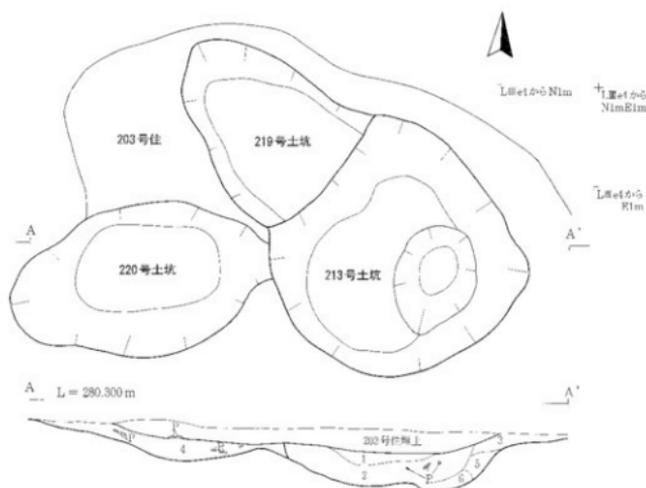
〈214号土坑〉



〈214号土坑A-A'〉

1. 7.5YR2/3 暗褐色シルト しまり部~中 粘土質 炭化物粒極小1% 炭1粒極小1%未満
2. 7.5YR5/6 暗褐色シルト しまり部~中 粘土質 炭化物粒極小1%未満 黄褐色土粒極小1%未満 黄土粒極小1%未満
3. 10YR5/6 黄褐色粘土質シルト しまり部~中 炭化物粒極小1%未満

〈213・219・220号土坑〉



〈213・219・220号土坑A-A'〉

1. 7.5YR2/2 暗褐色シルト しまり部 粘粒質 炭化物粒極小1%未満
2. 7.5YR2/2 暗褐色シルト しまり部 粘粒質 炭化物粒極小1% 黄褐色土粒極小1%
3. 7.5YR2/2 暗褐色シルト しまり部 粘粒質 黄褐色土粒極小1% 炭化物粒極小1%
4. 10Y4/3 暗褐色シルト しまり部 粘粒質~中 炭化物粒極小1% 炭燻色土粒極小1%
5. 10YR2/2 暗褐色シルト しまり部 粘粒質 炭燻色土粒極小1% 炭化物粒極小1%
6. 10YR4/2 暗褐色シルト しまり部 粘粒質 炭化物粒極小1%未満



第86図 210・213・214・218~220号土坑

[壁] 壁の立ち上がりは比較的急である。

[出土遺物] 出土していない。

215号土坑 (第87図、写真図版84)

[位置・検出状況] I. III a 5 グリッドに位置する。206号住床面付近で検出した。

[重複] 206号住と重複している。206号住の覆土を検出した状態で、215号土坑を検出したことから206号住→215号土坑の順で構築されたものと判断した。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形をなす。規模は開口部が1.16×0.77m、底部が0.91×0.4mで深さは38cmである。

[覆土・堆積状況] 断面記録を欠くが、調査時には黄褐色土粒を多量に含んだ土によって人為的に埋め戻されていたことを確認している。

[壁] 壁の立ち上がりは急である。

[出土遺物] 出土していない。

216号土坑 (第87図、写真図版84)

[位置・検出状況] K III j 2 グリッドほかに位置する。調査区を横断する町道を剥ぎ取ったところ (II層下部) で検出した。

[重複] 101号住と重複している。断面観察から101号住を切っていると判断した。

[平面形・規模] 平面形は円形、規模は開口部が2.5×2.38m、底部が1.52×1.04mで深さは77cmである。

[覆土・堆積状況] おもに黄褐色土ブロックならびに炭化物粒を含んだ褐色土が堆積している。東側の壁付近は木根により攪乱を受けている可能性が考えられる。

[壁] 壁の立ち上がりは緩やかである。

[出土遺物] 出土していない。

217号土坑 (第87図、写真図版84)

[位置・検出状況] L III d 5 グリッドほかに位置する。II層下部にて検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整形、規模は開口部が2.9×2.16mで、底部が1.14×0.86m深さは35cmである。

[覆土・堆積状況] 明黄褐色～黄褐色土の上に炭化物を含んだ黒褐色～暗褐色土が堆積している。不規則な堆積の仕方であるため、人為的埋め戻しもしくは風倒木痕などの攪乱の可能性が考えられる。

[壁] 壁の立ち上がりは緩やかである。

[出土遺物] 出土していない。

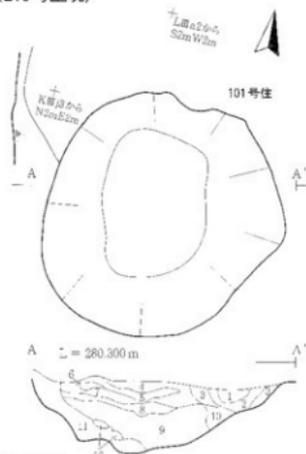
218号土坑 (第86図、写真図版83)

[位置・検出状況] L III d 3 グリッドほかに位置する。調査区を横断する町道を剥ぎ取ったところ (II層下部) にて検出した。

[重複] 210号土坑と重複している。検出状況ならびに断面観察から218号土坑→210号土坑の順で構築されたものと判断した。

[平面形・規模] 平面形は楕円形基調であるが不整である。規模は開口部が2.66×1.64m、底部が2.36×1.32mで深さは22cmである。

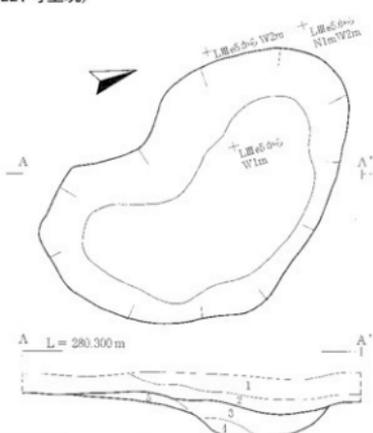
<216号土坑>



<216号土坑(A-A')>

1. 7SYR2/2 赤褐色シルト しまり中 粘粒多
2. 7SYR4/3 褐色シルト しまり中 粘粒多
3. 10YR5/6 黄褐色粘土質シルト しまり中 粘%中 炭化物粒小1%未満
4. 10YR5/6 黄褐色粘土質シルト しまり中 粘%中 炭化物粒小1%未満 炭化物上ブロック小3%
5. 10YR4/6 褐色シルト しまり中 粘粒中 (7層より明るい色)
6. 10YR5/6 黄褐色粘土質シルト
7. 10YR4/6 褐色シルト しまり中 粘粒中
8. 10YR4/6 褐色シルト しまり中 粘粒中 炭化物粒小1-3%
9. 10YR4/6 褐色シルト しまり中 粘粒中 (6層よりやや明るい色)
10. 10YR4/6 褐色シルト しまり中 粘粒中 炭化物粒小1% 黒1粒1+所見
11. 10YR2/3 黄褐色シルト 1.3層中 粘粒多 炭化物ブロック小1%
12. 10YR6/8 黒土ブロック

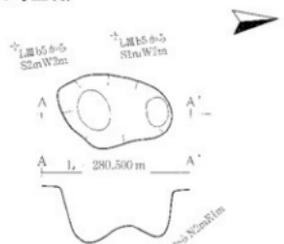
<217号土坑>



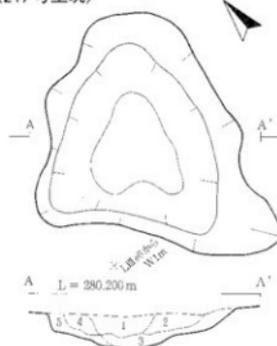
<217号土坑(A-A')>

1. 7SYR2/1 褐色シルト しまり中 粘粒多
2. 10YR4/6 黄褐色シルト しまり中 粘粒中
3. 10YR2/3 黄褐色シルト しまり中 粘粒中
4. 10YR6/6 黒い炭化物粒1層シルト しまり中 粘粒中
5. 10YR7/6 黄褐色粘土質シルト しまり中 粘粒中

<215号土坑>



<217号土坑>



<217号土坑(A-A')>

1. 10YR2/2 赤褐色シルト しまり中 粘粒中 炭化物小1%
2. 10YR2/3 暗褐色シルト しまり中 粘粒多 炭化物上ブロック小2% 炭化物上ブロック多量
3. 10YR5/8 黄褐色粘土質シルト しまり中 粘粒多
4. 10YR5/8 黄褐色粘土質シルト しまり中 粘粒多 (黒点?)
5. 10YR5/8 黄褐色粘土質シルト しまり中 粘粒多 (4層より明るい色) (黒点)



第87図 215~217・221号土坑

【覆土・堆積状況】炭化物ならびに黄褐色土粒を含んだ黒褐色土が堆積している。

【壁】壁の立ち上がりは緩やかである。

【出土遺物】210・218号土坑一括としてNa437の剥片石器が出土している。(第38・219図、写真図版245)

219号土坑 (第86図、写真図版83)

【位置・検出状況】L III d 3 グリッドほかに位置する。203号住床面に検出した。住居のみという判断で掘り進めたところ、その下に土坑が存在することが判明し、掘り上げたところ、さらに上坑は複数存在するという結果となった。従って、掘り進む段階で新たな事実に対応できるような修正を加えながら調査を行ったつもりではあるが、本遺構のように、断面図を記録できなかった土坑もある。

【重複】203号住ならびに213号土坑と重複している。検出状況等から、219号土坑ならびに213号土坑よりも203号住が新しいと判断した。213号土坑と219号土坑の新旧関係については、平面ならびに断面等を慎重に観察したつもりであるが、確認できなかった。

【平面形・規模】平面形は楕円形をなすものと推定される。規模は開口部が1.98×1.64m、底部が(1.58)×1.18mで深さは24cmである。

【覆土・堆積状況】断面記録を欠くため、根拠に乏しいが213号土坑とほぼ同様に黒褐色土を主体として堆積している。

【壁】壁の立ち上がりは緩やかである。

【出土遺物】213・219・220号土坑一括としてNa755～772の土器、Na438～441の剥片石器・石製品、Na213の礫石器が出土している。(第38・124・125・219・220・274図、写真図版195・196・245・275)

220号土坑 (第86図、写真図版83・84)

【位置・検出状況】L III d 4 グリッドに位置する。203号住床面に検出した。

【重複】203号住ならびに213号土坑と重複している。平面ならびに断面観察から220号土坑→213号土坑→203号住の順に構築されたものと判断した。

【平面形・規模】平面形は楕円形をなす。規模は開口部が(2.62)×1.56m、底部が1.48×0.92mで深さは38cmである。

【覆土・堆積状況】炭化物粒ならびに黄褐色土粒を含んだ暗褐色土が堆積している。混入物の状態など分層された土層を総合的に観察した結果、人為堆積であると判断した。

【壁】壁の立ち上がりは緩やかである。

【出土遺物】213・219・220号土坑一括としてNa755～772の土器、Na438～441の剥片石器・石製品、Na213の礫石器が出土している。(第38・124・125・219・220・274図、写真図版195・196・245・275)

221号土坑 (第87図)

【位置・検出状況】L III d 4 グリッドほかに位置する。203号住床面に検出した。

【重複】203号住と重複している。平面ならびに断面観察から221号土坑→203号住の順に構築されたものと判断した。

【平面形・規模】平面形は楕円形基調であるが不整である。規模は開口部が3.44×2.06m、底部が2.62×1.22mで深さは62cmである。

【覆土・堆積状況】暗褐色土ならびに黄褐色土を主体として堆積している。

【壁】壁の立ち上がりは比較的緩やかである。

【出土遺物】 出土していない。

301号土坑（第88図、写真図版85）

【位置・検出状況】 KIII e1 グリッドほかに位置し、301号焼土に隣接する。II層下部にて検出した。

【重複】 301号焼土と部分的に重複している。平面（検出状況）ならびに断面観察から301号土坑→301号焼土の順で構築されたものと判断した。

【平面形・規模】 平面形は楕円形をなす。規模は開口部が1.34×0.92m、底部が1.01×0.48mで深さは104cmである。

【覆土・堆積状況】 黄褐色土粒を含んだ黒色～黒褐色土が主体となって堆積している。断面観察から自然堆積と判断した。

【壁】 壁の立ち上がりは急である。

【その他】 遺構が住居域に存在することから、当初は住居にかかわる貯蔵穴と考え掘り進めたが、掘り上がりの平面形などからして、陥し穴の可能性も考えられる。

【出土遺物】 Na773の土器が出土している。（第38・125図、写真図版196）

302号土坑（第88図、写真図版85）

【位置・検出状況】 JIII i4 グリッドに位置する。II層下部にて検出した。305号住に隣接する。

【重複】 なし。隣接する305号住と重複している可能性が考えられるが、遺構を検出した時点ですでに判断できない状況であった。

【平面形・規模】 平面形は円形、規模は開口部が1.4×1.27m、底部が1.16×1.04mで深さは31cmである。

【覆土・堆積状況】 炭化物粒ならびに黄褐色土粒を含んだ褐色～黄褐色土が主体となり堆積している。断面観察から人為堆積と判断した。

【壁】 壁の立ち上がりは急である。

【出土遺物】 出土していない。

303号土坑（第88図、写真図版85）

【位置・検出状況】 KIII c1 グリッドほかに位置する。II層下部にて検出した。

【重複】 326号土坑と重複している。303号土坑→326号土坑の順に構築されたものと判断した。

【平面形・規模】 平面形は円形、規模は開口部が3.05×2.64m、底部が2.57×2.49mで深さは32cmである。

【覆土・堆積状況】 暗褐色土主体の土層が2層にわたって堆積している。下層には比較的大きめの黄褐色土ブロックが混入する。

【壁】 壁の立ち上がりは急である。

【出土遺物】 303・326号土坑一括としてNa774～776の土器、Na218の礫石器が出土している。（第38・126・274図、写真図版196・275）

304号土坑（第88図、写真図版85）

【位置・検出状況】 JIII h2 グリッドに位置する。II層下部にて検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は円形をなす。規模は開口部が1.7×1.65m、底部が1.28×1.2mで深さは89cmである。底面中央付近に小穴を持つ。深さは58cmである。

【覆土・堆積状況】 覆土は黒褐色土主体である。断面観察から自然堆積と判断した。

【壁】 壁の立ち上がりは急で、全体の3分の2ほどはオーバーハンクしている。

【出土遺物】 №442剥片石器、№214の礫石器が出土している。(第38・220・274図、写真図版245・275)

305号土坑 (第89図、写真図版86)

【位置・検出状況】 J III g 2 グリッドに位置する。当初、単独の遺構との判断で掘り進めたが、南側部分が掘り下がり、結果として別遺構(307号土坑)と重複していることが判明した。

【重複】 307号土坑と重複している。検出状況では305号土坑しか確認することができなかったため、307号土坑→305号土坑の順に構築されたものと判断した。

【平面形・規模】 平面形は楕円形基調であるが不整である。規模は開口部が2.78×2.22m、底部が2.28×1.78mで深さは38cmである。

【覆土・堆積状況】 黄褐色土ブロックを含む黒褐色土が堆積している。断面観察から自然堆積と判断した。

【壁】 壁の立ち上がりは比較的緩やかである。

【出土遺物】 №777～779の土器が出土している。(第38・126図、写真図版196)

306号土坑 (第89図、写真図版86)

【位置・検出状況】 J III f 2 グリッドほかに位置する。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は楕円形をなす。規模は開口部が1.82×1.16m、底部が0.82×0.46mで深さは100cmである。底面中央付近に小穴が確認される。小穴の深さは27cmである。

【覆土・堆積状況】 黄褐色土粒を含む褐色～黒褐色土が堆積している。断面観察から自然堆積と判断した。

【壁】 壁の立ち上がりは急である。

【その他】 遺構が住居域に存在することから、当初は貯蔵穴の可能性を考えて掘り進めたが、掘り上がりの平面形から判断して陥し穴の可能性が高い。

【出土遺物】 出土していない。

307号土坑 (第89図、写真図版86)

【位置・検出状況】 J III g 2 グリッドに位置する。当初は305号土坑の一部として精査を進めたが、途中からこの部分だけさらに掘り下がるのが判明し、掘り進めたところ結果として別遺構となった。

【重複】 305号土坑と重複している。検出状況では305号土坑しか確認することができなかったため、307号土坑→305号土坑の順に構築されたものと判断した。

【平面形・規模】 平面形は不整な円形をなす。規模は開口部が1.5×1.39m、底部が1.13×0.94mで深さは94cmである。底面中央付近に小穴がある。小穴の深さは50cmである。

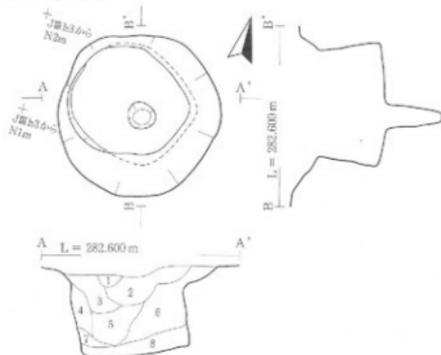
【覆土・堆積状況】 断面記録を欠くため不明である。

【壁】 壁の立ち上がりは急である

【その他】 遺構が住居域に存在することから、当初は貯蔵穴の可能性を考えて掘り進めたが、掘り上がりの平面形から判断して陥し穴の可能性が高い。

【出土遺物】 出土していない。

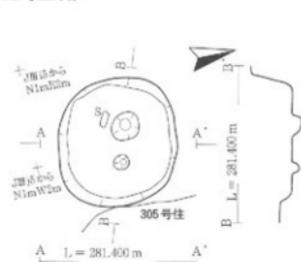
〈304号土坑〉



304号土坑A-A'

1. 10YR6/3 黄褐色シルト しまり強 粘性弱 10YR2/4暗褐色シルトがブロック状に混入
炭化物粒小1%未満
2. 10YR2/3 暗褐色シルト しまり強 粘性弱 黄褐色土粒粒小〜小1% 炭化物粒小〜小1%
3. 10YR2/3 暗褐色シルト しまり中 粘性中 黄褐色土粒粒小〜小1%がブロック状に混入
炭褐色土粒粒小〜小1% 炭化物粒小〜小1%未満
4. 10YR4/6 褐色シルト しまり弱 粘性強 10YR2/3暗褐色土粒粒小〜小1%が混入
炭化物粒小〜小1%未満
5. 10YR2/3 暗褐色シルト しまり強 粘性中 10YR5/8黄褐色シルトが薄層に混入 黄褐色土粒
粒小〜小1% 炭化物粒小〜小2%
6. 10YR5/8黄褐色シルトと10YR5/8黄褐色粘土質シルトの混合土 しまり強 粘性中〜強
炭化物粒小1%未満
7. 10YR4/6 褐色シルト しまり弱 粘性強 10YR2/3暗褐色シルトがブロック状に散在混入
8. 10YR5/2 黄褐色シルト しまり強 粘性強 10YR5/8黄褐色粘土質シルトがブロック状に2〜
3層混入 炭化物粒小2%

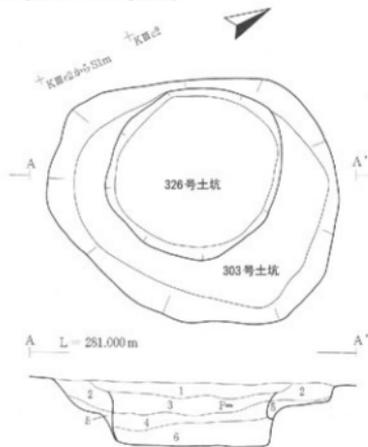
〈302号土坑〉



302号土坑A-A'

1. 10YR2/3 暗褐色シルト しまり弱 粘性弱 炭化物粒小1%未満 黄褐色土粒粒小1%未満
2. 10YR4/4 褐色シルト しまり弱〜中 粘性弱 炭化物粒
小1%未満 黄褐色土粒粒小1〜2%
3. 10YR4/6 褐色シルト しまり中 粘性中 炭化物
粒小1%未満 黄褐色土粒粒小〜小1%未満
4. 10YR4/3 に近い黄褐色シルト しまり中 粘性弱 炭化物
粒小1%未満 黄褐色土粒粒小1%未満
5. 10YR2/3 暗褐色シルト しまり中 粘性中 炭化物粒小1
%未満
6. 10YR4/6 褐色シルト しまり中 粘性中

〈303号土坑・326号土坑〉



303・326号土坑A-A'

1. 10YR2/2 黒褐色シルト しまり弱 粘性弱 炭化物粒小〜小1%
2. 10YR2/3 暗褐色シルト しまり弱〜中 粘性弱
3. 10YR2/3 暗褐色シルト しまり弱〜中 粘性弱 炭化物粒小〜小1%
4. 10YR2/3 暗褐色シルト しまり中 粘性弱 炭化物粒小1%未満
5. 10YR2/3 暗褐色シルト しまり弱 粘性弱 黄褐色土粒粒小〜小1%未満
6. 10YR2/3 暗褐色シルト しまり弱 粘性弱 黄褐色土粒粒小〜小1%未満
炭化物粒小1〜3% (炭内混し?)

〈301号土坑〉



301号土坑A-A'

1. 10YR2/3 暗褐色シルト しまり中 粘性弱 炭化物粒小1%未満 黄褐
色土粒粒小1%未満
2. 10YR4/4 褐色シルト しまり中 粘性弱 炭化物粒小1%未満 黄褐
色土粒粒小1%未満 炭土粒小1%未満
3. 7.5YR2/8 暗褐色シルト しまり弱 粘性強 汚れた地
4. 7.5YR2/1 黒色シルト しまり弱 粘性弱 黄褐色土粒粒小1〜3%
5. 10YR2/3 暗褐色シルト しまり弱 粘性弱 黄褐色土粒粒小〜小1〜3%
炭土粒小
6. 10YR4/4 褐色シルト しまり中 粘性中
7. 10YR2/3 暗褐色シルト しまり中 粘性中 黄褐色土粒粒小1%未満
8. 10YR2/3 暗褐色シルト しまり弱 粘性弱 黄褐色土粒粒小1%
9. 10YR4/4 褐色シルト しまり中 粘性中
10. 10YR4/6 褐色シルト しまり中 粘性中
11. 10YR2/2 黒褐色シルト しまり弱 粘性弱 黄褐色土粒粒小1%
12. 7.5YR2/1 黒色シルト しまり弱 粘性弱 黄褐色土粒粒小1%

0 1 2m

308号土坑（第89図、写真図版86）

【位置・検出状況】 GⅢ g 8 グリッドはかに位置する。Ⅱ層下部にて検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は楕円形、規模は開口部が2.38×1.68m、底部が2.04×1.33mで深さは25cmである。

【覆土・堆積状況】 黄褐色上粒を比較的多く含む黒褐色土が堆積している。断面観察から人為堆積の可能性が考えられる。

【壁】 壁の立ち上がりは比較的急である。

【出土遺物】 出土していない。

309号土坑（第89図、写真図版86）

【位置・検出状況】 FⅢ h 8 グリッドに位置する。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は楕円形、規模は開口部が1.08×0.70m、底部が0.38×0.36mで深さは33cmである。

【覆土・堆積状況】 黄褐色上粒を含んだ黒褐色土の上に暗褐色土が堆積している。覆土上部にやや大きめの礫が含まれている。断面観察から自然堆積と判断した。

【壁】 壁の立ち上がりは比較的急である。

【出土遺物】 出土していない。

310号土坑（第90図、写真図版87）

【位置・検出状況】 KⅢ h 3 グリッドに位置する。302号住床面付近にて検出した。

【重複】 302号住と重複している。新旧関係については、断面観察ならびに検出状況から310号土坑→302号住の順に構築されたものと判断した。

【平面形・規模】 平面形は楕円形、規模は開口部が1.86×1.22m、底部が1.27×0.73mで深さは34cmである。

【覆土・堆積状況】 炭化物粒ならびに地山ブロックを含んだ褐色土が下層に堆積し、その上に黒褐色土が薄く堆積している。断面図2層は人為堆積と判断した。

【壁】 壁の立ち上がりは比較的緩やかである。

【出土遺物】 Na215・216の礫石器が出土している。（第38・274図、写真図版・275）

311号土坑（第90図、写真図版87）

【位置・検出状況】 KⅢ f 3 グリッドに位置する。301号住床面付近にて検出した。

【重複】 301号住と重複している。311号土坑→301号住の順に構築されたものと判断した。

【平面形・規模】 平面形は円形、規模は開口部が1.8×1.59m、底部が1.11×0.84mで深さは32cmである。

【覆土・堆積状況】 炭化物粒を含む黄褐色土によって埋め戻されており、その上に301号住の炉に関連すると思われる焼土粒を含んだ黒褐色土ならびに褐色土が堆積している。

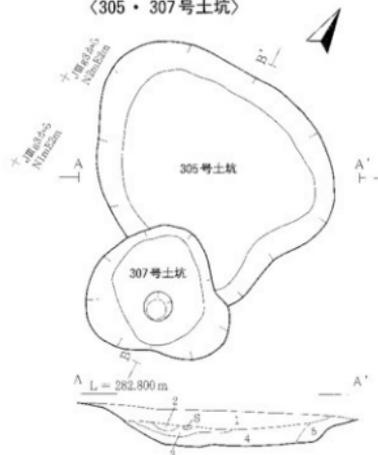
【壁】 壁の立ち上がりは全体として緩やかである。

【出土遺物】 Na443の剥片石器が出土している。（第39・220図、写真図版・215）

312号土坑（第90図、写真図版87）

【位置・検出状況】 KⅢ d 1 グリッドはかに位置する。327号土坑をⅡ層下部にて検出し、単独の遺構であるとの判断で掘り進めたが、断面観察ならびに掘り上がりの状況から、土坑の重複とした。

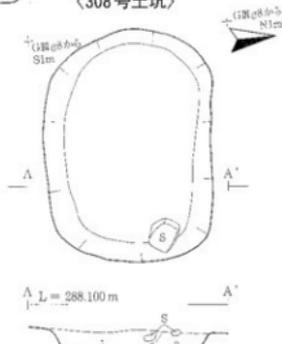
〈305・307号土坑〉



〈305・307号土坑A-A'〉

1. 10YR2/2 黄褐色シロト しまり中 粘性强 黄褐色土ブロック間隙 黄褐色土粒小〜小3% 粘土が塊状に混入 炭化物粒小1〜2%
2. 10YR2/2 黄褐色シロト しまり中 粘性强 黄褐色土ブロック間隙 黄褐色土粒小1〜2%
3. 10YR2/2 黄褐色シロト しまり中 粘性强 黄褐色土ブロック間隙 黄褐色土粒小1〜2%
4. 10YR2/2 黄褐色シロト しまり中 粘性强 黄褐色土ブロック間隙 黄褐色土粒小1〜2%
5. 10YR2/2 黄褐色シロト しまり中 粘性强 黄褐色土ブロック間隙 黄褐色土粒小1〜2%

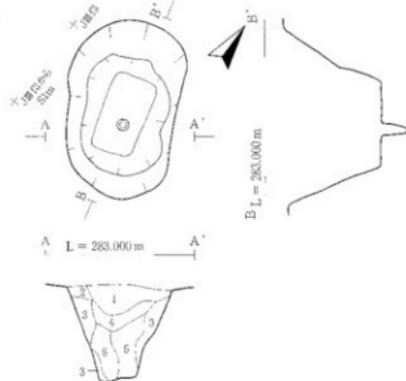
〈308号土坑〉



〈308号土坑A-A'〉

1. 10YR2/2 黄褐色シロト しまり中 粘性强 黄褐色土粒小〜小7%
2. 10YR2/2 黄褐色シロト しまり中 粘性强 黄褐色土粒小〜小10%

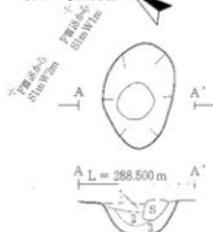
〈306号土坑〉



〈306号土坑A-A'〉

1. 7.5YR2/1 黄褐色シロト しまり弱 粘性强 黄褐色土粒小〜5%
2. 10YR4/4 黄褐色シロト しまり弱 粘性强 黄褐色土粒小3%
3. 10YR4/6 黄褐色シロト しまり弱 粘性强 黄褐色土粒小4%
4. 10YR2/2 黄褐色シロト しまり弱 粘性强 黄褐色土粒小〜小3%
5. 10YR2/2 黄褐色シロト しまり弱 粘性强 黄褐色土粒小〜小3%
6. 10YR4/4 黄褐色シロト しまり弱 粘性强 黄褐色土粒小〜5%未満

〈309号土坑〉



〈309号土坑A-A'〉

1. 10YR5/4 黄褐色シロト しまり弱 粘性强
2. 10YR2/2 黄褐色シロト しまり弱 粘性强
3. 10YR2/2 黄褐色シロト しまり弱 粘性强

0 1 2m

【重複】 327号土坑と重複している。断面観察から312号土坑→327号土坑の順で構築されたものと判断した。

【平面形・規模】 平面形は楕円形をなす。規模は開口部が1.3×1.06m、底部が1.08×0.84mで深さは91cmである。底面中央付近に小穴を持つ。深さは29cmである。

【覆土・堆積状況】 最下層に炭化物粒ならびに黒褐色土を含んだ黄褐色上層があり、その上に褐色～黒褐色土が堆積している。最下層の8層は人為堆積と判断した。

【壁】 壁の立ち上がりは急である。

【その他】 遺構が住居域に存在することから、当初は貯蔵穴の可能性を考えて掘り進めたが、掘り上がりの平面形から判断して陥し穴の可能性が高い。

【出土遺物】 312・327号土坑一括としてNa.780・781の土器、Na.444の石製品、Na.219の藤石器が出土している。(第39・126・220・274図、写真図版196・245・275)

313号土坑 (第90図、写真図版87)

【位置・検出状況】 KⅢ e3 グリッドに位置する。303号住床面付近にて検出した。

【重複】 303号住、485号土坑と重複する。検出状況ならびに断面観察から313号土坑→303号住、313号土坑→485号土坑の順に構築されたものと判断した。

【平面形・規模】 平面形は隅丸方形をなす。規模は開口部が1.34×1.02m、底部が1.3×0.84mで深さは59cmである。底面中央付近に小穴を2つ持つ。深さは60cmと21cmである。

【覆土・堆積状況】 壁の崩落に伴うと考えられる7・8層の上に、黒褐色土から暗褐色土が堆積している。

【壁】 壁の立ち上がりは急である。

【その他】 遺構が住居域に存在することから、当初は貯蔵穴の可能性を考えて掘り進めたが、掘り上がりの平面形から判断して陥し穴の可能性が高い。

【出土遺物】 出土していない。

314号土坑 (第91図、写真図版88)

【位置・検出状況】 FⅢ g8 グリッドに位置する。Ⅱ層下部にて検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は円形をなす。規模は開口部が1.3×1.08m、底部が0.98×0.79mで深さは113cmである。底面中央付近に小穴を持つ。深さは49cmである。

【覆土・堆積状況】 壁の崩落に伴うと思われる6層の上に、黄褐色土粒を含んだ黒褐色土が堆積している。自然堆積と判断した。底面に近い覆土下部から炭化材が出土している。

【壁】 壁の立ち上がりは急である。

【その他】 遺構が住居域に存在することから、当初は貯蔵穴の可能性を考えて掘り進めたが、掘り上がりの平面形から判断して陥し穴の可能性が高い。

【出土遺物】 出土していない。

315号土坑 (第91図、写真図版88)

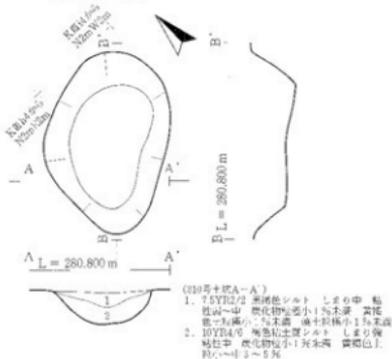
【位置・検出状況】 EⅢg10グリッドほか位置する。Ⅱ層下部にて検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は円形をなす。規模は開口部が2×1.7m、底部が1.44×1.3mで深さは90cmである。

【覆土・堆積状況】 壁の崩落に伴うと思われる7・8層の上層に黒褐色土を主体とする層が堆積する。自然

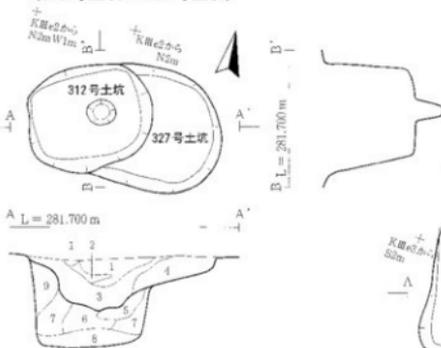
〈310号土坑〉



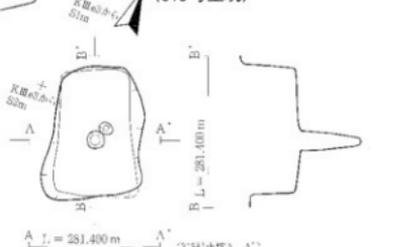
〈311号土坑〉



〈312号土坑・327号土坑〉



〈313号土坑〉



堆積と判断した。

【壁】 壁の立ち上がりは急である。

【出土遺物】 出土していない。

316号土坑 (第91図、写真図版88)

【位置・検出状況】 KIII b4 グリッドほかに位置する。305号住床面付近にて検出した。

【重複】 305号住と重複する。新旧関係については、検出状況ならびに断面観察から316号土坑→305号住の順に構築されたものと判断した。

【平面形・規模】 平面形は円形、規模は開口部が1.72×1.41m、底部が1.26×1mで深さは43cmである。

【覆土・堆積状況】 焼土ブロックを含む褐色土～黄褐色土によって埋め戻されている。人為堆積と判断した。

【壁】 壁の立ち上がりは急である。

【出土遺物】 No785の土器が出土している。(第39・126図、写真図版196)

317号土坑 (第91図、写真図版88)

【位置・検出状況】 KIII a4 グリッドほかに位置する。305号住床面付近にて検出した。

【重複】 305号住と重複する。新旧関係については検出状況ならびに断面観察から317号土坑→305号住の順に構築されたものと判断した。

【平面形・規模】 平面形は円形、規模は開口部が1.22×1.08m、底部が1×0.74mで深さは46cmである。

【覆土・堆積状況】 覆土は炭化物粒ならびに黄褐色土ブロック・暗褐色土ブロックを含む人為堆積である。

【壁】 壁の立ち上がりは急である。

【出土遺物】 No217の礫石器が出土している。(第39・274図、写真図版275)

318号土坑 (第91図、写真図版89)

【位置・検出状況】 JIII i4 グリッドほかに位置する。攪乱層を除去したところ(Ⅲ層?)で検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は円形、規模は開口部が1.65×1.55m、底部が1.51×1.42mで深さは92cmである。

【覆土・堆積状況】 炭化物粒ならびに黄褐色土粒を含む黒褐色～暗褐色土が堆積し、自然堆積と判断した。

【壁】 壁の立ち上がりは急である。

【出土遺物】 No782～784の上器、No445の石製品が出土している。(第39・126・220図、写真図版196・245)

319号土坑 (第92図、写真図版89)

【位置・検出状況】 IIII f4 グリッドほかに位置する。II層下部にて検出した。

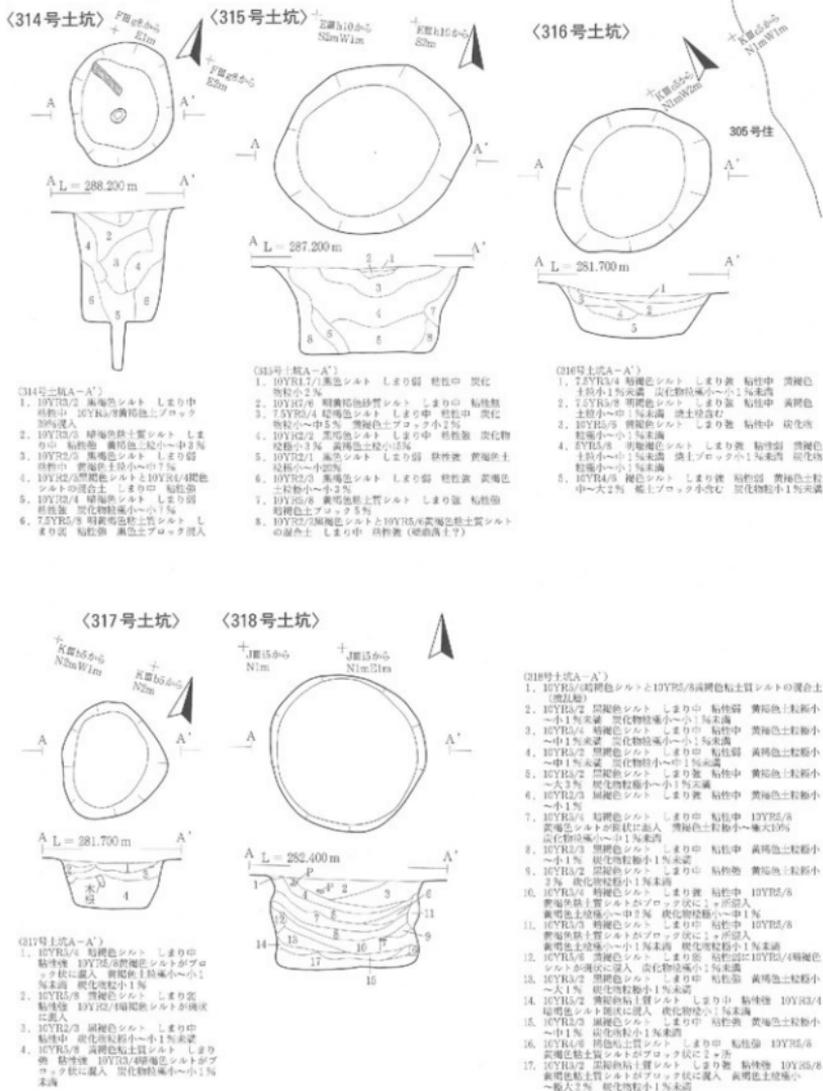
【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は楕円形をなす。規模は開口部が1.54×1.15m、底部が1.3×1.06mで深さは119cmである。底面中央付近に小穴を持つ。深さは47cmである。

【覆土・堆積状況】 炭化物粒ならびに黄褐色土粒を含む暗褐色～黒褐色土が堆積している。自然堆積と判断した。

【壁】 壁の立ち上がりは急で、底面付近ではオーバーハングしている。

【その他】 当初は貯蔵穴の可能性を考えて掘り進めたが、掘り上がりの平面形から判断して陥し穴の可能性が高い。



第91図 314～318号土坑

[出土遺物] 出土していない。

320号土坑 (第92図、写真図版89)

[位置・検出状況] IⅢ f 4 グリッドほかに位置する。Ⅱ層下部にて検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は楕円形をなす。規模は開口部が1.6×1.34m、底部が1.1×0.85mで深さは115cmである。底面中央付近に小穴を持つ。深さは40cmである。

[覆土・堆積状況] 黄褐色土粒ならびに炭化物粒を含んだ黒褐色土～暗褐色土が堆積している。自然堆積と判断した。

[壁] 壁の立ち上がりは急で、底面付近ではオーバーハングしている。

[その他] 当初は貯蔵穴の可能性を考えて掘り進めたが、掘り上がりの平面形から判断して陥し穴の可能性が高い。

[出土遺物] 出土していない。

321号土坑 (第92図、写真図版89)

[位置・検出状況] GⅢ j 7 グリッドに位置する。Ⅱ層下部にて検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は円形をなす。規模は開口部が1.16×1m、底部が0.9×0.7mで深さは106cmである。底面やや南寄りに小穴を持つ。深さは40cmである。

[覆土・堆積状況] 黄褐色土粒ならびに炭化物粒を含んだ黒色～黒褐色土が堆積し、自然堆積と判断した。

[壁] 壁の立ち上がりは急である。

[その他] 当初は貯蔵穴の可能性を考えて掘り進めたが、掘り上がりの平面形から判断して陥し穴の可能性が高い。

[出土遺物] 出土していない。

322号土坑 (第92図、写真図版90)

[位置・検出状況] GⅢ f 7 グリッドに位置する。Ⅱ層下部にて検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は円形をなす。規模は開口部が1.58×1.52m、底部が1.22×1mで深さは118cmである。底面やや北寄りに小穴を持つ。深さは(46)cmである。

[覆土・堆積状況] 黄褐色土粒を含んだ黒色～黒褐色土が堆積している。自然堆積と判断した。

[壁] 壁の立ち上がりは急である。

[その他] 当初は貯蔵穴の可能性を考えて掘り進めたが、掘り上がりの平面形から判断して陥し穴の可能性が高い。

[出土遺物] №446・447の剥片石器が出土している。(第39・220図、写真図版245)

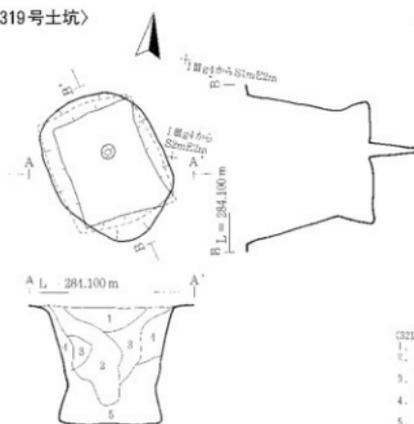
323号土坑 (第93図、写真図版90)

[位置・検出状況] GⅢ e 8 グリッドに位置する。Ⅱ層下部にて検出した。

[重複] なし。

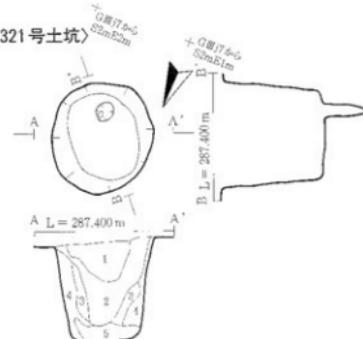
[平面形・規模] 平面形は円形をなす。規模は開口部が1.5×1.3m、底部が1.18×0.95mで深さは110cmで

<319号土坑>



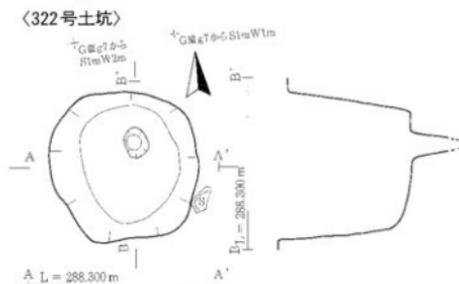
- (319号土坑A-A')
1. 10YR2/3 黄褐色シルト しまり目 粘性質 黄褐色土粒極小1%未満 黄褐色土粒極小3%
 2. 10YR2/1 黄褐色シルト しまり目 粘性質 黄褐色土粒極小1% 無子粒極小含む
 3. 7.5YR3/2 黄褐色シルト しまり目 粘性質 黄褐色土粒小1%未満
 4. 7.5YR3/3 暗褐色シルト しまり目 粘性質
 5. 10YR3/4 暗褐色シルト しまり目 粘性質 黄褐色土粒極小1~3%

<321号土坑>



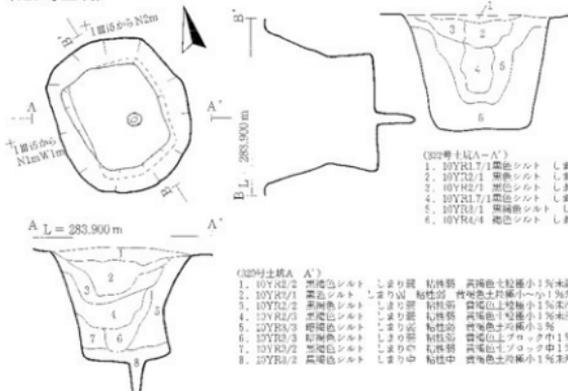
- (321号土坑A-A')
1. 10YR2/1 黄褐色シルト しまり目 粘性質 黄褐色土粒極小1~7% 黄褐色土粒極小1%未満 黄褐色土粒極小1%未満
 2. 10YR2/1 黄褐色シルト しまり目 粘性質 10YR8/7黄褐色土粒土質シルトがブロック状に3ヶ所 黄褐色土粒極小1~15%
 3. 10YR2/2 黄褐色シルト しまり目 粘性質 粘性質と10YR2/3黄褐色土質シルトが50%の割合で混入
 4. 10YR5/3 黄褐色土質シルト しまり目 粘性質 10YR2/3黄褐色シルトがブロック状に混入
 5. 10YR2/2 黄褐色土質シルト しまり目 粘性質 炭化物粒小3% 黄褐色土粒極小1~3%

<322号土坑>



- (322号土坑A-A')
1. 10YR1/1 黄褐色シルト しまり目 粘性質 黄褐色土粒混入
 2. 10YR2/1 黄褐色シルト しまり目 粘性質 黄褐色土粒混入
 3. 10YR2/3 黄褐色シルト しまり目 粘性質 黄褐色土質ブロック状10%
 4. 10YR1/1 黄褐色シルト しまり目 粘性質 黄褐色土粒混入
 5. 10YR3/1 黄褐色シルト しまり目 粘性質
 6. 10YR4/4 黄褐色シルト しまり目 粘性質 黄褐色土質ブロック含む

<320号土坑>



- (320号土坑A-A')
1. 10YR2/2 黄褐色シルト しまり目 粘性質 黄褐色土粒極小1%未満 板状黄褐色土粒小1%未満
 2. 10YR2/1 黄褐色シルト しまり目 粘性質 黄褐色土粒極小1~1%未満
 3. 10YR2/3 黄褐色シルト しまり目 粘性質 黄褐色土粒極小1%未満 黄褐色土質ブロック状1%
 4. 10YR2/3 黄褐色シルト しまり目 粘性質 黄褐色土粒極小1%未満
 5. 10YR2/3 暗褐色シルト しまり目 粘性質 黄褐色土粒極小2%
 6. 10YR2/3 暗褐色シルト しまり目 粘性質 黄褐色土質ブロック状1%未満
 7. 10YR3/2 黄褐色シルト しまり目 粘性質 黄褐色土質ブロック状1%未満
 8. 10YR3/2 黄褐色シルト しまり目 粘性質 黄褐色土粒極小1%未満

第92図 319~322号土坑

ある。底面中央付近に小穴を持つ。深さは49cmである。

【覆土・堆積状況】 壁の崩落に伴うものと思われる6・7層の隙間を埋めるように黒色～黒褐色土が堆積している。自然堆積と判断した。

【壁】 壁の立ち上がりは急である。

【その他】 当初は貯蔵穴の可能性を考えて掘り進めたが、掘り上がりの平面形から判断して陥し穴の可能性が高い。

【出土遺物】 出土していない。

324号土坑（第93図、写真図版90）

【位置・検出状況】 FⅢj9 グリッドほかに位置する。Ⅱ層下部にて検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は円形、規模は開口部が1.3×1.24m、底部が0.9×0.85mで深さは62cmである。

【覆土・堆積状況】 壁の崩落に伴うものと思われる4層の隙間を埋めるように黒色土ならびに暗褐色土が堆積している。自然堆積と判断した。

【壁】 壁は底面付近で一旦緩やかに立ち上がってから、内側にオーバーハングしている。

【出土遺物】 出土していない。

325号土坑（第93図、写真図版90）

【位置・検出状況】 GⅢd7 グリッドほかに位置する。Ⅱ層下部にて検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は円形、規模は開口部が1.68×1.52m、底部が1.88×1.62mで深さは120cmである。

【覆土・堆積状況】 覆土下部5・6層は褐色土主体で上部は黒褐色土主体に堆積し、自然堆積と判断した。

【壁】 壁は底面から内側にオーバーハングし、上部3分の1ほどのレベルで外反する。

【出土遺物】 出土していない。

326号土坑（第88図、写真図版85）

【位置・検出状況】 KⅢc1 グリッドほかに位置する。Ⅱ層下部にて検出した。

【重複】 303号土坑と重複する。検出状況ならびに断面観察から、303号土坑→326号土坑の順に構築されたものと判断した。

【平面形・規模】 平面形は円形、規模は開口部が1.88×1.66m、底部が1.71×1.56mで深さは64cmである。

【覆土・堆積状況】 断面観察によると、6層は地山ブロックの混入状況などから人為的に埋め戻したと推定される。その上層に黒褐色土が堆積している。

【壁】 壁の立ち上がりは急である。

【出土遺物】 303・326号土坑一括としてNa774～776の土器、Na218の礫石器が出土している。（第38・126・274図、写真図版196・275）

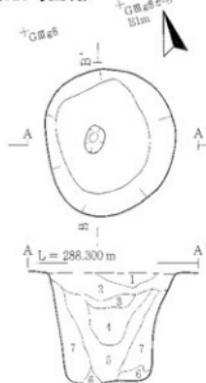
327号土坑（第90図、写真図版87）

【位置・検出状況】 KⅢe1 グリッドに位置する。Ⅱ層下部にて検出した。

【重複】 312号土坑と重複している。断面観察から312号土坑→303号土坑の順に構築されたものと判断した。

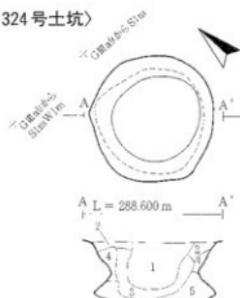
【平面形・規模】 平面形は楕円形、規模は開口部が1.15×1.14m、底部が1.14×1.14mで深さは94cmである。

〈323号土坑〉



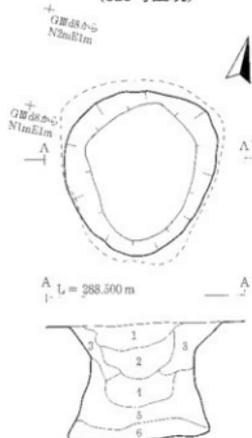
- (323号土坑A-A')
1. 10YR2/1 褐色シルト しまり硬 粘粒多
 2. 10YR2/2 黄褐色シルト しまり中 粘性強 黄褐色土塊物小1.7%
 3. 10YR2/3 黄褐色シルト しまり中 粘性強 黄褐色土塊物小1.4%
 4. 10YR2/4 黄褐色シルトと10YR2/2黄褐色シルトの混合土 しまり弱 粘性強 黄褐色土塊物小2.9%
 5. 10YR2/5 黄褐色シルト しまり弱 粘性強
 6. 10YR2/6 黄褐色粘土質シルト しまり弱 粘性強
 7. 10YR2/6 黄褐色粘土質シルトとしまり中 粘性強 黄褐色土塊物小1.2%に混入 (壁面部1)

〈324号土坑〉



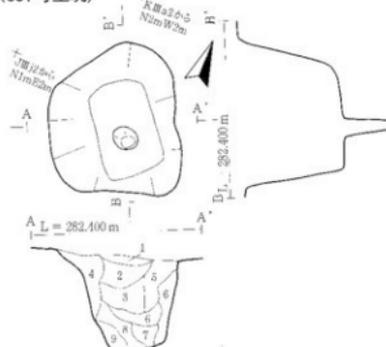
- (324号土坑A-A')
1. 10YR1/2/1 白色シルト しまり弱 粘粒多 黄褐色土粒物小1.4%
 2. 10YR1/2/2 黄褐色シルト しまり強 粘性中 黄褐色土塊物多1.5%
 3. 10YR1/2/3 黄褐色シルト しまり弱 粘性強 黄褐色土塊物小1.3%
 4. 10YR1/2/4 黄褐色シルト しまり弱 粘性強 黄褐色土塊物小1.3%
 5. 10YR1/2/5 黄褐色シルト しまり弱 粘性強 黄褐色土塊物小1.3%

〈325号土坑〉



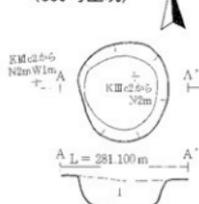
- (325号土坑A-A')
1. 10YR2/2 黄褐色シルト しまり弱 粘性中
 2. 10YR2/3 黄褐色シルト しまり中 粘性強 黄褐色土塊物小1.4%
 3. 10YR2/4 黄褐色シルト しまり弱 粘性強
 4. 10YR2/4 黄褐色シルト しまり弱 粘性強
 5. 10YR2/6 黄褐色シルト しまり中 粘性強
 6. 10YR2/6 黄褐色シルトと10YR2/2黄褐色シルトの混合土 しまり強 粘粒多

〈351号土坑〉



- (351号土坑A-A')
1. 7.5YR2/2 黄褐色シルト しまり弱 粘粒多 黄褐色土塊物小1.4%
 2. 7.5YR2/2 白色シルト しまり中-強 粘粒多 黄褐色土粒小1.0%
 3. 7.5YR2/2 黄褐色シルト しまり弱-中 粘性強 黄褐色土塊物小1.5%
 4. 7.5YR2/2 黄褐色シルト しまり弱 粘性強 黄褐色土塊物小1.5%
 5. 7.5YR2/2 黄褐色シルト しまり弱 粘性強 黄褐色土塊物小1.3%
 6. 7.5YR2/2 黄褐色シルト しまり弱 粘性強 黄褐色土塊物小1.5%
 7. 7.5YR2/2 黄褐色シルト しまり弱 粘性強 黄褐色土塊物小1.5%
 8. 7.5YR2/2 黄褐色シルト しまり弱-中 粘粒多 黄褐色土塊物小1.5%
 9. 7.5YR2/2 黄褐色シルト しまり弱-中 粘粒多 黄褐色土塊物小1.5%

〈350号土坑〉



- (350号土坑A-A')
1. 10YR2/3 黄褐色シルト しまり弱 粘性強 黄褐色土塊物小1.5%未満 黄褐色土粒物小1.3%

0 1 2m

【覆土・堆積状況】 黒褐色土～褐色土を主体として堆積している。自然堆積と判断した。

【壁】 壁の立ち上がりは急である。

【出土遺物】 312・327号土坑一括としてNo.780・781の土器、No.444の石製品、No.219の礫石器が出土している。(第39・126・220・274図、写真図版196・245・275)

350号土坑 (第93図、写真図版91)

【位置・検出状況】 KⅢ b1 グリッドほかに位置する。Ⅱ層下部にて検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は円形、規模は開口部が1m×0.91m、底部が0.74m×0.73mで深さは29cmである。

【覆土・堆積状況】 炭化物粒ならびに黄褐色土粒を含んだ黒褐色土が堆積している。

【壁】 壁の立ち上がりは急である。

【出土遺物】 出土していない。

351号土坑 (第93図、写真図版91)

【位置・検出状況】 JⅢ j1 グリッドに位置する。

【重複】 308号住と接する。

【平面形・規模】 平面形は楕円形基調であるが不整である。規模は開口部が1.53m×1.3m、底部が0.94m×0.6mで深さは97cmである。底面中央付近に小穴を持つ。深さは45cmである。

【覆土・堆積状況】 炭化物粒ならびに黄褐色土粒を含む暗褐色ないし黒褐色土が堆積している。自然堆積と判断した。

【壁】 壁の立ち上がりは急である。

【その他】 当初は貯蔵穴の可能性を考えて掘り進めたが、掘り上がりの平面形から判断して陥し穴の可能性が高い。

【出土遺物】 出土していない。

401号土坑 (第94図、写真図版91)

【位置・検出状況】 KⅢ d5 グリッドに位置する。攪乱層を除去したところ(Ⅳ層)で検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は円形をなす。規模は開口部が1.26×1.16m、底部が1.24×0.69mで深さは80cmである。底面中央付近に小穴を2つ持つ。深さはそれぞれ34cmと35cmである。

【覆土・堆積状況】 壁の崩落に伴う黄褐色土層の9層の上に、炭化物粒ならびに黄褐色土粒を含む黒色ないし黒褐色土が堆積する。自然堆積と判断した。

【壁】 壁の立ち上がりは急で、長軸方向の壁はややオーバーハングしている。

【その他】 当初は貯蔵穴の可能性を考えて掘り進めたが、掘り上がりの平面形から判断して陥し穴の可能性が高い。

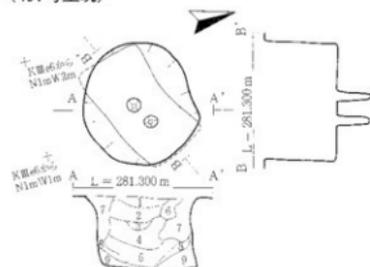
【出土遺物】 出土していない。

402号土坑 (第94図、写真図版92)

【位置・検出状況】 KⅢ e5 グリッドに位置する。305号住東端部にて検出した。

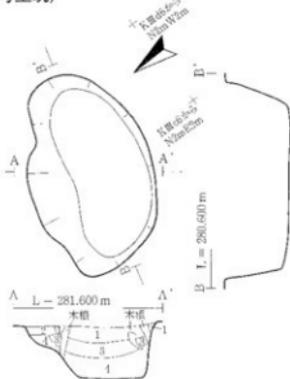
【重複】 305号住と重複する。新旧関係は不明である。

〈401号土坑〉



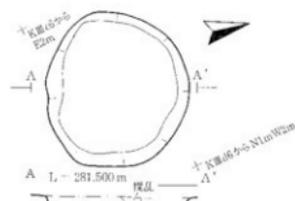
- (401号土坑A-A')
1. 10YR2/2 黄褐色シルト しまり弱～中 膠性弱 炭化物 炭化土粒極小～小3%
 2. 10YR3/2 黄褐色シルト しまり弱 粘土弱 黄褐色土粒極小～小5～7% 炭化物粒極小～小1% 炭化土粒極小～小3%
 3. 7.5YR3/1 褐色シルト しまり弱 粘土弱 黄褐色土粒極小～小3%
 4. 10YR2/2 黄褐色シルト しまり弱 粘土弱 黄褐色土粒極小～小1～3%
 5. 7.5YR3/1 黄褐色シルト しまり弱 粘土弱 黄褐色土粒極小～小3%
 6. 10YR3/2 黄褐色シルト しまり弱 粘土弱 黄褐色土粒極小～小1%
 7. 10YR3/3 黄褐色シルト しまり中 粘土中 黄褐色土粒極小～小1%
 8. 10YR4/4 黄褐色シルト しまり中 粘土中 黄褐色土粒極小～小1～3%
 9. 10YR5/6 黄褐色粘土質シルト しまり中～強 粘土中

〈403号土坑〉



- (403号土坑A-A')
1. 7.5YR3/4 黄褐色シルト しまり中 粘性弱 炭化物粒極小～小1% 炭化土粒極小～小1% 炭化土粒極小～小1% 炭化土粒極小～小1%
 2. 7.5YR4/6 褐色シルト しまり中 粘性弱～中 炭化物粒極小～小1% 炭化土粒極小～小1% 炭化土粒極小～小1%
 3. 2YR4/6 黄褐色シルト しまり中～強 粘性弱～中 炭化物粒極小
 4. 7.5YR5/6 黄褐色粘土質シルト しまり中 粘土中 炭化土粒極小～小3～5% 炭化土粒極小

〈402号土坑〉



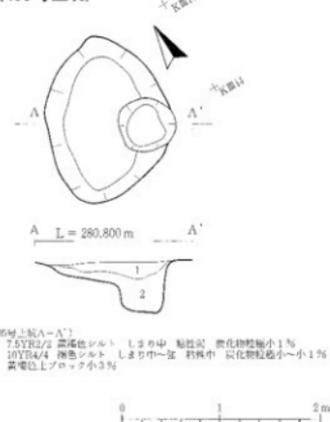
- (402号土坑A-A')
1. 10YR4/4 褐色シルト しまり中 粘性中 炭化物粒極小1% 炭化土粒極小～小3～5%

〈404号土坑〉



- (404号土坑A-A')
1. 7.5YR3/3 黄褐色シルト しまり中 粘性弱 炭化物粒極小～小1%
 2. 7.5YR5/6 黄褐色シルト しまり中 粘性弱～中 黄褐色土粒極小3～5%

〈405号土坑〉



- (405号土坑A-A')
1. 7.5YR2/2 黄褐色シルト しまり中 粘性弱 炭化物粒極小1%
 2. 10YR4/4 褐色シルト しまり中～強 粘性中 炭化物粒極小～小1% 炭化土粒極小3%

【平面形・規模】 平面形は円形、規模は開口部が1.62×1.48m、底部が1.42×1.28mで深さは23cmである。

【覆土・堆積状況】 覆土は褐色土の単層である。断面観察から人為堆積と判断した。

【壁】 壁の立ち上がりは比較的急である。

【出土遺物】 No220の礫石器が出土している。(第39・275図、写真図版275)

403号土坑 (第94図、写真図版92)

【位置・検出状況】 KⅢ c5 グリッドに位置する。305号住床面付近にて検出した。

【重複】 305号住と重複する。検出状況から、403号土坑→305号住の順で構築されたものと判断した。

【平面形・規模】 平面形は楕円形基調であるが不整である。規模は開口部が2.1×1.26m、底部が1.78×0.76mで深さは61cmである。

【覆土・堆積状況】 黄褐色土ブロックを含む4層の上に炭化物粒を含んだ赤褐色土が堆積し、さらにその上層に焼土粒ならびに炭化物粒を含んだ層が堆積する。断面観察から人為堆積と判断した。

【壁】 両側の壁の立ち上がりは急である。北側の壁の立ち上がりは比較的急である。

【出土遺物】 出土していない。

404号土坑 (第94図、写真図版92)

【位置・検出状況】 KⅢ f3 グリッドに位置する。301号住床面付近にて検出した。

【重複】 301号住と重複している。301号住にかかわる柱穴の可能性も考えたが、覆土の状況ならびに遺構の配置を総合的に判断して別遺構とした。検出状況ならびに断面観察から301号住→404号土坑の順で構築されたものと判断した。

【平面形・規模】 平面形は円形、規模は開口部が0.68×0.56m、底部が0.46×0.36mで深さは38cmである。

【覆土・堆積状況】 覆土の大部分は黄褐色土粒（地山粒）を含んだ明褐色土である。人為堆積と判断した。

【壁】 壁の立ち上がりは急である。

【出土遺物】 出土していない。

405号土坑 (第94図、写真図版92)

【位置・検出状況】 KⅢ h3 グリッドほかに位置する。302号住床面付近にて検出した。遺構東端部が一部窪んでおり、この部分は住居に伴う柱穴の可能性も考えられる。しかしながら、断定できる根拠が無いため、窪み部分を含めて一括の遺構とした。

【重複】 302号住と重複する。検出状況ならびに断面観察から、405号土坑→302号住の順に構築されたものと判断した。

【平面形・規模】 平面形は楕円形、規模は開口部が1.72×1.2m、底部が1.38×0.72mで深さは20cmである。

【覆土・堆積状況】 炭化物粒を含む褐色土が主体となって堆積している。自然堆積と判断した。

【壁】 壁の立ち上がりは急である。

【出土遺物】 No221・222の礫石器が出土している。(第39・275図、写真図版275)

406号土坑 (第95図、写真図版93)

【位置・検出状況】 KⅢ h4 グリッドに位置する。302号住床面付近にて検出した。住居に伴う柱穴の可能性も考えられるが、覆土の状況等を総合的に判断して別遺構とした。

【重複】 302号住と重複する。断面観察から406号土坑→302号住の順に構築されたものと判断した。

【平面形・規模】 平面形は円形、規模は開口部が1.1×0.72m、底部が0.62×0.53mで深さは44cmである。

【覆土・堆積状況】 覆土の大部分は黄褐色土粒（地山粒）を含んだ明褐色土で、人為堆積と判断した。

【壁】 壁の立ち上がりは急である。

【出土遺物】 出土していない。

407号土坑（第95図、写真図版93）

【位置・検出状況】 KⅢh4 グリッドに位置する。302号住床面付近にて検出した。

【重複】 302号住と重複する。検出状況ならびに断面観察から、407号土坑→302号住の順に構築されたものと判断した。

【平面形・規模】 平面形は円形をなす。規模は開口部が1.14×1.06m、底部が0.77×0.67mで深さは59cmである。底面中央部付近に小穴を持つ。深さは22cmである。

【覆土・堆積状況】 覆土の下半は明褐色土であり、人為堆積と判断した。その上に黒褐色土から褐色土が堆積している。

【壁】 壁の立ち上がりは急である。

【その他】 当初は貯蔵穴の可能性を考えて掘り進めたが、掘り上がりの平面形から判断して陥し穴の可能性が高い。

【出土遺物】 №223・224の礫石器が出土している。（第39・275図、写真図版275）

409号土坑（第95図、写真図版93）

【位置・検出状況】 KⅢi6 グリッドに位置する。攪乱層を除去したところ（IV層?）で検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は円形をなす。規模は開口部が0.65×0.6m、底部が0.4×0.4mで深さは15cmである。

【覆土・堆積状況】 炭化物粒ならびに黄褐色土粒を含む黒褐色土が堆積している。

【壁】 壁の立ち上がりは比較的急である。

【出土遺物】 出土していない。

410号土坑（第95図、写真図版94）

【位置・検出状況】 KⅢh4 グリッドほかに位置する。302号住床面付近にて検出した。検出当初は住居にかかわる柱穴という想定で掘り進めたが、掘り上がりの状況から柱穴と土坑が重複したものと判断に至った。

【重複】 302号住と重複している。検出状況ならびに断面観察等から土坑は住居よりも古い時期に構築されたものと判断した。

【平面形・規模】 平面形は楕円形、規模は開口部が0.76×0.48m、底部が0.7×0.48mで深さは47cmである。

【覆土・堆積状況】 断面記録を欠くが、精査時に炭化物ならびに黄褐色土粒を含んだ黒褐色土～褐色土が堆積していたことを確認しており、自然堆積と判断した。

【壁】 壁の立ち上がりは急で、北側の壁はややオーバーハングしている。

【出土遺物】 出土していない。

411号土坑（第95図、写真図版94）

【位置・検出状況】 KⅢj6 グリッドに位置する。205号住床面付近にて検出した。

【重複】 205号住と重複している。411号土坑→205号住の順に構築されたものと判断した。

【平面形・規模】 平面形は楕円形をなすと推定される。規模は開口部が $1.26 \times (0.89)$ m、底部が $1 \times (0.7)$ mで深さは88cmである。

【覆土・堆積状況】 最下層は地山ブロックを含む黄褐色土による人為的な堆積である。

【壁】 壁の立ち上がりは急である。

【出土遺物】 出土していない。

412号土坑 (第95図、写真図版94)

【位置・検出状況】 KⅢj7グリッドに位置する。205号住床面付近にて検出した。

【重複】 205号住と重複している。検出時、205号住の炉を一部切って構築されていることを確認した。したがって205号住→412号土坑の順で構築されている。

【平面形・規模】 平面形は円形、規模は開口部が 0.97×0.94 m、底部が 0.76×0.69 mで深さは20cmである。

【覆土・堆積状況】 炭化物粒ならびに黄褐色土粒を含む褐色土が堆積している。自然堆積と判断した。

【壁】 壁の立ち上がりは比較的急である。

【出土遺物】 №786の土器が出土している。(第39・126図、写真図版196)

413号土坑 (第95図、写真図版94)

【位置・検出状況】 KⅢj7グリッドに位置する。攪乱層を除去したところ(Ⅳ層)で検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は円形、規模は開口部が 1.04×0.78 m、底部が 0.84×0.6 mで深さは16cmである。

【覆土・堆積状況】 炭化物粒を含む黒褐色土が主体の堆積である。自然堆積と判断した。

【壁】 壁の立ち上がりは比較的緩やかである。

【出土遺物】 出土していない。

414号土坑 (第96図、写真図版94)

【位置・検出状況】 KⅢj7グリッドに位置する。攪乱層を除去したところ(Ⅳ層)で検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は円形、規模は開口部が 0.94×0.92 m、底部が 0.7×0.45 mで深さは32cmである。

【覆土・堆積状況】 炭化物粒ならびに黄褐色土粒を含む黒褐色土が堆積している。断面観察から自然堆積と判断した。

【壁】 壁の立ち上がりは比較的急である。

【出土遺物】 出土していない。

416号土坑 (第96図、写真図版95)

【位置・検出状況】 KⅢj8グリッドに位置する。攪乱層を除去した後、402号住床面付近にて検出した。

【重複】 402号住と重複している。新旧関係は不明。

【平面形・規模】 平面形は円形をなす。規模は開口部が 0.74×0.72 m、底部が 0.63×0.46 mで深さは45cmである。断面はいわゆるフラスコ形をなす。

【覆土・堆積状況】 炭化物粒を含む黒褐色土～暗褐色土を主体とした堆積である。断面観察から自然堆積と判断した。

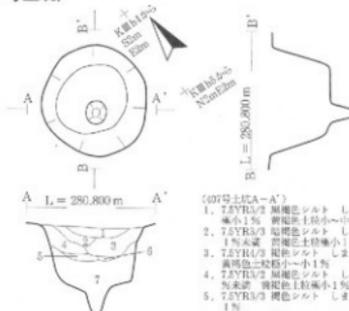
〈406号土坑〉



〈406号土坑A-A'〉

1. 1CVR1/2 黒粘土シルト しまり中 粘性中 炭化物粒極小1% 黄褐色土粒極小1%未満
2. 7SYR1/3 褐色シルト しまり中 粘性中 炭化物粒極小1%未満 黄褐色土粒極小1%未満
3. 7SYR1/6 明褐色粘上質シルト しまり中 粘性中 黄褐色土粒極小1%

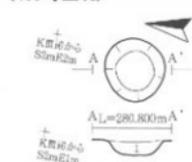
〈407号土坑〉



〈407号土坑A-A'〉

1. 7SYR1/3 黒褐色シルト しまり中～強 粘性中 炭化物粒極小1% 黄褐色土粒極小1%未満
2. 7SYR1/3 褐色シルト しまり中 粘性中 炭化物粒極小1%
3. 7SYR1/3 褐色シルト しまり中 粘性中 炭化物粒極小1% 黄褐色土粒極小1%未満
4. 7SYR1/3 褐色シルト しまり中 粘性中 炭化物粒極小1%未満 黄褐色土粒極小1%
5. 7SYR1/3 褐色シルト しまり中 粘性中 炭化物粒極小1%未満
6. 7SYR1/4 褐色シルト しまり中 黄褐色土粒極小1%未満
7. 7SYR1/6 明褐色シルト しまり弱 粘性中 (ボソソ)

〈409号土坑〉



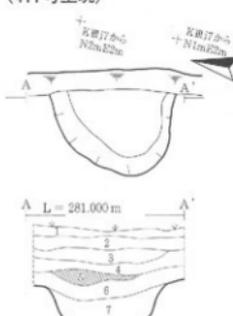
〈409号土坑A-A'〉

1. 1CVR1/3 黄褐色シルト しまり弱 粘性弱 炭化物粒極小1%未満 黄褐色土粒極小1%～3%

〈410号土坑〉



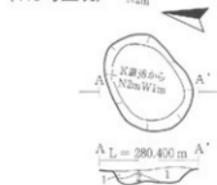
〈411号土坑〉



〈411号土坑A-A'〉

1. 7SYR1/2 黄褐色シルト しまり中 粘性弱 黄褐色土粒極小中10～20% (硬骨による塊状土層)
2. 1CVR1/3 暗褐色シルト しまり中 粘性弱 黄褐色土粒極小5～10% 炭化物粒極小1%
3. 7SYR1/2 暗褐色シルト しまり弱 粘性弱 黄褐色土粒極小1%未満
4. 1CVR1/3 黄褐色シルト しまり弱 粘性弱 黄褐色土粒極小1%～10% 炭化物粒極小1%～3%
5. 5YR1/8 赤褐色シルト しまり中～強 粘性弱 (硬土)
6. 1CVR1/3 黄褐色シルト しまり中 粘性弱 黄褐色土粒極小中1%～中位(1～3%)
7. 1CVR1/5 黄褐色粘上質シルト しまり中～強 粘性中 黄褐色土粒極小10～30%

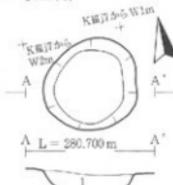
〈413号土坑〉



〈413号土坑A-A'〉

1. 7SYR1/2 暗褐色シルト しまり弱 粘性弱 炭化物粒極小1%～3%
2. 7SYR1/4 褐色シルト しまり弱 粘性弱

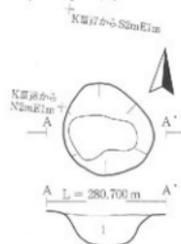
〈412号土坑〉



〈412号土坑A-A'〉

1. 7SYR1/3 褐色シルト しまり弱 粘性弱 炭化物粒極小1%～3% 黄褐色土粒極小1%～10%

〈414号土坑〉



〈414号土坑A-A'〉

1. 7SYR1/2 暗褐色シルト しまり弱～中 粘性弱～中 炭化物粒極小1%～3% 黄褐色土粒極小1% 黄褐色土粒極小中2%～5%



〔壁〕 底面から一旦110度ほどオーバーハングし、その後外反する。

〔出土遺物〕 出土していない。

417号土坑（第96図、写真図版95）

〔位置・検出状況〕 KⅢh8グリッドほかに位置する。攪乱層を除去したところ（Ⅳ層）で検出した。

〔重複〕 418号土坑と重複している。断面観察から417号土坑→418号土坑の順に構築されたものと判断した。

〔平面形・規模〕 平面形は円形をなす。規模は開口部が2.3×2.08m、底部が1.9×1.78mで深さは42cmである。底面中央付近に小穴を持つ。深さは40cmである。

〔覆土・堆積状況〕 覆土下層に炭化物粒ならびに黄褐色土粒を含む褐色土が堆積し、その上層に黒褐色土が堆積している。断面観察から人為堆積と判断した。

〔壁〕 壁の立ち上がりは急である。

〔出土遺物〕 No787の土器が出土している。（第39・127図、写真図版197）

418号土坑（第96図、写真図版95）

〔位置・検出状況〕 KⅢi9グリッドほかに位置する。攪乱層を除去したところ（Ⅳ層）で検出した。

〔重複〕 417号土坑と重複する。断面観察から417号土坑→418号土坑の順に構築されたものと判断した。

〔平面形・規模〕 平面形は不整な円形をなす。規模は開口部が1.16×0.9m、底部が0.66×0.52mで深さは34cmである。底面中央付近に小穴を持つ。深さは20cmである。

〔覆土・堆積状況〕 炭化物粒ならびに黄褐色土粒を含む極暗褐色土～褐色土が堆積している。自然堆積と判断した。

〔壁〕 壁の立ち上がりは比較的急である。

〔出土遺物〕 出土していない。

421号土坑（第96図、写真図版95）

〔位置・検出状況〕 KⅢf9グリッドに位置する。攪乱層を除去したところ（Ⅳ層）で検出した。

〔重複〕 416号住、417号住と重複する。検出状況ならびに断面観察から、416号住・417号住→421号土坑の順に構築されたものと判断した。

〔平面形・規模〕 平面形は円形、規模は開口部が1.54×1.48m、底部が1.21×1.16mで深さは38cmである。

〔覆土・堆積状況〕 炭化物粒ならびに黄褐色土粒を含む黒褐色土～暗褐色土を主体とした堆積である。自然堆積と判断した。

〔壁〕 壁の立ち上がりは急である。

〔出土遺物〕 No789の土器、No225の礫石器が出土している。（第39・127・275図、写真図版197・276）

422号土坑（第96図、写真図版96）

〔位置・検出状況〕 KⅢe9グリッドほかに位置する。416号住床面付近にて検出した。

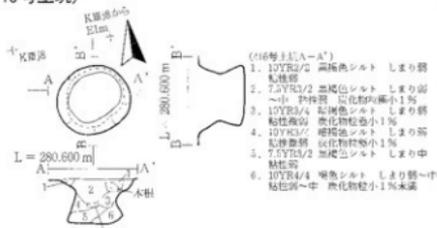
〔重複〕 416号住、417号住と重複する。検出状況ならびに断面観察から、422号土坑→416号住・417号住の順に構築されたものと判断した。

〔平面形・規模〕 平面形は楕円形、規模は開口部が1.28×1m、底部が0.98×0.73mで深さは27cmである。

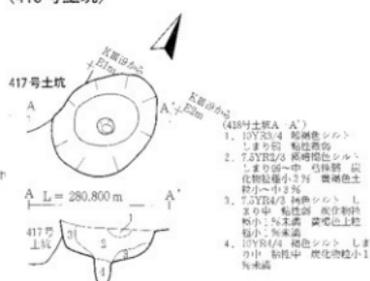
〔覆土・堆積状況〕 炭化物粒を含む褐色土が堆積する。自然堆積と判断した。

〔壁〕 壁の立ち上がりは急である。

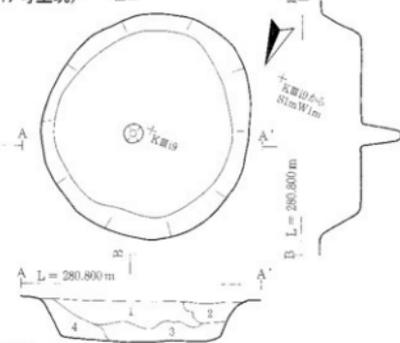
<416号土坑>



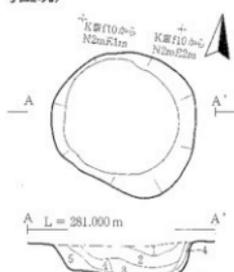
<418号土坑>



<417号土坑>



<421号土坑>



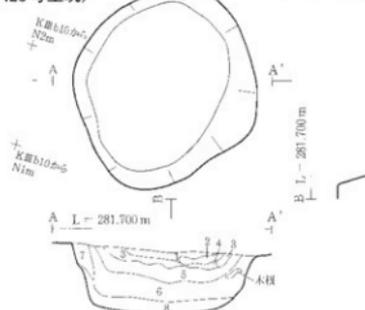
<417号土坑A-A'>

1. 7.5YR3/2 黄褐色シルト しまり弱
2. 7.5YR3/4 黄褐色シルト しまり弱
3. 10YR3/4 黄褐色シルト しまり弱
4. 10YR3/4 黄褐色シルト しまり弱

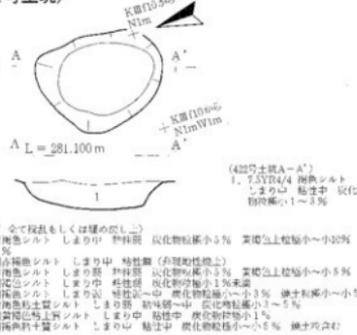
<421号土坑A-A'>

1. 7.5YR3/4 黄褐色シルト
2. 10YR3/2 黄褐色シルト
3. 7.5YR3/4 黄褐色シルト
4. 10YR3/4 黄褐色シルト
5. 10YR3/4 黄褐色シルト

<423号土坑>



<422号土坑>



<423号土坑A-A'> 全て採掘もしくは埋の仮上

1. 7.5YR3/2 黄褐色シルト しまり弱
2. 7.5YR3/4 黄褐色シルト しまり弱
3. 10YR3/4 黄褐色シルト しまり弱
4. 10YR3/4 黄褐色シルト しまり弱
5. 10YR3/4 黄褐色シルト しまり弱
6. 10YR3/4 黄褐色シルト しまり弱
7. 10YR3/4 黄褐色シルト しまり弱
8. 7.5YR3/6 黄褐色シルト しまり弱

〔出土遺物〕 出土していない。

423号土坑 (第96図、写真図版96)

〔位置・検出状況〕 KⅢb9グリッドに位置する。攪乱層を除去したところ(Ⅳ層)にて検出した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 平面形はやや不整な円形をなす。規模は開口部が2.11×1.89m、底部が1.76×1.34mで深さは65cmである。

〔覆土・堆積状況〕 覆土は炭化物粒、黄褐色土粒ならびに焼土粒・ブロックを含む土により埋め戻されている。人為堆積である。

〔壁〕 壁の立ち上がりは急である。

〔出土遺物〕 No.790の土器、No.226の礫石器が出土している。(第39・127・275図、写真図版197・276)

424号土坑 (第97図、写真図版96)

〔位置・検出状況〕 KⅣe1グリッドに位置する。攪乱層を除去したところ(Ⅳ層)で検出した。

〔重複〕 なしと判断したが、場合によって南側に位置する418号住と重複している可能性もある。

〔平面形・規模〕 平面形は楕円形、規模は開口部が1.11×0.58m、底部が0.72×0.36mで深さは14cmである。

〔覆土・堆積状況〕 炭化物粒ならびに黄褐色土粒を含む暗褐色土が堆積している。

〔壁〕 壁の立ち上がりは比較的急である。

〔出土遺物〕 出土していない。

425号土坑 (第97図、写真図版96)

〔位置・検出状況〕 KⅢe10グリッドに位置する。攪乱層を除去したところ(Ⅳ層)で検出した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 平面形は楕円形、規模は開口部が0.94×0.68m、底部が0.72×0.51mで深さは13cmである。

〔覆土・堆積状況〕 炭化物粒をわずかに含む褐色土が堆積している。

〔壁〕 壁の立ち上がりは比較的急である。

〔出土遺物〕 出土していない。

426号土坑 (第97図、写真図版97)

〔位置・検出状況〕 KⅢb7グリッドほかに位置する。427号住床面付近にて検出した。

〔重複〕 427号住と重複する。断面観察から426号土坑→427号住の順に構築されたものと判断した。

〔平面形・規模〕 平面形はやや不整な円形をなす。規模は開口部が1.55×1.29m、底部が1.16×0.92mで深さは42cmである。

〔覆土・堆積状況〕 図中1・2・4層は427号住の覆土であり5層は同居居の炉である。従って3・6・7層が本遺構の覆土となる。断面観察から人為堆積と判断した。

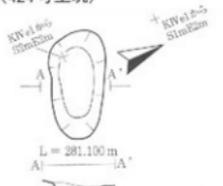
〔壁〕 壁の立ち上がりは比較的急である。

〔出土遺物〕 土器が出土するが小片のため掲載していない。

427号土坑 (第97図、写真図版97)

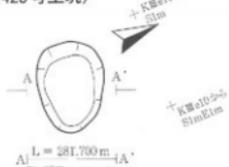
〔位置・検出状況〕 KⅢb8グリッドほかに位置する。427号住床面付近にて検出した。

〈424号土坑〉



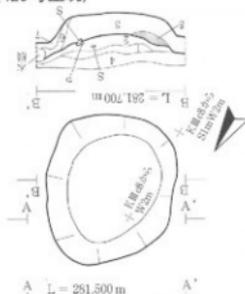
〔424号土坑A-A'〕
1. 7.SYR4/4 暗褐色シルト しまり中 粘粒質
炭化植物残小〜小1% 黄褐色土粒小〜小
1%

〈425号土坑〉



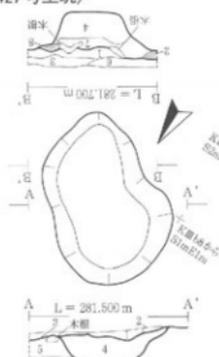
〔425号土坑A-A'〕
1. 10YR4/6 褐色シルト しまり中 粘粒質
炭化物粒極小〜%未満

〈426号土坑〉



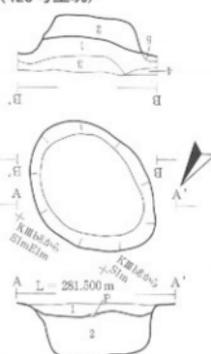
〔426号土坑A-A'・B-B'〕
1. 10YR4/6 褐色シルト しまり中 粘粒質〜中 黄褐色土
粒極小〜小1% 炭化物粒極小〜小1%
2. 10YR5/6 暗褐色シルト しまり中〜強 粘粒質 粘化生
物粒小〜小1%未満 黄褐色土粒小〜小1%
3. 7.SYR4/4 褐色シルト しまり中〜強 粘粒質 炭化植物
粒小〜小1%未満 黄褐色土粒小〜小1% 粘土粒含む
4. 10YR5/3 黄褐色シルト しまり中 粘粒質 炭化植物
炭質土粒・腐土粒含む (腐乱、埋め戻し)
5. 10YR5/6 黄褐色シルト しまり中 粘粒質 (粘土
質)
6. 10YR4/6 褐色シルト しまり中 粘粒質 炭化物粒極小
1%未満

〈427号土坑〉



〔427号土坑A-A'・B-B'〕
1. 10YR5/6 暗褐色シルト しまり中〜強 粘粒質
炭化物粒極小〜小1%未満 黄褐色土粒小〜小1%
2. 10YR6/6 赤褐色シルト しまり中〜強 粘粒質
(粘土)
3. 10YR5/4 暗褐色シルト しまり中〜強 粘粒質
炭化物粒極小〜小1%未満 黄褐色土粒小〜小1%
4. 7.SYR4/5 褐色シルト しまり中〜強 粘粒中
炭化植物小〜中1%未満 黄褐色土粒小1%未満 黄
褐色土粒小〜中10〜15%
5. 10YR4/5 褐色シルト しまり中 粘粒中 黄褐色
土粒小〜中1〜2% 炭化植物粒極小〜小1%
6. 10YR5/3 黄褐色シルト しまり強 粘粒粘質
炭化物粒・黄褐色土粒・腐土粒含む (腐乱、埋
め戻し)
7. 10YR4/5 褐色シルト しまり中 粘粒質〜中
炭化物粒極小1%
8. 10YR4/5 赤褐色シルト しまり中 粘粒質 (腐
れた粘土)

〈428号土坑〉



〔428号土坑A-A'・B-B'〕
1. 7.SYR5/2 黄褐色シルト しまり弱〜中
粘粒質 炭化物粒極小1〜2%
2. 7.SYR4/6 褐色シルト しまり中〜強
粘粒中 炭化物粒小〜中1%未満 腐土粒
小1%未満 黄褐色土粒小〜中10〜15%
3. 10YR5/3 黄褐色シルト しまり弱 粘粒
粘質 炭化物粒・黄褐色土粒・腐土粒含むC
(腐乱、埋め戻し)
4. 10YR4/6 褐色シルト しまり中 粘粒
質 炭化物粒極小1% 黄褐色土粒極小2%
5. 10YR4/5 赤褐色シルト しまり中〜
強 粘粒粘質 (埋め戻し)



第97図 424〜428号土坑

〔重複〕 427号住と重複する。断面観察から427号土坑→427号住の順に構築されたものと判断した。

〔平面形・規模〕 平面形は楕円形基調であるが不整である。規模は開口部が1.76×1.2m、底部が1.48×0.77mで深さは38cmである。

〔覆土・堆積状況〕 図中4・7層が本遺構の覆土であり、残りは427号住の覆土と同住居の炉である。断面観察から人為堆積と判断した。

〔壁〕 壁の立ち上がりは比較的急である。

〔出土遺物〕 出土していない。

428号土坑（第97図、写真図版97）

〔位置・検出状況〕 KⅢ b 8 グリッドほかに位置する。427号住床面付近にて検出した。

〔重複〕 427号住と重複する。断面観察から428号土坑→427号住の順に構築されたものと判断した。

〔平面形・規模〕 平面形はやや不整な楕円形をなす。規模は開口部が1.52×1.16m、底部が1.2×0.9mで深さは56cmである。

〔覆土・堆積状況〕 図中2層が本遺構の覆土であり、残りは427号住の覆土である。断面観察から人為堆積と判断した。

〔壁〕 壁の立ち上がりは急である。

〔出土遺物〕 Na395・398の剥片石器が出土している。（第39・220図、写真図版245）

429号土坑（第98図、写真図版97）

〔位置・検出状況〕 JⅢ i 9 グリッドほかに位置する。427号住床面付近にて検出した。

〔重複〕 427号住と重複する。断面観察から427号住→429号土坑の順に構築されたものと判断した。

〔平面形・規模〕 平面形は円形、規模は開口部が2.1×1.84m、底部が1.76×1.46mで深さは58cmである。

〔覆土・堆積状況〕 覆土最下層にあたる6層ならびに7層は、炭化物粒、焼土粒、黄褐色土粒を含むにぶい黄褐色土で構成される。その上層に遺物を大量に含んだ黒褐色土～褐色土が堆積している。遺物は5層以上から出土するが、出土量が多く、かつ個体としてのまとまりを持つ遺物が多いのは4～5層付近である。

〔壁〕 壁の立ち上がりは急である。

〔出土遺物〕 Na791～805の土器、Na407の剥片石器、Na227～231の礫石器が出土している。（第39・40・127～129・220・276図、写真図版197・198・245・276）

430号土坑（第98図、写真図版98）

〔位置・検出状況〕 JⅢ j 10 グリッドに位置する。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 平面形は円形、規模は開口部が1.32×1.14m、底部が1.02×0.84mで深さは31cmである。

〔覆土・堆積状況〕 炭化物粒ならびに黄褐色土粒を含む褐色土が堆積している。自然堆積と判断した。

〔壁〕 壁の立ち上がりは急である。

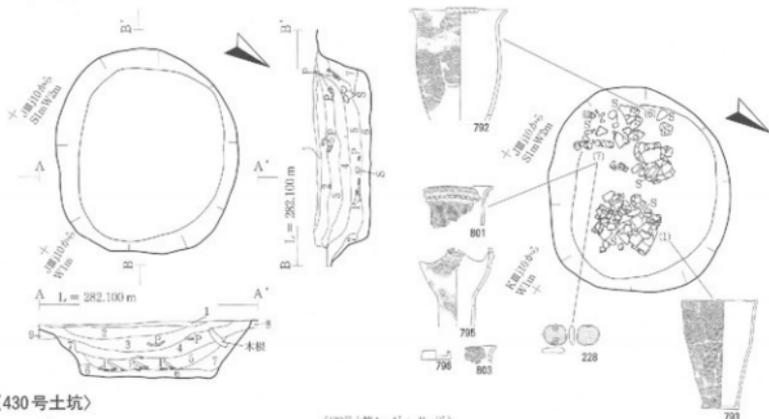
〔出土遺物〕 出土していない。

431号土坑（第98図、写真図版98）

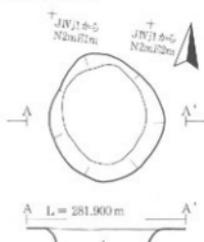
〔位置・検出状況〕 KⅢ a 6 グリッドに位置する。429号住床面付近にて検出した。

〔重複〕 428号住、429号住と重複する。新旧関係については検出状況ならびに断面観察から、431号土坑→

〈429号土坑〉

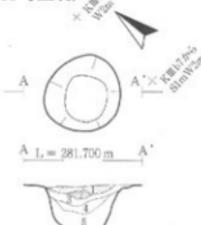


〈430号土坑〉



(430号土坑A-A')
1. 7.5YR4/3 褐色シルト しまり中 粘性强
炭化灰粒小～10% 黄褐色土粒小～小
3%

〈433号土坑〉

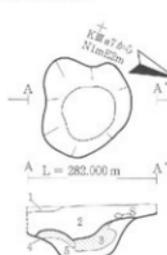


(433号土坑A-A')
1. 5YR4/3 赤褐色シルト しまり中 粘性强 (汚れた黄土)
2. 5YR5/3 暗赤褐色シルト しまり中 粘性强 (黄土)
3. 2.5YR4/6 褐色シルト しまり中 粘性强 炭化灰粒小1%未満
4. 7.5YR5/3 暗褐色シルト しまり中 粘性强 炭化灰粒小1%未満
5. 7.5YR5/3 暗褐色シルト しまり中 粘性强 炭化灰粒小1%未満
(4層よりやや暗い色)

(429号土坑A-A'・B'-B')

1. 10YR2/3 黒褐色シルト しまり弱 粘性强 黄褐色土粒小～小1%
2. 7.5YR2/4 暗褐色シルト しまり中 粘性强 炭化物粒小～中2%
3. 10YR3/3 暗褐色シルト しまり中 粘性强 炭化物粒小～中2%
4. 10YR4/4 褐色シルト しまり中 粘性强 炭化物粒小～小1%
5. 10YR3/2 黒褐色シルト しまり中～強 粘性强 炭化物粒小～中10% 黄褐色土粒小～小3%
6. 10YR4/3 暗褐色シルト しまり中～強 粘性强 炭化物粒小～小1%
7. 10YR5/4 暗褐色シルト しまり中～強 粘性强 炭化物粒小1%未満 黄土粒含む
8. 10YR5/3 暗褐色シルト しまり中 粘性强 炭化物粒小1%未満
9. 10YR5/6 黄褐色土質シルト しまり中 粘性强～中 炭化物粒小1%

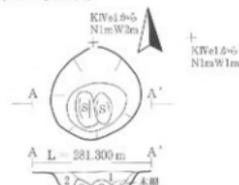
〈431号土坑〉



(431号土坑A-A')

1. 7.5YR5/3 黄褐色シルト しまり弱 粘性强 炭化物粒小～中1% 黄褐色土粒小～小1～3% 黄土粒含む
2. 7.5YR4/3 褐色シルト しまり中 粘性强～中 炭化物粒小～小5～10% 黄褐色土粒小～小1%
3. 5YR5/6 黄褐色シルト しまり中 粘性强 (黄土)
4. 5YR5/6 暗赤褐色シルト しまり弱～中 粘性强 (黄土)
5. 7.5YR4/1 暗褐色シルト しまり中 粘性强 炭化物粒小1%未満 黄褐色土粒小1%

〈432号土坑〉



(432号土坑A-A')

1. 7.5YR4/3 褐色シルト しまり中 粘性强 炭化物粒小1～5%
2. 5YR4/6 褐色シルト しまり中 粘性强 炭化物粒小1%

428号住→429号住の順に構築されたものと判断した。

【平面形・規模】 平面形はやや不整な円形をなす。規模は開口部が1.04×0.94m、底部が0.6×0.53mで深さは55cmである。

【覆土・堆積状況】 5層が木遺構の覆土であり、その上に429号住の覆土が堆積する。自然堆積と判断した。尚、3・4層については床面の高さを考慮すると429号住の炉という可能性が高い。しかしながら、住居の長軸線を考慮すると428号住の炉という可能性も考えられる。これを裏付ける明確な根拠は確認していない。

【壁】 壁の立ち上がりは比較的急である。

【出土遺物】 出土していない。

432号土坑（第98図、写真図版98）

【位置・検出状況】 KⅢd10グリッドに位置する。攪乱層を除去したところ（Ⅳ層）で検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は円形をなす。規模は開口部が0.95×0.9m、底部が0.62×0.47mで深さは22cmである。土坑底面に石棒状の巨礫2点が確認された。

【覆土・堆積状況】 炭化物粒ならびに黄褐色土粒を含む褐色土が堆積している。底面付近から巨礫が出土したこともあり、人為堆積を疑ったが混入物や順序などから総合的に判断して自然堆積とした。

【壁】 壁の立ち上がりは比較的急である。

【出土遺物】 出土していない。

433号土坑（第98図、写真図版98）

【位置・検出状況】 KⅢa7グリッドに位置する。429号住床面付近にて検出した。住居の炉断面を確認しようとしてトレンチを入れたところ、土坑が存在することが判明した。

【重複】 428号住、429号住と重複する。新旧関係については、検出状況ならびに断面観察から433号土坑→429号住の順に構築されたものと判断した。428号住と本遺構との新旧関係については不明である。

【平面形・規模】 平面形は円形、規模は開口部が0.8×0.76m、底部が0.46×0.42mで深さは45cmである。

【覆土・堆積状況】 図において、覆土下部にあたる4・5層は明褐色土であり、埋め戻されている（人為堆積）。その上に褐色土が堆積している。1・2層は429号住の炉である。

【壁】 壁の立ち上がりは急である。

【出土遺物】 出土していない。

434号土坑（第99図、写真図版99）

【位置・検出状況】 KⅢa6グリッドに位置する。429号住床面付近にて検出した。

【重複】 428号住、429号住と重複する。新旧関係については、検出状況ならびに断面観察から434号土坑→429号住の順に構築されたものと判断した。428号住と本遺構との新旧関係については不明である。

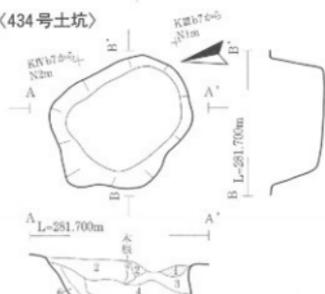
【平面形・規模】 平面形はやや不整な楕円形をなす。規模は開口部が1.58×1.26m、底部が1.15×0.86mで深さは54cmである。

【覆土・堆積状況】 図において、覆土下部にあたる4・5・6層は炭化物粒などを含む黄褐色土であり、埋め戻されている（人為堆積）。その上に褐色土が堆積している。1層は429号住の炉である。

【壁】 壁の立ち上がりは急であるが、北側はやや緩やかになる（比較的急）。

【出土遺物】 出土していない。

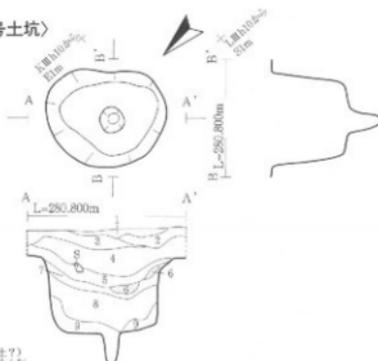
〈434号土坑〉



〔434号土坑A-A'〕

1. 5YR5/4 暗赤褐色シルト しまり中 粘性弱 炭土粒極小～小20～30% (腐葉土7%)
2. 7.5YR4/4 褐色シルト しまり中 粘性弱 腐植性土粒中～中20% 炭土粒小～小3%
3. 10YR4/5 暗褐色シルト しまり中 粘性弱 黄褐色土粒中～小3% 炭土粒極小～小3%
4. 10YR5/4 暗褐色粘土質シルト しまり中 粘性中 暗褐色土粒小～中5%
5. 10YR5/5 黄褐色粘土質シルト しまり中 粘性中 炭化物粒極小～小1%未満
6. 10YR5/5 黄褐色粘土質シルト しまり中 粘性中 炭化物粒極小～小3～5%

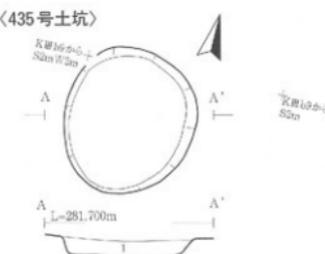
〈437号土坑〉



〔437号土坑A-A'〕

1. 10YR5/4 暗褐色シルト しまり中 粘性弱 炭化物粒極小1%未満
2. 7.5YR4/4 褐色シルト しまり中 粘性弱 炭化物粒極小1%未満
3. 10YR4/5 暗褐色シルト しまり中 粘性弱 炭化物粒極小1～2%
4. 7.5YR4/3 褐色シルト しまり中 粘性弱 中 炭化物粒極小～小1%
5. 7.5YR4/3 褐色シルト しまり中 粘性弱 中 炭化物粒極小～小3%
6. 10YR5/4 暗褐色シルト しまり中 粘性弱 (汚れた黄土)
7. 10YR4/5 褐色シルト しまり中 粘性弱 中 炭化物粒極小～小1%
8. 10YR4/5 褐色シルト しまり中 粘性弱 軟性 炭化物粒極小～中3%
9. 7.5YR4/6 黄褐色粘土質シルト しまり弱 中 粘性中 炭化物粒極小1%

〈435号土坑〉



〔435号土坑A-A'〕

1. 10YR4/6 褐色シルト しまり中 粘性弱 炭化物粒極小5%

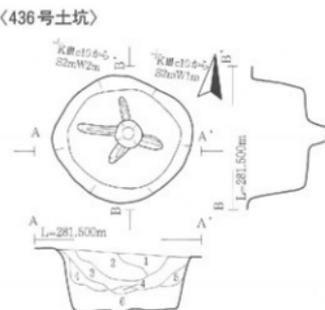
〈438号土坑〉



〔438号土坑A-A' 1～3号塊・埋め戻し〕

1. 5YR5/4 暗褐色シルト しまり弱 粘性弱 黄褐色土粒小～中100～50%
2. 7.5YR4/2 黄褐色シルト しまり弱 粘性弱 炭化物粒極小～中5～10%
3. 10YR2/3 暗褐色シルト しまり中 粘性弱 黄褐色土粒中～中5%
4. 7.5YR4/2 黄褐色シルト しまり中 粘性中 黄褐色土粒中～中5%
5. 10YR1/2 暗褐色シルト しまり弱 粘性弱 黄褐色土粒極小～小50%
6. 10YR4/2 褐色シルト しまり弱 粘性中
7. 10YR2/3 暗褐色シルト しまり中 粘性中
8. 10YR2/2 黄褐色シルト しまり弱 中 粘性中 炭化物粒極小～中5%
9. 10YR4/2 黄褐色シルト しまり弱 粘性中

〈436号土坑〉



〔436号土坑A-A'〕

1. 10YR4/2 褐色シルト しまり弱 粘性弱 炭化物粒極小3% 黄褐色土粒極小1%未満
2. 10YR5/3 暗褐色シルト しまり弱 中 粘性弱 炭化物粒極小～中10% 黄褐色土粒極小～中5%
3. 10YR4/3 暗褐色シルト しまり弱 粘性弱 炭化物粒極小～中10% 黄褐色土粒極小～中5%
4. 7.5YR4/3 褐色シルト しまり中 粘性弱 炭化物粒極小～中5% 黄褐色土粒極小～中3%
5. 10YR4/3 暗褐色シルト しまり中 粘性弱 炭化物粒極小1%
6. 7.5YR4/4 褐色シルト しまり中 粘性弱 炭化物粒極小～中1% 黄褐色土粒小～中5%



第99図 434～438号土坑

435号土坑（第99図、写真図版99）

【位置・検出状況】 KⅢa9 グリッドに位置する。攪乱層を除去したところ（IV層）で検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は円形、規模は開口部が1.5×1.33m、底部が1.38×1.15mで深さは19cmである。

【覆土・堆積状況】 炭化物粒を含む褐色土が堆積している。

【壁】 壁の立ち上がりは比較的急である。

【出土遺物】 出土していない。

436号土坑（第99図、写真図版99）

【位置・検出状況】 KⅢb10グリッドに位置する。攪乱層を除去したところ（IV層）で検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は円形をなす。規模は開口部が1.42×1.3m、底部が1.14×1.01mで深さは63cmである。底面中央付近に小穴を持つ。深さは21cmである。また、小穴から四方に向かって小溝が確認された。

【覆土・堆積状況】 炭化物粒ならびに黄褐色土粒を含む黒褐色土～褐色土が堆積している。自然堆積と判断したが、6層は人為堆積の可能性もある。

【壁】 壁の立ち上がりは急である。

【出土遺物】 No666・806～808の土器、No415～418の剥片石器、No179の土製品が出土している。（第40・129・184・220・221図、写真図版198・229・245）

437号土坑（第99図、写真図版99）

【位置・検出状況】 KⅢg9 グリッドはかに位置する。408号住床面付近にて検出した。

【重複】 404号住、408号住と重複する。検出状況ならびに断面観察から、437号土坑→408号住？の順に構築されたものと判断した。404号住居との新旧関係は不明である。

【平面形・規模】 平面形はやや不整な円形をなす。規模は開口部が1.23×0.98m、底部が1×0.74mで深さは104cmである。底面中央付近に小穴を持つ。深さは30cmである。

【覆土・堆積状況】 Ⅱ中7、8、9層が本遺構の覆土である。6層は408号住？のものがである。

【壁】 壁の立ち上がりは急である。

【その他】 当初は貯蔵穴の可能性を考えて掘り進めたが、掘り上がりの平面形から判断して陥し穴の可能性が高い。

【出土遺物】 No809の土器、No419の剥片石器が出土している。（第40・130・221図、写真図版198・246）

438号土坑（第99図、写真図版100）

【位置・検出状況】 JⅣf1 グリッドに位置する。攪乱層を除去したところ（IV層）で検出した。検出時点で遺構覆土が攪乱を受けていることは確認していたが、掘り進めると遺構の最下部まで攪乱上層であることが判明した。この段階で、本遺構が過去（昭和58・59年度）に胆沢町教育委員会によって発掘調査が行われた区域ではないかとの疑いが生じ、詳しく調べたところ、胆沢町から発刊された大清水上遺跡発掘調査報告書にあるE6号（Cf03）土坑に合致すると思われる遺構であることがわかった。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は楕円形をなす。規模は開口部が1.59×1.31m、底部が1.12×0.82mで深さは0.97cmである。底面中央付近に小穴を持つ。深さは30cmである。

【覆土・堆積状況】 過去の報告書の図面等と照合したところ、床面まで掘りきっていたため、覆土に関する記述はそちらを参照されたい。ただし、小穴についての図面への表示ならびに記述が無かったことから、小穴の覆上についてはプライマリーな状態であったと判断している。

【壁】 壁の立ち上がりは急である。

【出土遺物】 出土していない。

439号A土坑（第100図、写真図版100）

【位置・検出状況】 JIVf1グリッドほかに位置する。攪乱層を除去したところ（IV層）で検出した。検出時点で遺構覆土が攪乱を受けていることは確認していたが、掘り進めると遺構の最下部まで攪乱土層であることが判明した。この段階で、本遺構が過去（昭和58、59年度）に胆沢町教育委員会によって発掘調査が行われた区域ではないかとの疑いが生じ、詳しく調べたところ、胆沢町から発刊された大清水上遺跡発掘調査報告書（1984）にあるE7号（Cg03Na1）土坑に合致すると思われる遺構であることがわかった。

【重複】 439号B土坑と重複している。断面観察によると439号B→439号Aの順に構築されたように判断できるが、前述のとおり過去に調査を受けた後埋め戻された遺構である。参考までに当時の発掘調査報告書には439号A土坑→439号B土坑の順に構築されたという表現で図示されている。したがって新旧関係は不明である。

【平面形・規模】 平面形は楕円形をなす。規模は開口部が1.52×0.88m、底部が1.33×0.43mで深さは113cmである。

【覆土・堆積状況】 地山ブロックを含む黒褐色土などが堆積している。現代の埋め戻し土である。

【壁】 壁の立ち上がりは急である。

【その他】 当初は貯蔵穴の可能性も考えて掘り進めたが、掘り上がりの平面形から判断して陥し穴の可能性が高い。

【出土遺物】 A・B一括でNa232の礫石器が出土している。（第40・276図、写真図版276）

439号B土坑（第100図、写真図版100）

【位置・検出状況】 JIVf1グリッドほかに位置する。攪乱層を除去したところ（IV層）で検出した。検出時点で本遺構が過去（昭和58、59年度）に胆沢町教育委員会によって発掘調査が行われた区域ではないかとの疑いが生じ、詳しく調べたところ、胆沢町から発刊された大清水上遺跡発掘調査報告書にあるE7号（Cg03Na2）土坑に合致すると思われる遺構であることがわかった。

【重複】 439号A土坑と重複している。断面観察によると439号B→439号Aの順に構築されたように判断できるが、前述のとおり過去に調査を受けた後埋め戻された遺構である。参考までに当時の発掘調査報告書には439号A土坑→439号B土坑の順に構築されたという表現で図示されている。したがって新旧関係は不明である。

【平面形・規模】 平面形は円形をなす。規模は開口部が1.2×1m、底部が0.85×0.8mで深さは108cmである。底面中央付近に小穴を持つ。深さは43cmである。

【覆土・堆積状況】 最下層の12層以外は過去の調査後埋め戻された現代の埋め戻し土である。

【壁】 壁の立ち上がりは急である。

【その他】 当初は貯蔵穴の可能性も考えて掘り進めたが、掘り上がりの平面形から判断して陥し穴の可能性が高い。

【出土遺物】 A・B一括でNa232の礫石器が出土している。（第40・276図、写真図版276）

440号土坑 (第100図、写真図版100)

【位置・検出状況】 JⅢc10グリッドほかに位置する。攪乱層を除去したところ (IV層) で検出した。検出時点で本遺構が過去 (昭和58、59年度) に胆沢町教育委員会によって発掘調査が行われた区域ではないかとの疑いが生じ、詳しく調べたところ、胆沢町から発刊された大清水上遺跡発掘調査報告書 (1984) にあるE5号 (Ce00) 土坑に合致すると思われる遺構であることがわかった。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は円形をなす。規模は開口部が1.52×1.43m、底部が1.12×0.8mで深さは119cmである。底面中央付近に小穴を持つ。深さは31cmである。

【覆土・堆積状況】 最も下層にある6・7層を除いては現代の埋め戻し土である。

【壁】 壁の立ち上がりは急である。

【その他】 当初は貯蔵穴の可能性も考えて掘り進めたが、掘り上がりの平面形から判断して陥し穴の可能性が高い。

【出土遺物】 出土していない。

441号土坑 (第100図、写真図版100)

【位置・検出状況】 JⅣg2グリッドに位置する。攪乱層を除去したところ (IV層) で検出した。検出時点で本遺構が過去 (昭和58・59年度) に胆沢町教育委員会によって発掘調査が行われた区域ではないかとの疑いが生じ、詳しく調べたところ、胆沢町から発刊された大清水上遺跡発掘調査報告書 (1984) にあるE9号 (Ch06) 土坑に合致すると思われる遺構であることがわかった。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形はやや不整な楕円形をなす。規模は開口部が1.68×1.2m、底部が0.96×0.8mで深さは113cmである。底面中央付近に小穴を持つ。深さは32cmである。

【覆土・堆積状況】 最下層の7層を除いては現代の埋め戻し土である。

【壁】 壁の立ち上がりは急である。

【その他】 当初は貯蔵穴の可能性も考えて掘り進めたが、掘り上がりの平面形から判断して陥し穴の可能性が高い。

【出土遺物】 出土していない。

442号土坑 (第101図、写真図版101)

【位置・検出状況】 JⅢi10グリッドに位置する。攪乱層を除去したところ (IV層) で検出した。掘り進めたところ、床面中央付近 (覆土最下層) で一部焼成を受けた角礫のまとまった配置を確認した。

【重複】 427号住に隣接している。壁の一部が重複していると思われるが新旧関係が判別できるほどではなかったため、不明である。

【平面形・規模】 平面形は円形、規模は開口部が1.29×1.14m、底部が1.02×0.92mで深さは22cmである。

【覆土・堆積状況】 炭化物粒を含む黒褐色土が堆積している。人為堆積と判断した。

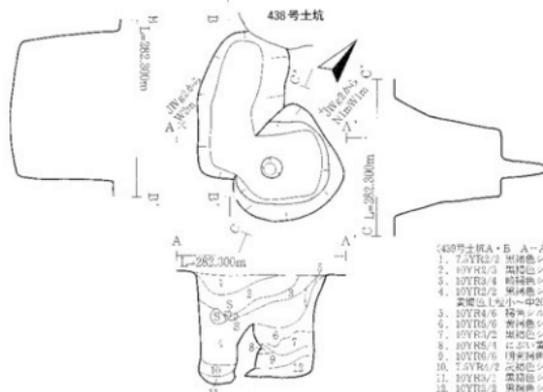
【壁】 壁の立ち上がりは比較的急である。

【出土遺物】 Na233の礫石器が出土している。(第40・277図、写真図版277)

444号土坑 (第101図、写真図版101)

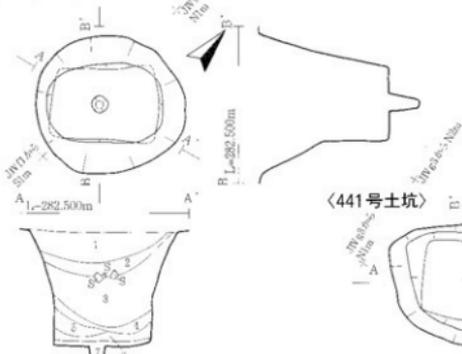
【位置・検出状況】 JⅣg3グリッドに位置する。攪乱層を除去したところ (IV層) で検出した。

〈439号土坑〉



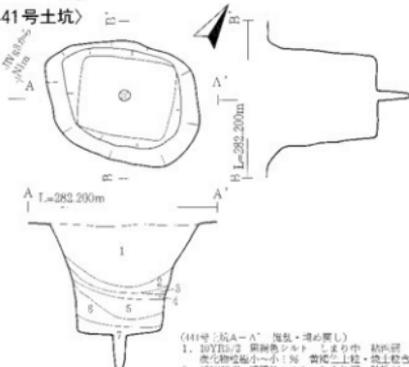
- (439号土坑A・B A-A' 1~5・10~11断面・埋め戻し)
1. 2. 3. 4. 5. 10. 11. 12.

〈440号土坑〉



- (440号土坑A-A' 1~5断面・埋め戻し)
1. 2. 3. 4. 5. 6. 7.

〈441号土坑〉



- (441号土坑A-A' 埋め戻し)
1. 2. 3. 4. 5. 6. 7.



第100図 439~441号土坑

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 平面形は円形をなす。規模は開口部が1.62×1.54m、底部が1.04×0.78mで深さは113cmである。底面中央付近に小穴を持つ。深さは46cmである。

〔覆土・堆積状況〕 炭化物粒ならびに黄褐色土粒を含む黒色～黒褐色土が堆積する。

〔壁〕 壁の立ち上がりは急である。

〔出土遺物〕 出土していない。

446号土坑（第101図、写真図版101）

〔位置・検出状況〕 JIV i 3 グリッドに位置する。攪乱層を除去したところ（IV層）で検出した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 平面形はやや不整な円形をなす。規模は開口部が2.1×1.78m、底部が1.5×1.2mで深さは18cmである。

〔覆土・堆積状況〕 炭化物粒ならびに黄褐色土粒を含む暗褐色土が堆積している。自然堆積と判断した。

〔壁〕 壁の立ち上がりは比較的緩やかである。

〔出土遺物〕 出土していない。

447号土坑（第101図、写真図版101）

〔位置・検出状況〕 JIV j 1 グリッドに位置する。攪乱層を除去したところ（IV層）で検出した。

〔重複〕 431号住と重複している。新旧関係は不明である。

〔平面形・規模〕 平面形は円形をなす。規模は開口部が1.04×1.04m、底部が0.69×0.66mで深さは62cmである。

〔覆土・堆積状況〕 炭化物粒ならびに黄褐色土粒を含む黒褐色土が堆積する。断面観察から人為堆積と判断した。

〔壁〕 壁の立ち上がりは急である。

〔出土遺物〕 出土していない。

448号土坑（第101図、写真図版102）

〔位置・検出状況〕 JIV f 4 ほかグリッドに位置する。攪乱層を除去したところ（IV層）で検出した。覆土の状況から人為的埋め戻しが行われたことが推測され、過去の発掘調査にかかわる遺構ではないかと疑い、報告書で確認したところ、報告書の配置図に合う遺構は確認することができなかった。

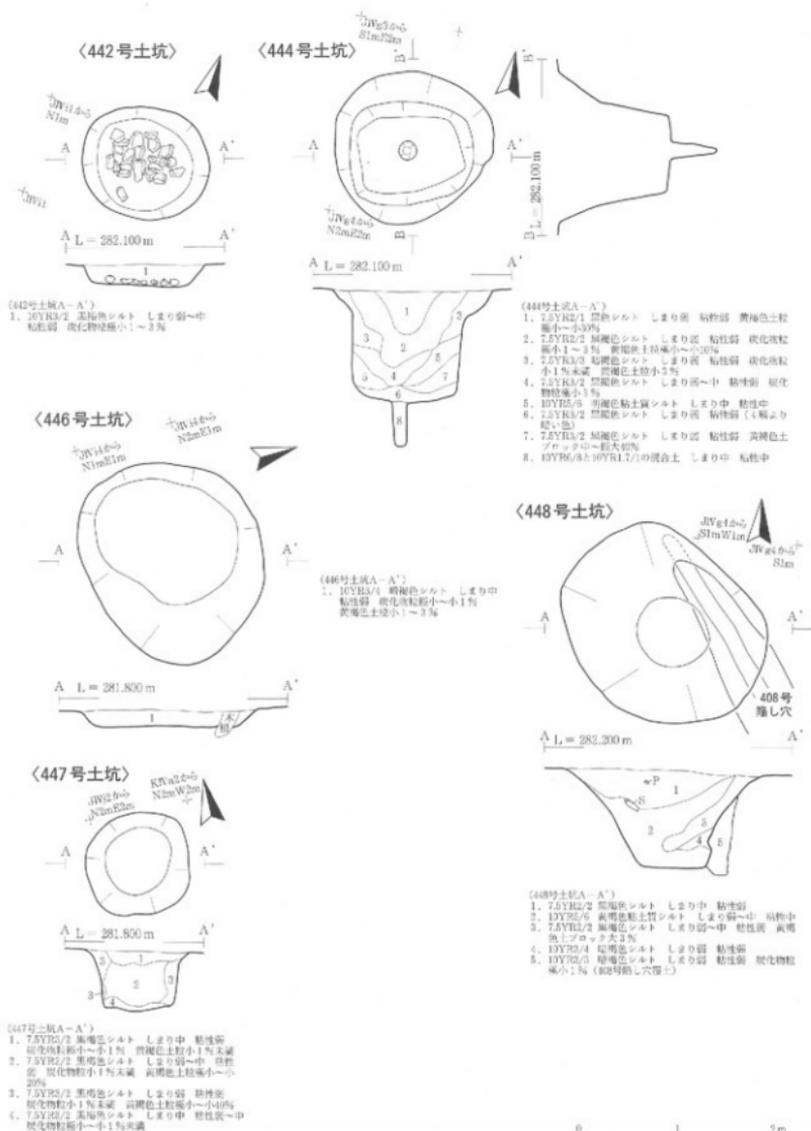
〔重複〕 408号陥し穴と重複する。検出状況ならびに断面観察から408号陥し穴→448号土坑の順に構築されたものと判断した。

〔平面形・規模〕 平面形は円形、規模は開口部が2.12×1.93m、底部が0.74×0.7mで深さは100cmである。

〔覆土・堆積状況〕 黄褐色土ブロックを含む黒褐色土ならびに黄褐色土を主体とした堆積である。断面観察から人為堆積と判断した。遺構の重複状況（溝状陥し穴より新しい遺構であること）などからみて現代の埋め戻し土の可能性も考えられる。

〔壁〕 壁の立ち上がりは急である。

〔出土遺物〕 No.810・811の土器が出土している。（第40・130図、写真図版198）



第101図 442・444・446~448号土坑

449号土坑（第102図、写真図版102）

【位置・検出状況】 JIV g 4 グリッドほかに位置する。攪乱層を除去したところ（IV層）で検出した。

【重複】 450号土坑と重複する。検出状況ならびに断面観察から449号土坑→450号土坑の順に構築されたものと判断した。

【平面形・規模】 平面形は円形をなす。規模は開口部が1.94×1.73m、底部が1.06×0.83mで深さは117cmである。底面中央付近に小穴を持つ。深さは30cmである。

【覆土・堆積状況】 覆土中位から下位にかけて黄褐色土ブロック（地山ブロック）を含む黒色土～褐色土が確認されるため、人為堆積の可能性が考えられる。上位部分は自然堆積と判断した。

【壁】 壁の立ち上がりは急である。

【その他】 当初は貯蔵穴の可能性も考えて掘り進めたが、掘り上がりの平面形から判断して陥穴の可能性が高い。

【出土遺物】 出土していない。

450号土坑（第102図、写真図版102）

【位置・検出状況】 JIV h 4 グリッドに位置する。攪乱層を除去したところ（IV層）で検出した。

【重複】 449号土坑と重複する。検出状況ならびに断面観察から449号土坑→450号土坑の順に構築されたものと判断した。

【平面形・規模】 平面形は円形、規模は開口部が1.22×1.2m、底部が0.78×0.77mで深さは31cmである。

【覆土・堆積状況】 炭化物粒ならびに黄褐色土粒を含む黒褐色土が堆積する。自然堆積と判断した。

【壁】 壁の立ち上がりは急である。

【出土遺物】 土器が出土するが小片のため掲載していない。

451号土坑（第102図、写真図版102）

【位置・検出状況】 JIV g 5 グリッドほかに位置する。攪乱層を除去したところ（IV層）で検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は楕円形、規模は開口部が2.36×1.84m、底部が1.79×1.28mで深さは77cmである。

【覆土・堆積状況】 覆土最上層（1層）は火山灰を含む。覆土下層にあたる9～10層には多量の地山粒、焼土粒、炭化物粒が混入する。また10層からは炭化材も複数確認されている。断面観察から人為堆積と判断した。

【壁】 壁の立ち上がりは急である。

【出土遺物】 出土していない。

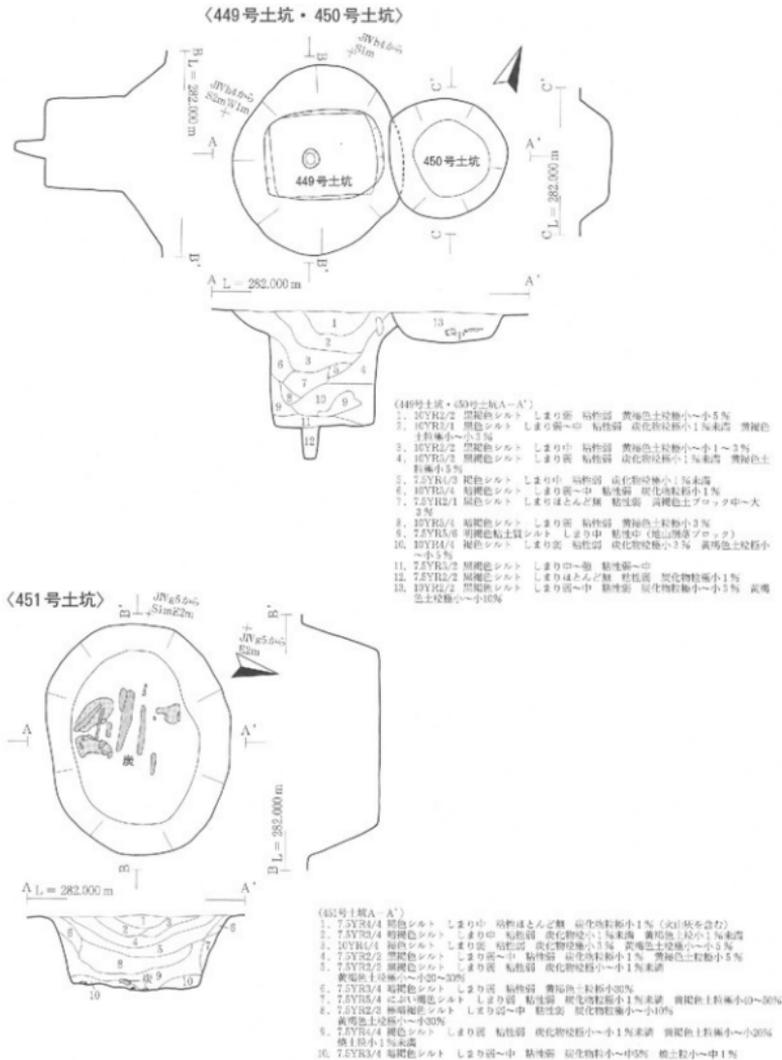
452号土坑（第103図、写真図版103）

【位置・検出状況】 JIV g 6 グリッドに位置する。攪乱層を除去したところ（IV層）で検出した。

【重複】 453号土坑と重複する。検出状況ならびに断面観察から452号土坑→453号土坑の順に構築されたものと判断した。

【平面形・規模】 平面形はやや不整な円形をなす。規模は開口部が2.14×1.68m、底部が1.67×1.23mで深さは28cmである。

【覆土・堆積状況】 炭化物粒、焼土粒、黄褐色土粒を含む暗褐色土～褐色土が堆積している。自然堆積と判断した。



第102図 449〜451号土坑

【壁】 壁の立ち上がりは緩やかである。

【出土遺物】 №812～816の土器が出土している。(第40・130図、写真図版198)

453号土坑 (第103図、写真図版103)

【位置・検出状況】 JIVe6グリッドほかに位置する。攪乱層を除去したところ(IV層)で検出した。

【重複】 452号土坑と重複する。検出状況ならびに断面観察から452号土坑→453号土坑の順に構築されたものと判断した。

【平面形・規模】 平面形はやや不整な円形をなす。規模は開口部が1.4×1.14m、底部が0.96×0.74mで深さは27cmである。

【覆土・堆積状況】 炭化物粒を含む褐色土を主体とした堆積である。自然堆積と判断した。

【壁】 壁の立ち上がりは急である。

【出土遺物】 出土していない。

454号土坑 (第103図、写真図版103)

【位置・検出状況】 KIIIa10グリッドに位置する。攪乱層を除去したところ(IV層)で検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形はやや不整な円形をなす。規模は開口部が1.56×1.24m、底部が1.12×0.94mで深さは46cmである。底面中央付近に小穴を持つ。深さは9cmである。

【覆土・堆積状況】 覆上下半は地山粒を含む黄褐色土で、その上に焼土ブロックの3層、褐色土の2層、暗褐色土の1層が堆積する。断面観察から人為堆積と判断した。

【壁】 壁の立ち上がりは急である。

【出土遺物】 №817・818の土器が出土している。(第40・130図、写真図版199)

455号A土坑 (第103図、写真図版103)

【位置・検出状況】 KIIIb10グリッドに位置する。攪乱層を除去したところ(IV層)で検出した。

【重複】 455号B土坑と重複する。当初は単独の遺構との判断で掘り進めたが、掘り上がりの状況から2つの遺構が重複しているという判断に至った。新旧関係については不明である。

【平面形・規模】 平面形は楕円形基調であるが不整である。規模は開口部が0.94×0.82m、底部が0.6×0.48mで深さは38cmである。

【覆土・堆積状況】 黄褐色土粒を含む極暗褐色土が堆積する。自然堆積と判断した。

【壁】 壁の立ち上がりは比較的緩やかである。

【出土遺物】 出土していない。

455号B土坑 (第103図、写真図版103)

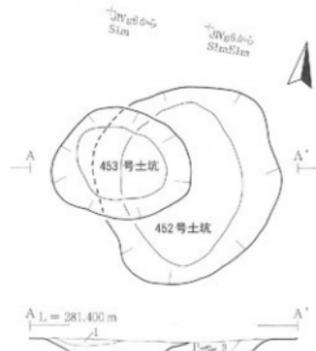
【位置・検出状況】 KIIIb10グリッドに位置する。

【重複】 455号A土坑と重複する。当初は単独の遺構との判断で掘り進めたが、掘り上がりの状況から2つの遺構が重複しているという判断に至った。新旧関係については不明である。

【平面形・規模】 平面形は楕円形基調であるが不整である。規模は開口部が0.98×0.74m、底部が0.56×(0.34)mで深さは34cmである。

【覆土・堆積状況】 黄褐色土粒を含む極暗褐色土が堆積する。自然堆積と判断した。

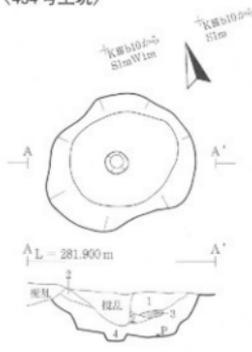
〈452・453号土坑〉



(502・608号土坑A-A')

1. 7.5YR5/2 黒褐色シト しまり弱 粘性弱 炭化物粒極小1%
2. 7.5YR4/4 褐色シト しまり中 粘性弱 炭化物粒極小1%
3. 7.5YR2/3 緑褐色シト しまり中 粘性弱 炭化物粒極小1% 黄褐色土粒極小5%
4. 7.5YR2/3 緑褐色シト しまり弱 粘性弱 炭化物粒極小1% 黄土粒小2%
5. 7.5YR4/6 褐色シト しまり弱 粘性弱 炭化物粒極小1%

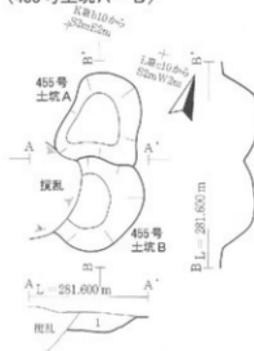
〈454号土坑〉



(604号土坑A-A')

1. 7.5YR5/4 暗褐色シト しまり弱 粘性弱 炭化物粒極小1% 黄褐色土粒極小10~15%
2. 10YR6/6 褐色シト しまり弱 粘性弱 炭化物粒極小1% 未淘
3. 5YR1/8 赤褐色シト しまり弱 粘性弱 (極上プロット)
4. 10YR4/6 黄褐色シト しまり弱 粘性弱 炭化物粒極小1% 黄褐色土粒小10~20%

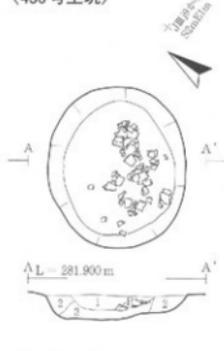
〈455号土坑A・B〉



(455号土坑A・B A-A')

1. 7.5YR2/3 緑褐色シト しまり弱 粘性弱 炭化物粒極小1% 黄褐色土粒極小1~2%

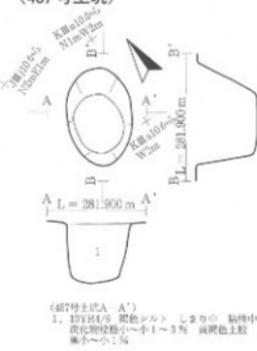
〈456号土坑〉



(456号土坑A-A')

1. 7.5YR3/4 暗褐色シト しまり弱 粘性弱 炭化物粒極小1~3%
2. 7.5YR1/4 暗褐色シト しまり弱 粘性弱 炭化物粒極小1% 黄褐色土粒極小2%
3. 7.5YR5/3 明褐色シト しまり中 粘性中 炭化物粒極小1%

〈457号土坑〉



(457号土坑A-A')

1. 10YR4/5 褐色シト しまり中 粘性中 炭化物粒極小1~3% 黄褐色土粒極小1~2%



第103図 452~457号土坑

【壁】 壁の立ち上がりは比較的緩やかである。

【出土遺物】 出土していない。

456号土坑（第103図、写真図版103）

【位置・検出状況】 JⅢj9 グリッドほかに位置する。427号住床面付近にて検出した。

【重複】 427号住と重複する。新旧関係は不明である。

【平面形・規模】 平面形は楕円形、規模は開口部が1.64×1.4m、底部が1.38×1.14mで深さは26cmである。

【覆土・堆積状況】 炭化物粒を含む明褐色土である3層の上に暗褐色土の1層が堆積している。遺物の大半はこの1層と3層の境目付近から出土している。

【壁】 壁の立ち上がりは比較的急である。

【出土遺物】 №819～824の土器が出土している。（第40・130・131図、写真図版199）

457号土坑（第103図、写真図版104）

【位置・検出状況】 JⅢj9 グリッドほかに位置する。427号住床面付近にて検出した。

【重複】 427号住床面の縁と隣接する。新旧関係については不明である。

【平面形・規模】 平面形は楕円形、規模は開口部が1×0.64m、底部が0.6×0.49mで深さは61cmである。

【覆土・堆積状況】 炭化物粒ならびに黄褐色土粒を含む褐色土が堆積している。断面観察から自然堆積と判断した。

【壁】 壁の立ち上がりは急である。

【出土遺物】 出土していない。

458号土坑（第104図、写真図版104）

【位置・検出状況】 JⅣg1 グリッドほかに位置する。攪乱層を除去したところ（Ⅳ層）で検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形はやや不整な楕円形をなす。規模は開口部が1.5×1.17m、底部が1.03×0.61mで深さは49cmである。

【覆土・堆積状況】 炭化物粒ならびに黄褐色土粒を含む黒褐色土～暗褐色土が堆積する。断面観察から自然堆積と判断した。

【壁】 北側の壁の立ち上がりは急であるが、南側の壁の立ち上がりは比較的緩やかである。

【出土遺物】 出土していない。

459号土坑（第104図、写真図版104）

【位置・検出状況】 KⅢd9 グリッドに位置する。421号住床面付近にて検出した。

【重複】 421号住と重複する。検出状況から459号土坑→421号住の順に構築されたものと判断した。

【平面形・規模】 平面形は円形、規模は開口部が0.87×0.7m、底部が0.56×0.46mで深さは33cmである。

【覆土・堆積状況】 2層は炭化物粒、地山粒、焼土粒を含む埋め戻し土である。

【壁】 壁の立ち上がりは急である。

【出土遺物】 出土していない。

460号土坑 (第104図、写真図版104)

【位置・検出状況】 KⅢd8グリッドほかに位置する。421号住床面付近にて検出した。

【重複】 421号住と重複する。検出状況から460号土坑→421号住の順に構築されたものと判断した。

【平面形・規模】 平面形は隅丸方形をなす。規模は開口部が1.66×1.34m、底部が1.26×1.12mで深さは56cmである。底面中央付近に小穴を持つ。深さは38cmである。

【覆土・堆積状況】 覆土は暗褐色土～黒褐色土を主体とし、壁際に地山崩落ブロックを含む。断面観察から自然堆積と判断した。

【壁】 壁は床面からオーバーハングしており、床上40cm程度から上は外反する。

【出土遺物】 出土していない。

461号土坑 (第104図、写真図版105)

【位置・検出状況】 KⅢd10グリッドに位置する。421号住床面付近にて検出した。

【重複】 421号住と重複する。検出状況から421号住→461号土坑の順に構築されたものと判断した。

【平面形・規模】 平面形は円形、規模は開口部が0.85×0.82m、底部が1.14×0.95mで深さは80cmである。

【覆土・堆積状況】 炭化物粒ならびに黄褐色土粒を含む黒色土～黒褐色土が堆積する。断面観察から自然堆積と判断した。

【壁】 壁はオーバーハングしたまま掘り込み面(精査時の掘り込み面)まで達する。

【出土遺物】 出土していない。

464号土坑 (第104図、写真図版105)

【位置・検出状況】 KⅢg10グリッドに位置する。412号住床面にて検出した。

【重複】 412号住と重複する。検出状況から464号土坑→412号住の順に構築されたものと判断した。

【平面形・規模】 平面形は楕円形、規模は開口部が1.18×0.94m、底部が0.8×0.66mで深さは26cmである。

【覆土・堆積状況】 炭化物粒ならびに黄褐色土粒を含む黒褐色土～褐色土が堆積する。断面観察から自然堆積と判断した。

【壁】 壁の立ち上がりは比較的緩やかである。

【出土遺物】 出土していない。

465号土坑 (第104図、写真図版105)

【位置・検出状況】 KⅢg10グリッドに位置する。412号住床面付近にて検出した。

【重複】 412号住と重複する。466号土坑→412号住の順に構築されたものと判断した。

【平面形・規模】 平面形はやや不整な楕円形をなす。規模は開口部が1.34×1m、底部が0.75×0.62mで深さは25cmである。

【覆土・堆積状況】 炭化物粒ならびに黄褐色土粒を含む褐色土を主体とする堆積で、自然堆積と判断した。

【壁】 東西の壁の立ち上がりは比較的緩やかである。南北の壁の立ち上がりは比較的急である。

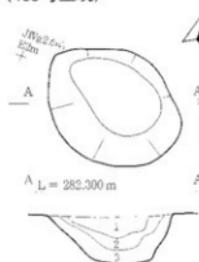
【出土遺物】 出土していない。

466号土坑 (第105図、写真図版105)

【位置・検出状況】 KⅢj10グリッドほかに位置する。Ⅱ層下部にて検出した。

【重複】 なし。

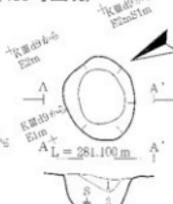
〈458号土坑〉



A L = 282.300 m

- (458号土坑A-A')
1. 10YR2/2 黄褐色シルト しまり硬 粘性强
炭灰質土粒微小0~30%
 2. 7.5YR2/2 黄褐色シルト しまり弱 粘性强
炭化物粒微小1%未満 黄褐色土粒微小10%
 3. 10YR3/4 暗褐色シルト しまり弱 粘性强
炭化物粒微小1%

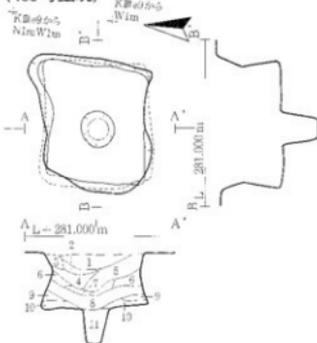
〈459号土坑〉



A L = 281.100 m

- (459号土坑A-A')
1. 7.5YR4/4 暗褐色シルト しまり硬~中
粘性强 炭化物粒微小~小1%未満
黄褐色土粒微小1%未満
 2. 7.5YR5/6 暗褐色シルト しまり中
粘性强 炭化物粒微小1%未満
黄褐色土粒微小1%

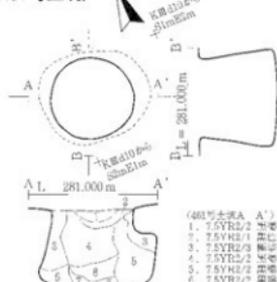
〈460号土坑〉



A L = 281.000 m

- (460号土坑A-A')
1. 7.5YR4/4 暗褐色シルト しまり中 粘性强 炭化物粒微小~小1%
黄褐色土粒微小~小1% 黄褐色土粒微小~小1%未満
 2. 7.5YR5/4 暗褐色シルト しまり中~強 粘性强 炭化物粒微小~小1%
黄褐色土粒微小1%
 3. 10YR4/6 暗褐色シルト しまり中 粘性强 炭化物粒微小1%未満
黄褐色土粒微小1%
 4. 10YR3/2 黄褐色シルト しまり中 粘性强 炭化物土粒微小~小3%
 5. 7.5YR5/3 暗褐色シルト しまり中 粘性强 炭化物土粒微小~小1%
黄褐色土粒微小~小1%未満
 6. 10YR5/6 黄褐色土粒微小シルト しまり中 粘性强 炭化物粒微小1%未満 (黄褐色土粒微小~小1%未満)
 7. 10YR5/2 黄褐色シルト しまり中~強 粘性强 炭化物土粒微小1% (4層より明る)
 8. 10YR2/2 暗褐色シルト しまり中~強 粘性强 炭化物粒微小~小1% 黄褐色土粒微小~小1%未満
 9. 10YR4/4 暗褐色シルト しまり中 粘性强 炭化物土粒微小~小1% 黄褐色土粒微小~小1%未満
 10. 10YR5/2 黄褐色シルト しまり中 粘性强 炭化物土粒微小1% (黄褐色土粒微小1%)
 11. 10YR5/6 黄褐色土粒微小シルト しまり中 粘性强

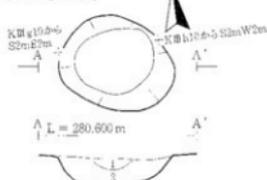
〈461号土坑〉



A L = 281.000 m

- (461号土坑A-A')
1. 7.5YR2/2 黄褐色シルト しまり硬 粘性强 炭化物土粒微小1% 黄褐色土粒微小~小10%
 2. 7.5YR3/1 黄褐色シルト しまり弱 粘性强 炭化物土粒微小~小10%
 3. 7.5YR2/2 黄褐色シルト しまり弱 粘性强 炭化物土粒微小1% 黄褐色土粒微小~小10%
 4. 7.5YR2/2 黄褐色シルト しまり弱 粘性强 炭化物土粒微小1% 黄褐色土粒微小~小10%
 5. 7.5YR3/2 黄褐色シルト しまり弱 粘性强 炭化物土粒微小1% 黄褐色土粒微小~小10%
 6. 7.5YR2/2 黄褐色シルト しまり弱 粘性强 炭化物土粒微小1% 黄褐色土粒微小~小10%
 7. 7.5YR2/2 黄褐色シルト しまり弱 粘性强 炭化物土粒微小1% 黄褐色土粒微小~小10%
 8. 7.5YR2/2 黄褐色シルト しまり弱 粘性强 炭化物土粒微小1% 黄褐色土粒微小~小10%

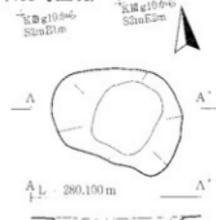
〈464号土坑〉



A L = 280.800 m

- (464号土坑A-A')
1. 10YR3/2 黄褐色シルト しまり硬 粘性强
炭化物粒微小1~3%
 2. 7.5YR3/2 黄褐色シルト しまり弱 粘性强~中
炭化物粒微小~小1% 黄褐色土粒微小1%

〈465号土坑〉



A L = 280.100 m

- (465号土坑A-A')
1. 7.5YR4/3 暗褐色シルト しまり弱 粘性强~中
炭化物土粒微小~小1% 黄褐色土粒微小1%
 2. 10YR5/4 黄褐色シルト しまり硬~中
炭化物土粒微小1~2%



〔平面形・規模〕 平面形はやや不整な楕円形をなす。規模は開口部が1.55×1.3m、底部が1.19×0.79mで深さは38cmである。

〔覆土・堆積状況〕 炭化物粒ならびに黄褐色土粒を含む極暗褐色土～黒色土が堆積し、自然堆積と判断した。

〔壁〕 壁の立ち上がりは比較的急である。

〔出土遺物〕 No234の礫石器が出土している。(第40・477図、写真図版277)

467号土坑 (第105図、写真図版106)

〔位置・検出状況〕 KIV j 1 グリッドほかに位置する。II層下部にて検出した。

〔重複〕 420号陥し穴と重複する。検出状況から467号土坑→420号陥し穴の順に構築されたものと判断した。

〔平面形・規模〕 平面形は隅丸方形から楕円形をなす。規模は開口部が1.31×1.02m、底部が1.55×1.05mで深さは110cmである。

〔覆土・堆積状況〕 壁際に地山崩落と思われる堆積層が確認され、中央部付近に黒色～黒褐色土が堆積する。断面観察から自然堆積と判断した。

〔壁〕 壁は底面付近からオーバーハングしている。

〔その他〕 当初は貯蔵穴の可能性も考えて掘り進めたが、掘り上がりの平面形から判断して陥し穴の可能性も考えられる。

〔出土遺物〕 出土していない。

468号土坑 (第105図、写真図版106)

〔位置・検出状況〕 KIV i 1 グリッドに位置する。II層下部にて検出した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 平面形は円形、規模は開口部が1.35×1.1m、底部が1.48×1.26mで深さは1.08cmである。

〔覆土・堆積状況〕 黄褐色土粒を含む黒色土～黒褐色土を主体とした堆積である。自然堆積と判断した。

〔壁〕 壁は底面から掘り込み面(精査時)までオーバーハングしている。

〔出土遺物〕 出土していない。

469号土坑 (第105図、写真図版106)

〔位置・検出状況〕 KIV e 3 グリッドほかに位置する。攪乱層を除去したところ(IV層)で検出した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 平面形はやや不整な楕円形をなす。規模は開口部が1.37×1.31m、底部が1.32×0.83mで深さは98cmである。底面中央部付近に小穴を持つ。深さは35cmである。

〔覆土・堆積状況〕 底面近くの壁際に褐色土～明褐色土が堆積し、その上に黄褐色土粒を含む黒褐色土が堆積する。自然堆積と判断した。

〔壁〕 壁の立ち上がりは急で、一部オーバーハングしている。

〔その他〕 当初は貯蔵穴の可能性も考えて掘り進めたが、掘り上がりの平面形から判断して陥し穴の可能性が高い。

〔出土遺物〕 出土していない。

470号土坑 (第105図、写真図版106)

〔位置・検出状況〕 KIV b 3 グリッドほかに位置する。攪乱層を除去したところ(IV層)で検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形はやや不整な楕円形をなす。規模は開口部が2.6×2 m、底部が2.37×1.7 mで深さは58 cmである。

【覆土・堆積状況】 最下層の9層は人為的埋め戻し土である。層中から炭化材が出土している。6層以上の層は自然堆積と判断した。1層はTo-a火山灰と推測される。

【壁】 壁の立ち上がりは急である。

【出土遺物】 底面付近から炭化材がまとまって出土した。その他遺物は出土していない。

471号土坑（第106図、写真図版107）

【位置・検出状況】 KIV a 3 グリッドほかに位置する。攪乱層を除去したところ（IV層）で検出した。

【重複】 472号土坑と重複する。検出状況から472号土坑→471号土坑の順に構築されたものと判断した。

【平面形・規模】 平面形は円形。規模は開口部が(1.95)×1.62 m、底部が1.48×1.47 mで深さは43 cmである。

【覆土・堆積状況】 炭化物粒ならびに黄褐色土粒を含む黒褐色土→暗褐色土が堆積する。断面観察から自然堆積と判断した。

【壁】 壁の立ち上がりは急である。

【出土遺物】 №826の土器、№448石器が出土している。471・472号土坑一括として№825の土器が出土している。（第40・131・221図、写真図版199・246）

472号土坑（第106図、写真図版107）

【位置・検出状況】 KIV a 4 グリッドに位置する。攪乱層を除去したところ（IV層）で検出した。

【重複】 471号土坑と重複する。検出状況から472号土坑→471号土坑の順に構築されたものと判断した。

【平面形・規模】 平面形は円形をなすと思われる。規模は開口部が1.27×(0.66) m、底部が1.15×(0.57) mで深さは22 cmである。

【覆土・堆積状況】 炭化物粒ならびに黄褐色土粒を含む暗褐色土が堆積する。自然堆積と判断した。

【壁】 壁の立ち上がりは急である。

【出土遺物】 471・472号土坑 一括として№825の土器が出土している。（第40・131図、写真図版199）

473号土坑（第106図、写真図版107）

【位置・検出状況】 KIV a 4 グリッドに位置する。攪乱層を除去したところ（IV層）で検出した。

【重複】 474号土坑と重複する。検出状況ならびに断面観察から474号土坑→473号土坑の順に構築されたものと判断した。

【平面形・規模】 平面形は楕円形をなすと思われる。規模は開口部が(1.55)×(0.8) m、底部が(1.1)×(0.5) mで深さは(18) cmである。

【覆土・堆積状況】 炭化物粒ならびに黄褐色土粒を含む灰褐色土が堆積する。自然堆積と判断した。

【壁】 壁の立ち上がりは比較的緩やかである。

【出土遺物】 出土していない。

474号土坑（第106図、写真図版107）

【位置・検出状況】 KIV a 4 グリッドに位置する。攪乱層を除去したところ（IV層）にて検出した。

【重複】 473号土坑、424号簡し穴と重複する。検出状況ならびに断面観察から、474号土坑→473号土坑・

424号陥し穴の順に構築されたものと判断した。

【平面形・規模】 平面形はやや不整な円形をなす。規模は開口部が(2.1)×2.0m、底部が(2.18)×1.55mで深さは68cmである。底面中央付近に小穴を持つ。深さは(40)cmである。

【覆土・堆積状況】 黄褐色土粒ならびにブロックを含む褐色土を主体とした堆積である。断面観察から人為堆積と判断した。

【壁】 壁の立ち上がりは急である。

【出土遺物】 №235の礫石器が出土している。(第41・277図、写真図版277)

475号土坑 (第106図、写真図版107)

【位置・検出状況】 KIV b 3 グリッドほかに位置する。攪乱層を除去したところ (IV層) で検出した。

【重複】 422号陥し穴と重複する。検出状況から422号陥し穴→475号土坑の順に構築されたものと判断した。

【平面形・規模】 平面形は楕円形、規模は開口部が1.8×1.2m、底部が1.45×1.05mで深さは18cmである。

【覆土・堆積状況】 黄褐色土粒ならびに炭化物粒、焼土粒を含む黒褐色土が堆積する。人為堆積と判断した。

【壁】 壁の立ち上がりは急であるが、壁自体ほとんど残存していない。

【出土遺物】 出土していない。

476号土坑 (第107図、写真図版108)

【位置・検出状況】 KIV a 2 グリッドほかに位置する。攪乱層を除去したところ (IV層) で検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は円形をなす。規模は開口部が1.79×1.78m、底部が1.6×1.6mで深さは48cmである。底面中央付近に小穴を持つ。深さは28cmである。

【覆土・堆積状況】 最下層に炭化物粒ならびに黄褐色土粒を含む褐色土～明褐色土が堆積する (4～5層)。上層の1層は黄褐色土粒を比較的多く含む黒褐色土であり、土器片などの遺物を多く出土する。

【壁】 壁の立ち上がりは急である。

【出土遺物】 №827の土器が出土している。(第41・131図、写真図版199)

477号土坑 (第107図、写真図版108)

【位置・検出状況】 KIV a 3 グリッドに位置する。攪乱層を除去したところ (IV層) で検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は円形、規模は開口部が1×0.91m、底部が0.59×0.58mで深さは43cmである。

【覆土・堆積状況】 黄褐色土粒ならびに炭化物粒を含む褐色土が堆積する。

【壁】 壁の立ち上がりは急である。

【出土遺物】 土器が出土するが小片のため掲載していない。

478号土坑 (第107図、写真図版108)

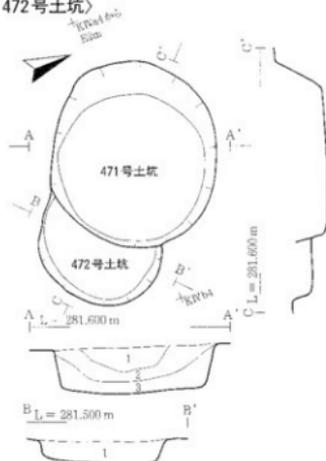
【位置・検出状況】 KIV b 2 グリッドに位置する。攪乱層を除去したところ (IV層) で検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は不整な楕円形をなす。規模は開口部が1.21×0.87m、底部が0.53×0.43mで深さは40cmである。

【覆土・堆積状況】 黒褐色土～極暗褐色土が堆積する。

<471・472号土坑>



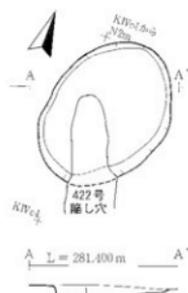
(471号土坑A-A')

1. 7.5YR2/2 黄褐色シルト しまり中～強 粘柱石 黄褐色土粒極小～小5% 炭化物9%極小2%
2. 7.5YR5/2 黄褐色シルト しまり中～強 粘柱石 黄褐色土粒中～大15% 炭化物極小5%
3. 7.5YR5/4 黄褐色シルト しまり中～強 粘柱石 黄褐色土粒極小5% 炭化物中3%

(472号土坑B-B')

1. 7.5YR5/2 黄褐色シルト しまり中 粘柱石 黄褐色土粒中～小5% 炭化物極小～中5%

<475号土坑>



(475号土坑A-A')

1. 7.5YR 5/2 黄褐色シルト しまり中～強 粘柱石 黄褐色土粒極小10% 炭化物極小～中5% 炭土粒(7%極小) 中～大

<473・474号土坑>



(473・474号土坑A-A')

1. 7.5YR4/2 黄褐色シルト しまり強 粘柱石 黄褐色土粒中10% 炭化物極小3% (473号土坑層上)
2. 7.5YR2/2 黄褐色シルト しまり強～中 粘柱石 黄褐色土粒中～大20% 炭化物極小～中10% (474号離し穴埋土、2層に別記)
3. 7.5YR4/4 黄褐色シルト しまり強～中 粘柱石 黄褐色土粒中～大20%
4. 7.5YR4/4 黄褐色シルト しまり強 粘柱石 黄褐色土粒中5% 炭化物極小～中5%
5. 7.5YR5/4 黄褐色シルト しまり中 粘柱石 黄褐色土粒中～中5% 炭化物極小2%

第106図 471～475号土坑

【壁】 壁の立ち上がりは比較的緩やかである。

【その他】 当初は貯蔵穴の可能性も考えて掘り進めたが、掘り上がりの平面形から判断して陥し穴の可能性が高い。

【出土遺物】 №828の土器が出土している。(第41・131図、写真図版199)

479号土坑 (第107図、写真図版108)

【位置・検出状況】 JIV j 3 グリッドに位置する。攪乱層を除去したところ (IV層) で検出した。

【重複】 424号住と重複する。検出状況ならびに断面観察から424号住→479号土坑の順に構築されたものと判断した。

【平面形・規模】 平面形はやや不整な楕円形をなす。規模は開口部が1.79×1.6m、底部が1.54×0.77mで深さは38cmである。

【覆土・堆積状況】 黄褐色土粒 (地山粒) ならびに炭化物粒を含む褐色土が堆積する。覆土最上部は現代の攪乱層である。人為堆積と判断した。

【壁】 壁の立ち上がりは急である。

【出土遺物】 出土していない。

480号土坑 (第107図、写真図版109)

【位置・検出状況】 KIV f 1 グリッドに位置する。414号住床面付近にて検出した。

【重複】 413号住、414号住と重複する。新旧関係については、414号住の検出時ならびに精査時にはこの土坑を検出できていないことから、480号土坑→414号住であるが、413号住との新旧関係は不明である。

【平面形・規模】 平面形は不整な円形をなす。規模は開口部が1.41×1.29m、底部が1.2×1.01mで深さは42cmである。底面に小穴を持つがすべて重複する住居に伴うと判断した。

【覆土・堆積状況】 黄褐色土粒 (地山粒) を含む黒褐色土～褐色土が堆積する。断面観察から人為堆積と判断した。

【壁】 壁の立ち上がりは急である

【出土遺物】 出土していない。

481号土坑 (第108図、写真図版109)

【位置・検出状況】 KIV f 3 グリッドほかに位置する。II層下部にて検出した。検出当初は414号住に重複する大形住居という認識であったが、炬や柱穴が確認されないことや床面の状況などから土坑に変更した。

【重複】 414号住と重複する。断面観察から481号土坑→414号住の順に構築されたものと判断した。また482号土坑とも部分的に重複するが、検出状況から判断することはできなかったため新旧関係は不明である。

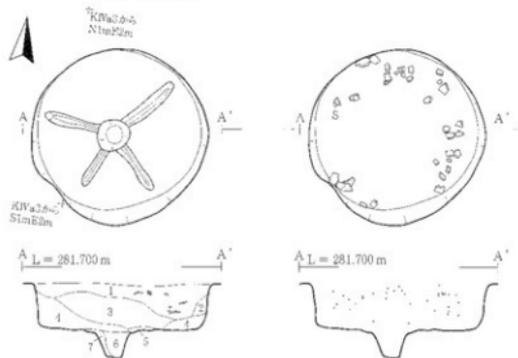
【平面形・規模】 平面形は楕円形基調であるが不整である。規模は開口部が3×2.5m、底部が2.46×1.96mで深さは45cmである。

【覆土・堆積状況】 炭化物粒ならびに黄褐色土粒 (地山粒) を含む黒褐色土を主体とする堆積である。図中2層～6層まで、満遍なく遺物が出土する。中間付近にあたる4層には焼土粒も含まれる。断面観察から人為堆積と判断した。

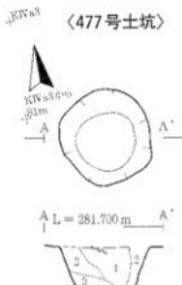
【壁】 壁の立ち上がりは緩やかである。

【出土遺物】 №829・830の土器、№419～456の剥片石器・石製品、№236の礫石器が出土している。481・482号土坑一括として№831～862の土器、№457～466の剥片石器・石製品、№237～245の礫石器が出土して

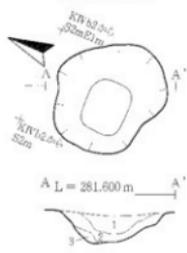
〈476号土坑〉



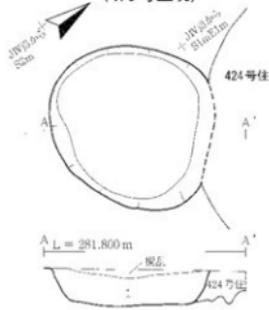
〈477号土坑〉



〈478号土坑〉



〈479号土坑〉



〈477号土坑A'〉

- 7.5YR4/3 黄褐色シルト、しまり強 粘粒層
黄褐色土粒小〜中3% 炭化微粒極小〜小3%
- 7.5YR4/4 黄褐色シルト、しまり中 粘粒層
黄褐色土粒小〜中5%
- 7.5YR4/3 暗褐色シルト、しまり強 粘土質
黄褐色土粒極小〜小5% (1層よりやや硬い)

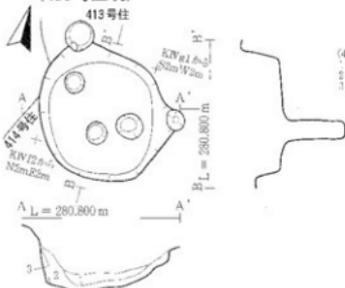
〈478号土坑A'〉

- 7.5YR2/2 黄褐色シルト、しまり強 粘り強
黄褐色土粒極小〜小10%
- 7.5YR2/2 黄褐色粘土質シルト、しまり強 粘性
強 黄褐色土粒極小〜小10%
- 7.5YR5/8 暗褐色粘土質シルト、しまり中
粘り強 (加山ゾックで覆り蓋蓋)

〈479号土坑A'〉

- 7.5YR4/4 暗褐色シルト、しまり中 粘り中
黄褐色土粒小〜中15% 炭化微粒極小5%

〈480号土坑〉



〈480号土坑A'〉

- 7.5YR4/3 黄褐色シルト、しまり強 粘土質
黄褐色土粒小〜大30% 炭化土粒小〜大30%
- 7.5YR4/3 黄褐色シルト、しまり強 粘り強
黄褐色土粒中〜大10%
- 7.5YR2/8 暗褐色シルト、しまり強 粘粒中〜強
黄褐色土粒中〜大30%



第107図 476~480号土坑

いる。(第41・42・131～136・221～222・277・278図、写真図版199～202・246・277・278)

482号土坑 (第108図、写真図版109)

【位置・検出状況】 KIV e 3 グリッドに位置する。Ⅱ層下部～Ⅲ層付近で検出した。検出当初は414号住に重複する人形住居という認識であったがやがて柱穴が確認されないことや床面の状況などから土坑に変更した。

【重複】 481号土坑と部分的に重複するが、検出状況から判断することはできなかったため新旧関係は不明である。

【平面形・規模】 平面形は楕円形をなす。規模は開口部が(2.64)×(2.18)m、底部が2.26×1.76mで深さは27cmである。

【覆土・堆積状況】 炭化物粒ならびに黄褐色土粒を含む褐色土主体の堆積である。人為堆積と判断した。

【壁】 壁の立ち上がりは緩やかである。

【出土遺物】 481・482号土坑一括としてNo831～862の土器、No457～466の剥片石器・石製品、No237～245の礫石器が出土している。(第41・42・131～136・222・277・278図、写真図版199～202・246・277・278)

483号土坑 (第108図、写真図版109)

【位置・検出状況】 KIV d 4 グリッドに位置する。Ⅱ層下部～Ⅲ層にて検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 開口部は楕円形、底面は長方形をなす。規模は開口部が(1.32)×0.88m、底部が(0.78)×0.96mで深さは122cmである。底面中央付近に小穴を持つ。深さは48cmである。

【覆土・堆積状況】 黄褐色土粒を含む褐色土～黒褐色土が堆積する。自然堆積と判断した。

【壁】 壁の立ち上がりは急で、底面から開口部に向かいオーバーハングしている。

【出土遺物】 出土していない。

484号土坑 (第108図、写真図版109)

【位置・検出状況】 KIV e 3 グリッドに位置する。攪乱層を除去したところで検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は楕円形、規模は開口部が1.30×0.86m、底部が1.10×0.6mで深さは34cmである。

【覆土・堆積状況】 炭化物粒ならびに黄褐色土粒を含む黒褐色土～暗褐色土が堆積する。断面観察から自然堆積と判断した。

【壁】 壁の立ち上がりは急である。

【出土遺物】 出土していない。

485号土坑 (第109図、写真図版109)

【位置・検出状況】 KIII e 3 グリッドに位置する。303号住床面付近で検出した。

【重複】 303号住、313号土坑と重複する。検出状況ならびに断面観察から313号土坑→485号土坑→303号住の順に構築されたものと判断した。

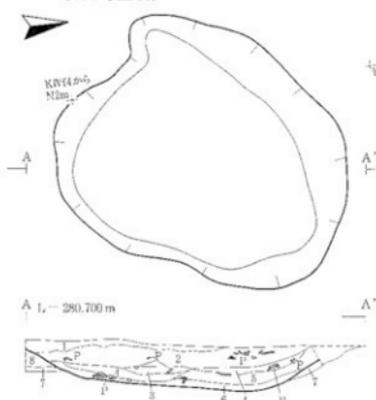
【平面形・規模】 平面形は円形、規模は開口部が(0.94)×0.94m、底部が(5.8)×(3.4)で深さは35cmである。

【覆土・堆積状況】 黄褐色土粒(地山粒)を含む褐色土により埋め込まれている。人為堆積と判断した。

【壁】 壁の立ち上がりは比較的急である。

【出土遺物】 土器が出土しているが小片のため掲載していない。

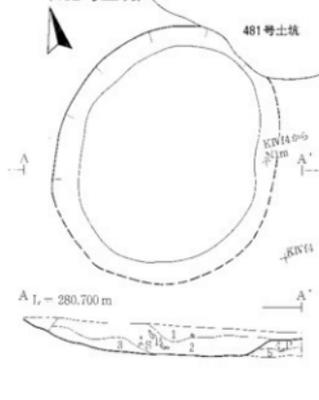
〈481号土坑〉



(481号土坑A-A')

- 7.5YR2/1 黄褐色シルト しまり弱 粘性弱 炭化物粒極小5% 炭屑極小10%
- 7.5YR2/2 黄褐色シルト しまり中 粘性强-中 炭化物粒極小5% 炭屑極小10%
- 7.5YR3/2 黄褐色シルト しまり中 粘性强-中 炭化物粒極小5%
- 7.5YR2/2 黄褐色シルト しまり中 粘性强 炭化物粒極小5% 炭屑極小10%
- 7.5YR2/2 黄褐色シルト しまり中 粘性强 炭化物粒極小5% 炭屑極小10%
- 7.5YR3/3 暗褐色シルト しまり中-強 粘性强 炭化物粒極小5%
- 7.5YR4/4 褐色シルト しまり中 粘性强(炭屑量の土層)
- 7.5YR3/2 黄褐色シルト しまり中 粘性强 炭化物粒極小5%

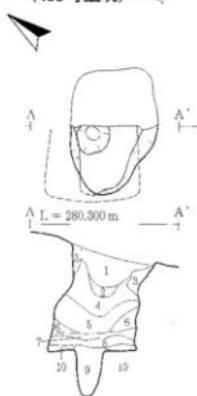
〈482号土坑〉



(482号土坑A-A')

- 7.5YR3/3 暗褐色シルト しまり弱 粘性强 炭化物粒極小5%
- 7.5YR4/3 暗褐色シルト しまり中 粘性强 炭化物粒極小5% 炭屑極小10%
- 7.5YR4/1 褐色シルト しまり中 粘性强 炭化物粒極小10%
- 7.5YR3/3 暗褐色シルト しまり弱 粘性强 炭化物粒極小5%
- 7.5YR4/3 暗褐色シルト しまり中 粘性强

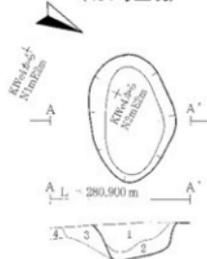
〈483号土坑〉



(483号土坑A-A')

- 7.5YR2/2 暗褐色シルト しまり中 粘性强 炭化物粒極小5%
- 7.5YR2/2 暗褐色シルト しまり中 粘性强 炭化物粒極小10%
- 10YR4/6 褐色シルト しまり中 粘性强
- 7.5YR2/3 暗褐色シルト しまり中 粘性强
- 7.5YR2/2 暗褐色シルト しまり中 粘性强 炭化物粒極小5%
- 10YR4/6 褐色シルト しまり中 粘性强
- 7.5YR2/1 黄褐色シルト しまり弱 粘性强
- 10YR4/1 褐色シルト しまり中-弱 粘性强 炭化物粒極小10%
- 10YR4/6 褐色シルト しまり中 粘性强
- 10YR4/6 褐色シルト しまり中-弱

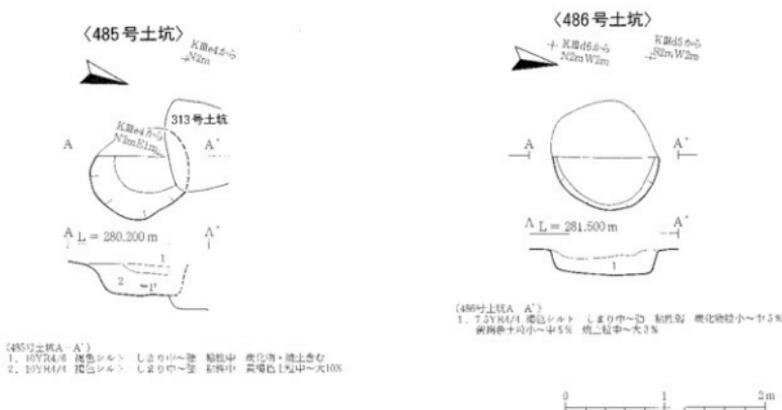
〈484号土坑〉



(484号土坑A-A')

- 7.5YR3/2 暗褐色シルト しまり中 粘性强 炭化物粒極小10% 炭屑極小10%
- 7.5YR3/3 暗褐色シルト しまり中 粘性强 炭化物粒極小5%
- 7.5YR2/3 暗褐色シルト しまり中 粘性强 炭化物粒極小5%
- 7.5YR4/4 褐色シルト しまり中 粘性强





第109図 485・486号土坑

486号土坑 (第109図、写真図版109)

【位置・検出状況】 K III c 5 グリッドに位置する。305号住東端部付近で検出した。

【重複】 305号住と重複する。新旧関係は不明である。

【平面形・規模】 平面形は円形をなす。規模は開口部が(1.12)×1.08m、底部が(0.48)×0.98mで深さは26cmである。

【覆土・堆積状況】 炭化物粒ならびに焼土粒を含む褐色土が堆積する。人為堆積と判断した。

【壁】 壁の立ち上がりは急である。

【出土遺物】 出土していない。

501号土坑 (第110図、写真図版110)

【位置・検出状況】 L III c 9 グリッドに位置する。II層下部にて検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形はやや不整な楕円形をなす。規模は開口部が2.23×1.26m、底部が1.87×1.07mで深さは38cmである。

【覆土・堆積状況】 黄褐色土粒(地山粒)ならびに黒色土ブロックを含む黒褐色土～暗褐色土が堆積する。断面観察から人為堆積と判断した。

【壁】 壁の立ち上がりは急である。

【出土遺物】 No867の土器が出土している。(第42・136図、写真図版202)

502号土坑 (第110図、写真図版110)

【位置・検出状況】 L III b 8 グリッドほかに位置する。II層下部にて検出した。

【重複】 なし。ただし南側3分の1程度は風倒木痕によって破壊されている。

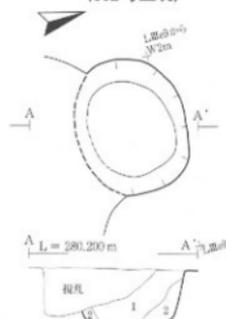
【平面形・規模】 平面形は楕円形、規模は開口部が1.4×(1.4)m、底部が1.0×(0.8)mで深さは55cmである。

<501号土坑>



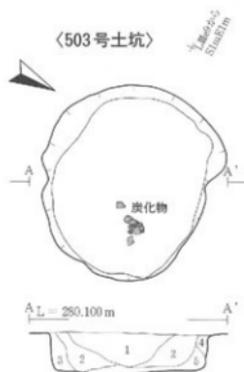
- (501号土坑A-A')
1. 7.5YR3/2 黒褐色シルト しまり中 粘性弱 黄褐色土粒極小〜小2%
 2. 7.5YR3/1 黒褐色シルト しまり中 粘性弱 黄褐色土粒極小〜小2%
 3. 7.5YR2/2 黒褐色シルト しまり中 粘性中 黄褐色土粒小〜粒大10% 黄褐色土炭状フロック (図く描きまわっている) 23%

<502号土坑>



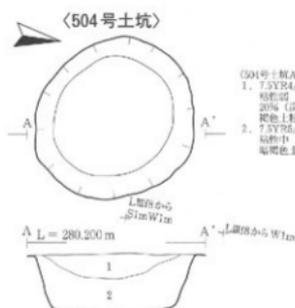
- (502号土坑A-A')
1. 7.5YR2/2 黒褐色シルト しまり弱〜中 粘性弱 黄褐色土粒極小〜小2% 炭化物粒極小3%
 2. 7.5YR4/3 褐色シルト しまり中 粘性弱 黄褐色土粒小〜中30%

<503号土坑>



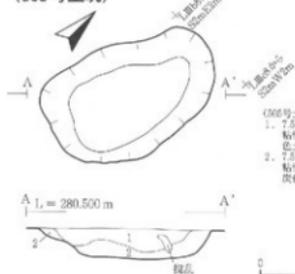
- (503号土坑A-A')
1. 7.5YR3/2 黒褐色シルト しまり中 粘性弱 黄褐色土粒極小〜小2% 炭化物粒極小〜小3%
 2. 7.5YR3/2 黒褐色シルト しまり中 粘性弱 黄褐色土粒極小〜小2% 炭化物粒極小〜小1%
 3. 7.5YR4/2 褐色シルト しまり弱〜中 粘性弱 黄褐色土粒中〜極大40%
 4. 7.5YR5/6 明褐色シルト しまり弱 粘性弱 肥土上フロック23%
 5. 7.5YR4/3 褐色シルト しまり中 粘性弱 黄褐色土粒極小〜中 炭化物粒極小1%

<504号土坑>



- (504号土坑A-A')
1. 7.5YR2/4 褐色シルト しまり中 粘性弱 黄褐色土粒極小〜中20% (炭化物粒、炭土粒を含む) 黄褐色土粒小〜極大20%
 2. 7.5YR5/6 明褐色シルト しまり弱 粘性中 黄褐色土粒小〜粒大20% 黄褐色土フロック小15%

<505号土坑>



- (505号土坑A-A')
1. 7.5YR3/1 黒褐色シルト しまり中 粘性弱 炭化物粒極小〜中15% 黄褐色土粒中2%
 2. 7.5YR3/2 黒褐色シルト しまり中 粘性中 黄褐色土フロック中15% 炭化物粒極小3%

第110図 501~505号土坑

【覆土・堆積状況】 炭化物粒ならびに黄褐色土粒を含む黒褐色土を主体とした堆積である。

【壁】 壁の立ち上がりは急である。

【出土遺物】 出土していない。

503号土坑（第110図、写真図版110）

【位置・検出状況】 LIII e9 グリッドに位置する。II層下部にて検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形はやや不整な楕円形をなす。規模は開口部が1.95×1.56m、底部が1.8×1.47mで深さは41cmである。

【覆土・堆積状況】 炭化物粒ならびに黄褐色土粒を含む黒褐色土～暗褐色土を主体とした堆積である。断面観察から人為堆積と判断した。

【壁】 壁の立ち上がりは急である。

【出土遺物】 出土していない。

504号土坑（第110図、写真図版110）

【位置・検出状況】 LIII e8 グリッドに位置する。II層下部にて検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は円形をなす。規模は開口部が1.7×1.6m、底部が1.22×1.2mで深さは60cmである。

【覆土・堆積状況】 炭化物粒、焼土粒などを含む褐色土～明褐色土によって埋め戻されている。検出状況ならびに断面観察から人為堆積と判断した。

【壁】 壁の立ち上がりは急である。

【出土遺物】 出土していない。

505号土坑（第110図、写真図版111）

【位置・検出状況】 LIII b8 グリッドに位置する。II層下部にて検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形はやや不整な楕円形をなす。規模は開口部が1.79×1.14m、底部が1.35×0.7mで深さは30cmである。

【覆土・堆積状況】 炭化物粒ならびに黄褐色土粒を含む黒褐色土が堆積する。断面観察から自然堆積と判断した。

【壁】 壁の立ち上がりは比較的急である。

【出土遺物】 No863の土器、No467の剥片石器が出土している。（第42・136・223図、写真図版202・246）

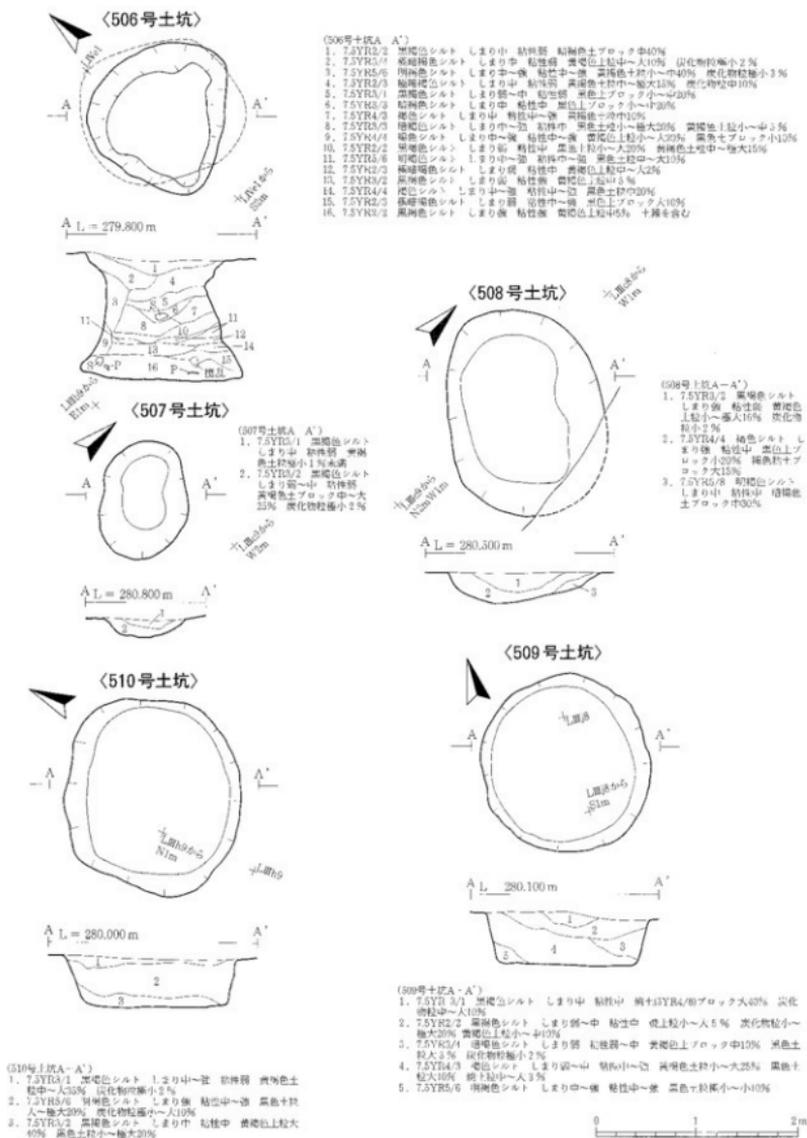
506号土坑（第111図、写真図版111）

【位置・検出状況】 LIV d1 グリッドはかに位置する。II層下部～III層にて検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形はやや不整な円形をなす。規模は開口部が1.5×1.35m、底部が1.65×1.41mで深さは128cmである。

【覆土・堆積状況】 炭化物粒ならびに黄褐色土粒を含む黒褐色土～明褐色土が堆積する。断面観察から自然堆積と判断した。



第111図 506～510号土坑

【壁】 壁は底面からオーバーハングして立ち上がる。

【出土遺物】 土器が出土しているが小片のため掲載していない。

507号土坑（第111図、写真図版111）

【位置・検出状況】 LⅢ b 8 グリッドほかに位置する。Ⅱ層下部にて検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は楕円形、規模は開口部が1.32×1.2m、底部が0.91×0.4mで深さは18cmである。

【覆土・堆積状況】 炭化物粒ならびに黄褐色土粒を含む黒褐色土が堆積する。断面観察から自然堆積と判断した。

【壁】 壁の立ち上がりは緩やかである。

【出土遺物】 出土していない。

508号土坑（第111図、写真図版111）

【位置・検出状況】 LⅢ b 8 グリッドに位置する。攪乱層を除去したところで検出した。

【重複】 なし。遺構東端部が現代の攪乱により破壊されている。

【平面形・規模】 平面形は楕円形、規模は開口部が2.1×1.55m、底部が1.5×0.95mで深さは32cmである。

【覆土・堆積状況】 炭化物粒ならびに黄褐色土粒を含む黒褐色土～褐色土が堆積する。

【壁】 壁の立ち上がりは緩やかである。

【出土遺物】 出土していない。

509号土坑（第111図、写真図版112）

【位置・検出状況】 LⅢ i 7 グリッドほかに位置する。Ⅱ層下部にて検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は円形、規模は開口部が1.8×1.71m、底部が1.56×1.4mで深さは54cmである。

【覆土・堆積状況】 覆土には炭化物粒のほか焼土粒、焼土ブロックを含む。1～2層には黒褐色土が、3～4層には暗褐色土～褐色土が堆積する。検出状況ならびに断面観察から人為堆積と判断した。

【壁】 壁の立ち上がりは急である。

【出土遺物】 出土していない。

510号土坑（第111図、写真図版112）

【位置・検出状況】 LⅢ g 8 グリッドほかに位置する。攪乱層を除去したところ（Ⅳ層）にて検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は円形、規模は開口部が2.08×1.78m、底部が1.72×1.45mで深さは48cmである。

【覆土・堆積状況】 炭化物粒ならびに黄褐色土（地山粒）を含む黒褐色土～明褐色土が堆積する。検出状況ならびに断面観察から人為堆積と判断した。

【壁】 壁の立ち上がりは急である。

【出土遺物】 出土していない。

601号土坑（第112図、写真図版113）

【位置・検出状況】 EⅢ e 6 グリッドほかに位置する。Ⅱ層下部にて検出した。

〔重複〕 605号陥し穴と重複する。601号土坑→605号陥し穴の順で構築されたと判断した。遺構東半は風倒木痕による攪乱で破壊されている。

〔平面形・規模〕 平面形は楕円形をなすと思われる。規模は開口部が(1.92)×(1.32)m、底部が(0.5)×0.7mで深さは32cmである。

〔覆土・堆積状況〕 黒褐色土～暗褐色土が堆積する。1層には焼土ブロックが混入する。

〔壁〕 壁の立ち上がりは比較的緩やかである。

〔出土遺物〕 出土していない。

602号土坑 (第112図、写真図版113)

〔位置・検出状況〕 EⅢ e 5 グリッドほかに位置する。Ⅱ層下部にて検出した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 平面形はやや不整な円形をなす。規模は開口部が1.36×1.1m、底部が1.24×1.12mで深さは40cmである。

〔覆土・堆積状況〕 黄褐色土粒ならびに明褐色土粒を含む極暗褐色土～暗褐色土が堆積する。断面観察から自然堆積と判断した。

〔壁〕 壁の立ち上がりは急である。遺構の東側半分程度については壁がオーバーハングする。

〔出土遺物〕 出土していない。

603号土坑 (第112図、写真図版113)

〔位置・検出状況〕 EⅢ e 2 グリッドに位置する。Ⅱ層下部にて検出した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 平面形は楕円形、規模は開口部が1.56×1.32m、底部が0.96×0.76mで深さは45cmである。

〔覆土・堆積状況〕 黒褐色土～明褐色土が堆積する。断面観察から自然堆積と判断した。

〔壁〕 壁の立ち上がりは比較的緩やかである。

〔出土遺物〕 出土していない。

604号土坑 (第112図、写真図版113)

〔位置・検出状況〕 FⅢ f 3 グリッドに位置する。Ⅱ層下部にて検出した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 平面形はやや不整な円形をなす。規模は開口部が1.3×1.06m、底部が1.5×1.24mで深さは79cmである。

〔覆土・堆積状況〕 炭化物粒ならびに黄褐色土粒を含む黒褐色土～暗褐色土が堆積する。

〔壁〕 壁はほとんどが底面からオーバーハングしている。

〔出土遺物〕 出土していない。

605号土坑 (第112図、写真図版114)

〔位置・検出状況〕 FⅢ g 3 グリッドほかに位置する。Ⅱ層下部にて検出した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 平面形は楕円形、規模は開口部が1.1×0.84m、底部が0.98×0.88mで深さは85cmである。

〔覆土・堆積状況〕 炭化物粒ならびに黄褐色土粒を含む暗褐色土を主体とする堆積である。少なくとも1層

以外は埋め戻し土の可能性が高い。

【壁】 北側の壁の立ち上がりは急である。南側の壁はオーバーハングしている。

【出土遺物】 覆土下位（5層）から完形の壺2点（No.869と870）が出土している。（第42・136図、写真図版202）

606号土坑（第112図、写真図版114）

【位置・検出状況】 EⅢ f4 グリッドに位置する。Ⅱ層下部にて検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は円形、規模は開口部が1.48×1.22m、底部が1.16×1.54mで深さは37cmである。

【覆土・堆積状況】 炭化物粒を含む黒褐色土を主体とした堆積である。自然堆積と判断した。

【壁】 壁の立ち上がりは急である。

【出土遺物】 出土していない。

607号土坑（第112図、写真図版114）

【位置・検出状況】 EⅢ j3 グリッドほかに位置する。Ⅱ層下部にて検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は円形、規模は開口部が1.04×0.9m、底部が0.82×0.78mで深さは39cmである。

【覆土・堆積状況】 黄褐色土粒を含む暗褐色土を主体とした堆積である。自然堆積と判断した。

【壁】 壁の立ち上がりは急である。

【出土遺物】 出土していない。

608号土坑（第112図、写真図版114）

【位置・検出状況】 FⅢ j5 グリッドほかに位置する。Ⅱ層下部にて検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は楕円形、規模は開口部が1.32×0.92m、底部が0.82×0.62mで深さは28cmである。

【覆土・堆積状況】 炭化物粒ならびに黄褐色土粒を含む暗褐色土主体の堆積である。自然堆積と判断した。

【壁】 壁の立ち上がりは急である。

【出土遺物】 出土していない。

609号土坑（第113図、写真図版115）

【位置・検出状況】 GⅢ i4 グリッドに位置する。Ⅱ層下部にて検出した。検出状況から当初は単独の遺構であるとの判断で掘り進めたが、断面観察から610号土坑と重複することが判明した。

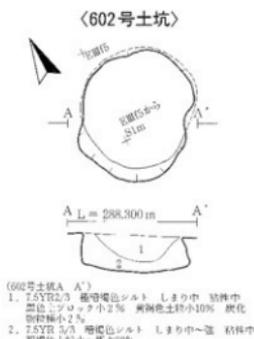
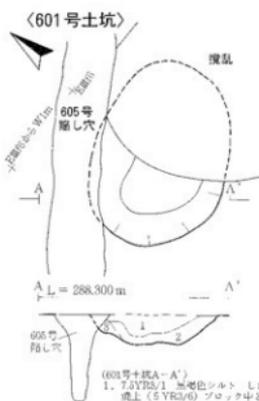
【重複】 610号土坑と重複する。新旧関係については、検出状況ならびに断面観察から610号土坑→609号土坑の順に構築されたものと判断した。

【平面形・規模】 平面形は円形をなす。規模は開口部が1.7×1.68m、底部が1.3×(0.88)mで深さは95cmである。

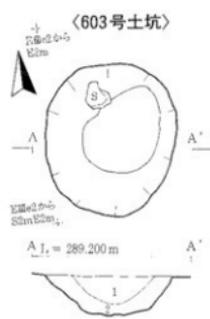
【覆土・堆積状況】 炭化物粒ならびに黄褐色土粒を含む黒褐色土～褐色土が堆積する。断面観察から自然堆積と判断した。

【壁】 壁の立ち上がりは緩やかである。

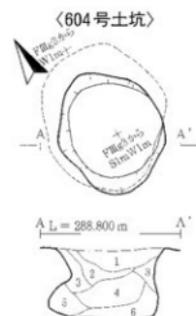
【出土遺物】 出土していない。



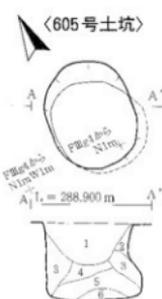
- 602号土坑A-A'
1. 7.5YR2/3 暗褐色シルト しまり中 粘粒中 炭化植物小10% 腐植土中約10% 炭化植物種小2%
 2. 7.5YR 5/3 暗褐色シルト しまり中～強 粘粒中 明褐色土粒小～大20%



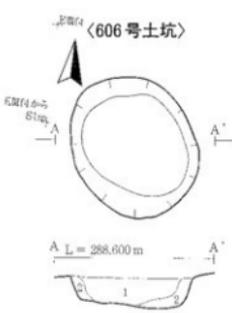
- 603号土坑A-A'
1. 7.5YR2/2 黄褐色シルト しまり中～強 粘粒中 暗褐色土ブロック小～中10%
 2. 7.5YR2/2 暗褐色シルト しまり強 粘粒中 暗褐色土ブロック中10% 炭化植物種小2%



- 604号土坑A-A'
1. 7.5YR2/3 暗褐色シルト しまり中～強 粘粒中 炭化植物中～大 5% 腐植土粒種小5%
 2. 7.5YR2/2 暗褐色シルト しまり中～強 粘粒中 褐色土ブロック 15% 炭化物中～大2%
 3. 7.5YR2/4 暗褐色土質シルト しまり中 粘粒中～強 暗褐色土粒種小2%
 4. 7.5YR2/2 暗褐色シルト しまり弱 粘粒中～強 炭化植物小～大 3～10%
 5. 7.5YR2/3 暗褐色シルト しまり強 粘粒中
 6. 7.5YR4/4 褐色シルト しまり強 ～中 粘粒中～強 炭化植物中2%



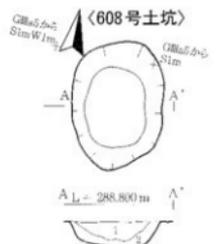
- 605号土坑A-A'
1. 7.5YR2/2 暗褐色シルト しまり弱～中 粘粒中 褐色土ブロック小10% 炭褐色土粒小5～10% 炭化植物種小～大5%
 2. 7.5YR4/2 暗褐色土質シルト しまり中 粘粒中～強 暗褐色土ブロック中 20%
 3. 7.5YR2/3 暗褐色シルト しまり弱～中 粘粒中 暗褐色土ブロック中5%
 4. 7.5YR2/4 暗褐色シルト しまり中 粘粒中 暗褐色土粒中～大10% 炭化物種小2%
 5. 7.5YR2/3 暗褐色シルト しまり中 粘粒中 暗褐色土ブロック小～中10% 炭化植物種中5%
 6. 7.5YR4/4 暗褐色土質シルト しまり中 粘粒中～強



- 606号土坑A-A'
1. 7.5YR2/2 暗褐色シルト しまり中 粘粒中 暗褐色土ブロック15% 炭化植物種小～中3～10%
 2. 7.5YR4/4 褐色土質シルト しまり強 粘粒中 炭化植物小5%



- 607号土坑A-A'
1. 7.5YR2/3 暗褐色シルト しまり強 粘粒中 暗褐色土粒小～中10% 暗褐色土ブロック中10%
 2. 7.5YR4/4 褐色土質シルト しまり強 粘粒中



- 608号土坑A-A'
1. 7.5YR2/2 暗褐色シルト しまり中～強 粘粒中 暗褐色土粒小～中20% 炭化物種小5%
 2. 7.5YR4/4 褐色シルト しまり強 粘粒中 暗褐色土ブロック中10% 炭化植物種小2%



第112図 601～608号土坑

610号土坑 (第113図、写真図版115)

【位置・検出状況】 GⅢ i4 グリッドに位置する。609号土坑を掘り下げて断面を確認したところ別遺構が重複していることが判明したため、610号土坑として登録した。

【重複】 609号土坑と重複する。新旧関係については、検出状況ならびに断面観察から610号土坑→609号土坑の順に構築されたものと判断した。

【平面形・規模】 平面形は円形をなす。規模は開口部が1.02×0.92m、底部が0.9×0.8mで深さは25cmである。

【覆土・堆積状況】 炭化物粒ならびに明褐色土粒を含む褐色上～暗褐色上が堆積する。断面観察から人為的堆積の可能性が高いと判断した。

【壁】 壁の立ち上がりは急である。

【出土遺物】 出土していない。

611号土坑 (第113図、写真図版115)

【位置・検出状況】 HⅢ e3 グリッドほかに位置する。Ⅱ層下部にて検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形はやや不整な円形をなす。規模は開口部が(1.58)×1.3m、底部が0.93×0.68mで深さは67cmである。

【覆土・堆積状況】 炭化物粒ならびに褐色土粒を含む暗褐色上～灰褐色上が堆積する。自然堆積と判断した。

【壁】 壁の立ち上がりは緩やかである。

【出土遺物】 出土していない。

612号土坑 (第113図、写真図版115)

【位置・検出状況】 HⅢ f1 グリッドに位置する。Ⅱ層下部にて検出した。

【重複】 なし。北西側の一部が風倒木痕により破壊されている。

【平面形・規模】 平面形は楕円形、規模は開口部が2.12×1.62m、底部が1.76×0.8mで深さは140cmである。

【覆土・堆積状況】 覆土上層（1～3層）には炭化物粒ならびに黄褐色土粒を含む黒褐色土が堆積し、中層以下には暗褐色土～褐色土が堆積する。火山灰層は確認されなかった。検出状況ならびに断面観察から自然堆積と判断した。

【壁】 壁の立ち上がりは急である。

【その他】 検出当初は土坑として登録し精査を進めたが、掘り上がりの状況から見て陥し穴の可能性も考えられる。

【出土遺物】 №865・866の上器、№246・247の礫石器が出土している。(第42・43・136・279図、写真図版202・278)

613号土坑 (第113図、写真図版115)

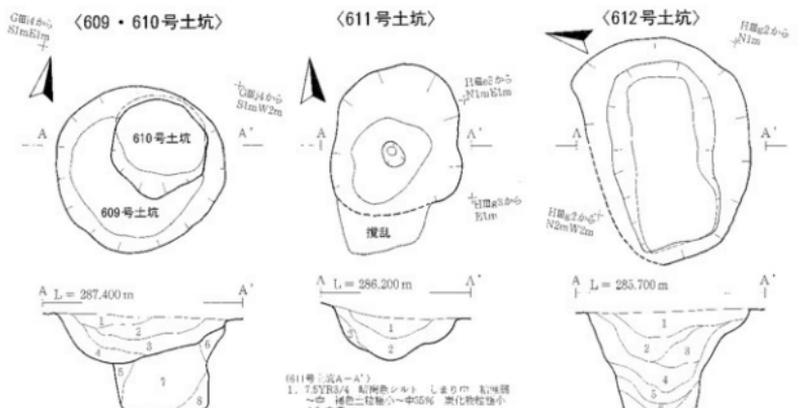
【位置・検出状況】 HⅢ f1 グリッドほかに位置する。Ⅱ層下部にて検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は楕円形、規模は開口部が1.74×1.48m、底部が1.18×0.5mで深さは110cmである。

【覆土・堆積状況】 炭化物粒ならびに黄褐色土粒を含む黒褐色上～褐色上が堆積する。火山灰層は確認されなかった。検出状況ならびに断面観察から自然堆積と判断した。

【壁】 壁の立ち上がりは急である。



611号土坑A-A'

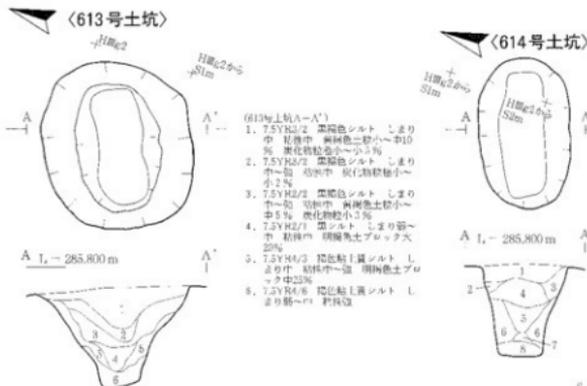
1. 7.5YR3/4 紅褐色シルト しまり弱 粘厚層
～中 褐色土粒小～中35% 炭化粒粒小
1%未満
2. 7.5YR4/7 灰褐色シルト しまり中 粘厚層
下部褐色土ブロック小～中35% 炭化粒粒小
～中35%
3. 7.5YR5/8 明褐色粘土質シルト しまり中～
強 粘厚層

612号土坑A-A'

1. 7.5YR3/2 暗褐色シルト しまり中 粘厚層 炭化
粒粒小～中15%
2. 7.5YR3/3 暗褐色シルト しまり中 粘厚層 炭化
粒粒小～中10% 褐色土粒小～小2%
3. 7.5YR5/2 黄褐色シルト しまり弱 粘厚層 炭化
粒粒小～中15% 黄褐色土粒小～小 明褐色土ブ
ロック小～大10%
4. 7.5YR5/7 暗褐色シルト しまり弱～中 粘厚層
褐色土ブロック小～大10% 炭化粒粒小～大3%
5. 7.5YR4/2 暗褐色シルト しまり弱 粘厚層 粘
厚層土ブロック中～大20%
6. 7.5YR4/1 暗褐色シルト しまり弱～中 粘厚層
褐色土ブロック中～大20%
7. 7.5YR4/4 暗褐色シルト しまり中 粘厚層
褐色土ブロック中～大20%
8. 7.5YR4/1 暗褐色シルト しまり中 粘厚層
褐色土ブロック中～大20%
9. 7.5YR3/3 暗褐色粘土質シルト しまり中 粘厚層
褐色土ブロック中15%

609・610号土坑A-A'

1. 7.5YR2/2 黄褐色シルト しまり弱 粘厚層
炭化粒粒小～小1%未満
2. 7.5YR3/1 灰褐色シルト しまり弱 粘厚層
黄褐色土粒小～大15% 炭化粒粒小2%
3. 7.5YR3/4 暗褐色シルト しまり弱～強 粘厚
層 褐色土粒小～中15% 炭化粒粒小～大
20%
4. 7.5YR4/4 褐色シルト しまり弱 粘厚層～中
明褐色土ブロック中20% 炭化粒粒小中10%
5. 7.5YR4/7 暗褐色シルト しまり中～強
粘厚層～強 暗褐色土ブロック小15% 炭化
粒粒小3%
6. 7.5YR4/8 暗褐色シルト しまり中～強
粘厚層～強
7. 7.5YR5/3 暗褐色シルト しまり中～強 粘厚
層～中 明褐色土粒中～大30% 炭化粒粒小
～大25%
8. 7.5YR5/3 暗褐色シルト しまり弱 粘厚層
炭化粒粒小2%



613号土坑A-A'

1. 7.5YR3/2 暗褐色シルト しまり
弱 粘厚層 褐色土粒小～中10
% 炭化粒粒小小～小3%
2. 7.5YR3/2 暗褐色シルト しまり
弱～中 粘厚層 褐色土粒小
小2%
3. 7.5YR2/2 黄褐色シルト しまり
弱～強 粘厚層 褐色土粒小
～中5% 炭化粒粒小3%
4. 7.5YR2/1 黄シルト しまり弱～
中 粘厚層 明褐色土ブロック大
20%
5. 7.5YR4/3 暗褐色土質シルト 土
粒小～中 粘厚層～強 明褐色土ブ
ロック中25%
6. 7.5YR4/6 暗褐色土質シルト 土
粒小～中 粘厚層

614号土坑A-A'

1. 7.5YR3/2 暗褐色シルト しまり
弱 粘厚層 褐色土粒小～中10
% 炭化粒粒小小～小2%
2. 7.5YR3/3 暗褐色シルト しまり
弱～強 粘厚層 褐色土ブロック
中35%
3. 7.5YR3/2 暗褐色シルト しまり
弱 粘厚層 褐色土ブロック中
30%
4. 7.5YR2/2 黄褐色シルト しまり
弱～強 粘厚層 褐色土粒小～中
～10% 暗褐色土ブロック小20%
5. 7.5YR4/3 黄褐色シルト しまり中
粘厚層 暗褐色土粒中～大30%
6. 7.5YR4/7 暗褐色土質シルト 土
粒小～中 粘厚層～強 暗褐色
土ブロック中25%
7. 7.5YR4/3 暗褐色シルト しまり
弱～中 粘厚層 暗褐色土ブ
ロック小15%
8. 7.5YR3/3 暗褐色シルト しまり
弱 粘厚層～強 暗褐色土ブ
ロック中15%

第113図 609～614号土坑

【その他】 検出当初は土坑として登録し精査を進めたが、掘り上がりの状況から見て陥し穴の可能性も考えられる。

【出土遺物】 Na248の礫石器が出土している。(第43・279図、写真図版278)

614号土坑(第114図、写真図版116)

【位置・検出状況】 HIII f2 グリッドほかに位置する。II層下部にて検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は楕円形、規模は開口部が1.54×0.92m、底部が1.28×0.46mで深さは93cmである。

【覆土・堆積状況】 炭化物粒ならびに黄褐色土粒を含む黒褐色土～褐色土が堆積する。火山灰層は確認されなかった。断面観察から自然堆積と判断した。

【壁】 壁の立ち上がりは急である。

【その他】 検出当初は土坑として登録し精査を進めたが、掘り上がりの状況から見て陥し穴の可能性も考えられる。

【出土遺物】 出土していない。

615号土坑(第114図、写真図版116)

【位置・検出状況】 HIII f2 グリッドほかに位置する。II層下部にて検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は楕円形、規模は開口部が1.96×1.16m、底部が1.74×0.82mで深さは92cmである。

【覆土・堆積状況】 炭化物粒ならびに黄褐色土粒を含む黒褐色土～明褐色土が堆積する。

【壁】 壁の立ち上がりは急である。

【その他】 検出当初は土坑として登録し精査を進めたが、掘り上がりの状況から見て陥し穴の可能性も考えられる。

【出土遺物】 出土していない。

616号土坑(第114図、写真図版116)

【位置・検出状況】 HIII f2 グリッドに位置する。II層下部にて検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形はやや不整な円形をなす。規模は開口部が1.16×1.04m、底部が0.84×0.71mで深さは38cmである。

【覆土・堆積状況】 黒褐色土～褐色土を主体とする堆積である。断面観察から自然堆積と判断した。

【壁】 壁の立ち上がりは場所により異なるが、おおむね比較的緩やかな立ち上がりである。

【出土遺物】 出土していない。

617号土坑(第114図、写真図版116)

【位置・検出状況】 HIII f1 グリッドに位置する。II層下部にて検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は楕円形をなす。規模は開口部が2.48×1.66m、底部が1.75×0.98mで深さは133cmである。

【覆土・堆積状況】 炭化物粒ならびに黄褐色土粒を含む黒褐色土～暗褐色土が堆積する。検出状況ならびに



第114図 615～618号土坑

断面観察から自然堆積と判断した。

【壁】 壁の立ち上がりは急である。

【その他】 検出当初は土坑として登録し精査を進めたが、掘り上がりの状況から見て陥し穴の可能性も考えられる。

【出土遺物】 Na249の礫石器が出土している（第43・279図、写真図版278）。

618号土坑（第114図、写真図版117）

【位置・検出状況】 GIII e4 グリッドほかに位置する。II層下部にて検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は円形、規模は開口部が1.74×1.62m、底部が1.22×1.21mで深さは70cmである。

【覆土・堆積状況】 炭化物粒ならびに黄褐色上粒を含む黒褐色土～明褐色土が堆積する。断面観察によると、混入物の割合が比較的多いことが確認される。このような事実から、人為堆積の可能性が高いと判断した。

【壁】 壁の立ち上がりは急である。

【出土遺物】 出土していない。

701号土坑（第115図、写真図版118）

【位置・検出状況】 BIII e1 グリッドに位置する。II層下部にて検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は円形で、規模は開口部が1.06×0.92m、底部が0.64×0.62mで深さは29cmである。

【覆土・堆積状況】 炭化物粒ならびに焼土粒を含む黒色土が堆積する。人為堆積の可能性が高い。

【壁】 壁の立ち上がりは比較的急である。

【出土遺物】 出土していない。

702号土坑（第115図、写真図版118）

【位置・検出状況】 BIII i3 グリッドに位置する。II層下部にて検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は円形で、規模は開口部が1.3×1.3m、底部が1.16×1.15mで深さは36cmである。

【覆土・堆積状況】 炭化物粒ならびに焼土粒を含む黒色土～黒褐色土が堆積する。人為堆積の可能性が高い。

【壁】 壁の立ち上がりは急である。

【出土遺物】 出土していない。

703号土坑（第115図、写真図版118）

【位置・検出状況】 BIII i4 グリッドに位置する。II層下部にて検出した。

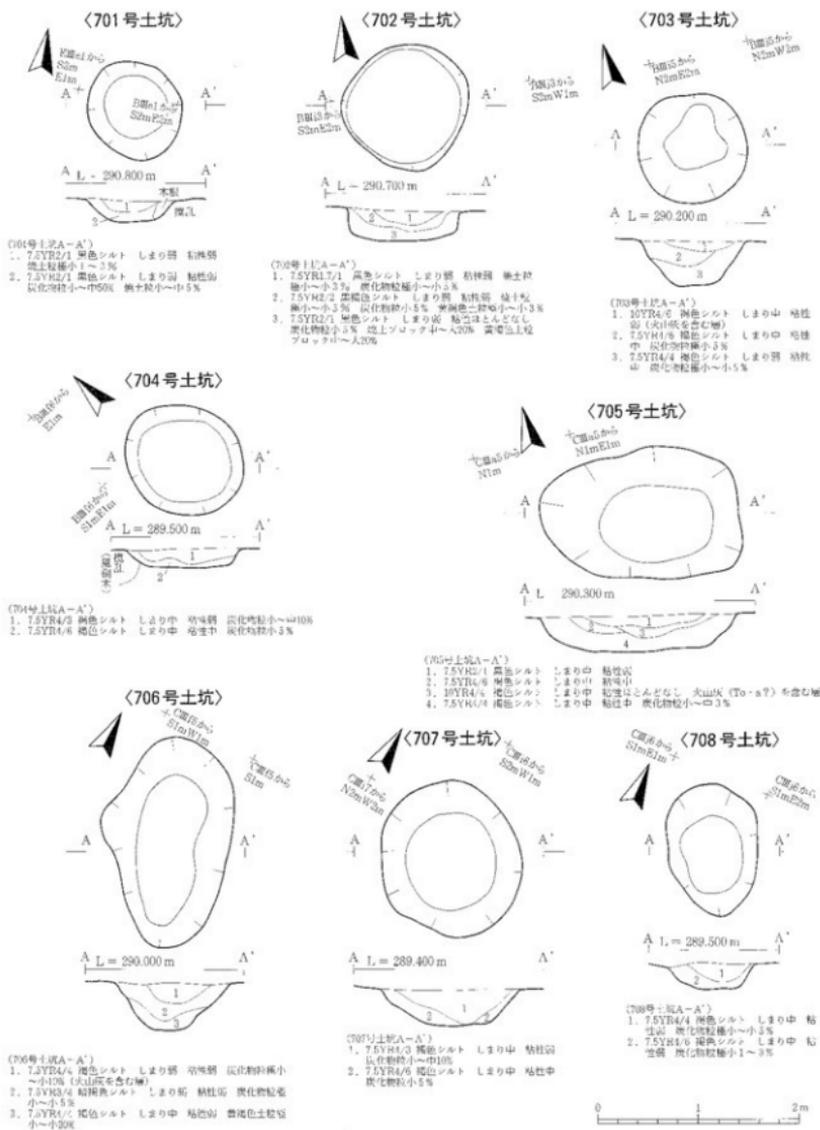
【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は円形で、規模は開口部が1.14×1.1m、底部が0.68×0.62mで深さは58cmである。

【覆土・堆積状況】 炭化物粒を含む褐色土が堆積する。覆土最上位の1層には火山灰が含まれる。自然堆積と判断した。

【壁】 壁の立ち上がりは比較的急である。

【出土遺物】 出土していない。



第115図 701~708号土坑

704号土坑 (第115図、写真図版118)

【位置・検出状況】 BⅢ f 6 グリッドに位置する。Ⅱ層下部にて検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は円形で、規模は開口部が1.26×1.12m、底部が0.98×0.88mで深さは22cmである。

【覆土・堆積状況】 炭化物粒を含む褐色土が堆積する。断面観察から人為堆積と判断した。

【壁】 壁の立ち上がりは急である。

【出土遺物】 出土していない。

705号土坑 (第115図、写真図版119)

【位置・検出状況】 CⅢ a 4 グリッドほかに位置する。Ⅱ層下部にて検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形はやや不整な楕円形をなす。規模は開口部が1.98×1.36m、底部が1.13×0.79mで深さは42cmである。

【覆土・堆積状況】 黒色土～褐色土が堆積する。3層は火山灰 (To-a ?) を含む。自然堆積と判断した。

【壁】 壁の立ち上がりは比較的急である。

【出土遺物】 出土していない。

706号土坑 (第115図、写真図版119)

【位置・検出状況】 CⅢ e 5 グリッドほかに位置する。Ⅱ層下部にて検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形はやや不整な楕円形をなす。規模は開口部が2.14×1.34m、底部が1.54×0.64mで深さは61cmである。

【覆土・堆積状況】 炭化物粒ならびに黄褐色土粒を含む褐色土～暗褐色土が堆積する。1層は火山灰 (To-a ?) を含む層である。自然堆積と判断した。

【壁】 壁の立ち上がりは比較的急である。

【出土遺物】 出土していない。

707号土坑 (第115図、写真図版119)

【位置・検出状況】 CⅢ h 6 グリッドに位置する。Ⅱ層下部にて検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は円形、規模は開口部が1.60×1.42m、底部が0.98×0.91mで深さは42cmである。

【覆土・堆積状況】 炭化物粒を含む褐色土が堆積する。自然堆積と判断した。

【壁】 壁の立ち上がりは比較的急である。

【出土遺物】 出土していない。

708号土坑 (第115図、写真図版119)

【位置・検出状況】 CⅢ j 6 グリッドに位置する。Ⅱ層下部にて検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形はやや不整な楕円形をなす。規模は開口部が1.36×0.9m、底部が0.78×0.61mで深さは37cmである。

【覆土・堆積状況】炭化物粒を含む褐色土が堆積する。自然堆積と判断した。

【壁】壁の立ち上がりは比較的急である。

【出土遺物】No468の剥片石器が出土している。(第43・223図、写真図版246)

801号土坑(第116図、写真図版120)

【位置・検出状況】MIV a 2ほかグリッドに位置する。攪乱層を除去したところ(IV層)で検出した。

【重複】なし。

【平面形・規模】平面形は円形で、規模は開口部が1.8×1.38m、底部が1.7×1.32mで深さは28cmである。

【覆土・堆積状況】炭化物粒ならびに黄褐色土粒を含む黒褐色土～褐色土が堆積する。3層は焼土粒を含んでいる。断面観察から人為堆積と判断した。

【壁】壁の立ち上がりは急である。

【出土遺物】No469の剥片石器が出土している。(第43・223図、写真図版246)

802号土坑(第116図、写真図版121)

【位置・検出状況】MIV e 4グリッドに位置する。攪乱層を除去したところ(IV層)で検出した。

【重複】なし。

【平面形・規模】平面形は楕円形、規模は開口部が1.8×1.3m、底部が1.68×1.15mで深さは41cmである。

【覆土・堆積状況】炭化物粒ならびに黄褐色土粒を含む黒褐色土～褐色土が堆積する。覆土下位にあたる3～4層には土器、炭化材を含む。断面観察から人為堆積と判断した。

【壁】壁の立ち上がりは急である。

【出土遺物】No864・868の土器が出土している。(第43・136図、写真図版202)

803号土坑(第116図、写真図版122)

【位置・検出状況】MIV b 5グリッドに位置する。攪乱層を除去したところ(IV層)で検出した。

【重複】なし。

【平面形・規模】平面形は円形で、規模は開口部が0.88×0.86m、底部が0.7×0.7mで深さは46cmである。

【覆土・堆積状況】黄褐色土粒を含む黒褐色～褐色土が堆積する。人為堆積の可能性が高い。

【壁】壁の立ち上がりは急である。

【出土遺物】出土していない。

804号土坑(第116図、写真図版123)

【位置・検出状況】MIV c 3グリッドほか位置する。攪乱層を除去したところ(IV層)で検出した。

【重複】なし。

【平面形・規模】平面形は円形で、規模は開口部が1.28×1.14m、底部が1.06×0.9mで深さは45cmである。

【覆土・堆積状況】黄褐色土粒を含む褐色土が堆積する。断面観察から人為堆積と判断した。

【壁】壁の立ち上がりは急である。

【出土遺物】出土していない。

805号土坑(第116図、写真図版121)

【位置・検出状況】LIV i 4グリッドに位置する。攪乱層を除去したところ(IV層)で検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形はやや不整な円形をなす。規模は開口部が1.08×0.98m、底部が0.88×0.5mで深さは114cmである。

【覆土・堆積状況】 覆土上位の1～2層は黄褐色土粒を含む黒褐色土～極暗褐色土で構成される。中位以下は黒褐色土～褐色土が堆積する。検出状況ならびに断面観察から自然堆積と判断した。

【壁】 壁の立ち上がりは急で、東側の壁はややオーバーハングしている。

【出土遺物】 出土していない。

806号土坑（第116図、写真図版121）

【位置・検出状況】 LIV j 2 グリッドに位置する。攪乱層を除去したところ（IV層）で検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は楕円形、規模は開口部が1.98×1.3m、底部が1.76×1.12mで深さは57cmである。

【覆土・堆積状況】 黄褐色土粒ならびに焼土粒を含む暗褐色土～褐色土が堆積する。断面観察から人為堆積と判断した。

【壁】 壁の立ち上がりは急である。

【出土遺物】 出土していない。

807号土坑（第116図、写真図版121）

【位置・検出状況】 MIII d10グリッドほかに位置する。攪乱層を除去したところ（IV層）で検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は円形、規模は開口部が0.9×0.9m、底部が0.83×0.76mで深さは59cmである。

【覆土・堆積状況】 炭化物粒ならびに黄褐色土粒を含む黒褐色土～暗褐色土が堆積する。断面観察から自然堆積と判断した。

【壁】 壁は底面付近から一旦比較的急に立ち上がり、その後オーバーハングする。

【出土遺物】 出土していない。

808号土坑（第117図、写真図版121）

【位置・検出状況】 MIII e10グリッドに位置する。攪乱層を除去したところ（IV層）で検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は楕円形、規模は開口部が2.56×1.94m、底部が2.22×1.56mで深さは79cmである。

【覆土・堆積状況】 覆土最上位の1層は火山灰（To-a?）を含む。

【壁】 壁の立ち上がりは急である。

【出土遺物】 Na250の礫石器が出土している。（第43・279図、写真図版278）

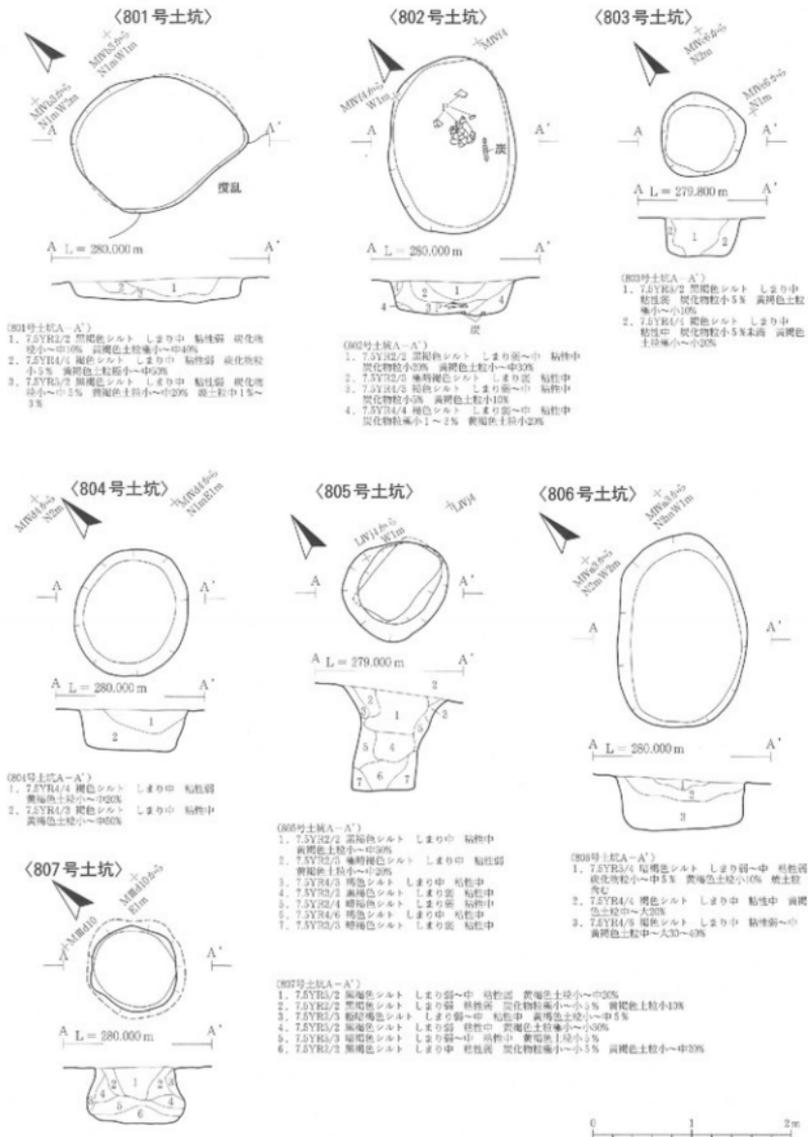
809号土坑（第117図、写真図版122）

【位置・検出状況】 MIII b 8 グリッドほかに位置する。II層下部にて検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は円形、規模は開口部が1.56×1.54m、底部が2.1×2.02mで深さは118cmである。

【覆土・堆積状況】 覆土上位（1～6層）は炭化物粒ならびに黄褐色土粒を含む黒色土～褐色土が堆積する。2層は火山灰（To-a?）を含んでいる。中位～下位は炭化物粒ならびに黄褐色土粒の混入量が多くなり、



第116図 801～807号土坑

底面直上付近では人為的に廃棄されたと推測される炭化材ならびに焼土が確認できる。覆土上位は自然堆積、中位～下位は人為堆積と判断した。

【壁】 壁の立ち上がりは急である。

【出土遺物】 出土していない。

810号土坑（第117図、写真図版122）

【位置・検出状況】 MⅢ e9 グリッドに位置する。攪乱層を除去したところ（Ⅳ層）で検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は円形、規模は開口部が1.78×1.58m、底部が1.57×1.29mで深さは70cmである。

【覆土・堆積状況】 炭化物粒ならびに黄褐色土粒を含む黒褐色土～明褐色土が地球の重力に対し、不規則に堆積する。

【壁】 壁の立ち上がりは急である。

【出土遺物】 No470の剥片石器が出土している。（第43・223図、写真図版246）

901号土坑（第118図、写真図版287）

【位置・検出状況】 GⅢ a7 グリッドほかに位置する。Ⅲ層中で検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は円形、規模は開口部が1.38×1.36m、底部が1.97×2.24mで深さは122cmである。

【覆土・堆積状況】 炭化物を含む黒色～黄褐色土が堆積する。覆土中～下部（5層以下）は旧表土と地山土の互層、上部は旧表土のみとなる。観察は崩落した地山ブロック層が堆積しており、断面観察時は壁と誤認してしまった。覆土中には土器片・礫を多く含むが、堆積状況から自然に埋没したものと同判断する。

【壁】 底面から100cm付近とところまではオーバーハングし、これより上は外傾する。

【出土遺物】 No2001～2003の土器、No3001・3002の剥片石器、No3007の礫石器が出土している。（第294・295図、写真図版293）

902号土坑（第118図、写真図版288）

【位置・検出状況】 HⅢ d4 グリッドに位置する。Ⅲ層中で検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は楕円形、規模は開口部が1.06×0.80m、底部が1.17×0.74mで深さは63cmである。

【覆土・堆積状況】 炭化物を含む黒色～黒褐色土が堆積する。人為堆積の可能性がある。

【壁】 壁の立ち上がりは急である。

【出土遺物】 出土していない。

903号土坑（第118図、写真図版287）

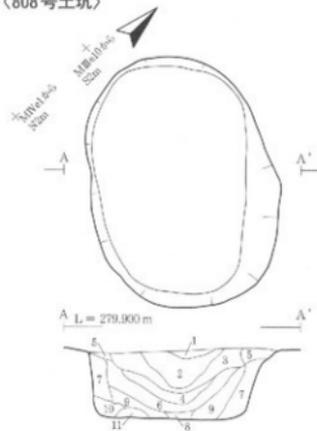
【位置・検出状況】 DⅢ b9 グリッドに位置する。Ⅲ層中で検出した。

【重複】 907号陥し穴と重複する。検出時に重複を把握できず同時に掘り下げてしまったため、新旧関係は不明である。

【平面形・規模】 平面形は楕円形、規模は開口部が1.18×0.72m、底部が0.89×0.55mで深さは40cmである。

【覆土・堆積状況】 覆土及び堆積状況は確認できなかったが、上記の通り検出時に907号陥し穴と重複を確認できなかったことから類推すると、黒色～暗褐色土が堆積していたものと考えられる。

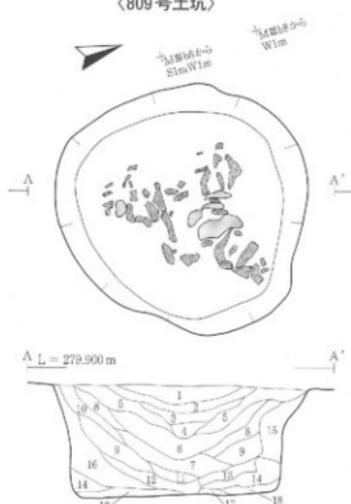
(808号土坑)



(808号土坑A-A')

- 2.5Y7/1 成層砂質シルト しまり中～強 粘性なし(T₀-a?)
- 2.5YR4/4 褐色シルト しまり中 粘性弱 炭化物粒小1～3% 黄褐色土粒1%
- 2.5YR2/3 暗褐色シルト しまり中 粘性弱 炭化物粒中～中5% 黄褐色土粒小～中10%
- 2.5YR2/2 暗褐色シルト しまり弱 粘性中 炭化物粒中～小5% 黄褐色土粒小～中5%
- 2.5YR2/1 褐色シルト しまり中 粘性中 黄褐色土粒小10%
- 2.5YR2/1 暗褐色シルト しまり弱 粘性中 炭化物粒中～中5% 黄褐色土粒小～中5%
- 10YR4/6 褐色シルト しまり弱 粘性中 炭化物粒中～小1～3% 黄褐色土粒小～中5%
- 2.5YR2/1 褐色シルト しまり中 粘性中 黄褐色土粒小中20%
- 2.5YR2/2 暗褐色シルト しまり弱 粘性弱 黄褐色土粒極小～中0%
- 10YR5/6 黄褐色土質シルト しまり中 粘性中
- 10YR5/6 黄褐色土質シルト しまり中～強 (10層より明るい)

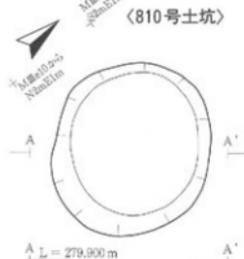
(809号土坑)



(809号土坑A-A')

- 2.5YR2/1 褐色シルト しまり弱 粘性弱 黄褐色土粒小10%
- 2.5YR2/1 褐色シルト しまり弱～中 粘性弱 黄褐色土粒小10% (大山坑T₀-a?を点し置)
- 2.5YR4/3 褐色シルト しまり中 粘性弱 黄褐色土粒小5%
- 2.5YR4/3 褐色シルト しまり中 粘性弱 黄褐色土粒小5%
- 2.5YR2/4 暗褐色シルト しまり弱～中 粘性弱 炭化物粒小5% 黄褐色土粒小～中10%
- 2.5YR2/2 暗褐色シルト しまり中 粘性弱 炭化物粒小5% 黄褐色土粒小～中10%
- 2.5YR2/1 褐色シルト しまり弱～中 粘性中 炭化物粒小～中10% 黄褐色土粒中10%
- 2.5YR2/2 暗褐色シルト しまり弱～中 粘性弱 黄褐色土粒小10%
- 2.5YR2/2 暗褐色シルト しまり弱～中 粘性弱 黄褐色土粒小10%
- 2.5YR2/1 暗褐色シルト しまり弱 粘性中 黄褐色土粒中～大10%
- 2.5YR2/6 暗褐色シルト しまり弱 粘性中 黄褐色土粒小10%
- 2.5YR2/2 暗褐色シルト しまり弱 粘性弱 炭化物粒小5% 黄褐色土粒小10%
- 2.5YR2/6 暗褐色シルト しまり弱～中 粘性弱 炭化物粒小5% 黄褐色土粒小10%
- 10YR5/6 黄褐色シルト しまり弱～中 粘性弱 黄褐色土粒小10%
- 2.5YR2/4 暗褐色シルト しまり弱 粘性中 炭化物粒小1% 黄褐色土粒小40%
- 10YR5/6 暗褐色シルト しまり弱 粘性なし (流土(埋塞されたもの))
- 2.5YR4/6 褐色シルト しまり中 粘性中 炭化物粒中5%

(810号土坑)

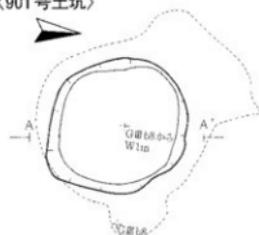


(810号土坑A-A')

- 2.5YR2/2 暗褐色シルト しまり中 粘性弱 炭化物粒小～中10% 黄褐色土粒小～中20% 黄褐色土粒1% (埋塞部分見入)
- 2.5YR4/3 褐色シルト しまり中 粘性弱 黄褐色土粒小30% 黄褐色土粒小5%
- 2.5YR4/6 褐色シルト しまり中 粘性中 炭化物粒小1%
- 2.5YR4/4 褐色シルト しまり中 粘性弱 炭化物粒小5%
- 2.5YR2/2 暗褐色シルト しまり中 粘性弱 黄褐色土質ブロック中～大10%
- 2.5YR2/2 暗褐色シルト しまり弱 粘性中 黄褐色土粒小～中30%
- 2.5YR4/6 黄褐色シルト しまり中 粘性中 黄褐色土粒小20%
- 2.5YR2/2 暗褐色シルト しまり中 粘性中 炭化物粒小5% 黄褐色土粒小30%

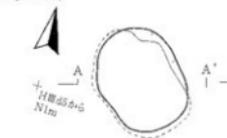
0 1 2 m

<901号土坑>



- (901号土坑A-A')
1. 7.5YR2/1 黒色シルト しきり中 粘性强 赤黄十粘土・炭化物堆積 7.5YR2/2 黄褐色土少量 黄褐色土粒堆積 少量赤化土
 2. 7.5YR2/1 黒色シルト しきり中 粘性强 炭化物堆積 7.5YR2/2 黄褐色土少量 黄褐色土粒堆積
 3. 2層にわたる
 4. 7.5YR2/2 黄褐色シルト しきり中 粘性强 炭化物 黄褐色土粒堆積
 5. 7.5YR2/1 黒色シルト しきり中 粘性强 粘性强 炭化物 黄褐色土粒堆積
 6. 7.5YR2/1 黄褐色土ブロック・7.5YR2/2 黄褐色土ブロック・黄褐色土ブロックの混り しきり中 粘性强
 7. 7.5YR2/1 黄褐色シルト しきり中 粘性强 炭化物 炭褐色土粒堆積
 8. 7.5YR2/2 黄褐色シルト しきり中 粘性强 炭化物 炭褐色土粒堆積
 9. 3層にわたる赤化土
 10. 7.5YR2/2 黄褐色土と黄褐色土が混り(混じる) しきりや粘 粘性强
 11. 7.5YR2/1 黄褐色シルト しきり中 粘性强 炭褐色土粒堆積 黄褐色土少量
 12. 黄褐色土ブロック層 しきり粘 粘性强
 13. 7.5YR2/2 黄褐色シルト しきり中 粘性强 炭褐色土粒堆積 炭褐色土少量
 14. 7.5YR2/1 黒色シルト しきり中 粘性强 炭化物堆積 下部土ブロック30% 7.5YR2/2 黄褐色土ブロック 粘性强 黄褐色土ブロック
 15. 黄褐色土ブロック層 しきり中 粘性强
 16. 7.5YR2/1 黄褐色シルト しきり中 7.5YR2/2 黄褐色土や少量
 17. 7.5YR2/1 黄褐色シルト しきり中 粘性强 黄褐色土粒堆積 少量
 18. 7.5YR2/1 黄褐色土と黄褐色土ブロックの混り しきり中 粘性强
 19. 17層と粘る
 20. 黄褐色土ブロック層 やや粘い しきり中 粘性强
 21. 17層に粘る 粘りや粘い
 22. 黄褐色土ブロックとV層 (山形粘石層) ブロックとの混り しきり 粘性中 下部に炭化物
 23. 21層にV層 (山形粘石層) ブロック堆積 しきりや粘 粘性中
 24. 17層にわたる粘りや粘
 25. 7.5YR2/1 黄褐色土とV層 (山形粘石層) ブロックの混り しきり 粘性强
 26. 黄褐色土ブロックとV層 (山形粘石層) ブロックとの混り
 27. 7.5YR2/1 黄褐色シルト しきりや粘 粘性强 黄褐色土ブロック大量
 28. 7.5YR2/1 黄褐色シルト しきり粘 粘性中 7.5YR2/1 黄褐色土粒堆積
 29. 27層と粘る
 30. 7.5YR2/1 黄褐色シルト しきり粘 粘性中 粘りや粘

<902号土坑>



- (902号土坑A-A')
- 全ての層に炭化物堆積物あり
層縁で凹凸された形跡で上部ほどよくしきる
1. 10YR2/1 黒色シルト しきり粘 粘性强 炭化物堆積 10YR2/2 黄褐色土ブロック少量 黄褐色土層 小ブロックのやや多量
 2. 10YR2/2 黄褐色シルト しきり粘 (上部ほどしきる) 粘性强 炭褐色土小〜中ブロック少量
 3. 10YR2/2 黄褐色シルト しきり粘 粘性中 黄褐色土大ブロック (厚〜5cm) 多量 (後部の境域のためか 黄褐色土ブロック)
 4. 10YR2/2 黄褐色シルト しきり粘 粘性强 黄褐色土層小ブロック多量
 5. 4層にわたる黄褐色土ブロック多量
 6. 10YR2/2 黄褐色シルト しきりや粘 粘性强 黄褐色土大ブロック (厚〜5cm) 少量
 7. 10YR2/1 黒色シルト 粘性强 10YR2/2 黄褐色土大量 黄褐色土大ブロック (厚〜10cm) 少量

<903号土坑>



第118図 901~903号土坑

【壁】 壁の立ち上がりは比較的急である。

【出土遺物】 出土していない。

3 陥し穴状遺構

101号陥し穴 (第119図、写真図版123)

【位置・検出状況】 L II b 9 グリッドほかに位置する。攪乱層を除去したところ (IV層) で検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は溝形、規模は開口部が3.44×0.53m、底部が3.9×0.31mで深さは152cmである。

【覆土・堆積状況】 黒色土～黒褐色土を主体とする堆積である。断面観察から自然堆積と判断した。

【壁】 短軸方向の壁はほぼ垂直に立ち上がる。長軸方向の壁は底面からオーバーハングする。

【出土遺物】 出土していない。

102号陥し穴 (第119図、写真図版123)

【位置・検出状況】 L II h 10 グリッドに位置する。III層下 (IV層?) で検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は溝形、規模は開口部が3.12×0.56m、底部が3.04×0.11mで深さは1.04cmである。

【覆土・堆積状況】 黄褐色土粒を含む黒色～黒褐色土が堆積する。自然堆積と判断した。

【壁】 短軸方向の壁はほぼ垂直に立ち上がる。長軸方向の壁も同様にほぼ垂直である。

【出土遺物】 №871の土器が出土している。(第43・137図、写真図版202)

103号陥し穴 (第119図、写真図版123)

【位置・検出状況】 M III h 3 グリッドほかに位置する。II層下部で検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は溝形、規模は開口部が3.82×0.81m、底部が4.2×0.26mで深さは169cmである。

【覆土・堆積状況】 炭化物粒ならびに黄褐色土粒を含む黒色土～褐色土が堆積する。

【壁】 短軸方向の壁はほぼ垂直に立ち上がる。長軸方向の壁はややオーバーハング気味である。

【出土遺物】 出土していない。

104号陥し穴 (第119図、写真図版123)

【位置・検出状況】 M III f 4 グリッドほかに位置する。II層下部で検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は溝形、規模は開口部が4.19×0.65m、底部が5.02×0.14mで深さは171cmである。

【覆土・堆積状況】 黄褐色土粒を含む黒色土～黄褐色土が堆積する。自然堆積と判断した。

【壁】 短軸方向の壁はほぼ垂直に立ち上がる。長軸方向の壁は底面からオーバーハングする。

【出土遺物】 出土していない。

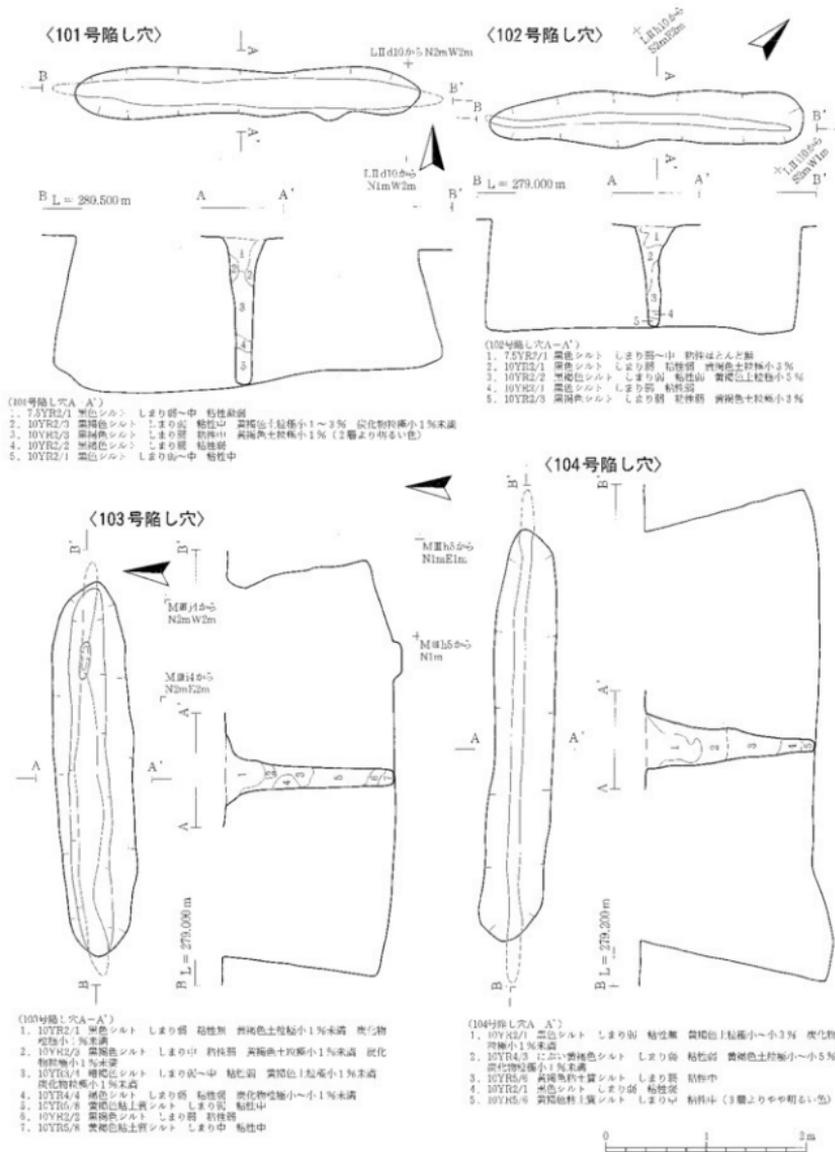
201号陥し穴 (第120図、写真図版124)

【位置・検出状況】 L III e 3 グリッドに位置する。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は溝形、規模は開口部が3.74×0.52m、底部が3.5×0.16mで深さは99cmである。

【覆土・堆積状況】 炭化物粒ならびに黄褐色土粒を含む黒色土～褐色土が堆積する。



第119図 101～104号陥し穴

【壁】 短軸・長軸方向ともほぼ垂直に立ち上がる。

【出土遺物】 出土していない。

202号陥し穴（第120図、写真図版124）

【位置・検出状況】 LⅢ a 6 グリッドに位置する。Ⅱ層下部で検出した。

【重複】 205号住と重複する。検出状況ならびに断面観察から、205号住→202号陥し穴の順に構築されたものと判断した。

【平面形・規模】 平面形は溝形、規模は開口部が(1.57)×0.45m、底部が(1.52)×0.16mで深さは140cmである。

【覆土・堆積状況】 黒色土～明黄褐色土が堆積する。自然堆積と判断した。

【壁】 短軸方向の壁はほぼ垂直に立ち上がる。長軸方向の壁も同様にほぼ垂直である。

【出土遺物】 出土していない。

203号陥し穴（第120図、写真図版124）

【位置・検出状況】 LⅢ d 6 グリッドに位置する。Ⅱ層下部で検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は楕円形をなす。規模は開口部が1.69×0.8m、底部が1.22×0.35mで深さは115cmである。底面に規則的に配置される小穴を6基確認した。いずれも径15cm、深さ40cm程度である。

【覆土・堆積状況】 黄褐色土粒を含む黒褐色土を主体とする堆積である。自然堆積と判断した。

【壁】 短軸方向、長軸方向ともに壁の立ち上がりは急である。

【出土遺物】 Na872・873の土器が出土している。（第43・137図、写真図版202）

204号陥し穴（第120図、写真図版124）

【位置・検出状況】 LⅢ b 3 グリッドに位置する。207号住床面付近で検出した。

【重複】 207号住と重複する。検出状況ならびに断面観察から204号陥し穴→207号住の順に構築されたものと判断した。

【平面形・規模】 平面形は溝形をなす。規模は開口部が1.65×0.48m、底部が2.02×0.26mで深さは93cmである。底面中央部付近に小穴を持つ。深さは64cmである。

【覆土・堆積状況】 1層は207号住の炉の影響を受ける。覆土の大半は炭化物粒ならびに黄褐色土粒を含む。

【壁】 短軸方向の壁はほぼ垂直に立ち上がる。長軸方向の壁は南東側がオーバーハングし、北西側はほぼ垂直である。

【出土遺物】 Na874～881の土器が出土している。（第43・137図、写真図版202）

210号陥し穴（第121図、写真図版124）

【位置・検出状況】 LⅢ a 4 グリッドに位置する。Ⅱ層下部～Ⅲ層付近で検出した。

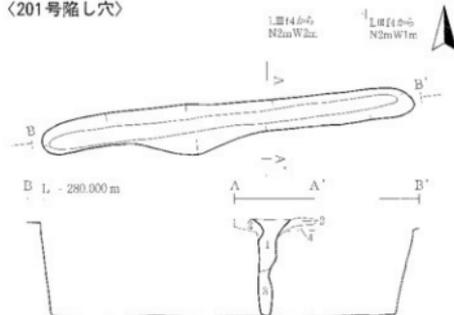
【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は溝形、規模は開口部が(1.66)×0.74m、底部が(1.3)×0.2mで深さは117cmである。

【覆土・堆積状況】 炭化物粒を含む黒色～暗褐色土が堆積する。自然堆積と判断した。

【壁】 短軸方向の壁はほぼ垂直に立ち上がる。長軸方向の壁はオーバーハングする。

<201号陥し穴>



(201号陥し穴A-A')

1. J3YR2/1 褐色シロト しまり弱 粘状弱
2. J3YR2/3 赤褐色シロト しまり中 粘状弱 炭化植物残小1%未満
3. J3YR2/1 褐色シロト しまり弱 粘状弱 炭化土粒微小5~7%
4. J3YR3/4 褐色シロト しまり弱 粘状弱 炭化土粒微小1%未満

<202号陥し穴>



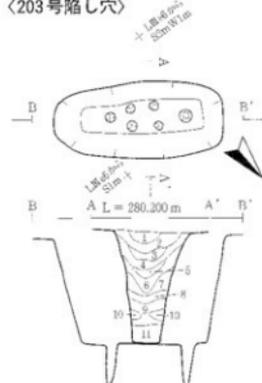
(202号陥し穴A-A')

1. J3YR2/1 褐色シロト しまり弱 粘状弱 (粘状弱)
2. J3YR3/1 褐色シロト しまり弱 粘状弱
3. J3YR3/3 褐色シロト しまり中 粘状弱 炭化植物残小1%未満
4. J3YR2/6 褐色シロト しまり弱 粘状弱 炭化植物残小1%未満
5. J3YR2/3 褐色シロト しまり弱 粘状弱 炭化植物残小1%未満
6. J3YR3/2 褐色シロト しまり中 粘状弱 炭化植物残小1%未満

(203号陥し穴A-A')

1. J3YR2/2 褐色シロト しまり弱 粘状弱 炭化土粒微小1%未満
2. J3YR2/3 褐色シロト しまり弱 粘状弱 炭化土粒微小1%未満
3. J3YR2/3 褐色シロト しまり弱 粘状弱 炭化土粒微小1%未満
4. J3YR2/2 褐色シロト しまり弱 粘状弱 炭化土粒微小1%未満
5. J3YR2/3 褐色シロト しまり弱 粘状弱 炭化土粒微小1%未満
6. J3YR2/3 褐色シロト しまり弱 粘状弱 炭化土粒微小1%未満
7. J3YR2/3 褐色シロト しまり弱 粘状弱 炭化土粒微小1%未満
8. J3YR2/3 褐色シロト しまり弱 粘状弱 炭化土粒微小1%未満
9. J3YR2/3 褐色シロト しまり弱 粘状弱 炭化土粒微小1%未満
10. J3YR2/3 褐色シロト しまり弱 粘状弱 炭化土粒微小1%未満
11. J3YR2/2 褐色シロト しまり弱 粘状弱 炭化土粒微小1%未満

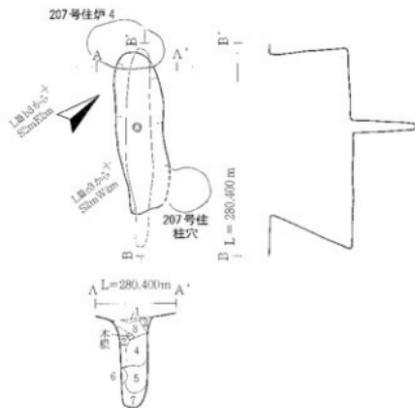
<203号陥し穴>



(203号陥し穴A-A')

1. J3YR2/2 褐色シロト しまり弱 粘状弱 炭化土粒微小1%未満
2. J3YR2/3 褐色シロト しまり弱 粘状弱 炭化土粒微小1%未満
3. J3YR2/3 褐色シロト しまり弱 粘状弱 炭化土粒微小1%未満
4. J3YR2/2 褐色シロト しまり弱 粘状弱 炭化土粒微小1%未満
5. J3YR2/4 褐色シロト しまり弱 粘状弱 炭化土粒微小1%未満
6. J3YR2/3 褐色シロト しまり弱 粘状弱 炭化土粒微小1%未満
7. J3YR2/3 褐色シロト しまり弱 粘状弱 炭化土粒微小1%未満
8. J3YR2/3 褐色シロト しまり弱 粘状弱 炭化土粒微小1%未満
9. J3YR2/3 褐色シロト しまり弱 粘状弱 炭化土粒微小1%未満
10. J3YR2/3 褐色シロト しまり弱 粘状弱 炭化土粒微小1%未満
11. J3YR2/2 褐色シロト しまり弱 粘状弱 炭化土粒微小1%未満

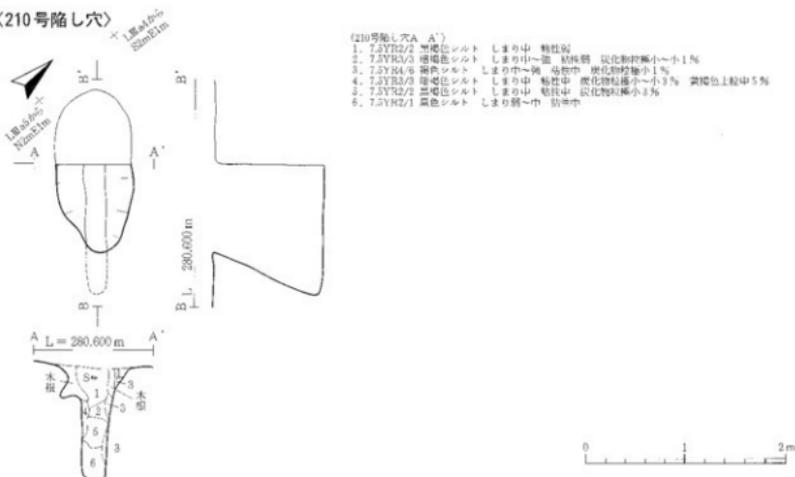
<204号陥し穴>



(204号陥し穴A-A')

1. J3YR3/4 褐色シロト しまり弱 粘状弱
2. J3YR2/1 褐色シロト しまり弱 粘状弱
3. J3YR2/3 褐色シロト しまり弱 粘状弱 炭化植物残小1%未満
4. J3YR2/3 褐色シロト しまり弱 粘状弱 炭化植物残小1%未満
5. J3YR2/3 褐色シロト しまり弱 粘状弱 炭化植物残小1%未満
6. J3YR2/3 褐色シロト しまり弱 粘状弱 炭化植物残小1%未満
7. J3YR3/4 褐色シロト しまり弱 粘状弱 炭化植物残小1%未満

〈210号陥し穴〉



第121図 210号陥し穴

〔出土遺物〕 Na882の土器、Na180の土製品が出土している。(第43・137・184図、写真図版203・229)

306号陥し穴 (第122図、写真図版125)

〔位置・検出状況〕 G III c 8 グリッドほかに位置する。II層下部で検出した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 平面形は溝形、規模は開口部が3.42×0.88m、底部が3.94×0.24mで深さは115cmである。

〔覆土・堆積状況〕 黒褐色土主体の堆積で最上層に黒色土が堆積する。自然堆積と判断した。

〔壁〕 短軸方向の壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面から75cm付近で外反する。長軸方向の壁は最初オーバーハングするが、底面から75cm付近で垂直ないしは外反する。

〔出土遺物〕 出土していない。

307号陥し穴 (第122図、写真図版125)

〔位置・検出状況〕 G III d 9 グリッドほかに位置する。II層下部で検出した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 平面形は溝形、規模は開口部が3.56×0.56m、底部が4.02×0.22mで深さは130cmである。

〔覆土・堆積状況〕 黒色～黒褐色土主体の堆積である。自然堆積と判断した。

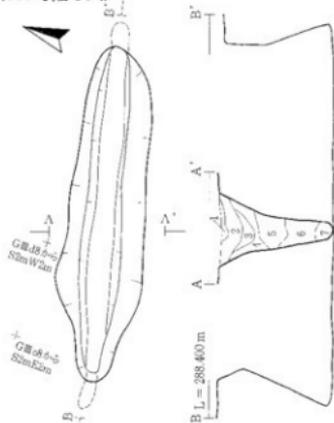
〔壁〕 短軸方向の壁はほぼ垂直に立ち上がる。長軸方向の壁は底面からオーバーハングする。

〔出土遺物〕 出土していない。

309号陥し穴 (第122図、写真図版125)

〔位置・検出状況〕 F III i 9 グリッドほかに位置する。II層下部で検出した。

〈306号陥し穴〉



〈306号陥し穴A-A'〉

1. 10YR2/1 黒色シルト しまり弱 粘性强
2. 10YR2/2 黒褐色シルト しまり弱 粘性强
3. 10YR2/3 黒褐色シルト しまり中 粘性强
4. 10YR3/2 黒褐色シルト しまり弱 粘性强 黄褐色土粒極小〜小1%
5. 10YR3/1 黒褐色シルト しまり中 粘性强 黄褐色土ブロック散入
6. 10YR5/6 黄褐色粘土質シルト しまり中 粘性强 黄褐色土粒散入
7. 10YR2/2 黒褐色シルト しまり中 粘性强 黄褐色土粒小〜中3%

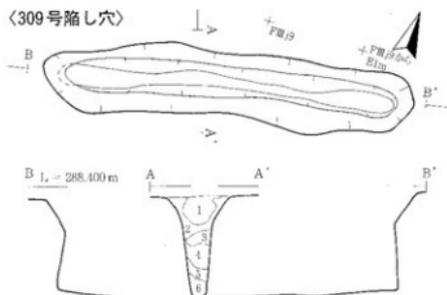
〈307号陥し穴〉



〈307号陥し穴A-A'〉

1. 10YR2/1 黒色シルト しまり中 粘性强 黄褐色土粒極小〜小1%
2. 10YR2/2 黒褐色シルトと10YR4/6褐色シルトの混合土 しまり中 粘性强
3. 10YR4/1 褐色粘土質シルト しまり中 粘性强 黄褐色土ブロック散入
4. 10YR1/1 粘土質シルト しまり弱 粘性强 黄褐色土粒小〜中3%
5. 10YR5/6 黄褐色粘土質シルト しまり中 粘性强 黄褐色土粒小〜中3%

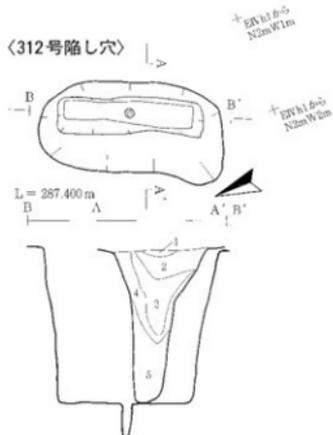
〈309号陥し穴〉



〈309号陥し穴A-A'〉

1. 10YR2/1 黒色シルト しまり中 粘性强 黄褐色土粒極小〜小2%
2. 10YR1/1 褐色シルトと10YR4/6褐色シルトの混合土 しまり中 粘性强
3. 10YR1/1 褐色シルトと10YR3/1黒褐色シルトの混合土 しまり中 粘性强 黄褐色土粒小3%
4. 10YR2/3 黒褐色シルト しまり中 粘性强
5. 10YR2/2 黒褐色シルト しまり中 粘性强
6. 10YR2/2 黒褐色シルト しまり弱 粘性强 黄褐色土粒極小〜中5%

〈312号陥し穴〉



〈312号陥し穴A-A'〉

1. 10YR1/1 褐色シルト しまり弱 粘性强 黄褐色土ブロック極小〜小1%
2. 10YR2/1 黒褐色シルト しまり中 粘性强 黄褐色土ブロック極小〜小1%
3. 10YR2/2 黒褐色シルト しまり弱 粘性强 黄褐色土ブロック極小〜小1%
4. 10YR2/3 黒褐色シルト しまり弱 粘性强 黄褐色土ブロック中〜大1%
5. 10YR4/6 褐色シルト しまり弱 粘性强 黄褐色土粒小10%



第122図 306・307・309・312号陥し穴

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は溝形、規模は開口部が3.74×0.74m、底部が3.38×0.22mで深さは1.23cmである。

【覆土・堆積状況】 黒色～黒褐色土が堆積する。自然堆積と判断した。

【壁】 短軸方向の壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面から80cm付近で外反する。長軸方向の壁はややオーバーハングみに立ち上がり、底面から80cm付近で外反する。

【出土遺物】 出土していない。

312号陥し穴（第122図、写真図版125）

【位置・検出状況】 EⅢg10グリッドに位置する。Ⅱ層下部で検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は楕円形をなす。規模は開口部が1.87×0.94m、底部が1.29×0.25mで深さは156cmである。底面中央部付近に小穴を持つ。深さは29cmである。

【覆土・堆積状況】 最下層の5層は褐色土で、その上層は黒色～黒褐色土が堆積する。自然堆積と判断した。

【壁】 短軸、長軸方向ともに壁の立ち上がりは急で、短軸方向の壁は底面から110cm付近で外反する。

【出土遺物】 出土していない。

401号陥し穴（第123図、写真図版126）

【位置・検出状況】 KⅢj7グリッドほかに位置する。攪乱層を除去したところ（Ⅲ層）で検出した。

【重複】 402号住と重複する。断面観察から402号住→401号陥し穴の順に構築されたことを確認した。

【平面形・規模】 平面形は溝形、規模は開口部が(1.76)×0.44m、底部が(1.92)×0.16mで深さは138cmである。

【覆土・堆積状況】 途中に明黄褐色土を挟みながら炭化物を含んだ黒色～黒褐色土が堆積する。自然堆積と判断した。

【壁】 短軸方向の壁はほぼ垂直に立ち上がる。長軸方向の壁はややオーバーハングしている。

【出土遺物】 出土していない。

402号陥し穴（第123図、写真図版126）

【位置・検出状況】 KⅢj9グリッドに位置する。Ⅱ層下部で検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は溝形、規模は開口部が3.82×0.44m、底部が4.38×0.17mで深さは140cmである。

【覆土・堆積状況】 黒色～黒褐色土を主体とし、一部明褐色土を挟む（4層、6層）。自然堆積と判断した。

【壁】 短軸方向の壁はほぼ垂直に立ち上がる。長軸方向の壁はオーバーハングする。

【出土遺物】 Na471の剥片石器が出土している。（第43・223図、写真図版246）

403号陥し穴（第123図、写真図版126）

【位置・検出状況】 KⅢa9グリッドほかに位置する。攪乱層を除去したところ（Ⅳ層）で検出した。

【重複】 426号住、427号住と重複する。新旧関係については断面観察から427号住→426号住→403号陥し穴の順に構築されたものと判断したが、検出状況写真のとおり、この区域は以前に一度発掘調査を受けた場所である可能性が高い。したがって、当時の埋め戻し土がかなりの範囲にわたって混入しているため、実際の構築順と異なる可能性も含んでいる。

<401号陥し穴>



A L = 281.100 m A'

B L = 51 m B'

A L = 281.100 m A'

B L = 51 m B'

A L = 281.100 m A'

B L = 51 m B'

A L = 281.100 m A'

B L = 51 m B'

A L = 281.100 m A'

B L = 51 m B'

A L = 281.100 m A'

B L = 51 m B'

A L = 281.100 m A'

B L = 51 m B'

A L = 281.100 m A'

B L = 51 m B'

A L = 281.100 m A'

B L = 51 m B'

A L = 281.100 m A'

B L = 51 m B'

A L = 281.100 m A'

B L = 51 m B'

A L = 281.100 m A'

B L = 51 m B'

A L = 281.100 m A'

B L = 51 m B'

A L = 281.100 m A'

B L = 51 m B'

A L = 281.100 m A'

B L = 51 m B'

A L = 281.100 m A'

B L = 51 m B'

A L = 281.100 m A'

B L = 51 m B'

A L = 281.100 m A'

B L = 51 m B'

A L = 281.100 m A'

B L = 51 m B'

A L = 281.100 m A'

B L = 51 m B'

A L = 281.100 m A'

B L = 51 m B'

A L = 281.100 m A'

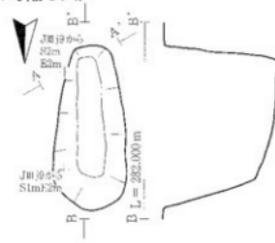
B L = 51 m B'

A L = 281.100 m A'

B L = 51 m B'

- (401号陥し穴A-A')
1. 砂質土より粗粒層
 2. 7.5YR2/1 黒色シルト しまり部~中 粘性弱
 3. 7.5YR1.7/1 黒色シルト しまり部 粘性弱
 4. 7.5YR2/2 黒色シルト しまり部~中 粘性弱 炭化植物粒小1号未満
 5. 7.5YR2/1 黒色シルト しまり部 粘性弱 黄褐色土粒小~中10% 20%
 6. 10YR2/3 黄褐色シルト しまり部 粘性弱~中 黄褐色土粒小~中20%
 7. 10YR2/6 黄褐色シルト しまり部 粘性弱
 8. 10YR1.7/1 黒色シルト しまり部 粘性弱
 9. 10YR2/6 黄褐色シルト しまり部 粘性弱
 10. 10YR2/2 黒色シルト しまり部 粘性弱 炭化植物粒小1.7号未満

<404号陥し穴>



A L = 282.000 m A'

B L = 51 m B'

A L = 282.000 m A'

B L = 51 m B'

A L = 282.000 m A'

B L = 51 m B'

A L = 282.000 m A'

B L = 51 m B'

A L = 282.000 m A'

B L = 51 m B'

A L = 282.000 m A'

B L = 51 m B'

A L = 282.000 m A'

B L = 51 m B'

A L = 282.000 m A'

B L = 51 m B'

A L = 282.000 m A'

B L = 51 m B'

A L = 282.000 m A'

B L = 51 m B'

A L = 282.000 m A'

B L = 51 m B'

A L = 282.000 m A'

B L = 51 m B'

A L = 282.000 m A'

B L = 51 m B'

A L = 282.000 m A'

B L = 51 m B'

A L = 282.000 m A'

B L = 51 m B'

A L = 282.000 m A'

B L = 51 m B'

A L = 282.000 m A'

B L = 51 m B'

A L = 282.000 m A'

B L = 51 m B'

A L = 282.000 m A'

B L = 51 m B'

A L = 282.000 m A'

B L = 51 m B'

A L = 282.000 m A'

B L = 51 m B'

A L = 282.000 m A'

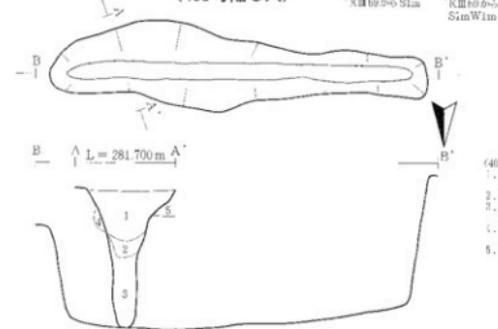
B L = 51 m B'

A L = 282.000 m A'

B L = 51 m B'

- (404号陥し穴A-A')
1. 7.5YR2/3 黄褐色シルト しまり部 粘性弱 炭化植物粒小1号未満
 2. 7.5YR2/1 黒色シルト しまり部 粘性弱
 3. 10YR2/3 黄褐色シルト しまり部とんど層 粘性弱 炭化植物粒小1~2号
 4. 7.5YR2/3 黄褐色シルト しまり部 粘性弱 炭化植物粒小1~2号
 5. 10YR2/6 黄褐色シルト しまり部 粘性弱 (掘りかき?)
 6. 7.5YR2/6 黄褐色シルト しまり部 粘性弱 (河内へ搬入)
 7. 7.5YR2/2 黒色シルト しまり部~中 粘性弱 炭化植物粒小1~2号 黄褐色土粒小~小1号

<402号陥し穴>



A L = 280.300 m A'

B L = 51 m B'

A L = 280.300 m A'

B L = 51 m B'

A L = 280.300 m A'

B L = 51 m B'

A L = 280.300 m A'

B L = 51 m B'

A L = 280.300 m A'

B L = 51 m B'

A L = 280.300 m A'

B L = 51 m B'

A L = 280.300 m A'

B L = 51 m B'

A L = 280.300 m A'

B L = 51 m B'

A L = 280.300 m A'

B L = 51 m B'

A L = 280.300 m A'

B L = 51 m B'

A L = 280.300 m A'

B L = 51 m B'

A L = 280.300 m A'

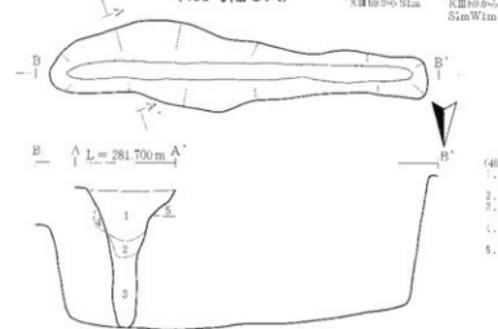
B L = 51 m B'

A L = 280.300 m A'

B L = 51 m B'

- (402号陥し穴A-A')
1. 7.5YR2/2 黒色シルト しまり部~中 粘性弱
 2. 7.5YR2/1 黒色シルト しまり部 粘性弱 黄褐色土粒小~小10~20%
 3. 7.5YR2/1 黒色シルト しまり部~中 粘性弱 黄褐色土粒小~小10~20% 黄褐色土ブロック (地山崩壊土) 含む
 4. 7.5YR2/6 黄褐色シルト しまり部 粘性中
 5. 7.5YR2/4 黄褐色シルト しまり部 粘性弱~中
 6. 7.5YR2/6 黄褐色シルト しまり部 粘性中
 7. 7.5YR2/1 黒色シルト しまり部 粘性弱

<403号陥し穴>



A L = 281.700 m A'

B L = 51 m B'

A L = 281.700 m A'

B L = 51 m B'

A L = 281.700 m A'

B L = 51 m B'

A L = 281.700 m A'

B L = 51 m B'

A L = 281.700 m A'

B L = 51 m B'

- (403号陥し穴A-A')
1. 10YR2/2 黄褐色シルト しまり部 粘性弱 炭化物粒・黄褐色土粒・粘土質を含む (掘りかき?)
 2. 7.5YR1.7/1 黒色シルト しまり部とんど層 粘性弱
 3. 7.5YR2/2 黒色シルト しまり部 粘性弱 炭化物粒小1号
 4. 10YR2/4 黄褐色シルト しまり部 粘性弱 炭化物粒小1号
 5. 7.5YR2/3 黄褐色シルト しまり部~中 粘性弱 (掘りかき?) 粘土ブロック・黄褐色土ブロックを含む

0 1 2 m

〔平面形・規模〕 平面形は溝形、規模は開口部が3.78×0.85m、底部が3.46×0.18mで深さは141cmである。

〔覆土・堆積状況〕 2層以下は非攪乱層であると判断した。この部分に関しては自然堆積と考えられる。

〔壁〕 壁の立ち上がりは短軸、長軸方向ともに急である。

〔出土遺物〕 出土していない。

404号陥し穴（第123図、写真図版126）

〔位置・検出状況〕 JIIIj9グリッドに位置する。攪乱層を除去したところ（IV層）で検出した。

〔重複〕 427号住と重複する。新旧関係については、検出状況ならびに断面観察から427号住→404号陥し穴の順に構築されたものと判断した。

〔平面形・規模〕 平面形は楕円形をなす。規模は開口部が1.68×0.74m、底部が1.22×0.29mで深さは117cmである。

〔覆土・堆積状況〕 炭化物粒を含む黒褐色土～褐色土を主体とする堆積である。自然堆積と判断した。

〔壁〕 壁の立ち上がりは短軸、長軸方向ともに急である。

〔出土遺物〕 出土していない。

405号陥し穴（第124図、写真図版127）

〔位置・検出状況〕 JIIIj10グリッドに位置する。攪乱層を除去したところ（IV層）で検出した。

〔重複〕 431号住と重複する可能性がある。新旧関係については不明である。

〔平面形・規模〕 平面形は楕円形をなす。規模は開口部が1.28×0.57m、底部が1.2×0.33mで深さは93cmである。底面に2箇所小穴を持つ。深さはそれぞれ約15cmと約50cmである。

〔覆土・堆積状況〕 最下層は黒色土、その上に黄褐色土の粘土質土を挟み上層に黒褐色土が堆積する。自然堆積と判断した。

〔壁〕 短軸方向、長軸方向ともに壁の立ち上がりは急である。

〔出土遺物〕 出土していない。

406号陥し穴（第124図、写真図版127）

〔位置・検出状況〕 JIVh1グリッドに位置する。攪乱層を除去したところ（IV層）で検出した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 平面形は溝形、規模は開口部が1.56×0.6m、底部が2.14×0.22mで深さは120cmである。

〔覆土・堆積状況〕 最下にある5層の上に明褐色土ならびにふい黄褐色土が、さらにその上層に炭化物粒ならびに焼土粒を含む黒色～褐色土が堆積する。自然堆積と判断した。

〔壁〕 短軸方向の壁はほぼ垂直に立ち上がる。長軸方向の壁はオーバーハングしている。

〔出土遺物〕 No883の土器が出土している。（第43・137図、写真図版203）

407号陥し穴（第124図、写真図版127）

〔位置・検出状況〕 JIVi2グリッドに位置する。攪乱層を除去したところ（IV層）で検出した。

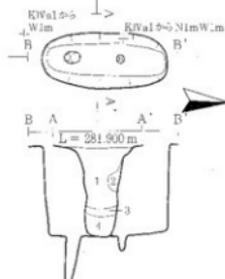
〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 平面形は溝形、規模は開口部が2.54×0.72m、底部が2.74×0.17mで深さは80cmである。

〔覆土・堆積状況〕 炭化物粒ならびに黄褐色土粒を含む黒褐色土が堆積する。自然堆積と判断した。

〔壁〕 短軸方向の壁の立ち上がりは急である。長軸方向の壁はオーバーハングする。

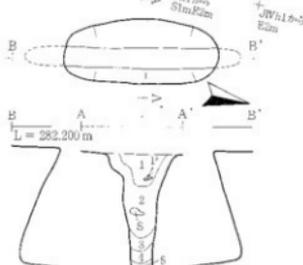
〈405号陥穴〉



〔405号陥穴-A'〕

1. T.YR2/2 黄褐色シルト しまり弱 粘気弱 炭化物粒微小5% 腐植質中粒等一0.5~10%
2. IYR5/6 黄褐色粘土質シルト しまり弱 粘性强 (粘土団聚ゾック)
3. IYR5/6 黄褐色粘土質シルト しまり弱 粘性强
4. T.YR2/1 黒色シルト しまり弱 粘性强

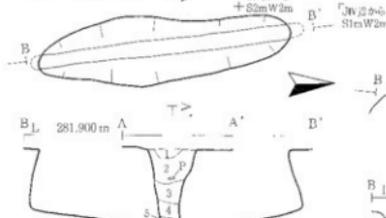
〈406号陥穴〉



〔406号陥穴-A'〕

1. T.YR2/1 黒色シルト しまり弱 粘気弱 炭化物粒微小5% 腐植質中粒等一0.10%
2. T.YR4/3 褐色シルト しまり弱 粘気弱 炭化物粒微小1%未満 腐土粘気
3. IYR4/3 土間黄褐色シルト しまり弱 粘気弱
4. T.YR5/6 黄褐色粘土質シルト しまり弱 粘気弱
5. T.YR2/1 黒色シルト しまり弱 粘気弱一弱

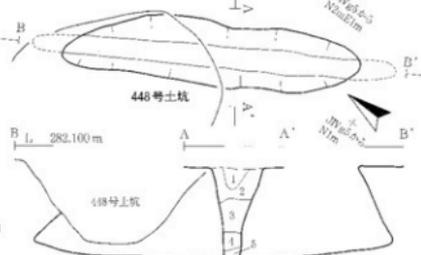
〈407号陥穴〉



〔407号陥穴-A'〕

1. IYR2/2 黄褐色シルト しまり中 粘気弱 (腐気)
2. IYR2/3 黄褐色シルト しまり弱 粘気弱 腐植土粒微小3~5% 腐土粘気微小1%
3. IYR5/6 黄褐色シルト しまり弱一弱 粘気中 炭化物粒微小1%未満
4. IYR5/6 黄褐色シルト しまり中 粘気弱 炭化物粒微小1%未満
5. IYR6/8 黄褐色粘土質シルト (Rt1)

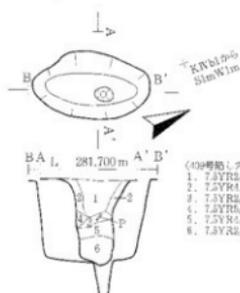
〈408号陥穴〉



〔408号陥穴-A'〕

1. T.YR2/1 黒色シルト しまり中 粘気弱と粘気 炭化物粒微小1%未満
2. T.YR2/3 黄褐色シルト しまり中 粘気弱 炭化物粒微小1%未満 腐植土粒微小5%
3. IYR5/4 黄褐色シルト しまり弱一弱 粘気弱 炭化物粒微小1%未満 腐植土粒微小3% 黄褐色粘土質シルト一弱
4. T.YR5/6 黄褐色粘土質シルト しまり中 粘気中
5. IYR6/2 黄褐色シルト しまり中 粘気中 黄褐色土粒微小5%

〈409号陥穴〉



〔409号陥穴-A'〕

1. T.YR2/2 黄褐色シルト しまり弱一弱 粘気弱 炭化物粒微小3~5% 腐植土粒微小1%
2. T.YR4/6 褐色シルト しまり弱一弱 粘気弱 腐植土粒微小10%
3. T.YR2/1 黒色シルト しまり弱 粘気弱 腐植土粒微小1%
4. T.YR5/6 黄褐色粘土質シルト しまり中 粘気中 (腐植土質シルト)
5. T.YR6/1 褐色シルト しまり弱一弱 粘気弱 腐植土粒微小1%
6. T.YR2/1 黒色シルト しまり弱 粘気弱 腐植土粒微小3%



【出土遺物】 土器が出土するが小片のため掲載していない。

408号隠し穴（第124図、写真図版127）

【位置・検出状況】 JIV f 1 グリッドほかに位置する。攪乱層を除去したところ（IV層）で検出した。

【重複】 448号土坑と重複する。検出状況ならびに断面観察から408号隠し穴→448号土坑の順に構築されたものと判断した。

【平面形・規模】 平面形は溝形、規模は開口部が2.98×0.66m、底部が3.66×0.25mで深さは94cmである。

【覆土・堆積状況】 炭化物粒ならびに黄褐色土粒を含む黒色土～極暗褐色土が堆積する。自然堆積と判断した。

【壁】 短軸方向の壁の立ち上がりはほぼ垂直である。長軸方向の壁はオーバーハングする。

【出土遺物】 出土していない。

409号隠し穴（第124図、写真図版128）

【位置・検出状況】 KIV a 1 グリッドに位置する。攪乱層を除去したところ（IV層）で検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は楕円形、規模は開口部が1.2×0.68m、底部が0.93×0.32mで深さは84cmである。

【覆土・堆積状況】 炭化物粒ならびに黄褐色土粒を含む黒色土～褐色土が堆積する。自然堆積と判断した。

【壁】 短軸方向の壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面から70cm付近で外反する。長軸方向の壁の立ち上がりは急である。

【出土遺物】 No884の土器が出土している。（第43・137図、写真図版203）

410号隠し穴（第125図、写真図版128）

【位置・検出状況】 KIV d 1 グリッドに位置する。攪乱層を除去したところ（IV層）で検出した。

【重複】 418号住、433号住と重複する可能性がある。

【平面形・規模】 平面形は溝形、規模は開口部が3.52×0.56m、底部が3.66×0.23mで深さは77cmである。

【覆土・堆積状況】 炭化物粒ならびに黄褐色土粒を含む黒褐色土～褐色土を主体とする堆積である。自然堆積と判断した。

【壁】 短軸方向の壁はほぼ垂直に立ち上がる。長軸方向の壁はややオーバーハングする。

【出土遺物】 出土していない。

411号隠し穴（第125図、写真図版128）

【位置・検出状況】 KIV e 2 グリッドに位置する。攪乱層を除去したところ（IV層）で検出した。

【重複】 418号住と重複する。418号住はほぼ床面での検出であったため、411号隠し穴との新旧関係を確認することはできなかった。

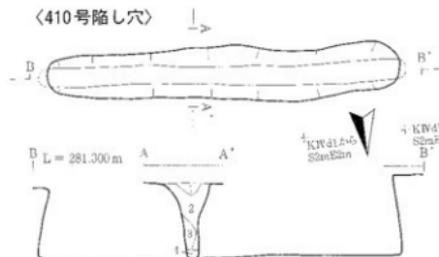
【平面形・規模】 平面形は溝形、規模は開口部が2.7×0.44m、底部が2.54×0.16mで深さは82cmである。

【覆土・堆積状況】 炭化物粒ならびに黄褐色土粒を含む黒褐色土が堆積する。自然堆積と判断した。

【壁】 短軸方向、長軸方向ともに壁の立ち上がりは急である。

【出土遺物】 出土していない。

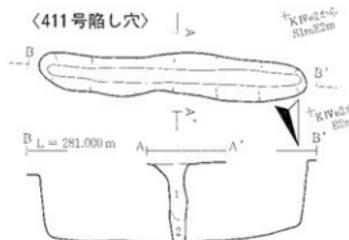
<410号陥し穴>



(410号陥し穴A-A')

1. 7.5YR2/3 黄褐色シルト しまり部 粘粒質 黄褐色土粒極小3% 粘土質
2. 7.5YR2/3 黄褐色シルト しまり部~中 粘粒質 炭化物粒極小1% 粘土質
3. 7.5YR2/3 黄褐色シルト しまり部~中 粘粒質 黄褐色土粒極小3% 粘土質
4. 10YR4/4 黄褐色シルト しまり部 粘粒質 炭化物粒極小1%

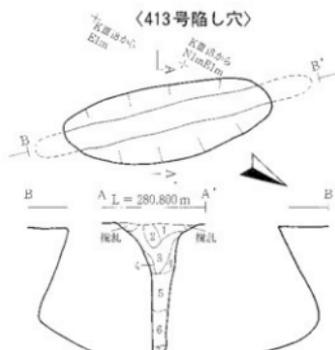
<411号陥し穴>



(411号陥し穴A-A')

1. 10YR2/3 黄褐色シルト しまり部~中 粘土質 炭化物粒極小1~3%
2. 7.5YR2/3 黄褐色シルト しまり部 粘粒質~中 炭化物粒極小1%

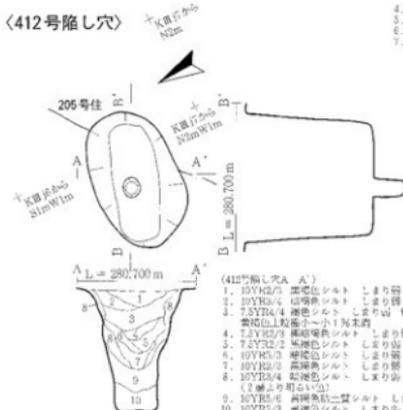
<413号陥し穴>



(413号陥し穴A-A')

1. 7.5YR3/3 黄褐色シルト しまり部 粘粒質 炭化物粒極小1% 粘土質
2. 7.5YR3/3 黄褐色シルト しまり部 粘粒質 炭化物粒極小1% 粘土質
3. 7.5YR3/3 黄褐色シルト しまり部 粘粒質 炭化物粒極小1% 粘土質
4. 7.5YR4/3 黄褐色シルト しまり部~中 粘粒質 炭化物粒極小1% 粘土質
5. 10YR2/3 黄褐色シルト しまり部 粘粒質 炭化物粒極小1%
6. 7.5YR4/4 黄褐色シルト しまり部 粘粒質 炭化物粒極小1%
7. 10YR2/3 黄褐色シルト しまり部 粘粒質

<412号陥し穴>



(412号陥し穴A-A')

1. 10YR2/3 黄褐色シルト しまり部 粘粒質
2. 10YR3/4 黄褐色シルト しまり部 粘粒質 黄褐色土粒極小1% 粘土質 炭化物粒極小1%
3. 7.5YR4/4 黄褐色シルト しまり部 粘粒質 炭化物粒極小1~3% 粘土質 炭化物粒極小1% 粘土質
4. 7.5YR2/3 黄褐色シルト しまり部 粘粒質 炭化物粒極小1% 粘土質
5. 7.5YR2/3 黄褐色シルト しまり部 粘粒質 炭化物粒極小1% 粘土質
6. 10YR2/3 黄褐色シルト しまり部 粘粒質 炭化物粒極小1%
7. 10YR2/3 黄褐色シルト しまり部 粘粒質 炭化物粒極小1%
8. 10YR3/4 黄褐色シルト しまり部 粘粒質 炭化物粒極小1% 粘土質 炭化物粒極小1% 粘土質
9. 10YR2/3 黄褐色シルト しまり部 粘粒質 (炭化物)
10. 10YR2/3 黄褐色シルト しまり部 粘粒質~中 炭化物粒極小1%



第126図 410~413号陥し穴

412号陥し穴 (第125図、写真図版128)

【位置・検出状況】 KⅢi6 グリッドに位置する。攪乱層を除去したところ (IV層) で検出した。

【重複】 205号住と重複する。検出状況ならびに断面観察から205号住→412号陥し穴の順に構築されたものと判断した。

【平面形・規模】 平面形は楕円形をなす。規模は開口部が1.44×0.83m、底部が1.22×0.46mで深さは122cmである。底面中央部付近に小穴を持つ。深さは約30cmである。

【覆土・堆積状況】 炭化物粒ならびに黄褐色土粒を含む黒褐色土～暗褐色土が堆積する。図中3層と4層には焼土粒が混入する。

【壁】 短軸方向、長軸方向ともに壁の立ち上がりは急である。

【出土遺物】 Na251の礫石器が出土している。(第43・280図、写真図版278)

413号陥し穴 (第125図、写真図版129)

【位置・検出状況】 KⅢi7 グリッドに位置する。攪乱層を除去したところ (IV層) で検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は溝形、規模は開口部が2.1×0.77m、底部が2.84×0.24mで深さは135cmである。

【覆土・堆積状況】 炭化物粒ならびに黄褐色土粒を含む黒褐色土～褐色土が堆積する。自然堆積と判断した。

【壁】 短軸方向の壁の立ち上がりはほぼ垂直である。長軸方向の壁はオーバーハングする。

【出土遺物】 Na252の礫石器が出土している。(第43・280図、写真図版279)

414号陥し穴 (第126図、写真図版129)

【位置・検出状況】 KⅢj8 グリッドに位置する。II層下部で検出した。

【重複】 403号住と重複する。検出状況から403号住→414号陥し穴の順に構築されたものと判断した。

【平面形・規模】 平面形は楕円形をなす。規模は開口部が1.82×0.92m、底部が1.38×0.46mで深さは131cmである。底面に小穴が6基配置されていることを確認した。深さは平均して約30cmである。

【覆土・堆積状況】 炭化物粒ならびに黄褐色土粒を含む黒色上～褐色土が堆積する。断面観察から自然堆積と判断した。

【壁】 短軸方向、長軸方向ともに底面からほぼ垂直に立ち上がり、底面から70～80cmのところまで外反する。

【出土遺物】 Na788の土器、Na253・254の礫石器が出土している。(第43・137・280図、写真図版203・279)

415号陥し穴 (第126図、写真図版129) (旧420号土坑)

【位置・検出状況】 KⅢg9 グリッドほかに位置する。攪乱層を除去したところ (IV層) で検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は溝形、規模は開口部が2.14×1.5m、底部が1.72×0.26mで深さは137cmである。

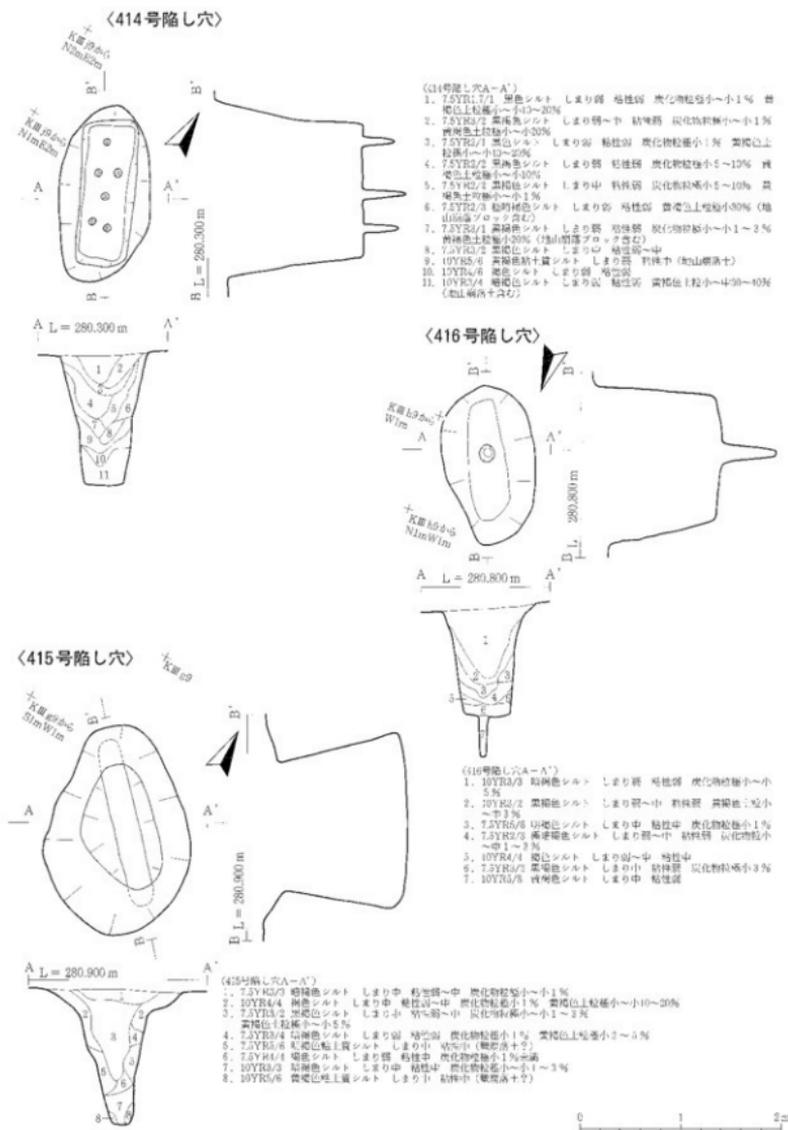
【覆土・堆積状況】 炭化物粒ならびに黄褐色土粒を含む黒褐色土～褐色土が堆積する。自然堆積と判断した。

【壁】 短軸方向の壁はほぼ垂直に立ち上がる。長軸方向の壁はオーバーハングする。

【出土遺物】 Na319の剥片石器、Na255の礫石器が出土している。(第39・43・223・280図、写真図版246・279)

416号陥し穴 (第126図、写真図版129)

【位置・検出状況】 KⅢg8 グリッドほかに位置する。404号住の精査途中で検出した。



第126図 414〜416号陥し穴

〔重複〕 404号住と重複する。新口関係については、検出状況から416号陥し穴→404号住の順に構築されたものと判断した。

〔平面形・規模〕 平面形は楕円形をなす。規模は開口部が1.63×0.94m、底部が1.24×0.38mで深さは112cmである。底面中央付近に小穴を持つ。深さは約50cmである。

〔覆土・堆積状況〕 炭化物粒ならびに黄褐色土粒を含む黒褐色土～褐色土が堆積する。自然堆積と判断した。

〔壁〕 短軸方向、長軸方向ともに壁の立ち上がりは急である。

〔出土遺物〕 No256の礫石器が出土している。(第43・280図、写真図版279)

417号陥し穴 (第127図、写真図版130)

〔位置・検出状況〕 JIV h 3 グリッドに位置する。攪乱層を除去したところ (IV層) で検出した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 平面形は楕円形をなす。規模は開口部が2.05×1.15m、底部が1.3×0.41mで深さは138cmである。底面中央付近に小穴を持つ。深さは約15cmである。

〔覆土・堆積状況〕 黄褐色土粒を含む黒色～明褐色土が堆積する。断面観察から自然堆積と判断した。

〔壁〕 短軸方向、長軸方向ともに壁の立ち上がりは急である。底面から120cm付近で外反する。

〔出土遺物〕 出土していない。

418号陥し穴 (第127図、写真図版130)

〔位置・検出状況〕 KIV e 2 グリッドに位置する。攪乱層を除去したところ (IV層) で検出した。

〔重複〕 平面的観察からは418号住と重複している可能性が考えられる。新口関係については不明である。

〔平面形・規模〕 平面形は楕円形をなす。規模は開口部が1.34×0.66m、底部が0.92×0.45mで深さは88cmである。底面中央付近に小穴を持つ。深さは約45cmである。

〔覆土・堆積状況〕 炭化物粒ならびに黄褐色土粒を含む黒褐色土～褐色土が堆積する。自然堆積と判断した。

〔壁〕 短軸方向、長軸方向ともに壁の立ち上がりは急である。

〔出土遺物〕 出土していない。

419号陥し穴 (第127図、写真図版130)

〔位置・検出状況〕 K III f 10 グリッドほかに位置する。412号住の精査途中で検出した。

〔重複〕 412号住、413号住と重複する。412号住検出時に本遺構を確認できなかったことから、419号陥し穴→412号住の順に構築されたものと判断した。413号住との新口関係は不明である。

〔平面形・規模〕 平面形は楕円形、規模は開口部が1.61×0.84m、底部が1.96×0.54mで深さは132cmである。

〔覆土・堆積状況〕 炭化物粒ならびに黄褐色土粒を含む黒褐色土～暗褐色土を主体とした堆積である。

〔壁〕 短軸方向の壁の立ち上がりは急である。長軸方向の壁はオーバーハングしている。

〔出土遺物〕 No257の礫石器が出土している。(第43・280図、写真図版279)

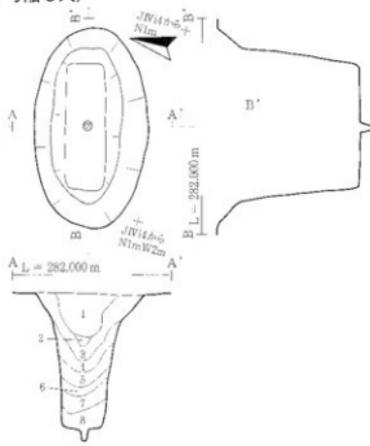
420号陥し穴 (第128図、写真図版131)

〔位置・検出状況〕 K III j 10 グリッドほかに位置する。II層下部で検出した。

〔重複〕 467号土坑と重複する。検出状況から467号土坑→420号陥し穴の順に構築されたものと判断した。

〔平面形・規模〕 平面形は溝形、規模は開口部が3.28×0.41m、底部が3×0.1mで深さは83cmである。

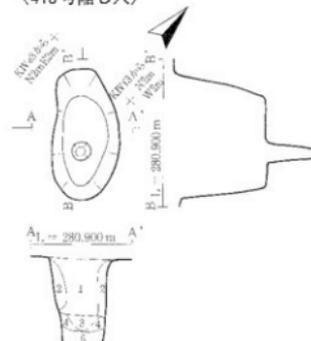
〈417号陥し穴〉



(417号陥し穴A-A')

1. 7.5YR3/1 黄褐色シルト しまり弱 粘粒多 炭化植物残小〜小3%
2. 7.5YR2/1 黄褐色シルト しまり弱 粘粒多
3. 7.5YR2/2 黄褐色シルト しまり中〜強 粘粒多 炭化物残小〜小3%
4. 7.5YR3/2 黄褐色シルト しまり弱 粘粒多 炭化植物残小〜小3%
5. 7.5YR3/2 黄褐色シルト しまり弱 粘粒多 炭化物残小〜小3%
6. 7.5YR3/2 黄褐色シルト しまり中 粘粒多
7. 7.5YR3/2 黄褐色シルト しまり中 粘粒多
8. 7.5YR2/2 黄褐色シルトと10YR5/6 黄褐色粘土質シルトの混在層

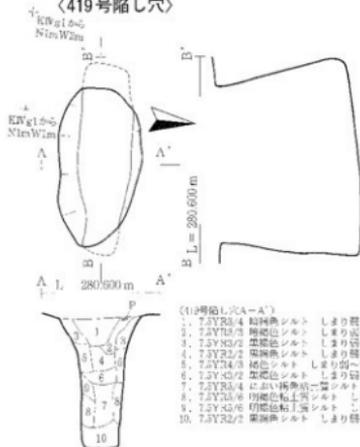
〈418号陥し穴〉



(418号陥し穴A-A')

1. 10YR5/3 黄褐色シルト しまり弱 粘粒多 炭化物残小〜小3%
2. 10YR3/3 黄褐色シルト しまり弱 粘粒多 炭化物残小〜小3%
3. 7.5YR3/2 黄褐色シルト しまり弱 粘粒多 炭化物残小〜小3%
4. 10YR5/3 黄褐色シルト しまり中 粘粒多 炭化物残小〜小3%
5. 10YR5/3 黄褐色シルト しまり中 粘粒多 炭化物残小〜小3%

〈419号陥し穴〉



(419号陥し穴A-A')

1. 7.5YR3/4 黄褐色シルト しまり弱 粘粒多 炭化物残小〜小3%
2. 7.5YR3/3 黄褐色シルト しまり弱 粘粒多 炭化物残小〜小3%
3. 7.5YR3/2 黄褐色シルト しまり弱 粘粒多 炭化物残小〜小3%
4. 7.5YR2/2 黄褐色シルト しまり弱 粘粒多 炭化物残小〜小3%
5. 7.5YR3/3 黄褐色シルト しまり弱 粘粒多 炭化物残小〜小3%
6. 7.5YR3/2 黄褐色シルト しまり弱 粘粒多 炭化物残小〜小3%
7. 7.5YR3/4 黄褐色シルト しまり弱 粘粒多 炭化物残小〜小3%
8. 7.5YR3/6 黄褐色シルト しまり中 粘粒多 炭化物残小〜小3%
9. 7.5YR3/6 黄褐色シルト しまり中 粘粒多 炭化物残小〜小3%
10. 7.5YR2/2 黄褐色シルト しまり弱 粘粒多 炭化物残小〜小3%



第127図 417~419号陥し穴

【覆土・堆積状況】 黒褐色～褐色土が堆積する。自然堆積と判断した。

【壁】 短軸方向、長軸方向ともに壁の立ち上がりは急である。

【出土遺物】 出土していない。

421号陥し穴（第128図、写真図版131）

【位置・検出状況】 KIV g 1 グリッドほかに位置する。攪乱層を除去したところ（II層下部）で検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は楕円形をなす。規模は開口部が1.71×0.75m、底部が1.25×0.23mで深さは127cmである。底面に小穴を8基確認した。深さはいずれも20cm～35cm程度である。

【覆土・堆積状況】 炭化物粒ならびに黄褐色土粒などを含む黒色土～明褐色土が堆積する。断面観察から自然堆積と判断した。

【壁】 短軸方向、長軸方向ともに壁はほぼ垂直に立ち上がる。

【出土遺物】 出土していない。

422号陥し穴（第128図、写真図版131）

【位置・検出状況】 KIV c 3 グリッドほかに位置する。攪乱層を除去したところ（IV層）で検出した。

【重複】 475号土坑と重複する。検出状況ならびに断面観察から422号陥し穴→475号土坑の順に構築されたものと判断した。

【平面形・規模】 平面形は溝形、規模は開口部が2.36×0.5m、底部が2.72×0.15mで深さは102cmである。

【覆土・堆積状況】 炭化物粒ならびに黄褐色土粒を含む黒褐色土～暗褐色土が堆積する。断面観察による混入物の状況から、人為的堆積の可能性が考えられる。

【壁】 短軸方向の壁はほぼ垂直に立ち上がる。長軸方向の壁はオーバーハングする。

【出土遺物】 出土していない。

423号陥し穴（第128図、写真図版132）

【位置・検出状況】 KIV b 3 グリッドほかに位置する。攪乱層を除去したところ（IV層）で検出した。

【重複】 432号住に隣接し、一部重複している可能性がある。新旧関係については不明である。

【平面形・規模】 平面形は溝形、規模は開口部が2.71×0.54m、底部が3.15×0.12mで深さは72cmである。

【覆土・堆積状況】 黄褐色土ブロックを含む黒褐色上～褐色土が堆積する。自然堆積と判断した。

【壁】 短軸方向の壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面から60cm付近で外反する。長軸方向の壁はオーバーハングしている。

【出土遺物】 出土していない。

424号陥し穴（第128図、写真図版132）

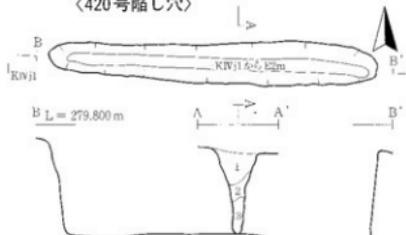
【位置・検出状況】 KIV a 4 グリッドに位置する。攪乱層を除去したところ（IV層）で検出した。

【重複】 474号土坑、473号土坑と重複する。新旧関係については、検出状況ならびに断面観察から474号土坑→473号土坑→424号陥し穴の順に構築されたことを確認している。

【平面形・規模】 平面形は不整な溝形をなす。規模は開口部が2.97×0.85m、底部が3×0.23mで深さは94cmである。

【覆土・堆積状況】 黒褐色土～暗褐色土が堆積する。自然堆積と判断した。

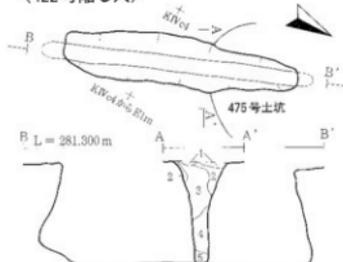
<420号陥し穴>



(420号陥し穴A-A')

1. 7.5YR12/2 黄褐色シルト しまり弱 粘性中～強 黄褐色土ブロック中～大35%
2. 7.5YR1/6 灰白シルト しまり中 粘性弱～強 粘褐色土ブロック大25%
3. 7.5YR3/2 黄褐色シルト しまり弱 粘性中 黄褐色土粒小～中30%

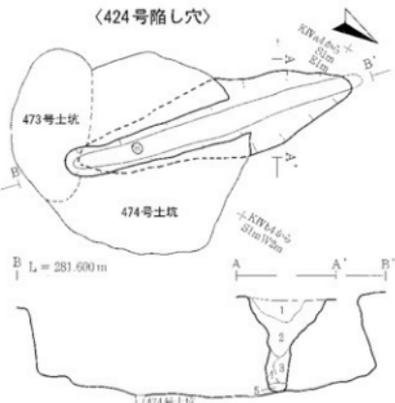
<422号陥し穴>



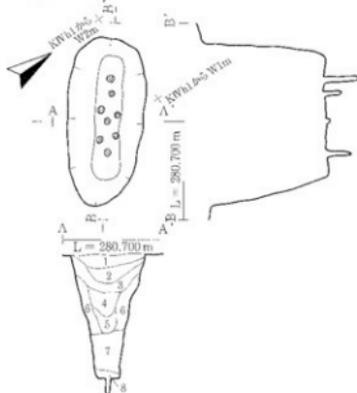
(422号陥し穴A-A')

1. 7.5YR9/3 暗褐色シルト しまり中～強 粘性強 黄褐色土粒大13%
2. 7.5YR4/6 灰褐色土質シルト しまり弱 粘性中～強15%
3. 7.5YR1/1 黄褐色シルト しまり中 粘性強 黄褐色土粒大～中20%
4. 7.5YR3/1 黄褐色シルト しまり中 粘性中～強 黄褐色土ブロック大35%
5. 7.5YR2/1 黄褐色粘土質シルト しまり弱～強 粘性中～強

<424号陥し穴>



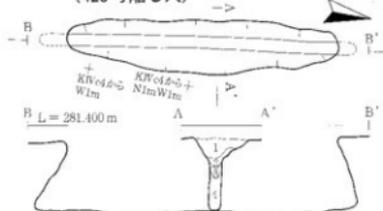
<421号陥し穴>



(421号陥し穴A-A')

1. 7.5YR1/7 灰白シルト しまり中 粘性中 粘褐色土ブロック中～大20%
2. 7.5YR3/2 黄褐色シルト しまり弱～中 粘性中～強 黄褐色土ブロック大20%
3. 7.5YR3/2 黄褐色シルト しまり中 粘性中 黄褐色土粒大10% 黄褐色土粒小10%
4. 7.5YR2/2 黄褐色シルト しまり中 粘性中～強 黄褐色土粒大～中4%
5. 7.5YR1/1 黄褐色シルト しまり弱～中 粘性中～強 黄褐色土ブロック小10%
6. 7.5YR3/1 暗褐色シルト しまり中～強 粘性中～強 黄褐色土粒大～中最大30%
7. 7.5YR5/6 灰褐色シルト しまり弱 粘性中～強 暗褐色土ブロック大20%
8. 7.5YR4/3 暗褐色シルト しまり中～強 粘性中～強 黄褐色土粒小～中最大15%

<423号陥し穴>



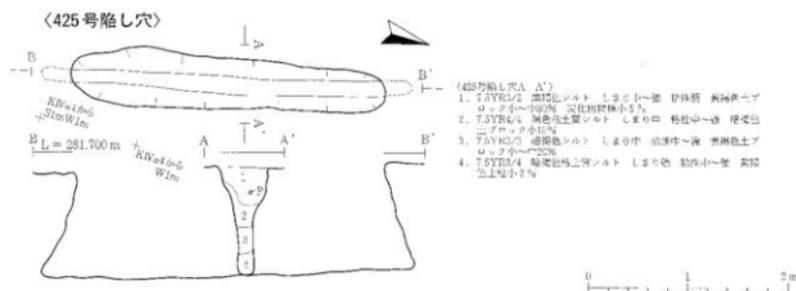
(423号陥し穴A-A')

1. 7.5YR2/2 黄褐色シルト しまり中 粘性中 黄褐色土ブロック極小～中20%
2. 7.5YR1/6 灰白シルト しまり弱～中 粘性中～強 暗褐色土粒小10%
3. 7.5YR1/6 灰白粘土質シルト しまり中～強 粘性中～強 暗褐色土粒小10%
4. 7.5YR3/1 黄褐色粘土質シルト しまり弱 粘性中～強 黄褐色土ブロック中15%

(424号陥し穴A-A')

1. 7.5YR3/1 黄褐色シルト しまり中 粘性弱 黄褐色土ブロック極小～大20%
2. 7.5YR3/2 黄褐色シルト しまり弱～中 粘性弱～中 黄褐色土ブロック最大40% 粘性弱極小3%
3. 7.5YR1/6 灰白粘土質シルト しまり弱～中 粘性中～強 黄褐色土ブロック10%
4. 7.5YR3/2 黄褐色シルト しまり弱～中 粘性中～強 黄褐色土ブロック中10%
5. 7.5YR3/1 黄褐色粘土質シルト しまり中～強 粘性中～強





第129図 425号陥し穴

【壁】 短軸方向の壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面から50cm付近で外反する。長軸方向の壁はオーバーハングしている。

【出土遺物】 出土していない。

425号陥し穴（第129図、写真図版132）

【位置・検出状況】 JIVj3グリッドほかに位置する。複乱層を除去したところ（IV層）で検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は溝形、規模は開口部が3.13×0.5m、底部が3.71×0.18mで深さは109cmである。

【覆土・堆積状況】 炭化物粒ならびに黄褐色土粒を含む黒褐色土～褐色土が堆積する。自然堆積と判断した。

【壁】 短軸方向の壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面から70cm付近で外反する。

【出土遺物】 Na885～887の土器が出土している。（第43・137図、写真図版203）

601号陥し穴（第130図、写真図版132）

【位置・検出状況】 DIIIg4グリッドほかに位置する。II層下部で検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は楕円形をなす。規模は開口部が2.68×1.76m、底部が1.02×0.57mで深さは181cmである。底面に不規則に配置される小穴を6基確認した。いずれも径20cm、深さ20～30cm程度である。

【覆土・堆積状況】 炭化物粒ならびに黄褐色土粒を含む黒色土～明褐色土が堆積する。図中3層と4層にはTo-aと推測される火山灰が含まれる。自然堆積と判断した。

【壁】 短軸方向、長軸方向ともに壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面から130cm付近で外反する。

【出土遺物】 出土していない。

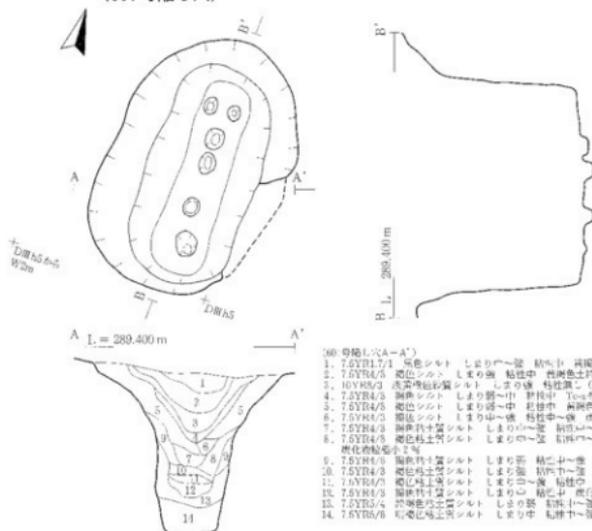
602号陥し穴（第130図、写真図版133）

【位置・検出状況】 DIIIi7グリッドほかに位置する。II層下部で検出した。

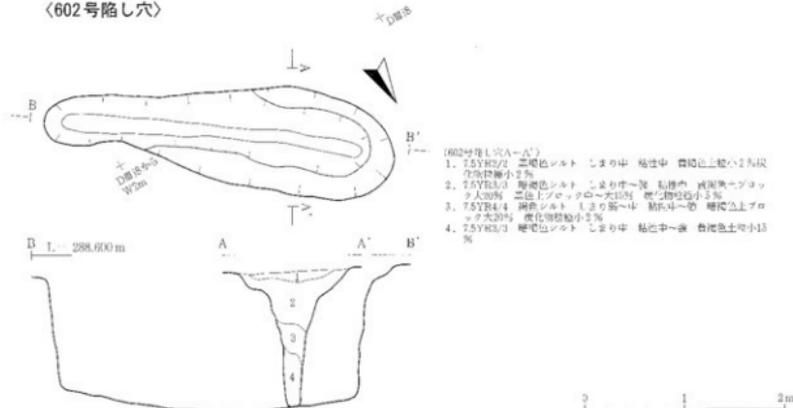
【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は不整な溝形をなす。規模は開口部が3.54×1.08m、底部が3.02×0.2mで深さは145cmである。

〈601号陥し穴〉



〈602号陥し穴〉



【覆土・堆積状況】 炭化物粒ならびに黄褐色土粒を含む黒褐色土～褐色土が堆積する。自然堆積と判断した。

【壁】 短軸方向の壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面から120cm程度で外反する。

【出土遺物】 出土していない。

603号陥し穴（第131図、写真図版133）

【位置・検出状況】 EⅢ a 5 グリッドに位置する。Ⅱ層下部で検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は溝形、規模は開口部が3.86×0.92m、底部が3.69×0.2mで深さは154cmである。

【覆土・堆積状況】 黒色土～褐色土が堆積する。自然堆積と判断した。

【壁】 短軸方向の壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面から70cm付近で外反する。長軸方向の壁はほぼ垂直である。

【出土遺物】 出土していない。

604号陥し穴（第131図、写真図版133）

【位置・検出状況】 EⅢ b 5 グリッドに位置する。Ⅱ層下部で検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は楕円形をなす。規模は開口部が3.04×1.76m、底部が2.09×0.44mで深さは188cmである。

【覆土・堆積状況】 黒色土～明褐色土が堆積する。断面図中3層にはTo-aと推測される火山灰が含まれる。

【壁】 短軸方向、長軸方向ともに壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面から120cm付近で外反する。

【出土遺物】 出土していない。

605号陥し穴（第131図、写真図版133）

【位置・検出状況】 EⅢ e 6 グリッドほかに位置する。Ⅱ層下部で検出した。

【重複】 601号土坑と重複する。検出状況ならびに断面観察から601号土坑→605号陥し穴の順に構築されたものと判断した。

【平面形・規模】 平面形は溝形、規模は開口部が4.12×0.6m、底部が4.36×0.18mで深さは95cmである。

【覆土・堆積状況】 黄褐色土粒ほかを含む黒褐色土ならびに灰褐色土が堆積する。自然堆積と判断した。

【壁】 短軸方向の壁はほぼ垂直に立ち上がる。長軸方向の壁も同様であるが、北東側の壁はややオーバーハングする。

【出土遺物】 出土していない。

606号陥し穴（第132図、写真図版134）

【位置・検出状況】 EⅢ f 5 グリッドほかに位置する。Ⅱ層下部で検出した。

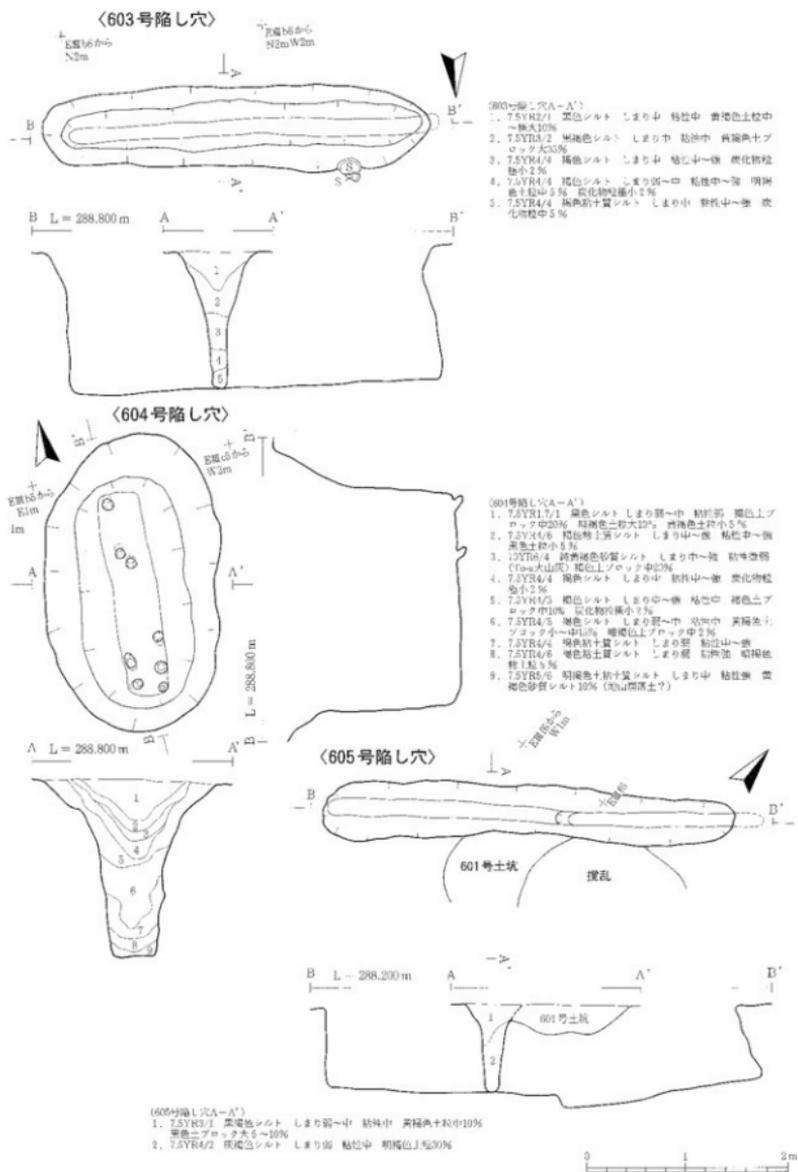
【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は楕円形をなす。規模は開口部が2.92×0.72m、底部が1.94×0.38mで深さは185cmである。底面長軸方向両端部に小穴を持つ。いずれも径15cm、深さ20cm程度である。

【覆土・堆積状況】 黒色土～灰褐色土が堆積する。断面図中3層にはTo-aと推測される火山灰が含まれる。

【壁】 短軸方向、長軸方向ともに壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面から120cm付近で外反する。

【出土遺物】 出土していない。



第131図 603～605号陥し穴

607号陥し穴 (第132図、写真図版134)

【位置・検出状況】 E III i 3 グリッドに位置する

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は楕円形をなすと推測される。規模は開口部が2.7×(1.84)m、底部が1.06×(0.68)mで深さは131cmである。

【覆土・堆積状況】 黒色土～褐色土が堆積する。断面図中4層にはTo-aと推測される火山灰が含まれる。

【壁】 短軸方向、長軸方向ともに壁の立ち上がりは急である。

【出土遺物】 出土していない。

608号陥し穴 (第133図、写真図版134)

【位置・検出状況】 E III g 5 グリッドほかに位置する。II層下部にて検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は不整な円形をなす。規模は開口部が1.92×1.44m、底部が1.14×0.98mで深さは121cmである。底面中央付近に小穴を持つ。深さは50cmである。

【覆土・堆積状況】 炭化物粒ほかを含む黒褐色土～褐色土が堆積する。To-aと推測される火山灰はいずれの層にも含んでいない。自然堆積と判断した。

【壁】 壁の立ち上がりは急である。北東部の壁の一部はオーバーハングしている。

【出土遺物】 出土していない。

609号陥し穴 (第133図、写真図版134)

【位置・検出状況】 F III d 4 グリッドほかに位置する。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は楕円形、規模は開口部が2.96×2.14m、底部が1.88×1.4mで深さは214cmである。

【覆土・堆積状況】 黒色土～明褐色土が堆積する。断面図中4層にはTo-aと推測される火山灰が含まれる。断面観察から自然堆積と判断した。

【壁】 短軸方向、長軸方向ともに壁の立ち上がりは急で、底面から150cm付近で外反する。

【出土遺物】 出土していない。

610号陥し穴 (第133図、写真図版135)

【位置・検出状況】 G III e 3 グリッドに位置する。II層下部で検出した。

【重複】 なし。遺構は調査区外までかかっており、遺構全体を把握することはできなかった。

【平面形・規模】 規模は開口部が(0.79)×(1.8)m、底部が(0.40)×(0.46)mで深さは164cmである。

【覆土・堆積状況】 黒色土～褐色土が堆積する。To-aと推測される火山灰はいずれの層にも含んでいない。自然堆積と判断した。

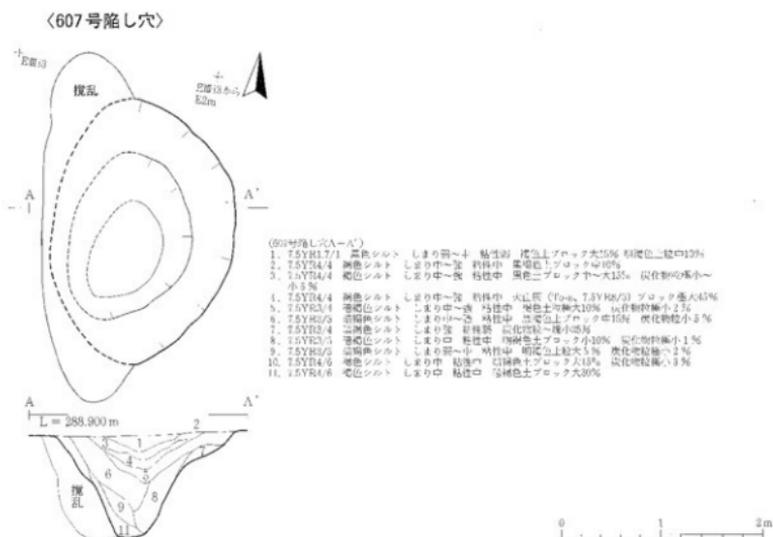
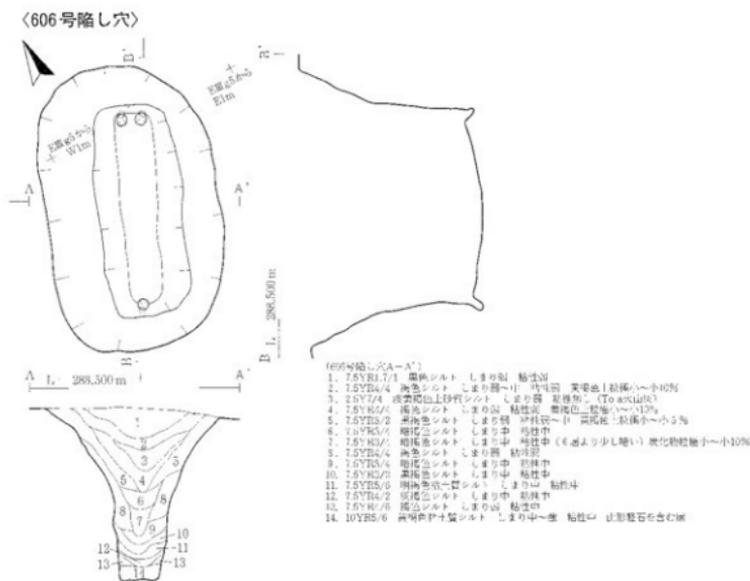
【壁】 短軸方向、長軸方向ともに壁の立ち上がりは急で、底面から100cm付近で外反する。

【出土遺物】 出土していない。

611号陥し穴 (第133図、写真図版135)

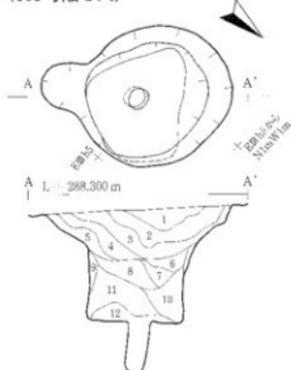
【位置・検出状況】 G III i 3 グリッドに位置する。II層下部で検出した。

【重複】 なし。



第132図 606・607号陥し穴

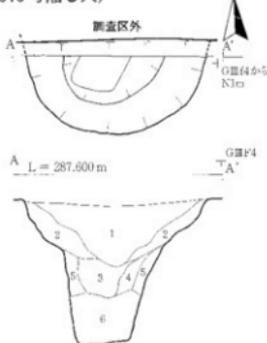
〈608号陥し穴〉



(608号陥し穴A-A')

1. 7.5YR3/1 黄褐色シルト しまり中 粘性弱～中 堆土ブロック含む 黄褐色土粒微小～小3～10%
2. 7.5YR3/2 黄褐色シルト しまり中 粘性中 黄褐色土粒微小～小2%
3. 7.5YR3/4 黄褐色シルト しまり中 粘性中 黄褐色土粒微小～小2%
4. 7.5YR3/2 黄褐色シルト しまり中 粘性中 黄褐色土粒微小～小2%
5. 7.5YR4/1 黄褐色シルト しまり中～弱 粘性中～強 黄褐色土粒微小～小15%
6. 7.5YR4/4 黄褐色シルト しまり中 粘性中～強 黄褐色土粒微小～小3～10%
7. 7.5YR3/3 黄褐色シルト しまり弱～強 粘性中 黄褐色土粒微小～中30%
8. 7.5YR3/3 黄褐色シルト しまり弱～強 粘性中 黄褐色土粒微小～中30%
9. 7.5YR4/0 黄褐色土質シルト しまり弱～強 粘性中～強 黄褐色土粒微小～中5%
10. 7.5YR4/4 黄褐色土質シルト しまり弱 粘性中～強 黄褐色土粒微小～中5%
11. 7.5YR3/4 黄褐色シルト しまり中 粘性中～強 黄褐色土粒微小～中10%
12. 7.5YR3/2 黄褐色シルト しまり弱～中 粘性中～強 黄褐色土粒微小～中15%

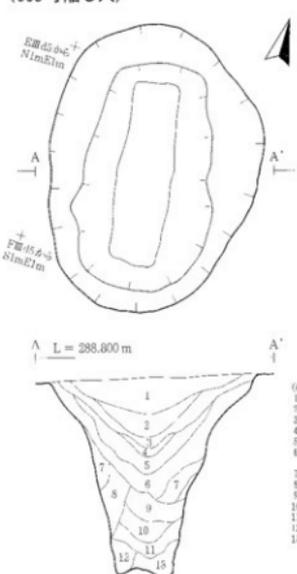
〈610号陥し穴〉



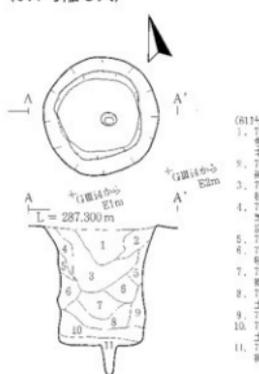
(610号陥し穴A-A')

1. 7.5YR1/1 黄褐色シルト しまり中 粘性弱～中 黄褐色土粒微小～小10%
2. 7.5YR3/2 黄褐色シルト しまり中 粘性中 黄褐色土粒微小～中15%
3. 7.5YR3/3 黄褐色シルト しまり弱～中 粘性中 黄褐色土粒微小～中10%
4. 7.5YR3/3 黄褐色シルト しまり中 粘性中～強 黄褐色土粒微小～中5%
5. 7.5YR1/1 黄褐色シルト しまり中 粘性中～強 黄褐色土粒微小～中5%
6. 7.5YR4/4 黄褐色土質シルト しまり中 粘性中～強 黄褐色土粒微小～中5%

〈609号陥し穴〉



〈611号陥し穴〉



(611号陥し穴A-A')

1. 7.5YR1/1 黄褐色シルト しまり中 粘性弱～中 黄褐色土粒微小～小10%
2. 7.5YR3/2 黄褐色シルト しまり中～強 粘性中 黄褐色土粒微小～中15%
3. 7.5YR2/2 黄褐色シルト しまり中 粘性中 黄褐色土粒微小～中10%
4. 7.5YR4/3 黄褐色シルト しまり中～強 粘性中～強 黄褐色土粒微小～中10%
5. 7.5YR5/2 黄褐色シルト しまり中～強 粘性中～強 黄褐色土粒微小～中10%
6. 7.5YR3/5 黄褐色シルト しまり中～強 粘性中～強 黄褐色土粒微小～中10%
7. 7.5YR3/1 黄褐色シルト しまり弱 粘性中～強 黄褐色土粒微小～中10%
8. 7.5YR3/5 黄褐色シルト しまり弱 粘性中 黄褐色土粒微小～中10%
9. 7.5YR3/5 黄褐色シルト しまり弱 粘性中 黄褐色土粒微小～中10%
10. 7.5YR3/5 黄褐色シルト しまり弱 粘性中 黄褐色土粒微小～中10%
11. 7.5YR3/3 黄褐色シルト しまり中 粘性中～強 黄褐色土粒微小～中10%

(609号陥し穴A-A')

1. 7.5YR1/1 黄褐色シルト しまり弱 粘性弱～中
2. 7.5YR4/2 黄褐色シルト しまり中～強 粘性中～強 黄褐色土粒微小～中5%
3. 7.5YR4/4 黄褐色シルト しまり中～強 粘性中～強 黄褐色土粒微小～中5%
4. 10YR5/4 黄褐色砂質シルト しまり弱 粘性弱 (T₀-穴土質) 黄褐色土粒微小～中10%
5. 7.5YR4/6 黄褐色土質シルト しまり弱 粘性中 黄褐色土粒微小～中5%
6. 7.5YR4/2 黄褐色土質シルト しまり弱 粘性中～強 黄褐色土粒微小～中5%
7. 7.5YR4/4 黄褐色土質シルト しまり弱 粘性中 黄褐色土粒微小～中5%
8. 7.5YR4/6 黄褐色土質シルト しまり弱～中 粘性中 黄褐色土粒微小～中10%
9. 7.5YR4/6 黄褐色土質シルト しまり弱～中 粘性中 黄褐色土粒微小～中10%
10. 7.5YR3/2 黄褐色土質シルト しまり弱 粘性中～強 黄褐色土粒微小～中
11. 7.5YR4/4 黄褐色土質シルト しまり弱 粘性中
12. 7.5YR4/4 黄褐色土質シルト しまり弱～強 粘性中
13. 7.5YR5/8 黄褐色土質シルト しまり中～強 粘性中



【平面形・規模】 平面形は円形をなす。規模は開口部が1.2×1.16m、底部が0.82×0.75mで深さは134cmである。底面中央部付近に径15cmの小穴を持つ。深さは30cmである。

【覆土・堆積状況】 炭化物粒ならびに黄褐色上粒を含む黒色土～明褐色土が堆積する。To-aと推測される火山灰はいずれの層にも含んでいない。自然堆積と判断した。

【壁】 壁の立ち上がりはほぼ垂直である。

【出土遺物】 出土していない。

612号陥し穴（第134図、写真図版135）

【位置・検出状況】 G III j 3 グリッドほかに位置する。II層下部で検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は楕円形をなす。規模は開口部が2.92×1.84m、底部が1.12×0.63mで深さは190cmである。

【覆土・堆積状況】 炭化物粒ならびに黄褐色上粒を含む黒色土～明褐色土が堆積する。断面図中3層にはTo-aと推測される火山灰が含まれる。自然堆積と判断した。

【壁】 短軸方向、長軸方向ともに壁の立ち上がりは急で、底面から110cm付近で外反する。

【出土遺物】 出土していない。

613号陥し穴（第134図、写真図版135・288）

【位置・検出状況】 H III h 2 グリッドほかに位置する。II層下部で検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は楕円形をなす。規模は開口部が2.92×1.85m、底部が2.27×0.80mで深さは169cmである。

【覆土・堆積状況】 黒色土～明褐色土が堆積する。断面図中3層はTo-aと推測される火山灰が含まれる。自然堆積と判断した。

【壁】 短軸方向、長軸方向ともに壁の立ち上がりは急で、底面から100cm付近で外反する。

【出土遺物】 出土していない。

614号陥し穴（第135図、写真図版135）

【位置・検出状況】 I III b 2 グリッドに位置する。II層下部で検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は楕円形、規模は開口部が1.8×1.14m、底部が1.58×0.6mで深さは119cmである。

【覆土・堆積状況】 炭化物粒ほかを含む黒褐色土～明褐色土が堆積する。To-aと推測される火山灰はいずれの層にも含んでいない。自然堆積と判断した。

【壁】 短軸方向、長軸方向ともに壁の立ち上がりは急で、底面から60cm付近で外反する。

【出土遺物】 出土していない。

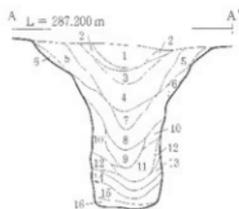
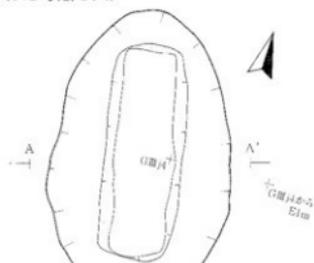
615号陥し穴（第135図、写真図版136・288）

【位置・検出状況】 I III c 2 グリッドほかに位置する。II層下部で検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は楕円形をなす。規模は開口部が2.74×1.76m、底部が2.00×0.70mで深さは184

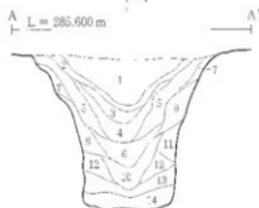
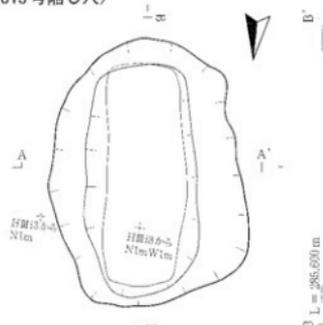
〈612号陥し穴〉



(612号陥し穴A-A')

1. 7.5V17/7 黒色シルト しまり中 陥凹中 黄褐色土層小<中>2% 炭化植物小<中>2%
2. 7.5V18/6 褐色シルト しまり弱 陥凹中 褐色土層小<中>2% 炭化植物小<中>1%
3. 7.5V17/1 褐色砂質シルト しまり強 陥凹中 褐色土層小<中>10%
4. 7.5V24/4 褐色シルト しまり中 陥凹中 黄褐色土層小2% 炭化植物層小2%
5. 7.5V35/3 褐色シルト しまり中 陥凹中 褐色土層小5% 炭化植物小3%
6. 7.5V35/6 明褐色シルト しまり中 陥凹中 褐色土層小25%
7. 7.5V24/2 褐色土層シルト しまり弱 陥凹中 褐色土層小2%
8. 7.5V34/2 褐色シルト しまり弱 陥凹中 褐色土層中<中>8% 炭化植物層小1%
9. 7.5V34/6 褐色シルト しまり弱 陥凹中 明褐色土層中10%
10. 7.5V24/2 褐色シルト しまり弱 陥凹中 褐色土層中10%
11. 7.5V23/3 褐色シルト しまり弱 陥凹中 褐色土層中10%
12. 7.5V34/2 褐色シルト しまり弱 陥凹中 褐色土層中10%
13. 7.5V23/1 黄褐色シルト しまり弱 陥凹中 褐色土層中10%
14. 7.5V24/6 褐色シルト しまり弱 陥凹中
15. 7.5V35/3 褐色土層シルト しまり弱 陥凹中 褐色土層中10%
16. 7.5V24/3 褐色土層シルト しまり弱 陥凹中 褐色土層中10%

〈613号陥し穴〉



(613号陥し穴A-A')

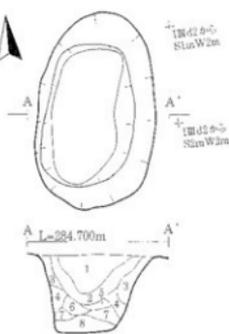
1. 7.5V17/7 黒色シルト しまり中 陥凹中 褐色土層中<中>10%
2. 7.5V23/1 褐色シルト しまり弱 陥凹中 褐色土層中10%
3. 7.5V17/1 褐色砂質シルト しまり強 陥凹中 褐色土層中10%
4. 7.5V24/3 褐色シルト しまり中 陥凹中 褐色土層中10%
5. 7.5V23/2 褐色シルト しまり弱 陥凹中 褐色土層中10%
6. 7.5V24/2 褐色シルト しまり弱 陥凹中 褐色土層中10%
7. 7.5V23/3 褐色シルト しまり中 陥凹中 褐色土層中10%
8. 7.5V23/6 褐色シルト しまり弱 陥凹中 褐色土層中10%
9. 7.5V18/3 褐色シルト しまり弱 陥凹中 褐色土層中10%
10. 7.5V24/2 褐色シルト しまり弱 陥凹中 褐色土層中10%
11. 7.5V23/4 褐色シルト しまり中 陥凹中 褐色土層中10%
12. 7.5V23/2 褐色シルト しまり弱 陥凹中 褐色土層中10%
13. 7.5V24/6 褐色シルト しまり弱 陥凹中 褐色土層中10%
14. 7.5V23/6 褐色土層シルト しまり弱 陥凹中 褐色土層中10%

第134図 612・613号陥し穴

<614号陥穴>



<616号陥穴>



<615号陥穴>



第135図 614~616号陥穴

cmである。底面に小穴を3基確認した。いずれも楕円形で径20～30cm、深さは10cm～20cm程度である。

【覆土・堆積状況】炭化物粒ほかを含む黒色土～黄褐色土が堆積する。断面図中5層にはTo-aと推測される火山灰が含まれる。自然堆積と判断した。

【壁】短軸方向、長軸方向ともに壁の立ち上がりはほぼ垂直で、底面から100cm付近で外反する。

【出土遺物】出土していない。

616号陥し穴（第135図、写真図版136）

【位置・検出状況】Ⅲc2グリッドに位置する。Ⅱ層下部で検出した。

【重複】なし。

【平面形・規模】平面形は楕円形、規模は開口部が2.02×1.18m、底部が1.38×0.64mで深さは79cmである。

【覆土・堆積状況】炭化物粒ならびに黄褐色土粒を含む黒褐色土～褐色土が堆積する。To-aと推測される火山灰はいずれの層にも含んでいない。自然堆積と判断した。

【壁】短軸方向、長軸方向ともに壁の立ち上がりは急で、底面から60cm付近で外反する。

【出土遺物】Na472の剥片石器が出土している。（第43・223図、写真図版246）

617号陥し穴（第136図、写真図版136・288）

【位置・検出状況】Ⅲc2グリッドに位置する。Ⅱ層下部で検出した。

【重複】なし。

【平面形・規模】平面形は楕円形をなす。規模は開口部が2.00×1.44m、底部が1.55×0.80mで深さは132cmである。

【覆土・堆積状況】炭化物粒ならびに黄褐色土粒を含む黒褐色土～暗褐色土が堆積する。検出状況ならびに断面観察から自然堆積と判断した。

【壁】短軸方向、長軸方向ともに壁の立ち上がりはほぼ垂直で、底面から70cm付近で外反する。

【出土遺物】出土していない。

618号陥し穴（第136図、写真図版136）

【位置・検出状況】Ⅲc4グリッドに位置する。Ⅱ層下部で検出した。検出状況が不整なシミであったため、風倒木痕の疑いを持って掘り進めたが、のちに遺構であることが判明した。

【重複】なし。

【平面形・規模】平面形は楕円形、規模は開口部が2.02×0.96m、底部が1.65×0.8mで深さは117cmである。

【覆土・堆積状況】断面記録を欠くが、精査時には炭化物粒を含む褐色土を主体とした堆積で、To-aと推測される火山灰をいずれの層にも含んでいなかったことを確認している。

【壁】短軸方向、長軸方向ともに壁はオーバーハングし、底面から60cm付近で外反する。

【出土遺物】Na473の剥片石器が出土している。（第43・223図、写真図版246）

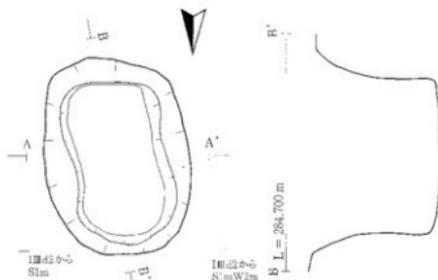
619号陥し穴（第136図、写真図版136）

【位置・検出状況】Ⅱe10グリッドほか位置する。Ⅱ層下部で検出した。このタイプの陥し穴には、底面中央部に小穴を確認することが多いため、注意して掘り進めたが確認することはなかった。

【重複】なし。

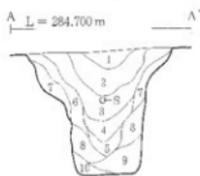
【平面形・規模】平面形は円形をなす。規模は開口部が1.54×1.42m、底部が1.02×0.92mで深さは148cm

〈617号陥し穴〉

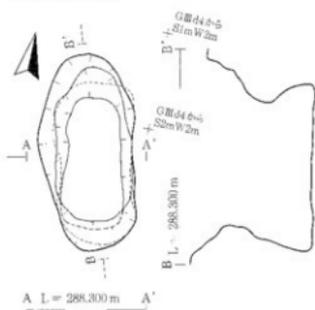


(617号陥し穴A-A')

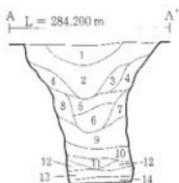
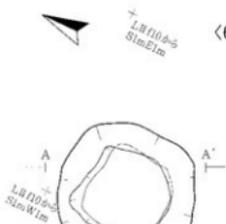
1. 7.5YR2/2 黒褐色シルト しまり中 粘性弱
2. 7.5YR2/2 黒褐色シルト しまり中 粘性弱
3. 7.5YR2/2 黒褐色シルト しまり中 粘性弱
4. 7.5YR2/2 黒褐色シルト しまり中 粘性中
5. 7.5YR2/2 黒褐色シルト しまり中 粘性中
6. 7.5YR2/2 黒褐色シルト しまり中 粘性弱
7. 10YR3/3 灰褐色シルト しまり中 粘性中
8. 10YR3/4 灰褐色シルト しまり中 粘性中
9. 7.5YR3/4 暗褐色シルト しまり中 粘性中
10. 7.5YR3/2 暗褐色シルト しまり中 粘性中



〈618号陥し穴〉



〈619号陥し穴〉



1. 7.5Y3/2 黒褐色シルト しまり中 粘性中 赤褐色土粒小2% 炭化物粒小<small>1</small>2%
2. 7.5Y3/2 黒褐色シルト しまり中 粘性弱 赤褐色土粒小<small>1</small>2%
3. 7.5Y3/2 黒褐色シルト しまり中 粘性中 赤褐色土粒小<small>1</small>2%
4. 7.5Y3/4 褐色シルト しまり中 粘性弱 炭化物粒小<small>1</small>2%
5. 7.5Y3/2 黒褐色シルト しまり中 粘性中 炭化物粒小<small>1</small>2%
6. 7.5Y3/4 暗褐色シルト しまり中 粘性中 赤褐色土粒小<small>1</small>2%
7. 7.5Y3/4 暗褐色シルト しまり中 粘性中 赤褐色土粒小<small>1</small>2%
8. 7.5Y2/3 褐色シルト しまり中 粘性中 炭化物粒小<small>1</small>2%
9. 7.5Y3/4 暗褐色シルト しまり中 粘性中 炭化物粒小<small>1</small>2%
10. 7.5Y3/4 暗褐色シルト しまり中 粘性中 炭化物粒小<small>1</small>2%
11. 7.5Y3/4 暗褐色シルト しまり中 粘性中 炭化物粒小<small>1</small>2%
12. 7.5Y3/4 暗褐色シルト しまり中 粘性中 炭化物粒小<small>1</small>2%
13. 7.5Y3/4 暗褐色シルト しまり中 粘性中 炭化物粒小<small>1</small>2%
14. 7.5Y3/2 暗褐色シルト しまり中 粘性中 炭化物粒小<small>1</small>2%

0 1 2m

である。

【覆土・堆積状況】炭化物粒ならびに黄褐色土粒を含む黒褐色土～褐色土が堆積する。To-aと推測される火山灰はいずれの層にも含んでいない。自然堆積と判断した。

【壁】壁の立ち上がりはほぼ垂直で、底面から100cm付近で外反する。

【出土遺物】出土していない。

620号陥し穴（第137図、写真図版137・288）

【位置・検出状況】Ⅲd2グリッドに位置する。Ⅱ層下部で検出した。

【重複】なし。

【平面形・規模】平面形は楕円形をなす。規模は開口部が2.08×1.68m、底部が1.54×0.90mで深さは137cmである。底面中央部付近に径20cm程度の小穴を持つ。深さは38cmである。

【覆土・堆積状況】炭化物粒ならびに黄褐色土粒を含む黒褐色土～明褐色土が堆積する。To-aと推測される火山灰はいずれの層にも含んでいない。自然堆積と判断した。

【壁】短軸方向、長軸方向ともに壁の立ち上がりはほぼ垂直で、底面から50cm付近で外反する。

【出土遺物】出土していない。

621号陥し穴（第137図、写真図版137・288）

【位置・検出状況】Ⅲd2グリッドに位置する。Ⅱ層下部で検出した。

【重複】なし。

【平面形・規模】規模は開口部が2.03×1.60m、底部が1.38×0.87mで深さは123cmである。

【覆土・堆積状況】黒色土～褐色土が堆積する。To-aと推測される火山灰はいずれの層にも含んでいない。自然堆積と判断した。

【壁】壁の立ち上がりはほぼ垂直で、底面から60cm付近で外反する。

【出土遺物】出土していない。

622号陥し穴（第137図、写真図版137）

【位置・検出状況】Ⅱe9グリッドに位置する。Ⅱ層下部で検出した。

【重複】なし。

【平面形・規模】平面形は円形をなす。規模は開口部が1.74×1.44m、底部が1×0.72mで深さは148cmである。底面やや北寄りのところに径約15cmの小穴を持つ。深さは40cmである。

【覆土・堆積状況】炭化物粒ならびに黄褐色土粒を含む黒褐色土～明褐色土が堆積する。To-aと推測される火山灰はいずれの層にも含んでいない。自然堆積と判断した。

【壁】壁の立ち上がりはほぼ垂直で、底面から120cm付近で外反する。

【出土遺物】出土していない。

623号陥し穴（第138図、写真図版137）

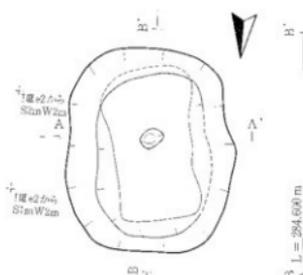
【位置・検出状況】Ⅱg10グリッドに位置する。Ⅱ層下部で検出した。

【重複】なし。

【平面形・規模】平面形は円形、規模は開口部が1.36×1.06m、底部が0.8×0.8mで深さは116cmである。

【覆土・堆積状況】黄褐色土粒ほかを含む黒褐色土～褐色土が堆積する。To-aと推測される火山灰はいず

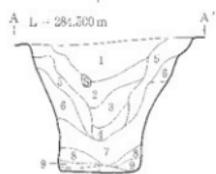
〈620号陥し穴〉



〈620号陥し穴(A-A')〉

1. 7.5YR2/2 黄褐色シルト しまり口 粘粒部
2. 7.5YR2/2 黄褐色シルト しまり口 粘粒部
黄褐色土粒最小3%
3. 7.5YR2/3 黄褐色シルト しまり口 粘粒部
4. 7.5YR3/2 黄褐色シルト しまり口 粘粒部
黄褐色土粒最小3%
5. 7.5YR3/4 黄褐色シルト しまり口 粘粒部
6. 7.5YR4/4 黄褐色シルト しまり口 粘粒部
黄褐色土粒最小15%
7. 7.5YR5/2 黄褐色粘土質シルト しまり口
粘粒部 黄褐色土粒
8. 7.5YR5/4 黄褐色粘土質シルト しまり口
粘粒部
9. 7.5YR5/6 黄褐色粘土質シルト しまり口
粘粒部(横山側土ブロック)
10. 7.5YR4/4 黄褐色シルト しまり口 粘粒部→粘

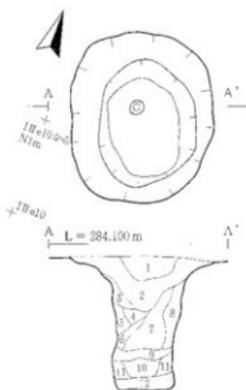
〈621号陥し穴〉



〈621号陥し穴(A-A')〉

1. 7.5YR2/2 黄褐色シルト しまり口 粘粒部
2. 7.5YR2/2 黄褐色シルト しまり口 粘粒部
黄褐色土粒最小10%
3. 7.5YR2/3 黄褐色シルト しまり口 粘粒部
4. 7.5YR3/1 黄褐色シルト しまり口 粘粒部
黄褐色土粒最小10%
5. 7.5YR3/2 黄褐色シルト しまり口 粘粒部
6. 7.5YR4/4 黄褐色シルト しまり口 粘粒部
7. 7.5YR5/3 黄褐色シルト しまり口 粘粒部
8. 7.5YR5/4 黄褐色シルト しまり口 粘粒部
9. 7.5YR5/2 黄褐色シルト しまり口 粘粒部
黄褐色土粒最小40%

〈622号陥し穴〉



〈622号陥し穴(A-A')〉

1. 7.5YR5/2 黄褐色シルト しまり口 粘粒部 黄褐色土粒最小3% 黄褐色土粒最小3%
2. 7.5YR5/2 黄褐色シルト しまり口 粘粒部 黄褐色土粒最小3% 黄褐色土粒最小3%
3. 7.5YR4/4 黄褐色粘土質シルト しまり口→横 粘粒部→横 黄褐色土ブロック→横15%
4. 7.5YR5/3 黄褐色シルト しまり口→横 粘粒部→横 黄褐色土ブロック→横20%
5. 7.5YR5/6 黄褐色粘土質シルト しまり口 粘粒部→横
6. 7.5YR4/4 黄褐色シルト しまり口→横 粘粒部→横 黄褐色土ブロック→横10%
7. 7.5YR4/2 黄褐色シルト しまり口→横 粘粒部→横 黄褐色土粒→横最大35%
8. 7.5YR5/6 黄褐色粘土質シルト しまり口→横 粘粒部
9. 7.5YR5/6 黄褐色粘土質シルト しまり口→横 粘粒部→横
10. 7.5YR3/2 黄褐色シルト しまり口→横 粘粒部 黄褐色土ブロック→横10%
11. 7.5YR4/4 黄褐色シルト しまり口→横 粘粒部
12. 7.5YR5/3 黄褐色シルト しまり口→横 粘粒部 黄褐色土ブロック→横15%

火山灰 (横山側火山灰Y1) 黄褐色土粒



れの層にも含んでいない。自然堆積と判断した。

【壁】 壁の立ち上がりはほぼ垂直で、底面から90cm付近で外反する。

【出土遺物】 出土していない。

624号陥し穴（第138図、写真図版137）

【位置・検出状況】 IⅢ g 1 グリッドに位置する。Ⅱ層下部で検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は楕円形、規模は開口部が1.7×1.16m、底部が1.36×0.44mで深さは98cmである。

【覆土・堆積状況】 黄褐色土粒を含む黒色土～褐色土が堆積する。To-aと推測される火山灰はいずれの層にも含んでいない。自然堆積と判断した。

【壁】 短軸方向、長軸方向ともに壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面から60cm付近で外反する。

【出土遺物】 出土していない。

625号陥し穴（第138図、写真図版138）

【位置・検出状況】 IⅡ i 9 グリッドに位置する。Ⅱ層下部で検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は楕円形をなす。規模は開口部が2.56×1.86m、底部が1.61×0.64mで深さは180cmである。底部両端に小穴を持つ。

【覆土・堆積状況】 炭化物粒ならびに黄褐色土粒を含む黒色土～明褐色土が堆積する。断面図中2層ならびに3層にはTo-aと推測される火山灰が含まれる。自然堆積と判断した。

【壁】 短軸方向、長軸方向ともに壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面から80cm付近で外反する。

【出土遺物】 出土していない。

626号陥し穴（第139図、写真図版138・289）

【位置・検出状況】 IⅢ h 1 グリッドほかに位置する。Ⅱ層下部で検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は楕円形と推測される。規模は開口部が1.95×1.32m、底部が1.77×0.64mで深さは111cmである。

【覆土・堆積状況】 黄褐色土粒を含む黒褐色土～褐色土が堆積する。To-aと推測される火山灰はいずれの層にも含んでいない。自然堆積と判断した。

【壁】 短軸方向、長軸方向ともに壁の立ち上がりは急で、底面から60cm付近で外反する。

【出土遺物】 出土していない。

627号陥し穴（第139図、写真図版138）

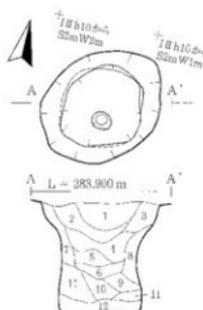
【位置・検出状況】 JⅡ e 10 グリッドに位置する。Ⅱ層下部で検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は楕円形をなす。規模は開口部が1.92×1.54m、底部が1.52×0.56mで深さは143cmである。

【覆土・堆積状況】 炭化物粒ならびに黄褐色土粒を含む黒色土～明褐色土が堆積する。To-aと推測される火山灰はいずれの層にも含んでいない。自然堆積と判断した。

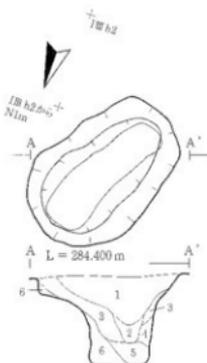
〈623号陥し穴〉



(623号陥し穴-A')

1. 7.5YR3/2 黒褐色シルト しまり中〜強 粘液中 炭化土粒小〜中2%
2. 7.5YR2/2 黒褐色シルト しまり中 粘性中 地 色土ブロック〜10% 両褐色土粒中5%
3. 7.5YR3/2 暗褐色シルト しまり中〜強 粘液中 炭化土粒中4〜10% 炭化土粒中5%
4. 7.5YR3/3 暗褐色シルト しまり中 粘性中 炭 褐色土粒中1〜2%30%
5. 7.5YR2/2 暗褐色シルト しまり弱〜中 粘液中 炭褐色土粒中1〜中5%
6. 7.5YR2/2 黒褐色シルト しまり弱 粘性中 炭 褐色土粒中1〜中20%
7. 7.5YR4/3 暗褐色土質シルト しまり中 粘液中〜 強 炭褐色土ブロック30%
8. 7.5YR3/5 暗褐色土質シルト しまり強 粘性強 褐色土ブロック中〜15%
9. 7.5YR3/4 暗褐色シルト しまり中 粘性中 褐色 土ブロック15% 炭化土粒小〜中10%
10. 7.5YR2/2 暗褐色シルト しまり弱〜中 粘性中〜 強 炭褐色土粒小25%
11. 7.5YR3/4 暗褐色土質シルト しまり弱 粘性強 褐色 土粒小25%
12. 7.5YR4/3 暗褐色土質シルト しまり中〜強 粘性 強 炭褐色土粒小〜中25%

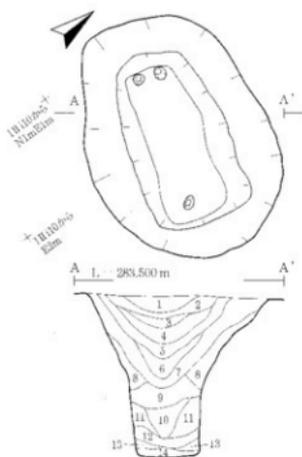
〈624号陥し穴〉



(624号陥し穴-A')

1. 7.5YR2/2 暗褐色シルト しまり中 粘性強
2. 7.5YR2/1 暗褐色シルト しまり中 粘性強 両褐色土粒小30%
3. 7.5YR3/2 暗褐色シルト しまり中 粘性強 両褐色土粒中1〜30%
4. 7.5YR2/2 暗褐色シルト しまり弱 粘性強
5. 7.5YR4/3 暗褐色シルト しまり弱 粘性強
6. 7.5YR4/4 暗褐色シルト しまり中 粘液中

〈625号陥し穴〉



(625号陥し穴-A')

1. 7.5YR4.7/1 赤色シルト しまり弱 粘性強
2. 10YR5/6 黄褐色シルト しまり中 粘性強 (10→4土灰を含み層)
3. 2.5YR3/4 黄褐色粘質シルト しまり中〜強 粘性強 (10→4土灰含み層)
4. 7.5YR5/6 明褐色シルト しまり中〜強 粘性強 炭褐色土粒中1%
5. 炭化物粒小1%
6. 7.5YR4/4 褐色シルト しまり弱 粘性強
7. 7.5YR3/4 暗褐色シルト しまり弱〜中 粘性強 炭褐色土粒中10%
8. 7.5YR3/4 暗褐色シルト しまり弱 粘性強
9. 7.5YR4/3 褐色シルト しまり弱 粘性強
10. 7.5YR4/3 褐色シルト しまり弱 粘性強 炭褐色土粒中1〜30%
11. 7.5YR4/4 褐色シルト しまり弱 粘性強
12. 5.5YR3/4 褐色シルト しまり弱 粘性強 炭化物粒中1〜1%
13. 7.5YR3/6 暗褐色粘土質シルト しまり弱〜中 粘性中 (地山崩れ土)
14. 7.5YR3/3 暗褐色シルト しまり弱 粘性中 炭化物粒中1〜3%



【壁】 短軸方向、長軸方向ともに壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面から90cm付近で外反する。

【出土遺物】 出土していない。

628号陥し穴（第139図、写真図版138）

【位置・検出状況】 JⅡ e10グリッドほかに位置する。Ⅱ層下部で検出した。

【重複】 なし。遺構は調査区南側の林道にかかっており、遺構の一部を把握することができなかった。

【平面形・規模】 平面形は楕円形をなすと推測される。規模は開口部が(2.4)×(1.5)m、底部が(1.9)×(0.84)mで深さは150cmである。

【覆土・堆積状況】 炭化物粒ならびに黄褐色土粒を含む黒色土～明褐色土が堆積する。To-aと推測される火山灰はいずれの層にも含んでいない。自然堆積と判断した。

【壁】 短軸方向、長軸方向ともに壁はほぼ垂直に立ち上がり、部分的にオーバーハングする。

【出土遺物】 出土していない。

701号陥し穴（第140図、写真図版139・289）

【位置・検出状況】 BⅢ d1グリッドに位置する。Ⅱ層下部で検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は楕円形で、底面は溝状をなす。規模は開口部が1.78×1.2m、底部が1.58×0.28mで深さは135cmである。

【覆土・堆積状況】 炭化物粒を含む褐色土～明褐色土が堆積する。自然堆積と判断した。

【壁】 短軸方向、長軸方向ともに壁の立ち上がりはほぼ垂直で、底面から100cm付近で外反する。

【出土遺物】 出土していない。

702号陥し穴（第140図、写真図版139）

【位置・検出状況】 BⅢ j7グリッドほかに位置する。Ⅱ層下部で検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は不整な楕円形で、底面は長方形をなす。規模は開口部が2.2×1.22m、底部が1.75×0.26mで深さは164cmである。

【覆土・堆積状況】 最上層に黒色土、その下に暗褐色土が堆積し以下は褐色土主体の堆積である。断面図中3層にはTo-aと推測される火山灰が含まれる。自然堆積と判断した。

【壁】 短軸方向、長軸方向ともに壁の立ち上がりは急で、底面から90cm付近で外反が強まる。

【出土遺物】 出土していない。

703号陥し穴（第141図、写真図版139）

【位置・検出状況】 CⅢ a6グリッドほかに位置する。Ⅱ層下部で検出した。

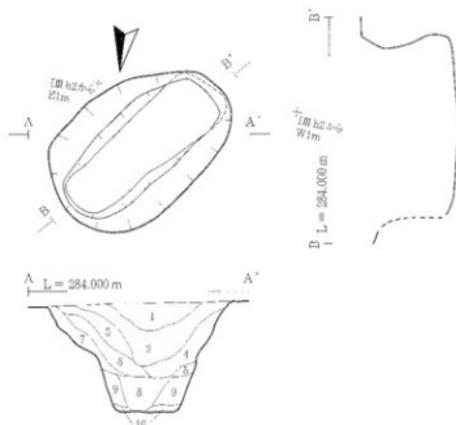
【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は楕円形で、底面は長方形をなす。規模は開口部が2.5×1.42m、底部が1.68×0.36mで深さは169cmである。

【覆土・堆積状況】 黒色土～明黄褐色土が堆積する。断面図中2層と3層には、To-aと推測される火山灰が含まれる。自然堆積と判断した。

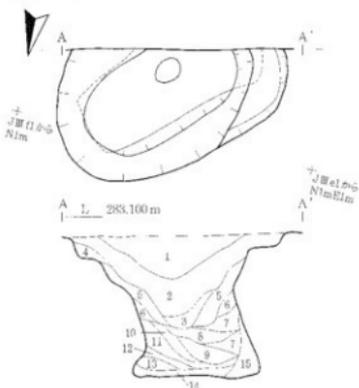
【壁】 短軸方向、長軸方向ともに壁の立ち上がりは急で、底面から110cm付近で外反が強まる。

〈626号陥穴〉



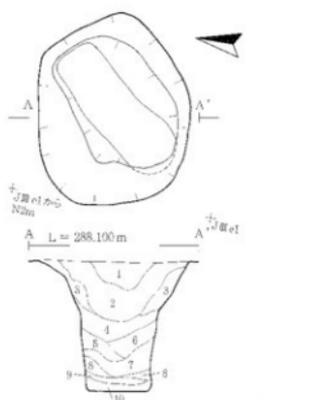
- 626号陥穴A' 1
1. 7.5Y2/2 黒褐色シルト しまり目 粘粒質
2. 7.5Y2/2 黒褐色シルト しまり目 粘粒質
3. 7.5Y2/3 黄褐色シルト しまり目 粘粒質
黄褐色土粒微小～小30%
4. 7.5Y6/7 黄褐色シルト しまり目 粘粒質
黄褐色土粒微小～小30%
5. 7.5Y2/4 黄褐色シルト しまり目 粘粒中
6. 7.5Y3/4 黄褐色シルト しまり目 粘粒中
7. 7.5Y4/4 黄褐色シルト しまり目 粘粒中
8. 7.5Y2/2 黄褐色シルト しまり目 粘粒中
9. 7.5Y4/4 黄褐色シルト しまり目 粘粒中
10. 7.5Y2/2 黄褐色シルト しまり目 粘粒中
黄褐色土粒微小～小30%

〈628号陥穴〉



- 628号陥穴A' 1
1. 7.5Y2/1 黄褐色シルト しまり目～黄 粘粒質 黄褐色土粒微小～小3%
2. 7.5Y2/2 黄褐色シルト しまり目 粘粒質 黄褐色土粒微小～小30%
黄褐色土粒微小～中5%
3. 7.5Y2/3 黄褐色シルト しまり目 粘粒中 黄褐色土粒微小～小30%
4. 7.5Y2/4 黄褐色シルト しまり目 粘粒中 黄褐色土粒微小1%
5. 7.5Y2/3 黄褐色シルト しまり目～中 粘粒中 黄褐色土粒微小～小30%
黄褐色土粒微小5%
6. 7.5Y2/5 黄褐色シルト しまり目 粘粒中 黄褐色土粒微小1%
7. 10Y15/8 黄褐色粘土質シルト しまり目 粘粒中 黄褐色土粒20%程度含む
8. 7.5Y2/4 黄褐色シルト しまり目 粘粒中 黄褐色土粒微小30%
9. 7.5Y2/1 黄褐色シルト しまり目 粘粒中 黄褐色土粒微小～中30%
10. 7.5Y2/4 黄褐色シルト しまり目 粘粒中 黄褐色土粒微小30%
11. 7.5Y4/5 黄褐色粘土質シルト しまり目 粘粒中
12. 7.5Y2/5 黄褐色シルト しまり目 粘粒中 黄褐色土粒20%程度含む
13. 7.5Y2/5 黄褐色シルト しまり目～粘 粘粒中 黄褐色土粒小30%
14. 7.5Y3/2 黄褐色シルト しまり目 粘粒中 黄褐色土粒微小～中30%
15. 7.5Y4/6 黄褐色シルト しまり目 粘粒中 黄褐色土粒微小～小3%

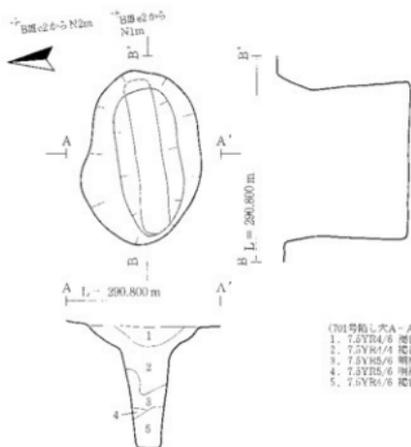
〈627号陥穴〉



- 627号陥穴A' 1
1. 7.5Y2/3 黄褐色シルト しまり目 粘粒質 黄褐色土粒微小1% 黄褐色土粒微小1%
2. 7.5Y2/1 黄褐色シルト しまり目 粘粒質 黄褐色土粒微小～小10%
3. 7.5Y2/2 黄褐色シルト しまり目 粘粒質 黄褐色土粒微小～小30%
黄褐色土粒微小1%
4. 7.5Y2/3 黄褐色シルト しまり目 粘粒中 黄褐色土粒微小30%
5. 7.5Y2/4 黄褐色シルト しまり目 粘粒中
6. 7.5Y4/4 黄褐色シルト しまり目 粘粒中 黄褐色土粒微小～小30%
7. 7.5Y2/2 黄褐色シルト しまり目 粘粒中
8. 7.5Y2/3 黄褐色シルト しまり目 粘粒中
9. 7.5Y2/2 黄褐色シルト しまり目 粘粒中 黄褐色土粒微小30%
10. 7.5Y2/4 黄褐色シルト しまり目～粘 粘粒中 黄褐色土粒微小5%



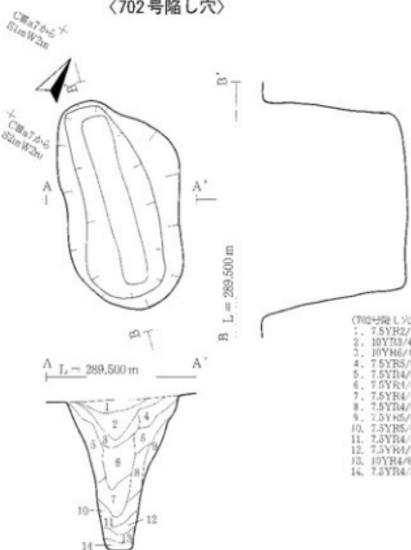
〈701号陥し穴〉



〈701号陥し穴A-A'〉

1. 7.5YR4/6 褐色シルト しまり弱 粘性强 炭化物粒小3%
2. 7.5YR4/4 褐色シルト しまり弱 粘性强 炭化物粒小5%
3. 7.5YR5/6 暗褐色粘土質シルト しまり弱 粘性强
4. 7.5YR5/6 暗褐色粘土質シルト しまり弱 粘性强 (3層より強い)
5. 7.5YR5/6 褐色シルト しまり弱~中 粘性强 炭化物粒粒小1%未満

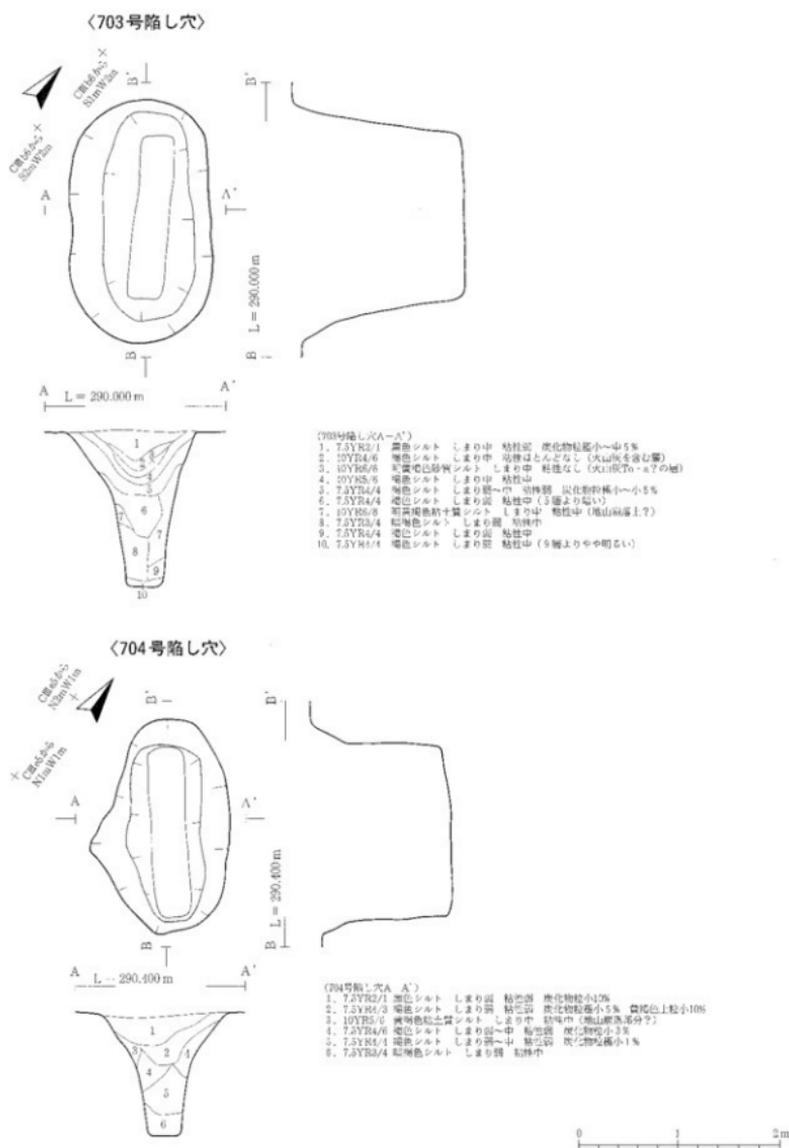
〈702号陥し穴〉



〈702号陥し穴A-A'〉

1. 7.5YR2/1 濃色シルト しまり中 粘性强とふんばなし 炭化物粒小~中20%
2. 10YR3/4 暗褐色シルト しまり中 粘性强とふんばなし
3. 10YR6/4 紅棕色黄褐色シルト しまり中 粘性强なし (Tn~s層?)
4. 7.5YR5/6 暗褐色シルト しまり中 粘性强
5. 7.5YR4/6 褐色シルト しまり中 粘性强
6. 7.5YR4/6 褐色シルト しまり中 粘性强 (3層より強い)
7. 7.5YR4/4 暗褐色シルト しまり弱 粘性强 炭化物粒小~小10%
8. 7.5YR4/6 褐色シルト しまり中 粘性强 炭化物粒小~小5%
9. 7.5YR5/6 暗褐色粘土質シルト しまり中 粘性强
10. 7.5YR5/6 暗褐色粘土質シルト しまり弱~中 粘性强
11. 7.5YR4/4 暗褐色シルト しまり弱 粘性强 (7層よりやや強い)
12. 7.5YR4/3 褐色シルト しまり弱 粘性强
13. 10YR4/6 暗褐色シルト しまり弱 粘性强
14. 7.5YR4/3 褐色シルト しまり弱 粘性强 炭化物粒小~中10%

0 1 2m



第141図 703・704号陥し穴

〔出土遺物〕 出土していない。

704号陥し穴（第141図、写真図版139）

〔位置・検出状況〕 CIII e4 グリッドほかに位置する。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 平面形は楕円形で、底面は長方形をなす。規模は開口部が2.18×1.38m、底部が1.74×0.36mで深さは146cmである。

〔覆土・堆積状況〕 炭化物粒ならびに黄褐色土粒を含む黒色土～褐色土が堆積する。To-aと推測される火山灰はいずれの層にもふくんでいない。自然堆積と判断した。

〔壁〕 短軸方向、長軸方向ともに壁の立ち上がりはほぼ垂直で、底面から90cm付近のところで外反する。

〔出土遺物〕 出土していない。

705号陥し穴（第142図、写真図版140）

〔位置・検出状況〕 CIII e4 グリッドほかに位置する。II層下部で検出した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 平面形は楕円形で、底面は長方形をなす。規模は開口部が2.34×1.42m、底部が1.68×0.26mで深さは169cmである。

〔覆土・堆積状況〕 黒色土～褐色土が堆積する。断面図中2層にはTo-aと推測される火山灰が含まれる。

〔壁〕 短軸方向、長軸方向ともに壁の立ち上がりはほぼ垂直で、底面から120cm付近のところで外反する。

〔出土遺物〕 №475の剥片石器が出土している。（第43・223図、写真図版246）

706号陥し穴（第142図、写真図版140）

〔位置・検出状況〕 CIII f8 グリッドに位置する。II層下部で検出した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 平面形は楕円形で、底面は長方形をなす。規模は開口部が1.88×1.2m、底部が1.47×0.44mで深さは133cmである。底面中央部付近に径15cm程度の小穴を持つ。深さは20cmである。

〔覆土・堆積状況〕 炭化物粒ならびに黄褐色土粒を含む黒色土～褐色土が堆積する。To-aと推測される火山灰はいずれの層にも含まれない。自然堆積と判断した。

〔壁〕 短軸方向、長軸方向ともに壁の立ち上がりはほぼ垂直で、底面から90cm付近のところで外反する。

〔出土遺物〕 №888の土器が出土している。（第43・137図、写真図版203）

707号陥し穴（第142図、写真図版140）

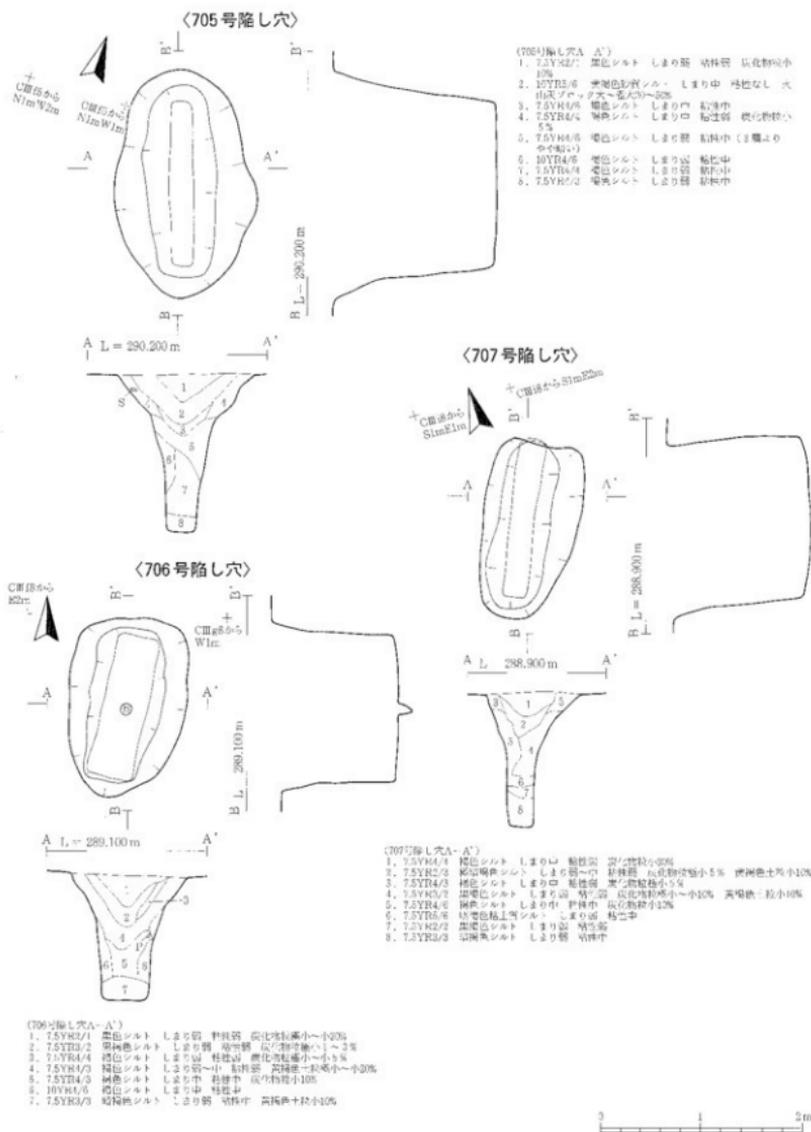
〔位置・検出状況〕 CIII i8 グリッドに位置する。II層下部で検出した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 平面形は不整な楕円形で、底面は長方形をなす。710号陥し穴と同タイプと考えられる。規模は開口部が1.8×1m、底部が1.63×0.27mで深さは144cmである。

〔覆土・堆積状況〕 炭化物粒ならびに黄褐色土粒を含む黒褐色土～明褐色土が堆積する。To-aと推測される火山灰はいずれの層にも含まれない。自然堆積と判断した。

〔壁〕 短軸方向の壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面から90cm付近のところで外反する。長軸方向の壁も同様であるが、北側の壁はオーバーハングしている。



第142図 705~707号陥し穴

〔出土遺物〕 No889の土器が出土している。(第43・137図、写真図版203)

708号陥し穴 (第143図、写真図版140)

〔位置・検出状況〕 DIII c6 グリッドほかに位置する。II層下部で検出した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 平面形は溝状、規模は開口部が3.13×0.9m、底部が3.11×0.14mで深さは114cmである。

〔覆土・堆積状況〕 炭化物粒ならびに黄褐色土粒を含む褐色土～明褐色土が堆積する。自然堆積と判断した。

〔壁〕 短軸方向の壁の立ち上がりはほぼ垂直で、底面から80cm付近のところで外反する。長軸方向の壁も同様であるが、南西側の壁はややオーバーハングする。

〔出土遺物〕 出土していない。

709号陥し穴 (第143図、写真図版141)

〔位置・検出状況〕 DIII c6 グリッドほかに位置する。II層下部で検出した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 平面形は円形をなす。規模は開口部が1.29×1.28m、底部が0.66×0.65mで深さは117cmである。底面に径10cm程度の小穴を3箇所確認した。深さはいずれも20～30cmである。

〔覆土・堆積状況〕 炭化物粒ならびに黄褐色土粒を含む黒色土～明褐色土が堆積する。断面図中4層は、構成物質の粒径などから火山灰層と推測されるが、他の遺構で確認されているTo-a層とは色調が若干異なり、黄色の割合が強い。むしろ地山面から1m程度のところで確認される山形軽石(YP)に近い色調である。4層以下は人為堆積の可能性が高い。

〔壁〕 壁の立ち上がりはほぼ垂直で、底面から70cm付近のところで外反する。

〔出土遺物〕 出土していない。

710号陥し穴 (第143図、写真図版141)

〔位置・検出状況〕 CIII g9 グリッドに位置する。II層下部で検出した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 平面形は楕円形をなす。規模は開口部が1.76×0.82m、底部が1.64×0.26mで深さは128cmである。底面中央部付近に径5cm程度の小穴を持つ。深さは22cmである。

〔覆土・堆積状況〕 炭化物粒ならびに黄褐色土粒を含む黒褐色土～褐色土が堆積する。To-aと推測される火山灰はいずれの層にも含んでいない。自然堆積と判断した。

〔壁〕 短軸方向の壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面から80cm付近のところで外反する。長軸方向の壁はオーバーハングして立ち上がり、底面から80cm付近で外反する。

〔出土遺物〕 No890の土器が出土している。(第43・137図、写真図版203)

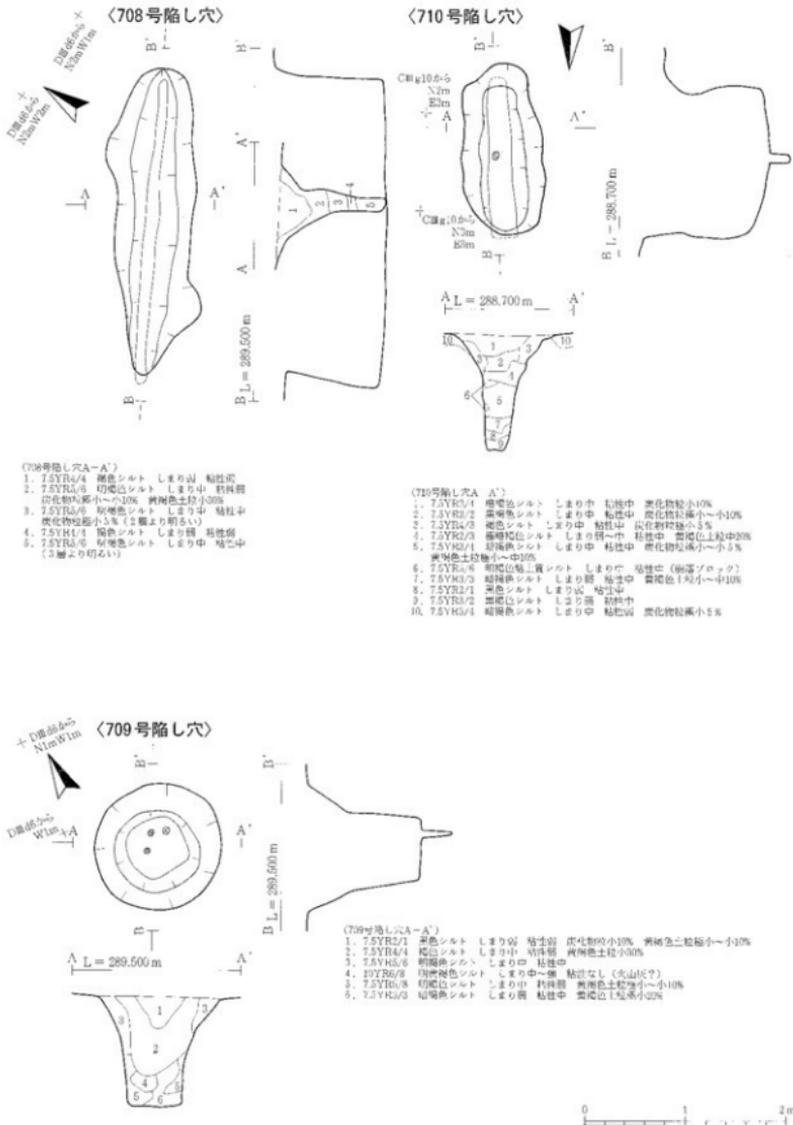
711号陥し穴 (第144図、写真図版141)

〔位置・検出状況〕 CIII h4 グリッドに位置する。II層下部で検出した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 平面形は楕円形で、底面は長方形をなす。規模は開口部が2.6×1.12m、底部が1.68×0.3mで深さは178cmである。

〔覆土・堆積状況〕 覆土最上部に黒色土とTo-a火山灰層と推測される明褐色土層が堆積し、以下は褐色土。



第143図 708～710号陥し穴

主体の堆積である。地山との見極めが難しかったが、土のしまり具合の違いを手がかりに掘り進めたところ、結果として陥し穴状に掘り上がった。自然堆積と判断した。

【壁】 短軸方向、長軸方向ともに壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面から100cm付近のところで外反する。

【出土遺物】 出土していない。

712号陥し穴（第141図、写真図版141）

【位置・検出状況】 FⅢ b3 グリッドほかに位置する。Ⅱ層下部で検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は楕円形で、底面は長方形をなす。規模は開口部が1.86×1.62m、底部が1.28×0.68mで深さは135cmである。

【覆土・堆積状況】 炭化物粒ならびに黄褐色土粒を含む極暗褐色上～褐色土が堆積する。To-aと推測される火山灰はいずれの層にも含んでいない。自然堆積と判断した。

【壁】 短軸方向、長軸方向ともに壁の立ち上がりはほぼ垂直で、底面から90cm付近のところで外反する。

【出土遺物】 Na474の剥片石器が出土している。（第44・223図、写真図版246）

713号陥し穴（第141図、写真図版142）

【位置・検出状況】 FⅢ c4 グリッドほかに位置する。Ⅱ層下部で検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は楕円形で、底面は長方形をなす。規模は開口部が2×1.5m、底部が1.18×0.7mで深さは133cmである。

【覆土・堆積状況】 炭化物粒ならびに黄褐色土粒を含む黒褐色～明褐色土が堆積する。自然堆積と判断した。

【壁】 短軸方向、長軸方向ともに壁の立ち上がりはほぼ垂直で、底面から80cm付近のところで外反する。

【出土遺物】 出土していない。

801号陥し穴（第145図、写真図版142）

【位置・検出状況】 LIV j1 グリッドほかに位置する。攪乱層を除去したところ（Ⅳ層）で検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は溝状、規模は開口部が3.76×0.54m、底部が3.63×0.16mで深さは91cmである。

【覆土・堆積状況】 黄褐色土粒を含む極暗褐色土～明褐色土が堆積する。自然堆積と判断した。

【壁】 短軸方向、長軸方向ともに壁はほぼ垂直に立ち上がる。

【出土遺物】 出土していない。

802号陥し穴（第145図、写真図版142）

【位置・検出状況】 LIV i3 グリッドほかに位置する。攪乱層を除去したところ（Ⅳ層）で検出した。

【重複】 遺構西側の大部分が現代の炭窯によって切られている。

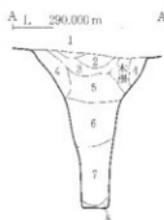
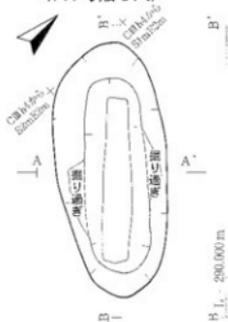
【平面形・規模】 平面形は溝状、規模は開口部が(4.1)×0.5m、底部が4.22×0.08mで深さは117cmである。

【覆土・堆積状況】 炭化物粒ならびに黄褐色土粒を含む黒褐色土～褐色土が堆積する。自然堆積と判断した。

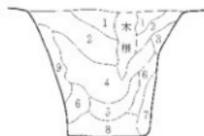
【壁】 短軸方向の壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面から100cm付近のところで外反する。

【出土遺物】 出土していない。

〈711号陥し穴〉



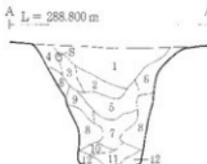
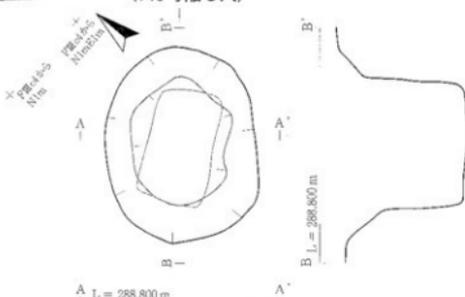
〈712号陥し穴〉



(711号陥し穴 A-A')

1. 7.5YR2/1 赤色シルト しまり部 粘り強さ 粘り強さなし
2. 7.5YR2/6 暗褐色シルト しまり部 粘り強さ (6) (山成層 To-m?)
3. 7.5YR5/5 暗褐色シルト しまり部 粘り強さ
4. 7.5YR4/6 褐色シルト しまり部 粘り強さ (4) (山成層 To-m?)
5. 7.5YR5/6 褐色シルト しまり部 粘り強さ (4) (山成層 To-m?)
6. 7.5YR2/2 暗褐色シルト しまり部 粘り強さ
7. 7.5YR4/3 褐色シルト しまり部 粘り強さ
8. 7.5YR5/6 暗褐色シルト しまり部 粘り強さ

〈713号陥し穴〉



(713号陥し穴 A-A')

1. 7.5YR5/2 赤褐色シルト しまり部 粘り強さ 炭化物粒小20%
2. 7.5YR3/2 暗褐色シルト しまり部 粘り強さ 炭化物粒小5%
3. 7.5YR4/3 褐色シルト しまり部 粘り強さ 炭化物粒小3%
4. 7.5YR4/4 褐色シルト しまり部 粘り強さ
5. 7.5YR2/2 暗褐色シルト しまり部 粘り強さ 炭化物粒小10%
6. 7.5YR4/4 褐色シルト しまり部 粘り強さ 炭化物粒小5%
7. 7.5YR3/3 暗褐色シルト しまり部 粘り強さ 炭化物粒小10%
8. 7.5YR4/4 褐色シルト しまり部 粘り強さ
9. 7.5YR2/3 暗褐色シルト しまり部 粘り強さ
10. 7.5YR5/6 暗褐色シルト しまり部 粘り強さ
11. 7.5YR5/6 暗褐色シルト しまり部 粘り強さ 炭化物粒小10%
12. 7.5YR5/6 暗褐色シルト しまり部 粘り強さ 炭化物粒小3%

(712号陥し穴 A-A')

1. 7.5YR4/3 褐色シルト しまり部 粘り強さ 炭化物粒小5%
2. 7.5YR3/3 暗褐色シルト しまり部 粘り強さ 炭化物粒小10%
3. 7.5YR5/6 暗褐色シルト しまり部 粘り強さ
4. 7.5YR2/2 暗褐色シルト しまり部 粘り強さ 炭化物粒小10%
5. 7.5YR3/3 暗褐色シルト しまり部 粘り強さ 炭化物粒小5%
6. 7.5YR4/4 褐色シルト しまり部 粘り強さ 炭化物粒小10%
7. 7.5YR4/4 褐色シルト しまり部 粘り強さ
8. 7.5YR2/2 暗褐色シルト しまり部 粘り強さ 炭化物粒小10%

0 1 2m

803号陥し穴（第145図、写真図版142）

【位置・検出状況】 MIV b 6 グリッドに位置する。攪乱層を除去したところ（IV層）で検出した。遺構精査を進めていったところ、調査区南側に隣接するため池の水位よりも、遺構の底面が低いところに位置するため掘り進めるほどに湧水がおこり、遺構底面を確認することができなかった。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は溝状をなす。規模は開口部が(3.22)×0.76m、底部が(1.92)×0.22mで確認できた深さは約60cmである。

【覆土・堆積状況】 確認できた部分では黒褐色土～明褐色土が堆積する。自然堆積と推測される。

【壁】 他の遺構とほぼ同様の形態をなすと考えられることから、壁はほぼ垂直と推定される。

【出土遺物】 出土していない。

804号陥し穴（第145図、写真図版143）

【位置・検出状況】 MIV e 2 グリッドに位置する。攪乱層を除去したところ（IV層）で検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は楕円形で、底面は長方形をなす。規模は開口部が2.04×0.88m、底部が1.76×0.32mで深さは129cmである。

【覆土・堆積状況】 黒色土～明褐色土が堆積する。To-aと推測される火山灰はいずれの層にも含まれていない。自然堆積と判断した。

【壁】 短軸方向、長軸方向ともに壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面から70cm付近のところで外反する。

【出土遺物】 出土していない。

805号陥し穴（第146図、写真図版143）

【位置・検出状況】 MIV d 8 グリッドほかに位置する。II層下部で検出した。

【重複】 なし。遺構は調査区東側の道路にかかっており、遺構の一部を把握することができなかった。

【平面形・規模】 平面形は溝状をなす。規模は開口部が(3.09)×1.06m、底部が(2.98)×0.14mで深さは125cmである。

【覆土・堆積状況】 黒色土～褐色土が堆積する。自然堆積と判断した。

【壁】 短軸方向の壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面から90cm付近のところで外反する。長軸方向の壁はほぼ垂直に立ち上がる。

【出土遺物】 出土していない。

806号陥し穴（第146図、写真図版143）

【位置・検出状況】 MIII f 9 グリッドに位置する。II層下部で検出した。

【重複】 なし。遺構は調査区東側の道路にかかっており、遺構の一部を把握することができなかった。

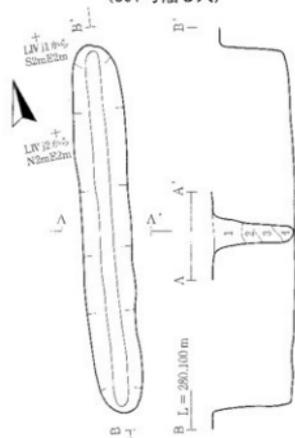
【平面形・規模】 平面形は溝状、規模は開口部(1.26)×0.42m、底部が(0.98)×0.07mで深さは108cmである。

【覆土・堆積状況】 黒色土～褐色土主体の堆積である。自然堆積と判断した。

【壁】 短軸方向、長軸方向ともに壁はほぼ垂直に立ち上がる。

【出土遺物】 出土していない。

〈801号路し穴〉



〈801号路し穴A-A'〉

1. 7.5YR2/3 暗褐色シルト しまり弱 粘性强 炭褐色土粒小〜小5%
2. 7.5YR4/3 褐色シルト しまり中 粘性强 黄褐色土粒小30%
3. 7.5YR5/6 明褐色粘土質シルト しまり中 粘性强
4. 7.5YR4/6 褐色シルト しまり弱 粘性强 黄褐色土粒小30%

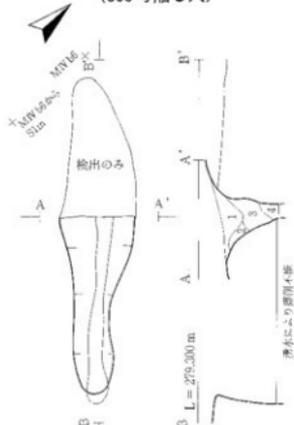
〈802号路し穴〉



〈802号路し穴A-A'〉

1. 7.5YR2/3 暗褐色シルト しまり中 粘性强 黄褐色土粒小30%
2. 10YR2/1 暗褐色シルト しまり弱〜中 粘性强 炭化碎粒小〜小10%
3. 黄褐色粘土質シルト しまり弱 粘性强 炭化碎粒小〜小30%
4. 7.5YR4/3 褐色シルト しまり弱 粘性强 黄褐色土粒小10%
5. 7.5YR4/3 褐色シルト しまり弱 粘性强 炭化碎粒小〜中3%

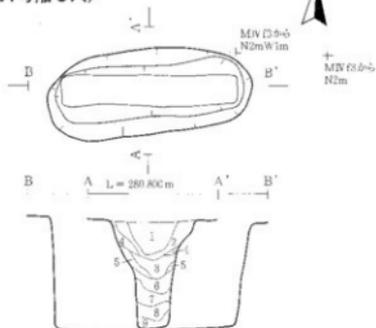
〈803号路し穴〉



〈803号路し穴A-A'〉

1. 7.5YR2/2 黄褐色シルト しまり弱 粘性强 炭化碎粒小3%
2. 7.5YR5/3 明褐色粘土質シルト しまり中 粘性强
3. 7.5YR4/3 褐色シルト しまり弱 粘性强 黄褐色土粒小20%
4. 7.5YR5/6 明褐色粘土質シルト しまり中 粘性强

〈804号路し穴〉

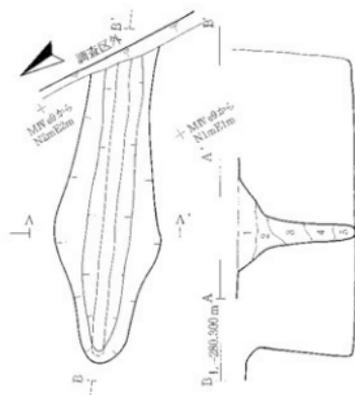


〈804号路し穴A-A'〉

1. 7.5YR2/1 暗褐色シルト しまり弱〜中 粘性强 炭褐色土粒小5%
2. 7.5YR2/2 暗褐色シルト しまり弱〜中 粘性强 炭褐色土粒小1〜3%
3. 7.5YR2/2 暗褐色シルト しまり弱 粘性强 黄褐色土粒小1〜3%
4. 7.5YR2/3 暗褐色シルト しまり弱 粘性强
5. 7.5YR4/4 褐色シルト しまり弱 粘性强
6. 7.5YR5/6 明褐色粘土質シルト しまり弱 粘性强
7. 7.5YR5/1 におい褐色シルト しまり弱 粘性强
8. 7.5YR5/4 におい褐色シルト しまり弱 粘性强 (土層より中〜明でない)
9. 7.5YR5/4 におい褐色シルト しまり弱〜中 粘性强 (土層より中〜明でない)

0 1 2m

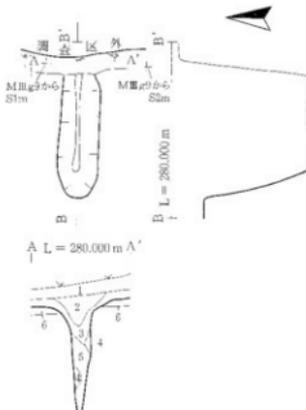
〈805号陥し穴〉



(805号陥し穴A-A')

1. 7.5YR2/1 黒褐色シルト しまり弱～中 粘粒弱
2. 7.5YR2/2 暗褐色シルト しまり中 粘粒弱
3. 7.5YR3/2 黒褐色シルト しまり弱～中 粘粒弱
4. 7.5YR4/6 暗褐色シルト しまり中 粘粒弱
5. 7.5YR2/2 暗褐色シルト しまり弱 粘粒中

〈806号陥し穴〉



(806号陥し穴A-A')

1. 7.5YR2/6 暗褐色シルト しまり中 粘粒弱
2. 7.5YR2/1 暗褐色シルト しまり中 粘粒弱
3. 7.5YR2/2 暗褐色シルト しまり弱～中 粘粒弱 黄褐色土片散
4. 7.5YR2/6 暗褐色シルト しまり中 粘粒中 (高ブロック)
5. 7.5YR2/4 暗褐色シルト しまり弱 粘粒中 黄褐色土砂粒小～中
6. 基本土層の土

0 1 2 3 m

第146図 805・806号陥し穴

901号陥し穴 (第147図、写真図版289)

[位置・検出状況] E III h 7 グリッドに位置する。III層中で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は楕円形をなす。規模は開口部が1.64×0.72m、底部が1.32×0.44mで深さは106cmである。底面に小穴を4基確認した。いずれも楕円形で径5cm、深さは5cm～10cm程度である。

[覆土・堆積状況] 炭化物ならびに黄褐色土粒を含む黒色～暗褐色土が堆積する。15層はしまりが強く、上面が底面であった可能性がある。これ以外は自然堆積と判断した。

[壁] 短軸方向、長軸方向ともに壁はほぼ垂直に立ち上がる。

[出土遺物] 出土していない。

902号陥し穴 (第147図、写真図版289)

[位置・検出状況] D III f10グリッドほかに位置する。III層中で検出した。

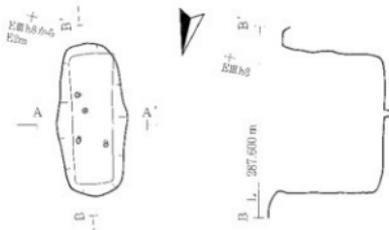
[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形をなす。規模は開口部が1.75×0.84m、底部が1.39×0.28mで深さは118cmである。

[覆土・堆積状況] 炭化物を含む黒色～暗褐色土が堆積する。自然堆積と判断した。

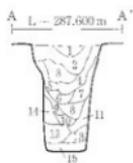
[壁] 短軸方向の壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面から90cm付近のところを外反する。長軸方向の東壁は

〔901号陥し穴〕

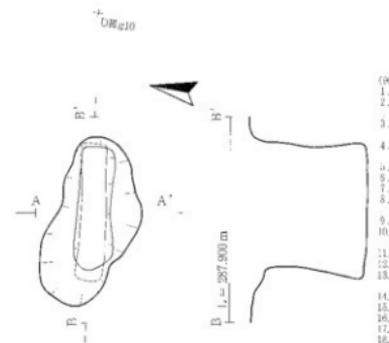


(901号陥し穴 A-A')

1. 7.5YR2/1 赤色シルト しまり中 粘粒層 下面の狭いところに酸化鉄はいる 黄褐色土状遺構
2. 7.5YR2/2 黄褐色シルト しまり中 粘粒面 炭化物跡散在 黄褐色二粒土層より多い
3. 7.5YR2/2 黄褐色シルト 土面上に厚いのが黄褐色土状遺構 しまりも土層より深く色鉄も少ない
4. 7.5YR2/1 赤色シルト しまりの中程 粘土中 炭化物跡散在 黄褐色二粒土状遺構
5. 7.5YR2/2 黄褐色シルト しまりの中程 粘土中 炭化土上ブロック (厚さ10cm) 含む (土層薄上?)
6. 7.5YR2/2 黄褐色シルト しまりの中程 粘土中 炭化物跡散在 黄褐色二粒土状遺構
7. 5層と区別
8. 7.5YR2/2 黄褐色シルト 最も炭化物多くしまり浅い層 粘土中 炭化物跡散在 炭化土上ブロック 散在
9. 7.5YR2/2(10YR2/2) 黄褐色シルト 粘土中 黄褐色土状遺構
10. 5層になるが土層より炭化物少ない
11. 7.5YR2/2 黄褐色シルト しまり弱 粘粒層 炭化土上ブロックやや多量 (厚さ5cm) 散在 5層に区別
12. 7.5YR2/2 黄褐色シルト しまりやや弱 粘粒層 炭化物跡散在 黄褐色土小入ブロック (厚さ5cm) 多量
13. 7.5YR2/2 黄褐色シルト しまり弱 粘土中 炭化土上細小ブロック散在 きれいな層
14. 15層に区別
15. 7.5YR2/4 暗褐色シルト しまり強 粘土中 黄褐色土上ブロック大量 断面層上?

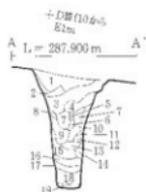


〔902号陥し穴〕



(902号陥し穴 A-A')

1. 7.5YR2/1 赤色シルト しまり中 粘粒層 7.5YR2/2黄褐色土多量
2. 7.5YR2/2 黄褐色シルト しまり中 粘粒層 7.5YR2/2黄褐色土多量 黄褐色土ブロック少量
3. 7.5YR2/1 赤色シルト しまり中 粘粒層 7.5YR2/2黄褐色土・黄褐色土ブロック大きく (厚さ10cm) 散在
4. 7.5YR2/1 赤色シルト しまり中 (薄さ?) 粘土層 炭化物 (厚さ3cm) 少量 (粘土?) 赤褐色土ないな層
5. 7.5YR2/2 黄褐色シルト しまり弱 粘土中 黄褐色土ブロック散在 少量
6. 7.5YR2/1 赤色シルト しまり中 粘粒層 赤色土 (厚さ1cm) 散在
7. 7.5YR2/1 赤色シルト しまり中 粘粒層 赤色土 (厚さ1cm) 散在
8. 7.5YR2/1 赤色シルト しまり中 粘粒層 赤色土・黄褐色土ブロック散在
9. 7.5YR2/1 赤色シルト しまり中 粘粒層 炭化土上ブロック (厚さ1cm) 少量
10. 7.5YR2/1 赤色シルト しまり中 粘粒層 炭化土上ブロック散在 少量 厚さは厚さ大きくて
11. 7.5YR2/4 暗褐色シルト 粘土中 炭化土上ブロックやや多量
12. 炭化土上ブロック しまり強
13. 7.5YR2/2 黄褐色シルト しまり中程 粘土中 下に炭化土上ブロック少量
14. 15層に区別
15. 黄褐色土ブロック層 しまり弱 粘土中 7.5YR2/4 暗褐色土多量
16. 7.5YR2/1 赤色シルト しまり弱 粘土中 黄褐色土ブロック大量
17. 7.5YR2/1 赤色シルト しまり弱 粘土中 黄褐色土ブロック少量 炭化土上ブロック
18. 7.5YR2/1 赤色シルト しまり弱 粘土中 きれいな層



第147図 901・902号陥し穴

垂直、西壁はややオーバーハングして立ち上がり、底面から100cm付近で外反する。

【出土遺物】 出土していない。

903号陥し穴（第148図、写真図版289）

【位置・検出状況】 DⅢe9グリッドほかに位置する。Ⅲ層中で検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は不整楕円形をなす。規模は開口部が1.85×0.92m、底部が1.94×0.32mで深さは124cmである。底面中央部付近に径5cm程度の小穴を2基持つ。深さは10cmと15cmである。

【覆土・堆積状況】 炭化物ならびに黄褐色土粒を含む黒色～黄褐色土が堆積する。自然堆積と判断した。

【壁】 短軸方向の壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面から85cm付近のところで外反する。長軸方向の壁はオーバーハングして立ち上がる。

【出土遺物】 No2004～2006の上器が出土している。（第294図、写真図版293）

904号陥し穴（第148図、写真図版290）

【位置・検出状況】 DⅢd10グリッドほかに位置する。Ⅲ層中で検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は楕円形をなす。規模は開口部が2.33×1.80m、底部が1.50×0.44mで深さは120cmである。底面に小穴を17基確認した。いずれも円形で径5～10cm、深さは20～30cm程度のものが大半を占める。

【覆土・堆積状況】 炭化物ならびに黄褐色土粒を含む黒色～黄褐色土が堆積する。自然堆積と判断した。

【壁】 短軸方向、長軸方向ともに壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面から30～60cm付近のところで外反する。

【出土遺物】 出土していない。

905号陥し穴（第149図、写真図版290）

【位置・検出状況】 DⅢc9グリッドほかに位置する。Ⅲ層中で検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は楕円形をなす。規模は開口部が1.93×1.24m、底部が1.45×0.31mで深さは134cmである。底面中央部付近に径10cm程度の小穴を持つ。深さは20cmである。

【覆土・堆積状況】 炭化物ならびに黄褐色土粒を含む黒色～黄褐色土が堆積する。自然堆積と判断した。

【壁】 短軸方向、長軸方向ともに壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面から70cm付近のところで外反する。

【出土遺物】 出土していない。

906号陥し穴（第149図、写真図版290）

【位置・検出状況】 DⅢb9グリッドほかに位置する。Ⅲ層中で検出した。

【重複】 なし。

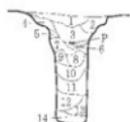
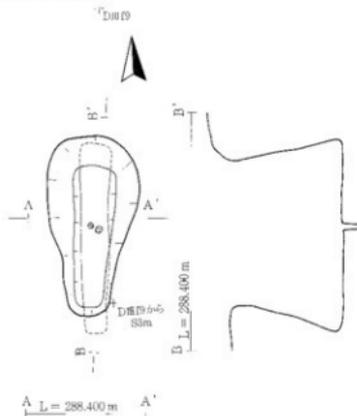
【平面形・規模】 平面形は楕円形をなす。規模は開口部が1.84×0.89m、底部が1.29×0.26mで深さは106cmである。底面に小穴を6基確認した。いずれも円形で径10cm、深さは20～25cm程度である。

【覆土・堆積状況】 炭化物を含む黒色～黄褐色土が堆積する。自然堆積と判断した。

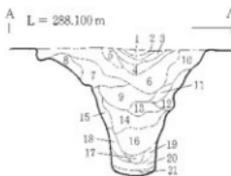
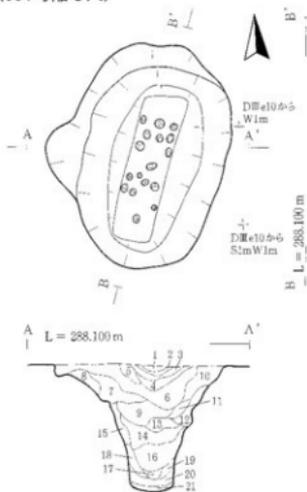
【壁】 短軸方向、長軸方向ともに壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面から70cm付近のところで外反する。

【出土遺物】 出土していない。

〈903号陥し穴〉



〈904号陥し穴〉



(903号陥し穴A-A') SK 15

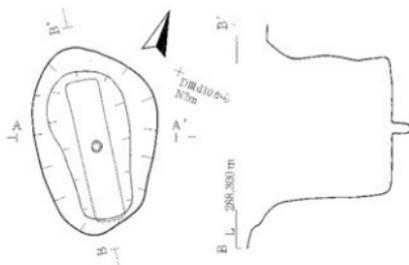
1. 7.5YR2/2 黄褐色シルト しまり弱 粘性弱 炭化物極かく少量 黄褐色土状腐葉
2. 7.5YR2/2 黄褐色シルト しまり強 粘性弱 炭化物腐葉 黄褐色土ブロック多かく少量
3. 7.5YR2/1 黄褐色シルト しまり中 粘性弱 炭化物腐葉 黄褐色土ブロックの中量 2層と層との互層
4. 2層に互層する黄褐色土ブロックの中量多かく
5. 黄褐色土ブロック層 しまり強 粘性強い
6. 7.5YR2/1 黄褐色シルト しまり中 粘性弱 炭化物・黄褐色土ブロック腐葉 少ない腐葉
7. 7.5YR2/2 黄褐色シルト しまり中 粘性中 炭化物極かく少量 黄褐色土小ブロック(径~1cm)少量
8. 7.5YR2/2 黄褐色シルト しまりの中弱 粘性中 炭化物腐葉 黄褐色土ブロック少量
9. 黄褐色土ブロック層 しまり中 粘性中 7.5YR3/4(時褐色)土色のみの中量
10. 7.5YR2/2 黄褐色シルト しまりの中弱 粘性中 炭化物(径~2cm)少量 7.5YR3/4 粘褐色土大量 黄褐色土ブロック少量(近所に多い)
11. 7.5YR3/4 粘褐色シルト しまりなし 粘性中 腐葉に互層する中量弱く 炭化物少ない
12. 7.5YR2/1 黄褐色シルト しまりなし 粘性中 黄褐色土ブロック少量
13. 黄褐色土ブロック層 しまりなし 粘性中
14. 7.5YR2/1 黄褐色シルト しまりなし 粘性中 7.5YR2/2(黄褐色)土多量 黄褐色土ブロック腐葉少量

(904号陥し穴A-A')

- 全体に多量 7.5YR3/4 粘褐色、7.5YR4/4 褐色に近い
1. 7.5YR2/1 黄褐色シルト しまり中 粘性弱 炭化物腐葉の多い腐葉
 2. 7.5YR2/2 黄褐色シルト しまり中 粘性弱 炭化物腐葉 黄褐色土状腐葉
 3. 7.5YR3/4 粘褐色シルト しまり中 粘性弱 炭化物腐葉 炭化物腐葉 黄褐色土粒少量
 4. 7.5YR2/1 黄褐色シルト しまり中 粘性弱 炭化物腐葉 3層より炭化物・黄褐色土粒少ない
 5. 黄褐色土ブロック層 しまり中 粘性弱 炭化物・黄褐色土状腐葉
 6. 7.5YR3/4 粘褐色シルト しまり中 粘性中 炭化物腐葉 黄褐色土小ブロック(径~2cm)少量
 7. 腐葉に互層する黄褐色土ブロックの径大(径~3cm)
 8. 7.5YR2/2 黄褐色シルト 粘性弱 互層土ブロック少量
 9. 7.5YR3/4(時褐色)土の中量 黄褐色土ブロック大量
 9. 腐葉に互層する中量弱く 黄褐色土ブロックの中量弱く
 10. 7.5YR2/2 黄褐色シルト しまり中 粘性弱 黄褐色土ブロック腐葉少量
 11. 7.5YR2/2 黄褐色シルト しまり中 粘性弱 炭化物腐葉 黄褐色土ブロック腐葉
 12. 7.5YR2/4 粘褐色シルト しまり中 粘性中 黄褐色土ブロック多量
 13. 7.5YR2/2 黄褐色シルト しまりの中弱 粘性弱 炭化物少量(径~1cm) 黄褐色土ブロック腐葉
 14. 7.5YR2/1 黄褐色シルト しまり弱 粘性中 黄褐色土ブロック少量
 15. 7.5YR3/4 粘褐色シルト しまりの中弱 粘性中 黄褐色土ブロック多量
 16. 7.5YR3/4 粘褐色シルト しまりの中弱 粘性中 炭化物(径~1cm)互層 黄褐色土小ブロック(径~1cm)少量
 17. 7.5YR3/4 粘褐色シルト しまり弱 粘性中 黄褐色土大量
 18. 黄褐色土ブロック層 しまり弱 粘性中
 19. 黄褐色土ブロック層 しまり弱 粘性中 粘層よりやや多い
 20. 7.5YR2/1 黄褐色シルト しまり弱 粘性中 黄褐色土ブロック腐葉少量
 21. 7.5YR3/4 粘褐色シルト しまり弱 粘性中 黄褐色土小ブロック(径~3cm)少量

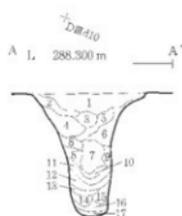
0 1 2 3m

〈905号陥し穴〉

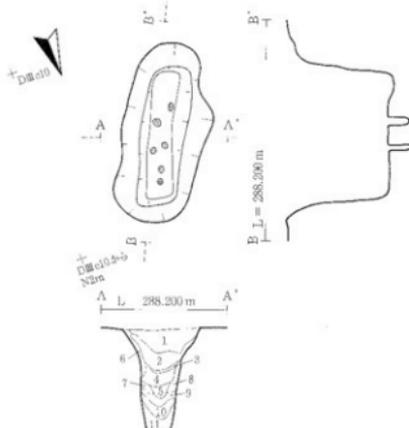


(905号陥し穴 A')

1. TSYR2/2 赤褐色シルト、しまり中 粘粒層 30cm厚い 灰化層・赤包粒・黄褐色土粒細かく少量
2. 1層に広がるやや黄味 灰化物少ない
3. TSYR2/2 赤褐色シルト、しまり中 粘粒層 灰化物少量 黄褐色土粒略微
4. TSYR2/1 赤色シルト、しまり中 粘粒中 灰化物少量 主体上ブロック少量・黄褐色土小ソック
5. TSYR2/1 赤色シルト 粘粒中 灰化微細量 TSYR2/2同層赤土ブロック (2~5cm) 少量 黄褐色土ブロック少量
6. 1層に広がるTSYR2/1 赤褐色含まない
7. TSYR3/1 黄褐色シルト、しまり弱 粘粒中 灰化物微細量 黄褐色土少量
8. 1層に広がる
9. 黄褐色土ブロック少量 しまりやや弱
10. TSYR2/4 粘褐色シルト、しまりやや弱 粘粒中 赤土少量 黄褐色土少量
11. TSYR3/4 粘褐色シルト、しまり弱 粘粒中 黄褐色土少量
12. 黄褐色土ブロック層
13. 10層に広がるしまりなく灰味強い 灰化物少量
14. TSYR2/3 赤褐色シルト、しまりなし 粘粒中 黄褐色土ブロック細かく散在
15. 3層に広がるTSYR3/4同褐色土やや多い 下部にTSYR2/2同褐色土層に接する
16. 黄褐色土ブロック層、しまりなし 粘粒中
17. TSYR3/4 粘褐色シルト、しまりなし 粘粒中 黄褐色土ブロック細かく散在



〈906号陥し穴〉



(906号陥し穴 A')

1. TSYR2/3 赤褐色シルト、しまり中 粘粒層 灰化物微細量 黄褐色土小ソック (2~5cm) 少量
2. TSYR2/2 赤褐色シルト、しまり中 粘粒中 灰化物・赤包粒・黄褐色土小ソック細かく散在
3. TSYR2/1 赤褐色シルト、しまり中 粘粒中 灰化物・赤包粒・黄褐色土小ソック細かく散在
4. TSYR2/2 赤褐色シルト、しまりやや弱 粘粒中 黄褐色土ブロックやや多量
5. TSYR2/1 赤色シルト、しまり中 粘粒中 黄褐色土大塊 黄褐色土小ソック (2~5cm) 少量 粘粒中 主体上中ブロック
6. TSYR2/1 赤褐色シルト、しまり中 粘粒中 黄褐色土大塊 黄褐色土小ソック
7. TSYR3/4 粘褐色シルト、しまりやや弱 粘粒中 黄褐色土多量
8. 1層に広がる
9. TSYR3/4 粘褐色シルト、しまり弱 粘粒中 黄褐色土大塊
10. 黄褐色土ブロック層、しまりやや弱 粘粒中 黄褐色土やや多い
11. TSYR3/4 粘褐色シルト、しまりとも弱い 粘粒中 黄褐色土少量



第149図 905・906号陥し穴

907号陥し穴 (第150図、写真図版290)

【位置・検出状況】 DⅢ b 9 グリッドに位置する。Ⅲ層中で検出した。

【重複】 903号土坑と重複する。検出時に重複を確認できず掘り下げたため新旧関係は把握できていない。

【平面形・規模】 平面形は楕円形をなす。規模は開口部が(1.87)×1.32m、底部が1.71×0.24mで深さは123cmである。底面中央部付近に径10cm程度の小穴を持つ。深さは20cmである。

【覆土・堆積状況】 炭化物を含む黒色～黄褐色土が堆積する。自然堆積と判断した。

【壁】 短軸方向、長軸方向とも壁はほぼ垂直に立ち上がるが、短軸方向では底面から90cm付近で外反する。

【出土遺物】 出土していない。

908号陥し穴 (第150図、写真図版291)

【位置・検出状況】 CⅢ j 9 グリッドほかに位置する。Ⅲ層中で検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は楕円形をなす。規模は開口部が2.10×1.22m、底部が1.65×0.25mで深さは117cmである。底面に小穴を7基礎認した。径5～30cm、深さは15～20cm程度と30cmを超えるものがある。

【覆土・堆積状況】 炭化物を含む黒色～黄褐色土が堆積する。自然堆積と判断した。

【壁】 短軸方向、長軸方向とも壁はほぼ垂直に立ち上がるが、短軸方向は底面から90cm付近で外反する。

【出土遺物】 Na2007の土器が出土している。(第294図、写真図版293)

909号陥し穴 (第151図、写真図版291)

【位置・検出状況】 BⅢ j 8 グリッドほかに位置する。Ⅲ層中で検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は楕円形をなす。規模は開口部が2.15×1.79m、底部が1.44×0.30mで深さは122cmである。底面中央部付近に径6×8cmの小穴を持つ。深さは22cmである。

【覆土・堆積状況】 炭化物ならびに黄褐色土粒を含む黒色～黄褐色土が堆積する。12層はIV層とV層の混土で構成され良くしまる。12層は掘方、上面が底面の可能性がある。これ以外は自然堆積と判断した。

【壁】 短軸方向、長軸方向ともに壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面から50～80cm付近のところで外反する。

【出土遺物】 Na2008・2009の土器が出土している。(第294図、写真図版293)

910号陥し穴 (第151図、写真図版291)

【位置・検出状況】 EⅢ j 6 グリッドほかに位置する。Ⅲ層中で検出した。

【重複】 なし。912号陥し穴と近接するが僅かに重ならない。

【平面形・規模】 平面形は薄形。規模は開口部が3.96×0.86m、底部が3.94×0.19mで深さは134cmである。

【覆土・堆積状況】 炭化物ならびに黄褐色土粒を含む黒色～黄褐色土が堆積する。自然堆積と判断した。

【壁】 短軸方向の壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面から90cm付近のところで外反する。長軸方向の壁はオーバーハングしている。

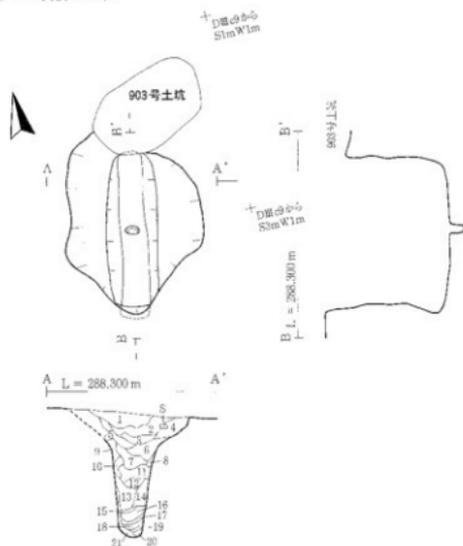
【出土遺物】 出土していない。

911号陥し穴 (第152図、写真図版291)

【位置・検出状況】 EⅢ b 9 ほかグリッドに位置する。Ⅲ層中で検出した。

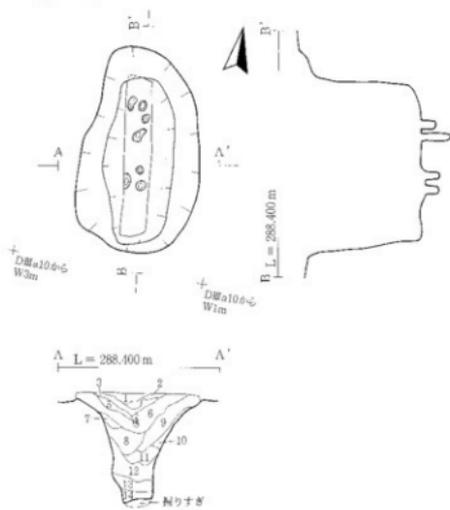
【重複】 なし。

〈907号陥し穴〉



- (907号陥し穴A-A')
1. 7.5YR2/2 黄褐色シルト しるる 果は無い 樹根付
ブロック (径=10cm) 少量
 2. 7.5YR2/3 黄褐色シルト しるる 黄褐色土ブロック (径=1cm)
少量 炭化物少量 1層あり
 3. 7.5YR2/1 黄シルト しりり中 炭化物少量
黄褐色土ブロック (径=1cm) 炭化物 きれいな層
 4. 7.5YR2/2 黄褐色シルト シルト しるる やや多量
黄褐色土ブロックのや多く含む
 5. 7.5YR2/2 黄褐色シルト やや堅硬 しりり中 粘性弱
黄褐色土小ブロック (径=1cm) 少量
 6. 7.5YR2/2 黄褐色シルト やや堅硬 しりり中 粘性弱
黄褐色土小ブロック (径=2cm) やや多量 炭化物少量
竹炭等の粒状大骨 (径=2cm) 若干
 7. 7.5YR2/1 黄シルト しりり中弱 粘性弱
5YK2/2 黄褐色土多量 黄褐色土多量
 8. 黄褐色土ブロック 量 しりり強い 粘性強い 取りやすさあり
 9. 7.5YR2/4 暗褐色シルト しりり中 粘性弱 黄褐色土ブロック少量
 10. 7.5YR2/4 暗褐色シルト しりり中弱 粘性中 黄褐色土少量
 11. 7.5YR2/2 黄褐色シルト しりり弱 粘性中 炭化物少量
黄褐色土ブロック細かく散在
 12. 7.5YR2/1 黄シルト しりり弱 粘性中 炭化物少量 (径=1cm)
 13. 7.5YR2/2 黄褐色シルト しりり中 粘性中 黄褐色土や多量
 14. 7.5YR2/2 黄褐色シルト しりり中 弱中
黄褐色土ブロック少量
 15. 7.5YR2/1 黄シルト しりりなし 粘性中 炭も無い層
 16. 7.5YR2/2 黄褐色シルト しりりなし 粘性中
黄褐色土中ブロック (径=2cm) 少量
 17. 7.5YR2/2 黄褐色シルト しりりなし 粘性中
黄褐色土ブロック少量 7.5YR2/2黄褐色土多量
 18. 1層に広がる中骨の中強い 柱より強い
 19. 7.5YR2/1 黄シルト黄褐色土多量 しりり強に強い 粘性中
2層に広がる
 20. 7.5YR2/2 黄褐色シルト 粘性中
黄褐色土ブロック細かく散在 きれいな層

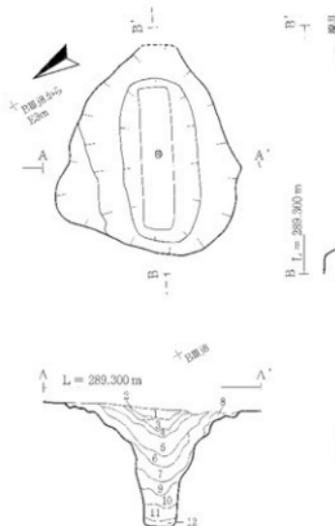
〈908号陥し穴〉



- (908号陥し穴A-A')
- 全体に黄味 黄褐色土粒なし
1. 7.5YR2/1 黄シルト しりり強 粘性弱 炭化物少量
きれいな層
 2. 7.5YR2/1 黄シルト しりり強 粘性弱 炭化物少量 (柱立つ)
黄褐色土ブロック少量
 3. 7.5YR2/1 黄シルト しりり中 粘性弱 炭化物少量 (径=1cm)
 4. 7.5YR2/2 黄褐色シルト しりり弱 粘性弱
炭化物・黄褐色土ブロック少量 粘り強
 5. 7.5YR2/2 黄褐色シルト しりり中 粘性中
黄褐色土ブロック細かく散在 炭化物少量
 6. 7.5YR2/2 黄褐色シルト しりり中 粘性弱 炭化物少量
(径=2cm) 黄褐色土ブロック細かく散在 (径=1cm) 少量
 7. 7.5YR2/2 黄褐色シルト しりり中 粘性中 黄褐色土ブロック多量
 8. 7.5YR2/2 黄褐色シルト しりり中弱 (径=1cm) 粘性弱
黄褐色土ブロック少量
 9. 8層に広がる中骨の中強い しりり強に強い
 10. 7.5YR2/2 黄褐色シルト 粘性中 黄褐色土ブロック多量粒状に散在
 11. 7.5YR2/2 黄褐色シルト しりり中弱 粘性中
黄褐色土ブロック細かく散在
 12. 7.5YR2/4 暗褐色シルト しりり弱 粘性中 黄褐色土多量
 13. 7.5YR2/4 暗褐色シルト しりり中弱 粘性中
黄褐色土ブロック (径=1cm) 中や多量
 14. 7.5YR2/4 暗褐色シルト しりり弱 粘性中 黄褐色土ブロック多量

第150図 907・908号陥し穴

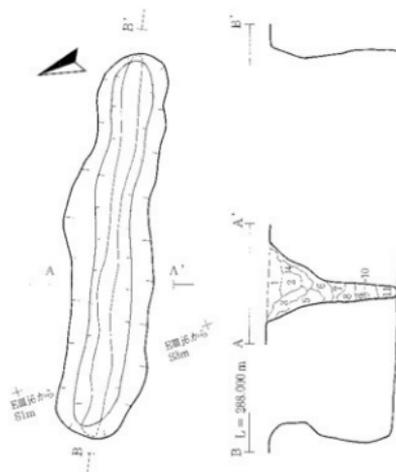
〈909号陥し穴〉



(909号陥し穴(A-A'))

1. 7.5YR2/2 黄褐色シルト しまり中 砂屑多 炭化物・黄褐色土粒散在 炭化物少ない層
2. 7.5YR2/2 黄褐色シルト 炭化物・焼土ブロック少量(1.2cm) 黄褐色土ブロック散在
3. 7.5YR2/1 黄褐色シルト しまり中 粘粒多 炭化物・焼土ブロック多量 黄褐色土粒散在 黄褐色土ブロック人下部にはいる
4. 7.5YR2/2 黄褐色シルト しまり中 粘粒多 炭化物・焼土ブロック2層より多い 黄褐色土ブロック少量(下部はやや多い)
5. 7.5YR2/3 暗褐色シルト しまり中 粘粒中 炭化物散在 黄褐色土粒少量
6. 3層に比べると土質上の割合多く硬い 炭化物も少ない
7. 7.5YR2/4 暗褐色土質シルト しまりやや弱 黄褐色土小ブロック散在
8. 黄褐色土と7.5YR2/4 暗褐色土の混生 しまり中 粘粒中
9. 7.5YR2/4 暗褐色シルト しまり中 粘粒中 黄褐色土ブロックやや多量 堅固な人ブロック(厚~3cm)の心はこなれている
10. 7.5YR2/3 暗褐色シルト しまり弱 粘粒中 黄褐色土少量
11. 7.5YR2/4 暗褐色シルト しまり弱 粘粒中 黄褐色土ブロック(厚~5cm)やや多量
12. 黄褐色土ブロックと7.5YR2/4 暗褐色土の混生 しまり弱 粘粒中

〈910号陥し穴〉



(910号陥し穴(A-A'))

1. 7.5YR2/1 赤色シルト しまり中 粘粒多 7.5YR2/2黄褐色土大ブロック(厚~5cm)散在
2. 7.5YR2/1 赤色シルト しまり中 粘粒多 黄褐色土粒多い層 炭化物・7.5YR2/2黄褐色土ブロック少量 黄褐色土ブロック散在
3. 7.5YR2/1 黄褐色シルト しまり中(1・2層より多い) 粘粒多い 炭化物散在 黄褐色土粒少量 7.5YR2/2黄褐色土少量
4. 3層に比べると黄褐色土色の7.5YR2/1 赤色土多い
5. 7.5YR2/1 黄褐色シルト しまり中 粘粒多 7.5YR2/2 黄褐色土ブロック多量 黄褐色土ブロック少量 黄褐色土粒散在
6. 7.5YR2/4 暗褐色シルト しまりやや弱 しまり中 黄褐色土やや多量
7. 7.5YR2/1 暗褐色シルト しまり弱 しまり中 黄褐色土大ブロック(厚~1.8cm)少量
8. 7.5YR2/2 暗褐色シルト しまりなし 粘粒中 黄褐色土ブロック多量
9. 7.5YR2/1 暗褐色土質シルト しまりなし 粘粒中 黄褐色土ブロック少量
10. 8層に比べると黄褐色土ブロック多い
11. 7.5YR2/1 黄褐色土質シルト しまりなし 粘粒多 黄褐色土小ブロック(厚~1.1cm)少量



第151図 909・910号陥し穴

【平面形・規模】 平面形は溝形、規模は開口部が 4.07×0.74 m、底部が 4.74×0.12 mで深さは145cmである。

【覆土・堆積状況】 炭化物ならびに黄褐色土粒を含む黒色～黄褐色土が堆積する。自然堆積と判断した。

【壁】 短軸方向の壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面から100cm付近のところで外反する。長軸方向の壁はオーバーハングしている。

【出土遺物】 出土していない。

912号陥し穴（第152図、写真図版292）

【位置・検出状況】 EⅢj6 グリッドに位置する。Ⅲ層中で検出した。

【重複】 なし。910号陥し穴と近接するが併かに重ならない。

【平面形・規模】 平面形は円形をなす。規模は開口部が 1.38×1.29 m、底部が 1.08×0.89 mで深さは104cmである。底面中央に径 20×14 cmの小穴を持ち、これを囲ってドーナツ状に地山が掘り残されている。小穴の深さは底面からは50cm、地山掘り残し部分の上端からは60cmである。

【覆土・堆積状況】 黄褐色土粒を含む黒色～黄褐色土が堆積する。自然堆積と判断した。

【壁】 短軸方向、長軸方向とも壁はほぼ垂直に立ち上がる。

【出土遺物】 出土していない。

913号陥し穴（第153図、写真図版292）

【位置・検出状況】 DⅢj8 グリッドほかに位置する。Ⅲ層中で検出した風倒木にトレンチを設定して掘り下げたところ、本遺構を確認した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は方形をなす。しかし、遺構上部は風倒木によって壊されており、本来は912・914号陥し穴同様円形タイプと思われる。規模は開口部が 0.94×0.81 m、底部が 0.89×0.82 mで深さは84cmである。底面中央部付近に径8cm程度の小穴を持つ。深さは18cmである。この小穴の外側径25cm程度の円形範囲は地山が変色していた。

【覆土・堆積状況】 黄褐色土粒を含む黒色～黄褐色土が堆積する。自然堆積と判断した。覆土上部（1～9（10）層）は、倒木時に攪乱を受けている。

【壁】 短軸方向、長軸方向とも残存する壁はほぼ垂直に立ち上がる。

【出土遺物】 No3003の剥片石器が出土している。（第295図、写真図版293）

914号陥し穴（第153図、写真図版292）

【位置・検出状況】 EⅢa9 グリッドほかに位置する。Ⅲ層中で検出した。

【重複】 なし。

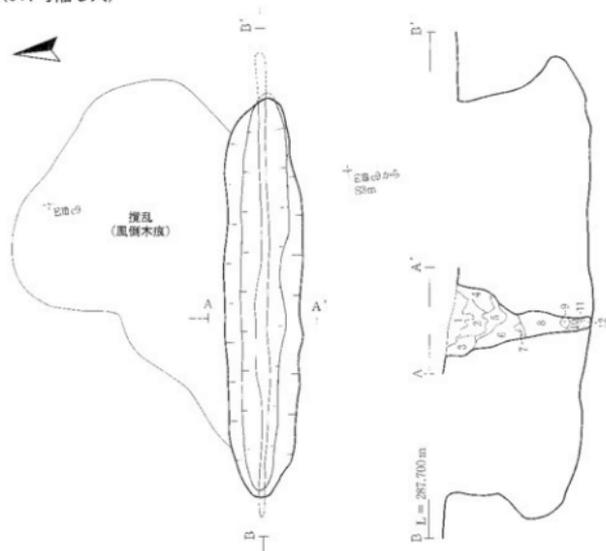
【平面形・規模】 平面形は円形、規模は開口部が 1.47×1.38 m、底部が 92.0×92.0 cmで深さは117cmである。

【覆土・堆積状況】 炭化物ならびに黄褐色土粒を含む黒色～黄褐色土が堆積する。自然堆積と判断した。

【壁】 短軸方向、長軸方向ともに壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面から100cm付近のところで外反する。

【出土遺物】 出土していない。

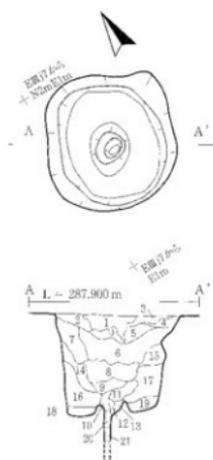
〈911号陥し穴〉



911号陥し穴A A'

1. 7.5YR2/1 黒色シルト しまり中 粘柱石 黄褐色土粒凝集 下部に黒色く7.5YR2/1 黒色土はいる
2. 7.5YR2/2 黒褐色シルト しまり中 粘柱石 黄褐色土粒凝集 黄褐色土粒少量
3. 7.5YR2/1 黒色シルト しまり中 粘柱石 土壌土ブロック少量 7.5YR2/2 黒褐色土ブロック大量 黄褐色土ブロックやや多量
4. 7.5YR3/1 暗褐色シルト しまり中 粘柱石 黄褐色土粒凝集 黄褐色土ブロック多量
5. 2層にわたる粘り強い
6. 7.5YR2/4 暗褐色シルト しまりやや硬 粘柱石 黄褐色土多量
7. 黄褐色土ブロック層 しまり中 粘柱石
8. 7.5YR2/2 黒褐色シルト しまりやや硬い 粘柱石 粘柱土少量 7.5YR3/4 暗褐色土大量 黄褐色土多量
9. 7.5YR2/1 黒色シルト しまり弱 粘柱石 黄褐色土ブロック (厚~2cm) 少量
10. 2層より多い 黄褐色土ブロック粘り強く凝集
11. 黄褐色土ブロック層 しまり中 粘柱石
12. 7.5YR2/1 黒褐色シルト しまり弱 粘柱石 黄褐色土ブロック凝集 粘り強い層

〈912号陥し穴〉



912号陥し穴A A'

1. 7.5YR2/1 黒色シルト しまり中 粘柱石 黄褐色土粒凝集 下部に黒色土はいる
2. 7.5YR2/2 黒褐色シルト しまり中 粘柱石 黄褐色土粒凝集 黄褐色土粒少量
3. 2層にわたる粘り強い
4. 2層にわたる粘り強い
5. 7.5YR2/2 黒褐色シルト しまり中 粘柱石 黄褐色土粒少量 地山大ブロック (厚~5cm) 少量
6. 7.5YR2/2 黒褐色シルト しまりやや硬 粘柱石 7.5YR2/2 黒褐色土ブロック大量 粘り強い層 (厚~1cm) 少量
7. 7.5YR3/1 暗褐色シルト しまりやや硬 粘柱石 黄褐色土小ブロック (厚~1cm) やや多量
8. 7.5YR2/2 黒褐色シルト しまり弱 粘柱石 黄褐色土小ブロック (厚~1cm) 少量 下部に多くはいる
9. 2層にわたる粘り強い
10. 7.5YR2/2 黒褐色シルト しまり中 粘柱石 との層中
11. 7.5YR3/4 暗褐色シルト しまり弱 粘柱石 黄褐色土少量
12. 黄褐色土ブロック層 しまり中 粘柱石
13. 7.5YR2/2 黒褐色土と黄褐色土 7.5YR2/1 黒色土が層状に堆積 しまりなし
14. 黄褐色土ブロック層 しまり中 粘柱石 7.5YR3/4 暗褐色土層土層かを含む
15. 7.5YR2/1 黒色土と7.5YR2/2 暗褐色土との層上 しまりやや硬 粘柱石
16. 黄褐色土小ブロック (厚~1cm) 少量
17. 黄褐色土ブロック層 下部に厚く7.5YR2/1 黒色土はいる
18. 粘り強い層
19. 7.5YR2/4 暗褐色土と黄褐色土ブロックの混成 やや粘り強く硬い しまり中 粘柱石
20. 7.5YR2/1 黒色シルト しまりなし
21. 黄褐色土ブロック層 しまりなし 粘り強い

第152図 911・912号陥し穴

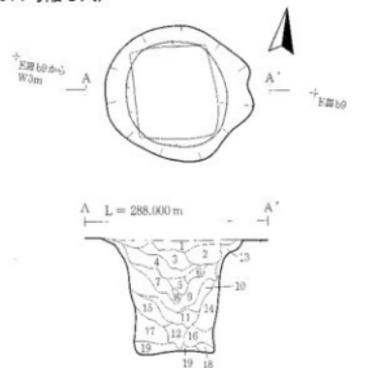
〔913号陥し穴〕



- (913号陥し穴A-A')
1. 7.5YR5/4 暗褐色シルト しまり中 粘粒中 黄褐色土多量
 2. 7.5YR2/2 暗褐色シルト しまり中 粘粒中 黄褐色土ブロック状のやや多量
 3. 7.5YR2/2 暗褐色シルト しまり中 粘粒中 炭化物粒散見
黄褐色土粒塊散見 黄褐色土ブロック状の少量
 4. 7.5YR2/1 暗褐色シルト しまり中 粘粒中 粘粒弱 黄褐色土粒多量
 5. 7.5YR2/2 暗褐色土少量 黄褐色土多量
 6. 4層に広がるが土塊多く粘り
 7. 7.5YR2/1 暗褐色シルト しまり強 粘粒中 黄褐色土ブロック多量
7.5YR2/2 暗褐色土少量 黄褐色土ブロック多量
 8. 7.5YR2/2 暗褐色シルト しまり中 粘粒中 黄褐色土ブロック多量
 9. 7.5YR2/1 暗褐色シルト しまり中 粘粒中 黄褐色土ブロック多量
 10. 7.5YR2/2 黄褐色シルト しまりやや弱 粘粒中 黄褐色土ブロック多量
 11. 7.5YR2/1 褐色シルト 7.5YR2/2 暗褐色土の多量 黄褐色土粒塊多量
 12. 7.5YR2/1 暗褐色シルト しまりやや弱 粘粒中 黄褐色土やや少量
 13. 黄褐色土ブロック層シルト しまりやや弱 粘粒中
 14. 黄褐色土ブロック層シルト しまりやや弱 粘粒中
 15. 7.5YR3/4 暗褐色シルト しまりやや弱 粘粒中
黄褐色土ブロック層散見
 16. 7.5YR2/4 暗褐色シルト しまり強のため水酸化鉄集積
 17. 15層に広がる
 18. 7.5YR2/1 褐色シルト 疎くしまりが明瞭弱くとあまりしまらない粘粒弱
 19. 7.5YR2/4 暗褐色シルト しまり弱く 粘粒中
黄褐色土ブロック状の塊散見



〔914号陥し穴〕



- (914号陥し穴A-A')
1. 7.5YR2/2 暗褐色シルト しまり強 粘粒弱 炭化物粒散見黄褐色土粒少量のやや多量
 2. 7.5YR2/2 暗褐色シルト しまり中 粘粒弱 炭化物粒散見 黄褐色土粒少量
 3. 7.5YR2/1 暗褐色シルト しまり中 粘粒弱 黄褐色土粒少量
 4. 7.5YR2/1 暗褐色シルト しまり中 粘粒弱 7.5YR2/2 暗褐色土のやや多量
黄褐色土粒 (径 ~ 2 mm) 少量
 5. 7.5YR2/1 暗褐色シルト しまり中 粘粒弱 7.5YR2/2 暗褐色土散見
黄褐色土粒塊散見 炭化物粒少ないが散見
 6. 7.5YR2/1 暗褐色シルト しまり中 粘粒弱 黄褐色土粒散見 黄褐色土少量
 7. 7.5YR2/2 暗褐色土の多量
 8. 7.5YR2/2 暗褐色シルト しまりやや弱 粘粒中 黄褐色土粒少量
地山ブロック状の少量
 9. 7.5YR2/2 暗褐色シルト しまり中 粘粒中 黄褐色土粒散見 炭化物粒散見
地山ブロック状の少量 7.5YR3/4 暗褐色土ブロック状の少量 (径 ~ 2 mm) 散見
 10. 7.5YR3/4 暗褐色シルト しまり中 粘粒中 黄褐色土大量
 11. 7.5YR3/4 暗褐色シルト しまりやや弱 粘粒中 黄褐色土ブロック状の少量
 12. 7.5YR2/2 暗褐色シルト しまり中 粘粒中 炭化物粒少量 (径 ~ 2 mm)
黄褐色土ブロック状散見
 13. 7.5YR3/4 暗褐色シルト しまり弱 粘粒中 黄褐色土多量
 14. 黄褐色土ブロック層 しまりやや弱 粘粒中
 15. 7.5YR3/4 暗褐色シルト 粘粒中 下面に於て土体上・地山土
7.5YR3/4 暗褐色土と黄褐色土の境十の層に散見
 16. 7.5YR3/4 暗褐色シルト しまりやや弱 粘粒中 中粒土ブロックのやや多量
黄褐色土ブロック少量
 17. 7.5YR5/4 暗褐色シルト しまりやや弱 粘粒中 土粒少量
黄褐色土ブロック少量
 18. 7.5YR3/4 暗褐色シルト しまり中 粘粒中 黄褐色土中ブロック (径 ~ 2 mm) 少量
 19. 7.5YR3/1 暗褐色シルト しまり強 粘粒中 黄褐色土大ブロック (径 ~ 3 mm) のやや多量

0 1 2m

4 埋設土器

201号埋設土器（第13図、写真図版8）

〔位置・検出状況〕 LIII c4 グリッドに位置する。201号住精査途中で検出した。当初は床面出土の土器という認識であったが、取り上げようとしたところさらに下部まで続いていることが判明し、埋設土器であることがわかった。

〔重複〕 201号住と重複する。

〔覆土・堆積状況〕 土器が見えた時点で遺構として認定したため、これよりも上部について覆土の状況を確認することはできなかった。

〔埋設土器の検出状況・掘り方〕 木根が入り込んでおり、土器の上部はこれによってつぶされている状況であった。土器の径よりも一回り程度の掘り込みが確認でき、直立して埋設してある。

〔土器内部の様子〕 調査員が気づいたときには既に土器内部の土はきれいに取り除かれていた。したがって内部の状況については不明である。

〔所属施設〕 201号住に付属するものと考えられる。

〔出土遺物〕 No.45の土器が出土している。（第2・50図、写真図版153）

401号埋設土器（第154図、写真図版144）

〔位置・検出状況〕 JIII j6 グリッドに位置する。攪乱層を除去したところ（III層～IV層）、428号住西端部の壁に隣接して検出した。

〔重複〕 なし。

〔覆土・堆積状況〕 攪乱層を除去して土器が見えた時点で遺構と認識したため、これよりも上部については確認できていない。

〔埋設土器の検出状況・掘り方〕 ほぼ正立で出土しているが、若干住居側に向かって傾いているようにも見える。掘り方は土器よりもほぼ一回り大きい。底面が土器と接していない。調査員の分層に問題がある可能性もある。

〔土器内部の様子〕 やや多めの黄褐色土粒を含む暗褐色土が埋まっていた。骨片や焼土粒などについては確認していない。

〔所属施設〕 428号住に関連する可能性が高い。

〔出土遺物〕 No.895の土器が出土している。（第44・139図、写真図版203）

402号埋設土器（第154図、写真図版144）

〔位置・検出状況〕 KIII b10グリッドほかに位置する。攪乱層を除去したところ（IV層）で検出した。

〔重複〕 なし。

〔覆土・堆積状況〕 土器部分よりも上部については攪乱層であったため把握できなかった。

〔埋設土器の検出状況・掘り方〕 土器は正立で出土している。掘り方の周囲に黄褐色土粒を含む暗褐色土が堆積している（2層と4層）。これを掘り込む形で土器が埋設されており、暗褐色土（3層）で埋め戻されている。

〔土器内部の様子〕 やや多めの黄褐色土粒を含む褐色土が埋まっていた。覆土上部には加工痕跡を持たない石器剥片が比較的多く埋まっていた。

【所属施設】 不明であるが、隣接する421号住はかと関連する可能性が高い。

【出土遺物】 覆土上部から石器剥片（フレイク）が30点ほど出土している。№891の土器、№476の剥片石器が出土している。（第43・138・223図、写真図版203・246）

403号埋設土器（第154図、写真図版145）

【位置・検出状況】 KⅢ a 8 グリッドに位置する。427号住の精査途中で検出した。404号埋設土器と隣接する。

【重複】 427号住と重複する。

【覆土・堆積状況】 土器部分よりも上部については、攪乱層が大部分であり、生き残っている覆土も非常に薄かったため堆積状況等を明確に把握することはできなかった。

【埋設土器の検出状況・掘り方】 土器は斜位で出土している。土器よりも一回りほど大きな掘り方であると判断した。そこに土器を埋設し3層によって埋め戻されている。

【土器内部の様子】 黄褐色土を含む暗褐色土が堆積している。土器内部の覆土中部ににぎり拳大の礫が混入していた。骨片や焼土について確認することはなかった。

【所属施設】 427号住に関連する可能性が極めて高い。

【出土遺物】 №894の土器が出土している。（第44・139図、写真図版203）

404号埋設土器（第154図、写真図版145）

【位置・検出状況】 KⅢ a 8 グリッドに位置する。427号住の精査途中で検出した。403号埋設土器と隣接する。

【重複】 427号住と重複する。

【覆土・堆積状況】 土器部分よりも上部については、攪乱層が大部分であり、生き残っている覆土も非常に薄かったため堆積状況等を明確に把握することはできなかった。

【埋設土器の検出状況・掘り方】 土器は斜位で出土している。土器よりも一回りほど大きな掘り方であると判断した。そこに土器を埋設し3層によって埋め戻されている。

【土器内部の様子】 黄褐色土を含む暗褐色土が堆積している。骨片や焼土について確認することはなかった。

【所属施設】 427号住に関連する可能性が極めて高い。

【出土遺物】 №892の土器が出土している。（第44・138図、写真図版203）

405号埋設土器（第154図）

【位置・検出状況】 KⅢ g10 グリッドに位置する。412号住精査途中で東側の壁際から検出した。

【重複】 412号住と重複する。

【覆土・堆積状況】 住居精査の初期段階で検出することはできず、床面出土土器との認識であった。また、手違いにより断面記録を欠いたまま掘り上げてしまったため、土器内部を含め覆土の状況を詳細に把握することができていない。

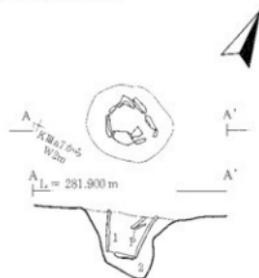
【埋設土器の検出状況・掘り方】 土器は正立で出土している。

【土器内部の様子】 記録は欠くが、黄褐色土を含む暗褐色土が堆積していたと認識している。骨片や焼土を確認することはなかった。

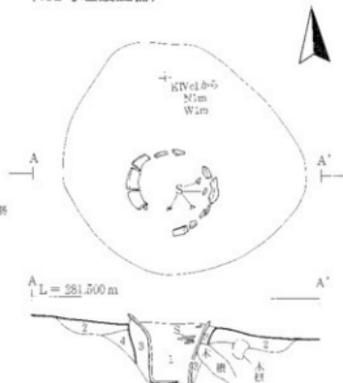
【所属施設】 412号住に関連する可能性が極めて高い。

【出土遺物】 №893の土器が出土している。（第44・139図、写真図版204）

〈401号埋設土器〉



〈402号埋設土器〉



(401号埋設土器A-A')
 1. 7.5YR3/4 粘褐色シロト しまり弱
 砂中炭 炭化物粒小1%未満
 炭化土上総厚小1%未満
 2. 10YR10/4 黄褐色土質シロト
 しまり中 粘中 炭化物粒小
 1%未満

(402号埋設土器A-A')
 1. 7.5YR3/4 粘褐色シロト しまり弱~中 粘性强 炭化物粒小1~5%
 2. 7.5YR3/4 粘褐色シロト しまり弱~中 粘性强 炭化物粒小1~5%
 3. 10YR10/4 黄褐色シロト しまり弱 粘性强 炭化物粒小1~5%
 4. 10YR2/1 暗褐色シロト しまり弱 粘性强~中 (3滴よりやや強い)

〈403号埋設土器〉

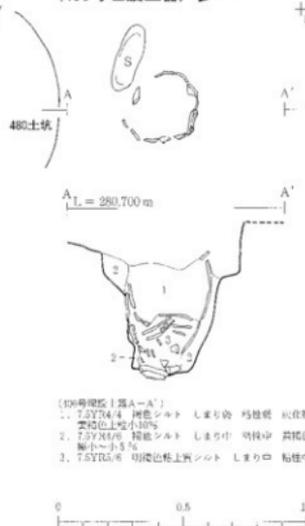


(403号埋設土器A-A')
 1. 7.5YR3/4 粘褐色シロト しまり弱 粘性强 炭化物粒小1~1% 炭化土上総厚小1%未満
 2. 7.5YR4/4 褐色シロト しまり弱~中 粘性强 炭化物粒小1% 炭化土上総厚小1%未満
 3. 10YR5/6 黄褐色土質シロト しまり中 粘中 炭化物粒小1%未満

〈405号埋設土器〉

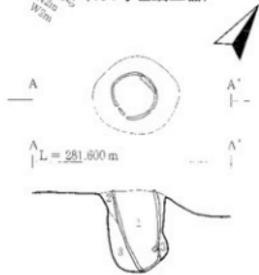


〈406号埋設土器〉



(406号埋設土器A-A')
 1. 7.5YR4/4 褐色シロト しまり弱 粘性强 炭化物粒小15%
 炭化土上総厚小10%
 2. 7.5YR10/6 暗褐色シロト しまり中 粘性强 炭化物粒
 小1~5%
 3. 7.5YR5/6 黄褐色土質シロト しまり中 粘性强

〈404号埋設土器〉



(404号埋設土器A-A')
 1. 7.5YR3/4 粘褐色シロト しまり弱 粘性强 炭化物粒小1%未満
 炭化土上総厚小1%未満
 2. 7.5YR4/2 灰褐色シロト しまり弱~中 粘性强 炭化物粒小
 1%未満
 3. 7.5YR5/6 黄褐色土質シロト しまり中 粘中 炭化物粒小1%未満

406号埋設土器 (第154図)

【位置・検出状況】 KIV f 1 グリッドに位置する。413号住精査途中で検出した。

【重複】 413号住と重複する。新旧関係を把握することはできなかった。

【覆土・堆積状況】 土器上部の覆土は炭化物を含む黒褐色土～褐色土が堆積している。

【埋設土器の検出状況・掘り方】 土器は正立で出土している。土器よりも一回りほど大きい掘り方で、黄褐色土を含む褐色土で埋め戻してある。土器検出前で、石棒状の礫石器が埋設土器に隣接して確認されている。

【土器内部の様子】 埋設された土器内部の底部から中部までは土器片を多く含む明褐色土が確認される。その上層には413号住覆土とよく似た褐色土層が堆積している。

【所属施設】 住居内施設、住居外隣接施設という両者の可能性を考えた場合、412・413・414号住のいずれの住居とも関連性が考えられる。検出ならびに覆土の観察状況からはどの住居に所属するものかを認定することができなかった。

【出土遺物】 No896の土器が出土している。(第44・140図、写真図版204)

5 焼土遺構

101号焼土 (第155図、写真図版146)

【位置・検出状況】 MII b 8 グリッドに位置する。沢状をなす地形の最も低いところで確認した。検出面はII層中部である。住居等の炉の可能性も考えたが、周囲にはそれに関連するような遺構は確認されなかった。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は円形を基調としているが不整である。規模は最大長を示す軸とそれに直行する最長長を示す軸を計測し、1.91×1.24mであった。厚みは最大10cmである。

【焼成状況】 基本土層であるII層の中部に焼土層が形成されている。焼土の下に50cmほどの黒色土層があり、さらにその下が地山との漸移層となる。

【出土遺物】 周囲から遺物は出土していない。

【時期】 不明であるが検出面や遺物の出土状況などから判断して、縄文時代よりはかなり新しい時代の遺構である可能性が高い。

102号焼土 (第155図、写真図版146)

【位置・検出状況】 MII b 9 グリッドほかに位置する。沢状をなす地形の最も低いところで確認した。検出面はII層中部である。住居等の炉の可能性も考えたが、周囲にはそれに関連するような遺構は確認されなかった。

【重複】 なし。

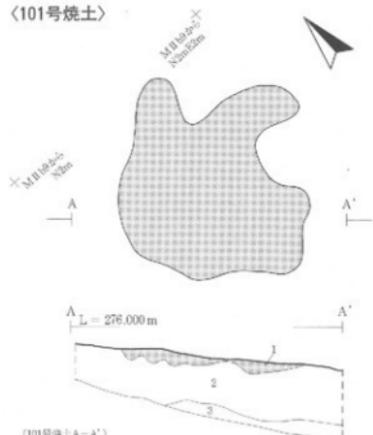
【平面形・規模】 平面形は円形を基調としているが不整である。規模は最大長を示す軸とそれに直行する最長長を示す軸を計測し、3.59×2.20mであった。厚みは最大22cmである。

【焼成状況】 基本土層であるII層の中部に焼土層が形成されている。焼土の下に50cmほどの黒色土層があり、さらにその下が地山との漸移層となる。

【出土遺物】 周囲から遺物は出土していない。

【時期】 不明であるが検出面や遺物の出土状況などから判断して、縄文時代よりはかなり新しい時代の遺構である可能性が高い。

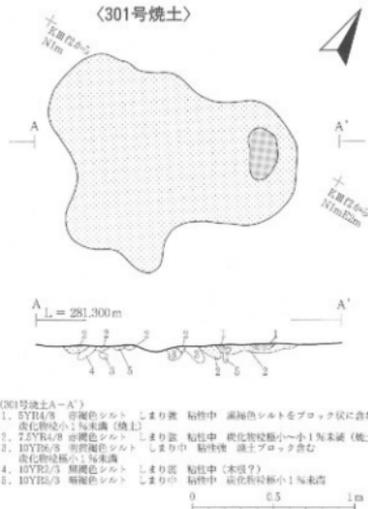
<101号焼土>



(101号焼土A-A')

1. 5YR4/5 赤褐色シルト しまり弱-中 粘性質
炭化土ブロックを含む(焼土)
2. 7.5YR2/1 黒色シルト しまり弱 粘性强
3. 7.5YR2/2 黒褐色シルト しまり中 粘性强(地山との混り物)

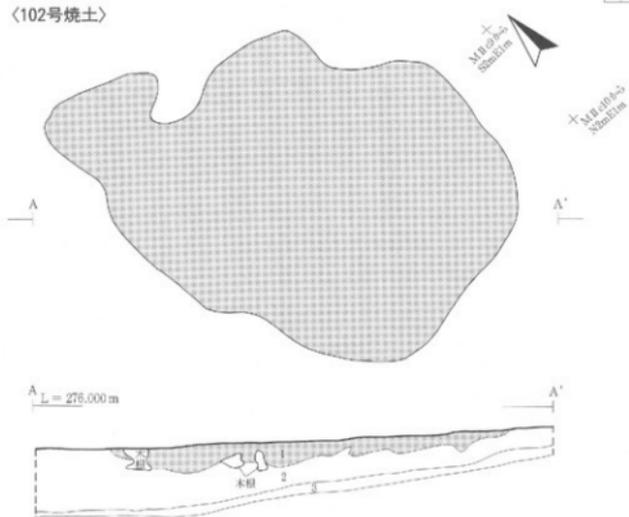
<301号焼土>



(301号焼土A-A')

1. 5YR4/5 赤褐色シルト しまり強 粘性强 黒褐色シルトをブロック状に含む
炭化物粒小(1%未満)(焼土)
2. 7.5YR4/5 赤褐色シルト しまり強 粘性强 炭化物粒粒小-小1%未満(焼土)
3. 10YD6/5 赤褐色シルト しまり中 粘性强 炭土ブロック含む
炭化物粒小(1%未満)
4. 10YR2/3 暗褐色シルト しまり弱 粘性强(本項?)
5. 10YR2/3 暗褐色シルト しまり中 粘性强 炭化物粒粒小1%未満

<102号焼土>



(102号焼土A-A')

1. 5YR2/5 赤褐色シルト しまり弱-中 粘性强 黒色土ブロックを含む(焼土)
2. 7.5YR2/1 黒色シルト しまり弱 粘性强
3. 7.5YR2/2 黒褐色シルト しまり中 粘性强(地山との混り物)

301号焼土（第155図、写真図版146）

【位置・検出状況】 KⅢ f1 グリッドはかに位置する。Ⅱ層下部で検出した。当初、大形住居にかかわる炉という認識で周囲を精査したが、壁の立ち上がりや柱穴等を確認できなかったため、単独の遺構として認定した。ただし、検出位置や周囲の遺構の状況から判断して住居にともなう炉の可能性が極めて高い。

【重複】 301号土坑と重複し、301号土坑→301号焼土の順に構築されたと判断した。

【平面形・規模】 平面形は円形を基調としているが不整である。規模は最大長を示す軸とそれに直行する最短長を示す軸を計測し、1.52×1.12mであった。厚みは最大8cmである。

【焼成状況】 弱めの焼成面が比較的広い範囲に広がっている。

【出土遺物】 出土していない。

302号焼土（第156図、写真図版146）

【位置・検出状況】 KⅢ f2 グリッドに位置する。Ⅱ層下部で検出した。当初、大形住居にかかわる炉という認識で周囲を精査したが、壁の立ち上がりや柱穴等を確認できなかったため、単独の遺構として認定した。ただし、検出位置や周囲の遺構の状況から判断して住居にともなう炉の可能性が極めて高い。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は円形を基調としているが不整である。規模は最大長を示す軸とそれに直行する最短長を示す軸を計測し、0.50×0.32mであった。厚みは最大6cmである。

【焼成状況】 強い焼成を受けた上、狭い範囲に集中する。

【出土遺物】 出土していない。

303号焼土（第156図、写真図版146・147）

【位置・検出状況】 KⅢ f2 グリッドに位置する。Ⅱ層下部で検出した。当初、大形住居にかかわる炉という認識で周囲を精査したが、壁の立ち上がりや柱穴等を確認できなかったため、単独の遺構として認定した。ただし、検出位置や周囲の遺構の状況から判断して住居にともなう炉の可能性が極めて高い。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は円形を基調としているが不整である。規模は最大長を示す軸とそれに直行する最短長を示す軸を計測し、0.29×0.22mであった。厚みは最大8cmである。

【焼成状況】 強い焼成を受けた上、狭い範囲に集中する。

【出土遺物】 出土していない。

304号焼土（第156図、写真図版147）

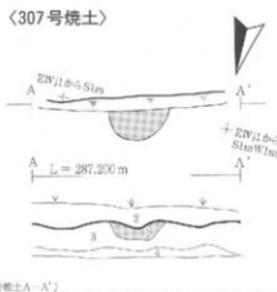
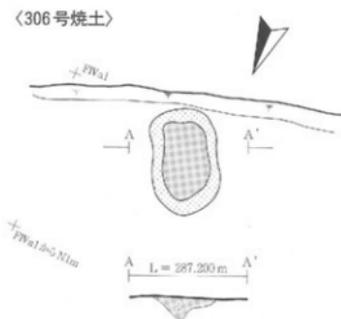
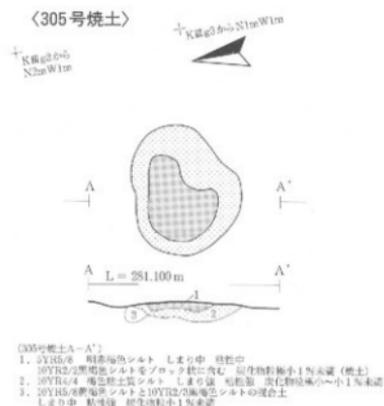
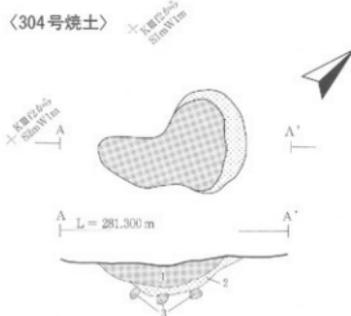
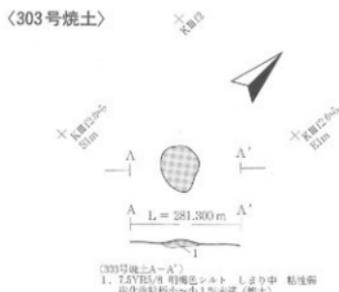
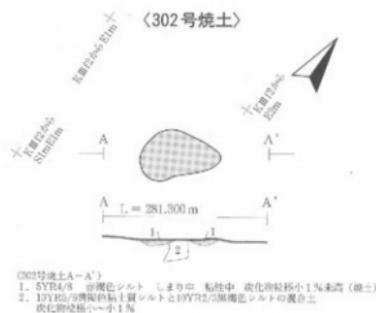
【位置・検出状況】 KⅢ e2 グリッドに位置する。Ⅱ層下部で検出した。当初、大形住居にかかわる炉という認識で周囲を精査したが、壁の立ち上がりや柱穴等を確認できなかったため、単独の遺構として認定した。ただし、検出位置や周囲の遺構の状況から判断して住居にともなう炉の可能性が極めて高い。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は不整な瓢箪形をなす。規模は最大長を示す軸とそれに直行する最短長を示す軸を計測し、0.89×0.64mであった。厚みは最大21cmである。

【焼成状況】 断面観察によると、比較的深いところまで焼成が及んでいる。

【出土遺物】 出土していない。



第156図 302～307号焼土

305号焼土（第156図、写真図版147）

【位置・検出状況】 K III f 1 グリッドほかに位置する。II層下部で検出した。当初、大形住居にかかわる炉という認識で周囲を精査したが、壁の立ち上がりや柱穴等を確認できなかったため、単独の遺構として認定した。ただし、検出位置や周囲の遺構の状況から判断して住居にともなう炉の可能性が極めて高い。

【重複】 301号住居と重複する。

【平面形・規模】 平面形は不整な円形をなす。規模は最大長を示す軸とそれに直行する最短長を示す軸を計測し、0.80×0.67mであった。厚みは最大13cmである。

【焼成状況】 平面的には強い焼成面の周囲に弱い焼成部分が連続しているように観察された。

【出土遺物】 出土していない。

306号焼土（第156図、写真図版147）

【位置・検出状況】 E III j 10 グリッドに位置する。II層下部で検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は不整な円形をなす。規模は最大長を示す軸とそれに直行する最短長を示す軸を計測し、0.67×0.43mであった。厚みは最大14cmである。

【焼成状況】 平面的には強い焼成面の周囲に弱い焼成部分が連続しているように観察された。

【出土遺物】 出土していない。

307号焼土（第156図、写真図版147）

【位置・検出状況】 E IV i 1 グリッドに位置する。攪乱層を除去したところ（II層中部）で検出した。

【重複】 なし。南側調査区外までかかっているため、遺構の一部を把握することができなかった。

【平面形・規模】 平面形は不整な円形をなす。規模は最大長を示す軸とそれに直行する最短長を示す軸を計測し、0.35×0.19mであった。厚みは最大12cmである。

【焼成状況】 黒褐色土中に形成された焼土である。

【出土遺物】 出土していない。

【時期】 不明であるが、検出状況等から判断して縄文時代前期よりはるかに新しいものと考えられる。

308号焼土（第157図、写真図版148）

【位置・検出状況】 E III h 10 グリッドに位置する。II層下部で検出した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は不整な楕円形をなす。規模は最大長を示す軸とそれに直行する最短長を示す軸を計測し、0.89×0.50mであった。厚みは最大12cmである。

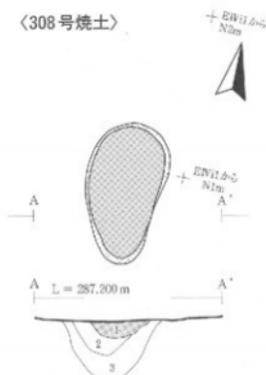
【焼成状況】 焼成部分の下部はやや窪んでおり、暗褐色土が堆積している。

【出土遺物】 出土していない。

309号焼土（第157図、写真図版148）

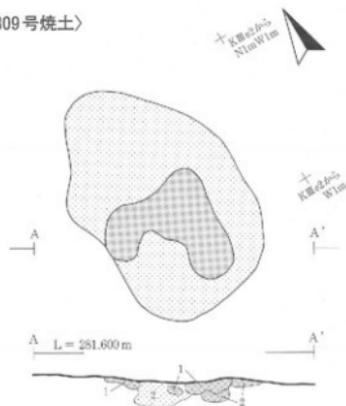
【位置・検出状況】 K III d 1～d 2 グリッドに位置する。II層下部で検出した。当初、大形住居にかかわる炉という認識で周囲を精査したが、壁の立ち上がりや柱穴等を確認できなかったため、単独の遺構として認定した。ただし、検出位置や周囲の遺構の状況から判断して、隣接する310号焼土とともに大形住居にともなう炉の可能性が極めて高い。

〈308号焼土〉



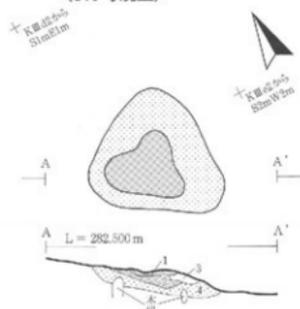
- 〈308号焼土A-A'〉
1. 7.YR5/4 暗褐色シト しまり強 粘性強 炭化物粒微小2% (焼土)
 2. 10.YR2/4 暗褐色シト しまり弱 粘性強 炭化物粒微小1% 焼土ブロック1% 炭化物
 3. 10.YR2/4 暗褐色シトと10.YR4/4暗褐色シトの混合土 しまり弱 粘性強

〈309号焼土〉



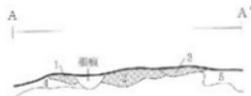
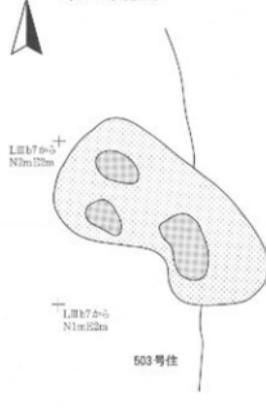
- 〈309号焼土A-A'〉
1. 5.YR4/6 赤褐色シト しまり強 粘性強 (焼土)
 2. 10.YR2/4 暗褐色シト しまり強 粘性強 焼土ブロック小1~3% 炭化物粒微小1%

〈310号焼土〉



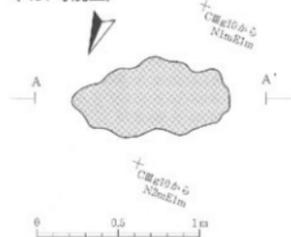
- 〈310号焼土A-A'〉
1. 5.YR4/6 赤褐色シト しまり強 粘性強 焼土ブロック小2% (焼土)
 2. 5.YR2/6 暗赤褐色シト しまり強 粘性強 (焼土)
 3. 7.5YR5/3 暗褐色シト しまり強 粘性強 上部硬縮を受けた
 4. 10.YR2/4 暗褐色シト

〈311号焼土〉



- 〈311号焼土A-A'〉 1号焼土
1. 7.5YR4/4 暗褐色シト 粘性中 焼土層 16層が剥離したもの
 2. 5.YR4/4 に近い赤褐色シト 粘性中 焼土層 煎山層が埋納したもの
 3. 7.5YR4/4 暗褐色シト 粘性中 焼土層 1層が剥離したもの 14層より厚い
 4. 7.5YR2/2 黒褐色シト 粘性强もしくは70号焼土穴埋土
 5. 7.5YR4/4 暗褐色 炭褐色エゾブロック少量 炭化物粒強 炭層表面

〈401号焼土〉



〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 平面形は不整な楕円形をなす。規模は最大長を示す軸とそれに直行する最短長を示す軸を計測し、 1.54×0.98 mであった。厚みは最大12cmである。

〔焼成状況〕 強い焼成部は中央付近に集中しており、その周囲に弱い焼成部が比較的広範囲に確認される。

〔出土遺物〕 出土していない。

310号焼土（第157図、写真図版148）

〔位置・検出状況〕 KⅢ d 2 グリッドに位置する。Ⅱ層下部、303号住の壁際で検出した。検出レベルが303号住の床面より高かったことから、当初、別の大形住居にかかわる炉という認識で周囲を精査したが、壁の立ち上がりや柱穴等を確認できなかったため、単独の遺構として認定した。ただし、検出位置や周囲の遺構の状況から判断して、隣接する309号焼土とともに大形住居にともなうがの可能性が極めて高い。

〔重複〕 303号住と重複し、303号住→310号焼土の順に構築されたと判断した。

〔平面形・規模〕 平面形は隅丸三角形をなす。規模は最大長を示す軸とそれに直行する最短長を示す軸を計測し、 0.84×0.38 mであった。厚みは最大14cmである。

〔焼成状況〕 中央部付近は焼土層が比較的厚く、かなり強い焼成を受けている。

〔出土遺物〕 出土していない。

311号焼土（第157図、写真図版72）

〔位置・検出状況〕 LⅢ b 6 グリッドに位置する。

〔重複〕 503号住と重複し、503号住→311号焼土の順に構築されたと判断した。

〔平面形・規模〕 平面形は不整楕円形をなす。規模は最大長を示す軸とそれに直行する最短長を示す軸を計測し、 1.39×0.74 mであった。断面の記録を欠き厚さは不明である。

〔焼成状況〕 不明である。

〔出土遺物〕 出土していない。

401号焼土（第157図、写真図版292）

〔位置・検出状況〕 CⅢ g 9 グリッドに位置する。Ⅲ層中で検出した。住居跡のか跡の可能性を考え、柱穴・周溝などを探したが確認されなかった。周囲には近現代の炭窯が多く、これの底面被熱痕跡とも考えられる。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 平面形は不整楕円形をなす。規模は最大長を示す軸とそれに直行する最短長を示す軸を計測し、 0.83×0.75 mであった。厚みは最大16cmである。

〔焼成状況〕 Ⅲ・Ⅳ層及び風倒木覆土に形成されている。

〔出土遺物〕 出土していない。

6 石器集中部

石器集中部（第158図、写真図版148）

【位置・検出状況】 LⅡe4 グリッドに位置する。攪乱層を除去したところで検出した。

【重複】 なし。

【規模】 平面的には0.6m×0.4m程度の範囲に石器が集中する。石器を包含する層の厚みは最大で約10cm程度である。

【出土状況】 前述した範囲から折り重なるようにほぼ満遍なく石器が出土した。特に規則的な配置や人為的に埋納されたような痕跡は確認することがなかった。

【出土遺物】 No477～504の剥片石器が出土している。（第44・45・224・225図、写真図版246・247）

7 溝 跡

【位置・検出状況】 LⅡa9 グリッドほかに位置する。Ⅱ層下部で検出した。住居にともなう周溝の可能性も疑ったが、周囲に柱穴、炉等を確認することができなかったため、単独の遺構として認定した。

【重複】 なし。遺構の北西側部分は調査区外の道路下まで延びており、遺構の全体を把握することができなかった。

【平面形・規模】 やや弧状をなす。長さ×幅は3.76m×0.69mで、深さは最大25cmである。

【出土遺物】 No258～260の礫石器が出土している。（第44・280図、写真図版279）

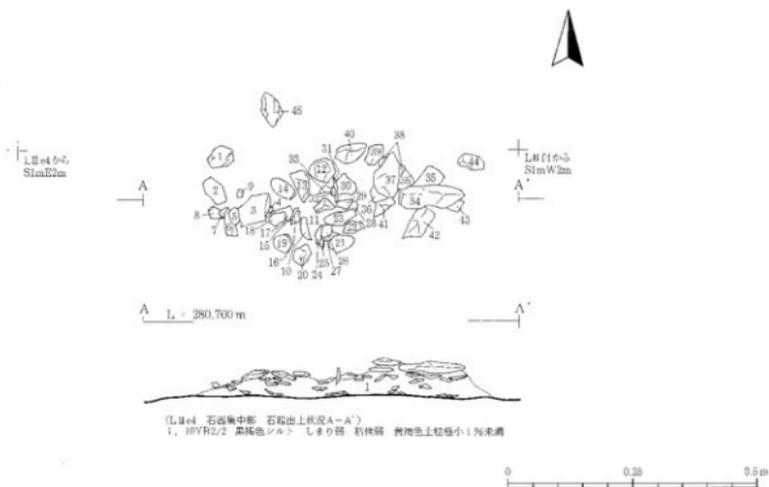
8 捨て場（第160図、写真図版149・150）

【位置・検出状況】 KⅢh10、i10、j10、KⅣd4～5、e3～e4、f3～f4、g2～g3、h1～h3、i1～i3、j1～j2、LⅣa1～a2グリッド付近に位置する。現地形では広場からため池に向かう傾斜変換点から南側部分において確認した。土器、石器等の遺物がこの区域に集中的に出土し、覆土等の状況からこれらが人為的に廃棄されたものと判断したためこれを遺物包含層という狭義の「捨て場」として認定した。

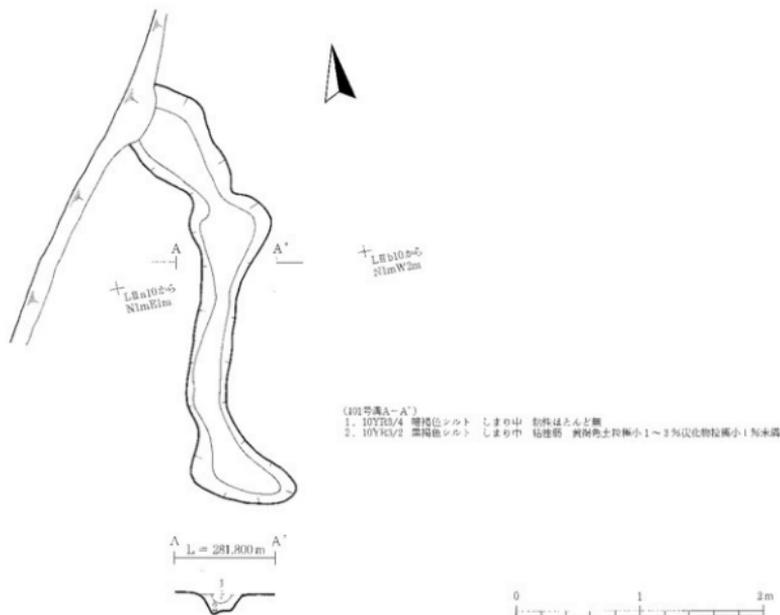
【重複】 認定した具体的範囲の中に、重複する遺構は複数確認されており、住居跡などの遺構の覆土から出土したものについてはそちらの出土地点名を優先している。したがって、基本的に捨て場からの出土といった場合、ここでは遺構外出土の遺物を指す。重複する遺構としては506号住、507号住が確認されている。

【平面形・規模】 捨て場遺構全体としては長径15m短径10mで、東西方向を長軸とする楕円形をなす。

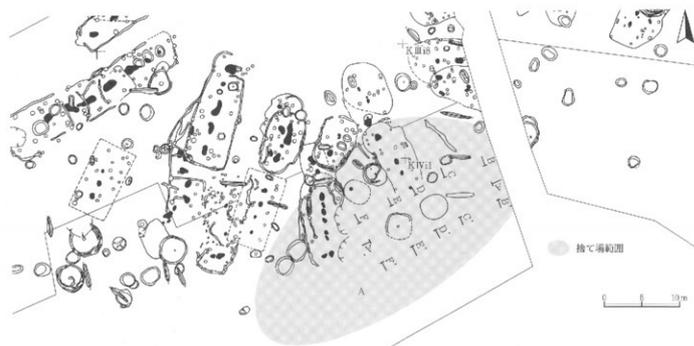
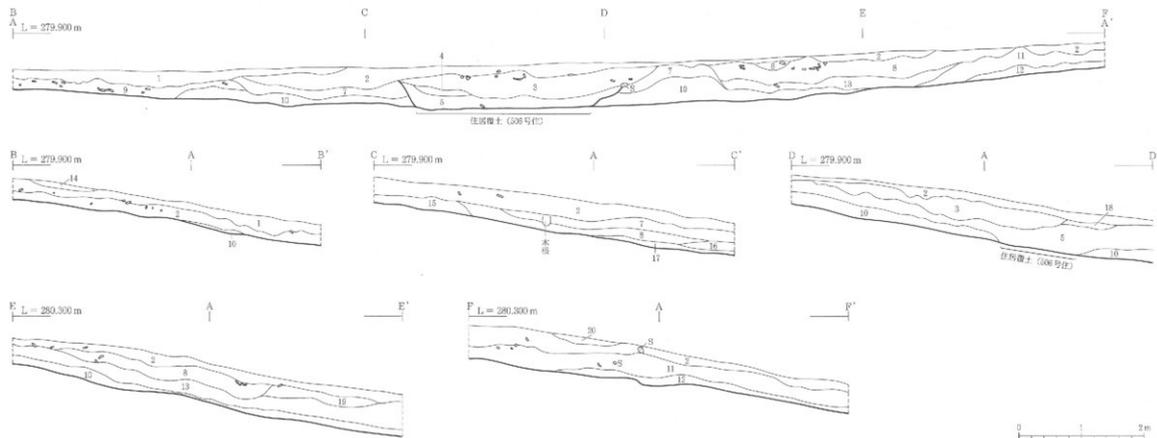
【出土遺物】 遺構外として取り上げたもののうちNo981～984、987～997、1001～1018、1020～1033・1035～1149・1212～1228の土器、No185・186・188～190・192・193の土製品、No578～588・590～613・615・629・631・632の剥片石器、No287～291、294～321・330・331の礫石器が出土している。このほか、遺構に重複する部分で確認された遺物についてはそれぞれの遺構出土分に掲載してある（第146～168・173～175・185・230～233・235・286～291・293図、写真図版207～221・223～225・229・249～251・282～286）。



第158図 L11e4集積集中部石器出土状況



第159図 101号溝



- (地層A-A'・B-B'・C-C'・D-D'・E-E'・F-F')
1. 7.EYR2/1 黒色シルト しまり部~中 粘質砂 腐植土粒小~小10%
 2. 7.EYR2/1 黒色シルト しまり部 粘質砂 腐植土粒小~小5%
 3. 7.EYR2/1 黒褐色シルト しまり部 粘質砂 腐植土粒小~中10% 腐植土粒小~小5%
 4. 7.EYR2/1 粘質腐食シルト しまり部 粘質砂 腐植土粒小~小10% 腐植土粒小~小5%
 5. 7.EYR2/1 黒色シルト しまり部 粘質砂 腐植土粒小~中10% 炭化粒粒小~中5%
 6. 7.EYR2/1 黒褐色シルト しまり部 粘質砂 腐植土粒小10%
 7. 7.EYR2/1 黒色シルト しまり部~中 粘質砂 腐植土粒小~中20% 炭化粒粒小~小10%
 8. 7.EYR2/1 黒褐色シルト しまり部~中 粘質砂 腐植土粒小~中10% 炭化粒粒小~中20%
 9. 7.EYR2/1 黒褐色シルト しまり部 粘質砂 腐植土粒小~中10%
 10. 7.EYR2/1 黒褐色シルト しまり部 粘質砂 腐植土粒小~中10%
 11. 7.EYR2/1 黒色シルト しまり部 粘質砂 腐植土粒小~小20% 炭化物粒小5%
 12. 7.EYR2/1 黒褐色シルト しまり部 粘質砂 腐植土粒小~中10%
 13. 7.EYR2/1 黒褐色シルト しまり部 粘質砂 腐植土粒小~中10%
 14. 7.EYR2/1 黒褐色シルト しまり部 粘質砂 腐植土粒小~中10%
 15. 7.EYR2/1 黒褐色シルト しまり部 粘質砂 腐植土粒小~中10%
 16. 7.EYR2/1 黒褐色シルト しまり部 粘質砂 腐植土粒小~中10%
 17. 7.EYR2/1 黒褐色シルト しまり部 粘質砂
 18. 7.EYR2/1 黒褐色シルト しまり部~中 粘質砂 腐植土粒小~中10% 炭化粒粒小~小5%
 19. 7.EYR2/1 黒褐色シルト しまり部~中 粘質砂 腐植土粒小~小5%
 20. 7.EYR2/1 黒褐色シルト しまり部 粘質砂 腐植土粒小5%

第160図 捨て場

9 道路跡 (第161・162図、写真図版151)

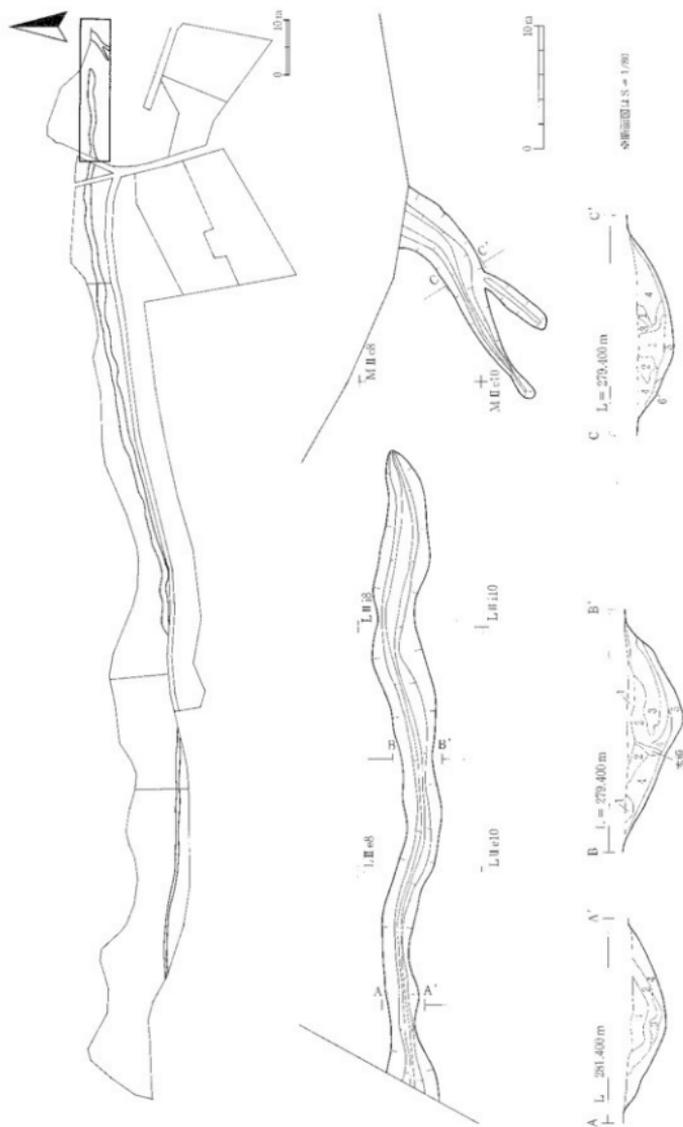
【位置・検出状況】 調査区全体を横断している。東端のMグリッドから西端のAグリッドまで650mあり、さらに調査区外の西方に続いている。調査初年度の検出時は大型の溝跡もしくは自然の沢跡として認識していたものである。しかしながら、これが次年度以降の調査区にも連続して確認されることとなり、他の遺構との重複状況から、きわめて新しいものであるという推測に至った。その後当該遺跡地周辺の古い地形図を入手し確認したところ、いわゆる登山道のような形式で利用されていた道路跡であることが判明した (第162図)。

【重複】 各種遺構と重複しているが、基本的にはそれらのどれよりも新しい。Lグリッド付近における断面観察による覆土の状況は、床面から20cm程度の最下層だけは自然堆積であるが、覆土の大半をなすそれ以上の部分については、激しく攪乱されている。

【平面形・規模】 上端の幅は調査区東端のMグリッド付近が最大で4.3mである。西に向かうほど幅は狭まりEグリッド付近では部分的に消失する。

【出土遺物】 縄文土器、石器等も出土しているが、前述したように全て攪乱層からの出土であり、遺構の構築された時期を考える上で意味をなさない。加えてビール瓶のガラス片や空き缶など近代、現代のものも混入している。

【時期】 遺構の重複状況、覆土の状態、出土遺物、遺跡地の過去の土地利用、周辺地形図等の情報から総合的に推測すると、道として成立した時期は不明であるが (おそらく弥生以降であろう)、きわめて最近まで (おそらく昭和30年代ごろまで) は炭焼きや木材等の搬出目的で登山道的な役割を担ったものと考えられる。その後新たな林道が建設され、遺跡地周辺の開墾が始まったことから、必然的に埋め立てられたのであろう。覆土の大部分がきわめて新しいのはこうした理由からと判断される。



(断面 A・A'・B・B'・C-C')

1. 25M 2. 30M 3. 40M 4. 50M 5. 60M 6. 70M 7. 80M 8. 90M 9. 100M 10. 110M 11. 120M 12. 130M 13. 140M 14. 150M 15. 160M 16. 170M 17. 180M 18. 190M 19. 200M 20. 210M 21. 220M 22. 230M 23. 240M 24. 250M 25. 260M 26. 270M 27. 280M 28. 290M 29. 300M 30. 310M 31. 320M 32. 330M 33. 340M 34. 350M 35. 360M 36. 370M 37. 380M 38. 390M 39. 400M 40. 410M 41. 420M 42. 430M 43. 440M 44. 450M 45. 460M 46. 470M 47. 480M 48. 490M 49. 500M 50. 510M 51. 520M 52. 530M 53. 540M 54. 550M 55. 560M 56. 570M 57. 580M 58. 590M 59. 600M 60. 610M 61. 620M 62. 630M 63. 640M 64. 650M 65. 660M 66. 670M 67. 680M 68. 690M 69. 700M 70. 710M 71. 720M 72. 730M 73. 740M 74. 750M 75. 760M 76. 770M 77. 780M 78. 790M 79. 800M 80. 810M 81. 820M 82. 830M 83. 840M 84. 850M 85. 860M 86. 870M 87. 880M 88. 890M 89. 900M 90. 910M 91. 920M 92. 930M 93. 940M 94. 950M 95. 960M 96. 970M 97. 980M 98. 990M 99. 1000M

第161図 道路跡(1)



大正4年



昭和11年



昭和27年



昭和44年

V 遺 物

今回の調査で出土した遺物は、縄文土器・土製品（大コンテナ換算約150箱）、石器・石製品（大コンテナ換算約200箱）などである。遺物の記載は図と表で行い、本文中にその補足と概要を記している。掲載順序は基本的に遺構内から遺構外の順とし、住居跡→土坑→陥し穴→その他の遺構→遺構外出土遺物という順番で掲載してある。各遺物の掲載基準についてはそれぞれの項目を参照されたい。

1 縄文土器（第46～176図、写真図版152～225）

出土した土器は大コンテナ換算で約150箱である。時期的には前期大木4式と思われるものから大木6式までの範囲で出土しているが、大部分は大木5式に相当するものである。これらのうち、接合・復元された個体を中心として、破片については口縁部、底部といった特徴的部位を、また体部については沈線文や貼付け文のほか比較的稀有であると思われる地文を持つものを優先して掲載することとした。登録点数は1239点である。各個体の文様や調整等の特徴については観察表に掲載してある。なお、これらの中には同一個体の土器や登録後に接合した土器も含まれており、それらに関しても観察表において指摘した。

（1）遺構内出土の土器

出土した土器について、分類ならびに遺構の時期等を特定できないかという動機から、遺構別に分類し特徴の記述を試みた。出土土器の大部分は大木5式であることを前提としていることから、これについて型式名は記述せず、それ以外の型式の可能性を有するものについてのみ型式名（大木6式など）を記述している。なお、本文中ならびに図表中における器形についての呼称は便宜上イメージし易いように設定し使用することとした（例：台付深鉢→球胴型、深鉢で外反するもの→ラッパ型・朝顔型）。

①住居跡出土

101号住Na7・9は球胴型をなし、Na2・5も胴部が膨らむ型と推定される。大木6式の可能性あり。102号住Na30は他の遺構では確認されない文様である。他の遺構から離れて立地していることも関連か。大木7aの可能性あり。201号住Na52・62・63・64・65は口唇部鋸歯状裝飾、Na51・55は電光状の沈線ならびに貼付け、Na53～61は環状裝飾が特徴的である。202号住Na92・110・112は外反・肥厚した口唇部に刺突や沈線が施されており、大木6式の可能性もある。203号住Na121・130は球胴型をなす。Na124は朝顔（ラッパ）型の器形をなし比較的胴部（底に近い部分）まで文様（貼付け）が見られる。一方、Na131・132・137の文様は頸部付近に見られ、下方まで展開しない。205号住Na174は環状裝飾、Na182・173は鋸歯状裝飾がそれぞれ確認される。206号住Na199は膨らんだ胴部と外反した口唇部から大木6式の可能性あり。Na192・198・204・209は電光状の沈線や貼付け、環状裝飾などが見られる。207号住Na215・231は環状裝飾、Na222・233・238ほかは電光状の貼付けが特徴的である。Na212は頸部に馬蹄形の貼付けが見られる。208号住Na248・252・261は胴部がやや膨らみ頸部から外反する器形や、頸部を一周する隆帯にぶら下がるように施される貼付け文様など、共通する部分が多い。301号住Na265・263はいずれも朝顔型（ラッパ型）の器形をなす。302号住Na288は環状裝飾、Na275・279はそれぞれ電光状の沈線と貼付けが確認される。303号住Na292は球胴型か？。304号住Na300～303は朝顔型（ラッパ型）、Na298は胴部が膨らむものの、口唇部の肥厚は確認されない。Na311・315は環状裝飾が施される。305号住Na321は電光状の貼付けが比較的下部まで展開する。Na322も同様に電光状沈線が縦に施され、下部まで展開する。306号住Na333・334は口唇部に鋸歯状裝飾、

Na345・349・350、359は環状装飾、Na358は頸部から比較的下方まで文様が展開する。Na356は口唇部の外反の具合と沈線の入り具合から大木6式とも考えられる。307号住Na360は朝顔型（ラッパ型）、Na361は電光状沈線が縦に、またNa364は電光状の貼付けが横方向に展開する。308号住Na367は口唇部に鋸歯状装飾と上半部に電光状ならびに渦巻状の沈線。その他基本的に電光状の沈線と貼付け。Na370は胴部が膨らみ頸部から外反するが口唇部は肥厚しない。401号住Na375は胴部がやや膨らみ、上部がやや外反する頸部に巡る紐状の貼付けからぶら下がるように特徴的な文様が展開する。402号住Na395は深鉢の胴部中央部付近と推定されるが、この部分まで上方から電光状沈線による文様が展開している。403号住Na409・411はいずれも口唇部に鋸歯状装飾が見られる。404号住Na425は頸部に巡る刺突の施された隆帯の直下を、竹管状工具により波状の文様が巡る。Na424・427は口唇部に鋸歯状装飾がみられる。408号住Na445（a、b）・436・442（a、b）は深鉢の頸部に刺突もしくは沈線を施した隆帯が巡り、それにぶら下がるように貼付け文様が展開し、器形もほぼ共通している。同様にNa441と444ならびにNa437と439のそれぞれも器形に共通性を窺うことができる。Na446は朝顔型（ラッパ型）をなすが、胴部を形成するラインが微妙に外側に膨らんでいる。Na448・459・464はいずれも環状装飾であることが確認される。409号住Na475は朝顔型（ラッパ型）で口唇部に鋸歯状装飾が見られる。411号住Na477は環状装飾、Na480は電光状沈線が縦に施される。412号住Na482は朝顔型（ラッパ型）の器形に大型の鋸歯状装飾が施される。Na481・483・484はいずれも朝顔型（ラッパ型）と球胴型の中間的な器形をなす。全体的に紐状の貼付け文様は、頸部付近で完結するものは少なく、胴部中央付近まで展開するものが多い。414号住Na515は朝顔型（ラッパ型）と球胴型の中間的な器形をなす。Na532は朝顔型（ラッパ型）の器形をなし、紐状の貼付けが比較的下方にも展開する。Na511・544・548については、貼付けや沈線に幾何学的な特徴を窺うことができる。421号住Na567は上部に紐状の貼付けが展開する。Na580・605は球胴型の一部をなす可能性があるが、Na605はやや特異であるといえる。427号住Na621（a、b）は朝顔型（ラッパ型）をなすが胴部下方で外側にやや膨らんだ器形をなす。Na628・630・641・645・653は口唇部に施される環状装飾である。429号住Na664は竹管状工具による鋸歯状の沈線が頸部に巡る。432号住Na665は環状装飾と鋸歯状装飾がそれぞれ2単位ずつで構成されるものと推測される。501号住Na667は大型の鋸歯状装飾が見られ、Na668とともに胴部がやや膨らんだ器形をなす。505号住Na672は朝顔型（ラッパ型）をなし、Na676（a、b）は胴部がやや膨らみ、頸部から口唇部にかけて急激に外反する器形をなす。

②土坑出土

101号土坑Na680は朝顔型（ラッパ型）の胴部中央付近がやや膨らみ球胴型との中間に近い器形をなす。102号土坑Na687は朝顔形（ラッパ型）をなし、上部を巡る刻みの入った隆帯の間に鋸歯状装飾を施している。103号土坑Na696は口唇部4単位の装飾のうち2単位が環状装飾である。201号土坑Na722は口唇部装飾が1単位のみ確認される。Na736は口唇部に渦巻状の隆帯を伴った装飾であるが、環状装飾の一環と推測される。213・219・220号土坑Na755は朝顔型（ラッパ型）で口唇部鋸歯状の刻みが巡る。上部に巡る二本の隆帯の間に鋸歯状の貼付けが見られる。Na757は4単位の装飾のうち2単位が環状装飾であり、胴部上半には鋸歯状と渦巻状を組み合わせた文様が展開する。Na763も二本に巡る隆帯の間にクランク状及び他の文様が施される。305号土坑Na777は口唇部に近い上部に鋸歯状ほかの貼付けが巡る。318号土坑Na782は頸部に巡る隆帯にぶら下がるような貼付けが施される。429号土坑Na794はボタン状の貼付けが1単位のみ施される点が特徴的である。481・482号土坑Na841は口唇部に近い上部にのみ隆帯と貼付けが施されている。Na833は環状装飾と波状口縁の組み合わせで胴部がやや膨らむ。器形と口縁の傾向としてはNa842・852についても同様と考えられる。605号土坑Na869・870ともに大洞A式である。

③陥し穴状遺構出土

204号陥し穴Na877・878は波状口縁の突起部で、表面に紐状の貼付けが施される。Na874・876・881は口唇部の窟歯状装飾である。425号陥し穴Na887は環状装飾の一部か。Na886は渦巻状の沈線の一部か。

④その他の遺構出土

402号埋設土器Na891は朝顔型（ラッパ型）の器形をなすが、文様や装飾は見られない。403号埋設土器Na894は胴部上半がやや膨らむ器形をなし、文様や装飾は見られない。404号埋設土器Na892は胴部全体にやや膨らみが見られるものの、ほぼ垂直に立ち上がり上端部で外反する。406号埋設土器Na896は胴部上半がやや膨らむ器形をなし、上部には電光状沈線が横方向に施され、頸部をめぐる刺突の施された隆帯にぶら下がるように渦巻状の装飾が施される。

(2) 遺構外出土の土器

いわゆる集落部分とその周辺地域と、調査区西方地域とでは出土土器の傾向に違いが見られる。すなわちこれまで述べてきたように、集落部分とその周辺地域（JⅡグリッド～LⅣグリッド付近）において出土した土器のほとんどは大木5式を中心とする縄文時代前期末のものであるが、西方地域（Aグリッド～Fグリッド付近）においては縄文時代早期～晩期まで広範な時期の土器が出土している。しかしながら、いずれも破片がほとんどであり、周辺の遺構との関連性も希薄なものが多いため、積極的な議論の資料とは成り難い。以下、集落部分とその周辺地域における特徴的なものについて列挙する。

Na975・984はいずれも口縁部ならびに口縁部突起部にこぶ状の貼付け装飾が施される。Na990・1023は球胴型の上半部と推測される。Na987・1099は装飾を施さない波状口縁を持つ。Na1057・1058・1059は口縁部が一部壇状に尖っているが、Na1062・1216はこれが発展して4単位の突起となっている。隣接グリッドどうしから出土しているNa1206・1209・1211は口唇部が肥厚し竹筥状工具による沈線文様が施されており、大木6式の口縁部を連想させる。同様にNa1207も胴部への沈線の展開の仕方から大木6式に近いといえる。Na1230・1231・1232・1235・1237についても隣接するグリッドどうしから出土しており、こぶ状の装飾、口縁部の肥厚、胴部沈線の状態などから大木6式に近いといえる。

2 土製品（第177～185図、写真図版226～229）

出土した土製品は土偶が8点、土玉が148点、耳栓が5点、イチジク形土製品が1点、口径、底径ないし器高が概ね5cm未満のミニチュア土器が13点、不明土製品18点である。全点掲載した。以下、種類毎に記載する。

(1) 土 偶（159・160・174・176・177・188・191・192）

8点出土している。5点が遺構内出土（住居2点、土坑3点）で3点が遺構外出土である。いずれも破片で、しかも部分的な残存状況であるため土偶かどうかの認定も難しいと思われるものも含んでいる。基本的には板状の土偶がこの時期に多く見られるという前提に立っており、その一部と推測されるものは土偶とした。159・160・192はかなり断片的で部位の推測は不可能である。174・176は体部の可能性が高く、177・191は脚部の可能性が高い。昭和58～59年度における胆沢町教育委員会による発掘調査では表裏に沈線や刺突が施される土偶と推測される製品（140）が1点出土している。188は3側面が生きていることから、頭部をあらわしたものか、あるいは土偶ではなく単なる板状の土製品をなす可能性も考えられる。嘉倉貝塚発掘調査報告書によると、同遺跡でこれに類似した製品（438-12）が出土しており、その他の土製品に分類

されている。

(2) 土 玉 (1・5・6・16~154・157・158・164・167・173・193)

148点出土している。193を除く147点が遺構内出土である。特に16~154は207号住屋土ならびに床面直上のほぼ一箇所から耳栓ほかの上製品とともに集中して出土したものである。167の1点以外は全て貫通孔を有する。1は球形をなすが、その他はいずれも貫通孔側の面が平らな形をなす扁平な玉である。

(3) 耳 栓 (4・7・9・10・162)

5点出土している。概ね鼓形をなすものを耳栓とした。5点とも住居覆土もしくは床面直上からの出土である。7・9・10はいずれも207号住居床面直上から土玉と一緒に出土している。4と10は貫通孔を有する。

(4) イチジク形土製品 (184)

184の1点が出土している。表土を除去し遺構の検出中に出土を確認した。完形ではなく、先端部が欠損している。平面形は丸底の砲弾型で、基部から先端部に向かって細くなる。先端側3分の1ほどは全面に刺突が施される。出土状況や形態からこの製品の機能や用途を推測することは困難である。

最初にこの上製品の存在を明らかにしたのはおそらく興野義一氏で、宮城県北部の遺跡から出土した計9点の製品について、「円錐筒型土製品」と呼称し、使途不明な遺物として報告している。また、この中で東北歴史資料館の藤沼邦彦氏（現在は弘前大学）がこの製品を「いちじく型土製品」と呼称していることについても言及している（興野：1990）。一方、近年になって宮城県北部の嘉倉貝塚から同様の土製品が新たに6点出土したことが明らかとなり（宮城県教育委員会：2003）、本遺跡から出土した1点についてもあわせて現時点で17点を確認していると述べている。この製品は岩手県南部から宮城県北部のいわゆる北上川中流域という限定された地域で確認されているもので、時期も大木4~7式の範囲に収まるものであることから、縄文時代前期後葉の極めて限定された時期・地域での稀少な遺物であると見ることができる。因みに、嘉倉貝塚出土の製品について実見させていただく機会を得て、本遺跡出土の製品と比較してみたが、形態・大きさなどはおおむね似かよっていた。製品を構成する胎土についても肉眼で比較してみたが、こちらについて共通性は見られず両者ともに在地の原料を使用している可能性が高いとの結論に至った。

なお、この報告書では「イチジク形土製品」という呼称が用いられていたことから、本遺跡においてもこれに習って「イチジク形土製品」と呼称することにした。

イチジク形土製品の確認点数について、嘉倉貝塚報告書の刊行後、胆沢町教育委員会の佐々木いく子氏より、胆沢町宮沢原B遺跡報告書（1963）においてイチジク形土製品と思われるものが掲載されているのご助言を受けた（宮沢原B遺跡出土土器No15）。早速報告書を便宜していただき確認したところ、形態、刺突の入り方など前述した製品とほぼ同様であった。遺跡から出土している土器は破片数点であるが大木4~5式に相当すると思われる。また、江刺市の新田遺跡において、この製品の下半をなすと推測される部分が出土している（土製品No24）。したがってこの製品の現段階での確認数は嘉倉貝塚で報告された17点にこれらを加えた19点となる。

(5) ミニチュア土器 (2・8・11・12・14・15・155・172・178・185・186・189・190)

13点出土している。いずれも特徴的な文様などは見られない。一部地文の確認できるもの（8・186）が見られる。

(6) 不明土製品 (3・13・156・161・163・165・166・168~171・175・179~183・187)

18点出土している。3・166・168・169・171・175・181はいずれも棒状の製品の一部と考えられるが、全体を推測できるものはない。13と165はいずれも棒状の製品の長軸方向に貫通孔が見られる。207号住出土の13はやや扁平で、土玉や耳栓が集中して確認された区域からの出土である。156・161・163はいずれもスプーン状を推測させる形状をしており、156は把手の部分が欠けた状態と考えられる。170は端部に貫通孔を持ち、片面にあられ状の装飾が施され、垂飾品の可能性が考えられる。180も同様に垂飾品の可能性が考えられる。179は幅広で口を開いた端部と狭い端部を持つ。狭い端部側にも貫通孔が確認される。これと類似した製品が嘉倉口塚で3点(438-16・17・18)報告されている。182・187は焼成粘土塊の可能性も考えられるがよくわからない。183は大きさや全体的な形状からしてイチジク形土製品に共通するようにも見られるが、著しく不整な形をしており、装飾を施した痕跡もない。

3 剥片石器

野外調査中に出土した石器については、原則として調査員が全て日を通してから選択し収納した。それ以外は破棄している。この作業は遺物を水洗した後、使用痕等を確認するという手順で行った。ただし、場合によっては石器であっても、自然石と誤認して廃棄している個体も含まれている可能性が無いわけではない。その後、室内整理段階でそれぞれ設定した器種毎に仕分・分類を行い、フレイク(特殊な遺構から出土した一部を除く)・チップを除いた全ての登録を行い、その中から個体の残存率や出土地点等を総合的に判断して掲載遺物を選択した。掲載遺物の割合は登録した遺物の各器種の全体量と相関するように意識したつもりである。分類した器種名については、同時期における他遺跡の報告書を参考とし、理解した上でできるだけ名称が疎通するように心がけたつもりであるが、特殊な石製品などについては、その形態から便宜的に命名して使用しているものもある。

出土した剥片石器2649点、石製品158点、合計2807点のうち、剥片石器528点(石鏃206点、石錐15点、石匙65点、削・搔器71点、尖頭器53点、尖頭器様石器8点、石鏟63点、打製石斧14点、Rフレ32点、不明1点)、石核13点、石製品96点(磨製石斧39点、有孔石製品6点、石棒状石製品3点、球状耳飾り11点、燕尾形石製品2点、石剣15点、短冊形石製品1点、不明石製品19点)の合計637点を掲載した。素材、形態、使用痕等により分類した以下の器種毎に記述する。

(1) 石 鏃 (1~5・19・21~24・46~49・55~62・78・95~98・108~113・122・127~131・149・150・152・160~162・166~170・177~181・184~194・202~216・231~233・242・246~253・268~270・272~285・299~301・316・317・320~331・349・357・360~375・393~395・399~402・414~417・421・423・425・430・432・433・436・438・439・448~452・457~460・469・471・472・474・510・516・519・532・537・540・545・565・574・579・580~586・590・596・607~609・613・628・629・631・632・3003)

合計507点の出土で206点を掲載した。基部形状で見た場合、凹基鏃が圧倒的に多く割合からすると次いで平基鏃、凹基鏃の順となる。掲載遺物中、凹基鏃は179点、平基鏃が27点であった。使用石材については、余出土中頁岩が454点、凝灰岩が35点、赤色頁岩が10点、珪質頁岩と流紋岩が各3点、砂岩とホルンフェルスが各1点となっており、数点を除きそのほとんどは奥羽山脈を産地とする。

(2) 石 錐 (6・25・38・65・66・132・217・218・286・287・302・332・333・515・603)

合計34点の出土で15点を掲載した。全出土中の石材構成は真岩(奥羽山脈)28点、真岩(北上山地)1点、凝灰岩(奥羽山脈)3点、凝灰岩(北上山地)1点、流紋岩(奥羽山脈)3点、流紋岩(北上山地)1点、赤色頁岩(奥羽山脈)1点、赤色頁岩(北上山地)1点となっており、頁岩の占める割合は82%を超える。

(3) 尖頭器 (7・27・39・42・54・68・79・92・99・100・101・103・114~116・133~135・151・195・219・254・256・303・376・396・403・404・427・428・442・477~492・527・575・589・616・618・619)

合計100点の出土で53点を掲載している。石材は真岩(奥羽山脈)が93点と圧倒的に多く、凝灰岩(奥羽山脈)3点、赤色頁岩1点、流紋岩1点、デイサイト1点、その他(不明)1点となっている。

(4) 尖頭器様石器 (102・405・406・495~498)

岡村(1984)の述べるように平面形がいわゆる槍先形や木葉形の尖頭器に似たものを尖頭器様石器として分類した。合計11点の出土で8点を掲載した。石材は全て頁岩(奥羽山脈)である。

(5) 石 匙 (28・29・40・41・50~52・69~71・81~84・105・106・118・138・139・154・156・164・172・221~223・237・258・289~291・331~337・339・351・420・434・440・407・419・453・454・461・462・467・319・518・522・525・536・557・558・562・570・571・592・594・597・598・605・611・623・627)

握み部を持つもの、あるいは握みと推測される部分が認められるものを石匙とした。153点出土し、65点を掲載した。全出土中の石材構成は、真岩(奥羽山脈)が134点、頁岩(北上山地)1点、凝灰岩(奥羽山脈)1点、赤色頁岩(奥羽山脈)6点、赤色頁岩(北上山地)7点の合計13点、凝灰岩(奥羽山脈)2点、珪質頁岩(奥羽山脈)、デイサイト(奥羽山脈)、流紋岩(奥羽山脈)が各1点である。

(6) 石 篋 (8~10・20・26・63・64・67・80・104・117・136・153・155・163・171・196・220・236・257・288・304・305・306・377・378・379・380・398・408・424・429・431・443・447・473・475・506・508・509・511・520・521・528・533・538・549~553・560・561・573・591・593・599・621・3001・3002・3003~3006)

ばち形・短冊形をなし、幅の広いほうの先端に刃部が形成されるものを石篋とした。急角度の刃部を形成するものが多い。両面加工、片面加工の両者ともに確認される。合計147点の出土で63点を掲載した。全出土中の石材は真岩(奥羽山脈)が126点、頁岩(北上山地)3点、凝灰岩(奥羽山脈)1点、赤色頁岩(奥羽山脈)5点、ホルンフェルス(北上山地)7点、赤色頁岩(奥羽山脈)、赤色頁岩(北上山地)、砂岩(奥羽山脈)、珪質頁岩(奥羽山脈)、デイサイト(奥羽山脈)、流紋岩(奥羽山脈)が各1点である。

(7) 削器・搔器 (11~14・30~33・53・72・77・85~87・91・119・123・124・137・140~142・157・165・173・175・183・224・234・235・238・255・271・292~294・307・338・350・358・382・409・412・463・468・476・493・505・507・512・517・523・526・529・531・534・539・541~544・546・548・554・556・576・587・601・604・622・624)

平坦で幅の狭い剥離が縁辺に連続し、急角度のスクレイパーエッジが形成されているもの、ならびに二次加工により刃部を形成している剥片を一括して削器・搔器とした。登録段階では確認できなかったがいわゆるピエスキューが含まれるとすればこの器種である。合計228点の出土で、うち71点を掲載した。使用石材は頁岩が228点中196点と圧倒的に多く8割以上を占める。次いで凝灰岩11点、流紋岩5点、ホルンフェルスと砂岩が各4点、赤色頁岩3点、デイサイトと珪質頁岩が各2点、チャート1点となっている。

(8) 打製石斧 (15・36・73・74・146・199・312・343・410・418・426・437・446・567)

石筥としたものよりも基本的に大型で、刃部と思しき剥離のあるものを打製石斧と分類した。どちらかというと半加工品のようなものが多く、磨製石斧作成過程における中途段階ととらえることも可能であるため、積極的にこの器種として分類したというよりは、他の器種に適合しないものをこの器種として分類したものである。52点の出土で14点を掲載した。全体的傾向として、北上山地産の石材でホルンフェルスを使用したものが多い(全52点中17点)。

(9) 石核 (17・34・147・159・244・266・267・348・397・466・568・615・625)

67点中13点を掲載した。全出土中の石材構成は頁岩(奥羽山脈)47点、デイサイト(奥羽山脈)7点、凝灰岩(奥羽山脈)5点、赤色頁岩(奥羽山脈)、珪質頁岩(奥羽山脈)、流紋岩(奥羽山脈)が各2点、赤色頁岩(北上山地)、チャート(北上山地)が各1点となっている。

(10) 加工痕を持つ剥片(Rフレ) (120・121・174・182・197・198・243・245・259・308・309・340・359・381・455・470・499・500~504・513・514・524・530・535・547・569・572・578・595)

部分的あるいは全体的に二次加工が施されているものの、不定形などの理由から器種として分類できないものを一括してR(リタッチド)フレイクとした。687点の出土で32点を掲載している。全出土中の石材構成は頁岩638点、凝灰岩23点、赤色頁岩11点、砂岩5点、流紋岩4点、ホルンフェルス3点、珪質頁岩2点、デイサイト1点となっている。

(11) 剥片

使用痕等の観察できない剥片及び加工痕を持たない微細剥離をとまなう剥片は大コンテナで合計4箱、重量にすると約50kgである。特に図示はしていない。石材は頁岩が圧倒的に多く、泥岩、赤色凝灰岩、瑪瑙、黒曜石がごく少量存在する。

4 石製品

石製品は合計158点出土している。以下、種類別に記述する。

(1) 磨製石斧 (43~45・75・76・88・89・125・143・144・176・200・225・226・239・241・260・297・310・311・313・318・341・342・345・352~356・385・413・441・444・464・566・610・612・614)

合計55点の出土で39点を掲載した。石材は頁岩(北上山地)が21点、同じく頁岩(奥羽山脈)が7点、ホルンフェルス(北上山地)6点、凝灰岩(奥羽山脈)5点、砂岩3点、流紋岩と閃緑岩ならびに玢岩が各2点、粘板岩と花崗閃緑岩が各1点、その他5点となっており、北上山地産の石材の割合が多い。

(2) 有孔石製品 (18・90・145・240・347・465)

合計6点出土しており、すべて掲載した。347は欠損しており、自然蹠の可能性も考えられる。その他の5点はいずれも中心部付近に人為的な加工孔を持つ。使用石材は頁岩と凝灰岩が各2点、砂岩とダイサイトが各1点である。

(3) 石棒状石製品 (A・B・Cいずれも写真のみ)

形態が石棒状をなすものをこの器種に分類した。加工痕跡がわずかに認められる程度のもものがほとんどである。3点の出土である。石材は安山岩(奥羽山脈)が2点、泥岩(奥羽山脈)が1点である。

(4) 石 剣 (16・35・37・93・126・158・229・230・295・296・344・346・386・390・391・411・422・620・626・630)

研磨により全体を調整し、扁平で細長い形状をなしているものをこの器種に分類した。合計29点の出土で15点を掲載した。全出土中の石材構成は頁岩(北上山地)が19点、頁岩(奥羽山脈)が4点で頁岩が合計23点である。次いで凝灰岩(北上山地)、粘板岩(北上山地)、ホルンフェルス(北上山地)が各2点となっている。

(5) 块状耳飾 (264・265・298・315・383・384・435・559・577・606・617)

合計11点出土している。全点掲載した。完全な形をなすものはなく、片半もしくは一部残存するもののみである。使用石材としては298の頁岩を除き、他は全て凝灰岩である。

(6) 燕尾形石製品 (564・600)

合計2点出土している。石剣状に加工した製品の一端に切り込みを施している。564は切り込みの度合いが浅く、製品自体の末端の加工状況からしても加工中途もしくは転用の可能性が考えられる。600は切り込み部と反対側約2分の1ないしは3分の1程度が欠損している。

(7) 短冊形石製品 (588)

1点出土している。製品の一端に穿孔がある。部分的に剥落が見られる。石材は粘板岩である。

(8) 不明石製品 (94・107・148・201・227・228・261~263・314・387~389・392・445・456・555・563・602)

全部で51点の出土で19点を掲載した。石製品のうち上記の分類にあてはまらないものを一括した。凝灰岩を石材とし、楕円形基調の扁平なものが多い。これらはいずれも大きさ、石材ならびに加工の状況等から、块状耳飾など他の石製品をつくる中途の未製品である可能性も考えられる。

5 礫石器

礫石器は2585点の出土中335点(門石類157点、スリ石類62点、敲石類5点、台石・石皿類計24点、石錘類85点、石棒2点)を掲載した。器種分類については必ずしも単独器種として機能せず、複数の機能を有すると推測されるものも存在したため、素材の形態、大きさなどを総合的に判断し、最も代表的と思われる

器種に分類した。なお、その際、他の機能も有したと推測されるものについては『凹み+スリ』といったように、機能を付加して表現した。

(1) 凹み石類 (4・14~16・23・27・28・30・32~35・38・39・53~58・60・62・63・69・71・75・76・80・84・87・88・93~96・100~102・107・109・110・112・113・115・117・119~121・126・128・129・131・135・139~143・146・148・150~152・158・159・168~170・173~177・180~184・192~194・196・197・199・202~204・213・220~223・225・226・229~234・240~245・250・251・253~257・261~266・268~270・273・274・276~280・283~285・287・291~293・297・298・303~306・310~314・316・317・321・324~327・329・330・332)

合計で1176点出土し、157点を掲載した。作用痕跡の認定は概ね次のような観点で行った。

敲打痕が一部に集中し、断面が深い楕円形や浅い皿状を呈する凹痕が形成されている部分、並びに径5mm以下の小径の敲打痕が集中し局部的にアバタ状の痕跡を示している部分を凹部とした。溝状とした凹部は凹痕の最深部が溝状になるもので、平面視が円形の凹部が複数直線的に連なるものと区別している。

全出土1176点中の石材構成は安山岩(奥羽山脈)724点で最も多く、以下、石英安山岩(奥羽山脈)が171点、砂岩(奥羽山脈)69点、凝灰岩(奥羽山脈)68点、頁岩(奥羽山脈)46点、デイサイト(奥羽山脈)36点、花崗閃緑岩(奥羽山脈基盤)14点、貞岩(奥羽山脈基盤)9点、ホルンフェルス(奥羽山脈基盤)7点、流紋岩(奥羽山脈)6点、礫岩(奥羽山脈)4点、ホルンフェルス(北上山地)3点、頁岩(北上山地)2点、マイロナイト(奥羽山脈)2点、頁岩(奥羽山脈基盤)1点、玄武岩(奥羽山脈)1点、閃緑岩(奥羽山脈)1点、ヒン岩(北上山地)1点、赤色頁岩(奥羽山脈)1点、ヒン岩(奥羽山脈)1点、不明9点となっている。

本来であれば、使用石材以外についても、素材の詳細な形状、凹部の数と対向関係、凹部形状と石材の関係、凹面数と凹部形状の関係、凹部以外の使用痕などについて、出土した全点について検討し、遺跡出土の凹み石の特徴として検討を加えなければならないところであるが、時間的制約のため分析を行うに至らなかった。これについてはあらためて機会を設け論じることとしたい。

(2) スリ石類 (5・6・12・13・21・29・31・37・41・45~47・59・61・70・72・86・92・97~99・103・108・111・114・123・127・130・138・144・145・147・149・154~157・171・191・216・238・239・246・247・252・258・267・272・275・288・289・295・296・299・300・315・320・322・328・331・333・3007)

合計675点出土し、62点を掲載した。スリ面を有するものをスリ石類として分類した。スリ面の定義として、次に示した「摩滅痕」と「擦痕」により形成された比較的平滑な面とした。

摩滅痕：表面が研磨作用により平滑になっており、石材によっては光沢を有する部分を摩滅痕とした。転轍などに見られる自然の営力による平滑面とは、平坦面の中央部に一定の範囲で平滑な面が形成されるという特徴で識別した。

擦痕：表面が摩擦を生じる作用により一定の範囲で荒れた状態になっている部分を擦痕とした。摩滅痕と同一の作用によっても石材の違いで擦痕と分類したものが含まれていると考えられるため、一つの個体に「より粗い擦痕」と「より平滑な摩滅痕」の両者が観察され明瞭に区別できる場合を除き、擦痕と摩滅痕は特に区分していない。

全出土675点中の石材構成は安山岩(奥羽山脈)が433点と最も多く、以下、石英安山岩(奥羽山脈)106点、凝灰岩(奥羽山脈)34点、砂岩(奥羽山脈)30点、デイサイト(奥羽山脈)15点、花崗閃緑岩(奥羽

山脈基盤) 14点、頁岩(奥羽山脈) 13点、頁岩(北上山地奥羽山脈基盤) 6点、花崗閃緑岩(北上山地) 5点、ホルンフェルス(奥羽山脈基盤) 6点、礫岩(奥羽山脈) 3点、流紋岩(奥羽山脈) 2点、マイロナイト(奥羽山脈) 2点、斑岩(奥羽山脈) 1点、閃緑岩(奥羽山脈) 1点、頁岩(北上山地) 1点、不明3点となっている。

(3) 敲石類 (20・85・160・205・282)

合計29点出土し、5点を掲載した。一定の部分を繰り返し敲打することでザラザラした面が局所的に形成されている部分を敲打痕とし、この痕跡を主体的に有するものを敲石とした。観察表中には「タキ」と表記してある。柱状礫の頂端や稜線、扁平礫の側縁などに特徴的に見られる。アバタ状の凹部とは集中の度合いで識別したが明確に基準を設けて区分したわけではない。

全出土29点中の石材構成は安山岩(奥羽山脈)が15点と最も多く、以下、石英安山岩(奥羽山脈) 4点、頁岩(北上山地奥羽山脈基盤) 3点、頁岩(奥羽山脈)、花崗閃緑岩(北上山地)、泥岩(奥羽山脈)、ホルンフェルス(奥羽山脈基盤)、ホルンフェルス(北上山地)、凝灰岩(奥羽山脈)、デイサイト(奥羽山脈)が各1点となっている。

(4) 石 錘 (1・3・7・8・10・11・18・19・22・24~26・36・44・50・51・52・64~68・77・78・81~83・89・104~106・118・122・124・125・132~134・136・137・161~167・172・178・179・195・198・200・201・206~212・214・215・218・219・224・227・228・235~237・259・260・271・281・286・290・294・301・302・308・309・318・319)

合計461点出土し、85点を掲載した。扁平な円礫で側縁に2箇所のみを持つものを石錘とした。特徴として、挟り部以外にも凹み痕跡、スリ痕跡などの作用痕跡を持つものの存在(461点中77点)があげられる。

全出土461点中の石材構成は安山岩(奥羽山脈)が156点と最も多く、以下、凝灰岩(奥羽山脈) 69点、石英安山岩(奥羽山脈) 59点、砂岩(奥羽山脈) 56点、頁岩(奥羽山脈) 52点、デイサイト(奥羽山脈) 30点、頁岩(北上山地奥羽山脈基盤) 9点、頁岩(北上山地) 7点、ホルンフェルス(奥羽山脈基盤) 6点、花崗閃緑岩(奥羽山脈基盤) 4点、泥岩(奥羽山脈) 2点、礫岩(奥羽山脈) 2点、チャート(北上山地) 1点、マイロナイト(奥羽山脈) 1点、不明7点となっている。

(5) 台 石 (17・42・186・188・189)

合計で151点出土し、5点を掲載した。大型の盤状礫で平坦面に敲打痕が散在するものと平坦面が摩滅を受けるものを抽出した。スリ石との区別は主に形状、計測値の観点から行った。すなわち、台石は大型の礫素材で概ね長幅に比べ厚さの数値が小さく扁平な礫を使用していること、また主な作用面は平坦面ないし若干凹んだ面に観察される場合が多い、両面の平坦面が作用面となるものが少ない、といった点でスリ石と違いがある。使用法を想定すれば、スリ石が手に持って作業台の上で被加工物をすり潰す用途、台石はスリ石、敲石、凹石などを使用した際の作業台として固定して使われたものと考えられる。ただし、計測値に分類基準を設けたわけではないため、曖昧な点がある。

全出土151点中の石材構成は安山岩(奥羽山脈)が102点と最も多く、以下、石英安山岩(奥羽山脈) 33点、デイサイト(奥羽山脈) 4点、砂岩(奥羽山脈) 4点、凝灰岩(奥羽山脈) 2点、頁岩(北上山地奥羽山脈基盤) 1点、頁岩(奥羽山脈) 1点、流紋岩(奥羽山脈) 1点、ヒン岩(北上山地) 1点、不明2点となっている。

(6) 石 皿 (9・40・43・48・49・79・90・91・116・153・185・187・190・217・248・249・307・323・D (写真のみ))

合計で63点の出土のうち19点を掲載した。大型の扁平礫を素材とし、中央部がくぼむように加工を施しているものを石皿として抽出した。整形段階で人為的に作り出した平坦面を持つものを台石と区別して石皿として認識した。

全出土63点中の石材構成は安山岩（奥羽山脈）が34点と最も多く、以下、石英安山岩（奥羽山脈）17点、デイサイト（奥羽山脈）4点、頁岩（奥羽山脈）2点、凝灰岩（奥羽山脈）、頁岩（北上山地奥羽山脈基盤）、玄武岩（奥羽山脈）、砂岩（奥羽山脈）、マイロナイト（奥羽山脈）各1点、不明1点となっている。

(7) 石 棒 (73・74)

合計で13点の出土で、2点を掲載した。73はやや扁平で両面に擦痕が確認される。74は特定の面にスリ面を有することからスリ石に分類することも検討したが、重さが43kgあるため機能的分類として現実的ではないと判断し、石棒に分類した。

使用石材については、石英安山岩8点、安山岩2点、頁岩2点、デイサイト1点である。

(8) 不 明

上記に示した器種に分類できなかったものをまとめて不明雑石器とした。合計で17点出土しているが掲載はしていない。

引用・参考文献 (V章)

- 岡村道雄²⁰⁾ 1984. 里浜貝塚Ⅲ. 東北歴史資料館資料集9.
 木村淳一 1997. 第V章第3節 凹みを有する雑石器について、『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅱ』. 青森市埋蔵文化財調査報告書第33集.
 奥野義一 1990. 宮城県出土土製品2種の報告. 伊藤信雄先生追悼考古学古代史論叢. 伊藤信雄先生追悼論文集刊行会：187-193.
 村上 拓 1996. 『牧田貝塚発掘調査報告書』. 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第241集.

VI 考 察

1 遺 構

(1) 住 居 跡

確認し住居跡と認定したものは計74棟（大形住居62棟、小形竪穴12棟）である。本遺跡における住居跡の特徴を述べる。

【平面形】

住居の平面形について、住居の隅にコーナー（角）が確認できるものを長方形基調の住居とし、コーナー（角）を確認できないものを楕円形基調の住居とした。長方形基調の住居には長軸側の壁が外側に膨らむタイプとそうでないタイプが存在する。本遺跡で大形住居としたものはこれらのいずれかに含まれる。また、小形竪穴としたものは全て円形基調の住居である。これにより、本遺跡の集落を構成する住居は①長方形基調の住居、②楕円形基調の住居、③円形基調の住居（小形竪穴）と大きく三種類に分類できる。大形住居に関しては①、②ともに周溝の巡るものと巡らないものが確認されており、平面形の違いと周溝の有無との関連性は低いものと考えられる。③については検出された全てにおいて周溝を確認している。



第163図 住居の平面図

参考までに、大形住居の平面形について周辺地域の遺跡について確認した結果によれば、館遺跡（住田野、大木3～4式）は3棟の大型住居が検出されており、いずれも長方形基調で側壁がやや膨らみ構型に近い。蟹沢館遺跡（北上市、大木2～4式）では10棟を超える大型住居が検出されており、いずれも長楕円形を

なす。清水ヶ野遺跡(湯田町、大木6式中心)では方形基調の大型住居が5棟検出されており、このうち3棟はコーナーを有する。宝生寺跡(江刺市、大木5~7a、大木6式中心)では円形基調の住居跡のみが検出されている。峠山牧場I-B遺跡(湯田町、大木5~6式)では検出された31棟の住居のうち12棟が大型住居であり、いずれも方形基調である。鳩岡崎遺跡(北上市、大木6式)では長軸25mの長楕円形をなす大型住居が確認されている。塩ヶ森I遺跡(雫石町、大木6~7b、8a式)で確認されている大型住居は長方形をなす。高畑遺跡(石鳥谷町、大木6~7a式)では長方形基調の大型住居が確認されている。他県の事例としては上ノ山II(秋田県)、嘉倉貝塚(宮城県)、本能原(福島県)、聖山公園(根占谷台)(栃木県)などがある。

第2表 環状集落の集成

遺跡名	所在地	時期	備考
根占谷台	栃木県宇都宮市	前期中葉(黒沢式)	
緩織新山	岩手県遠野市	前期中葉(大木3~4式)	
蟹沢館	岩手県北上市	前期中葉(大木2~5式)	
上ノ山II	秋田県協和町	前期後葉(大木4~5式、円筒下層式)	
大清水上	岩手県胆沢町	前期後葉(大木5式)	本遺跡
中野谷松原	群馬県安中市	前期後葉(諸磯b式)	
鷺森	埼玉県上福岡市	前期後葉(諸磯式)	
七社神社前	東京都北区	前期中葉~後葉(諸磯式)	
飯山満束	千葉県船橋市	前期後葉(夏島式、桶筒台式)	
木戸先	千葉県四街道市	前期後葉	
南羽鳥中嶋I-E	千葉県成田市	前期後葉	
阿久	長野県原村	前期	
北野	新潟県上川村	前期後葉	
嘉倉貝塚	宮城県築館町	前期末~中期初葉(大木6式)	
高瀬山	山形県寒河江市	前期末(大木5~6式)	
峠山牧場I-B	岩手県湯田町	前期末(大木6式)	
清水上	新潟県堀之内町	中期前葉?	
和泉A	新潟県中郷町	中期初葉~前葉(五楕ヶ台II式)	
西海河	山形県村山市	中期	
五丁歩	新潟県塩沢村	中期(大木7b~8a式)	
西山	岩手県紫波町	中期(大木8a)	

また、小形竪穴については、今熊野遺跡II(宮城県名取市、大木2a式)で床面中央に1本の主柱穴と壁際に壁柱穴を持ち、伊(焼面)を持たない小形方形の平面をなす住居跡が確認されている。同様に高瀬山遺跡(山形県寒河江市、大木5~6式)では本遺跡の小形竪穴とよく似た円形の住居跡が確認されている。

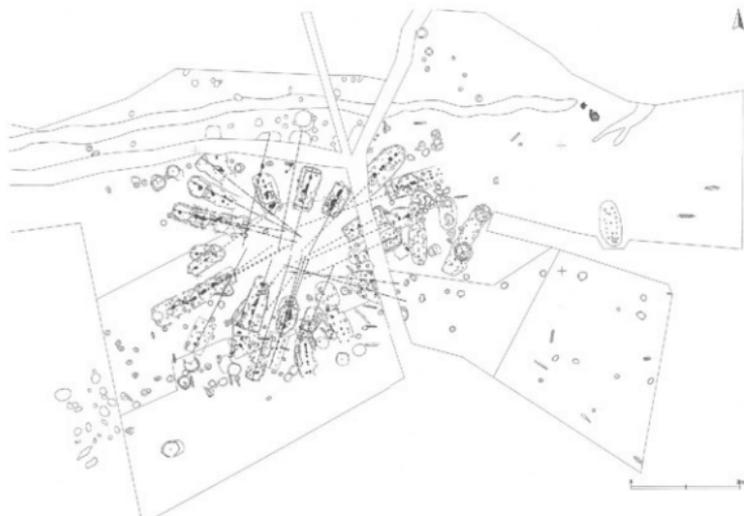
【規模】

大形住居の規模を見てみると、壁を確認できるものの中で面積が最大となるものは101号住の長径16.6m、短径7.4mで、最小となるものは208号住の長径7m、短径4.4mである。意味のある数値であるかどうかは別として、平均するとその値は長径12.2m、短径5.3mとなる。長径と短径の平均比率は2.3対1となる。

円形基調の小形竪穴の規模は、最大径が505号住の6.1m、最小径は409号住の3.3mで平均値は4.4mである。

【分布状況】

大形住居は集落中央にある直径約20mの広場を中心として、その周囲に円環状に配置される。ほとんどの住居は長軸を広場の中心部へと向けている。各住居の長軸を延長してみると、広場の中心部一点に集中することはなく、およそ二箇所に集中することが確認された(図164大形住居の軸線)。長軸を広場に向けない住居の中には、本遺跡で確認されている最大の住居が含まれる。広場と長軸方向との関連性で考えるなら



第164図 大形住居の軸線

ば、集落東側においてその規則性を乱す住居が多いといえる。

遺跡東端にはほぼ単独で一棟存在する102号住は、大形住居が密集する区域の端から約35m離れており、住居の軸線も広場とは無関係の方向に延びる。出土遺物自体少ないが、わずかに出土した遺物は他の住居出土のものに比較して型的、時期的にみて若干異なる可能性（大木6以降、関東系の可能性も考えられる？）がある。したがって集落を構成する大形住居のひとつとして見た場合、きわめて異端である。

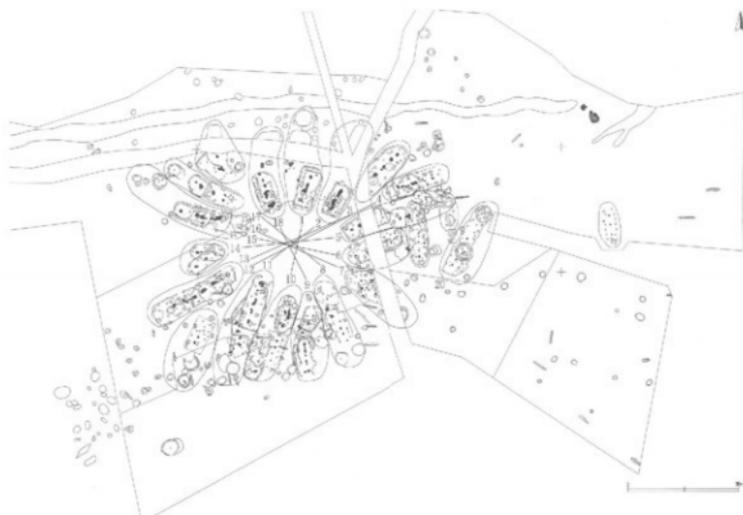
【建て替え・拡張】

炉や柱穴の配置、周溝の巡り具合などから、ほとんどの住居跡は建て替えならびに拡張が行われていることが確認される。これらは長軸線上を基本として、軸線に対する横位置や縦位置、あるいは角度ををややずらして行われている。しかしながら、個別に住居を検討した場合、この「ずれ」はある一定の範囲内でおさまっており、この範囲をもってひとつの「住居群」として捉えることが可能ではないかと考えた。これはすなわち検出作業時に確認することのできた黒いシミの固まりと非常によく一致する。これによる本遺跡の集落を構成する住居群は20の群に分けられ、群のほぼ中心線（長軸線）について広場を挟んで対峙する別の群と結びつけると、中心線はどれもほぼ広場の中心を通ることが確認される。

【炉】

本遺跡で確認された大形住居の炉は全て地床炉である。ほとんどの炉は住居長軸線上に配置されており、長軸線を逸脱するものは極めて稀である。長軸線に対し並列ないしは不規則な配置となるような見え方を示すものについては、むしろ遺構の重複や別住居の存在を疑ったほうが適切と考えられる。

炉について、武藤（1985）の唱える「炉を中心とした隔壁構造」、換言して菅谷（1993）の言う「炉空間」の存在を大形住居の前提とするならば、本遺跡における大形住居はそのほとんどが炉空間を複数単位有している。炉空間は多いもので7単位、少ないもので2単位であり、平均すると3.14単位となる。住居床面に確



第165図 住居群の対峙関係

認められる住居内重複（建て替え・拡張）については、主柱穴に囲まれた炉の存在をもって「炉空間」と定義することにし、主柱穴の規則性とそれによって囲まれる炉に基づいて住居内重複を検討した。

【柱穴配置】

大形住居を構成する主柱穴の配置は、2本一対を基本とし、炉を挟む形で長軸方向に延びている。最も多いもので8対16本、少ないものは3対6本である。主柱穴どうしの柱穴間距離について、梁間の最大値は211号住の4.6mで最小値は404-b住の2mである。桁行の最大値は202-a住の18.2mで最小値は417号住の4.1mとなっている。

【出入口】

床面から壁に向かってのスロープや階段状施設、部分的に壁が外側に張り出している、住居を巡る周溝が部分的に途切れるなどの要素をもって出入口施設の判断基準とした。その結果本遺跡の大形住居において明確に出入口施設と断言できるものは確認できなかった。しかしながら壁の外側への部分的張り出しという、出入口の可能性を含む要素が認められる住居は幾つか確認されている（301号住、303号住、503号住、429号住）。これらは基本的に住居長軸方向の一端の壁が外側に張り出しているもので、303号住は広場側に、429号住は広場と反対方向に確認された。503号住は長軸自体が広場とは無関係の方向に向いているため、その点の関連性は無いと判断した。

【隔室構造（間仕切）】

大形住居内における「炉空間」を成立させ、その空間の独立性を高めるための意図的な溝や小柱穴列といったものは確認されていない。本遺跡において、一群の大形住居内の床面が溝によって仕切られているかのように確認されるものについては、基本的に大形住居同士の重複と認識し、壁際を巡る周溝と捉えたためである。

第3表 住居跡一覧表

遺構名	位置	平面形	住居規模(m)		柱穴間距離(m)		長短比 (長/短)	扉		主柱 穴数	備考
			長軸	短軸	長軸	短軸		形態	開口数		
101号住	LⅡa1014か	楕円形	(16.6)	7.4			—	地床伊	3	5	
102号住	MⅡc414か	楕円形	12.4	5.9			2.10	地床伊			
102-a住					9.6	3.3	—	地床伊	3	5	
102-b住					6.6	2.6	—	地床伊	3?	3	
201号住	LⅡb1414か	楕円形	17.4	5.1			3.41	地床伊			
201-a住					15.5	3.1	—	地床伊	7	8	
201-b住					13.4	4.1	—	地床伊	6	7	
202号住	LⅡa1414か	長方形	20.8	5.8			3.59	地床伊			
202-a住					18.2	3.6	—	地床伊	4	5	
202-b住					13.6	3.5	—	地床伊	3	4	
202-c住					7.2	4.6	—	地床伊	2?		
203号住	LⅡd314か	楕円形基調	10.0	5.2	5.0	2.2	1.92	地床伊		2	
205号住	LⅡa514か	楕円形	16.2	5.9			2.75	地床伊			
205-a住					13.5	3.8	—	地床伊	4	5	
205-b住					14.0	3.5	—	地床伊	4	5	
205-c住					13.6	3.0	—	地床伊	4	5	
206号住	LⅡa414か	楕円形	9.0	5.9			1.53	地床伊			
206-a住					6.2	3.2	—	地床伊	2	4	
206-b住					6.0	3.5	—	地床伊	2	3	
207号住	LⅡd214か	長方形	16.3	3.7			2.86	地床伊			
207-a住					12.7	3.4	—	地床伊	3	4	
207-b住					13.2	3.1	—	地床伊	3	4	
207-c住					12.0	3.6	—	地床伊	3	4	
208号住	LⅡc314か	楕円形	7.0	4.2			1.69	地床伊			
208-a住					4.8	2.5	—	地床伊	2	3	
208-b住					4.4	2.4	—	地床伊	2	4	
209号住	LⅡe614か	円形	4.8	4.6			1.04				小形竪穴
210号住	LⅡf114か	円形	4.8	4.4			1.09				小形竪穴
210-a住											
210-b住											
301号住	KⅡg1214か	長方形	12.6	6.0	9.4	3.3	2.10	地床伊	4	5	
302号住	KⅡh214か	長方形	9.8	5.2			1.88	地床伊			
302-a住					8.5	3.3	—	地床伊	3	4	
302-b住					5.0	3.0	—	地床伊	2	4	
303号住	KⅡi214か	長方形	12.1	6.0			2.02	地床伊			
303-a住					10.6	3.2	—	地床伊	3	4	
303-b住					7.2	3.6	—	地床伊	2	4	
304号住	KⅡm214か	楕円形基調	14.2	5.8			2.45	地床伊			
304-a住					14.0	3.8	—	地床伊	5	6	
304-b住					8.8	3.6	—	地床伊	3	4	
305号住	JⅡj314か	長方形	21.0	5.3			3.82	地床伊			
305-a住					11.4	2.9	—	地床伊	4	5	
305-b住					8.8	3.4	—	地床伊	4	6	
305-c住					8.8	3.2	—	地床伊	3	6	
305-d住					10.2	3.2	—	地床伊	4	5	
306号住	KⅡa114か	長方形基調	11.0	4.8			2.29	地床伊			
306-a住					8.6	2.8	—	地床伊	2	3	
306-b住					(8.4)	3.6	—	地床伊	2	2	
307号住	JⅡh214か	円形	4.6	4.4			1.03				小形竪穴
308号住	JⅡi114か	円形	3.8	3.4			1.12				小形竪穴
401号住	KⅡj414か	長方形	12.6	6.5			2.39	地床伊			
401-a住					11.2	3.1	—	地床伊	5	5	
401-b住					9.3	2.8	—	地床伊	4	5	

1 通構

通構名	位置	平面形	柱間幅(m)		柱穴間距離(m)		長短比 (長/短)	か		上柱 穴対	備 考	
			長軸	短軸	長軸	短軸		形数	か空間			
402号住	KⅢ17ほか	楕円形	(8.0)	6.1	(7.0)	3.6	1.31	地床伊	2	(3)	水路上に続く	
403号住	KⅢ18ほか	楕円形	(7.2)	5.2	(6.8)	2.9	1.38	地床伊	2	(3)	水路上に続く	
404号住	KⅢ18ほか	楕円形基調	8.2	5.8			1.41	地床伊				
404-a住							4.7	2.8	—	地床伊	1	3
404-b住							6.7	2.0	—	地床伊	2	3
408号住	KⅢ10ほか		15.5	5.5				2.82	地床伊			
408-a住					(7.8)	3.1			地床伊	3	5	
408-b住					(6.0)	3.8			地床伊	3	4	
409号住	KⅣ11ほか		3.4	2.8				1.21			小形竪穴	
411号住	KⅣ11ほか		3.6	2.8				1.71	地床伊	1?	柱穴未確認	
412号住	KⅢ19ほか	楕円形	7.4	4.7	5.6	2.9	1.57	地床伊	2	3		
413号住	KⅢ10ほか	長方形?	6.2	4.4	4.5	2.7	1.41	地床伊	2	(3)		
414号住	KⅣ11ほか		13.1	6.2				2.11	地床伊			
414-a住					10.4	3.6			地床伊	4	5	
414-b住					10.2	4.2			地床伊	4	5	
414-c住					7.3	4.2			地床伊	3	4	
416号住	KⅢ18ほか	楕円形基調	8.5	5.2				1.63	地床伊			
416-a住					5.1	3.2			地床伊	2	3	
416-b住					6.2	3.5			地床伊	2	3	
416-c住					8.2	3.6			地床伊	3	3	
417号住	KⅢ19ほか	楕円形基調	6.7	4.2	4.1	2.4	1.60	地床伊	1?	3		
418号住	KⅣ11ほか	長方形?	9.8	5.0	7.2	2.8	1.96	地床伊	4	5		
421号住	KⅢ18ほか	長方形	15.6	5.9				2.64	地床伊			
421-a住					10.8	3.8			地床伊	4	5	
421-b住					10.5	3.6			地床伊	3	4	
421-c住					—	—			地床伊	2	(3)	
422号住	KⅢ10ほか	長方形?	10.5	4.8				2.19	地床伊			
422-a住					7.8	3.2			地床伊	2	4	
422-b住					7.2	3.0			地床伊	2	3	
423号住			5.3	3.7				1.43				
424号住			4.5	4.4				1.02			小形竪穴	
425号住			3.9	3.5				1.11			小形竪穴	
426号住			3.3	3.0				1.10			小形竪穴	
427号住	KⅢ17ほか	長方形?	25.4	6.3				4.03	地床伊			
427-a住					8.4	3.4			地床伊	4	4	
427-b住					11.0	3.6			地床伊	3	4	
427-c住					10.6	3.2			地床伊	3	5	
428号住	KⅢ18ほか	楕円形?	9.5	4.5	8.2	3.2	2.11	地床伊	3	4		
429号住	KⅢ16ほか	隅丸長方形?	11.5	4.5	9.4	2.9	2.56	地床伊	3	4		
431号住	KⅢ10ほか	不明	(9.6)	(5.1)	7.7	3.8			地床伊	3?	4	
432号住	KⅣ18ほか		3.6	3.5				1.03			小形竪穴	
433号住	KⅣ13ほか	不明	13.2	5.1	11.4	3.8	2.59	地床伊	3?	6		
501号住	LⅢ110ほか		3.8	(1.9)				—			小形竪穴	
501-a住								—				
501-b住								—				
503号住	LⅢ16ほか	不明	4.5	3.6				1.25				
505号住	JⅣ17		6.1	4.5				1.36			小形竪穴	
506号住	KⅣ11		3.5	3.1				1.13			小形竪穴	
507号住	KⅣ12		3.9	3.8				1.03			小形竪穴	

【時期の検討】

本遺跡において確認されている住居から出土している土器は、大木4～6式の範囲に収まるもので、これらの大部分は大木5式に比定される。他の時代・時期に該当する遺物はわずか数点であり、いずれも土坑覆土あるいは遺構外からの出土である。したがって、住居の構築された時期は出土土器の時期の範囲と考えて問題ないと思われる。しかしながら、このように出土土器の時期差がほとんどないということは遺構の時期を決定付ける上で困難を極める。遺構の重複関係と出土土器の特徴を関連させながらできる限り細分化に努めようとしたが、結果として重複関係が明確な遺構から時期を推測することのできる川土遺物を得ることができないという状況に陥ったため、遺構の構築にかかわる詳細な時期細分を行うことはできなかった。

(2) 土 坑

本遺跡において検出された土坑は203基である。基本的には他の遺構に分類できないものを中心に一括して十坑としたため、機能的には貯蔵穴、墓塚など各種入り混じっている可能性が高いが、明確に分別することはできなかった。ここでは事実記載の章で述べた事柄を前提として全体的な特徴などについて述べる。

【分布状況】

全体として住居跡に近接して構築されており、住居跡との重複も多数確認される。集落全体としては中心部に広場、それを取り囲むように住居跡（ただし住居跡に重複した土坑も確認される）、さらにその外側に十坑という配置が見てとれる。土坑が数基まとまって配置される区域が部分的に確認されるが、おおむね散在しており、土坑のみが局所的に集中して群在するような区域は確認していない。

貯蔵穴の可能性が高いとした土坑38基の集落内における分布をみると、ほぼ住居跡に隣接ないしは重複して存在している。配置の規則性を窺うことはできず不規則であるが、傾向としては住居跡の長軸方向のいずれかに隣接して構築されている場合が多い。広場側に構築された十坑については住居跡との重複が著しく、住居跡自体の重複状況も長軸方向において顕著であるため、広場外側の一定範囲の区域において、大形住居とそれに付随するような形で長軸方向のいずれかに貯蔵穴が構築されていたことがわかる。

【時期】

集落区域において確認された土坑から出土した遺物は、そのほとんどが縄文時代前期後葉、大木5式を主体とするその前後の土器型式にあてはまる時期に相当する。したがって、十坑の構築された時期についてもこの時期を大きく逸脱するものではないと考えられる。当該時期以外として推定されるものについては、412号土坑から縄文時代晩期大洞A式の土器片が出土している。また451、470号の各土坑から出土した炭化材の年代測定の結果1810±30BP～2070±70BPという鑑定結果がなされており、これらとよく似た規模及び出土炭化材を持つものについては同様の年代に構築されたものである可能性が高い。605号十坑覆土下部からは縄文時代晩期大洞A式に比定される完形の壺が2点出土している。

【機能】

確認された土坑の推定される機能について、形態、規模、検出場所、覆土状況、遺物出土状況等を総合的に判断してa～d（a：貯蔵穴、b：陥し穴、c：墓塚、d：その他）の4種に分類した。一つの遺構について他の機能も推定できる場合には？をつけている（したがって機能欄に複数の記載があるばあいには「？無？付」の順で優先度が高い）。これらのうち、貯蔵穴の可能性を有するものは全部で81基確認されており、集落区域の範囲内に入ってくるものは75基である。さらにこれらのうち優先度の高いものだけを取り上げると、その数は38基となる。陥し穴の可能性を有するものは全部で40基、墓塚の可能性を有するものは全部で26基、その他としたものが全部で147基である。



第166図 土坑の形態別分布



第167図 土坑の機能別分布 (a:貯蔵穴)



第168図 土坑の機能別分布 (b: 陥し穴)



第169図 土坑の機能別分布 (c: 基壇)



第170図 土坑の機能別分布（d：その他）

第4表 土坑一覧表

遺構名	位置	規模 (cm)					平面形 A:円形 B:楕円形 C:その他	推定される機能 a:貯蔵穴 b:捨穴 c:墓塚 d:その他				推定される時期			
		開口部		底面		深さ									
		長径	短径	長径	短径										
101号土坑	LⅢc1	232	188	186	154	23		B			c?	d			
102号土坑	LⅡd10ほか	268	258	122	110	45			C			c?	d		
103号土坑	LⅡd10ほか	242	190	192	130	31		B				c?	d		
104号土坑	LⅡd10ほか	270	166	194	126	45		B				c?	d		
105号土坑	LⅡe10ほか	168	148	100	86	36	A						d		
106号土坑	LⅢc1ほか	168	92	98	36	56			C				d		
107号土坑	LⅢb1	224	156	198	124	17		B				c?	d		
108号土坑	LⅡe10	200	154	91	84	39			C				d		
109号土坑	LⅡc6	156	124	108	82	94	A				a	b?		d	
110号土坑	LⅡc6ほか	129	115	58	38	23	A							d	
111号土坑	LⅡe4	308	287	218	214	122	A				a				d
112号土坑	LⅡc5	230	223	168	140	101	A					a			d
115号土坑	LⅡa9ほか	138	109	92	86	25		B						d	
116号土坑	KⅡj10	76	60	35	30	13	A							d	
117号土坑	KⅡj10	63	54	26	20	28	A							d	
118号土坑	LⅡef	124	117	59	48	39	A							d	
119号土坑	LⅡc6ほか	120	112	94	78	85	A					b			d
120号土坑	LⅡc6ほか	114	84	64	50	33		B						d	
121号土坑	LⅡf8	186	182	96	50	47	A							d	
122号土坑	LⅡh10	92	82	55	55	44	A							d	
123号土坑	LⅢg2ほか	190	136	106	80	53		B						d	
124号土坑	KⅢj1 (200)	(200)	(98)	(106)	(74)	51			C					d	
125号土坑	MⅢc6ほか	151	133	94	62	96	A				a				d
126号土坑	KⅢj1	114	71	56	48	72		B						d	
201号土坑	LⅡc6ほか	251	196	180	143	50	B						c?	d	
202号土坑	LⅢa5	142	122	98	86	61	A				a				d

遺構名	位置	規模 (cm)				深さ	平面形 A:円形B:楕円形 C:その他	指定される機能				指定される時期
		開口部		底面				a:貯蔵穴 c:墓穴	b:隠し穴	d:その他		
		長径	短径	長径	短径							
203号土坑	LⅡc7	174	152	132	113	53	A		a			
204号土坑	LⅡc5	153	116	88	75	51	A		a			
205号土坑	LⅡb5ほか	160	152	142	82	108		B		b		
206号土坑	LⅡc1	102	72	71	(34)	23		C			d	
207号土坑	LⅡc4	160	152	144	126	72	A		a			
208号土坑	LⅡc1ほか	160	132	145	113	51	A		a			
209号土坑	LⅡd3ほか	166	146	132	110	18	A				d	
210号土坑	LⅡd5	248	164	198	129	19		C			d	
211号土坑	LⅡa4ほか	148	132	117	95	35	A		a			
212号土坑	LⅡa3	92	75	68	37	27		B	a			
213号土坑	LⅡd5ほか	272	250	171	165	38	A				d	
214号土坑	LⅡa4	104	100	74	56	18	A				d	
215号土坑	LⅡa5	116	77	91	40	38		B			d	
216号土坑	KⅡb2ほか	259	238	152	104	77	A		a?		d	
217号土坑	LⅡd5ほか	290	216	114	86	35		C			d	
218号土坑	LⅡd3ほか	266	164	236	132	22		C			d	
219号土坑	LⅡd3ほか	198	164	(158)	118	21		B			d	
220号土坑	LⅡd1	(262)	156	148	92	38		B			d	
221号土坑	LⅡd4ほか	344	206	262	122	62		C			d	
301号土坑	KⅡe1ほか	154	92	101	48	104		B		b		
302号土坑	JⅡb4	140	127	116	104	31	A		a			
303号土坑	KⅡc1ほか	305	294	257	249	32	A		a			
304号土坑	JⅡb2	170	165	128	120	89	A		a	b?		
305号土坑	JⅡg2	278	222	228	178	38		C			d	
306号土坑	JⅡg2ほか	182	116	82	66	100		B		b		
307号土坑	JⅡg2	159	139	113	94	94	A		a?	b		
308号土坑	GⅡg6ほか	238	168	204	133	25		H			e?	d
309号土坑	FⅡb8	108	76	38	36	33		B			d	
310号土坑	KⅡh3	186	122	127	73	34					e?	d
311号土坑	KⅡd3	180	159	111	84	32	A				d	
312号土坑	KⅡd1ほか	130	106	108	84	91		B		a?	b	
313号土坑	KⅡa3	134	102	130	84	59		C		b		
314号土坑	FⅡa8	130	108	98	79	115	A			b		
315号土坑	KⅡg10ほか	200	170	144	130	90	A		a			
316号土坑	KⅡb1ほか	172	141	126	100	43	A		a		d	
317号土坑	KⅡa4ほか	122	108	100	74	56	A		a			
318号土坑	JⅡf1ほか	165	135	151	142	92	A		a			
319号土坑	JⅡf4ほか	154	115	150	106	119		B		b		
320号土坑	JⅡb4ほか	160	134	110	85	115		B		h		
321号土坑	GⅡf7	116	100	90	70	106	A			b		
322号土坑	GⅡf7	158	132	122	100	116	A			a?	b	
323号土坑	GⅡe8	150	130	118	95	110	A			b		
324号土坑	FⅡf9ほか	130	124	90	85	62	A		a			
325号土坑	GⅡd7ほか	168	152	188	162	120	A		a	b?		
326号土坑	KⅡc1ほか	188	166	171	156	64	A		a			
327号土坑	KⅡc1	115	114	114	114	94		B			d	
350号土坑	KⅡb1ほか	100	91	74	73	29	A		a?		d	
351号土坑	JⅡe1	153	130	94	69	97		C		a?	b	
401号土坑	KⅡd5	126	116	124	69	80	A		a?	b		
402号土坑	KⅡc3	162	148	142	128	23	A		a?		d	
403号土坑	KⅡc3	210	126	178	76	61		C	a?		d	
404号土坑	KⅡf3	68	56	46	36	38	A				d	
405号土坑	KⅡh3ほか	172	120	138	72	20		H			d	
406号土坑	KⅡh4	110	72	62	53	44	A				d	
407号土坑	KⅡh4	114	106	77	67	59	A		a?	b		
409号土坑	KⅡh6	65	60	40	49	15	A				d	
410号土坑	KⅡh4ほか	76	48	70	48	47		B			d	
411号土坑	KⅡh6	126	(89)	100	(70)	88		H	a?		d	
412号土坑	KⅡf7	97	91	76	69	29	A				d	晩期?

遺構名	位置	敷根 (cm)				深さ	平面形 A:円形 B:楕円形 C:その他	推定される機能				推定される 時期	
		間口部		底部				a:貯蔵穴 b:陥し穴 c:溝溝 d:その他	a?	b?	c?		d?
		長さ	幅	長さ	幅								
419号土坑	KⅡj7	101	78	84	60	16	A					d	
414号土坑	KⅡj7	94	92	70	45	32	A					d	
416号土坑	KⅡj8	74	72	63	46	45	A		a				
417号土坑	KⅡb8ほか	230	208	190	178	42	A		a			d?	
418号土坑	KⅡb9ほか	116	90	66	52	34	A					d	
421号土坑	KⅡj9	164	148	121	116	38	A		a?			d	
422号土坑	KⅡe9ほか	128	100	98	73	27	B					d	
423号土坑	KⅡb9	211	189	176	134	65	A		a			d?	
424号土坑	KⅡe1	111	58	72	36	14	B					d	
425号土坑	KⅡe10	91	68	72	51	13	B					d	
426号土坑	KⅡb7ほか	155	129	116	92	42	A		a?			d	
427号土坑	KⅡb8ほか	176	120	148	77	38		C	a?			d	
428号土坑	KⅡb8ほか	152	116	120	90	56	H		a?			d	
429号土坑	JⅡj9ほか	210	184	176	166	58	A		a?			d	
430号土坑	JⅡj10	132	114	102	84	31	A					d	
431号土坑	KⅡa6	104	94	60	53	55	A					d	
432号土坑	KⅡd10	95	90	62	47	22	A					c?	
433号土坑	KⅡa7	80	76	46	42	45	A		a?			d	
434号土坑	KⅡa6	158	126	115	86	54	B		a?			d	
435号土坑	KⅡa9	150	153	138	115	19	A		a?			d	
436号土坑	KⅡb10	142	130	114	101	63	A		a?		c?	d?	
437号土坑	KⅡg9ほか	423	368	100	74	104	A		a?	b		d	
438号土坑	JⅡV1	159	131	112	82	97		B		b		d	
439号土坑(A)	JⅡV1ほか	162	88	133	43	113	B			b		d	
439号土坑(B)	JⅡV1ほか	120	100	85	80	108	A			b		d	
440号土坑	JⅡe10ほか	152	143	112	80	119	A			b		d	
441号土坑	JⅡVg3	168	120	96	80	113	H			b		d	
442号土坑	JⅡj10	129	114	102	92	22	A					d	
444号土坑	JⅡVg3	162	151	104	78	113	A			b		d	
446号土坑	JⅡV3	210	178	160	120	18	A					d	
447号土坑	JⅡV1	101	191	69	66	62	A					d	
448号土坑	JⅡV4ほか	212	193	71	70	100	A					d	
449号土坑	JⅡV4ほか	194	173	106	83	117	A		a?	b		d?	
450号土坑	JⅡV4	122	120	78	77	31	A					d	
451号土坑	JⅡVg3ほか	236	184	179	128	77		B			c?	d	
452号土坑	JⅡVg6	214 (168)	167	123	28	28	A					d	
453号土坑	JⅡVg6ほか	140	114	96	74	27	A					d	
454号土坑	KⅡa10	156	124	112	94	56	A		a		c?	d?	
455号土坑(A)	KⅡb10	94	82	60	48	38		C				d	
455号土坑(B)	KⅡb10	98	74	56 (34)	34			C				d	
456号土坑	JⅡj9ほか	161	140	138	114	26		B	a?		c?	d	
457号土坑	JⅡj9ほか	100	64	60	49	61		B				d	
458号土坑	JⅡV1ほか	150	117	103	61	49		B				d	
459号土坑	KⅡd9	87	70	56	46	33	A		a?			d	
460号土坑	KⅡd8ほか	166	134	126	112	56		C	a?	b		d	
461号土坑	KⅡd10	86	82	114	95	80	A			b?		d	
464号土坑	KⅡg10	118	94	80	66	26		B				d	
465号土坑	KⅡg10	134	100	75	62	25		B				d	
466号土坑	KⅡj10ほか	155	130	119	79	38	H				c?	d	
467号土坑	KⅡV1ほか	131	102	155	105	110		C	a	b?		d	
468号土坑	KⅡV1	135	110	148	126	106	A		a	b?		d	
469号土坑	KⅡVg3ほか	137	131	132	83	98		B	a?	b		d	
470号土坑	KⅡVb3ほか	260	200	237	170	58		B			c?	d	
471号土坑	KⅡVg3ほか (196)	162	148	147	43		A		a?		c?	d	
472号土坑	KⅡVd	127	66	115	57	22	A		a?			d	
473号土坑	KⅡVd	(165)	(80)	(110)	(50)	(40)		B				d	
474号土坑	KⅡVd	(210)	200	(218)	155	68	A		a?			d	
475号土坑	KⅡVb3ほか	180	120	145	105	18		B				d	
476号土坑	KⅡVd2ほか	179	178	160	160	48	A		a		c?	d?	

遺構名	位置	規模 (cm)				文献 深さ	平面形 A:円形 B:楕円形 C:その他	推定される機能 a:貯蔵穴 b:陥し穴 c:墓塚 d:その他				推定される時期
		開口部		底部				a?	b	c?	d?	
		長さ	幅径	長さ	幅径							
477号土坑	KIVa3	100	91	59	58	43	A		a?		d	
478号土坑	KIVb2	121	87	53	43	40		B				d
479号土坑	JIVj3	179	160	154	45	38	A					d
480号土坑	KIVf1	141	129	120	101	42	A		a			d?
481号土坑	KIVf3ほか	300	250	246	196	77		C				d?
482号土坑	KIVe3	(264)	(218)	226	176	27		B				d
483号土坑	KIVd4	(132)	88	(78)	96	122	B		a?	b		d
484号土坑	KIVe3	130	86	110	60	54	B					d
485号土坑	KIVe3	(94)	94	98	(48)	35	A					d
486号土坑	KIVe5	(112)	108		198	26	A					d
501号土坑	LIVe9	223	126	187	107	38		B			e?	d
502号土坑	LIVb8ほか	140	(140)	100	89	55		D	a		e?	d?
503号土坑	LIVe9	195	156	180	147	41		H	a		e?	d?
504号土坑	LIVe8	170	160	122	120	60	A		a		e?	d?
505号土坑	LIVb8	179	111	135	70	30		H				d
506号土坑	LIVd1ほか	150	135	165	141	128	A		a			d
507号土坑	LIVb8ほか	132	120	91	40	18		H				d
508号土坑	LIVb8	210	155	150	95	32		B				d
509号土坑	LIVd7ほか	180	171	156	140	54	A		a?		e?	d
510号土坑	LIVe8ほか	208	178	172	145	48	A		a?		e?	d
601号土坑	KIVe6	(192)	(132)	(50)	70	32		B				d
602号土坑	KIVe6	136	110	124	112	40	A		a?			d
603号土坑	KIVe2	156	132	96	76	45		B				d
604号土坑	FIVf3	130	106	150	124	79	A		a?		e	晩期?
605号土坑	FIVe3ほか	110	84	98	88	85		B	a?		e	晩期?
606号土坑	KIVe4	148	122	116	154	37		B				d
607号土坑	KIVj3	104	90	82	78	39	A					a
608号土坑	FIVj5ほか	132	92	82	62	28		D				d
609号土坑	KIVf4	170	168	130	(88)	95	A					d
610号土坑	GIVf4	102	92	90	80	25	A		a?	b		d?
611号土坑	KIVe3ほか	(158)	130	98	68	67	A					d
612号土坑	KIVf1	212	162	176	80	140		B		b		d?
613号土坑	KIVf2ほか	174	148	118	50	110		B		b		d?
614号土坑	KIVf2ほか	154	92	128	46	90		B		b		d?
615号土坑	KIVf2ほか	196	116	174	82	92		B		b		d?
616号土坑	KIVf2	116	101	81	71	38	A					d
617号土坑	KIVf1	248	166	175	98	133		B		b		d?
618号土坑	GIVe5ほか	174	162	122	121	70	A		a			d?
701号土坑	BIVe1	106	92	64	62	29	A					近・現代?
702号土坑	BIVj3	130	130	116	115	36	A					近・現代?
703号土坑	BIVf4	114	110	68	62	58	A					d
704号土坑	BIVf6	126	112	98	88	22	A					d
706号土坑	CIVe4ほか	198	136	113	79	42		H				近・現代?
709号土坑	CIVe5ほか	214	134	154	64	61		B				d
707号土坑	CIVh6	160	142	98	91	42	A					d
708号土坑	CIVj6	196	90	78	61	37		H				d
801号土坑	MIVa2ほか	180	138	170	132	28	A		a?			d
802号土坑	MIVe4	180	130	168	115	41		H	a?		e?	d
803号土坑	MIVb5	88	86	70	70	46	A		a?			d
804号土坑	MIVc5ほか	128	114	106	90	45	A		a?			d
805号土坑	LIVf4	108	98	88	50	114	A		a?	b	e?	d
806号土坑	LIVj2	198	130	176	112	57		B	a?			d
807号土坑	MIVd10ほか	90	90	83	76	59	A		a			d?
808号土坑	MIVe10	256	194	222	156	79		B				d
809号土坑	MIVb8ほか	156	154	210	202	118	A		a?			弥生?
810号土坑	MIVe9	178	158	157	129	70	A		a?			d
901号土坑	GIVe7ほか	138	136	224	197	122	A		a			d
902号土坑	HIVd4	106	80	117	74	65	A					d
903号土坑	DIVb9	118	72	89	55	40		B				d

(3) 陥し穴状遺構

陥し穴としたものは全部で99基である。

【形態】

遺構の観察表に示したとおり、平面形はAタイプ:溝状をなすもの(37基)、Bタイプ:開口部が楕円形で底部が長方形をなすもの(27基)、Cタイプ:Bタイプと同様であるが底面に小穴を有するもの(26基)、Dタイプ:開口部・底部ともに円形をなすもの(9基)、の4つに分類される。

【分布状況】

タイプ別による分布状況についてみると、Aタイプのもものは集落中心部の広場東側で、計8基(101・204・210・202・401・402・420・検出のみ遺構名なし)が4~8mおきにほぼ等間隔で並列に配置される。地形的にみると緩やかな尾根状の起伏部分を横断するようなところに構築されている。また、集落南東側で4基(406・407・425・424)が2~5mおきに、集落南東側で3基(802・803・805)が10~15mおきにそれぞれ縦列に配置される。これ以外は散在しており、分布の規則性をうかがうことはできないが、集落域以外の調査区は道路を挟んで東西に細長い形をしており、こうした調査区の制約上確認できていないという可能性も考えられる。Bタイプは集落よりも西側の区域に多く確認されており、2~5基程度が並列に連続して配置される密集域が複数みられる。Cタイプについては、底面に小穴を複数有している3基(203・414・421)が約20m間隔で並列に配置される。そのほかの遺構の配置については目立った規則性は認められない。Dタイプの配置については調査区西側のIⅢグリッド付近において3基(619・622・623)が隣接して配置されるが、他は不規則であり、遺構数も少ない。

【時期】

陥し穴の構築された時期を推定する要素として、①遺構が構築、使用された時期に埋まったと思われる出



第171図 陥し穴の形態別分布

土遺物、②土層断面に見られる火山灰など鍵となる層の存在、③大形住居跡をはじめとする他の遺構との重複関係を材料とし、これらを総合的に見ることによって遺構の構築された時期を限定しようとした。しかしながら①についてはこれに見合う出土遺物は無かったため、おもに②、③によって時期を限定することとなった。ただし、これもあくまで相対的な前後関係を把握するにとどまっており、絶対的な構築時期については確認不能である。

調査区全体をおしておもな遺構の新旧関係を把握すると、Dタイプ陥し穴→大形住居跡→A・B・Cタイプ陥し穴となる。A・B・Cタイプ陥し穴の新旧関係の詳細については、検山状況ならびに断面観察等からも前後関係を明確に把握することはできなかった。BタイプならびにCタイプの一部深いものについては、覆土上部にTo-aと推測される火山灰を含む層が確認される。

第5表 陥し穴状遺構一覧表

遺構名	位置	縦横 (cm)				深さ	平面形		
		開口部		裏部			A:溝状 C:楕円2	B:楕円1	D:円形
		長径	短径	長径	短径				
101号陥し穴	LⅡb9ほか	344	53	390	31	152	A		
102号陥し穴	LⅡh10	312	56	304	11	104	A		
103号陥し穴	MⅡh3ほか	382	81	420	26	169	A		
104号陥し穴	MⅡf4ほか	419	65	502	14	171	A		
201号陥し穴	LⅡa3	374	52	350	16	99	A		
202号陥し穴	LⅡa6	(157)	45	(152)	16	140	A		
203号陥し穴	LⅡd6	169	80	122	35	115			C
204号陥し穴	LⅡb3	165	48	202	26	93	A		
210号陥し穴	LⅡa4	(166)	74	(130)	29	147	A		
306号陥し穴	GⅡe8ほか	342	88	394	21	115	A		
307号陥し穴	GⅡd9ほか	356	56	402	22	130	A		
309号陥し穴	FⅡg1ほか	374	74	338	22	123	A		
312号陥し穴	EⅡa10	187	94	429	25	156			C
401号陥し穴	KⅡj7ほか	(176)	41	(192)	16	138	A		
402号陥し穴	KⅡj9	382	44	438	17	140	A		
403号陥し穴	KⅡa9ほか	378	85	346	18	141	A		
404号陥し穴	JⅡj9	168	74	122	29	117		B	
405号陥し穴	JⅡj10	128	57	120	33	93			C
406号陥し穴	JⅡv1	156	60	214	22	120	A		
407号陥し穴	JⅡv2	254	72	274	17	80	A		
408号陥し穴	JⅡv4ほか	296	66	366	25	94	A		
409号陥し穴	KⅡv1	120	68	93	32	84			C
410号陥し穴	KⅡv1	352	56	366	23	77	A		
411号陥し穴	KⅡv2	270	41	254	16	82	A		
412号陥し穴	KⅡv6	144	83	122	46	122			C
413号陥し穴	KⅡv7	210	77	284	24	135	A		
414号陥し穴	KⅡv8	182	92	138	46	131			C
415号陥し穴	KⅡg9ほか	214	160	172	26	137	A		
416号陥し穴	KⅡg8ほか	163	94	124	38	113			C
417号陥し穴	JⅡv3	203	115	130	41	138			C
418号陥し穴	KⅡv2	134	66	92	45	88			C
419号陥し穴	KⅡv10ほか	161	84	196	54	132		B	
420号陥し穴	KⅡv10ほか	328	41	300	10	85	A		
421号陥し穴	KⅡv1ほか	171	75	125	23	127			C
422号陥し穴	KⅡv3ほか	236	50	272	15	102	A		
423号陥し穴	KⅡv3ほか	271	54	315	12	72	A		
424号陥し穴	KⅡv4	297	85	300	23	94	A		
425号陥し穴	JⅡv3ほか	313	50	371	18	109	A		
601号陥し穴	DⅡg4ほか	268	176	102	57	181			C
602号陥し穴	DⅡf7ほか	354	108	302	20	145	A		
603号陥し穴	KⅡa5ほか	386	92	369	20	154	A		
604号陥し穴	EⅡb5	304	176	209	44	188			C

通橋名	位置	規模 (m)					平面形			
		開口部		底部		深さ	A:溝状	B:橋脚	C:橋門	D:円形
		長さ	幅	長さ	幅					
605号橋し穴	B重e6はか	412	60	436	18	95	A			
606号橋し穴	B重f1はか	292	72	194	38	185			C	
607号橋し穴	E重i3	270	(181)	106	(88)	131		B		
608号橋し穴	K重g5はか	192	144	114	98	121				D
609号橋し穴	F重d4はか	296	214	188	140	214		B		
610号橋し穴	G重a3	(79)	(180)	42	(46)	164		B		
611号橋し穴	G重i3	120	116	82	75	134				D
612号橋し穴	G重j3はか	292	184	112	63	190		B		
613号橋し穴	H重h2はか	292	185	227	80	169		H		
614号橋し穴	I重b2	180	114	158	60	119	B			
615号橋し穴	I重c2はか	274	176	200	70	184		C		
616号橋し穴	I重c2	202	118	138	64	79		B		
617号橋し穴	I重c2	200	144	155	80	132		B		
618号橋し穴	G重c4	202	96	165	80	117		B		
619号橋し穴	I重a10	134	142	102	92	148				D
620号橋し穴	I重d2	208	168	134	90	137			C	
621号橋し穴	I重d2	203	160	138	87	123		B		
622号橋し穴	I重e9	174	144	100	72	148				D
623号橋し穴	I重g10	136	106	80	80	116				D
624号橋し穴	I重g1	170	116	136	44	98		B		
625号橋し穴	I重i9	256	186	161	64	180			C	
626号橋し穴	I重h1はか	195	132	177	64	111		B		
627号橋し穴	J重e10	192	154	132	36	143		B		
628号橋し穴	J重e10はか	(240)	(132)	(190)	(84)	150			C	
701号橋し穴	B重d1	178	120	138	28	135		H		
702号橋し穴	B重j7はか	220	122	175	26	164		B		
703号橋し穴	C重a6はか	150	142	168	36	169				
704号橋し穴	C重e4はか	218	138	174	36	146	B			
705号橋し穴	C重e1はか	234	142	168	26	169				
706号橋し穴	C重f8	188	120	147	44	133			C	
707号橋し穴	C重f8	180	100	163	27	144		B		
708号橋し穴	D重e6はか	313	90	311	14	114	A			
709号橋し穴	D重e6はか	129	128	66	65	117				D
710号橋し穴	C重g9	176	82	164	26	128		B		
711号橋し穴	C重h4	200	112	168	30	178	B			
712号橋し穴	F重h3はか	186	162	128	68	135		B		
713号橋し穴	F重c4はか	209	150	118	70	133		B		
801号橋し穴	LIVj3はか	376	54	363	16	91	A			
802号橋し穴	LIVj3はか	(410)	50	422	8	117	A			
803号橋し穴	MIVb6	(322)	76	(192)	22	60	A			
804号橋し穴	MIVe2	204	88	178	32	129		B		
805号橋し穴	MIVd8はか	(309)	106	(298)	14	125	A			
806号橋し穴	M重f9	(126)	42	(96)	7	108	A			
901号橋し穴	E重h7	164	72	132	44	106				C
902号橋し穴	D重f10	175	84	139	28	118		B		
903号橋し穴	D重e9	185	92	194	32	124				C
904号橋し穴	D重d10	233	180	150	44	120				C
905号橋し穴	D重c9はか	190	124	145	31	134				C
906号橋し穴	D重b9はか	184	89	129	26	106				C
907号橋し穴	D重b9	(187)	132	171	24	123				C
908号橋し穴	C重j9はか	210	122	165	25	117				C
909号橋し穴	B重f8はか	215	179	141	30	122				C
910号橋し穴	E重j6はか	396	86	384	19	134	A			
911号橋し穴	K重b9はか	407	74	474	12	145	A			
912号橋し穴	E重j6	138	129	108	89	104				D
913号橋し穴	D重j8はか	94	81	89	82	84				D
914号橋し穴	E重a9はか	147	138	92	92	117				D

(4) 埋 設 土 器

【分布状況】

確認された7基の全てがいわゆる集落内に分布する。このうち6基はいずれも大形住居内の壁際に確認された。残りの1基についても大形住居に隣接して確認されていることから、大形住居と深い関連があることが認められる。

【時期】

遺構はいずれも集落内における住居内部およびその周辺部で確認されていることから、他の集落内遺構と時期を大きく逸脱するものではないと考えられる。埋設されている土器本体について、時期を明確に特定できる判断材料は多くないが、その器形や文様等から(402・406号埋設土器)集落内の遺構の所属する時期とほぼ同時期と推測できる。

【機能】

既存の考古学的情報を総合的に判断すると出入口施設の可能性が最も有力ではあるが、出入口を構成すると思われる柱穴が未確認であること(405号、406号埋設土器など)、大形住居の長軸端に確認されるものがあること(201・401・403・404号埋設土器など)、壁の外側になると推測される位置に埋設されているものも存在すること(401・402号埋設土器)等の状況から、いずれも出入口施設との関連を決定的に裏付けることは出来ないといえる。しかしながら、403号埋設土器内部にはこぶし大の隙が納められており、402号埋設土器内部の埋土には剥片のフレイクが多数混入するなど人為的操作を示唆する状況も確認されることから、出入口施設付近に意図的に設置された埋甕という可能性も否定することはできない。結局のところ、大形住居跡に何らかの形で関連するとしか述べようがない。

(5) 焼 土 遺 構

【分布状況】

分布地域は大きく3つに分けられる。すなわち①集落内の大形住居跡周辺、②調査区内における道路跡とした遺構の東端部、③調査区西部である。

【時期】

①エリアに分布するものについては、大形住居跡周辺において確認されていることから本来的には住居の炉として認定されるべきであったものである可能性が高い。したがって、ほとんどの遺構は集落と同一時期である可能性が高い。②エリアに分布するものについては、周辺部における遺構の確認状況ならびに遺物の出土状況等から判断して近世以降と推測される。③エリアに分布するものについては遺構の検出状況から判断して近世以降の可能性が高い。

(6) 石 器 集 中 部

【分布状況】

調査区のほぼ北端部、集落を中心としてみた場合にも北側に位置するが、集落自体からはやや離れたところ(集落の中心から直線距離約50m)に存在している。周辺の遺構との関連性は特に認められない。

【時期】

石材、加工の状況、周辺からの出土遺物等から総合的に判断して集落が成立していた時期とほぼ同一時期であると推定した。

【機能】

出土した遺物のほとんどは未製品である。このことから、製品として作成する前の一次加工の段階で素材としてまとめて保管（デポジット）していたものではないかと考えられる。

(7) 溝 跡

【分布状況】

集落内北東部、101号住に隣接して部分的に確認されているのみである。

【機能】

遺跡で確認された当該遺構については、事実記載の欄でも述べたとおり遺跡あるいは集落を区画するような意味を持つものではなく、大形住居跡の壁溝（周溝）の一部をなす可能性の方が高い。

(8) 捨 て 場

【分布状況】

調査区のほぼ南端部、集落を中心としてみた場合にも南側に位置する。地形的には集落南側の傾斜変換点から南へ向かいやや急になる地域に集中して遺物が確認された。住居跡等の遺構とも重複しているが、断面観察から住居跡の凹地に人為的に遺物が廃棄された痕跡が確認されたこと、また、他の遺構と重複しない区域においても人為的な遺物廃棄の様相が確認されたため、このエリアを狭義の「捨て場」とした。エリア内に少なくとも2箇所、集中的に遺物が出土する地点が存在する。

また、これとは別に土坑の項目でも述べたが、検出された土坑の中には覆土に多数の廃棄遺物を含むものが幾つか確認されており、これらの遺構についても広義の「捨て場」として考えることにすれば、その分布状況は幾つかの大型住居群に付属して存在するように見てとれる。

【機能】

狭義の「捨て場」については部分的な土層断面の観察から、その覆土に土器・石器以外にも焼土粒などが多量に混入しており、生活の結果生じた不要物を廃棄する場所として使用された可能性が高い。

(9) 道 路 跡

【分布状況】

調査区の北部を東西に横切るように存在する。東側では掘り込みが深く、西側に行くほど壁が低くなる。一見すると大形の溝跡のようにも感じられる。

【時期】

検出状況、古地形図、出土遺物等から総合的に判断して、構築された時期は特定できないが現代のごく最近（昭和30年代ごろか）まで登山道的な道路として機能しており、その後当該地はいわゆる閉塞により畑地となったことから、これをきっかけとして埋没したものと推定される。

2 遺 物

(1) 出土土器について

①大別

今回の調査で出土した土器に関しては、その全ての土器片に目を通した。その結果、文様、モチーフを持つ土器についてはもちろんのこと、粗製土器や縄文の地文のみが施文される破片、あるいは底部のみ残している破片などについても、それらを構成する胎上や内面の調整等を総合的に判断し、そのほとんどが縄

文時代前期、大木4～6式期に属するものと判断した。

②細分

遺跡内出土上器の型式を一般化して把握することを目的とし、次の項目ごとに属性の分類を試みた。

<器形>

底部、口縁部を部分的に欠く資料も存在したが、可能な範囲において全体の器形を推測し分類した。したがって、確実ではないものも含まれている可能性がある。分類はあくまでも概念的な判断によるものであるため、客観的数値によるふり分けの結果ではない。そういった意味で、分類された個々の土器についての所屬に異論が唱えられる要素を含んでいることは否めない。

その結果、口縁部、胴部、底部の状況から大きく4分し、さらに底部が台状を成すか否かで合計7種類に分類した。

- (A) 口縁部が外反し胴部が膨らむもの（このうち台状の底部となるものはA'）
- (B) 口縁部が垂直もしくは内反きみのもの（このうち台状の底部となるものはB'）
- (C) 口縁部から底部にかけて全体的に外反するもの（このうち台状の底部となるものはC'）
- (D) 口縁部から底部までほぼ真直ぐのもの

<施文・装飾等の加工>

本遺跡で出土している土器への施文・装飾の手法に関する共通的特徴として以下があげられる。

- (a) 刺突や押印の施された隆帯（やや太め）とそこから垂下する文様
- (b) 沈線（溝幅狭く二条が平行・溝幅広く単独）
- (c) 刻み等の加工により形成される鋸歯状装飾、刺突・沈線等を施した口縁部の環状装飾
- (d) 波状（電光状）を基調とする紐状の隆帯（細め）による文様

<施文・装飾の展開する部位>

上記の施文・装飾が土器のどの部位に展開するかについては以下のように分類した。

- (I) 口唇部・口縁部装飾のみに展開
- (II) 頸部に限定された展開
- (III) 頸部から胴部中央付近まで広がった展開
- (IV) 無文または地文のみ

以上の分類の結果を示したものが表6（土器分類表）である。これによると、器形全体を確認または推測することができ、分類の対象と成り得たものは全部で111点存在した。器形毎の分類数はA型（A'含む）が24点、B型（B'含む）が38点、C型（C'含む）が19点、D型が30点である。施文・装飾の展開する部位について見ると、Iが23点、IIが31点、IIIが10点、IVが47点となっている。A、B、D型についてはIV型（無文または地文のみ）が最も多く分類された。その他比較的多数の土器が分類された型式としては、AIIa型、BIIc型、CIIa型、DIIa型があり、器形と施文、文様や装飾の展開する部位との関係がある程度うかがうことができる。

（2）出土石器について

<器種別の出土数>

出土した全石器数（剥片石器についてはUフレ剥片を除く定型および不定形石器として分類したものの総数）に対する機種別の割合についてみると、剥片石器については1986点中Rフレが687点で34.6%と最も多く、以下石鏃が507点（25.5%）、削・搔器が228点（11.5%）、石匙153点（7.7%）、石鏝147点（7.4%）、尖頭器100点（5.0%）、石核67点（3.4%）、打製石斧52点（2.6%）、尖頭器様11点（0.6%）などとなっている。

第6表 土器分類表

	I		II				III				IV		
	a	b	c	d	a	b	c	d	a	b		c	d
A	199	2	792	676	212, 248, 232, 261, 442, 517,		680d	368,	896bd	192			1, 9, 45, 197, 370, 692
A'						7		375		121		481	
D	444		477, 479, 549, 965, 613, 665, 667, 696		223d, 660, 661	367c, 757c				361,	842d		120, 164, 191, 195, 272, 292, 319, 418, 452, 552, 612, 673, 752, 758, 793, 839, 894
B'			483, 484, 795, 833		794								
C			32, 621		132c, 522, 687, 841d		302d,	121, 614		672	482d	437, 438	
C'	215d		265d, 380,				446d, 755d						891
D			722		122, 373, 436, 445, 618	365							89, 90, 91, 123, 126, 190, 316, 366, 369, 431, 438, 516, 551, 564, 602, 620, 674, 675, 689, 723, 797, 834, 838

同様に礫石器については2585点中凹み石頭が1176点で45.5%と最も多く、以下スリ石類675点(26%)、石錘461点(17.8%)、台石151点(5.8%)、石皿63点(2.4%)などとなっている。

<使用石材について>

出土した石器の使用石材について、剥片石器では頁岩が圧倒的に多く、鑑定全体数1986点に対し1748点で88.0%を占める。器種別の石材割合についても頁岩は打製石斧の30.8%、石核の70.1%を除いた他の器種で80%をいずれも上回っている。

石製品について使用石材として最も割合が高いのは頁岩で、全体数158点に対し65点で41.1%を占める。このうち燕尾形石製品は100%、石剣は79.3%、磨製石斧は50.9%の割合でそれぞれ頁岩が使用されている。また、块状耳飾の90.9%は凝灰岩で占められている。

礫石器については、安山岩が鑑定全体数2568点に対し1466点で57.1%を占め最も割合が高い。器種別の割合についても石棒と石錘を除いた全てにおいて50%を上回っている。

3 年代測定値について

遺跡から出土した遺物のうち、土坑および住居址から採取した炭化材4点、土器に付着した炭化物3点の計7点について、β線ならびにAMSによる14C年代測定を行った。その結果、得られた年代測定値と土器型式について、本遺跡と近隣にある宮城県周辺の遺跡から得られた年代測定値との相対的な比較をしたものが表8である。これによれば、本遺跡から得られた測定値(補正年代)は4570±40~4920±40の範囲となり、宮城県周辺の各遺跡とは土器型式ならびに14C年代値において大きな齟齬は認められないといえる。なお、表への掲載について、集落を構成する時期から逸脱すると考えられる測定値となった3点の土坑については除外している。

第7表 器種別石材構成一覽表

制片石器

器種 合計	頁石 割合	燧石 割合	珪質 頁岩	砂岩	赤色 頁岩	チャ ート	デイ サイト	ホルン フェルス	流紋岩	凝岩	安山岩 の割合	石英 安山岩	蛇紋岩	閃緑岩	ヒン岩	柱状岩	玄武岩	磨岩	マイロカコフ ナイト閃緑岩	斑岩	閃緑岩	その他		
石鏃	307	454	89.3	35	3	1	10	1	3															
石鏃	34	29	85.3	3			2																1	
尖頭器	100	93	93.0	3			1	1	1															
尖頭器類	11	11	100.0																					
石鏃	159	135	88.2	2			13	1	1															
石鏃	147	129	87.8	3			1	2	1	7														
削・風磨	228	195	86.0	11	2	4	3	1	2	4	5												5	
打製石片	52	15	30.8	5			52	1	22	1														
石鏃	67	47	70.1	5	2		3	1	7	2														
Rフレ	687	638	92.9	23	2	5	11	1	3	4														
Uフレ	663																							
計 (Uフレ除く)	1985	1748	88.0	92	11	12	45	2	14	37	18	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	6	

石製品

器種 合計	頁石 割合	燧石 割合	珪質 頁岩	砂岩	赤色 頁岩	チャ ート	デイ サイト	ホルン フェルス	流紋岩	凝岩	安山岩 の割合	石英 安山岩	蛇紋岩	閃緑岩	ヒン岩	柱状岩	玄武岩	磨岩	マイロカコフ ナイト閃緑岩	斑岩	閃緑岩	その他	
磨製石片	55	28	50.9	5			3		6														5
有孔石製品	5	2	33.3	2			1																
石鏃石製品	3	0.0									1	2											
石鏃	29	23	79.3	2					2														
塊状片鏃	11	1	9.1	10																			
彫刻形石製品	2	2	100.0																				
彫刻形石製品	1	0.0																					
不明	51	9	17.6	23			8	1	4	1	3												
計	158	65	41.1	42	0	12	1	0	5	9	0	1	5	1	2	2	2	5	0	0	0	0	5

礫石器

器種 合計	頁石 割合	燧石 割合	珪質 頁岩	砂岩	赤色 頁岩	チャ ート	デイ サイト	ホルン フェルス	流紋岩	凝岩	安山岩 の割合	石英 安山岩	蛇紋岩	閃緑岩	ヒン岩	柱状岩	玄武岩	磨岩	マイロカコフ ナイト閃緑岩	斑岩	閃緑岩	その他		
タタキ系	29	4	13.8	1					2															
台石(石皿)	151	2	1.3	2			4		1		15	51.72	4										2	
石鏃	13	2	15.4				1				102	67.55	33											
石鏃	461	68	14.8	69			1	30	6	2	156	33.84	59						2				4	
スリホ	675	20	3.0	34			15	6	2		433	64.15	106						3				7	
凹面系	1175	58	5.0	68			69	1			724	61.56	171						1				9	
石鏃	63	3	4.8	1			4				34	53.97	17						1				1	
不明	17											0.00												
計	2568	157	6.1	175	0	169	1	91	24	9	3	1466	57.09	386	0	1	3	0	2	9	6	38	1	22

第8表 宮城県周辺の遺跡から得られた14C年代測定値との比較 (伊藤2002を編集)

時代	土器型式	14C年代(yr B.P.)	試料	α-DNA	試料採取地点	文献		
早期	素山(観木)	7,770±160	貝	GaK-13313	上川名貝塚	藤井(1988)		
		7,730±160	貝	CaK-13316	素山貝塚			
		7,340±139	貝	GaK-13314	松崎貝塚			
		6,970±130	貝	GaK-2846	岩手県森沢町		小野寺(1971)	
		大木1~2a	6,820±120	貝	TH-496	宇賀崎貝塚	宮城県教育委員会(1980)	
		大木1~2	5,680±120	炭	N-2091	三神釜遺跡	仙台市教育委員会(1980)	
		大木2	4,565±160	貝	TH-035	宇賀崎貝塚	宮城県教育委員会(1978)	
		大木2~3	5,720±100	貝	GaK-13315	平出原貝塚	藤井(1988)	
		大木2~3	4,430±120	炭	TH-300			
		大木3	4,910±120	貝	TH-260	大木貝貝塚	七ヶ浜町教育委員会(1979)	
4,830±120	貝		TH-261					
4,760±120	貝		TH-262					
	大木3~4	4,710±130	炭	TH-298	宇賀崎貝塚	宮城県教育委員会(1980)		
5,110±100		貝	TH-497					
4,380±120		炭	TH-302c	大木貝貝塚			七ヶ浜町教育委員会(1979)	
	大木4	4,010±150	貝	TH-036	宇賀崎貝塚	宮城県教育委員会(1978)		
		大木4~5a	4,990±120	貝	TH-263			
	大木4~5a	4,780±120	貝	TH-264	大木貝貝塚	七ヶ浜町教育委員会(1979)		
		大木4~5a	4,030±130	炭			TH-304b	
	大木5a	4,880±120	貝	TH-265	大木貝貝塚	七ヶ浜町教育委員会(1979)		
		大木5a	4,440±120	炭			TH-305b	
		大木5~8	4,920±40	炭化物			IAAA-31249	大清水上
			大木5~8	4,710±40			炭化物	
	大木5~8	4,690±100	炭化材	IAA-253				
	大木5~8	4,570±40	炭化物	IAAA-31250				
中期	大木9a	3,320±95	炭	N-4130	梨野A遺跡	仙台市教育委員会(1983)		
		3,960±125	貝	N-575	南境貝塚	Koyama(1978)		
後期	南境	3,810±80	炭	N-4437	梨野A遺跡	仙台市教育委員会(1985)		
		3,770±60	木	Beta-128333	出浜貝塚	鳴瀬町教育委員会(1990)		
		3,610±60	木	Beta-128334				
	宝ヶ墓	3,300±60	木	Beta-128332				
	金剛寺	3,690±190	木	GaK-13776	郡山遺跡	仙台市教育委員会(1992)		
晚期	大湖B	3,010±90	貝	TH-503	田所貝塚	宮城県教育委員会(1986)		
		2,950±70	貝	TH-502				
	大湖C2	2,680±160	炭	GaK-13797	郡山遺跡	仙台市教育委員会(1992)		
		2,820±80	貝	TH-504	田所遺跡	宮城県教育委員会(1986)		
		2,970±110	炭	TH-736	甲浜貝塚	東北歴史資料館(1982)		
		2,870±110	炭	TH-735				
		2,770±85	炭	N-2309				
		2,730±90	炭	N-2311	泉瀬浦遺跡	宮城縣文化財保護課(1976)		
	2,570±90	炭	N-2312					
	2,510±85	炭	N-2310					
大湖C2~A・A'	2,620±140	炭	CaK-13798	郡山遺跡	仙台市教育委員会(1992)			
大湖A~A'	2,480±75	炭	N-4131	矢野A遺跡	仙台市教育委員会(1985)			
前期	青木畑	2,460±100	炭	GaK-13787	郡山遺跡	仙台市教育委員会(1992)		
	山下草野	1,560±120	炭	GaK-13073	山王田遺跡	一泊町教育委員会(1996)		
	樹形遺式以前~樹形遺	2,500±80	木	N-4910	富沢遺跡	仙台市教育委員会(1989)		
		2,370±75	木	N-4911				
		2,390±75	木	N-4909				
中期	樹形遺	2,350±150	木	GaK-13517		仙台市教育委員会(1988)		
		2,500±60	骨	Beta-86226				
	十三塚	2,230±50	木	Beta-86228	中在家南遺跡	仙台市教育委員会(1996)		
		2,300±70	貝	Beta-86227				
後期	天干山	1,710±110	木	GaK-13518	富沢遺跡	仙台市教育委員会(1988)		
	天干山	2,030±80	炭	N-2959	上ノ原A遺跡	一泊町教育委員会(1978)		

VII まとめ

1 胆沢ダム大清水上遺跡調査委員会

平成11年度に試掘調査を行い、平成12年度から平成16年度の5年にわたり発掘調査が行われた本遺跡は、1年目（平成12年）に人形住居跡の存在が明らかとなり、2年目（平成13年）にはそれが中央部の広場を取り囲むように位置するいわゆる環状集落の様相をなすものであることが明らかとなった。さらに3年目（平成14年）には捨て場の存在が判明し、4年目には集落全体の範囲がおおよそ確定することとなった。発掘調査開始当初は、調査区域が限定されていたこともあり、これほどの大集落が地下に眠っていることを予想することはできなかった。1年目の調査が終了した時点で、大形住居跡の立地にある程度の規則性を感じることはできたものの、それは確実なものではなく推測に過ぎないものであった。しかしながら、2年目、3年目と調査を続けるほど、大形住居跡をはじめとする遺構はもちろん、遺物についても縄文時代前期後葉に位置付けられる稀少なものが出土し、遺跡は専門家をはじめとして世間一般の注目までも浴びることとなった。

こうした中、委託者である胆沢ダム工事事務所は岩手県教育委員会及び胆沢町教育委員会との協議を重ね、遺跡の貴重性を重要視し、胆沢ダム建設事業と埋蔵文化財保護の協調及び調和を図るため、発掘調査方法及び調査方針について専門的立場からの見解を得るための委員会である「胆沢ダム大清水上遺跡調査委員会」（以下「委員会」）を3機関共同の事務局として発足させた。委員名は以下のとおりである（所属、職名、氏名は発足当時のもの 第9表）。

第9表 胆沢ダム大清水上指導委員会委員名簿

所 属	職 名	氏 名	備 考
廣 岡 大 学	文学部教授	熊谷 常正	委 員 長
弘 前 大 学	人文学部教授	藤沼 邦彦	副委員長
八 戸 工 業 大 学	工学部教授	佐々木幹夫	委 員
岩 手 考 古 学 会	会長	瀧川 司男	委 員
秋 田 県 立 博 物 館	館長	宮 堅 泰時	委 員
東北芸術工科大学	歴史遺産学科教授	宮木長二郎	委 員
岩手県教育委員会	文化財保護監	小山野智憲	委 員
胆 沢 町	助役	岩 城 寛	委 員
胆沢ダム工事事務所	所長	佐藤 克英	委 員

委員会においては遺跡についての学術的な議論がなされその重要性が高まる中、コア材の採取地を本遺跡地以外に求めることの可否等についても検討されることとなった。その結果、平成16年8月4日に開催された第3回委員会において、集落を中心とした直径約150mで囲まれる部分について、この区域を回避してコア材の採取を行うこととし遺跡の保存を決定した。

2 集落の全体像

本遺跡で確認されたような集落は、縄文時代の社会において食料貯蔵が計画的に行われ定住化が進んだ結果形成されたものと考えられている。こうした環状集落は、縄文時代前期中葉～後葉において、関東では根古谷台遺跡（栃木県）の黒浜式期からみられ、中野谷松原遺跡（群馬県）、鷲森（埼玉県）、七社神社前（東京都）、飯山満東（千葉県）、木戸先（千葉県）、南羽鳥中崎1-E（千葉県）などの諸儀式土器分布圏

に、また東北では南部の縄織新田遺跡（岩手県遠野市）、蟹沢館遺跡（岩手県北上市）、上ノ山Ⅱ遺跡（秋田県協和町）などの大木式土器分布圏に典型的かつ集中してみることができ、この他にも中部高地の阿久遺跡（長野県原村）で確認することができる。このような動きは、本遺跡が位置する奥羽山脈ならびに北上高地を含む北上川中下流域においても関東・中部以北の本州地域と軌を同一にしていると考えられ、その後縄文時代中期になって東日本一帯に広まる大規模集落遺跡形成の基盤を担ったものと推測される。

第10表 おもな環状集落遺跡

遺跡名	所在地	時期	備考
根古谷台	栃木県宇都宮市	前期中葉（黒沢式）	
縄織新田	岩手県遠野市	前期中葉（大木3～4式）	
蟹沢館	岩手県北上市	前期中葉（大木2～5式）	
上ノ山Ⅱ	秋田県協和町	前期後葉（大木4～5式、円筒下層式）	
大清水上	岩手県胆沢町	前期後葉（大木5式）	本遺跡
中野谷松原	群馬県安中市	前期後葉（諸磯b式）	
鷺森	埼玉県上福岡市	前期後葉（諸磯式）	
七社神社前	東京都北区	前期中葉～後葉（諸磯式）	
飯山満東	千葉県船橋市	前期後葉（夏島式、稻荷台式）	
木戸先	千葉県四街道市	前期後葉	
南羽島中嶋1-B	千葉県成田市	前期後葉	
阿久	長野県原村	前期	
北野	新潟県上川村	前期後葉	
嘉倉貝塚	宮城県築館町	前期末～中期初頭（大木6式）	
高瀬山	山形県寒河江市	前期末（大木5～6式）	
峠山牧場1-B	岩手県湯田町	前期末（大木6式）	
清水上	新潟県堀之内町	中期前葉？	
和泉A	新潟県中郷町	中期初頭～前葉（五箇ヶ台Ⅱ式）	
西海湖	山形県村山市	中期	
五丁歩	新潟県塩沢村	中期（大木7b～8a式）	
西田	岩手県紫波町	中期（大木8a）	

本遺跡の環状集落は、中央広場（直径約20m）を中心に大形住居帯とその外側の小形竪穴・土坑城（直径約110m）から構成されている。この集落規模は上ノ山Ⅱ遺跡（秋田県、広場25m、集落150m）、嘉倉貝塚（宮城県、広場30m、集落120m）などとほぼ同様である。

中央の広場に墓塚や独立柱建物を持たないこと、限定されたエリアへ群在するような貯蔵穴が確認されない点などは、縄文中期に特徴的な環状集落とは相違するものである。特に注目すべきは大形住居と密接に関連する小形竪穴で、主柱穴の存在などから覆いがあったことは容易に推測できる。同時に炉が存在しなかったことも確認されており、堅果類の出土は見なかったものの、機能的には貯蔵施設の可能性が高いと考えられる。考察でも述べたとおり、このような小形竪穴はこれまでまとまった報告例がほとんどないため、その機能をはじめとする詳細については不明点が多い。もし前述したように貯蔵施設だとすれば、この時期における定住生活のあり方について考えるための重要な手がかりと成り得るといえる。また、頻繁に行われている住居の建て替え・拡張作業は定住生活の展開を具体的に示すものであり、同時に集落内での占地について大形住居を単位とする集落内における相互の規制が働いていたことも推測できる。これらの活動は基本的に大木5式期を中心とする極めて限定された時期に展開していたものであり、そういった意味で、この時期における集団組織を具体的に把握することのできる貴重な事例といえる。

出土した遺物からは、燕尾形石製品やイチジク形石製品など、同時期に展開していた他の集落遺跡と同様の川七品が確認された。これらにみられるデザインの共通性は、当時のイノベーションの広がりをも具体的に示唆するものとも推測される。また、特定の石器石材については地元奥羽山脈産ばかりではなく、遠く北上高地の早地峰山塊付近に特徴的なものも存在しており、石材の搬入も盛んに行われていた。こうしたことから、本遺跡はいわゆる拠点集落もしくは定住集落到位置づけられるものであり、縄文時代の集落ネットワーク及び集落構造を解明する上で貴重な資料を提供してくれていると言える。

縄文時代の集落に関してはこれまでも各方面において盛んに議論されてきており、その内容としては谷口(1998b)が述べているように①方法論的問題、②竪穴住居跡の重複および廃絶後の現象に関する問題、③集落の安定性・移動性の問題、④環状集落と集落規模をめぐる見解の相違、など多岐にわたる。これらはいずれも縄文集落の解明という命題に対し、さまざまな角度・切り口から検討を試みているものであり、それぞれ参考にするべき考え方であることは言うまでも無い。しかしながら、一方で議論の大前提となる部分、いわゆる考古学的リテラシーとでも呼ぶべき部分での共通認識が一致しないままに各々の持論を展開しているという傾向も見受けられ、本来どの前提項目(条件)も同じ色で同じ分量だけ持ち合わせているはずのそれが各研究者によってトレード・オフの状態になり、結果として各々の主張の違いとなって表現されているに過ぎない状態になっているように思える。したがって、こうした部分が解決されていくことによって、現時点で行き詰まっている問題が解決の方向に向かう可能性が考えられる。加えて、このような集落研究の趨勢というものがあくまで「横切り」の通過点に過ぎないものであるとの前提に立てば、今後新たな情報の獲得と議論の深化によって、更なる進化・発展を遂げる可能性は十分持っていると考えられる。

3 おわりに

報告書という性格上、発掘調査で得られた事実を忠実に伝えるということについては、拙い記述ながらも意識してきたつもりである。しかしながら、調査の結果から得られた様々な事実についての詳細な考察については、その時間的および紙面的制約等から、別の機会に委ねざるを得ない。大形住居ならびに小形竪穴の関係と機能的な問題、当該時期における集落の構成要素とその姿、土器型式の普遍性と地域性など、今後さらに詳細な分析と検討が必要な事項は枚挙に暇がない。

遺跡の集落部分については保存されることとなったわけであるが、遺跡の一部が保護されるという結論に至るまでの道のりは長く険しいものであった。ダム事業と埋蔵文化財保護との調整に係る方向性が定まらず、その声を聞くことのないまま遺跡の発掘調査を進めなければならなかったことは、発掘調査現場の担当者にとってみれば厳しい判断と対応を迫られるものであったと言わざるを得ない。発掘調査の比較的初期である遺構検出段階において、本遺跡が広場を有する環状集落の様相をなすであろうことは確実に把握されており、然るべき機関への情報提供も行われてはいたが、一方では開発、また一方では遺跡保存といった相反する声の間で、困難を極める調整作業を慎重にすすめるべきならなかったことは想像に難くない。しかしながら、この開発調査現場は前述した課題と不安を抱えながら緊急発掘調査を継続しなければならなかったこともまた事実である。最終的に遺跡の集落部分については保護されるという結果に至ったわけであるが、結論と過程に釈然としない何かが残ってしまった感がある。

野外調査ならびに室内整理においては、調査委員会の委員をはじめとする関係機関の方々から学術的・専門的な指導を賜った。委員長である熊谷常正氏からは遺跡の総合的な位置付けについて、宮本長二郎氏からは大形住居跡の柱穴配置と建替え・重複について、富樫泰時氏からは大形住居跡の空間利用と他遺跡との比較などについてそれぞれご指導賜った。宮城県教育委員会の佐藤憲幸氏には遺構や遺物の情報交換について

熱心に対応していただいた。北上市埋蔵文化財センターの稲野裕介氏には野外および室内にわたり情報交換ならびにご指導を賜った。6年におよぶ野外発掘調査期間中、たくさん作業員の方々に協力いただいた。天候の急変や調査方針等の変更による突発的な出来事にも、黙々と対応していただいたその姿には全く頭が下がる思いである。仕事とはいえ、作業員の献身的協力なくして発掘調査は成立し得ないことは言うまでも無い。深く感謝申し上げるとともにこの場を借りてあらためてお礼申し上げます。

引用・参考文献（Ⅵ・Ⅶ章）

- 浅井澄男 2001. 『堅穴住居の空間分布に関する復原研究』奈良国立文化財研究所平城宮跡発掘調査部
- 阿部勝則 2000. 『峰山牧場1遺跡B地区発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第320集
- 安斎正人 1998. 『縄文式生活構造・土俗考古学からのアプローチ』同成社
- 伊藤黒文 2002. 『宮城県における縄文および弥生時代の土器編年とC-14年代』宮城考古学第4号 p121~126
- 稲野裕介 1991. 『大木式土器にみられる球形形深鉢について』北上市立博物館研究報告第8号
- 小笠原好彦 1968. 『東北地方南部における前期末から中期初頭の縄文式土器』宮城県教育大学歴史研究会編、仙台湾周辺の考古学的研究宮城県の地理と歴史第3集
- 興野義一 1970. 『大木5b式土器の掘出 宮城県長春原遺跡出土資料による一』古代文化XXII縄文時代前期特輯 97p
- 興野義一 1967~1970. 『大木式土器理解のために（I）~（VI）』考古学ジャーナル
- 興野義一 1984. 『大木式土器について』宮城の研究第1巻考古学篇
- 興野義一 1990. 『宮城県山土土製品2種の報告』伊東信雄先生追悼論文集刊行会編 伊東信雄先生追悼 考古学古代史論叢
- 柏倉亮吉他 1955. 『吹浦遺跡』庄内古文化研究会
- 金子昭彦 2002. 『新田遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第405集
- 草間俊一・伊藤鉄夫 1963. 『宮沢原・大清水上遺跡』沢村村教育委員会
- 工藤泰博 1982. 『大形住居址（東北地方）』季刊考古学第1号
- 小向裕明・佐藤浩彦 2002. 『新田II遺跡』遼野市埋蔵文化財調査報告書第13集
- 斎藤邦夫・酒井宗孝 1994. 『岩手県の縄文期部制遺構について』北奥古代文化第23号
- 佐藤宏之 2000. 『北方狩猟の民族考古学』北方新書
- 谷口康浩 1998b. 『縄文時代集落論の争点』国学院大学考古学資料館紀要第14輯 43~86p
- 佐藤康幸・三好秀樹 2003. 『高倉貝塚』宮城県文化財調査報告書第192集
- 田中英司 2001. 『日本先史時代のデジ』考古学雑誌
- 田村社一 1987. 『陥し穴状遺構の形態と時期について』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター紀要Ⅶ p25~44
- 千原正彦 2001. 『清水・野道跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第351集
- 富樫泰時 1996. 『杉沢台遺跡人形住居跡考』国産点検 山内清男先生没後25年記念論集
- 中村 大 2000. 『土器の出土状態からみた土壌層の認定について 縄文時代の北日本を中心として』国学院大学考古学資料館紀要第16輯
- 中村良幸 1982. 『大型住居』縄文文化の研究第8巻 社会・文化
- 林 謙作 2001. 『縄文社会の考古学』
- 堀越正行 1975. 『小堅穴考（1）』史館第五号
- 堀越正行 1976. 『小堅穴考（2）』史館第六号
- 堀越正行 1977. 『小堅穴考（3）』史館第八号
- 堀越正行 1977. 『小堅穴考（4）』史館第九号
- 松田光太郎 2003. 『大木6式土器の変遷とその地域性—縄文時代前期末葉の東北地方中・南部の土器編年—』神奈川考古第39号
- 胆沢町教育委員会 1973. 『意刈遺跡調査報告書』
- 武藤康弘 1993. 『堅穴住居の面積』季刊考古学第44号
- 武藤康弘 1997. 『縄文時代前・中期の長方形大型住居の研究』住の考古学 藤本 逸編
- 村上 拓・佐々木芳 1996. 『牧田貝塚発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第211集

- 青森県教育委員会 1983, 『近野遺跡発掘調査報告書(IV)―青森県総合運動公園建設関係発掘調査―』青森県埋蔵文化財調査報告書第47集
- 胆沢町教育委員会 1973, 『萱刈塚遺跡調査報告書』
- 岩手県教育委員会・日本道路公団 1982, 『東北縦貫自動車関係埋蔵文化財調査報告書XV-1・2(江釣子村崎岡崎遺跡)』岩手県文化財調査報告書第70集
- 岩手県教育委員会・(財)岩手県埋蔵文化財センター・建設省岩手工事事務所 1983, 『荒谷A遺跡発掘調査報告書』岩手県埋蔵文化財調査報告書第57集
- 宇都宮市教育委員会 1988, 『壘山公園遺跡書V―根古谷台遺跡発掘調査概要―』宇都宮市埋蔵文化財調査報告書第24集
- (財)岩手県埋蔵文化財センター・建設省岩手工事事務所 1983, 『上里遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第35集
- 縄文時代文化研究会 2001, 『列島における縄文時代集落の諸様相』第1回研究会基礎資料集
- 東北大学文学部 1982, 『考古学資料図録Vol.1』
- 福島県教育委員会・(財)福島県文化センター・地域振興整備公団 1996, 『相馬開発関連遺跡調査報告IV本文1』
- 山形県教育委員会 1998, 『次浦遺跡第3・4次緊急発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書第120集

附編 1 放射性炭素年代測定(1)

バリノ・サーヴェイ株式会社

1 試 料

試料は、451号土坑及び809号土坑より出土した炭化材2点(Na1・2)と411号住居跡・412号住居跡・101号住居跡のそれぞれ床面付近より出土した土器の内面に付着していた炭化物3点(Na3~5)の計5点である。上記の土坑より出土した炭化材は、いずれも覆土下層より採取されているが、発掘調査時の所見ではいずれも床面よりも上位より出土している。また、土器内面に付着した炭化物は、金属製のナイフにより削られ採取されている。試料Na5については分析の前処理段階で十分な炭素量が得られなかったため、再度同様な方法によって採取された炭化物を追加し測定を実施した。試料の詳細等は、測定結果を示した表1とともに示す。

2 分 析 方 法

測定は株式会社加速器研究所の協力を得て、AMS法により行った。なお、放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。また、測定年代は1950年を基点とした年代(BP)であり、誤差は標準偏差(One Sigma)に相当する年代である。なお、暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV4.4 (Copyright 1986-2002 M Stuiver and PJ Reimer)を用いた。

3 結 果

結果を表1、較正暦年を表2に示す。5点の試料のうち、土坑より出土した炭化材のNa1とNa2は、1800~1900年前の測定年代(同位体補正年代)を示し、土器内面に付着した炭化物であるNa3~5は、4600~4900年前という年代を示す。

4 考 察

今回の年代測定を実施した炭化材の出土した土坑は、縄文時代前期の広場を中心として住居跡が分布する範囲の外側に位置している。また、以前に実施した今回と同様な土坑(170号土坑)より出土した炭化材の分析結果では、2070-70BP(補正年代, IAA-254)という値を得ている。この年代は、今回のNa1・2で測定された年代に近似しており、いずれも弥生時代頃の年代を示す。前報では、土坑の構築年代について弥生時代である可能性と土坑の埋没過程で当時期の炭化材の混入した可能性を指摘した。今回の分析結果も考慮すると、これらの土坑が住居跡と同時期のもので約2000年以上の時間を経た後に、複数の土坑にはほぼ同時期の炭化材が混入するという状況は考え難い。したがって、これらの土坑は弥生時代頃の遺構の可能性が高い。

一方、土器内面に付着した炭化物は約4600~4900年前と約300年程度の幅はあるが、概ね近似する値を示した。また、以前に実施した408号住居跡の床面直上付近から出土した炭化材の分析結果では4630±100BP

(補正年代, IAA-253) といった値を得ており、今回得られた年代幅に収まる。これらの年代値についての評価は前報でも述べたが、東北地方における縄文時代前期の年代に相当し、土器型式から推定される年代観とも概ね調和する(キーン・武蔵, 1982)。

なお、今回の測定で認められた300年程度の年代幅をもって、本遺跡で検出された集落の存続期間、あるいは土器型式の製作あるいは使用期間といった点を評価することはできない。この点については、遺構の重複関係や分析対象とした土器型式の細分類といった考古学的所見から評価し、検討することが重要である。また、試料の由来や履歴、測定上の要因等による可能性もあるため、これら種々の要因も考慮し検討する必要がある。

表 1 放射性炭素年代測定結果

No	試料名	出土遺構	層位	試料の質	種類	補正年代 BP	$\delta^{13}C$ (‰)	測定年代 BP	Code No
1	451号土坑出土炭化物	451号土坑	床面直上付近	炭化材	ヤクラ断	1810 ± 30	-25.02	1810 ± 30	IAAA-31247
2	809号土坑出土炭化物	809号土坑	覆土最下部付近	炭化材	イネ科タケ茎料	1940 ± 40	-8.15	1870 ± 40	IAAA-31248
3	土器No477	411号住居	床面付近	土器内面付着炭化物	-	4920 ± 40	-21.03	4910 ± 40	IAAA-31249
4	土器No481	412号住居	床面付近	土器内面付着炭化物	-	4570 ± 40	-22.23	4580 ± 40	IAAA-31250
5	土器No.7	101号住居	床面付近	土器内面付着炭化物	-	4710 ± 40	-26.40	4730 ± 40	IAAA-31251

- 1) 年代値の算出には、Libbyの半減期568年を使用。
- 2) BP年代値は、1950年を基点として何年前であることを示す。
- 3) 付記した誤差は、測定誤差の(測定値の68%が入る範囲)を年代値に換算した値。

表 2 暦年校正結果

No	補正年代(BP)	暦年校正年代 (cal)						相対比	Code No
		cal AD	cal AD	cal AD	cal BP	cal BP	cal BP		
1	1810 ± 30	cal AD 134	cal AD 161	cal AD 198	cal BP 1,816	-	1,789	0.259	IAAA-31247
		cal AD 169	cal AD 198	cal BP 1,781	-	1,752	0.290		
		cal AD 208	cal AD 244	cal BP 1,742	-	1,706	0.450		
2	1940 ± 40	cal AD 23	cal AD 86	cal BP 1,927	-	1,864	0.009	IAAA-31248	
		cal AD 102	cal AD 121	cal BP 1,848	-	1,829	0.991		
		cal BC 3,756	cal BC 3,746	cal BP 5,706	-	5,636	0.988		
3	4920 ± 40	cal BC 3,712	cal BC 3,652	cal BP 5,662	-	5,602	0.912	IAAA-31249	
		cal BC 3,487	cal BC 3,473	cal BP 5,437	-	5,423	0.085		
		cal BC 3,370	cal BC 3,333	cal BP 5,320	-	5,283	0.487		
4	4570 ± 40	cal BC 3,212	cal BC 3,189	cal BP 5,162	-	5,139	0.194	IAAA-31250	
		cal BC 3,155	cal BC 3,124	cal BP 5,106	-	5,071	0.234		
		cal BC 3,623	cal BC 3,593	cal BP 5,575	-	5,543	0.241		
5	4710 ± 40	cal BC 3,524	cal BC 3,500	cal BP 5,474	-	5,450	0.209	IAAA-31251	
		cal BC 3,453	cal BC 3,443	cal BP 5,403	-	5,393	0.061		
		cal BC 3,424	cal BC 3,378	cal BP 5,384	-	5,328	0.489		

- 1) 計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV4.4 (Copyright 1986-2002 M Stuiver and P.J. Reimer) を使用
- 2) 付記した誤差は、測定誤差の(測定値の68%が入る範囲)を年代値に換算した値。

放射線炭素年代測定 (2)

パリオ・サーヴェイ株式会社

1 試料

試料は、408号住居の床面直上付近から出土した炭化材1点と、470号土坑覆土最下部付近から出土した炭化材1点の合計2点である。

2 方 法

測定は、 β 線計数法で行い、放射性炭素の半減期はLIBBYの5570年を使用する。なお、測定は、株式会社加速器分析研究所(IAA)が行った。

3 結 果

放射性炭素年代測定結果を表1に示す。なお、年代測定に用いた炭化材は、別報にて同一個体の樹種同定を行っており、いずれも落葉広葉樹のクリに同定されている。

表1 放射性炭素年代測定結果

遺構	出土位置	試料の質	年代	$\delta^{13}C$	補正年代	Code No
408号住居	床面直上付近	炭化材(クリ)	4690 \pm 100BP	-25.3‰	4690 \pm 100BP	IAA-253
470号土坑	覆上層下部付近	炭化材(クリ)	2080 \pm 70BP	-25.4‰	2070 \pm 70BP	IAA-254

1) 年代測定は、 β 線計数法による。

2) 年代は、1950年を基点とした年数で、補正年代は $\delta^{13}C$ の値を基に同位体効果による年代誤差を補正した値。

3) 放射性炭素の半減期は、5570年を使用した。

4 考 察

408号住居跡は、縄文時代前期の環状集落跡を構成する住居跡の1軒と考えられる。出土した炭化材の年代は、4690BP(補正年代4690BP)であった。キーン・武藤(1982)によれば、東北地方の縄文時代前期の年代は、北部の円筒下層式土器に伴う炭や貝の未補正値で4790BP~4930BP、南部の大木式土器に伴う炭や貝の未補正値で4030BP~4910BPおよび5840BPである。本遺跡で出土している大木5式土器に伴う年代値では、大木貝塚の炭で4440BP、貝で4880BPの値が報告されている。これらの報告例と比較すると、408号住居跡から出土した炭化材の年代は、大木5式土器に伴う炭や貝の年代測定値に一致しており、発掘調査所見や既存値とも調和的である。

一方、470号土坑は、小型住居・土坑帯に含まれる土坑であり、出土した炭化材の年代は、2080BP(補正年代2070BP)であった。この年代値は、INTCAL98(Stuiver et al., 1998)による暦年較正を行うと、55,80.85calBCに交点があり、弥生時代中期の年代を示す。この結果から、土坑の構築年代が弥生時代中期頃の可能性がある。しかし、炭化材の出土位置が床面直上ではないことを考慮すると、土坑の埋没過程で弥生時代の炭化材が混入した可能性もある。

現時点では、年代測定点数が少ないため、今後さらに測定を行って年代に関する資料を蓄積し、各遺構の年代を明らかにしたい。

引用文献<1(1)(2)共通>

- キーン C. T.・武藤弘 (1982) 縄文時代の年代。加藤晋平・小林達雄・藤本 強編『縄文文化の研究 1 縄文人とその環境』, p.246-275, 雄山閣。
- Stuiver, M., Reimer, P. J., Bard, E., Beck, J. W., Burr, G. S., Hughen, K. A., Kromer, B., McCormac, G., van der Plincht, J. and Spurk, M. (1998) INTCAL98 radiocarbon age calibration, 24,000-0 cal BP. *Radiocarbon*, 40, p.1041-1083.

附編 2 樹種同定 (1)

パリオ・サーヴェイ株式会社

1 試 料

試料は、408号住居跡の床面直上付近から出土した炭化材1点と、470号土坑覆土最下部付近から出土した炭化材1点の合計2点である。

2 方 法

木口(横断面)・柃目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の薄断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の特徴を観察し、種類を同定する。

3 結 果

炭化材は、いずれも落葉広葉樹のクリに同定された。主な解剖学的特徴を以下に記す。

・クリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.) プナ科クリ属

環孔材で、孔四部は1~4列、孔間外で急激へやや緩やかに管径を減じたのち、漸減しながら火災状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1~15細胞高。

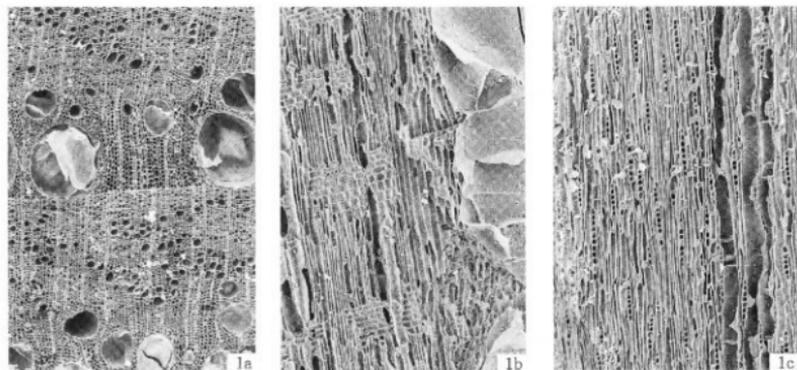
4 考 察

408号住居跡の炭化材は、住居中央部の床面直上付近(床面からやや浮いて出土したとされる)から出土している。焼土などと共に出土しており、住居構築材が火災で炭化したことや、焼土などと共に住居内に廃棄されたこと等が考えられる。一方、470号土坑の炭化材は、土坑の覆土最下部付近(床面ではない)から出土している。床の構築面から10cm程度の人為的な堆積層があり、その上に木の原形をとどめて出土している。燃料材として利用された木材の一部が炭化・残存したことが考えられる。炭化材の樹種同定結果から、クリが住居構築材や燃料材等に利用されていたことが推定される。

クリは、重硬で強度が高い材質を有する。岩手県内では、滝沢村湯舟沢遺跡、一戸町御所野遺跡、軽米町大日向II遺跡等でも縄文時代中期~後期の住居構築材等にクリが多数確認されており(松田, 1987; パリオ・サーヴェイ株式会社, 1993, 1995)、今回の結果とも一致する。また、今回の結果から、クリの利用が縄文時代前期にも見られたことが推定される。

このようなクリの利用の背景には、クリが植物食糧としても重要な種類であることから、クリ栽培との関連が指摘されている(千野, 1983)。しかし、本地域周辺におけるクリ栽培の有無などについては不明な点が多く、現時点では詳細は不明である。今後、古植生も含めてクリの利用に関する検討を行いたい。

図版1 大清水上遺跡の炭化材



1. クリ (408号住居跡)

a : 木口, b : 柾目, c : 板目

200 μ m : a200 μ m : b, c

樹種同定(2)

パリオ・サーヴェイ株式会社

1 試料

試料は、住居跡2基(102,203号住)、土坑3基(451,503,809号土坑)から出土した炭化材である。なお、これらの炭化材は、調査担当者により各遺構より1点ずつ選択された試料である。試料の詳細は、結果とともに表1に示す。

2 分析方法

木口(横断面)・柾目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織を観察し、その特徴から種類を同定する。

3 結果

結果を表1に示す。炭化材は、全て落葉広葉樹で、3種類(コナラ属コナラ亜属コナラ節・クリ・サクラ属)に同定された。各種類の解剖学的特徴等を記す。

・コナラ属コナラ亜属コナラ節 (*Quercus* subgen. *Lepidobalanus* sect. *Prinus*) ブナ科

環孔材で、孔部は1—2列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管

表1.大清水上遺跡の樹種同定結果

遺構	出土位置	樹種
102号住	埋土下	クリ
203号住	床面	クリ
451号土坑	底面	ナカラ属
503号土坑	底面	コナラ属コナラ亜属コナラ節
809号土坑	底面	クリ

は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1—20細胞高のものと複合放射組織とがある。

・クリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.) ブナ科クリ属

環孔材で、孔部は1—3列、孔部外で急激へやや緩やかに管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1—15細胞高。

・サクラ属 (*Prunus*) バラ科

散孔材で、管壁厚は中層、横断面では角張った楕円形、単独または2—8個が複合し、晩材部へ向かって管径を漸減させながら散在する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、内環にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1—3細胞幅、1—30細胞高。

4 考 察

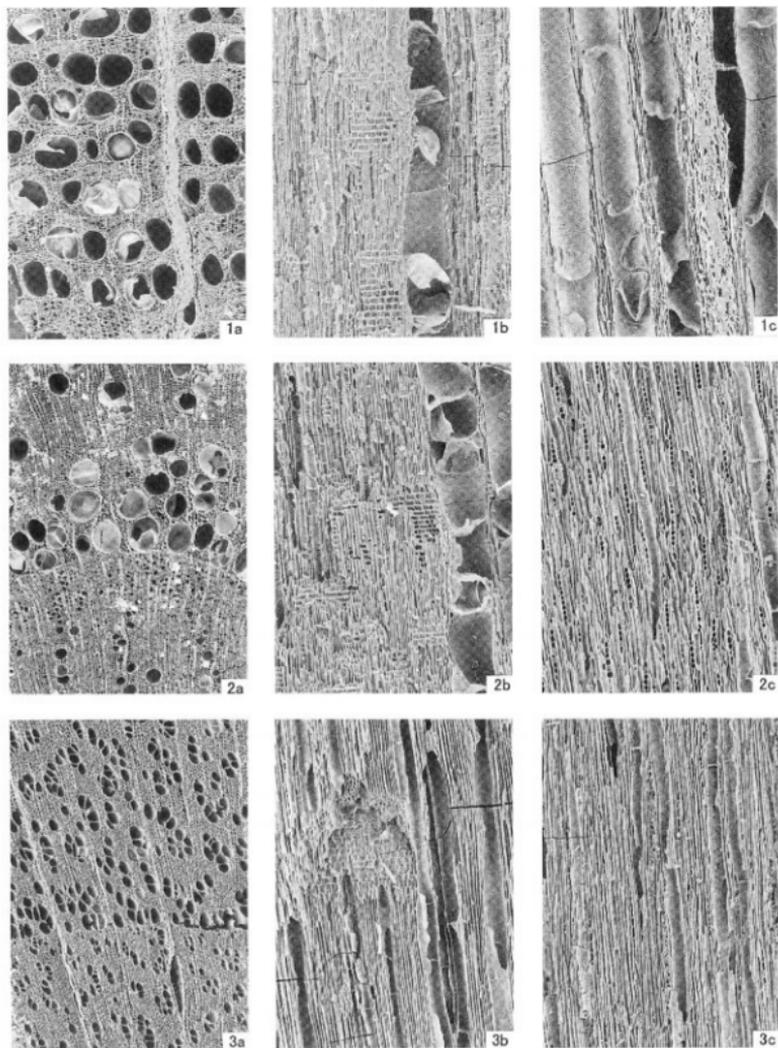
2基の竪穴住居跡(102・203号住)の覆上下部及び床面付近から出土した炭化材は、いずれもクリであった。当遺跡の408号住居跡床面から出土した炭化材も同様な結果(未公表資料)であった。また、岩手県内における調査事例でも、湯舟沢遺跡・御所野遺跡・大日向Ⅱ遺跡・力持遺跡等の縄文時代の竪穴住居跡から出土した炭化材中にもクリが比較的多く確認されている(松田, 1987; バリノ・サーヴウェイ株式会社, 1993, 1995; 未公表資料)。クリは、重硬で強度が高く、耐朽性にも優れた材質を有する種類であることから、材質を考慮した木材利用が推定される。後述のように、土坑から出土した炭化材の種類構成が多岐であることを考慮すると、竪穴住居跡の炭化材はクリに偏重しており、選択的利用されていた可能性が示唆される。

一方、土坑から出土した炭化材は、サクラ属(451号土坑)、コナラ属(503号土坑)、クリ(809号土坑)と、種類構成は遺構毎に異なる。また、当遺跡の470号上坑床面直上付近から出土した炭化材はクリ、809号土坑で放射性炭素年代測定試料とした炭化物はイネ科タケ亜科と、過去の調査事例を含めても構成が多岐である。809号土坑のように、同一遺構内で異なる種類も確認されている。そのため、土坑から検出された炭化材については、遺構・遺物の用途も含めて検討することが望まれる。

引用文献<2(1)(2)共通>

- 丁野裕道 (1983) 縄文時代のクリと栗属周辺産生 一南関東地方を中心に、東京都埋蔵文化財センター研究論集, II, p. 25—42.
- 松田隆嗣 (1987) 湯舟沢遺跡より出土した炭化材の樹種について、『滝沢村文化財調査報告書第2集 湯舟沢遺跡(第2分冊)』, p. 867—872. 滝沢村教育委員会・(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター・トーマン住宅開発株式会社.
- バリノ・サーヴウェイ株式会社 (1993) 花粉分析・炭化材同定・種子同定、『御所野遺跡Ⅰ 縄文時代中期の大集落跡Ⅰ』, p. 341—355. 戸町教育委員会.
- バリノ・サーヴウェイ株式会社 (1995) 大日向Ⅱ遺跡 自然科学分析、『岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第225集 国道395号線改良工事関連遺跡発掘調査 大日向Ⅱ遺跡発掘調査報告書 第2次～第5次調査—第1分冊』, p. 492—521. (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター [埋蔵文化財センター2].

図版2 大清水上遺跡の炭化材



1. コナラ属コナラ亜属コナラ節 (503号土坑)

2. クリ (203号住)

3. サクラ属 (451号土坑)

a : 木口, b : 柁目, c : 板目

200 μ m : a

200 μ m : b, c

樹種同定(3)

高橋利彦(木工舎「ゆい」)

1 試 料

試料は5点で、縄文時代前期後葉(大木5式期)のものとする3基の堅穴住居跡(101号住・102号住・203号住)と2基の土坑(314号土坑・451号土坑)からそれぞれ検出されたものである。

2 方 法

同定には調査担当者によって土付きで採取されていた試料から、担当者の立ち合いのもとで筆者が採取した材片を用いた。試料を室内で自然乾燥させたのち、試料の木口(横断面)・柀目(放射断面)・板目(接線断面)3断面を実体顕微鏡と走査型電子顕微鏡(SEM, 加速電圧10kVで観察し同定した。併せて各分類群1点の電子顕微鏡写真図版を作成した(図版1)。SEM観察にあたっては(株)ニッテツ・ファイン・プロダクツ釜石試験分析センターのご協力をいただいた。記して感謝いたします。なお、残った炭化材片とネガ・フィルムは木工舎「ゆい」に保管されている。

3 結 果

101号住試料はコナラ属コナラ亜属コナラ節に、他の4点はいずれもクリに同定された。試料の主な解剖学的特徴や一般的な性質は次のようなものである。なお、学名は「日本の野生植物 木本I」(佐竹ほか1989)にしたがい、県内での自然分布については「岩手県植物誌」(岩手植物の会1970)を参照した。また、一般的性質については「木の事典 第2・4巻」(平井1979, 1980)も参考にした。

・コナラ属コナラ亜属コナラ節(*Quercus* subgen. *Quercus* sect. *Prinus* sp.) ブナ科 101号住

環孔材で孔圈部は1-3列、孔圈外で急激に管径を減じたのち漸減しながら火災状に配列する。大道管は横断面では楕円形、小道管は横断面では多角形、ともにほぼ単独で配列する。道管は単穿孔をもち、壁孔は交互状に配列、放射組織との間では櫛状となる。放射組織は同性、単列、1-20細胞高のものと複合組織がある。柔組織は短接線状、周囲状。年輪界は明瞭。

コナラ節はコナラ亜属(落葉ナラ類)の中で果実(ドングリ)が開花の年に熟すグループで、カシワ(*Quercus dentata*)・ミズナラ(*Q. crispula*)・コナラ(*Q. serrata*)・ナラガシワ(*Q. aliena*)といくつかの変種がある。県内には4種とも自生している。材は重硬で、加工は困難、器具・機械・樺材などの用途がある。

・クリ(*Castanea crenata*) ブナ科 102号住, 203号住, 314号土坑, 451号土坑

環孔材で孔圈部は1-多列、孔圈外で急激に管径を減じたのち漸減しながら火災状に配列する。大道管は単独、横断面では楕円形、小道管は単独および複合、横断面では角張った楕円形~多角形。道管は単穿孔をもち、壁孔は交互状に配列、放射組織との間では櫛状~網目状となる。放射組織は同性、単(~2)列、1-15細胞高。柔組織は周囲状、短接線状。年輪界は明瞭。

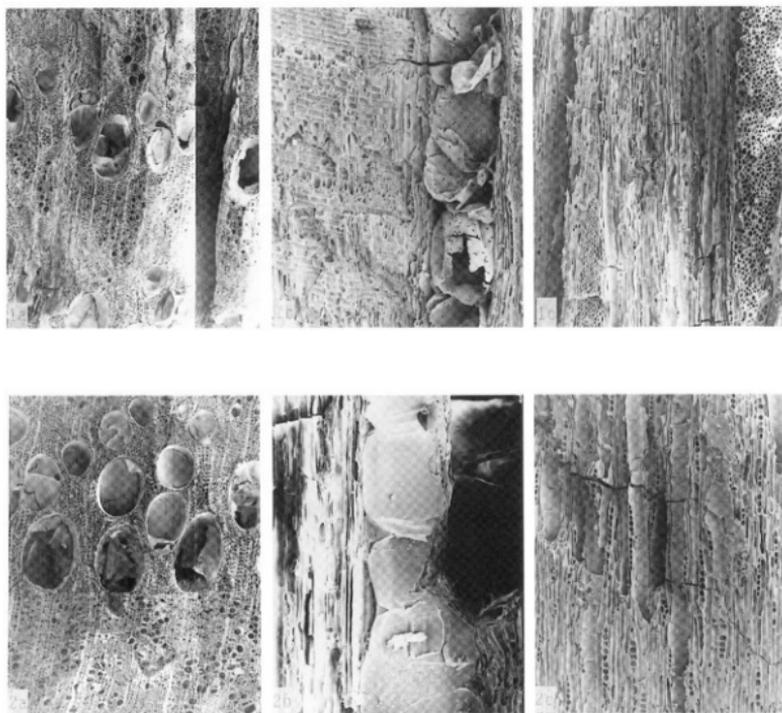
クリは北海道南西部から九州の山岳に自生し、また植栽される落葉高木である。県内各地に普通にみられ

る。材はやや重硬で、強度は大きく耐朽性が高い。土木・建築・器具・家具・薪炭材、楢木などに用いられる。

4 考 察

住居跡から検出された試料は住居の構築材とみられているものであるが、コナラ節とクリであった。両樹種とも炭化材として確認されることの多い分類群であるが、近隣の遺跡で近い時期の出土例は報告されていない(注)ようである。時期は降るが、江刺市久田遺跡の縄文時代後期とされる2住居跡からはクリ(3点)とコナラ亜属クヌギ節(1点)が(高橋MS)、滝沢村湯舟沢遺跡では縄文時代後期のものとされる2住居

図版1



1. コナラ属コナラ亜属コナラ節 101号住

2. クリ 102号住

a: 木口 x40 b: 柾目 x100 c: 板目 x100

樹木の肥大生長方向は木口では画面下から上へ、柾目では左から右

跡からクリ（2点）とトネリコ属（2点）が確認されている（松田 1986）。また、沿岸部の山田町沢田 I 遺跡の縄文時代のもとのとされる 2 住居跡からクリ 4 点が確認されている（高橋 2000）。

注）江釣子村（現北上市）鳩岡崎遺跡の縄文時代前期～晩期（？）とされる 2 住居跡からクリとその他の樹種の報告がある（早坂 1982）。しかし、肉眼観察のみによるものであるため結果の正誤の判断ができないように、自生はもちろん植栽すら考えにくいクスノキ（原表記はクス）まで記載されているため著しく信頼性を損なっている。この点についてはすでに論及してあるが（高橋 2001）、再度指摘しておくたい。

引用文献

- 早坂松次郎（1982）炭化材の樹種同定，「岩手県文化財調査報告書第70集 東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書XV-2（江釣子村鳩岡崎遺跡 遺物・要約・分析鑑定結果編）」，341，岩手県教育委員会・日本道路公団。
- 平井信二（1979, 1980）1木の事典 第2・4巻，かなえ書房。
- 岩手植物の会（1970）『岩手県植物誌』，703pp。
- 松田隆嗣（1986）湯舟沢遺跡より出土した炭化材の樹種について，「滝沢村文化財調査報告書第2集 湯舟沢遺跡（第2分冊）」，867-872，滝沢村教育委員会・（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター・トーマン住宅開発株式会社。
- 佐竹義幹・原 寛・巨理俊次・高成忠夫（編）（1989）『日本の野生植物 木本1』，平凡社，321pp。
- 高橋利彦（2000）沢田 I 遺跡出土炭化材の樹種，「岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書318集 沢田 I 遺跡発掘調査報告書 二陸縦貫自動車道（山田道路）関連遺跡発掘調査 第二分冊（四次調査）」，327-328，（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター。
- 高橋利彦（2001）藤沢遺跡出土炭化材の樹種，「北上市埋蔵文化財年報（1999年度）」，21-31，北上市埋蔵文化財センター。
- 高橋利彦MS 江刺市久田遺跡出土炭化材の樹種，久田遺跡出土炭化材樹種同定報告書1，木工会「ゆい」，4pp，2p1s。

附編3 火山灰分析（1）

パリオ・サーヴウェイ株式会社

1 試 料

分析を行う試料は、縄文時代のもとのと推定されている315号土坑の覆土 2 層より採取されている。試料は暗褐色土の中に黄褐色粒の混じる細砂質土である。

2 分析 方法

（1）テフラ分析

試料約 20 g を蒸発皿に取り、水を加え泥水にした状態で超音波洗浄装置により粒子を分散し、上澄りを流し去る。この操作を繰り返すことにより得られた砂分を乾燥させた後、実体顕微鏡下に観察する。テフラの本質物質であるスコリア・火山ガラス・軽石を対象として観察し、その特徴や含有量の多少を定性的に調べる。火山ガラスについては、その形態によりバブル型と中間型、軽石型に分類する。各型の形態は、バブル型は薄手平板状あるいは泡のつき目をなす部分である Y 字状の高まりを持つもの、中間型は表面に気泡の少ない厚手平板状あるいは塊状のもの、軽石型は表面に小気泡を非常に多く持つ塊状および気泡の長く延びた繊維束状のものとする。

(2) 屈折率測定

テフラ分析用に洗い出された試料から細粒な砂分を採取し、この中に含まれる火山ガラスの屈折率を測定する。屈折率測定には、温度変化型屈折率測定装置“MAIOT”(古澤, 1995)を用いて、火山ガラス30片程度を目標として計測する。

3 結 果

(1) テフラ分析

試料には火山ガラスと軽石が含まれ、スコリアは認められない。認められる火山ガラスおよび軽石は、大清水遺跡7号土坑覆土1層に認められたものと同様の特徴を有している。火山ガラスは中量含まれ、無色透明の軽石型が最も多く、次いで無色透明のバブル型が多く認められる。軽石型の火山ガラスでは繊維束状のものが多く認められる。軽石は多量に含まれており、透明がかった白色を呈し発砲がやや良好～やや不良であるものが認められる。

(2) 屈折率測定

測定結果を図1に示す。火山ガラスの屈折率は、1.5064—1.5090である。屈折率が1.507付近にピークがあり、狭い範囲に集中して認められる。

(3) テフラの対比

今回認められた軽石と火山ガラスは、その形態と火山ガラスの屈折率、遺跡の地理的位置、町田ほか(1981)および町田・新井(1992)等の記載から、十和田aテフラ(To-a; 町田ほか, 1981)に由来すると考えられる。To-aはA. D. 915年に十和田カルデラより噴出したとされ、給源から南方の東北地方一帯に広く分布している(町田・新井, 1992)。To-aに含まれる火山ガラスの屈折率は、町田ほか(1981)では1.499—1.508、町田・新井(1992)では1.496—1.504と記載されている。

315号土坑の覆土2層に含まれる砂分では、軽石および火山ガラス以外の粒子が非常に少ないことから、覆土2層はTo-aが降下堆積したものが保存されたものである可能性が高い。したがって、覆土2層はTo-aが噴出したA. D. 915年に堆積したと考えられる。315号土坑の覆土における2層の詳細な位置関係は不明であるが、2層は覆土の上位とされている。したがって、To-aが噴出したA. D. 915年には、この土坑の埋積は進んでいたものの、地表面で窪地状を呈していた可能性がある。

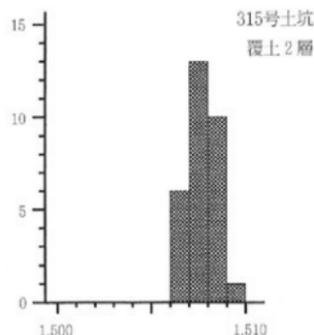
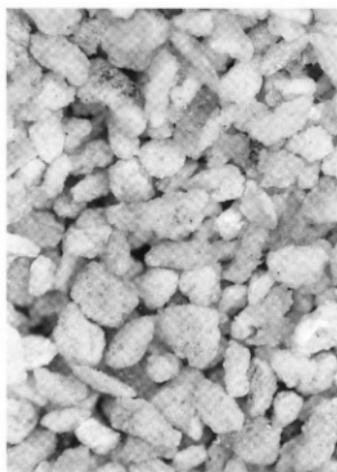
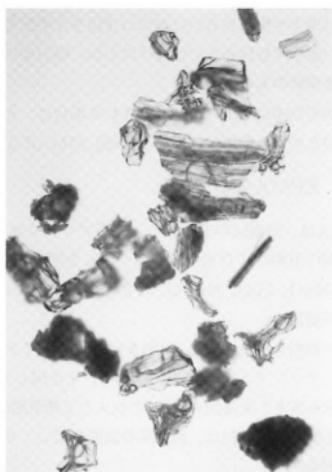


図1 大清水上遺跡の火山ガラスの屈折率
横軸は屈折率、縦軸は測定個数を表す。

図版 大清水上遺跡のテフラ



1. To-aの軽石 (315号土坑覆土2層)



2. To-aの火山ガラス (315号土坑覆土2層)

火山灰分析 (2)

バリノ・サーヴウェイ株式会社

1 試 料

試料は、609号陥し穴の覆土の中～上部に確認されたテフラ層の可能性があると考えられた堆積物1点である。陥し穴は、長径2.96m、短径2.14m程度の楕円形の開口部で、底面は長径1.88m、短径1.4mの長方形をなしている。深さは2m程度であり、テフラ層とされる堆積物は、開口部から30～40cmの深さに位置している。なお、試料は、にぶい黄褐色を呈するシルト質砂であり、細粒の火山ガラス質テフラの層相を呈する。

2 分析 方法

(1) テフラの検出同定・屈折率測定

試料約20gを蒸発皿に取り、水を加え泥水にした状態で超音波洗浄装置により粒子を分散し、上澄みを流し去る。この操作を繰り返すことにより得られた砂分を乾燥させた後、実体顕微鏡下にて観察する。観察

は、テフラの本質物質であるスコリア・火山ガラス・軽石を対象とし、その特徴や含有量の多少を定性的に調べる。火山ガラスについては、その形態によりバブル型と中間型、軽石型に分類する。各型の形態は、バブル型は薄手平板状あるいは泡のつぎ目をなす部分であるY字状の高まりを持つもの、中間型は表面に気泡の少ない厚手平板状あるいは塊状のもの、軽石型は表面に小気泡を非常に多く持つ塊状および気泡の長く延びた繊維束状のものとする。

また碎屑物中に火山ガラスが含まれる場合は、火山ガラスの屈折率の測定を行い、テフラの同定をより確実なものとする。測定は、古澤(1995)のMAIOTを使用した温度変化法を用いた。

(2) EPMA分析

EPMAは、研磨試料を作成し、電子プローブマイクロアナライザにより測定した。測定用のプログラムは島津製作所製ZAF自動分析プログラムを使用した。測定した成分は、 SiO_2 、 TiO_2 、 Al_2O_3 、 FeO 、 MnO 、 MgO 、 CaO 、 Na_2O 、 K_2O 、 P_2O_5 の10成分である。以下に処理手順を述べる。

1) 試料調整

ガラス試料をベトロボキシ154を用いてスライドガラス上に固定(恒温ホットプレート120°Cで2時間)した後、アラランダム(#1000、#3000)を使用しガラス板上で研磨する。鏡面研磨するためにDP(ダイヤモンドペースト)を使用し、DPクロス上で潤滑剤のルーブリカントを滴下しながら研磨する。

鏡面研磨された試料は、真空蒸着装置を用いてカーボン蒸着を行う。

2) 測定条件

上記のカーボン蒸着された資料をEPMA装置(島津製作所製EPMA-V6)にセットし、以下の条件で測定した。

電子線: 最大30Kv-250 μ A

分光結晶: LiF、PET、TAP、Ge

計数時間: 60sec(各元素)

3 結 果

(1) テフラの検出同定・屈折率測定

試料は、細粒の火山ガラスにより構成される。火山ガラスは、無色透明であり、軽石型がやや多く、バブル型が混在する。火山ガラスの屈折率測定結果を図1に示す。レンジは、 $n_{1.502} \sim 1.507$ を示し、モードは $n_{1.505} \sim 1.506$ である。

(2) EPMA分析

測定結果を表1に示す。測定は、火山ガラスについて18ポイントのデータを取り、各ポイントにおけるデータと18ポイントの平均値を示す。

4 考 察

東北地方におけるテフラの産状(例えば、町田ほか(1981;1984)、Arai et al.(1986)、町田・新井

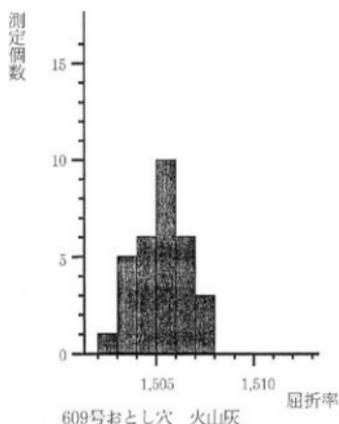


図1 火山ガラスの屈折率

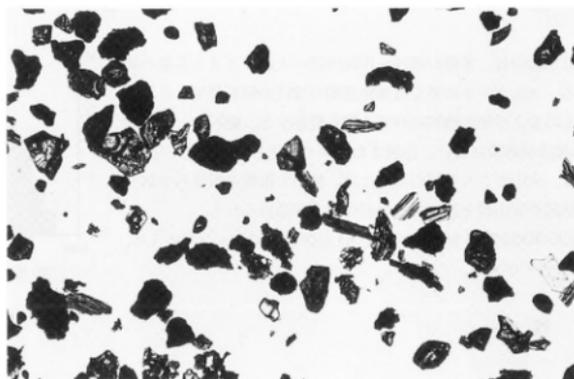
(1992) など) からは、本遺跡付近は焼石岳や鳴子カルデラなどを給源とするテフラの分布域に相当する。しかし、今回検出された火山ガラスが非常に細粒であることから、給源火山はこれらの火山よりも遠方であると考えられる。また、これらの火山の活動はおもに更新世であり、1万年前以降の完新世には、ほとんど活動が知られていない。したがって、今回のテフラは、これらの火山以外の火山を給源とするテフラであると考えられる。上述の文献に記載されているテフラの分布と火山ガラスの粒径および形態を考慮すれば、試料中の火山ガラスは、十和田カルデラを給源とする十和田aテフラ (To-a : 町田ほか, 1981) に由来する可能性がある。

なお、Arai et al. (1986) や町田・新井 (1992) などでは、To-a の火山ガラスの屈折率は $n_{1.496} \sim 1.504$ とされており、今回の試料よりも低い屈折率を示す。しかし、町田ほか (1981) では、To-a の火山ガラスについて 1.508 までの屈折率が測定されている。これについては、To-a の上部降下ユニットと中・下部降下ユニットで屈折率のレンジが異なることを述べ、屈折率の低いレンジの火山ガラスは、主に上部降下ユニットに含まれているが、その分布は十和田カルデラ周辺の青森県域から岩手県北部地域であり、南方へは広がっていないという説明をしている。この記載に従えば、本遺跡周辺で検出される To-a は、中・下部降下ユニットであるから、その屈折率は低いレンジを欠いたものとなり、今回の試料が示すような高い値となる可能性がある。

一方、十和田カルデラの主なテフラの軽石については、最近、柴ほか (2001) により EPMA による化学組織が分析されている。測定されたテフラは、十和田大不動、十和田八戸、十和田南部、十和田桃山、十和田中環、十和田 a の 6 テフラである。これらのうち、互いに化学組成の類似するグループとして十和田大不動、十和田八戸および十和田 a のグループと十和田南部、十和田桃山のグループそして十和田中環という 3 グループが認識されている。今回の試料の測定値は、これらのうち 1 番目グループのテフラの組成と類似する。これまで確認されている分布域などから、今回の試料が十和田大不動や十和田八戸の両テフラに対比される可能性は低いから、化学組成からも今回の試料が十和田 a であることが支持される。

なお、To-a の噴出年代は平安時代の AD915 年とされている (早川・小山, 1998) ことから、今回の試料が採取された陥し穴は、10世紀以前に構築されたものである可能性がある。

図版1 火山ガラス



609号陥し穴 火山灰

0.5mm

火山灰分析(3)

パリオ・サーヴェイ株式会社

1 試料

試料は、703号陥し穴覆土上～中部(3層)に確認された黄色を呈する砂質のブロック状堆積物1点である。当遺構は、長径2.5m、短径1.42m程度の楕円形の開口部をもち、底面は長辺1.68m、短辺0.36mの長方形を呈する。深さは約1.7mで、上記の試料の採取された3層は、開口部から約30～40cm下位に位置している。

当試料の内眼観察の結果、鈍い黄色を呈するシルト質砂であり、細粒の火山ガラス質テフラであることが確認された。

2 分析方法

試料約20gを蒸発皿に取り、水を加え泥水にした状態で超音波洗浄装置により粒子を分散し、上澄みを流し去る。この操作を繰り返すことにより得られた砂分を乾燥させた後、実体顕微鏡下にて観察する。観察は、テフラの本質物質であるスコリア・火山ガラス・軽石を対象とし、その特徴や含有量の多少を定性的に調べる。

火山ガラスは、その形態によりバブル型・中間型・軽石型の3タイプに分類した。各型の形態は、バブル型は薄手平板状、中間型は表面に気泡の少ない厚手平板状あるいは破砕片状などの塊状ガラスであり、軽石型は小気泡を非常に多く持った塊状および気泡の長く伸びた繊維束状のものとする。

さらに火山ガラスについては、その屈折率を測定することにより、テフラを特定するための指標とする。屈折率の測定は、古澤(1995)のMAIOTを使用した温度変化法を用いた。

3 結果

処理後に得られた砂分は、多量の細砂～極細砂径の火山ガラスと多量の軽石から構成される。火山ガラスの多くは無色透明の塊状の軽石型であり、少量の繊維束状のものおよび無色透明のバブル型も混在する。軽石は、最大径約1mmで粒径の淘汰は非常に良好、白色またはやや風化して黄白色を呈し、発泡は良好である。火山ガラスと軽石の他には、極めて微量の斜長石や斜方輝石などの遊離結晶や安山岩と思われる岩石片などが認められる。

火山ガラスの屈折率測定結果を図1に示す。n1.503～1.507のレンジに入り、n1.504～1.506にモードがある。

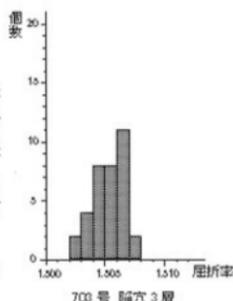


図1 火山ガラスの屈折率

4 考察

試料は、細粒の軽石および火山ガラスを主体とするテフラである。上述した碎屑物の特徴および大清水上

遺跡の地理的位置、東北地方におけるテフラの産状についての既存の研究成果(町田ほか(1981;1984)、Arai et al. (1986)、町田・新井(2003)など)との比較から、試料は十和田aテフラ(To-a)の降下堆積物であると判断される。To-aは、平安時代に十和田カルデラから噴出したテフラであり、給源周辺では火砕流堆積物と降下軽石からなるテフラとして、火砕流の及ばなかった地域では軽石質テフラとして、さらに給源から離れた地域では細粒の火山ガラス質テフラとして、東北地方のほぼ全域で確認されている(町田ほか, 1981)。また、その噴出年代については、早川・小山(1998)による詳細な調査によれば、西暦915年とされている。なお、町田・新井(2003)に記載されたTo-aの火山ガラスの屈折率は、 $n_{1.496} \sim 1.508$ の広いレンジを示す。ただし、 $n_{1.502}$ 以下の低い屈折率の火山ガラスを主体とする火山灰層は南方へは広がらず、十和田周辺とその東方地域に分布が限られるとされている(町田ほか, 1981)。以上の所見等を考慮すると、今回検出されたテフラは、おそらく低屈折率の火山ガラスを含まないTo-aに相当すると考えられる。

上述の早川・小山(1998)によれば、東北地方では、To-aとほぼ同時期、To-a噴出から約30年後の西暦947年に中国と北朝鮮の国境にある白頭山から噴出した白頭山苦小牧テフラ(B-Tm)の堆積も広域に認められている。このテフラは細粒のバブル型の多い火山ガラスを主体とすることその屈折率が高い($n_{1.511} \sim 1.522$)ことから、To-aとは明瞭に区別される。本分析結果によれば、今回の試料中に含まれる火山ガラスには、B-Tmに由来する火山ガラスはほとんど含まれていないと考えられる。また、発掘調査時の所見では、陥し穴覆土中のテフラ層は、To-aと同じ十和田カルデラを給源とし、東北地方一帯に分布の認められる十和田中振テフラ(To-Cu; HAYAKAWA, 1985)の可能性も示唆されていた。To-Cuの噴出年代は、放射性炭素年代では約5000年前(町田・新井, 1992)、東北地方における縄文土器の研究成果では縄文時代前期に入るとされている(福田, 1986)。ただし、To-Cuの火山ガラスの屈折率は、 $n_{1.510} \sim 1.514$ と比較的高い値(町田・新井, 2003)であり、本分析結果とは明瞭に区別されることから、To-Cuには対比することはできない。

なお、703号陥し穴は、本分析結果や堆積状況から、To-a降下以前に構築された遺構と判断され、To-a降下時には概ね埋積していたが、窪みとして残っていたことが示唆される。

引用文献<3(1)(2)共通>

- Arai, F., Machida, H., Okumura, K., Miyauchi, T., Soda, T., Yamagata, K. (1986) Catalog for late quaternary marker-tephras in Japan II - Tephras occurring in Northeast Honshu and Hokkaido -. Geographic al reports of Tokyo Metropolitan University No.21, 223-250.
- 福田友之 (1986) 考古学からみた「川原厚石」の降下年代. 弘前大学考古学研究, 3, 4-15.
- 古澤 明 (1995) 火山ガラスの屈折率測定および形態分類とその統計的な解析に基づくテフラの識別. 地質学雑誌, 101, 123-133.
- HAYAKAWA, Y. (1985) Pyroclastic Geology of Towada Volcano. Bulletin of The Earthquake Reserch Institute University of Tokyo, vol.60, 507-592.
- 早川由紀夫・小山真人 (1998) 日本海をはきんで10世紀に相次いで起こった二つの大噴火の年月日 - 十和田湖と白頭山 -. 火山, 43, 403-407.
- 町田 洋・新井朋夫 (1992) 火山灰アトラス. 東京大学出版会, 276p.
- 町田 洋・新井朋夫 (2003) 新編 火山灰アトラス. 東京大学出版会, 336p.
- 町田 洋・新井朋夫・森脇 広 (1981) 日本海を渡ってきたテフラ. 科学, 31, 562-569.
- 町田 洋・新井朋夫・杉原順夫・小田静夫・蘆森邦彦 (1984) テフラと日本考古学—考古学研究と関連するテフラのカタログ—, 占文化財に関する保存科学と人文・自然科学, 865-928. 渡辺直輝編, 同朋舎.
- 柴 正敏・中道哲郎・佐々木 実 (2001) 十和田火山、降下軽石の化学組成変化—宇都部の一露頭を例として—. 弘前大学理工学部紀要, 4, p. 11-17.

図版1 テフラ



1. To-aの軽石

1mm



2. To-aの火山ガラス

0.2mm

報告書抄録

ふりがな		おおしみずかみいせきはくつちょうさほうこくしょ						
書名		大清水上遺跡発掘調査報告書						
副書名		胆沢ダム建設事業関連遺跡発掘調査						
巻次								
シリーズ名		岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書						
シリーズ番号		第475集						
編著者名		佐藤淳一・中村絵美						
編集機関		(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター						
所在地		〒020 0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地 TEL (019) 638-9001						
発行年月日		2006年2月28日						
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	°'〃	°'〃			
大清水上遺跡	岩手県胆沢郡 胆沢町若柳 字慶存	03383	NE22-2286	39度 6分 46秒	140度 57分 06秒	2000.04.18 ~ 2001.08.01 2001.11.16 2002.04.11 2002.11.19 2003.04.10 2003.07.31 2004.09.15 2004.11.05	10,630㎡ 2,000㎡ 5,000㎡ 11,200㎡ 3,000㎡	胆沢ダム建設に伴う緊急発掘調査
所収遺跡名	種別	時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
大清水上遺跡	集落跡	縄文時代	住居跡 土坑 陥し穴 埋設土器 焼土遺構 石器集中部 捨て場	74棟 203基 99基 7基 14基 1か所 2か所	縄文土器 大木4式 大木5式 大木6式 中期前葉? 晩期 大コンテナ 土製品 イチジク形土製品 土玉 土俵 耳鈴 石器・石製品 燕尾形石製品 石剣 塊状耳飾	150箱 1点 148点 8点 5点 2点 29点 11点	大形(大型)住居を主体として構成される縄文時代前期後葉大木5式期に相当する環状集落	

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第475集

大清水上遺跡発掘調査報告書

胆沢ダム建設事業関連遺跡発掘調査
第1分冊（本文・遺物図版編）

印刷 平成18年2月22日

発行 平成18年2月28日

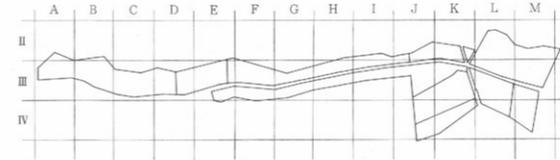
発行 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地
電話 (019) 638-9001
FAX (019) 638-8563

印刷 株式会社 熊谷印刷
〒020-0066 岩手県盛岡市上田1丁目6番49号
電話 (019) 653-4151

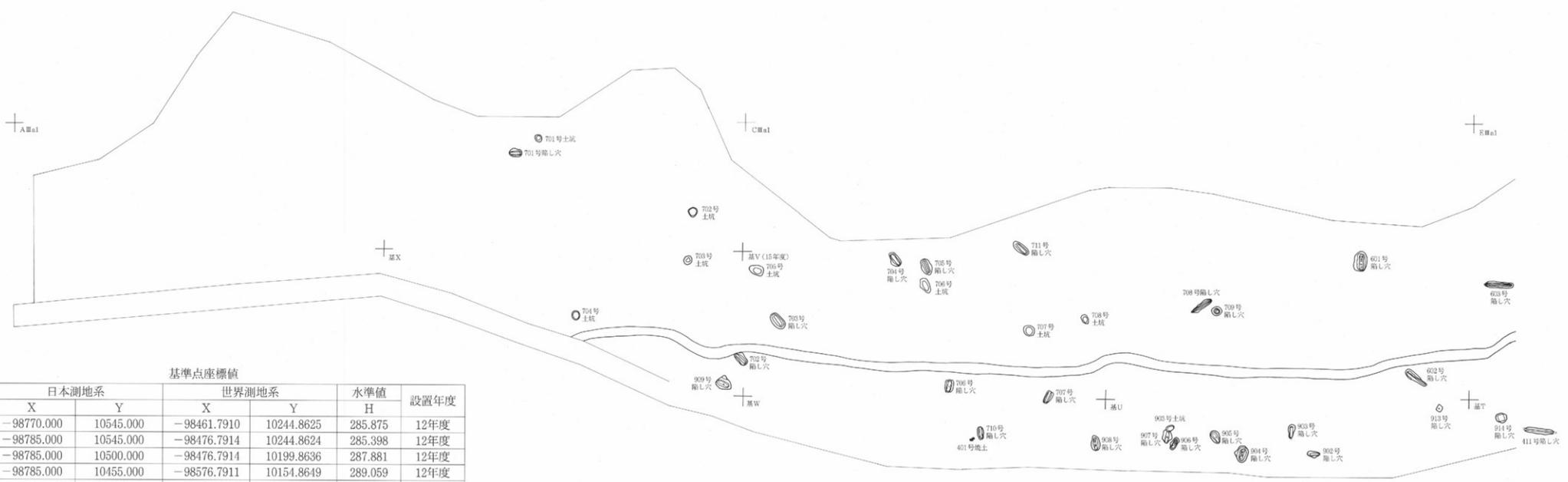
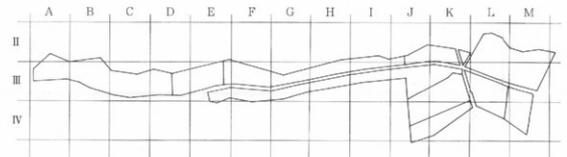
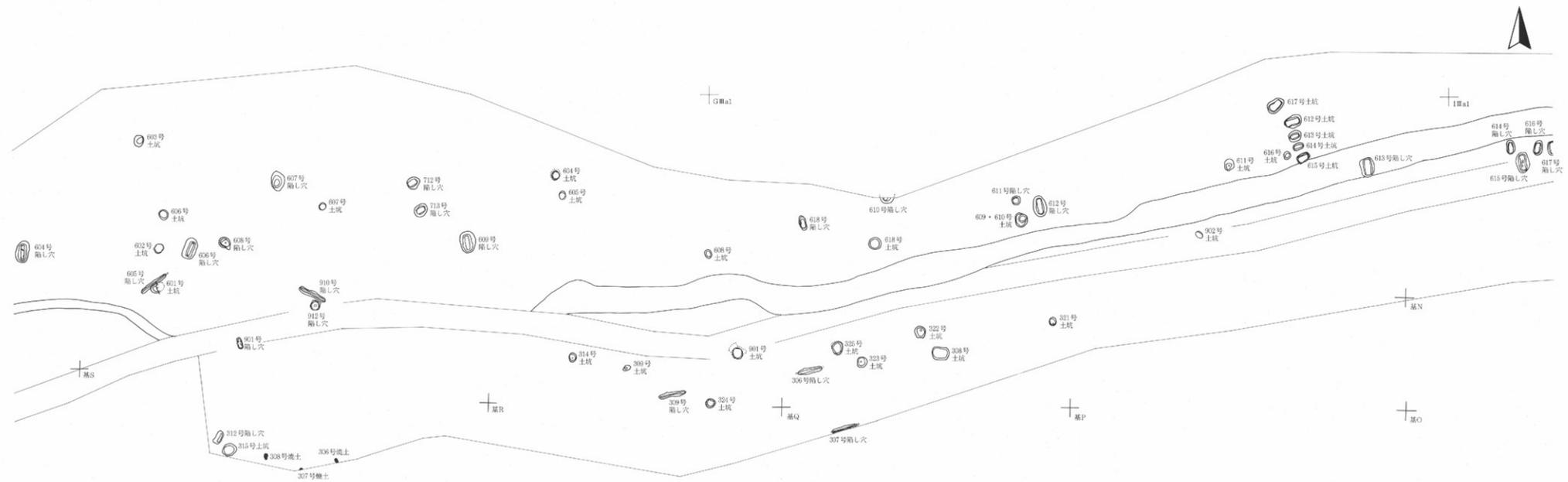
© (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2006

基準点座標値

	日本測地系		世界測地系		水準値	設置年度
	X	Y	X	Y	H	
基A	-98765.000	10790.000	-98456.7924	10489.8560	279.053	12年度
基B	-98765.000	10750.000	-98456.7924	10449.8568	279.277	12年度
基C	-98785.000	10850.000	-98476.7930	10449.8570	280.465	12年度
基D	-98745.000	10710.000	-98436.7912	10409.8581	280.524	12年度
基E	-98785.000	10710.000	-98476.7925	10409.8580	280.681	12年度
基F	-98785.000	10690.000	-98276.7924	10389.8585	281.088	13年度
基G	-98760.000	10650.000	-98451.7916	10349.8598	282.537	12年度
基H	-98785.000	10650.000	-98476.7922	10349.8596	282.242	12年度
基I	-98815.000	10650.000	-98506.7933	10349.8597	281.908	13年度
基J	-98785.000	10620.000	-98476.7922	10319.8603	283.014	13年度
基K	-98815.000	10620.000	-98506.7930	10319.8603	282.629	13年度
基L	-98770.000	1061.0000	-98461.7914	10309.8608	283.465	12年度
基M	-98785.000	10610.000	-98476.7921	10309.8608	283.326	12年度



付図1 遺構全体図(東側)



基準点座標値

	日本測地系		世界測地系		水準値 H	設置年度
	X	Y	X	Y		
基N	-98770.000	10545.000	-98461.7910	10244.8625	285.875	12年度
基O	-98785.000	10545.000	-98476.7914	10244.8624	285.398	12年度
基P	-98785.000	10500.000	-98476.7914	10199.8636	287.881	12年度
基Q	-98785.000	10455.000	-98576.7911	10154.8649	289.059	12年度
基R	-98785.000	10420.000	-98476.7907	10119.8659	288.634	12年度
基S	-98780.000	10375.000	-98471.7903	10074.8672	288.139	15年度
基T	-98780.000	10350.000	-98471.7903	10049.8678	288.720	15年度
基U	-98780.000	10300.000	-98471.7899	9999.8691	289.306	15年度
基V	-98760.000	10250.000	-98451.7890	9949.8703	290.524	15年度
基W	-98780.000	10250.000	-98471.7896	9949.8704	289.732	15年度
基X	-98760.000	10200.000	-98451.7883	9899.8751	289.793	15年度



付図2 遺構全体図 (西側)

